

設置の趣旨等を記載した書類

(医療健康学部 理学療法学科)

東京国際大学



目次

1. 設置の趣旨及び必要性	1
1.1. 本学の建学の精神及び教育方針	1
1.2. 医療健康学部の教育目的	2
1.3. 我が国における理学療法士の必要性	3
1.3.1. 高齢化社会における問題点と課題	3
1.3.2. 高齢化社会における理学療法士の役割	4
1.3.3. 臨床理学療法分野の理学療法士の必要性	5
1.3.4. スポーツ理学療法分野の理学療法士の必要性	5
1.3.5. 予防理学療法分野の理学療法士の必要性	6
1.3.6. 本学医療健康学部理学療法学科で育成する人材	7
1.4. 埼玉県における理学療法士養成の必要性	8
1.4.1. 埼玉県内の理学療法士養成大学	8
1.4.2. 埼玉県内における理学療法士数	9
1.4.3. 理学療法士の求人状況の見込み	10
1.5. 本学医療健康学部理学療法学科の設置の必要性	11
1.6. 教育研究上の中心的学問分野	11
1.7. 本学医療健康学部理学療法学科ディプロマ・ポリシー(DP)	12
1.7.1. 東京国際大学ディプロマ・ポリシー(DP)	12
1.7.2. 医療健康学部ディプロマ・ポリシー(DP)	12
1.7.3. 理学療法学科ディプロマ・ポリシー(DP)	12
1.8. 卒業後の進路	13
2. 学部・学科の特色	13
3. 学部・学科の名称及び学位の名称	14
3.1. 学部・学科の名称	14
3.2. 学位の名称	14
4. 教育課程の編成の考え方及び特色	15
4.1. 教育課程の編成方針	15
4.2. 教育課程の科目区分の設定	16
4.3. 科目の配当年次の設定	17
4.4. 教育課程の各小区分と科目内容	18
4.5. 理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則との対応	30
4.6. 日本理学療法学会教育モデル・コア・カリキュラムとの対応	30
4.7. 科目の設定単位数の考え方	31

5.	教員組織の構成の考え方及び特色	31
5.1.	教員組織の構成	31
5.2.	理学療法学科の専任教員の人数	31
5.3.	職位別年齢構成	31
5.4.	教員の取得学位	32
5.5.	主要と認める授業科目と教員の配置	33
5.6.	教員の担当授業数への配慮	33
5.7.	教員に対する研究支援体制	34
6.	教育方法、履修指導方法及び卒業要件	35
6.1.	教育方法	35
6.1.1.	授業の方法	35
6.1.2.	授業方法に適した学生数の設定	35
6.1.3.	1単位当たりの授業時間数の設定	35
6.1.4.	配当時期の設定	36
6.2.	履修指導方法	36
6.2.1.	履修登録単位数の制限	36
6.2.2.	科目ナンバリング制	36
6.2.3.	履修モデル	36
6.2.4.	学年担任と助言教員の役割	37
6.2.5.	成績評価方法	38
6.2.6.	卒業要件	39
7.	施設、設備等の整備計画	40
7.1.	校地、運動場の整備計画	40
7.2.	施設、設備等の整備計画	40
7.3.	図書等の資料及び整備計画	42
8.	入学者選抜の概要	43
8.1.	入学者選抜の方法と選抜体制	43
9.	取得可能な資格	46
10.	実習の具体的計画	47
10.1.	実習計画の概要	47
10.1.1.	実習の目標（実習のねらい）	47
10.1.2.	実習の単位、主な内容、実習施設、時期、学生の配置、週間計画等	47
10.1.3.	問題対応、きめ細やかな指導を行うための実習委員会の設置等	50
10.1.4.	学生へのオリエンテーションの内容、方法	50
10.1.5.	学生の実習参加基準・要件等	52
10.1.6.	実習までの抗体検査、予防接種等	52

10.1.7.	損害賠償責任保険、障害保険等の対策等	52
10.2.	実習指導体制と方法	53
10.2.1.	担当専任教員の配置と指導計画	53
10.2.2.	学生の実習中、実習後のレポート作成・提出等	53
10.3.	大学と実習施設との連携体制と方法	53
10.3.1.	実習先との契約内容	53
10.3.2.	実習前、実習中、実習後等における調整・連携の具体的方法	54
10.3.3.	実習期間中の連絡体制（実習中）	54
10.3.4.	大学と施設間での情報の共有（実習後）	54
10.3.5.	各施設での指導者の配置状況と連携会議等の開催計画	54
10.3.6.	実習施設が専門学校の実習も受け入れている場合、実習目標や実習内容等、大学教育として実習の質の確保に関する具体的な配慮方策	55
10.3.7.	緊急時の連絡体制等	55
10.4.	単位認定等評価方法	56
10.4.1.	各施設の指導者と大学側の指導者との評価方法・連携	56
10.4.2.	大学における具体的な成績評価体制、単位認定方法・基準	57
11.	管理運営	58
12.	自己点検・評価	59
12.1.	実施体制及び方法	59
12.2.	第三者評価	60
12.3.	評価結果の公表及び活用	60
13.	情報の公表	60
14.	教育内容等の改善を図るための組織的な研修等	61
14.1.	ファカルティ・デベロップメント活動（FD活動）	61
14.2.	シラバスの整備	61
14.3.	授業評価アンケートの実施	62
14.4.	教育研究活動の公表	62
14.5.	教員に対する研究支援体制	62
14.5.1.	個人研究費の支給	62
14.5.2.	特別研究助成制度	62
14.5.3.	科研費申請説明会の実施	62
14.5.4.	国内・海外研修員制度	62
14.5.5.	研究倫理審査体制	63
14.6.	スタッフ・デベロップメント活動（SD活動）	64
14.6.1.	役職者研修	64
14.6.2.	ハラスメント研修	64

14.6.3.	グローバル化への対応	64
15.	社会的・職業的自立に関する指導等及び体制	65
15.1.	教育課程内の取組について	65
15.1.1.	全学部共通のTIUコア科目	65
15.1.2.	理学療法学科専任教員による少人数グループでの演習	66
15.1.3.	臨床実習	67
15.1.4.	選択科目	67
15.1.5.	研究に関する科目	67
15.2.	教育課程外の取組	68
15.2.1.	国家試験対策	68
15.2.2.	共用試験の実施	68
15.2.3.	オフィスアワー	69
15.2.4.	資格取得支援	69
15.2.5.	English PLAZA	69
15.3.	適切な体制の整備	69

1. 設置の趣旨及び必要性

1.1. 本学の建学の精神及び教育方針

本学の前身である国際商科大学は、1965年に商学部商学科4年制単科大学として発足した。1986年に東京国際大学に校名を変更し、現在5学部9学科、大学院4研究科を擁する総合大学となった（**図1**）。



図1. 学校法人 東京国際大学の組織図

本学は、創学以来、「**公德心を体した真の国際人の養成**」を建学の精神としている。**公德心とは、グローバル社会における多様性や異文化の理解、他者への配慮、人間性の重視など人類の普遍的な価値観に立ち、「公（おおやけ）」のために貢献する心のことである。**この建学の精神を基盤として、大学での学びと指導を通じた人間形成により、次の**3つの資質**をもった人材を育成することが本学の使命である。

① 大志 (Vision)

未来に向かって常に理想を掲げ、到達を目指し**高い志**をもつ。

② 勇気 (Courage)

細心の注意をもち大胆に行動する**勇気**を養う。

③ 知性 (Intelligence)

国際的視野に立った的確な理解力と心の豊かさからなる知的教養を修得し、知恵を身につけ、世界を舞台に活躍できる**知性**を磨く。

1.2. 医療健康学部の教育目的

本学では、過去50年以上にわたり、卒業後社会の広範な分野で活躍できる人材を多く輩出してきた。日経キャリアマガジン「価値ある大学2019年版就職力ランキング」における「学生のイメージ」において「行動力」で全国3位、「大学の取り組みランキング」において7つのうち、5つの取り組みで上位にランクインしており、学生の「主体的な学修」を推進してきた本学の取り組みが結実したものと考えられる。その他、国内外の企業が発表した大学ランキングにおいても、「国際力」、「教育・研究力」、「就職力」、「財務力」など幅広い観点で高い評価を受けてきた。

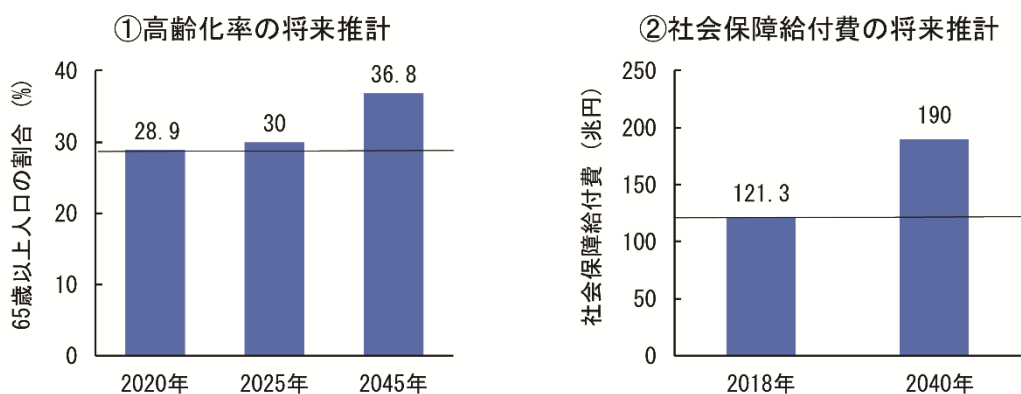
本学では、全学部を挙げて現代社会のニーズに応じた人材の養成に取り組んできたが、「少子高齢化の進展」に伴う日本社会の変化（医療・介護需要増大とそれによる健康増進・介護予防分野の重要性増大）に対応すべく、今般、既存の5学部に加えて、新たに「**医療健康学部**」を設置することとした。当該学部においては、本学の建学の精神及び教育理念の下に、**医療・健康科学における専門的知識・技術をもって心身の健康を支援することで社会に貢献できる人材を養成することを教育目的とする。**特に当該学部の「**理学療法学科**」は、**現代社会の問題を理学療法の視点から捉え、医療・福祉分野のみならず、健康増進・介護予防分野においても活躍できる人材を養成することを教育目的とする。**以下に、その設置の趣旨を述べる。

1.3. 我が国における理学療法士の必要性

1.3.1. 高齢化社会における問題点と課題

我が国は、先進諸国に類をみないスピードで急速に少子高齢化が進んでいる。1980年までは先進諸国の中で下位にあった高齢化率（総人口に対する65歳以上人口の割合）は、90年代には中位、2005年には最も高い水準となった（資料1）。

図2に示す通り、国立社会保障・人口問題研究所が算出した推定値によると、2020年時点で28.9%である高齢化率は2025年には30.0%、2045年には36.8%に達する見通しである（資料2）。深刻な少子化によって、生産年齢人口の増加が見込めないことから、高齢化率の増加は今後も続くと考えられ、やがて「1人の若者が1人の高齢者を支える」という厳しい社会が訪れることが予想されている（資料3）。また、我が国の社会保障給付費（年金、医療、福祉、その他を合わせた額）は、近年急速な伸びを示しており、2018年度においては121.3兆円に達した。さらに、政府は、高齢化率のピークを迎える2040年度においては、社会保障給付費がおよそ190兆円になるとの推計を公表している（資料4）。



高齢化率の増加(①)に伴い、社会保障給付費の増大(②)が見込まれる。

図2. 高齢化率の増加と社会保障給付費の増大

(資料2、資料4のデータを基に本学が作成)

今後も人口減少と高齢化の進行が予想されるため、持続可能な経済財政の構築に向けた対策を講じていくことが必要である。特に、子ども・子育て支援や高齢者が少しでも長く働ける環境づくりを進めるとともに、**健康上の問題がなく自立した日常生活を送れる期間、いわゆる「健康寿命」の延伸が喫緊の政策課題**とされている。現状のままでいくと、**要介護（要支援）の認定者数は2035年には960万人となり、2015年の認定者数(620万人)の約1.5倍に増加する見通し**である（資料5）。一方で、**介護職員については、2035年には68万人も不足する**と推計されている（資料5）。社会保障給付費の増加とマンパワーの不足を明確に示した上記の将来推計を踏まえると、**高齢者の自立した日常生活を少しでも**

も長く継続できるように、国全体を挙げて健康増進・介護予防分野に力を入れていく必要があると考えられる。

このような社会的背景に鑑み、本学においては、**医療・健康科学における専門的知識・技術をもって心身の健康を支援することで社会に貢献できる人材を養成する必要がある**と考えた。特に日常生活動作の自立を支援する保健医療専門職の重要性の増大が見込まれることから、第一に、**医療・福祉分野及び健康増進・介護予防分野で貢献できる「理学療法士」の養成を行う必要がある**と考えた。

1.3.2. 高齢化社会における理学療法士の役割

理学療法士*は、「ケガや病気などで身体に障害のある人や障害の発生が予測される人に対して、基本動作能力（座る、立つ、歩くなど）の回復や維持、および障害の悪化の予防を目的に、運動療法や物理療法（温熱、電気等の物理的手段を治療目的に利用するもの）などを用いて、自立した日常生活が送れるよう支援する**医学的リハビリテーションの専門職**」である（資料 6）。理学療法士の養成は、1963年に国立療養所東京病院附属リハビリテーション学院（定員 20 名）が我が国で初めて開設され、1966年に理学療法士及び作業療法士法が制定され、開始初年度にあたる 1966年度の理学療法士の国家試験合格者は 183 人であった。理学療法士の誕生から約 50 年が経過した平成 31 年度においては、理学療法士の国家試験合格者累計は、172,285 人に達した（資料 7）。このような急激な増加は、高齢化率の増加及び社会保障制度の拡充に伴う理学療法士への需要が増大してきたことの証左である。理学療法士の活躍の場は、従来、病院、診療所などの医療施設が中心であるが、介護保険法関連施設、行政機関、一般企業、教育・研究機関、スポーツトレーニング施設等に活躍の場が拡大している。例えば、介護保険法関連施設の一つである地域包括支援センターに従事する日本理学療法士協会会員数は、2013 年度では 98 人であったのに対し、2017 年度では 486 人に増加している（資料 8）。また職域拡大だけでなく、理学療法士に求められる知識・技術は、医療技術の進歩に伴い、高度化している。そのため、日本理学療法士協会では、各種専門領域に特化した質の高い人材の育成を目的に認定制度や専門制度を設け、理学療法の質の向上を図っている。また、同協会内に設立された日本理学療法士学会は、その下部組織に 12 分科学会と 10 部門を設け、各専門領域の学術の発展を行っている（資料 9）。このように、**理学療法士の誕生以来、その求められる役割、知識・技術は、医療技術の進歩や高齢化率の増大に対**

*「理学療法」の法律上の定義：身体に障害のある者に対し、主としてその基本的動作能力の回復を図るため、治療体操その他の運動を行なわせ、及び電気刺激、マッサージ、温熱その他の物理的手段を加えることをいう（理学療法士及び作業療法士法 第 2 条）

応して変化・拡大しているといえる。

今後は高齢化率増加による医療需要の増大が見込まれる。また、社会保障給付費増加の抑制は不可欠な政策課題であることから、今まで以上に健康増進や介護予防などの取り組みも重要視されると考えられる。このような状況を勘案し、本学は、1) 地域医療に貢献する「**臨床理学療法**」、2) 競技スポーツ及び生涯スポーツを支援する「**スポーツ理学療法**」、3) 健康増進・介護予防を支援する「**予防理学療法**」の各分野で活躍できる理学療法士の重要性が一層増すと考えた。

1.3.3. 臨床理学療法分野の理学療法士の必要性

政府は、2025年を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制、いわゆる**地域包括ケアシステム**の構築を実現していくことを提言している（**資料 10**）。このシステムの下に認知症高齢者を含む重度要介護状態となった高齢者を地域で支えることを目指している。

理学療法士養成に関する規則は、「理学療法士・作業療法士学校養成指定規則」により厳格に定められている（**資料 11**）。近年の理学療法士に求められる知識・技術の変化に対応して、平成30年10月5日に指定規則が約20年ぶりに改正された。当該規則では、「地域包括ケアシステム」の中で、他職種との連携を図りながら、高齢者に対して質の高い理学療法を提供できる優秀な人材の養成が各養成施設に求められている。「地域包括ケアシステム」は、関係機関の協力体制のもと行われるが、特に日常生活動作の自立を支援する専門家である理学療法士の役割は大きいと考えられる。今後、「**地域包括ケアシステム**」の下で、**卒業後、医療機関をはじめとした臨床において地域医療に貢献することを志向する質の高い理学療法士の養成が必要**である。

1.3.4. スポーツ理学療法分野の理学療法士の必要性

近年、我が国において、スポーツの意義が注目されている。「スポーツは、人生をより豊かにし、充実したものとするとともに、人間の身体的・精神的な欲求にこたえる世界共通の人類の文化の一つである。心身の両面に影響を与える文化としてのスポーツは、明るく豊かで活力に満ちた社会の形成や個々人の心身の健全な発達に必要な不可欠なものであり、人々が生涯にわたってスポーツに親しむことは、極めて大きな意義を有している。」と捉えられている（**資料 12**）。また、人口減少・高齢化が進展し、社会保障給付費が急増している我が国において、子どもから大人、高齢者、障害者まで継続して心身の健康維持・増進を図ることのできるスポーツは持続可能な社会を構築するための政策として極めて合

理的な手段である。近年、スポーツ基本法に基づき、平成 24 年にスポーツ基本計画が策定された。平成 29 年からの 5 年計画をまとめた第 2 期計画の中で、「スポーツ実施率の増加」、「スポーツに関わる人材の確保・育成」、「障害者スポーツ実施率の増加」、「スポーツを通じた健康増進」を具体的な施策目標として掲げている（資料 13）。スポーツ理学療法分野における理学療法士は、スポーツ外傷・障害後のリハビリテーション、傷害発生予防のための指導、スポーツトレーニング指導、障がい者スポーツの指導など、多様な役割を担うことができるため、今後の一層の活躍が期待できる。そのため、競技スポーツ及び生涯スポーツを支援できるスポーツ理学療法分野の理学療法士の養成が必要である。

1.3.5. 予防理学療法分野の理学療法士の必要性

従来、理学療法士は、「医師の指示の下に」理学療法を提供することが義務付けられていたため、その活躍の場は医療機関を中心としていた。その後、2000 年に策定された介護保険法の施行後は、地域社会に理学療法士の活躍の場が拡大されてきた。さらに 2013 年 11 月には、厚生労働省医政局から理学療法士の名称の使用については、「**理学療法士が、介護予防事業等において、身体に障害のない者に対して、転倒防止の指導等の診療の補助に該当しない範囲の業務を行うことがあるが、このように理学療法以外の業務を行うときであっても、「理学療法士」という名称を使用することは何ら問題ないこと。また、このような診療の補助に該当しない範囲の業務を行うときは、医師の指示は不要であること。**」と公式に通知があった（資料 14）。このことは、**理学療法士のサービスが、身体機能に障害のある者を対象としたものだけでなく、健康維持及び増進を目的とした予防のサービスを含むことを明確に示した。**平成 28 年国民生活基礎調査の結果によると、要介護の主な原因は、「脳血管疾患」の他、「認知症」、「高齢による衰弱」、「骨折・転倒」の割合が大きいとされる（資料 15）。これらの原因に対しては、地域支援事業や民間事業者による予防事業により、「要介護認定率の半減」、「認知症発症リスクの低下」、「認知機能及び運動機能の向上」などが報告されており、介護予防の有効性が示されている（資料 16）。これらを踏まえると、今後、介護予防サービスの重要性が一層増すと考えられる。日本理学療法士学会においては、既に日本予防理学療法学会が設立されており、健康増進、介護予防、転倒予防などに関する学問体系の構築を図っている（資料 9）。要介護状態に陥るリスクを予測し、要介護状態の発生を未然に防ぐためには、予防理学療法に関する学問体系の構築は不可欠である。**今後は、介護予防、転倒予防等を目的として、科学的根拠に基づいた予防理学療法を実施可能な理学療法士が必要である。**

1.3.6. 本学医療健康学部理学療法学科で育成する人材

本学医療健康学部理学療法学科においては、現代社会の問題を理学療法の視点から捉え、医療・福祉分野のみならず、健康増進・介護予防分野においても活躍できる人材を養成する。特に、「**臨床理学療法**」、「**スポーツ理学療法**」、「**予防理学療法**」の各分野に重点を置き、以下のような理学療法士の養成を行う。

① 臨床理学療法

一般病院、リハビリテーション病院等でエビデンスに基づいた知識と技術をもった理学療法士として、他職種と連携しながら地域医療に貢献できる人材を養成する。

② スポーツ理学療法

スポーツ整形外科病院、スポーツトレーニング施設等で、障害の改善や競技スポーツ及び生涯スポーツの活動を支援できる人材を養成する。

③ 予防理学療法

介護保険サービスの事業所・施設、自治体、健康関連企業等で、介護予防、疾病予防、障害予防及び健康増進を目的とした理学療法を実践し、地域社会に貢献できる人材を養成する。

1.4. 埼玉県における理学療法士養成の必要性

1.4.1. 埼玉県内の理学療法士養成大学

日本理学療法士協会資料によると、埼玉県内の理学療法士養成の大学及びその定員数は、2019年10月現在で、表1の通りである（資料17）。埼玉県内には理学療法士養成大学が8校あり、その定員は40名から85名としている。埼玉県川越市に位置する本学としては、施設・設備および教員組織が十分に整備されていることを前提とし、学生確保の見通しを踏まえ、定員80名とすることが妥当であると考えた。

表1. 埼玉県内の理学療法士養成大学とその定員数

No	大学	学部	学科	専攻	定員
①	埼玉県立大学	保健医療福祉学部	理学療法学科	—	40
②	目白大学	保健医療学部	理学療法学科	—	85
③	文京学院大学	保健医療技術学部	理学療法学科	—	80
④	埼玉医科大学	保健医療学部	理学療法学科	—	50
⑤	日本医療科学大学	保健医療学部	リハビリテーション学科	理学療法学専攻	80
⑥	人間総合科学大学	保健医療学部	リハビリテーション学科	理学療法学専攻	40
⑦	日本保健医療大学	保健医療学部	理学療法学科	—	80
⑧	東京家政大学	健康科学部	リハビリテーション学科	理学療法学専攻	40

埼玉県内の大学の所在地は図4に示した通りである。本学理学療法学科は埼玉県川越市に設置する予定であるが、2020年1月現在、埼玉県南西部中核市であり、人口35万人以上を擁する川越市内には理学療法士養成大学はない。



図4. 埼玉県内の理学療法士養成大学の所在地

1.4.2. 埼玉県内における理学療法士数

図 5a に示した通り、埼玉県内の理学療法士協会会員数は、2019 年 3 月末時点で 5,312 名であり、全都道府県の中で 8 番目に多い(資料 18)。しかし、総務省統計局の都道府県別の平成 29 年推計人口(資料 19)を用いて、人口 10 万人あたりの理学療法士協会会員数を算出すると、埼玉県は 73 名であり全都道府県の中で 6 番目に少ない(図 5b)。埼玉県は、東京都や神奈川県などの近隣の都県と並んで理学療法士の数が極めて少ないのが現状である。

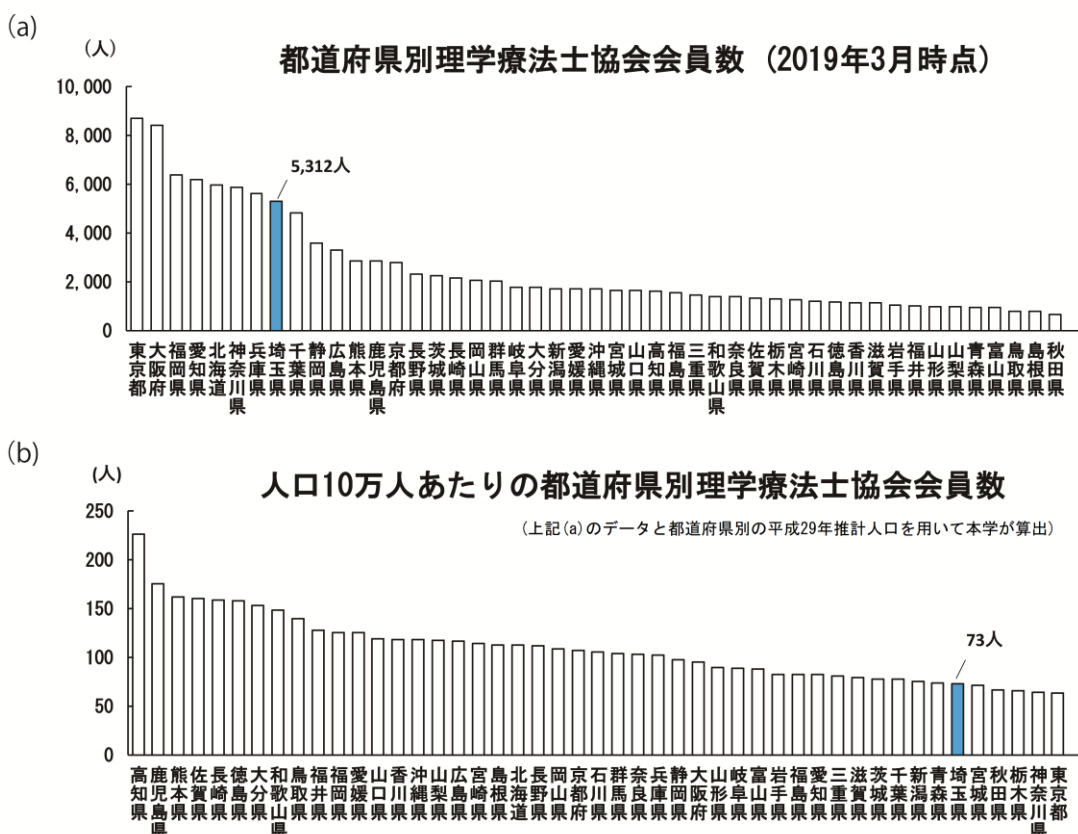


図 5. 埼玉県の理学療法士協会会員数

埼玉県の推計では、今後、15 歳未満の年少人口と 15 歳から 64 歳までの生産年齢人口の割合はさらに減少し、高齢化率（総人口に占める 65 歳以上人口の割合）は 2025 年には 28%、2035 年には 32%に増加するとされる(資料 20)。このことから、埼玉県の少子高齢化の状況は全国平均と同じ傾向といえる。特に、本学理学療法学科を設置する川越比企圏域[†]においては、2025 年における高齢化率が全県の 28.4%を上回り、30.6%になることが推計されている(資料 21)。また川越

[†] 川越比企圏域: 川越市・東松山市・坂戸市・鶴ヶ島市・毛呂山町・越生町・滑川町・嵐山町・小川町・川島町・吉見町・ときがわ町・鳩山町・東秩父村 4 市 9 町 1 村で構成される圏域のこと。

比企圏域の在宅医療等の必要量の推計は、2013年では、1日あたり4,816人であったのが、高齢化率の増加に伴い、2025年には約2倍の8,799人に増加すると推計されている（資料21）。また、訪問や通所リハビリテーション関連のサービスの必要量に関しても数年間で急増することが示されている（資料21）。

上記のデータは、①埼玉県理学療法士数が他の都道府県に比べて極めて少ないこと、②埼玉県におけるリハビリテーションの必要量が今後急増することを明確に示している。この2点を踏まえると、**特に埼玉県を中心に首都圏において、地域社会に貢献できる保健医療の専門職、理学療法士を育成する必要がある**と考えられる。

1.4.3. 理学療法士の求人状況の見込み

理学療法士の求人状況に関しては病院に向けた調査（平成28年、四病院団体協議会が実施）から、本学理学療法学科が完成年度を迎える2025年以降の求人状況を予測可能である。

四病院団体協議会は、平成28年に厚生労働省に対して、「理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の需給調査」の結果を提出した（資料22）。本調査は、平成28年5月27日から6月30日の間に全国の4,963施設に調査を実施し、1,061施設から有効な回答を得た。主な調査内容として、各施設における1)施設基準、採算（経営上必要な人員数）、運営（患者の状況に応じ必要な人員）の面での理学療法士数の充足状況に関する質問、2)2025年までの雇用計画に関する質問、3)就職の応募状況に関する質問であった。関東の施設から集計した結果をみると、理学療法士の充足状況については、施設基準の面で5.1%の施設が充足していないと回答した一方で、採算上では19.0%、運営上では40.6%の施設が充足していないと回答した。つまり、基準上不足している施設は少ないものの、運営上（患者の状況に応じ必要な人員）は不足していることが明らかになった。この傾向は、全国の中でも関東が最も強かった。また、理学療法士の雇用計画については、2025年までに雇用を「減らしていく」と回答した施設は0.0%である一方で、「増やしていく」、「現状のまま」と回答した施設はそれぞれ45.2%、18.3%であった。さらに、就職の応募状況においては、関東では、「募集しても応募が少ない」と回答する割合が43.8%に上った。

これまでも述べてきた通り、全国の高齢化率（総人口に占める65歳以上人口の割合）は2025年には30%、2035年には32.8%に増加し、この増加は少なくとも2045年まで続くとされる（資料2）。高齢者の増加に伴い、医療患者数及び要支援・要介護者数も増加することが見込まれ、このことから理学療法士に対する需要は拡大するものと考えられる。

これらの調査結果と将来推計結果から、**本学理学療法学科が完成年度を迎える**

2025年以降も、理学療法士の求人数は増加傾向にあると考えられる。本学では社会の要請に応えるため、質の高い理学療法士を養成していく。

1.5. 本学医療健康学部理学療法学科の設置の必要性

前述の通り、本学では、全学部を挙げて現代社会のニーズに応じた人材の養成に取り組んできた。特に既存の人間社会学部においては、スポーツ関連企業、保健体育、健康運動指導及びスポーツ指導に携わる卒業生を輩出することで、国民の健康維持・増進の面で社会に対して貢献してきた。しかし、今後の高齢化率の増加などの将来推計を踏まえると、今まで以上に、**保健医療の知識・技術を有し、国民の健康維持・増進に貢献できる人材を養成していく必要がある**と考え、「**医療健康学部**」を新たに設置することとした。特に、理学療法士の活躍の場が、医療分野を中心として、健康維持・増進分野にまで拡大していることを考慮し、「**理学療法学科**」を設置することとした。本学が位置する埼玉県は、人口当たりの理学療法士数が他の都道府県と比較して少ないことから、埼玉県を中心に首都圏で活躍できる理学療法士を本学で養成する必要があると考えた。特に、**本学理学療法学科では、「臨床理学療法」、「スポーツ理学療法」、「予防理学療法」の各分野を中心に活躍できる人材を養成していく。**

1.6. 教育研究上の中心的学問分野

医療健康学部理学療法学科が対象とする中心的学問分野は、「**保健衛生学関係（リハビリテーション関係）**」である。さらに、理学療法学科が教育研究対象とする中心的な学問分野はリハビリテーション関係の中の「**理学療法学分野**」であり、中でも「**臨床理学療法**」、「**スポーツ理学療法**」、「**予防理学療法**」の分野を中心に**教育・研究を組織として遂行する。**

1.7. 本学医療健康学部理学療法学科ディプロマ・ポリシー(DP)

本学医療健康学部理学療法学科においては、卒業認定・学位授与の方針を以下のように定める。

1.7.1. 東京国際大学ディプロマ・ポリシー (DP)

本学は、(1) 建学の精神および教育理念・教育目的に則り、グローバル社会の発展に貢献できる人材としてもつべき「知識・理解」「思考・判断」「関心・意欲」「態度・規律」「技能・表現」の5つの基礎力を修得し、(2) 学則に定める所定の卒業要件を満たした者に、学士の学位を授与します。

1.7.2. 医療健康学部ディプロマ・ポリシー(DP)

全学ディプロマ・ポリシー(DP)で示す5つの基礎力を修得し、学則の定める卒業要件を満たし、次の能力を修得した者に学士の学位を授与します。

1. 生命に対する深い理解や人権の尊重に基づく高い倫理観を有する。
2. 他者を思いやる豊かな人間性と幅広い教養を身につけ、多様な価値観や考え方を理解できる。
3. 人の健康を支援するための医療・健康科学に関する幅広い専門的知識や技術を有する。
4. 社会への関心と問題意識を持ち、他者と連携しながら主体的に課題解決できる。
5. 医療・健康分野で社会に貢献すべく強い責任感のもと自己研鑽ができる。

1.7.3. 理学療法学科ディプロマ・ポリシー(DP)

1. 良好な人間関係を構築する上で必要なコミュニケーション能力を有し、人々に対して思いやりをもって接することができる。
2. 理学療法士に求められる高い倫理観と道徳観を備えている。
3. 理学療法を必要としている人々を生活者の視点で全人的に理解することができる。
4. 理学療法に関する幅広い知識・技術を有しており、各専門職と連携しながら科学的根拠に基づく理学療法を実践することができる。
5. 理学療法関連の諸科学の発展や理学療法士に求められる役割や知識・技術の変化に対応し、生涯にわたり学び続けることができる。
6. 臨床理学療法、スポーツ理学療法、予防理学療法のいずれかの分野に関して、より専門性の高い知識・技術を有し、各分野の理学療法に貢献することができる。

1.8. 卒業後の進路

急激な高齢化が進行している我が国においては、医療・介護需要の増加に伴い今まで以上に健康増進・介護予防分野で活躍する理学療法士の重要性が増すと考えられる。本学理学療法学科の卒業後の進路としては、**臨床理学療法分野**（一般総合病院、大学病院、リハビリテーション病院、リハビリテーションセンター等）、**スポーツ理学療法分野**（スポーツ整形外科病院、スポーツトレーニング施設、スポーツチーム等）、**予防理学療法分野**（介護保険サービスの事業所、フィットネス施設、行政機関、健康関連企業等）、**その他**（障害児（者）施設、特別支援学校、大学院進学等）などで、埼玉県を中心に首都圏で活躍できる人材を養成する。

2. 学部・学科の特色

中央教育審議会答申「我が国の高等教育の将来像」において、「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」が提言され、以下の7つの機能が示された。

- ① 世界的研究・教育拠点
- ② 高度専門職業人養成
- ③ 幅広い職業人養成
- ④ 総合的教養教育
- ⑤ **特定の専門分野の教育・研究**
- ⑥ 地域の生涯学習機会の拠点
- ⑦ **社会貢献機能**

本学医療健康学部理学療法学科の教育目的は先に述べた通り、「現代社会の問題を理学療法の見点から捉え、医療・福祉分野のみならず、健康増進・介護予防分野においても活躍できる人材を養成すること」である。したがって、「**⑤ 特定の専門分野の教育・研究**」と「**⑦ 社会貢献**」の2機能を有する学部・学科として設置する。人口減少・高齢化により、医療・介護需要増加や健康維持・増進の重要性が増す中、ひとの心身の健康と自立した生活を支援する保健医療専門職「理学療法士」を養成し、地域社会に対して貢献することを本学理学療法学科の使命とする。

3. 学部・学科の名称及び学位の名称

3.1. 学部・学科の名称

本学に新たに「医療健康学部」を設置し、その中に「理学療法学科」を設置する。この学部名称にした理由は、医療と健康増進の両面で活躍できる人材を養成することを教育目的としているためである。学科名称については、国家資格との対応を明確にするために「理学療法学科」とした。学部の英訳名称は、英語を母国語とする専門家の意見を基に、国際的通用性に鑑み、「**School of Health Sciences**」とした。「**Health Sciences**」は、日本国内においても理学療法学科を置く大学の学部名称（「医療保健学部」、「保健医療学部」、「保健科学部」、「健康科学部」、「健康福祉学部」等）の英訳として広く採用されている。学科名の英訳名称に関しても、日本語との整合性と国際的通用性を勘案し、「**Department of Physical Therapy**」とした。

3.2. 学位の名称

理学療法学科の学位の名称は、「理学療法学」の専門的知識・技能を修得したことを明確に示すために「**学士（理学療法学）**」とする。英訳名称は、国際的な通用性を勘案し、「**Bachelor of Physical Therapy**」とする。表2に学部、学科及び学位の名称を整理して示す。

表2. 学部、学科及び学位の名称

	名称	英訳名称
学部	医療健康学部	School of Health Sciences
学科	理学療法学科	Department of Physical Therapy
学位	学士（理学療法学）	Bachelor of Physical Therapy

4. 教育課程の編成の考え方及び特色

4.1. 教育課程の編成方針

本学医療健康学部理学療法学科の教育課程の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）は、学部・学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー：DP）を十分に達成できるように、DPとCPの対応を十分に考慮した上で設定した。理学療法学科においては、以下に掲げたCPに基づき、教育課程を編成する。DPとCPについては資料23のカリキュラム・マップにおいても示した。

医療健康学部理学療法学科カリキュラム・ポリシー（CP）

1. 基礎教育分野において、良好な人間関係構築に必要な基礎理論を修得した上で、少人数制の演習授業を通じて、人々に対して思いやりをもって接することができるようにする（理学療法学科 **DP1** に対応）。
2. 基礎教育分野及び専門教育分野の講義科目で、医療倫理及び理学療法倫理を学び、臨床実習科目で倫理原則の遵守を実践することで、理学療法士に求められる高い倫理観と道德観を身につけられるようにする（理学療法学科 **DP2** に対応）。
3. 臨床実習科目において、理学療法を必要としている人々を身体・心理・社会的立場・人格などあらゆる角度から理解できるようにする（理学療法学科 **DP3** に対応）。
4. 専門教育分野において、科学的根拠に基づく理学療法の実施に必要な知識・技能を修得できるようにする（理学療法学科 **DP4** に対応）。
5. 統計学や研究法に関する科目、少人数制の演習科目を通じて、専門職の生涯学習に必要な基本的な学修スキルおよび意欲・態度を身につけられるようにする（理学療法学科 **DP5** に対応）。
6. 理学療法士に求められる役割や知識・技術の変化に対応するために、近年ニーズが高まっている臨床理学療法、スポーツ理学療法、予防理学療法に関する選択科目を設ける（理学療法学科 **DP6** に対応）。

4.2. 教育課程の科目区分の設定

理学療法学科の教育課程の科目区分は、表3に示す通りである。

表3. 教育課程の科目区分

大区分	中区分	小区分
1. 基礎教育分野	1-1. TIU コア科目	1-1-1. TIU コア科目
	1-2. 教養コア科目	1-2-1. 人間と文化
		1-2-2. 現代社会
		1-2-3. 自然科学と環境
		1-2-4. 健康とスポーツ
	1-3. 言語スキル科目	1-3-1. 英語
	1-4. 自由選択科目	1-4-1. キャリア形成支援科目
1-4-2. プロジェクト科目		
2. 専門教育分野	2-1. 専門基礎科目	2-1-1. 人体の構造と機能及び心身の発達
		2-1-2. 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進
		2-1-3. 保健医療福祉とリハビリテーションの理念
	2-2. 専門科目	2-2-1. 基礎理学療法学
		2-2-2. 理学療法管理学
		2-2-3. 理学療法評価学
		2-2-4. 理学療法治療学
		2-2-5. 地域理学療法学
		2-2-6. 臨床実習
		2-2-7. 総合分野

『1. 基礎教育分野（大区分）』は、学部共通で開講している科目を一部受講可能とすることから、既存学部の科目区分に合わせた。この大区分には、『1-1. TIU コア科目（中区分）』、『1-2. 教養コア科目（中区分）』、『1-3. 言語スキル科目（中区分）』、『1-4. 自由選択科目（中区分）』を置く。

『2. 専門教育分野（大区分）』は、「理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則（平成30年10月5日改正）」と比較できるように当該規則の表記に合わせた。この大区分には、理学療法に関する基礎的な知識の修得を目的とした『2-1. 専門基礎科目（中区分）』と理学療法に関するより高度な専門的知識・技能の修得を目的とした『2-2. 専門科目（中区分）』を置く。当該指定規則に加えて、専門教育分野で学修してきた内容を統合・発展させることを目的として『2-2-7. 総合分野（小区分）』を設けた。

4.3. 科目の配当年次の設定

科目の配当年次の設定については、表 4 にまとめたように、履修順序を十分に検討し、学生が体系的に学べるように配慮した。

表 4. 配当年次の設定理由

配当年次	各年次配当の主要区分	配当年次の設定理由	科目例
1年次	1. 基礎教育分野 2. 専門教育分野 2-1. 専門基礎科目 2-2. 専門科目	<ul style="list-style-type: none"> ・入学早期に幅広い教養と大学での学修法の修得を図るため、「1. 基礎教育分野」の科目を中心に配当した。 ・「2. 専門教育分野」の科目の一部を学び、理学療法の基礎知識を修得する。また早期臨床体験を目的とした臨床見学で、理学療法士の使命を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT 基礎 ・大学生生活デザイン演習 ・人間関係論 ・生命倫理学 ・基礎理学療法学演習 I など
2年次	1. 基礎教育分野 2. 専門教育分野 2-1. 専門基礎科目 2-2. 専門科目	<ul style="list-style-type: none"> ・医学全般に関する基礎知識の修得を図るため、「2-1. 専門基礎科目」を中心に配当した。 ・「2-2. 専門科目」のうち、「2-2-3. 理学療法評価学」を中心に学び、後期に配当した「機能・能力評価学臨床実習」では、これまでに修得してきた検査・測定技術を臨床実習指導者の指導の下で実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・医学一般 I ・整形外科学 I ・機能・能力評価学 II ・機能・能力評価学実習 II ・機能・能力評価学臨床実習 など
3年次	1. 基礎教育分野 2. 専門教育分野 2-1. 専門基礎科目 2-2. 専門科目	<ul style="list-style-type: none"> ・治療に関する知識・技術を修得するために「2-2-4. 理学療法治療学」の科目を中心に配当した。 ・後期配当の「総合臨床実習 I」ではこれまでに修得してきた理学療法評価学及び治療学の知識・技術を基に臨床実習施設において臨床実習指導者の下で実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動器理学療法学 II ・神経理学療法学 II ・小児理学療法学 ・総合臨床実習 I など
4年次	1. 基礎教育分野 2. 専門教育分野 2-1. 専門基礎科目 2-2. 専門科目	<ul style="list-style-type: none"> ・前期配当の「総合臨床実習 II」ではこれまでに修得してきた理学療法評価学及び治療学の知識・技術を基に臨床実習施設において臨床実習指導者の下で実践する。 ・後期においては、就職に備えるため、「理学療法管理学」を配当した。また近年の理学療法の職域拡大に対応した「ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法」を配当した。 ・大学での学修内容を統合し整理する科目として「総合理学療法学」を4年次後期に配当した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合臨床実習 II ・理学療法管理学 ・ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法 ・総合理学療法学 など

4.4. 教育課程の各小区分と科目内容

各小区分の具体的な教育内容について下記の通りである。

『1-1-1. TIU コア科目』

この小区分では、「ICT 基礎」と「大学生生活デザイン演習」の2科目を必修科目として設置し、学修スキル獲得、大学生生活の目標設定、本学教育理念に沿った学修への取組み、ICT スキル及び ICT リテラシーの能力を培う。

【必修科目】 **2 科目 4 単位**

ICT 基礎(2 単位、1 年前期)

大学生生活デザイン演習(2 単位、1 年前期)

【選択科目】 **0 科目 0 単位**

該当なし

『1-2-1. 人間と文化』

この小区分では、「生命倫理学」と「人間関係論」の2科目を必修科目として設置し、理学療法士の基本的な資質である高い倫理観・道徳観や人間関係構築のための知識・技能を身につけられるようにする。その他、選択科目として、人間と文化に関連した科目を置き、幅広い教養をもって他者を理解できるようにする。

【必修科目】 **2 科目 4 単位**

生命倫理学(2 単位、1 年後期)

人間関係論(2 単位、1 年前期)

【選択科目】 **5 科目 20 単位**

哲学(4 単位、1 年前期・後期)

文化人類学(4 単位、1 年前期・後期)

倫理学(4 単位、1 年前期・後期)

Introduction to American Society(4 単位、1 年後期)

芸術論(4 単位、1 年前期・後期)

『1-2-2. 現代社会』

この小区分においては、必修科目を設けていないが、選択科目として現代社会における諸問題を理解するために必要な知識を身につけられるようにする。

【必修科目】 **0 科目 0 単位**

該当なし

【選択科目】 **5 科目 20 単位**

法学(4 単位、1 年前期・後期)

現代の社会(4 単位、1 年前期・後期)

憲法(4 単位、1 年前期・後期)

心理学概論(4 単位、1 年前期・後期)

社会学(4 単位、1 年前期・後期)

『1-2-3. 自然科学と環境』

この小区分では、「基礎統計学」を必修科目として設置し、医学系の論文を読み解く際に必須の統計学に関する基礎知識を身につけられるようにする。

【必修科目】 **1科目 2単位**

基礎統計学 (2単位、1年後期)

【選択科目】 **2科目 8単位**

環境と自然(4単位、1年前期・後期)

情報処理の基礎(4単位、1年前期・後期)

『1-2-4. 健康とスポーツ』

この小区分では、必修科目を設置していないが、「健康・スポーツ科学」などの選択科目で、健康増進とスポーツの関係性について理解させる。

【必修科目】 **0科目 0単位**

該当なし

【選択科目】 **2科目 5単位**

健康・スポーツ科学(4単位、1年前期・後期)

健康・スポーツ実技(1単位、1年前期・後期)

『1-3-1. 英語』

この小区分では、「Oral Communication」と「Reading & Writing」を必修科目として設置し、1年次に集中して英語を学修できるようにし、3年次以降に配当している「理学療法臨床英語」や「理学療法文献講読」の授業を円滑に進められるようにする。

【必修科目】 **2科目 4単位**

Oral Communication(2単位、1年前期)

Reading & Writing(2単位、1年後期)

【選択科目】 **0科目 0単位**

該当なし

『1-4-1. キャリア形成支援科目』

この小区分では、必修科目を設置しないが、選択科目としてキャリア形成を支援するための科目を多く配当した。

【必修科目】

0科目 0単位

該当なし

【選択科目】

5科目 9単位

インターンシップ（体験型）（1単位、1年後期）	キャリア・Re-スタート（2単位、1年後期）
インターンシップ（実践学修型）（3単位、1年後期）	地域の安全と警察（2単位、1年後期）
ボランティア活動（1単位、1年前期）	

『1-4-2. プロジェクト科目』

この小区分では、必修科目を設置しないが、選択科目として「観光まちおこしワークショップ入門」をはじめとしたプロジェクト科目を配当した。

【必修科目】

0科目 0単位

該当なし

【選択科目】

7科目 11単位

観光まちおこしワークショップ入門 （2単位、1年前期・後期）	観光まちおこしプロジェクト A （1単位、2年前期・後期）
観光まちおこしワークショップ実践 A （2単位、1年前期・後期）	観光まちおこしプロジェクト B （1単位、2年前期・後期）
観光まちおこしワークショップ実践 B （2単位、1年前期・後期）	観光まちおこしプロジェクト C （1単位、2年前期・後期）
観光まちおこしワークショップ実践 C （2単位、1年前期・後期）	

『2-1-1. 人体の構造と機能及び心身の発達』

この小区分では、理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドラインに基づき、「人体の構造と機能及び心身の発達を系統だてて理解できる能力を培う」ことを教育の目標とする。必修科目の合計単位数は13単位であり、当該規則における必要単位数（12単位）を満たしている。

1年次の科目として、理学療法の専門知識を身につける上で必要な「運動学」、「解剖学Ⅰ」、「解剖学Ⅱ」、「解剖学Ⅲ」、「解剖学実習Ⅰ」、「解剖学実習Ⅱ」、「生理学Ⅰ」、「生理学Ⅱ」、「生理学実習」、「心身機能発達学」を配当し、入学早期から理学療法に必要な基礎知識を修得させる。「心身機能発達学」においては、胎児期、乳・幼児期、小児期だけでなく、青年期、成人期、老年期を含めたすべてのライフステージの人間の理解を深めるためにそれぞれの発達過程を理解させる。2年次の科目としては、「運動解剖学」、「運動学実習」、「運動生理学」を配当し、運動の側面から人体の構造と機能に関する知識を再度整理し修得させる。

【必修科目】

13科目 13単位

運動解剖学(1単位、2年前期)

解剖学実習Ⅰ(1単位、1年前期)

運動学(1単位、1年後期)

解剖学実習Ⅱ(1単位、1年後期)

運動学実習(1単位、2年前期)

心身機能発達学(1単位、1年後期)

運動生理学(1単位、2年前期)

生理学Ⅰ(1単位、1年前期)

解剖学Ⅰ(1単位、1年前期)

生理学Ⅱ(1単位、1年後期)

解剖学Ⅱ(1単位、1年後期)

生理学実習(1単位、1年後期)

解剖学Ⅲ(1単位、1年後期)

【選択科目】

0科目 0単位

該当なし

『2-1-2. 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進』

この小区分では、理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドラインに基づき、「健康、疾病及び障害について、その予防と発症・治療、回復過程に関する知識を習得し、理解力、観察力、判断力を養うとともに、高度化する医療ニーズに対応するため栄養学、臨床薬学、画像診断学、救急救命医学等の基礎を学ぶ」ことを教育の目標とする。必修科目の合計単位数は14単位であり、当該規則における必要単位数（14単位）を満たしている。

この小区分の教育内容は、専門科目の『2-2-4. 理学療法治療学』の基礎となることから、2年前期から3年前期に配当した。指定規則に定められた画像診断学の内容は、「画像診断学」、「神経内科学Ⅰ」、「神経内科学Ⅱ」、「整形外科学Ⅰ」及び「整形外科学Ⅱ」の中に含め、疾患・病態と画像所見の繋がりを学修できるようにした。

【必修科目】

14科目 14単位

医学一般Ⅰ（1単位、2年前期）	神経内科学Ⅱ（1単位、2年後期）
医学一般Ⅱ（1単位、2年後期）	整形外科学Ⅰ（1単位、2年前期）
栄養学（1単位、2年前期）	整形外科学Ⅱ（1単位、2年後期）
画像診断学（1単位、2年前期）	精神医学（1単位、2年前期）
救急救命医学（1単位、3年前期）	病理学（1単位、2年前期）
公衆衛生学（1単位、2年前期）	薬理学（1単位、3年前期）
神経内科学Ⅰ（1単位、2年前期）	臨床心理学（1単位、2年後期）

【選択科目】

1科目 2単位

疾病予防と健康増進（2単位、3年前期）

『2-1-3. 保健医療福祉とリハビリテーションの理念』

この小区分では、理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドラインに基づき、「国民の保健医療福祉の推進のために、リハビリテーションの理念（自立支援、就労支援等を含む。）、社会保障論、地域包括ケアシステムを理解し、理学療法士が果たすべき役割、多職種連携について学ぶ。さらに、地域における関係諸機関との調整及び教育的役割を担う能力を培う」ことを教育の目標とする。必修科目の合計単位数は4単位であり、当該規則における必要単位数（4単位）を満たしている。

1年前期に「リハビリテーション概論」を配当し、リハビリテーションの理念及びリハビリテーション専門職種の役割を体系的に学ぶ。『2-2-6. 臨床実習』の「総合臨床実習Ⅰ」は3年後期に配当している。教育内容の順次性を考慮して、実習前に「社会福祉概論」、「地域包括ケアシステム論」、「チーム医療論」、「リハビリテーション概論」の内容を学修した上で、「総合臨床実習Ⅰ」に臨めるように配慮した。

【必修科目】

4科目 4単位

社会福祉概論(1単位、2年前期)

地域包括ケアシステム論(1単位、3年後期)

チーム医療論(1単位、3年後期)

リハビリテーション概論(1単位、1年前期)

【選択科目】

1科目 2単位

健康ビジネス論(2単位、4年後期)

『2-2-1. 基礎理学療法学』

この小区分では、理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドラインに基づき、「**系統的な理学療法を構築できるよう、理学療法の過程に関して、必要な知識と技能を習得する**」ことを教育の目標とする。必修科目の合計単位数は6単位であり、当該規則における必要単位数（6単位）を満たしている。

「理学療法学概論」及び「基礎理学療法学」は1年次に配当し、理学療法の定義、理学療法の歴史、理学療法の評価・治療理論等について学び、2年次以降の科目間の繋がりを理解させる。「基礎理学療法学演習Ⅰ」及び「基礎理学療法学演習Ⅱ」は、少人数形式の演習科目であり、理学療法士として必要なマナー、コミュニケーション能力等を培うとともに、「基礎理学療法学演習Ⅰ」の中でおこなう臨床見学を通じて理学療法士の役割を学ぶ。「生体観察と触診法」は1年後期に配当し、1年前期配当の「解剖学Ⅰ」で修得した運動器の知識を、早期から実習形式の授業を通じて活用できるようにした。また、近年、日本国内においても外国人を対象として理学療法を行う機会が増加していることから、理学療法を行う上で知っておくべき基本的な英語表現を学修する「理学療法臨床英語」を3年後期に配当した。それにより4年前期の「総合臨床実習Ⅱ」で修得した知識を活用できるように順次性に配慮した。

【必修科目】

6科目 6単位

基礎理学療法学(1単位、1年後期)	生体観察と触診法(1単位、1年後期)
基礎理学療法学演習Ⅰ(1単位、1年前期)	理学療法学概論(1単位、1年前期)
基礎理学療法学演習Ⅱ(1単位、1年後期)	理学療法臨床英語(1単位、3年後期)

【選択科目】

2科目 3単位

理学療法学特論(1単位、2年後期)	理学療法文献講読(2単位、3年前期)
-------------------	--------------------

『2-2-2. 理学療法管理学』

この小区分では、理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドラインに基づき、「医療保険制度、介護保険制度を理解し、職場管理、理学療法教育に必要な能力を培うとともに、職業倫理を高める態度を養う」ことを教育の目標とする。必修科目の合計単位数は2単位であり、当該規則における必要単位数（2単位）を満たしている。

『2-1-3. 保健医療福祉とリハビリテーションの理念』の「社会福祉概論」及び「リハビリテーション概論」で社会保障制度等などの基礎的知識を1・2年次に学修する。一方で、「理学療法管理学」においては、職場管理、理学療法教育など、理学療法の実務に即した実践的な内容を含むことから4年次後期に配当した。「総合臨床実習Ⅱ」の後に配当することで、各臨床実習施設の運営状況を想起しながら学修できるようにした。

【必修科目】

1科目2単位

理学療法管理学(2単位、4年後期)

【選択科目】

0科目0単位

該当なし

『2-2-3. 理学療法評価学』

この小区分では、理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドラインに基づき、「**理学療法評価（画像情報の利用を含む。）についての知識と技術を習得する**」ことを教育の目標とする。必修科目の合計単位数 8 単位であり、当該規則における必要単位数（6 単位）を満たしている。

「機能・能力評価学Ⅰ」及び「機能・能力評価学実習Ⅰ」では、形態計測、関節可動域検査、徒手筋力検査等の知識・技術を1年次に修得させる。一方、「機能・能力評価学Ⅱ」及び「機能・能力評価学実習Ⅱ」は、筋トーマス検査、反射検査等の原理を理解する上で、「生理学Ⅰ」及び「生理学Ⅱ」の知識が必要になることから2年前期に配当した。また、立ち上がりや歩行などの評価に必要な知識を「臨床運動分析学演習」において学修する。いずれの科目も、2年後期の「機能・能力評価学臨床実習」の前に配当することで、臨床実習に向けた自主学習の時間を十分に確保できるようにした。

【必修科目】

5科目 8単位

機能・能力評価学Ⅰ(2単位、1年後期)

機能・能力評価学実習Ⅰ(1単位、1年後期)

機能・能力評価学Ⅱ(2単位、2年前期)

機能・能力評価学実習Ⅱ(1単位、2年前期)

臨床運動分析学演習(2単位、2年後期)

【選択科目】

0科目 0単位

該当なし

『2-2-4. 理学療法治療学』

この小区分では、理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドラインに基づき、**「保健医療福祉とリハビリテーションの観点から、疾患別、障害別理学療法の適用に関する知識と技術（喀痰等の吸引を含む。）を習得し、対象者の自立生活を支援するために必要な課題解決能力を培う」**ことを教育の目標とする。必修科目の合計単位数は27単位であり、当該規則における必要単位数（20単位）を満たしている。

理学療法における主要な治療手段である運動療法は、より早期から学修する必要があると考え、「運動療法学」及び「運動療法学実習」をそれぞれ1年次後期、2年次前期に配当した。運動器理学療法学関連科目及び神経理学療法学関連科目は、理学療法治療学の中心的な科目であることから、2・3年次に時間をかけて知識・技術を修得させる。「小児理学療法学」及び「神経・筋疾患理学療法学」の配当時期は、『2-1-2. 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進』の配当時期後に設定し、理学療法と臨床医学の関連性を明確にするように順次性に配慮した。「日常生活活動理学療法学」及び「日常生活活動理学療法学実習」は、生活機能の評価が含まれることから、「機能・能力評価学臨床実習」前の2年次後期に配当した。「物理療法学」、「物理療法学実習」、「義肢装具学」及び「義肢装具学演習」は、運動器理学療法学や神経理学療法学の基礎知識が必要であるため、2年次後期に配当し、並行して学修できるようにした。内部機能理学療法学関連科目については「総合臨床実習Ⅰ」の前に知識・技術を修得させる必要があるため、3年次前期に配当した。「理学療法リスクマネジメント演習」は、「機能・能力評価学臨床実習」の前に、理学療法の評価・治療を行う上で必要なリスク管理能力を培うために、2年次後期に配当した。「疼痛理学療法学」では、疼痛の種類とそれに対する理学療法の対応について学修するため、「総合臨床実習Ⅱ」の前の3年次後期に配当した。「ウイメンズヘルス・メンズヘルス理学療法」は、理学療法の基本的な治療体系を理解した上で学ぶことが望ましいと考え、4年次後期に配当した。「理学療法学演習Ⅰ」「理学療法学演習Ⅱ」「理学療法学演習Ⅲ」は、少人数の演習形式の授業であり、2年次前期から3年次前期にわたって各学期に配当した。

【必修科目】**27 科目 27 単位**

ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法(1単位、4年後期)	神経理学療法学実習Ⅱ(1単位、3年前期)
運動器理学療法学Ⅰ(1単位、2年後期)	疼痛理学療法学(1単位、3年後期)
運動器理学療法学実習Ⅰ(1単位、2年後期)	内部機能理学療法学Ⅰ(1単位、3年前期)
運動器理学療法学Ⅱ(1単位、3年前期)	内部機能理学療法学Ⅱ(1単位、3年前期)
運動器理学療法学実習Ⅱ(1単位、3年前期)	内部機能理学療法学実習(1単位、3年前期)
運動療法学(1単位、1年後期)	日常生活活動理学療法学(1単位、2年後期)
運動療法学実習(1単位、2年前期)	日常生活活動理学療法学実習(1単位、2年後期)
義肢装具学(1単位、2年後期)	物理療法学(1単位、2年後期)
義肢装具学演習(1単位、2年後期)	物理療法学実習(1単位、2年後期)
小児理学療法学(1単位、3年前期)	理学療法リスクマネジメント演習(1単位、2年後期)
神経・筋疾患理学療法学(1単位、3年前期)	理学療法学演習Ⅰ(1単位、2年前期)
神経理学療法学Ⅰ(1単位、2年後期)	理学療法学演習Ⅱ(1単位、2年後期)
神経理学療法学実習Ⅰ(1単位、2年後期)	理学療法学演習Ⅲ(1単位、3年前期)
神経理学療法学Ⅱ(1単位、3年前期)	

【選択科目】**7 科目 14 単位**

クリニカル・リーズニング総論(2単位、3年後期)	スポーツ理学療法学(2単位、3年前期)
クリニカル・リーズニング各論(2単位、4年後期)	スポーツ理学療法学演習(2単位、3年後期)
障がい者スポーツ支援論(2単位、4年後期)	臨床理学療法論(2単位、4年後期)
スポーツトレーニング特論(2単位、4年後期)	

『2-2-5. 地域理学療法学』

この小区分では、理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドラインに基づき、「患者及び障害児者、高齢者の地域における生活を支援していくために必要な知識や技術を習得し、課題解決能力を培う」ことを教育の目標とする。必修科目の合計単位数は3単位であり、当該規則における必要単位数（3単位）を満たしている。

「生活環境支援理学療法学」、「地域理学療法学」、「予防理学療法学総論」は、地域理学療法実習を含む「総合臨床実習Ⅰ」及び「総合臨床実習Ⅱ」の前に配当し、順次性に配慮した。

【必修科目】

3科目 3単位

生活環境支援理学療法学(1単位、3年後期)

地域理学療法学(1単位、3年前期)

予防理学療法学総論(1単位、3年前期)

【選択科目】

2科目 4単位

介護予防評価演習(2単位、3年後期)

予防理学療法学各論(2単位、4年後期)

『2-2-6. 臨床実習』

この小区分では、理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドラインに基づき、「社会的ニーズの多様化に対応した臨床観察力・分析力を養うとともに、治療計画立案能力・実践能力を身につける。各障害、各病期、各年齢層を偏りなく対応できる能力を培う。また、チームの一員として連携の方法を習得し、責任と自覚を培う」ことを教育の目標とする。必修科目の合計単位数は21単位であり、当該規則における必要単位数（20単位）を満たしている。

臨床実習科目を2年次以降の各年次に設けることで学生が意欲的に学修できるように配慮した。また各年次の学修内容と各臨床実習の目的に繋がりを持たせることで、到達すべき目標を明確にした。なお、早期臨床体験を目的とした1年次配当の臨床見学は、『2-2-1. 基礎理学療法学』の「基礎理学療法学演習Ⅰ」の授業の中で行うこととする。

【必修科目】

3科目 21単位

機能・能力評価学臨床実習(5単位、2年後期)

総合臨床実習Ⅱ(9単位、4年前期)

総合臨床実習Ⅰ(7単位、3年後期)

【選択科目】

0科目 0単位

該当なし

『2-2-7. 総合分野』

この小区分では、理学療法に関わる知識・技術を統合し臨床の実践場面で応用できるようにすることを目的とする。また、これまで得た知識を基に、未解決の問題を解決する能力を養成する。必修科目である「総合理学療法学」、「理学療法学研究法」と「理学療法学研究実践法」の合計単位数は5単位である。

「総合理学療法学」は、専門科目において学修してきた知識を整理し統合・発展させるための科目とし、4年次後期に配当した。「理学療法学研究法」では、研究計画の立て方、統計学の基礎に加えて各教員が取り組んでいる研究を紹介し、研究に関する必要最低限の知識を修得させることを目標とする。一方で「理学療法学研究実践法」では、専任教員の指導の下、研究計画、実験、解析、発表などの一連の研究活動を経験できるようにした。「理学療法学研究法」は、「理学療法学研究実践法」の前に配当し、順次性に配慮した。

【必修科目】

3科目5単位

総合理学療法学(2単位、4年後期)

理学療法学研究法(1単位、3年後期)

理学療法学研究実践法(2単位、4年通年)

【選択科目】

0科目0単位

該当なし

4.5. 理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則との対応

理学療法学科の教育課程は、「理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則(平成30年10月5日改正)」に基づいて編成した(資料11)。教育課程と指定規則との対比は、資料24に示す通りであり、教育内容及び単位数は規則の基準を満たしている。

4.6. 日本理学療法学教育モデル・コア・カリキュラムとの対応

公益社団法人日本理学療法士協会は、各養成施設で共通して取り組むべき中核的な教育内容「コア」の部分を抽出して整理した「日本理学療法学教育モデル・コア・カリキュラム」を策定した。そのモデル・コア・カリキュラムでは、養成施設の学修時間の概ね7割が構築でき、残り3割の学修内容に、各養成施設独自に設定するディプロマ・ポリシーに基づいた教育を編成することが推奨されている。本学理学療法学科の教育課程では、「日本理学療法学教育モデル・コア・カリキュラム」に則り、教育課程を編成し、本学独自の特色として3つの履修モデルを設定した(資料25)。

4.7. 科目の設定単位数の考え方

理学療法学科の教育課程を構成するにあたって、「日本理学療法学教育モデル・コア・カリキュラム」を参考にした。コア・カリキュラムにおける各項目の到達目標を達成する上で十分な時間を確保できるように科目の単位数を設定した。また、事前・事後学修のバランスなど、各科目の授業方法に応じて単位数及び1単位あたりの授業時間数を設定した。

5. 教員組織の構成の考え方及び特色

5.1. 教員組織の構成

本学における教員の採用に関しては、「東京国際大学専任教員任用資格基準」で定めている(資料 26)。学歴・職歴、高等教育機関における教育経験、研究業績及び実務経験等を審査し、理学療法関連領域における教育・研究を遂行できる教員を採用した。

医療健康学部理学療法学科が教育・研究対象とする中心的な学問分野はリハビリテーション関係の中の「**理学療法学分野**」であり、「運動器理学療法」、「心血管理学療法」「呼吸理学療法」「神経理学療法」「糖尿病理学療法」「小児理学療法」などの臨床理学療法、スポーツ理学療法、予防理学療法(地域理学療法、支援工理学療法を含める)などの教育・研究を遂行する。

5.2. 理学療法学科の専任教員の人数

専任教員数に関しては、大学設置基準において定められた14名以上(教授7名以上)を十分に満たす教員組織の体制を整えている。本学理学療法学科の教員組織の構成は、教授8名、准教授7名、講師6名で合計21名である。なお、専任教員の中に採用日時点において完成年度に満たない他大学の新設学科等から採用する教員はいない。

5.3. 職位別年齢構成

本学理学療法学科の職位別年齢構成は表 5 に示した通りである。学生に対する教育や指導の充実をはかりながら教員組織の継続性を確保できるように30歳台から70歳台までの幅広い年齢構成とした。

表 5. 理学療法学科専任教員の職位別年齢構成（完成年度 3 月 31 日時点）

職位	70 歳 以上	65-69 歳	60-64 歳	50-59 歳	40-49 歳	30-39 歳	29 歳 以下	計
教授	1	0	2	4	1	0	0	8
准教授	2	0	1	1	2	1	0	7
講師	0	2	0	0	2	2	0	6
計	3	2	3	5	5	3	0	21

本学専任教員の定年は、「東京国際大学専任教員定年規定」に従い、満 70 歳としている（資料 27）。また、定年年齢を個別に延長する必要がある場合又は定年年齢を超えた者を採用する場合、常務会の承認を得て変更できることを同規定で定めている。

定年年齢を超える教員については、同規程に基づき雇用を継続して教育の質を担保する。一方で、組織としての継続性を踏まえ、完成年度後の教員組織編制を想定した新規採用を完成年度以前より計画・着手する。具体的には、完成年度の前後で教授・准教授・講師の各職位階層において複数名の新規採用を実施（公募ならびにレファレンス採用の併用）するとともに、定年年齢を超える教員については契約を終了して教員の入れ替えを行う。また、講師・准教授それぞれの職位階層において積極的な研究活動を奨励し、これらから生まれる研究成果に基づき適正に昇格審査を行うことによって、教授・准教授の職位階層をより一層充実させる。こうした対応により、年齢構成の改善を図り、完成年度翌年には中・長期的に安定的・発展的な学部経営が可能となる基盤を確立する見込みである。

5.4. 教員の取得学位

本学科の学位取得状況を表 6 に示した。理学療法学科として十分な研究機能を確保するために**博士の学位を取得済みの教員のみで教員組織を構成している**。具体的には、教授 8 名、准教授 7 名、講師 6 名が博士の学位を取得している。取得学位の領域は、「医学」、「理学」、「健康情報科学」、「保健医療学」、「障害科学」、「医療工学」、「学術」、「保健学」などである。本学科の中心的な研究分野を遂行する上で必要な研究能力を備えている。

表 6. 理学療法学科専任教員の職位別学位取得状況

職位	博士	修士	学士	計
教授	8	0	0	8
准教授	7	0	0	7
講師	6	0	0	6
助教	0	0	0	0
計	21	0	0	21

5.5. 主要と認める授業科目と教員の配置

本学では表 7 の科目を**主要と認める授業科目**とし、当該科目に**担当教員**として専任の教授、准教授または当該科目に関する豊富な教育経験を有する専任教員を配置している。

表 7. 本学における教育上主要と認める授業科目

専門基礎科目		専門科目	
解剖学Ⅰ	整形外科学Ⅰ	理学療法学概論	基礎理学療法学演習Ⅱ
解剖学Ⅱ	整形外科学Ⅱ	機能・能力評価学Ⅰ	理学療法学演習Ⅰ
解剖学Ⅲ	神経内科学Ⅰ	機能・能力評価学Ⅱ	理学療法学演習Ⅱ
生理学Ⅰ	神経内科学Ⅱ	運動療法学	理学療法学演習Ⅲ
生理学Ⅱ	精神医学	義肢装具学	機能・能力評価学臨床実習
病理学	臨床心理学	物理療法学	総合臨床実習Ⅰ
医学一般Ⅰ	リハビリテーション概論	日常生活活動理学療法学	総合臨床実習Ⅱ
医学一般Ⅱ		基礎理学療法学演習Ⅰ	総合理学療法学

5.6. 教員の担当授業数への配慮

「理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドライン」の「3 教員に関する事項」において、「(3) 専任教員は、臨床に携わるなどにより、臨床能力の向上に努めるものとする。」と定められている。本学科では同ガイドラインに従い、申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数を原則 4 日とし、週 1 日は臨床業務あるいは臨床に関連する研究に従事可能な体制を整える。

また、同ガイドラインで、「(4) 専任教員の 1 人 1 週間当たりの担当授業時間数は過重にならないように 10 時間を標準とすること」と定められている。本学理学療法学科では、授業時間数に加えて、授業外の業務量(実習先への訪問など)も考慮し、担当授業数の調整を行い、一部の教員への業務の集中やそれによる学生指導に対する時間の不足が生じないように配慮する。

5.7. 教員に対する研究支援体制

本学では、競争的研究資金の有無に関わらず、継続して研究活動を遂行できるように、「個人研究費」として、専任教員（教授、准教授、講師、助教）に対して年間40万円を支給している。また科学研究費の申請・採択の増加を図るために「特別研究助成制度」を設け、科学研究費の研究種目及び科研費の採否結果に応じて学内審査を行い、研究費を支給している。また、本学教育研究支援課と科研費採択経験者が中心となり、外部資金獲得のためのセミナーを定期的で開催し申請を支援する体制を整えている。

6. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

6.1. 教育方法

6.1.1. 授業の方法

理学療法学科の授業形態に関しては、**知識を体系的に理解すること**を学修目標としている科目については**講義形式**の授業を行う。**汎用的技能及び態度・志向性を養うこと**を学修目標としている科目については**演習形式**の授業を行う。また、**総合的な学習経験と創造的思考力を養うこと**を学修目標としている科目については**実習形式**の授業を行う。

専門教育分野においては、講義形式は 58 科目で 68 単位、演習形式は 15 科目で 22 単位、実習形式は 19 科目で 38 単位とし、各学修目標を達成しやすいように授業形式を設定した。

6.1.2. 授業方法に適した学生数の設定

講義形式の授業については、**1 クラス 80 名**とする。板書やスライド等を使って知識を体系的に理解させる。質疑応答については、授業時間内で時間が足りない場合は、授業時間前後あるいはオフィスアワー等で個別に対応する。

演習形式で実施する「基礎理学療法学演習Ⅰ」、「基礎理学療法学演習Ⅱ」、「理学療法学演習Ⅰ」、「理学療法学演習Ⅱ」、「理学療法学演習Ⅲ」に関しては、1 教員当たりの担当学生数の設定を**8 名～12 名程度**とし、細やかな指導を実施する。演習形式で行う他の授業では、**1 クラス 80 名**とするが、内容の必要性に応じて**2 名以上**の教員が共同授業を行うこととする。

実習形式の授業についても、**1 クラス 80 名**とする。**2 名以上**の教員が共同で授業を行うことで、学生に対して技術指導等を十分に行えるようにする。一部の实習科目（「解剖学実習Ⅰ」、「解剖学実習Ⅱ」、「生理学実習」、「運動学実習」、「内部機能理学療法学実習」）については、**1 クラス 40 名**として実施する。

各科目の授業形式及び担当教員等に関する情報はシラバスに詳しく記載している。

6.1.3. 1 単位当たりの授業時間数の設定

「大学設置基準第 21 条」に則り、講義及び演習科目については、**15 時間から 30 時間までの範囲で授業時間を定め 1 単位**とする。実験、実習及び実技については、**30 時間から 45 時間までの範囲で授業時間を定め 1 単位**とする。各科目の授業時間数の設定については、授業内容、事前・事後学習のバランス、学修効果などを勘案し決定した。各科目の 1 単位当たりの授業時間数の設定については**資料 24（教育課程と指定規則との対比表）**に記載している。

6.1.4. 配当時期の設定

授業の配当時期の設定については、**学科のディプロマ・ポリシーを最も効果的に達成できるように配慮した**。実習形式の授業に関しては、対応する講義形式の授業で、知識を修得した上で実施できるようにした。また、2年次から4年次に配当した臨床実習科目の期間前までに、臨床実習で必要な知識・技能の修得を行えるように各科目の配当時期を十分に検討した。4年次後期においては、就職先で必要な知識を修得するためのより応用的な科目（「理学療法管理学」や「ウイメンズヘルス・メンズヘルス理学療法」等）を配当した。

6.2. 履修指導方法

6.2.1. 履修登録単位数の制限

理学療法学科では、**CAP制（履修登録単位数の制限）**を設け、1週間当たりの授業時間が過重にならないようし、個々の授業科目に対する学生の十分な学修時間を確保できるようにする。本学部では、他学部と同様に学生の学習密度の強化のためのCAP制を厳格化し、**各学期で修得できる単位数の上限を20単位**と定めている。設定単位数については、時間割表を用いたシミュレーションをし、その妥当性を十分に検討した上で決定した。なお、開講時期が通常授業と異なる臨床実習や集中講義等については、その修得単位はCAP制の対象外とする。学生に対しては、履修登録に関するオリエンテーションで、履修登録単位数に制限があることを伝え、計画的に単位を修得するように指導する。

6.2.2. 科目ナンバリング制

本学医療健康学部理学療法学科では、各科目にナンバリングを付し、学生が入門レベルから専門レベルへと順を追って学修するように促している。科目ナンバリングは、学則及びシラバスにおいて学生に対して提示する。

6.2.3. 履修モデル

理学療法士になるために最低限必要な知識・技能については、「理学療法学教育モデル・コア・カリキュラム」に準拠した必修科目で修得する。本学では、必修科目に加えて、選択科目を13単位以上修得することを卒業要件とする。選択科目の履修登録の際は、3つの履修モデルを学生に対して提示し、学生の卒業後の希望の進路に応じて選択できるようにする。学生への履修モデルの提示は、入学時オリエンテーションおよび少人数演習授業（「基礎理学療法学演習Ⅰ・Ⅱ」、「理学療法学演習Ⅰ・Ⅱ」）の中で繰り返し行い、十分に学生自身が考えた上で、各モデルの選択科目を履修登録できるように配慮する。履修モデルを選択する前に、「理学療法学特論」の授業において、3つの履修モデルが想定している各

領域の重要性について講義を行い、学生に具体的なイメージを持たせる。3つの履修モデルの概要は以下の通りである。また、**資料 25** に各履修モデルについて詳しく記載している。

履修モデルⅠ：『臨床理学療法』

一般病院、リハビリテーション病院等に就職することを希望する学生を対象として、「クリニカル・リーズニング総論」、「クリニカル・リーズニング各論」、「理学療法学文献講読」、「臨床理学療法論」を設け、実践場面を意識しながら臨床能力の向上を図る。

履修モデルⅡ：『スポーツ理学療法』

スポーツ整形外科関連の病院、スポーツトレーニング施設等に就職することを希望する学生を対象として、「スポーツ理学療法学」、「スポーツ理学療法学演習」、「スポーツトレーニング特論」、「障がい者スポーツ支援論」を設け、スポーツ理学療法の現場の実践場面を意識しながら臨床能力の向上を図る。

履修モデルⅢ：『予防理学療法』

介護保険サービスの事業所・施設、自治体、健康関連企業等に就職することを希望する学生を対象として、「疾病予防と健康増進」、「介護予防評価演習」、「予防理学療法学各論」、「健康ビジネス論」を設け、予防理学療法の分野で活躍するための知識・技術を培う。

6.2.4. 学年担任と助言教員の役割

理学療法学科においては、**学年担任**及び**助言教員**が履修指導の役割を担う。**学年担任**と**助言教員**は相互に協力し情報共有し合いながら学生の履修指導に当たる。

各学年につき専任教員 2 名が**学年担任**、**学年副担任**となり、臨床実習前のオリエンテーション、国家試験の説明、学籍管理、国家試験の事務手続き、実習施設の振り分け等の役割を担う。

「基礎理学療法学演習Ⅰ」、「基礎理学療法学演習Ⅱ」、「理学療法学演習Ⅰ」、「理学療法学演習Ⅱ」、「理学療法学演習Ⅲ」の演習形式の授業を担当している各教員が各グループの学生（8名～12名程度）の**助言教員**となり、履修方法、学修方法、実習前の実技、進路や学生生活等について個別指導を行う。各学期 1 回以上は各学生と個別面談を行う。

6.2.5. 成績評価方法

各科目のシラバスで明示している成績評価基準に基づき 100 点満点で点数化し、表 8 を基に成績評価を行う。100 点満点で 60 点以上を合格とし、60 点未満を不合格とする。不合格科目には単位の認定は行わない。各科目の単位認定は、やむを得ない事情があった場合を除いて、授業に出席していることを原則とする。臨床実習以外の科目においては、欠席回数が、授業回数の 1/3 を超える場合は、得点に関わらず基本的に当該科目の単位を認定しない。臨床実習の科目（「機能・能力評価学臨床実習」、「総合臨床実習Ⅰ」、「総合臨床実習Ⅱ」）においては、欠席日数が、学外実習の日程の 1/5 を超える場合は、得点に関わらず基本的に当該科目の単位を認定しない。各学期末に、各学生の登録した履修科目の成績評価から評価点（Grade Point）の加重平均値（GPA: Grade Point Average）を算出し、学修成果のレベルを客観的に数値化する。

表 8. 成績評価・評価点及び得点

成績評価	評価点 (Grade Point)	得点
A	4.0	96-100
A-	3.7	92-95
B+	3.3	88-91
B	3.0	84-87
B-	2.7	80-83
C+	2.3	76-79
C	2.0	72-75
C-	1.7	68-71
D+	1.3	64-67
D	1.0	60-63
F	0.0	0-59

臨床実習科目「機能・能力評価学臨床実習」、「総合臨床実習Ⅰ」、「総合臨床実習Ⅱ」においては、臨床実習施設毎に評価者が異なり、客観的な評価基準を設けることが難しいことから、臨床実習施設の評価結果と大学内での評価結果の両方を考慮し、最終的に本学専任教員が合格あるいは不合格の 2 段階で成績評価を行う。そのため、臨床実習科目の成績評価結果は、GPA 算出の対象外とする。

6.2.6. 卒業要件

理学療法学科の教育課程を体系的に履修し、表 9 の通り、**必修科目 117 単位**に加えて**所定の選択科目 13 単位以上を修得することを卒業要件**とする。したがって、**卒業要件単位数を 130 単位**と定めた。

選択科目について、『1. 基礎教育分野（大区分）』からは、**4 単位以上**修得することとし、『2. 専門教育分野（大区分）』からは、履修モデル（資料 25）を参考に、**9 単位以上**修得することとする。

表 9. 各科目区分における必修科目及び選択科目の単位数

科目区分		必修科目 単位数	選択科目 単位数
大区分	中区分		
1. 基礎教育分野	1-1. TIU コア科目	4	4 以上
	1-2. 教養コア科目	6	
	1-3. 言語スキル科目	4	
	1-4. 自由選択科目	0	
2. 専門教育分野	2-1. 専門基礎科目	31	9 以上
	2-2. 専門科目	72	
合計単位数		117	13 以上
卒業要件単位数		130 以上	

7. 施設、設備等の整備計画

7.1. 校地、運動場の整備計画

本学の校地面積は 281,941 m²であり、うち校舎敷地は、77,288 m²を有している。校舎敷地には教室棟、研究棟、管理棟、図書館、体育館、大講堂、食堂等があり、また、学生の休息その他の利用のために、植栽、ベンチ、噴水等を整備した憩い広場を整備している。

上述の体育館は、1,108 m²の運動スペースを有し、医療健康学部を含む全学部共通科目である基礎教育分野の「健康・スポーツ実技」で利用するほか、入学式、卒業式の式典、企業説明会等学生のための各種イベントに活用されている。

また、医療健康学部が使用する東京国際大学第1キャンパス（埼玉県川越市）と隣接はしていないが、7 km離れた埼玉県坂戸市に運動場用地として166,739 m²を有する施設があり、野球場、サッカー場、フットサル場、ゴルフ練習場、アーチェリー場、ソフトボール場を整備している。当該運動場までは定期的に学内バスを運行しており、アクセス面も問題ない。その他、キャンパスから3 kmの距離に河川敷校地（入間川河川敷グラウンド）25,205 m²を有している。これらの運動場施設では、人間社会学部の人間スポーツ学科及びスポーツ科学科の実技科目の授業や学生の課外活動、運動会等で使用している。

7.2. 施設、設備等の整備計画

本学の校舎の総面積は61,195 m²あり、このうち、38,146 m²が医療健康学部が使用する第1キャンパス（商学部、経済学部、言語コミュニケーション学部、国際関係学部と共用）の校舎面積である。今回の医療健康学部理学療法学科の設置にあたり、既設の教室棟のうち5号館1階、2階および6号館1階、2階の一部を当該学部専用に改修する。改修工事は令和2年7月下旬に着工し、令和3年2月中旬に竣工を迎える。その後、各教室、実験室等に機器、器具を搬入し、開設年度の令和3年4月に向けて万全を期す計画である。改修後は既設の他学部は当該教室を使用できなくなるが、収容能力には余裕がある。また、コンピューター教室21室、語学学習室12室を有し、講義科目以外の授業に対する教室にも余裕がある。**資料28**に、理学療法学科を設置する東京国際大学第1キャンパスの授業の時間割を示す。この時間割を基に、**医療健康学部理学療法学科および他学部の教育研究の環境が十分に整備されている**ことを確認している。

5号館および6号館の改修内容は、医療健康学部理学療法学科専用として以下の教室を整備する。

- ・ADL室（100 m²）※1
- ・運動療法室（200 m²）
- ・理学療法実習室2室（各150 m²）※2

- ・理学療法演習室 5 室 (各 40 m²)
- ・データ解析室 (80 m²)
- ・バイオメカニクス実習室 (160 m²)
- ・神経生理学実習室 (23 m²)
- ・運動学実習室 (160 m²)
- ・水治療室 (80 m²)
- ・解剖・生理学実習室 (160 m²)
- ・標本室 (20 m²)
- ・義肢装具演習室 (140 m²)
- ・ロッカー更衣室 2 室 (40 m²・55 m²)

※1. 運動療法室と併設している。教室間のパーテーションを開放して使用可能である。

※2. 理学療法実習室 2 室は、300m²の 1 教室としても使用可能である。

改修による当該学部の専用演習室・実験室等の面積は 1,718 m²となる。理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドラインにおいて定められている**理学療法士養成施設として必要な教室及び実習室等は十分に整備**される。資料 29 に 5 号館、6 号館の改修に係わる工事概要・計画を示す。

理学療法学科は定員を 80 名に設定しており、講義科目では 80 名以上の学生を収容可能な教室を使用する。また、運動療法室、理学療法実習室、解剖・生理学実習室、義肢装具演習室などの実習室においても、学生 80 名を収容する上で十分な広さがある。各実習室には、実習に必要な治療ベッド、マット、テーブル、椅子などを整備する。ADL 室については運動療法室に併設させ、必要に応じて教室間のパーテーションを開放し、2 教室を同時に使用できるようにする。バイオメカニクス実習室、神経生理学実習室については、専門基礎科目である「運動学実習」や「生理学実習」において 10 名程度の少人数で使用する。運動学実習室については、「運動学実習」において 1 クラス 40 名程度で実習を行う。「基礎理学療法学演習 I・II」「理学療法学演習 I・II・III」においては、8-12 名程度の少人数のグループでの演習授業を実施するが、各グループでの活動を行いやすいように、理学療法演習室 5 室、データ解析室、解剖・生理学実習室、理学療法実習室 2 室、運動療法室など十分な数と広さの教室を割り当てている。その他、アクティブラーニング型の授業については、ディスカッションを行いやすいように、テーブルが整備された解剖・生理学実習室や義肢装具演習室を割り当てている。医療健康学部理学療法学科の授業科目と各科目で使用する教室については、資料 30 の医療健康学部理学療法学科時間割に記載している。1 学年から 4 学年までの授業が実施できることを時間割から確認している。

本学では、GTI、JLI を除き専任教員 1 名に対して個室 1 部屋を研究室として割り当てている。専任教員用の研究室は全 224 室ある。医療健康学部の専任教員に対しても、同様に研究室を割り当てる予定である。2020 年 3 月現在の専任教員 145 名に医療健康学部の専任教員 18 名を加えても 163 名であり、研究室数には十分に余裕がある。

設備等の整備計画については、**理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドライン**において定められている**教育上必要な機械・器具・模型等を規程の数量以上整備する予定**である。加えて、理学療法学科の教育研究に必要と考えた備品についても整備する。**資料 31**に各実習室に整備する機械・器具・模型等一覧を示す。**資料 31**に記した通り、学部開設前年度中に備品を整備する。また、学部開設後も計画的に整備を進める。

7.3. 図書等の資料及び整備計画

医療健康学部理学療法学科の図書等の資料の整備計画は、開設年度（令和 3 年度）までに理学療法学に係わる専門図書 2,173 冊（和書 1,929 冊、洋書 244 冊）、雑誌 23 誌、視聴覚資料 7 点を整備する。**資料 32**および**資料 33**に専門科目に係る図書目録、**資料 34**に学術雑誌の目録を記載した。

図書館全体については、蔵書は 681,218 冊（うち外国書 113,898 冊）、学術雑誌 15,634 種（うち外国書 14,076 種）電子ジャーナル 12,111 タイトル（すべて外国書）、視聴覚資料 15,722 点を有し、閲覧席は 648 席を整備している。

また、オンラインでの蔵書検索（OPAC : Online Public Access Catalog）や大学間における相互貸借の仕組みを整え、レファレンス・サービス等多様なサービスを提供している。電子ジャーナルやデータベース等を充実させることで、学術情報の収集における利便性の向上にも努めている。昨今の学生事情から、スマートフォン版の OPAC（簡易版）の提供も実施している。館内のインターネット利用については、eduroam を導入し Wi-Fi 環境を整えている。

館内 2 階には、1 階の英語学習コーナーである English PLAZA と連携して、English PLAZA Library として、GTI（Global Teaching Institute=英語教育組織）から推薦されたレベル別になった英語自主学習の効果に繋がる図書等が配備されている。同フロアには、グループ学習室が設置され、予約制により最大 2 時間までグループで学習、意見交換、発表、報告ができるスペースが設けられている。

学習・研究上必要とする図書等で所蔵のない場合は、購入を希望する申込が可能で購入依頼が出来る。毎年、新入生には科目担当教員からの申出に応じて、図書館の利用方法・文献検索方法、館内ツアー等を説明する図書館ガイダンスを実施している。

8. 入学者選抜の概要

本学は「**公德心を体した真の国際人の養成**」を建学の精神としている。公德心とは、グローバル社会における多様性や異文化の理解、他者への配慮、人間性の重視など人類の普遍的な価値観に立ち、「公（おおやけ）」のために貢献する心であり、これからの国際人に必要不可欠な素養である。

理学療法学科を設置する医療健康学部では、上記の建学の精神を基に、医療・健康科学における専門的知識・技術をもって心身の健康を支援することで社会に貢献できる人材を養成することを教育研究上の目的としている。本学科では、その社会貢献を、理学療法の視点から捉え、医療・福祉分野のみならず、健康増進・介護予防分野においても活躍できる人材の育成を目指す。この目的を達成するために、以下の通りアドミッション・ポリシーを定める。

医療健康学部理学療法学科のアドミッション・ポリシー（AP）

大学の建学の精神と教育理念および本学部・学科の教育方針に賛同し、次の素養と意欲をもつ学生を求めます。

1. 大学での学修および活動に積極的に取り組む意欲と行動力を有する。
2. 高校での授業および活動などを通じて、基礎的な学力と基本的な学修態度を身につけている。
3. 健康・医療に興味関心があり、他者への慈しみの心を持って社会に貢献する意欲を有する。
4. 理学療法士を目指し、専門知識や技術を学ぶ意欲を持ち、そのための努力をすることができる。

8.1. 入学者選抜の方法と選抜体制

上記のアドミッション・ポリシーに基づき、入学者選抜を実施する。本学理学療法学科の入学者選抜は、①**学校推薦型選抜**、②**一般選抜**、③**総合型選抜**の方法で実施する。本学理学療法学科の入学定員は80名とし、各入学者選抜の募集人員の割合は**表 10**の通りである。

表 10. 入学者選抜の方法と募集人員

入学者選抜の方法		募集人員
学校推薦型選抜	指定校制推薦入試	20名
	公募制推薦入試	20名
一般選抜	全学部統一入試	20名
	大学入学共通テスト利用入試	4名
総合型選抜	AO入試、資格者AO入試	16名

入学者選抜は中立・公正に実施することを旨とし、入試問題の漏洩など入学者選抜の信頼性を損なう事態が生じることのないように、学長を委員長とした各学部長、事務局長、入学センター職員による試験実施体制を整え、教職員の関係者が一体となり全学的な連携体制のもとに実施する。入学者選抜基準を明確にし、試験ごとに学長、各学部長、事務局長、入学センター部長の就学管理委員会構成員による判定会議を開催し合否判定を行う。具体的な選抜方法については、選抜方法別に以下に記す。

学校推薦型選抜〔指定校制推薦入試、公募制推薦入試〕

・指定校制推薦入試

本学が指定した高等学校の長より推薦があり、評定平均値が本学の定めた基準以上で、学習および活動に積極的に取り組む意欲と行動力を有する受験生を選考する。対象は現役生で専願とする。

選考方法：**面接**と**書類審査（調査書）**により、総合的に評価判定する。面接においては、意欲に加えて口頭試問を実施して知識及び思考力、判断力、表現力を評価する。

・公募制推薦入試

高等学校の長より推薦があり、評定平均値が本学の定めた基準以上で、学習および活動に積極的に取り組む意欲と行動力を有する受験生を選考する。対象は卒業後1年までの受験生とし専願とする。

選考方法：**面接**と**書類審査（調査書、志望理由書）**により総合的に評価判定する。面接においては、意欲に加えて口頭試問を実施して知識及び思考力、判断力、表現力を評価する。Ⅰ期とⅡ期で2回実施する。

一般選抜〔全学部統一入試、大学入学共通テスト利用入試〕

大学教育を受けるために必要な基礎学力を確認する。

・全学部統一入試

選考方法：**面接試験**を必須とし、以下の科目から選択した受験科目の結果と合わせて総合的に評価する。Ⅰ期、Ⅱ期で2回実施する。

「英語：コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ、英語表現Ⅱ<リスニングを除く>」または「国語（国語総合）<近代以降の文章>」から1科目と「数学Ⅰ・数学A」、「物理基礎」、「化学基礎」「生物基礎」から1科目の合計2科目。

・大学入学共通テスト利用入試

選考方法：大学入学共通テストの教科・科目のうち以下の教科・科目の成績を利用し評価する。Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期で3回実施する。

外国語：「英語」（リスニング除く）または国語：「国語」（近代以降の文章）のうち高得点の1科目と数学：「数学Ⅰ」、「数学Ⅰ・数学A」または、理科：「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」（基礎科目は2科目で1科目とみなす）「物理」、「化学」、「生物」、「地学」のうち高得点の1科目の合計2科目。

総合型選抜〔A0入試、資格者A0入試〕

アドミッション・ポリシーの趣旨に鑑み、入学志願者の能力・適性や学習に対する意欲、目的意識、コミュニケーション力等を重視する。

・A0入試

選考方法：面接と書類審査（調査書、志望理由書）、小論文により総合的に評価判定する。専願、併願を併用して4回実施する。

・資格者A0入試

次のいずれか1つを満たすことを出願資格とする。

- ・ 実用英語検定準2級以上
- ・ TEAP 135 以上
- ・ TEAP CBT 235 以上
- ・ GTEC（4技能）690 以上（オフィシャルスコアに限る）
- ・ ケンブリッジ英語検定 120 以上
- ・ TOEIC L&R 225 以上かつ S&W 160 以上
- ・ 日本漢字能力検定 2 級以上
- ・ 介護福祉士国家資格取得
- ・ 介護職員初任者研修修了証取得
- ・ 健康運動指導士資格取得
- ・ 健康運動実践指導者資格取得
- ・ トレーニング指導者資格取得

選考方法：面接と書類審査（調査書）、小論文により総合的に評価判定する。4回実施する。

9. 取得可能な資格

本学理学療法学科の教育課程は、「理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則（平成30年10月5日改正）」に基づいて編成されている。教育課程と指定規則との対比は、**資料24**で示した通りであり、教育内容及び単位数は規則の基準を満たしている。したがって、学則の卒業要件に定める必要な単位数を修得することで、理学療法士国家試験受験資格を取得可能である（**表11**）。

表11. 取得可能な国家資格

資格名称	所管	資格取得条件
理学療法士 国家試験受験資格	厚生労働省	卒業要件を満たすこと

本学では、スポーツ分野における専門性を高めるために、**表12**に示す民間資格の受験資格を得られるように各法人に対して申請する。

表12. 取得可能な民間資格

資格名称	法人名	資格取得条件
トレーニング指導者 受験資格	特定非営利法人 日本トレーニング指導者協会	所定の必修科目に加えて「スポーツトレーニング特論」（選択科目）を修得すること
初級障がい者スポーツ指導員 受験資格	公益財団法人 日本障がい者スポーツ協会	「障がい者スポーツ支援論」（選択科目）を修得すること

卒業後に福祉事務所や社会福祉施設等への就職を希望する学生のために社会福祉主事の任用資格を得られるようにする（**表13**）。

表13. 取得可能な任用資格

資格名称	所管	資格取得条件
社会福祉主事 任用資格	厚生労働省	所定の必修科目の単位を修得すること

10. 実習の具体的計画

10.1. 実習計画の概要

10.1.1. 実習の目標（実習のねらい）

一連の臨床実習を通じて、医療や福祉領域における臨床活動のみならず、多様化する社会的ニーズに対して、高い水準で応えることができる人材を育成する（DP4 に対応）。また、理学療法の難しさや限界ならびに、そのやりがいについて身をもって経験することによって、永続的な探究心を養い、理学療法の発展に寄与する人材を育成する（DP5 に対応）。実習の目的達成に向け、様々な困難と向き合う対象者や、その環境を支えるご家族に共感する感性を養い、人間の尊厳を学ばせる（DP1、DP2、DP3 に対応）。その上で、社会的ニーズの多様化に対応した臨床的観察力・分析力・治療計画立案能力・実践能力等を身につけ、チームの一員として連携方法を習得させる（DP3、DP4 に対応）。また、医療人としての責任と自覚を持った上で、各障害・病期・年齢層に対し公平かつ良識的な視点で対応する能力を培う（DP2、DP3 に対応）。

10.1.2. 実習の単位、主な内容、実習施設、時期、学生の配置、週間計画等

本学理学療法学科の臨床実習は、**年次別実習計画表（資料 35）**に示した通り、「機能・能力評価学臨床実習」、「総合臨床実習Ⅰ」、「総合臨床実習Ⅱ」で構成されている。臨床実習の科目の単位数及び実施時期は**表 14**に示した通りである。**臨床実習の科目の合計単位数は 21 単位（5+7+9=21）であり、指定規則における必要単位数（20 単位）を満たしている。**なお、上記の単位とは別に、「基礎理学療法学演習Ⅰ」の科目で早期臨床体験として**臨床見学**を実施することとする。**資料 36**に臨床見学の要綱を示す。

表 14. 臨床実習の科目の単位数及び実施時期

科目名	単位数	時期
機能・能力評価学臨床実習	5	2 年後期
総合臨床実習Ⅰ	7	3 年後期
総合臨床実習Ⅱ	9	4 年前期

「機能・能力評価学臨床実習」、「総合臨床実習Ⅰ」、「総合臨床実習Ⅱ」においては、**診療参加型（クリニカル・クラークシップ型）の臨床実習の方式を導入し、**臨床実習施設（病院、クリニック、介護老人保健施設等）の実習指導者のもとで見学、模倣、実施のプロセスを経て段階的に学習する。具体的な実習内容については**表 15**に示す通りである。

表 15. 臨床実習科目の内容

科目名	内容
機能・能力評価学臨床実習	症例に関する情報収集能力と検査・測定技術の向上を図る。
総合臨床実習Ⅰ	症例に対する情報収集と検査測定の結果を基に、統合と解釈の実践を経験し、理学療法評価技術の向上を図る。
総合臨床実習Ⅱ	多職種連携によるチーム・アプローチの観点を十分に取り入れ、理学療法評価、理学療法プログラムの立案と実施、さらにその後の再評価までの一連のプロセスを体験し、理学療法士になるための総合的なスキルの向上を図る。

※ 「総合臨床実習Ⅰ」または「総合臨床実習Ⅱ」の中での地域理学療法に関する実地体験を通じて、地域理学療法の意義と地域における理学療法士の役割ならびに他職種との連携について理解する。そのために、ケアプランの立案過程を見学し、通所リハビリテーションあるいは訪問リハビリテーションを受ける対象者への理学療法の見学とその一部を体験する。地域理学療法に関する実地体験は、「総合臨床実習Ⅰ」もしくは「総合臨床実習Ⅱ」の中で実施する。学生によって実施する科目及び実施時期が異なるが、その実地体験の内容は同一のものである。

上記の臨床実習先の確保状況に関しては、法人名、実習施設名、実習施設住所、授業科目ごとの受け入れ可能人数、地域理学療法に関する実地体験の実施が可能な人数を記載した臨床実習施設一覧（資料 37）と、各実習先から取得した実習受け入れ承諾書の写し（資料 38）を添付し、示した。実習先の場所については本学が位置する埼玉県を中心に首都圏の実習地を確保している。加えて、臨床実習の受け入れ実績の豊富な施設については、本学から遠隔に位置している場合であっても実習先として確保した。このような遠隔に位置する実習地においては、実家等が実習先に近い学生を優先的に配置する。また、遠隔地への移動・宿泊が必要な場合には、全学生から徴収した実習費を移動・宿泊費用として学生に対して配分することで、学生の費用負担の軽減に努める。

※ 実習受け入れ承諾書の写し（資料 38）に記載した「地域理学療法実習」は、上記の「地域理学療法に関する実地体験」のことを指す。

「機能・能力評価学臨床実習」、「総合臨床実習Ⅰ」、「総合臨床実習Ⅱ」における週間計画は表16の通りとする。いずれの臨床実習科目においても、学外実習前後に学内実習（前後あわせて、5日間×8時間＝40時間）を行う。

表16. 実習における週間計画

週数	機能・能力評価学 臨床実習	総合臨床実習Ⅰ	総合臨床実習Ⅱ
1週目	【学内実習】 ・オリエンテーション ・検査・測定について復習 ・客観的臨床能力試験 (OSCE)	【学内実習】 ・オリエンテーション ・理学療法評価の復習 ・客観的臨床能力試験 (OSCE)	【学内実習】 ・オリエンテーション ・理学療法介入の復習 ・客観的臨床能力試験 (OSCE)
2週目	【学外実習】 ・情報収集 ・検査・測定の実施	【学外実習】 ・情報収集 ・理学療法評価 ・理学療法介入 ・リスク管理	【学外実習】 ・情報収集 ・理学療法評価 ・理学療法介入 ・理学療法再評価 ・理学療法介入の効果検証 ・リスク管理
3週目			
4週目			
5週目			
6週目	【学内実習】 ・レジュメの作成 ・実習報告会	【学内実習】 ・レジュメの作成 ・実習報告会	【学内実習】 ・レジュメの作成 ・実習報告会
7週目			
8週目			
9週目	【学内実習】 ・レジュメの作成 ・実習報告会	【学内実習】 ・レジュメの作成 ・実習報告会	【学内実習】 ・レジュメの作成 ・実習報告会
10週目			

学外実習前に、オリエンテーション、知識確認、技術確認を行う。オリエンテーションでは、臨床実習要綱（資料39）の読み合わせによって、実習に対する姿勢、生活、身だしなみ、コミュニケーション、自宅と臨床実習施設間の移動、臨床実習の進め方、臨床実習の出欠、感染症の予防、成績評価、守秘義務と個人情報保護、SNS使用上の注意、差別・ハラスメント、事故防止策、緊急時の対応について学生に理解させる。知識確認では、各臨床実習の目標達成のために必要な知識の復習を行う。技術確認では、個別の技術の確認に加えて、臨床場面を想定した客観的臨床能力試験（OSCE）を行う。客観的臨床能力試験（OSCE）の概要に関しては資料40に示した。

学外実習後は、出欠票、関わった症例の概要票、評価票、施設間連絡票、届出書、実習ノート、レジュメ、症例レポート（作成した場合のみ）、事故報告書等を提出させる。実習報告会では、実習の振り返り、関わった症例のまとめ作業（レジュメ作成）、実習報告会を行う。実習報告会では、実習ノートや作成したレジュメ内容に基づいた症例報告と実習の成果報告を行う。提出物のうち、レジュメ、症例レポート（作成した場合のみ）、実習ノート、関わった症例の概要票を基に実習を振り返るために学生へのフィードバックを行う。

10.1.3. 問題対応、きめ細やかな指導を行うための実習委員会の設置等

実習先で生じた問題に対しては、**臨床実習指導者**からの連絡を**臨床実習担当教員**が受ける。施設内での対処については各施設の対応方法に従う。必要に応じて、当該実習先を担当している**本学専任教員**が実習先を訪問し、直接状況を把握する。**臨床実習担当教員**及び**訪問した教員**が**理学療法学科長**に対して速やかに事案を報告する。さらに、理学療法学科長は、事案の深刻度に応じて、**医療健康学部長**及び**大学事務（教務部）**に報告する。問題に対して、最終的に理学療法学科長が対応に当たる。問題が差別・ハラスメントに関する事案であった場合には**理学療法学科長**が**キャンパス・ハラスメント相談窓口（学生課、教務課、学生相談室、保健室、臨床心理センター）**または**本学法人本部人事課**へ報告する。学生に対してはオリエンテーション時に本学が定める**キャンパス・ハラスメント相談窓口**や**外部相談窓口（法律事務所）**の存在を伝える。臨床実習期間中においては、理学療法学科会議を原則毎週開催し、実習中に生じた問題を**理学療法学科長**及び**臨床実習担当教員**が報告し、学科内で情報共有を図る。

10.1.4. 学生へのオリエンテーションの内容、方法

学生へのオリエンテーションについては、**表 16** の週間計画表に示した通り、各臨床実習科目の1週目に実施する。その際、臨床実習要綱（**資料 39**）を学生に配布し、実習に対する姿勢、生活、身だしなみ、コミュニケーション、自宅と臨床実習施設間の移動、臨床実習の進め方、臨床実習の出欠、感染症の予防、成績評価、守秘義務と個人情報保護、**SNS** 使用上の注意、差別・ハラスメント、事故防止策、緊急時の対応について説明を行う。特に「**感染症の予防**」、「**事故防止策**」、「**個人情報の取り扱い**」については徹底して指導する。

「**感染症の予防**」に関しては、院内感染等のリスクを説明した上で、臨床実習期間中に実施すべき感染予防策（スタンダードプリコーション等）を臨床実習要綱（**資料 39**）に従って説明する。また新型コロナウイルスを含め各種感染症に罹患した可能性がある場合は、要綱に定めた基準および実習施設の指示に従い、出席停止とする。

「**事故防止策**」に関しては、臨床実習中に対象者に何らかの有害事象を発生させる可能性や実習先の備品を破損させる可能性があることを実習前のオリエンテーションで伝える。その際、事故発生のリスクを最小限にするためにどのように行動すればよいか、事例を交えながら説明する。また事故が発生した際の対応方法についても説明する。

「**個人情報の取り扱い**」に関しては、臨床実習において守秘義務が発生するため、臨床実習中に知り得た情報の漏洩（ソーシャル・ネットワーク・サービスへの投稿を含む）を厳禁とすることを伝える。学生には実習開始前に個人情報の取り扱いに関する誓約書を本学に提出することを義務付ける。守秘義務違反が発覚した場合には、厳重に注意した上で臨床実習を中止する場合もある。実習前のオリエンテーションでは、以下のことを徹底するように指導する。

- ① 対象者の氏名は必ず匿名化し、個人が特定されないようにする。
- ② メモ帳やノートは、予め定めた使用場所（例えば、リハビリテーション室、実習生用デスク、病棟等）のみで使用する。また、紛失しないように管理を徹底する。
- ③ 電子ファイルを作成する場合は、個人情報が特定されないように、最初から匿名化した状態で作成し、万が一外部に漏洩した場合でも、対象者や関係機関にとって不利益が生じないようにする。
- ④ 対象者情報（匿名化済みの情報）が記載された電子ファイルやそれを扱うパソコン、記録メモリには、安易に特定されないパスワードをかける。
- ⑤ 実習終了後は、最小限の資料の保管にとどめ、それ以外のメモ帳やノートはすべて裁断し破棄する。
- ⑥ 実習上知り得た内容については一切外部に漏らさない。特に、ソーシャル・ネットワーク・サービス等の使用については十分に注意する。

10.1.5. 学生の実習参加基準・要件等

学生の実習参加基準・要件は、臨床実習前に配当されている必修科目及び選択必修科目を修得していることとする。具体的な要件は、以下の表 17 の通りとする。

表 17. 学生の実習参加基準・要件

科目名	実習時期	実習参加基準・要件
機能・能力評価 学臨床実習	2 年 後期	2 年前期までの必修科目と選択科目（基礎教育分野から 4 単位以上）の単位を修得しており、2 年後期の必修科目と選択科目（理学療法特論 1 単位）の単位が修得見込みであること。
総合臨床実習 I	3 年 後期	3 年前期までの必修科目と選択科目（基礎教育分野から 4 単位以上、専門教育分野から 3 単位）の単位を修得しており、3 年後期（集中講義を除く）の必修科目と選択科目（専門教育分野から 2 単位）の単位が修得見込みであること。
総合臨床実習 II	4 年 前期	3 年後期までの必修科目及び選択科目（基礎教育分野から 4 単位以上、専門教育分野から 5 単位）の単位を修得していること。

これらの基準・要件に加えて、①個人情報の取り扱いに関する誓約書が提出済みであること、②感染症の抗体価獲得が義務づけられている施設が実習先である学生は実習開始前に抗体価を獲得していることを参加要件とする。

10.1.6. 実習までの抗体検査、予防接種等

入学時の抗体価検査にて、麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B 型肝炎、C 型肝炎の抗体価獲得が獲得されていなかった者は、可及的早期にワクチンを接種し、抗体価の獲得に努めること。もし、臨床実習を行う施設の受け入れ規定などにより、これらの抗体価の獲得が実習受け入れの必要条件である場合は、必要なワクチン接種を行い、抗体価の獲得が確認された後、実習を行うこととなる。インフルエンザについては、流行期前のワクチン接種を促し、感染ならびに重症化の予防を図る。

10.1.7. 損害賠償責任保険、障害保険等の対策等

全ての学生は本学が指定した保険に加入する予定である。加入の手続きは本学学生課が一括して行い、発生する費用は、大学から支払う。

**加入予定の保険：一般社団法人日本看護学校協議会共済会
総合保障制度 Will の「Will2」**

10.2. 実習指導体制と方法

10.2.1. 担当専任教員の配置と指導計画

臨床実習期間中、理学療法学科の専任教員が実習先を訪問する。巡回指導の計画については**資料 41**に示した通り、各臨床実習科目における教員1人当たりの訪問施設数は5、6施設程度とする。ただし、遠隔の実習先に訪問する場合は、移動距離を基に訪問施設数を調整することとする。授業と実習先への訪問を同時期に実施するが、教員ごとの授業時間割（**資料 42**）を作成し、担当教員に過度な負担が集中しないように配慮している。

10.2.2. 学生の実習中、実習後のレポート作成・提出等

学外実習中においては、学生は「**実習ノート（日々の臨床実習記録）**」と「**関わった症例の概要票**」を作成する。実習期間中に作業を終えるように学生に指導する。1週間当たりの実習時間（1単位）は基本的に40時間とする。実習の進捗が良好な場合には、学生に「**症例レポート**」を作成させる。この場合は、レポート課題を課す前に、**実習先への訪問を担当している専任教員と臨床実習指導者**の間で連絡を取り合い、実施可能か判断する。レポート課題を課す場合においても、1週間当たりの学修時間が45時間を超えないように、**臨床実習指導者**に依頼する。

学外実習終了後は、実習先で学んだことや今後の課題を総括するための「**レジュメ**」を作成させ、「**出欠票**」、「**関わった症例の概要票**」、「**評価票**」、「**施設間連絡票**」、「**届出書**」、「**実習ノート**」、「**症例レポート（作成した場合のみ）**」、「**事故報告書**」等とともに大学に提出させる。

10.3. 大学と実習施設との連携体制と方法

10.3.1. 実習先との契約内容

臨床実習の実施に先立ち、臨床実習の方法、実習期間について十分に説明し、臨床実習施設から「**実習受け入れ承諾書**」を得る。また、臨床実習指導者会議等を通じて個人情報保護、事故防止の方法や感染予防対策、評価基準及び事故発生時の対応等に関する本学の取り決めについて十分な説明を行い、理解を得る。

10.3.2. 実習前、実習中、実習後等における調整・連携の具体的方法

本学理学療法学科では、以下に挙げる**実習前、実習中、実習後**における**調整・連携**によって**臨床実習の水準の確保**を図る。

臨床実習指導者会議の開催（実習前）

臨床実習指導者会議を年 2 回主催し、**理学療法学科長、臨床実習科目責任者**ならびに**臨床実習担当教員**が、臨床実習施設の**臨床実習指導者**に対して、目的、方針、実習方法、評価方法等を伝達し協議を行う。その際、これらの事項が記載された臨床実習要綱（**資料 39**）を配布する。臨床実習指導者会議に欠席した臨床実習指導者に対しては、実習要綱を実習先に送付し、指導内容の理解を得る。

臨床実習施設への訪問（実習中）

本学専任教員は、臨床実習期間中に各実習先に 1 回以上訪問する。訪問した教員は、学生の臨床実習の進捗状況を確認するとともに、臨床実習指導者会議で伝達した内容が実施されているか確認する。そして、今後の実習の進め方・指導方法について**本学専任教員**と**臨床実習指導者**との間で共有する。学生の臨床実習の進捗状況が芳しくない場合は、再度、実習先に訪問し、**臨床実習指導者**との連携によって、学生の臨床実習を支援する。

10.3.3. 実習期間中の連絡体制（実習中）

臨床実習担当教員が本学理学療法学科専用の携帯電話を常時携帯し、平日日中以外の時間帯でも連絡を取れるようにする。電話以外には、学科専用の電子メールへ連絡できるようにする。

10.3.4. 大学と施設間での情報の共有（実習後）

実習後の臨床実習施設との連携においては、**臨床実習科目責任者、臨床実習担当教員、臨床実習指導者**によって得られた実習内容、実習成果、指導方法、評価方法等の実習指導に関する課題や問題点を総合的に省察し、次年度以降の臨床実習計画の改善に活かす。特に、**臨床実習指導者**から得られた意見を尊重し、充実した臨床実習計画となるよう努める。

10.3.5. 各施設での指導者の配置状況と連携会議等の開催計画

臨床実習指導者の実務経験と「理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドライン」に記されている臨床実習指導者を務めるための講習会の修了の有無を把握し、**臨床実習指導者**として選任可能な理学療法士数に応じて実習生の人数を調整する予定である。

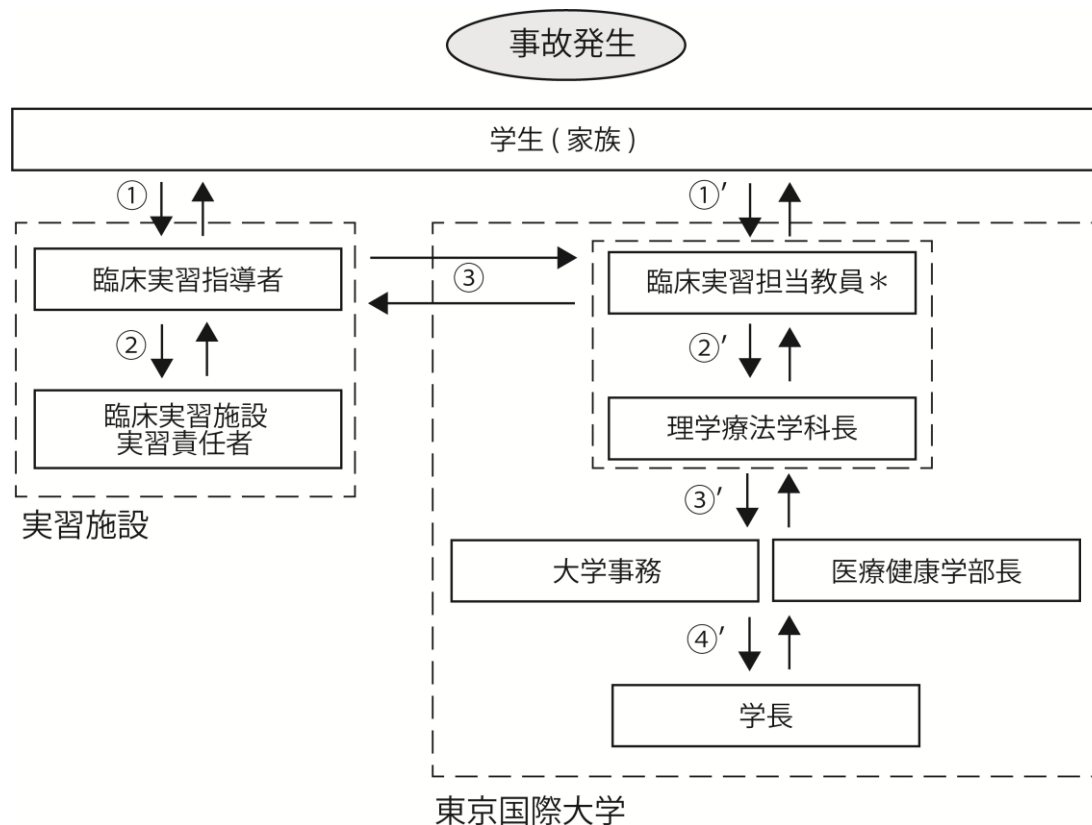
年 1 回、翌年度の実習受け入れの依頼書を送付し、臨床実習指導が可能な人数、受け入れ可能人数を把握する。受け入れ可能との回答を得た臨床実習施設の指導者を対象とした臨床実習指導者会議を開催し、本学の臨床実習の目的、方針、実習方法、評価方法等について**臨床実習指導者**に伝達・協議し、理解を得る。

10.3.6. 実習施設が専門学校の実習も受け入れている場合、実習目標や実習内容等、大学教育として実習の質の確保に関する具体的な配慮方策

臨床実習中は、科学的根拠の追及を念頭に置いた実習指導を行うように臨床実習指導者に依頼する。臨床実習施設による臨床実習終了後に本学で行われる実習報告会では、研究論文を積極的に活用し、科学的根拠の追及が行われた報告を求める。

10.3.7. 緊急時の連絡体制等

実習先で生じた問題に対する対応策は前述の通りである。一方で、実習施設外で事故等に遭遇する可能性がある。その場合の緊急時の対応のためのフローチャートを**図 7**に示す。実習期間中は**臨床実習担当教員**が連絡用携帯電話を勤務時間外においても所持し、常時対応できるようにする。学生（家族）は臨床実習指導者に速やかに連絡して指示を仰ぐ**（①）**。また**臨床実習担当教員**にも連絡する**（①'）**。**臨床実習指導者**は、**臨床実習施設の実習責任者**に状況を報告する**（②）**とともに、**臨床実習担当教員**に報告する**（③）**。**臨床実習担当教員**は、**理学療法学科長**に対して状況を報告する**（②'）**。**理学療法学科長**が中心となり、臨床実習担当教員とともに速やかに対応に当たる**（③）**。その後、**理学療法学科長**は**大学事務(教務部)**と**医療健康学部長**に報告する**（③'）**。**学部長**は**学長**に報告する**（④'）**。このフローチャートは本学の基本方針であるが、施設と対応方針が異なる場合は、臨床実習指導者会議で協議し対応方法を事前に共有する。



*臨床実習担当教員が連絡用携帯電話を勤務時間外においても所持し、常時対応できるようにする。

図 7. 事故発生時の対応フローチャート

10.4. 単位認定等評価方法

10.4.1. 各施設の指導者と大学側の指導者との評価方法・連携

成績評価及び単位認定については、**臨床実習科目担当の本学専任教員で協議の上最終的に決定する**。各施設の**臨床実習指導者**には、本学が用意した 2 種類の評価の方法（①段階評価、②記述評価）に基づき評価を依頼する。各評価票の様式は臨床実習要綱の巻末に添付している（**資料 39**）。

段階評価は**表 18**に記したように、項目ごとに 4 段階で評価する。大項目として、技術面、知識面、記録・報告、適正に分かれており、各項目を評価する。一方、記述評価においては、段階評価が困難な事項について、自由記述方式で評価する。段階評価および記述評価のための様式については、臨床実習要綱（**資料 40**）の巻末に添付している。

表 18. 段階評価

点数	到達度
4	必要最小限の助言・指導を与えた結果、達成した。
3	ある程度の助言・指導を与えた結果、達成した。
2	繰り返し助言・指導を与えた結果、達成した。
1	繰り返し助言・指導を与えた結果、達成しなかった。

評価項目については、**実習先の特徴（専門領域、病期、地域性）が臨床実習指導者による評価に影響しないように配慮**した。具体的には、すべての実習施設で共通して経験・習得すべき事項を到達目標として設定し、これに準じた評価項目を列挙した。

機能・能力評価学臨床実習では、「症例の各種の情報収集ならびに理学療法に関連する各種の検査・測定」に関する到達度を評価する。**総合臨床実習Ⅰ**では、「対象者の評価結果に基づいた理学療法介入プログラムの立案ならびに理学療法介入の実施」に関する到達度を評価する。**総合臨床実習Ⅱ**では、「多職種連携の観点を含んだ症例に対する包括的な情報収集と理学療法評価から介入実施、さらにその後の再評価までの理学療法プロセス」に関する到達度を評価する。

10.4.2. 大学における具体的な成績評価体制、単位認定方法・基準

「臨床実習指導者による評価」に加えて、実習前の「**客観的臨床能力試験（OSCE）の結果**」、**「実習ノートの内容**」、実習後の「**実習報告会の内容**」を総合的に評価し、本学専任教員が最終的に合格または不合格の2段階で成績評価をおこなう。具体的な成績評価基準については、臨床実習要綱（**資料 39**）に記載している。なお、臨床実習は学外の評価者が含まれるため、客観性の確保の観点から、臨床実習の成績は **GPA** の算出の対象外とする。

11. 管理運営

学則第 51 条において、本学は**教授会**を置き、教育及び研究に関する以下の事項について学長に対し意見を具申することを定めている。

- ① 学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項
- ② 学位の授与に関する事項
- ③ その他、教育研究に関する重要事項で、教授会の意見を徴することが必要なものとして学長が定める事項

教授会の組織、運営については、「東京国際大学教授会設置規程」(資料 43)、「東京国際大学機能別教授会規程」(資料 44) 及び「東京国際大学学部教授会規程」(資料 45) により定められている。

平成 27 年 4 月 1 日「学校教育法及び国立大学法人法の一部を改正する法律」の施行に伴い、本学では大学運営における学長のリーダーシップの確立等ガバナンス改革について検討し、教授会の在り方の見直しを行い、従来から大学各学部及び大学院各研究科に設置されている学部教授会・研究科委員会といった組織別教授会とは別に、機能別教授会を設置することとした。

組織別教授会は、学部・研究科に固有の教育研究に関する重要事項について学長の求めに応じ意見を具申するものであり、教授、准教授、専任講師及び助教をもって構成し、学部長/研究科長が招集し議長となり運営する。

機能別教授会は学部横断的に全学的見地から学長及び大学執行部の業務執行を補佐することを目的としたものであり、年度初めにその委員・委員長は常務会の議を経て理事長が任命し、運営している。機能別教授会と位置付けられた組織及びそれぞれの検討事項は**表 19**の通りである。

表 19. 各種機能別教授会とそれぞれの検討事項

機能別教授会名称	検討事項
就学管理委員会	学生の入学、卒業、課程の修了、学位の授与及び懲戒に関する事項
カリキュラム編成委員会	カリキュラム編成に関する事項
グローバル化推進委員会	グローバル化推進に資する諸施策の企画立案に関する事項
FD 委員会	教員の能力開発に関する事項 (論叢紀要編集、自己点検・評価を含む)
CD 委員会	学生の進路指導・支援に関する事項
全学人事委員会	教員の人事に関する事項
イングリッシュ・トラック・プログラム運営機構	イングリッシュ・トラック・プログラムの運営に関する事項
言語教育機構	学生の言語運用能力向上に関する事項
スポーツ医科学機構	理学療法学科設置準備に関する事項

12. 自己点検・評価

12.1. 実施体制及び方法

教育研究水準の向上に資するため、東京国際大学学則に自己点検・評価等として「本学は、教育研究水準の向上を図り、前条の目的及び使命を達成するため、本学の教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。」(第1条の2)と定め、これに基づき「東京国際大学自己点検・評価規程」(資料46)「東京国際大学自己点検・評価規程施行細則」(資料47)を制定し、定期的かつ恒常的な自己点検・評価を実施する体制を整えている。

具体的には、本学における自己点検・評価活動を統括するために、FD委員会の中に学長を部会長とする「全学自己点検・評価実施部会」を設置し、その下に学部その他の組織ごとの自己点検・評価を実施するための「学部等自己点検・評価実施部会」を設置している。(東京国際大学自己点検・評価規程 第2条)

「全学自己点検・評価実施部会」では点検・評価の方針、項目等を検討した上で、「学部等自己点検・評価実施部会」が点検・評価を実施し、この結果を全学的な観点から「全学自己点検・評価実施部会」で検討し、改善が必要な事項、効果が上がっている事項を把握し、部会長である学長が「学部等自己点検・評価実施部会」へ適宜取り組み指示を行うとともに進捗状況についても把握することで継続的なPDCAサイクルとしている。

なお、現在の点検・評価項目は公益財団法人大学基準協会による大学認証評価点検項目に準拠し、「理念・目的」、「内部質保証」、「教育研究組織」、「教育課程・学習成果」、「学生の受け入れ」、「教員・教員組織」、「学生支援」、「教育研究等環

境」、「社会連携・社会貢献」、「大学運営・財務」としている。

12.2. 第三者評価

学校教育法第 109 条に基づき、7 年毎に公益財団法人大学基準協会による評価を受審し、**表 20** の通り同協会の定める大学基準に適合していると認定されている。

表 20. 公益財団法人大学基準協会の定める大学基準による認定

受審年	認定期間
2010(平成 22)年	2011(平成 23)年 4 月 1 日～2018(平成 30)年 3 月 31 日
2017(平成 29)年	2018(平成 30)年 4 月 1 日～2025(令和 7)年 3 月 31 日

12.3. 評価結果の公表及び活用

本学では継続的に自己点検・評価を実施している。各年度の自己点検・評価の結果、及び財団法人大学基準協会による認証評価結果は、本学のホームページに公開し、社会的説明責任を果たしている。

また、自己点検・評価の結果、及び認証評価に際し公益財団法人大学基準協会より指摘された改善事項についても、前述の通り点検・評価にとどまらず具体的な改善へとつなげる取り組みをしており、内部質保証を担保する仕組みとして適切に機能している。

13. 情報の公表

本学では、学校教育法施行規則第 172 条の 2 に定める教育研究活動の状況をはじめとする各種の情報について大学ホームページを通じ外部に公表している。

本学ホームページの「大学紹介」の項目の中に「情報の公表」のページを設け同規則が定める 9 項目並びに社会貢献や財務状況、法人の事業報告書等の情報をまとめて掲載している。

URL : <https://www.tiu.ac.jp/about/disclosure/>

このほか、自己点検・評価、認証評価に関する情報についても大学ホームページを通じて公表を行っている。

教育研究機関として透明性と健全性を示し、社会的な説明責任を果たすべく、上記の大学ホームページのほか、大学ポートレートや紙媒体による刊行物である受験生や高等学校の進路指導教員を主たる対象とした大学案内「**Guide Book**」、在学生や保護者、卒業生、教職員を対象とした「**TIU 広報**」等を通じて、積極的に本学の取り組みや活動の発信に努めていく。

14. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

14.1. ファカルティ・デベロップメント活動（FD 活動）

本学では、教育内容等の改善を図るため、FD 委員会による全学 FD 研修会及び学部・研究科での FD 研修会を実施している。特に各学部においては、学部長主導により、それぞれの学部の現場で感じている課題を取り上げ、速やかに授業運営に活用していくことが推奨されており、近年活発に活動している。過去 4 年間でおこなった全学 FD 研修会の内容は表 21 の通りである。

表 21. 全学 FD 研修会の活動内容

実施年度	内容
2019 年度	1. 内部質保証と教員シラバス
2018 年度	1. ハラスメント研修 2. アセスメントポリシーの確立と実施について
2017 年度	1. Moodle ハンズオンセミナー 2. Moodle ハンズオンセミナー：卒業論文編 3. Moodle を利用した平常点の登録について：事例報告 4. 大学認証評価についての中間報告
2016 年度	1. 学修成果の確実な向上のために：大学教員に求められる行動は何か 2. 調査研究における倫理審査のポイント

14.2. シラバスの整備

本学では、全学部統一の様式でシラバスを作成している。シラバス記載項目として、授業内容、到達目標（授業の狙い）、授業方法、準備学習、教科書、参考文献、授業計画、成績評価基準、特記事項、授業に関する質問への対応等に関する記入欄を設けている。さらに「シラバス作成要領」により、毎回の授業テーマ及び授業内容の記述を体系的な視点から授業の位置づけ・学修の狙いがわかるよう配慮した記述となるよう促し、実質性のない授業計画にならないよう具体例を提示している。シラバス作成過程では教務部の担当職員が確認を行い、実質性がない場合は改善を指し示し、改善されるまで再作成を依頼している。その後、学部長、学長による確認を受け、年度初めのガイダンス前に、ポータルサイトやホームページでシラバスを公開している。

14.3. 授業評価アンケートの実施

授業内容及び方法の質的改善を図るために、原則学期に開講されるすべての授業において授業評価アンケートを実施している。教員は授業評価アンケートの結果について、学生評価への所見、授業改善の方策をフィードバックコメントとして作成し、アンケート結果とともに、本学ポータルサイト（Portal Of TIU Internal Web: POTI）上で教職員と学生に対して公表している。

14.4. 教育研究活動の公表

教員の研究業績については、研究者業績登録システムを用いて教員自ら入力しホームページで公開している。ホームページの業績情報は、2 か月に 1 回の頻度で定期的に更新される。

14.5. 教員に対する研究支援体制

14.5.1. 個人研究費の支給

教員の研究を支援する目的として、専任教員に対して毎年 40 万円の個人研究費を支給している。競争的外部資金等がない場合においても、継続的に研究を遂行できる体制を整えている。

14.5.2. 特別研究助成制度

科学研究費に申請したが不採択となった専任教員を対象として、「東京国際大学特別研究助成規程」（資料 48）に基づき、翌年度の科学研究費申請の助走的資金を、学内審査結果に基づき、助成している。同規程においては、助成費の交付を受けた者は、その研究成果を研究期間終了後 2 年以内又は退職時のいずれか早い時期に書籍又は学術雑誌等により公表しなければならないことを定めており、研究活動の実施及び研究結果の公表を促進している。

14.5.3. 科研費申請説明会の実施

教育研究支援課が中心となり、教員に向けて科学研究費の申請に関する情報提供等を行っている。

14.5.4. 国内・海外研修員制度

本学では、教育研究能力の向上を目的に、「東京国際大学教員国内研修員取扱規程」（資料 49）「東京国際大学教員海外研修員取扱規程」（資料 50）に基づき、国内・海外研修員制度を実施している。令和元年度の実績としては、表 22 の通り、1 名の教員が海外で研修を行っている。

14.5.5. 研究倫理審査体制

本学では、人を対象とする学術研究について、科学的合理性と倫理的妥当性を審査するために規程(資料 52)に基づき東京国際大学学術研究倫理委員会を設置し、研究倫理の徹底を図っている。委員会は、申請に基づき、①学術研究の対象となる個人の了解を得る方法の適切性 ②学術研究の対象となる個人の人権保護及び安全確保 ③学術研究の実施によって生ずるリスクと研究成果の合理性について留意し、該当の研究計画、研究経過の科学的合理性及び倫理的妥当性を総合的に審査し、研究計画の実施の適否を学長に対し回答する。また、学長に対して研究倫理の徹底についての必要な助言・勧告を行うことを職務としている。

教員への研究倫理教育としては、日本学術振興会が作成した e ラーニング教材「研究倫理 e ラーニングコース「el CoRE」」の受講を毎年義務付けている。この受講証明がない限り個人研究費は支給されない。受講内容は、研究を進めるにあたって知っておかなければならないことや、倫理綱領や行動規範、成果の発表方法、研究費の適切な使用など、科学者としての心得が示されている。また、研究倫理について注意喚起すべき案件や大きな話題等があれば、FD 委員会と教育研究支援課により講義形式での研修会を計画し実施している。

表 22. 教員の国内・海外研修員制度の実績（令和元年度）

制度名	期間	研修先	目的
国内研修員制度	※応募者なし		
海外研修員制度	2019. 4. 8-2020. 3. 23	ドイツ	戦後ドイツ映画史の再検証

14.6. スタッフ・デベロップメント活動（SD 活動）

大学職員の能力向上のために、SD 活動を実施している。事務職員については、人材育成のため半期ごとに目標設定を行い、その成果評価と能力姿勢の評価を実施し、処遇に反映する評価制度を実施している。また、職員に向けての研修も人事部を中心に取り組んでいる。外部で行われる研修への派遣のほか、内部で実施している主なものは以下のとおりである。

14.6.1. 役職者研修

統括職にある職員に対し私立大学行政・運営に関連するテーマでの研修を定期的実施しており、ここ数年に行ったテーマは表 23 の通りである。

表 23. 役職者研修の内容

実施年度	内容
2018 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校法人に関する法律と設置認可制度について ・ 学校法人会計について 財務データの読み方
2016 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3 つのポリシーについて ・ 学校教育法の改正と本学の対応について
2014 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて

14.6.2. ハラスメント研修

教員だけではなく全職員に対して研修を実施し、定期的に行うよう計画している。

14.6.3. グローバル化への対応

姉妹校であるアメリカのウィラメット大学と教職員派遣の協定を結んでおり、協定に基づき毎年双方から 1~2 名の職員を派遣している。互いの国における大学教育制度と取組について学び、その知識を活かして帰国後の自身の業務を行っていくことを目的としている。

15. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

理学療法学科は、「現代社会の問題を理学療法の見点から捉え、医療・福祉分野のみならず、健康増進・介護予防分野においても活躍できる人材を養成すること」を教育上の目的とする。理学療法士として社会的・職業的に自立するためには、幅広い教養と理学療法の専門的な知識・技能を身につけるとともに、医療従事者としてふさわしい高い倫理観、道徳観とコミュニケーション能力を身につける必要がある。本学では、教育課程内外で、社会的・職業的自立に関する指導をおこなう体制を整備する。

15.1. 教育課程内の取組について

15.1.1. 全学部共通の TIU コア科目

本学では、初年次教育として、「大学生活デザイン演習」と「ICT 基礎」を1年次生全員に対し必修科目として設置している。

「大学生活デザイン演習」は、全学部の学生を混ぜてクラス編成したグループワーク中心の授業であり、社会に出る際に必要なコミュニケーション能力の基礎を修得できるようにしている。また、社会で活躍している卒業生の体験談を聞き、大学4年間の過ごし方と将来のキャリアについて入学早期から考えるように促している。

さらに、「ICT 基礎」では、パソコンの基本操作と情報モラル・セキュリティについて1人1台のパソコンを使用し、実践的に学修する。特に、情報モラル・セキュリティでは、情報社会におけるルールやマナーなどの情報モラルと重要な情報を守るための情報セキュリティを学修する。2年次以降の臨床実習等で、個人情報を取り扱う機会が増えていくことから入学早期に情報管理の能力を培う。

15.1.2. 理学療法学科専任教員による少人数グループでの演習

理学療法学科では、1年次から3年次において、少人数グループでの演習形式の授業を設けている。具体的な科目名とその授業内容は下記の通りである。

表 24. 少人数グループでの演習形式の授業とその内容

配当年次	科目名	授業内容
1年次	基礎理学療法学演習Ⅰ 基礎理学療法学演習Ⅱ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学で学ぶために必要な知識・態度・スキルを身につける。 2. 議論を通じた学習法を身につける。 3. 早期臨床見学 4. 医療・福祉に関する社会問題を考える（少人数制によるグループワーク）。 5. プレゼンテーションの体験
2年次	理学療法学演習Ⅰ 理学療法学演習Ⅱ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 症例報告について理解する（グループワーク）。 2. プレゼンテーションのスキルを高める。 3. 運動器系疾患ならびに中枢神経系疾患を対象とした問題解決型学習の実施 4. 模擬患者演習の実施 5. 理学療法評価実施に関する客観的臨床能力試験（OSCE）を実施する。
3年次	理学療法学演習Ⅲ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実際の患者の動画やCT、MRI、X線画像、心電図、臨床検査データ等を元に問題点を明確化し具体的な理学療法を進め方について検討する、より高度な問題解決型学習を行う。 2. 理学療法診療ガイドラインを参考に、各疾患や障害に対する理学療法のエビデンスについて検討する。 3. 治療的理学療法技術についての客観的臨床能力試験（OSCE）を実施する。

※ この他、各学期内の課外に演習グループごとに個別面談を行い、学修が円滑に進むように指導等を行う。

15.1.3. 臨床実習

理学療法学科では、理学療法に関する実践的な臨床経験を積むことを目的に、各年次において病院や施設において臨床実習を行う。3、4年次の臨床実習（「総合臨床実習Ⅰ」及び「総合臨床実習Ⅱ」）には、地域理学療法に関する実地体験が含まれており、その中で地域社会における理学療法士の役割を学ぶ。臨床実習期間の前後には、学内でセミナーを実施し、理学療法士としてふさわしい倫理観と道徳観等について学修するとともに、各学生が経験した内容の共有を図る。各年次に臨床実習期間を設けることで早期から卒後の進路についての意識づけを行う。

15.1.4. 選択科目

理学療法士としての必須の知識・技術については、「理学療法教育モデル・コア・カリキュラム」に準拠した教育課程の中で指導する。これに加えて、本学理学療法学科においては、学生の卒業後の希望の進路に応じて、より実践的な内容を学修できるように3つの履修モデルを設けている（資料25）。卒後の進路に合わせた選択科目を修得することで、就職先で活躍できるように教育する。

15.1.5. 研究に関する科目

理学療法学科では、「理学療法学研究法」、「基礎統計学」などの必修科目や、選択科目である「理学療法文献講読」を通じて、理学療法を行う上で大学において修得しておくべき、研究論文の探し方と読み方を学修する。さらに、学生自らが立てた研究課題に対して、教員とともに研究を行う「理学療法学研究実践法」を必修科目として設ける。これらの科目を通じて、科学的根拠に基づく理学療法を実践するための能力と未解決の問題に取り組むための問題解決能力を養う。

15.2. 教育課程外の取組

15.2.1. 国家試験対策

国家試験対策として、4年次後期に複数回模擬試験を実施する。模擬試験結果を基に、学生の苦手分野を分析し、必要に応じて専任教員が補習を行う。個別の指導については、助言教員が対応することとする。

15.2.2. 共用試験の実施

NPO 法人理学療法・作業療法共用試験機構の Computer Based Testing (CBT) を取り入れ、1年次から4年次までに修得すべき知識の確認を定期的に行う。各学年で実施するテストの具体的な内容は下記の表 25 の通りである。共用試験の結果を基に助言教員が指導を行う。

表 25. 共用試験の内容と本学実施予定の試験

名称	対象学年	内容	実施予定
基礎医学問題	1年次	解剖学、生理学、運動学	○
臨床医学問題	2年次	運動器疾患、神経・精神疾患、内部疾患など	×
PT 評価実習問題	2-3年次	計測、ROM、MMT、感覚、神経、呼吸、循環、発達、高次機能、高齢、精神などの検査・評価問題	○
PT 治療前問題	3年次	<ul style="list-style-type: none"> ・運動系 PT：基礎（骨、関節、筋、運動学）、臨床（整形外科、外科）、PT（筋骨格系 PT） ・神経系 PT：基礎（神経、感覚）、臨床（神経内科、精神）、PT（神経、筋障害 PT） ・内部疾患 PT：基礎（呼吸循環代謝消化排泄等）、臨床（内科）、PT（呼吸、心臓、代謝等の PT） ・その他：応用（リハ概論・医学、法律、公衆衛生等） 	○
PT 卒業試験問題	4年次	国家試験と同様な問題配列	×

略語) PT : Physical Therapy (理学療法)、ROM : Range of Motion (関節可動域)、MMT : Manual Muscle Testing (徒手筋力検査)

15.2.3. オフィスアワー

専任教員は1週間に90分以上のオフィスアワーを設けている。この時間は、学生の質問・相談等に応じるための時間として教員があらかじめ学生に対して示す授業時間以外の特定の時間帯である。本学では、専任教員が決まった時間帯に研究室で待機し、学生からの質問や相談を受けている。各教員が設定したオフィスアワーの時間や場所は、本学のポータルサイト（Portal Of TIU Internal Web: POTI）やシラバスにおいて学生に対して開示している。理学療法学科の専任教員のオフィスアワーに関して、学生の授業時間との重複がないように十分に検討した上で設定した。学生の授業時間との重複を避けるために、教員によっては必要に応じてオフィスアワーを2回設定した。またオフィスアワーや授業時間以外でも、教員の予定が合えば、学生からの質問や相談に随時対応する。

（理学療法学科専任教員のオフィスアワー実施場所：校地校舎等の図面 8、11、20～23、26 頁参照）

15.2.4. 資格取得支援

学内に設置されているエクステンションセンターにおいて、各種資格取得対策講座を受講することができる。エクステンションセンターにおいて令和元年に開講している講座については**資料 51**に示す。理学療法学科の学生においても、パソコンや語学に関する講座など有効な講座が多く開講している。

（エクステンションセンターの位置：校地校舎等の図面 12 頁参照）

15.2.5. English PLAZA

第1キャンパス図書館1階にはEnglish PLAZAを設置し、キャンパス内いながら疑似留学体験、異文化交流ができる。また、当施設には英語ネイティブ教員が常駐しており、理学療法学科で必修科目としているOral Communication、Reading & Writingに関する質問にも対応している。

（English PLAZAの位置：校地校舎等の図面 25 頁参照）

15.3. 適切な体制の整備

本学ではキャリアセンターを第1キャンパス2号館1階及び第2キャンパスクエストセンター1階に置き、学生の就職のサポートを行っている。キャリアセンターでは、求人票を一括管理し、学生が閲覧できるようにし、担当職員が学生からの相談を随時受けられる体制を整備している。就職活動前にはキャリアセンター主催で就職セミナーを行い、面接等の指導を行う。また本学理学療法学科主催で、求人先の施設や企業に案内状を出し、年1回程度求人説明会を開催することで、学生の就職活動をサポートする。また、理学療法学科専任教員とキャ

リアセンター職員が密に連携することで、就職活動状況や内定取得状況を的確に把握し、学生一人ひとりに、適切なアドバイスを行う。

(キャリアセンターの位置：校地校舎等の図面7頁参照)

<資料目次>

1. 内閣府. “平成 30 年度版高齢社会白書”. 6-7 頁. 入手先<https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2018/zenbun/30pdf_index.html>, <参照 2019-10-17>.
2. 国立社会保障・人口問題研究所. “日本の地域別将来推計人口（平成 30(2018)年推計）”. 27 頁. 入手先<<http://www.ipss.go.jp/pp-shicyoson/j/shicyoson18/lkouhyo/gaiyo.pdf>>, <参照 2019-10-17>.
3. 厚生労働省. “今後の高齢者人口の見通しについて”. 入手先<https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/dl/link1-1.pdf>, <参照 2019-10-17>.
4. 内閣官房・内閣府・財務省・厚生労働省. “2040 年を見据えた社会保障の将来見通し”. 2 頁. 入手先<<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12600000-Seisakutoukatsukan/0000207398.pdf>>, <参照 2019-10-17>.
5. 経済産業省. “将来の介護需給に対する高齢者ケアシステムに関する研究 報告書”. 5, 8 頁. 入手先<<https://www.meti.go.jp/press/2018/04/20180409004/20180409004-2.pdf>>, <参照 2019-10-17>.
6. 公益財団法人 日本理学療法士協会. “理学療法士とは”. 入手先<<http://www.japanpt.or.jp/general/aim/physicaltherapist/>>, <参照 2019-6-26>.
7. 公益財団法人 日本理学療法士協会. “理学療法士国家試験合格者の推移”. 入手先<<http://www.japanpt.or.jp/about/data/statistics/>>, <参照 2019-6-26>.
8. 公益財団法人 日本理学療法士協会編集. “理学療法白書 2018”. 98-99 頁. 東京. HUMAN PRESS. 2019 年.
9. 公益財団法人 日本理学療法士協会. “日本理学療法士学会 組織”. 入手先<<http://jspt.japanpt.or.jp/about/organization/>>, <参照 2020-02-21>.
10. 厚生労働省. “地域包括ケアシステム”. 入手先<https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/dl/link1-4.pdf>, <参照 2019-10-17>.
11. 文部科学省 厚生労働省. “令第四号（指定規則改正）”. 入手先<http://www.japanpt.or.jp/upload/japanpt/obj/files/aboutpt/03_shiteikisokusyorei_181005.pdf>, <参照 2019-10-18>.
12. 文部科学省. “スポーツ振興基本計画 1 総論 1. スポーツの意義”. 入手先<http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/plan/06031014/001.htm>, <参照 2019-10-18>.
13. 文部科学省. “第 2 期スポーツ基本計画について（答申）のポイント”. 入手先<http://www.mext.go.jp/prev_sports/comp/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/03/01/1382789_001.pdf>, <参照 2019-10-18>.
14. 厚生労働省. “理学療法士の名称の使用等について”. 入手先<<https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10801000-Iseikyoku-Soumuka/0000060414.pdf>>, <参照 2019-10-18>.
15. 厚生労働省. “平成 28 年国民生活基礎調査の概況”. 29 頁. 入手先<<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa16/dl/16.pdf>>, <参照 2019-10-18>.

16. 経済産業省. “予防・健康づくりの意義と課題”. 48-49 頁. 入手先<https://www.meti.go.jp/shingikai/sankoshin/2050_keizai/pdf/003_02_00.pdf>, <参照 2019-10-18>.
17. 公益財団法人 日本理学療法士協会. “理学療法士養成校一覧 (2019 年度)”. 入手先<<http://www.japanpt.or.jp/general/aim/training/>>, <参照 2020-2-21>.
18. 公益財団法人 日本理学療法士協会. “都道府県別会員数”. 入手先<<http://www.japanpt.or.jp/about/data/statistics/>>, <参照 2019-6-26>.
19. 総務省統計局. “日本の統計 2019 2-2 都道府県別人口と人口増減率”. 入手先<<https://www.stat.go.jp/data/nihon/02.html>>, <参照 2019-10-18>.
20. 埼玉県. “第 7 次埼玉県地域保健医療計画”. 12 頁. 入手先<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0701/iryuu-keikaku/documents/keikaku_7th_zenbun.pdf>, <参照 2019-10-18>.
21. 埼玉県. “第 7 次埼玉県高齢者支援計画”. 5, 71, 76 頁. 入手先<<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0603/koureikeikaku/documents/dai7ki.pdf>>, <参照 2019-10-18>.
22. 厚生労働省. “第 2 回理学療法士・作業療法士需給分科会 資料 3 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士需給調査”. 1, 2, 15, 16, 17, 28, 33 頁. 入手先< https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10801000-Iseikyoku-Soumuka/0000120212_6.pdf >, <参照 2020-1-28>.
23. 東京国際大学医療健康学部理学療法学科. “カリキュラム・マップ” .
24. 東京国際大学医療健康学部理学療法学科. “教育課程と指定規則との対比表” .
25. 東京国際大学医療健康学部理学療法学科. “履修モデル” .
26. 東京国際大学. “専任教員任用資格基準”
27. 東京国際大学. “専任教員定年規定”
28. 東京国際大学. “授業時間割表 (第一キャンパス全体)”
29. 東京国際大学医療健康学部理学療法学科. “5 号館 6 号館の改修に係わる工事概要・計画”
30. 東京国際大学医療健康学部理学療法学科. “医療健康学部理学療法学科時間割”
31. 東京国際大学医療健康学部理学療法学科. “実習室における機械・器具・模型等一覧”
32. 東京国際大学医療健康学部理学療法学科. “専門科目に係る図書 (和書) の目録”
33. 東京国際大学医療健康学部理学療法学科. “専門科目に係る図書 (洋書) の目録”
34. 東京国際大学医療健康学部理学療法学科. “専門科目に係る学術雑誌の目録”
35. 東京国際大学医療健康学部理学療法学科. “年次別実習計画”
36. 東京国際大学医療健康学部理学療法学科. “臨床見学要綱”
37. 東京国際大学医療健康学部理学療法学科. “臨床実習施設一覧”
38. 東京国際大学医療健康学部理学療法学科. “実習受け入れ承諾書の写し”
39. 東京国際大学医療健康学部理学療法学科. “臨床実習要綱”
40. 東京国際大学医療健康学部理学療法学科. “客観的臨床能力試験実施要綱”
41. 東京国際大学医療健康学部理学療法学科. “巡回指導モデル”
42. 東京国際大学医療健康学部理学療法学科. “各専任教員の授業時間割”
43. 東京国際大学. “教授会設置規程”

44. 東京国際大学. “機能別教授会規程”
45. 東京国際大学. “学部教授会規程”
46. 東京国際大学. “自己点検・評価規程”
47. 東京国際大学. “自己点検・評価規程施行細則”
48. 東京国際大学. “特別研究助成規程”
49. 東京国際大学. “教員国内研修員取扱規程”
50. 東京国際大学. “教員海外研修員取扱規程”
51. 東京国際大学エクステンションセンター. “2019年度講座プログラム” 目次
52. 東京国際大学学術研究倫理委員会規程

て男性は0.23年、女性は0.15年上回った。今後、男女とも平均寿命は延びて、平成77（2065）年には、男性84.95年、女性91.35年となり、女性は90年を超えると見込まれている（図1-1-4）。

2 高齢化の国際的動向

(1) 今後半世紀で世界の高齢化は急速に進展

平成27（2015）年の世界の総人口は73億8,301万人であり、平成72（2060）年には102億2,260万人になると見込まれている。

総人口に占める65歳以上の者の割合（高齢化率）は、昭和25（1950）年の5.1%から平成27（2015）年には8.3%に上昇しているが、さらに平成72（2060）年には17.8%にまで上昇するものと見込まれており、今後半世紀で高齢化が急速に進展することになる。地域別に高齢化率の今後の推計をみると、これまで高齢化が進行してきた先進地域はもとより、開発途上地域においても、高齢化が急速に進展すると見込まれている（表1-1-5）。

(2) 我が国は世界で最も高い高齢化率である

先進諸国の高齢化率を比較してみると、我が国は1980年代までは下位、90年代にはほぼ中位であったが、平成17（2005）年には最も高い水準となり、今後も高水準を維持していくことが見込まれている（図1-1-6）。

高齢化の速度について、高齢化率が7%を超えてからその倍の14%に達するまでの所要年数（倍加年数）によって比較すると、フランスが115年、スウェーデンが85年、アメリカが72年、比較的短い英国が46年、ドイツが40年に対し、我が国は、昭和45（1970）年に7%を超えると、その24年後の平成6（1994）年には14%に達した。一方、アジア諸国に目を移すと、韓国が18年、シンガポールが20年など、今後、一部の国で、我が国を上回るスピードで高齢化が進むことが見込まれている（図1-1-7）。

表1-1-5 世界人口の動向等

	1950年（昭和25年）	2015年（平成27年）	2060年（平成72年）
総人口	2,536,275 千人	7,383,009 千人	10,222,598 千人
65歳以上人口	128,815 千人	611,897 千人	1,817,264 千人
先進地域	62,744 千人	220,572 千人	357,701 千人
開発途上地域	66,071 千人	391,325 千人	1,459,563 千人
65歳以上人口比率	5.1 %	8.3 %	17.8 %
先進地域	7.7 %	17.6 %	27.6 %
開発途上地域	3.8 %	6.4 %	16.3 %
平均寿命（男性）	45.51 年	68.55 年	76.72 年
同（女性）	48.50 年	73.11 年	81.09 年
合計特殊出生率	4.96	2.52	2.17

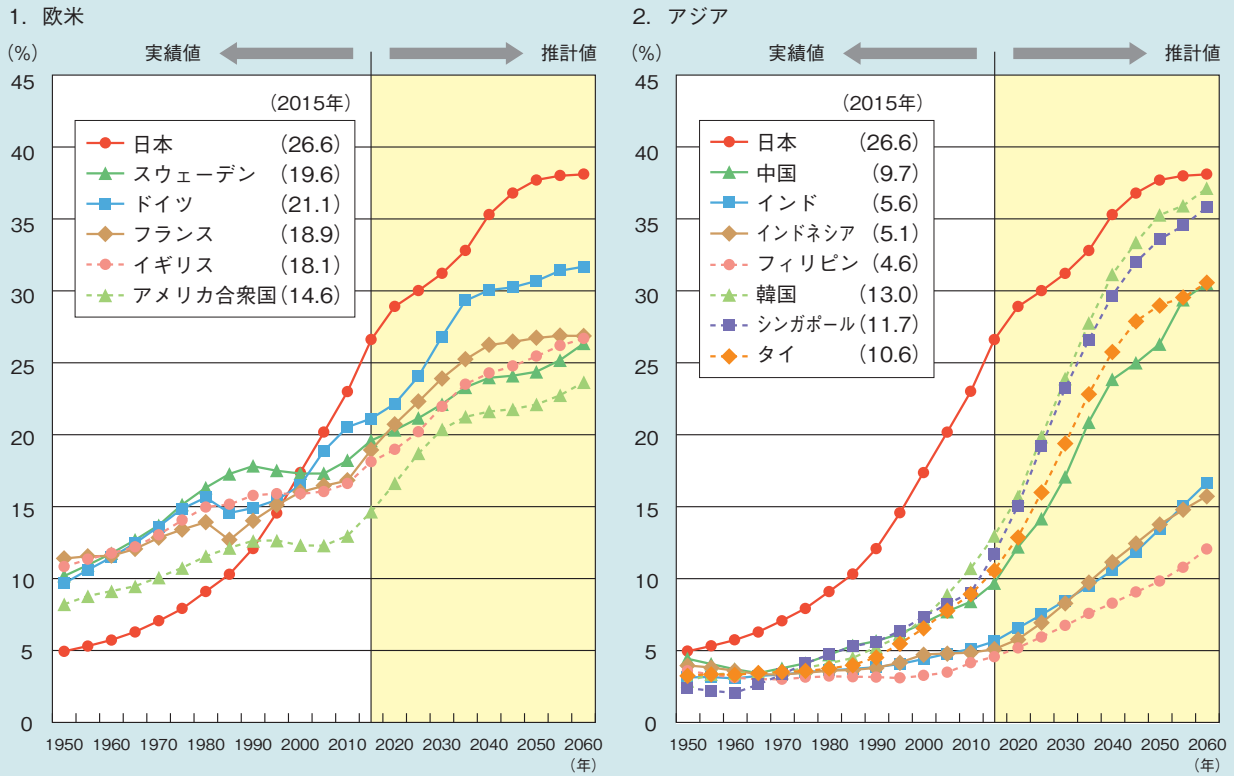
資料：UN, World Population Prospects : The 2017 Revision

(注1) 合計特殊出生率は、1950 - 1955年、2010 - 2015年、2055 - 2060年。平均寿命は1950 - 1955年、2010 - 2015年、2060 - 2065年

(注2) 先進地域とは、ヨーロッパ、北部アメリカ、日本、オーストラリア及びニュージーランドからなる地域をいう。

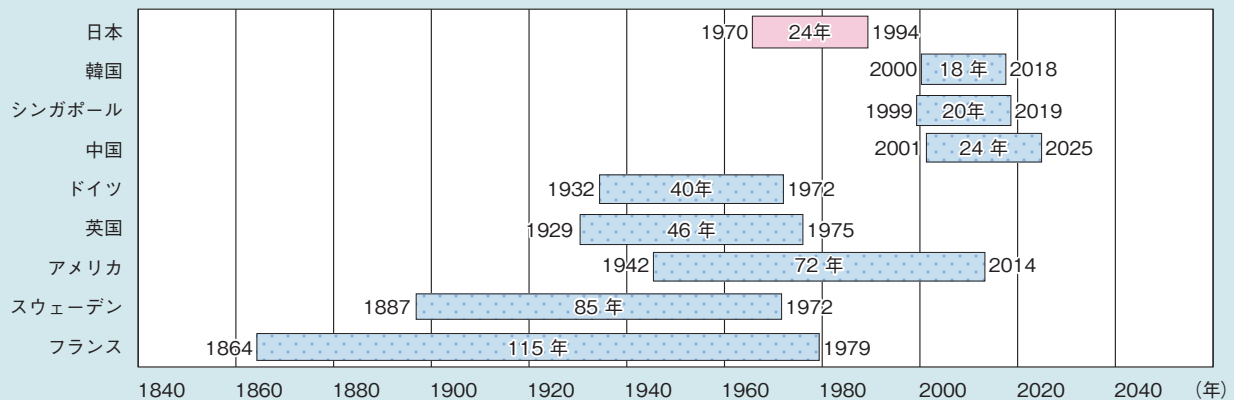
開発途上地域とは、アフリカ、アジア（日本を除く）、中南米、メラネシア、ミクロネシア及びポリネシアからなる地域をいう。

図1-1-6 世界の高齢化率の推移



資料：UN, World Population Prospects: The 2017 Revision
 ただし日本は、2015年までは総務省「国勢調査」
 2020年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果による。

図1-1-7 主要国における高齢化率が7%から14%へ要した期間



資料：国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集」（2018年）
 (注) 1950年以前はUN, The Aging of Population and Its Economic and Social Implications (Population Studies, No.26, 1956) 及び Demographic Yearbook, 1950年以降はUN, World Population Prospects: The 2017 Revision (中位推計) による。ただし、日本は総務省統計局「国勢調査」、「人口推計」による。1950年以前は既知年次のデータを基に補間推計したものによる。

表Ⅱ-12 都道府県別65歳以上人口の割合

(%)

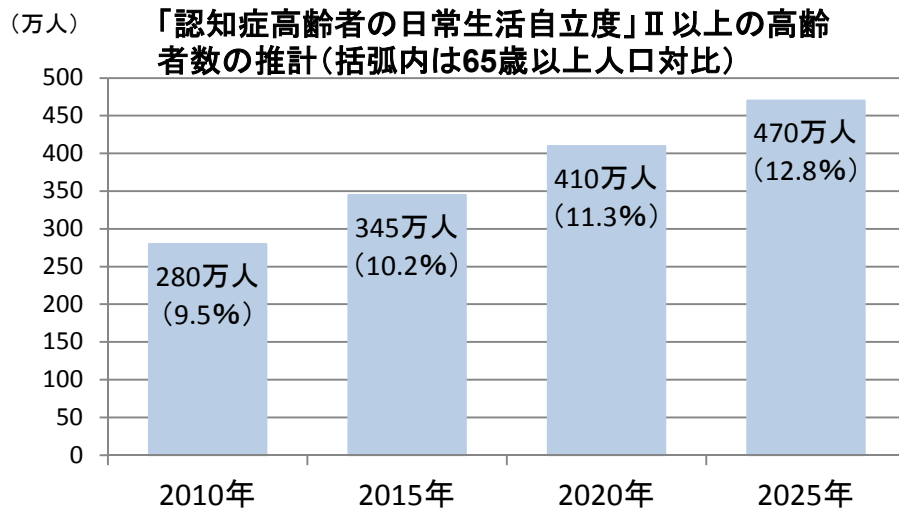
地 域	平成27年 (2015)	平成32年 (2020)	平成37年 (2025)	平成42年 (2030)	平成47年 (2035)	平成52年 (2040)	平成57年 (2045)
全 国	26.6	28.9	30.0	31.2	32.8	35.3	36.8
北 海 道	29.1	32.5	34.4	36.1	38.0	40.8	42.8
青 森 県	30.2	34.0	36.7	39.1	41.4	44.4	46.8
岩 手 県	30.4	33.5	35.6	37.3	38.8	41.2	43.2
宮 城 県	25.7	29.0	31.2	33.1	35.0	37.9	40.3
秋 田 県	33.8	37.9	40.8	43.0	44.9	47.5	50.1
山 形 県	30.8	33.9	36.0	37.6	38.9	41.0	43.0
福 島 県	28.7	32.5	35.3	37.5	39.4	42.2	44.2
茨 城 県	26.7	30.1	32.0	33.5	35.3	38.2	40.0
栃 木 県	25.9	28.9	30.6	31.7	33.2	35.7	37.3
群 馬 県	27.6	30.4	31.8	33.1	34.9	37.7	39.4
埼 玉 県	24.8	27.2	28.2	29.4	31.3	34.2	35.8
千 葉 県	25.9	28.3	29.3	30.4	32.2	35.0	36.4
東 京 都	22.7	23.4	23.6	24.7	26.5	29.0	30.7
神 奈 川 県	23.9	25.8	26.7	28.3	30.7	33.6	35.2
新 潟 県	29.9	32.8	34.4	35.6	37.0	39.2	40.9
富 山 県	30.6	32.8	33.8	34.7	36.0	38.8	40.3
石 川 県	27.8	29.9	31.0	32.0	33.3	35.9	37.2
福 井 県	28.6	31.0	32.5	33.8	35.0	37.2	38.5
山 梨 県	28.4	31.5	33.7	36.0	38.6	41.4	43.0
長 野 県	30.1	32.4	33.9	35.4	37.3	40.0	41.7
岐 阜 県	28.1	30.5	31.7	33.0	34.6	37.3	38.7
静 岡 県	27.8	30.4	31.9	33.3	35.0	37.5	38.9
愛 知 県	23.8	25.4	26.2	27.3	29.0	31.6	33.1
三 重 県	27.9	30.1	31.2	32.6	34.2	36.9	38.3
滋 賀 県	24.2	26.3	27.5	28.7	30.2	32.7	34.3
京 都 府	27.5	29.5	30.3	31.5	33.2	36.1	37.8
大 阪 府	26.2	28.0	28.5	29.6	31.6	34.7	36.2
兵 庫 県	27.1	29.5	30.8	32.3	34.3	37.3	38.9
奈 良 県	28.7	31.7	33.3	34.9	36.9	39.7	41.1
和 歌 山 県	30.9	33.0	34.2	35.4	36.7	38.9	39.8
鳥 取 県	29.7	32.4	34.0	34.9	35.6	37.4	38.7
島 根 県	32.5	34.8	36.0	36.6	37.0	38.5	39.5
岡 山 県	28.7	30.5	31.3	31.9	32.7	34.9	36.0
広 島 県	27.5	29.5	30.3	30.9	31.9	34.1	35.2
山 口 県	32.1	34.5	35.5	35.9	36.6	38.6	39.7
徳 島 県	31.0	33.9	35.6	36.7	37.8	40.1	41.5
香 川 県	29.9	32.1	33.2	33.8	34.7	37.0	38.3
愛 媛 県	30.6	33.4	35.0	36.3	37.5	40.0	41.5
高 知 県	32.9	35.4	36.8	37.9	38.8	41.2	42.7
福 岡 県	25.9	28.4	29.6	30.5	31.6	33.7	35.2
佐 賀 県	27.7	30.6	32.4	33.4	34.3	35.8	37.0
長 崎 県	29.6	33.0	35.2	36.6	37.8	39.6	40.6
熊 本 県	28.8	31.5	33.2	34.3	35.0	36.2	37.1
大 分 県	30.4	33.3	34.8	35.6	36.4	38.1	39.3
宮 崎 県	29.5	32.8	35.0	36.3	37.1	38.7	40.0
鹿 児 島 県	29.4	32.7	35.2	36.7	37.8	39.4	40.8
沖 縄 県	19.7	22.6	24.6	26.1	27.8	30.0	31.4

今後の高齢者人口の見通しについて

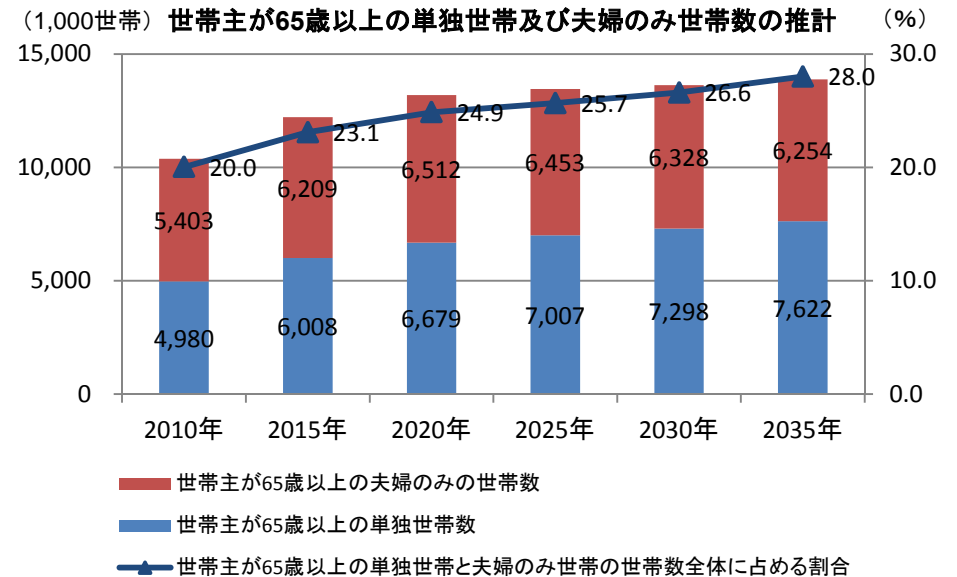
① 65歳以上の高齢者数は、2025年には3,657万人となり、2042年にはピークを迎える予測(3,878万人)。また、75歳以上高齢者の全人口に占める割合は増加していき、2055年には、25%を超える見込み。

	2012年8月	2015年	2025年	2055年
65歳以上高齢者人口(割合)	3,058万人(24.0%)	3,395万人(26.8%)	3,657万人(30.3%)	3,626万人(39.4%)
75歳以上高齢者人口(割合)	1,511万人(11.8%)	1,646万人(13.0%)	2,179万人(18.1%)	2,401万人(26.1%)

② 65歳以上高齢者のうち、「認知症高齢者の日常生活自立度」Ⅱ以上の高齢者が増加していく。



③ 世帯主が65歳以上の単独世帯や夫婦のみの世帯が増加していく。



④ 75歳以上人口は、都市部では急速に増加し、もともと高齢者人口の多い地方でも緩やかに増加する。各地域の高齢化の状況は異なるため、各地域の特性に応じた対応が必要。

	埼玉県	千葉県	神奈川県	大阪府	愛知県	東京都	~	鹿児島県	島根県	山形県	全国
2010年 <>は割合	58.9万人 <8.2%>	56.3万人 <9.1%>	79.4万人 <8.8%>	84.3万人 <9.5%>	66.0万人 <8.9%>	123.4万人 <9.4%>		25.4万人 <14.9%>	11.9万人 <16.6%>	18.1万人 <15.5%>	1419.4万人 <11.1%>
2025年 <>は割合 ()は倍率	117.7万人 <16.8%> (2.00倍)	108.2万人 <18.1%> (1.92倍)	148.5万人 <16.5%> (1.87倍)	152.8万人 <18.2%> (1.81倍)	116.6万人 <15.9%> (1.77倍)	197.7万人 <15.0%> (1.60倍)		29.5万人 <19.4%> (1.16倍)	13.7万人 <22.1%> (1.15倍)	20.7万人 <20.6%> (1.15倍)	2178.6万人 <18.1%> (1.53倍)

高齢化の進行に関する国際比較

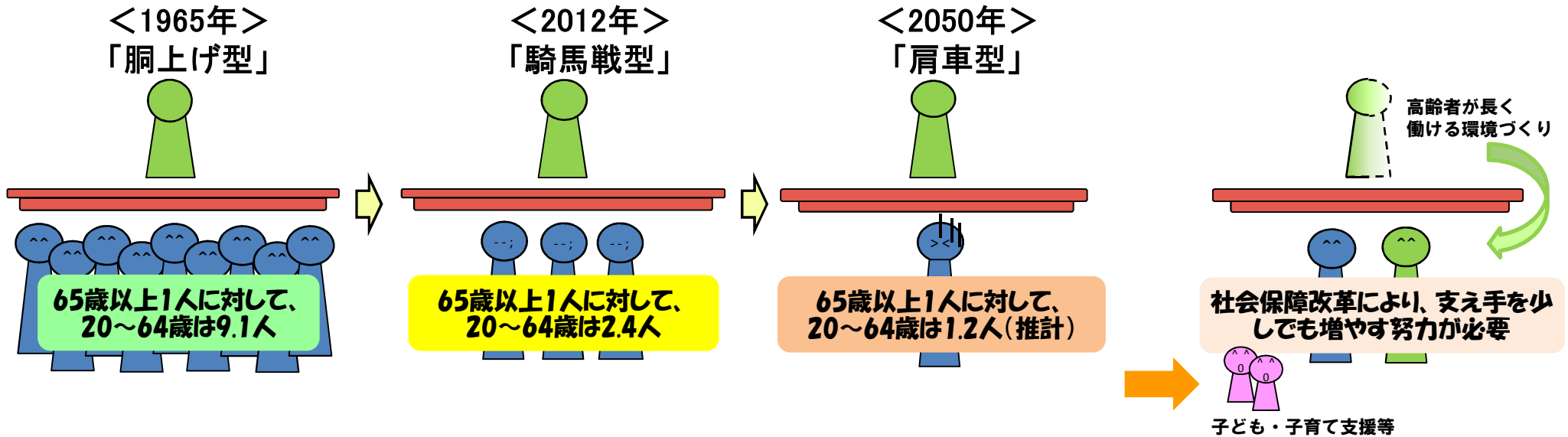
○ 我が国では、諸外国に例をみないスピードで高齢化が進行している。

国	65歳以上人口割合（到達年次）			到達に必要な年数
	7%	14%	21%	7%→14%
日本	1970	1994	2007	24
中国	2001	2026	2038	25
ドイツ	1932	1972	2016	40
イギリス	1929	1975	2029	46
アメリカ	1942	2015	2050	73
スウェーデン	1887	1972	2020	85
フランス	1864	1979	2023	115

1950年以前はUN, The Aging of Population and Its Economic and Social Implications (Population Studies, No.26, 1956)およびDemographic Yearbook, 1950年以降はUN, World Population Prospects: The 2006 Revision (中位推計)による。ただし、日本は総務省統計局『国勢調査報告』および国立社会保障・人口問題研究所『日本の将来推計人口』（平成18年12月推計）による人口（[出生中位(死亡中位)]推計値）。1950年以前は既知年次のデータを基に補間推計したものによる。それぞれの人口割合を超えた最初の年次を示す。“-”は2050年までその割合に到達しないことを示す。倍化年数は、7%から14%へ、あるいは10%から20%へそれぞれ要した期間。国の配列は、倍化年数7%→14%の短い順。

「肩車型」社会へ

今後、急速に高齢化が進み、やがて、「1人の若者が1人の高齢者を支える」という厳しい社会が訪れることが予想されています。



人口(万人)・構成比	1965年	2012年	2050年
65歳以上	623 (6.3%)	3,083 (24.2%)	3,768 (38.8%)
64歳以下 20歳以上	5,650 (56.9%)	7,415 (58.2%)	4,643 (47.8%)
19歳以下	3,648 (36.8%)	2,252 (17.7%)	1,297 (13.4%)
1年間の出生数(率)	182万人 (2.14)	102万人 (1.37)	56万人 (1.35)

試算結果 (社会保障給付費全体の見通し)

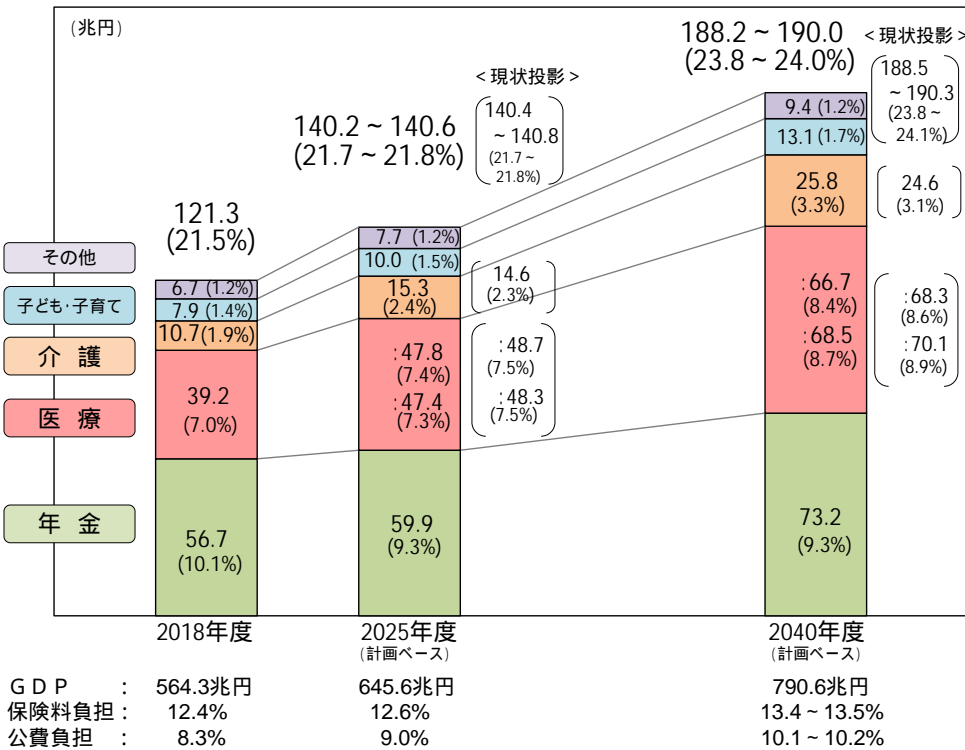
社会保障給付費の対GDP比は、2018年度の21.5%(名目額121.3兆円)から、2025年度に21.7~21.8%(同140.2~140.6兆円)となる。その後15年間で2.1~2.2%ポイント上昇し、2040年度には23.8~24.0%(同188.2~190.0兆円)となる。(計画ベース・経済ベースラインケース)

経済成長実現ケースでも、社会保障給付費の対GDP比は概ね同様の傾向で増加するが、2040年度で比較するとベースラインケースに比べて、1%ポイント程度低い水準(対GDP比22.6~23.2%(名目額210.8~215.8兆円))(計画ベース・経済成長実現ケース)。

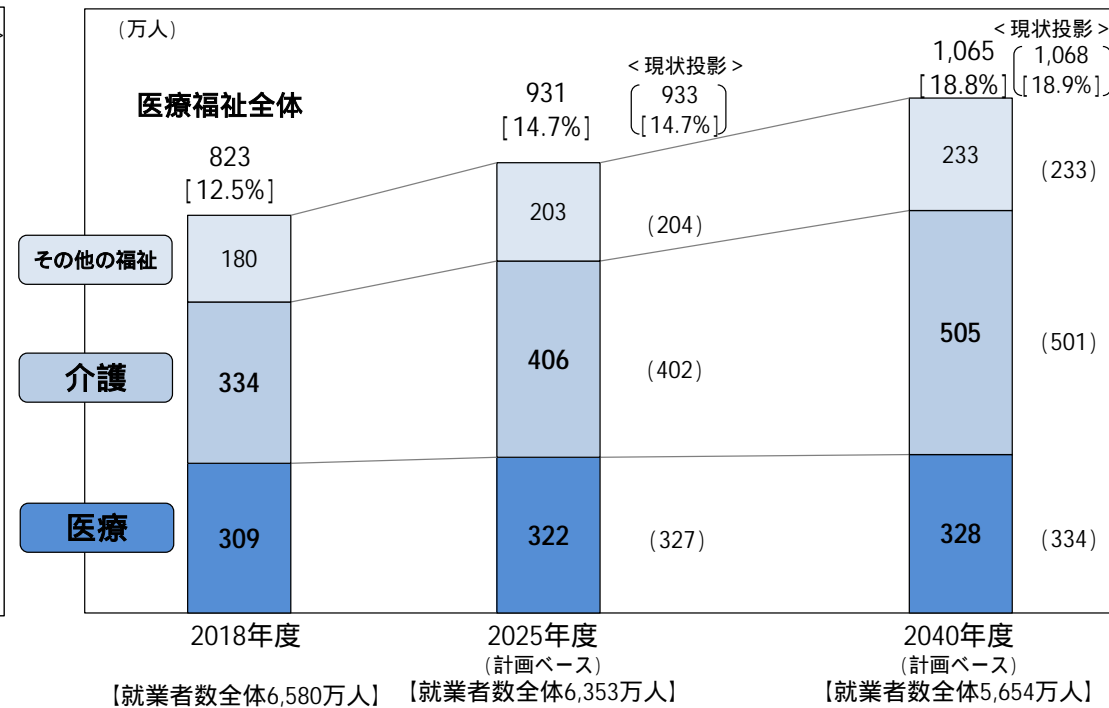
経済ベースラインケース及び成長実現ケースの経済前提については次頁参照。

社会保障給付費の見通し

(経済ベースラインケース)



医療福祉分野における就業者の見通し



(注1) 医療については、単価の伸び率の仮定を2通り設定しており、給付費も2通り(と)示している。

(注2) 「計画ベース」は、地域医療構想に基づく2025年度までの病床機能の分化・連携の推進、第3期医療費適正化計画による2023年度までの外来医療費の適正化効果、第7期介護保険事業計画による2025年度までのサービス量の見込みを基礎として計算し、それ以降の期間については、当該時点の年齢階級別の受療率等を基に機械的に計算。なお、介護保険事業計画において、地域医療構想の実現に向けたサービス基盤の整備については、例えば医療療養病床から介護保険施設等への転換分など、現段階で見通すことが困難な要素があることに留意する必要がある。

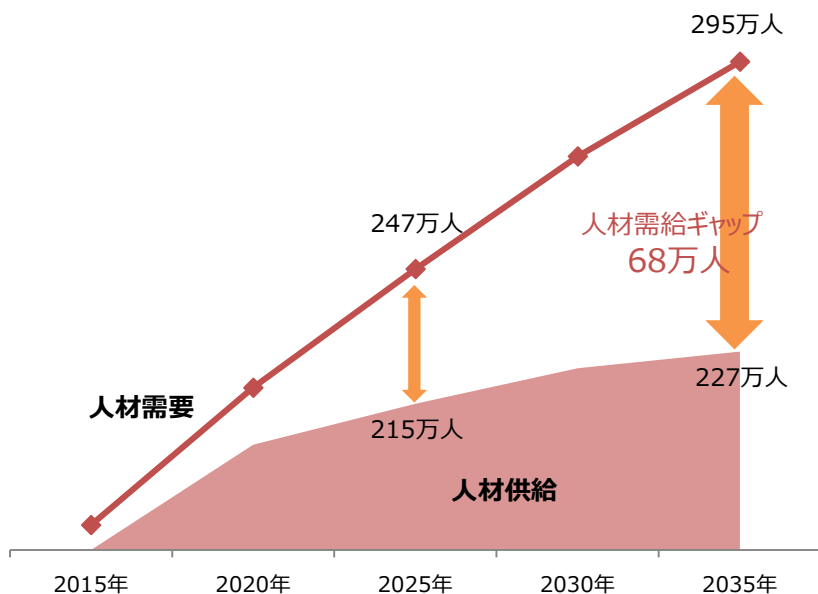
(注3) 医療福祉分野における就業者の見通しについては、医療・介護分野の就業者数については、それぞれの需要の変化に応じて就業者数が増加すると仮定して就業者数を計算。その他の福祉分野を含めた医療福祉分野全体の就業者数については、医療・介護分野の就業者数の変化率を用いて機械的に計算。医療福祉分野の短時間雇用者の比率等の雇用形態別の状況等については、現状のまま推移すると仮定して計算。

平成30年度予算ベースを足元に、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」、内閣府「中長期の経済財政に関する試算(平成30年1月)」等を踏まえて計算。なお、医療・介護費用の単価の伸び率については、社会保障・税一体改革時の試算の仮定を使用。()内は対GDP比。[]内は就業者数全体に対する割合。保険料負担及び公費負担は対GDP比。

「平成27年度 将来の介護需要に即した介護サービス提供に関する研究会 報告書」の概要

将来推計（介護職員の需給）

- 2035年時点の介護職員の需給について、一定の仮定を置いて推計。
- 高齢化による介護需要の増加等に伴い、介護職員が68万人不足する見込み。



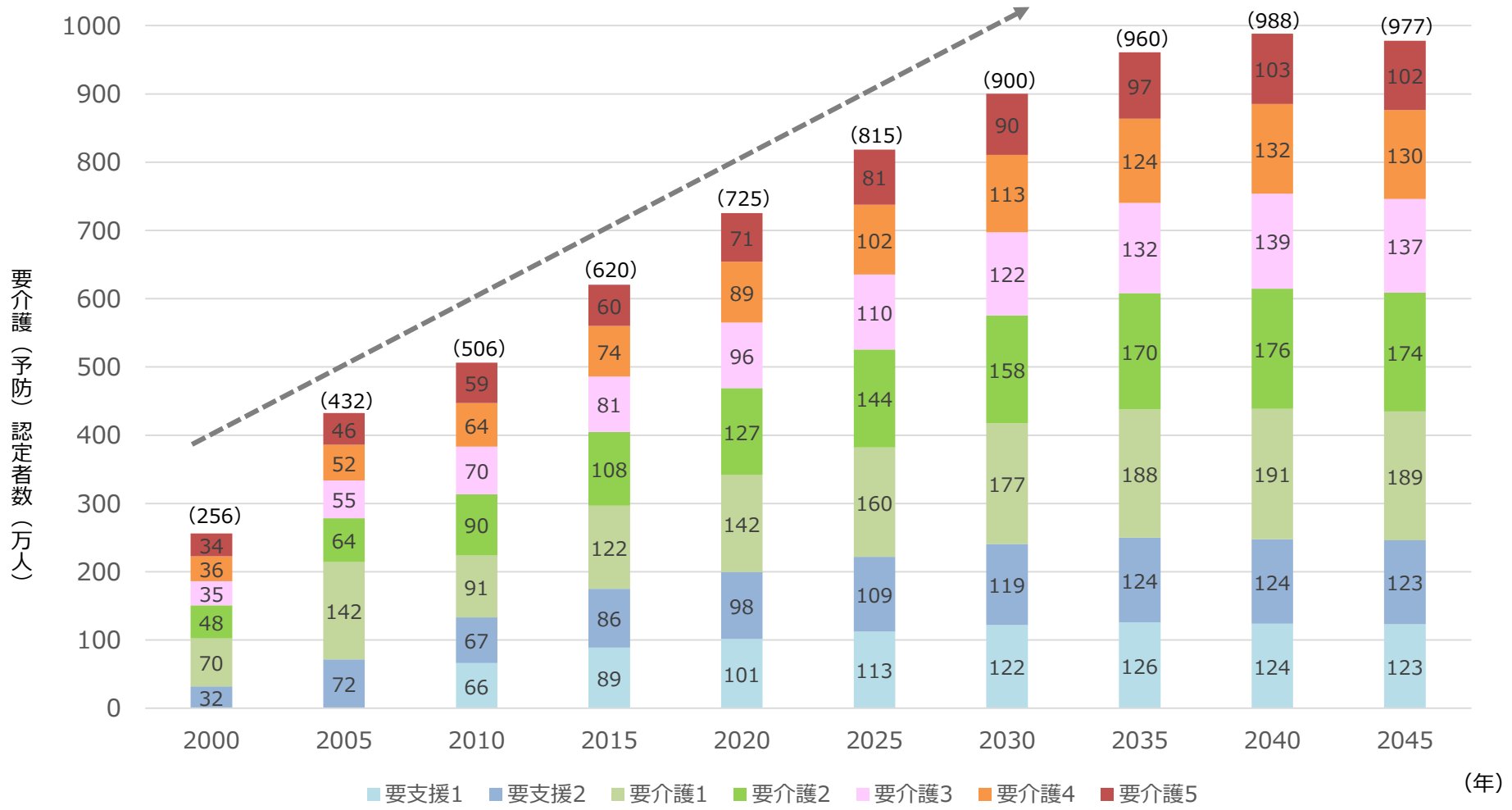
※経済産業省の推計であり、厚生労働省「2025年に向けた介護人材にかかる需給推計（確定値）について」の需要見込みの推計結果と異なる。

提言の概要

- 将来にわたって必要な介護サービスを確保していくためには、
 - ・介護機器・I T等を活用した介護サービスの質・生産性向上
 - ・地域ごとの介護需要の密度や介護従事者数に即した介護サービス提供体制の構築
 - ・高齢者を支える機能の構築を、総合的に進めていくことが必要。
- 2035年に68万人不足すると考えられる介護職員は、
 - ・機器・I Tの導入等による労働時間・労働負荷の軽減（人材需要▲51万人）
 - ・機器導入・処遇改善等による離職率低下（人材供給+8万人）
 - ・高齢者などの潜在的なリソースの活躍（人材供給+9万人）等によって克服することが可能。

要介護（要支援）認定者の将来推計

● 高齢化の進展に伴い、要介護（要支援）の認定者数は、制度開始（平成12年度）以降、年々増加の傾向。我が国全体でみると、2035年頃まで、増加のペースは緩まない見込み。



※2000年度、2005年度は、要支援が1段階しかなく、要支援2には現行の要支援1相当の者も含まれる。

(出典) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成29年推計）」、総務省「人口推計（平成28年）」、厚生労働省「平成27年度介護給付費実態調査」統計表第3表 平成27年11月審査分より経済産業省作成

資料 6. 理学療法士とは

① (書類等の題名)

設置の趣旨等を記載した書類 添付資料
資料 6. 理学療法士とは 全 1 ページ

② (出典)

公益財団法人 日本理学療法士協会

③ (引用範囲)

<http://www.japanpt.or.jp/general/aim/physicaltherapist/>

理学療法士になるには

「理学療法士とは」の項、冒頭の 2 文。

<参照 2019-6-26>

④ (その他の説明)

容易に分かるように、該当箇所にオレンジ色のマーカーを付けた。

以上

資料 7. 理学療法士国家試験合格者の推移

① (書類等の題名)

設置の趣旨等を記載した書類 添付資料

資料 7. 理学療法士国家試験合格者の推移 全 4 ページ

② (出典)

公益財団法人 日本理学療法士協会

③ (引用範囲)

<http://www.japanpt.or.jp/about/data/statistics/>

統計情報

理学療法士国家試験合格者の推移 表全体

<参照 2019-6-26>

④ (その他の説明)

容易に分かるように、表のタイトル、合格累計数の昭和 41 年度及び平成 31 年度の値にオレンジ色のマーカーを付けた。

以上

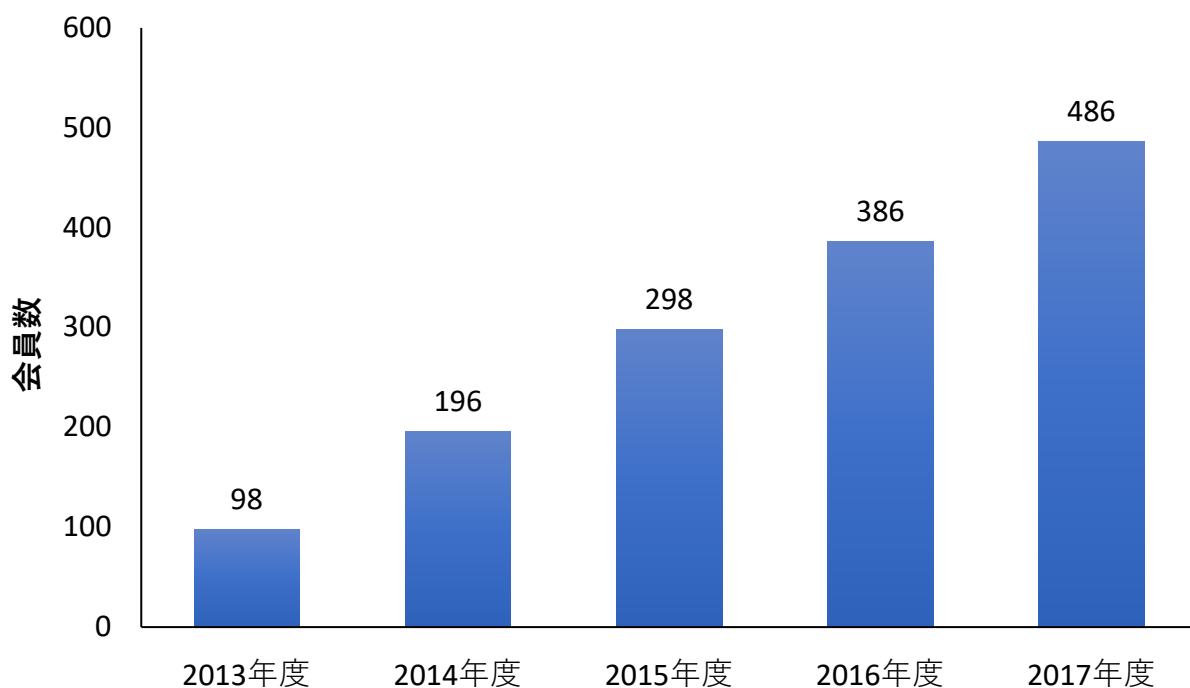


図. 地域包括支援センターに従事する日本理学療法士協会会員数の5年推移

理学療法白書2018（日本理学療法士協会編集）の98-99頁に掲載されている「日本理学療法士協会 施設区分毎の会員数と施設数の5年推移」のデータを基に本学が作成

資料 9. “日本理学療法士学会 組織”

① (書類等の題名)

設置の趣旨等を記載した書類 添付資料

資料 9. “日本理学療法士学会 組織” 全 1 ページ

② (出典)

公益財団法人 日本理学療法士協会

③ (引用範囲)

<http://jspt.japanpt.or.jp/about/organization/>

組織

④ (その他の説明)

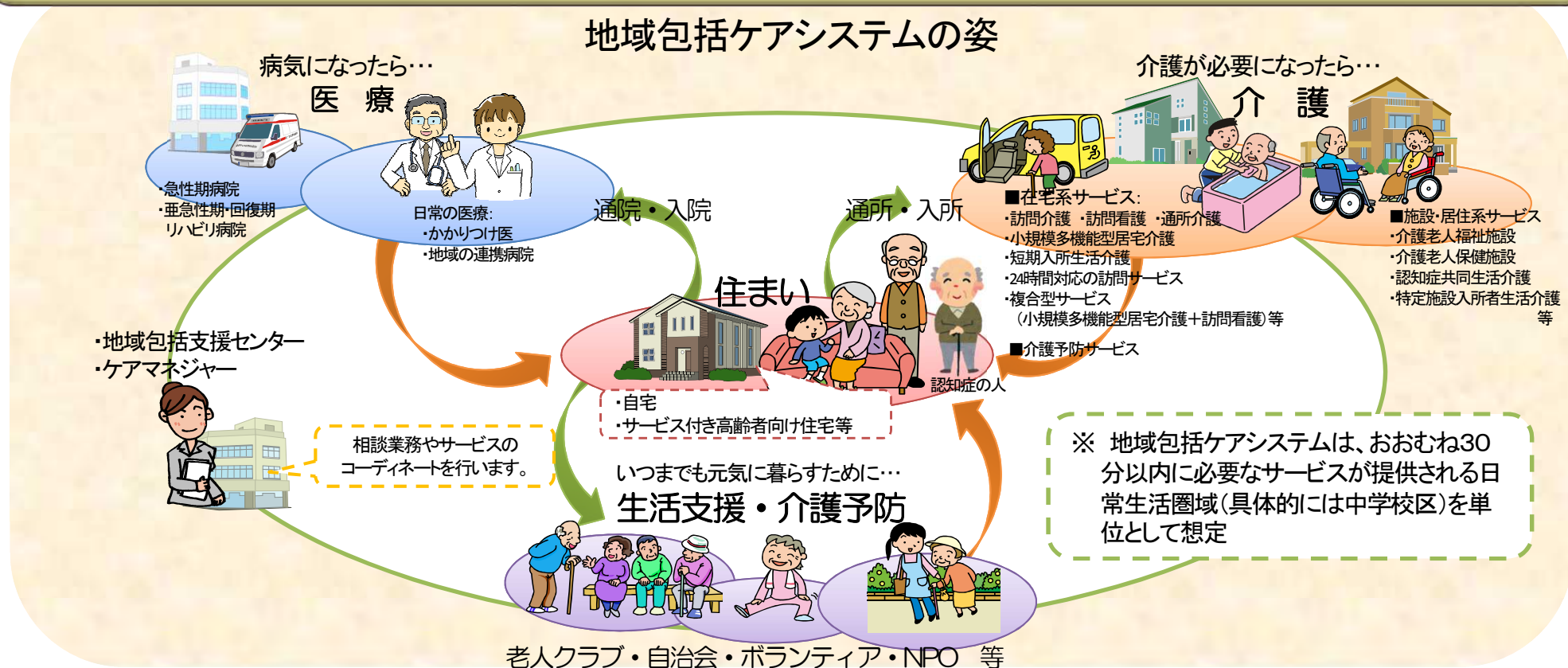
なし

以上

地域包括ケアシステム

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現**していきます。
- 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。
- 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差**が生じています。

地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていく**ことが必要です。



○ 文部科学省
厚生労働省 令第四号

理学療法士及び作業療法士法（昭和四十年法律第百三十七号）第十四条の規定に基づき、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則の一部を改正する省令を次のように定める。

平成三十年十月五日

文部科学大臣 柴山 昌彦

厚生労働大臣 根本 匠

理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則の一部を改正する省令

理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則（昭和四十一年 文部省
厚生省 令第三号）の一部を次の表のように改

正する。

改正後	改正前
<p>(理学療法士に係る学校又は養成施設の指定基準)</p> <p>第二条 法第十一条第一号の学校又は養成施設に係る令第九条第一項の主務省令で定める基準は、次のとおりとする。</p> <p>一～四 (略)</p> <p>五 理学療法士である専任教員は、次に掲げる者のいずれかであること。ただし、当該専任教員が免許を受けた後五年以上理学療法に関する業務に従事した者であつて、学校教育法に基づく大学(短期大学を除く。次条第一項第四号において「大学」という。)において教育学に関する科目を四単位以上修め、当該大学を卒業したもの又は免許を受けた後三年以上理学療法に関する業務に従事した者であつて、学校教育法に基づく大学院において教育学に関する科目を四単位以上修め、当該大学院の課程を修了したものである場合は、この限りでない。</p> <p>イ 免許を受けた後五年以上理学療法に関する業務に従事した者であつて、厚生労働大臣の指定する講習会を修了したもの</p> <p>ロ イに掲げる者と同等以上の知識及び技能を有する者</p> <p>六～十二 (略)</p> <p>2 (略)</p> <p>(作業療法士に係る学校又は養成施設の指定基準)</p> <p>第三条 法第十二条第一号の学校又は養成施設に係る令第九条第一項の主務省令で定める基準は、次のとおりとする。</p> <p>一～三 (略)</p> <p>四 作業療法士である専任教員は、次に掲げる者のいずれかであること。ただし、当該専任教員が免許を受けた後五年以上作業療法に関する業務に従事した者であつて、大学において教育学に関する科目を四単位以上修め、当該大学を卒業したもの又は</p>	<p>(理学療法士に係る学校又は養成施設の指定基準)</p> <p>第二条 法第十一条第一号の学校又は養成施設に係る令第九条第一項の主務省令で定める基準は、次のとおりとする。</p> <p>一～四 (略)</p> <p>五 理学療法士である専任教員は、免許を受けた後五年以上理学療法に関する業務に従事した者であること。</p> <p>六～十二 (略)</p> <p>2 (略)</p> <p>(作業療法士に係る学校又は養成施設の指定基準)</p> <p>第三条 法第十二条第一号の学校又は養成施設に係る令第九条第一項の主務省令で定める基準は、次のとおりとする。</p> <p>一～三 (略)</p> <p>四 作業療法士である専任教員は、免許を受けた後五年以上作業療法に関する業務に従事した者であること。</p>

免許を受けた後三年以上作業療法に関する業務に従事した者であつて、学校教育法に基づく大学院において教育学に関する科目を四単位以上修め、当該大学院の課程を修了したものである場合は、この限りでない。

- イ 免許を受けた後五年以上作業療法に関する業務に従事した者であつて、厚生労働大臣の指定する講習会を修了したものが、イに掲げる者と同等以上の知識及び技能を有する者
- 2 (略)

(指定の申請書の記載事項等)

第四条 令第十条の申請書には、次に掲げる事項（地方公共団体（地方独立行政法人法（平成十五年法律第百十八号）第六十八条第一項に規定する公立大学法人を含む。）の設置する学校又は養成施設にあつては、第十二号に掲げる事項を除く。）を記載しなればならない。

- 一 九 (略)
- 十 実習施設の名称、位置及び開設者の氏名（法人にあつては、名称）、当該施設における実習用設備の概要並びに実習指導者の氏名及び履歴
- 十一・十二 (略)
- 2・3 (略)

(変更の承認又は届出を要する事項)

第五条 (略)

- 2 令第十一条第二項の主務省令で定める事項は、前条第一項第一号から第三号までに掲げる事項、同項第五号に掲げる事項（修業年限、教育課程及び入学定員又は入所定員に関する事項を除く。次項において同じ。）、同条第一項第七号に掲げる事項又は同項第十号に掲げる事項（実習指導者に関する事項に限る。次項において同じ。）とする。

- 3 令第十六条の規定により読み替えて適用する令第十一条第二項

- 2 (略)

(指定の申請書の記載事項等)

第四条 令第十条の申請書には、次に掲げる事項（地方公共団体（地方独立行政法人法（平成十五年法律第百十八号）第六十八条第一項に規定する公立大学法人を含む。）の設置する学校又は養成施設にあつては、第十二号に掲げる事項を除く。）を記載しなればならない。

- 一 九 (略)
- 十 実習施設の名称、位置及び開設者の氏名（法人にあつては、名称）並びに当該施設における実習用設備の概要
- 十一・十二 (略)
- 2・3 (略)

(変更の承認又は届出を要する事項)

第五条 (略)

- 2 令第十一条第二項の主務省令で定める事項は、前条第一項第一号から第三号までに掲げる事項又は同項第五号に掲げる事項（修業年限、教育課程及び入学定員又は入所定員に関する事項を除く。次項において同じ。）とする。

- 3 令第十六条の規定により読み替えて適用する令第十一条第二項

の主務省令で定める事項は、前条第一項第二号若しくは第三号に掲げる事項、同項第五号に掲げる事項、同項第七号に掲げる事項又は同項第十号に掲げる事項とする。

別表第一（第二条関係）

専門分野	教育内容	単位数	備考
基礎理学療法学	科学的思考の基盤	14	
理学療法管理学	人間と生活		
理学療法評価学	社会の理解	12	
理学療法治療学	人体の構造と機能及び心身の発達		
地域理学療法学	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	14	栄養、薬理、医用画像、救急救命及び予防の基礎を含む。
臨床実習	保健医療福祉とリハビリテーションの理念		
		26	職場管理、理学療法教育及び職業倫理を含む。
		20	医用画像の評価を含む。
		3	喀痰等の吸引を含む。
		20	臨床実習前の評価及び臨床実習後の

の主務省令で定める事項は、前条第一項第二号若しくは第三号に掲げる事項又は同項第五号に掲げる事項とする。

別表第一（第二条関係）

専門分野	教育内容	単位数	備考
基礎理学療法学	科学的思考の基盤	14	
理学療法管理学	人間と生活		
理学療法評価学	社会の理解	12	
理学療法治療学	人体の構造と機能及び心身の発達		
地域理学療法学	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	12	(新設)
臨床実習	保健医療福祉とリハビリテーションの理念		
		6	(新設)
		5	(新設)
		20	(新設)
		4	実習時間の三分の二以上は病院又は
		18	

備考	
合	
計	
百一	
	<p>評価を含む。 実習時間の三分の二以上は医療提供施設（医療法（昭和二十三年法律第二百五号）第一条の第二項に規定する医療提供施設（薬局及び助産所を除く。）をいう。以下同じ。）において行うこと。 また、医療提供施設において行う実習時間のうち二分の一以上は病院又は診療所において行うこと。 通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションに関する実習を単位以上行うこと。</p>

一・二（略）
 三 複数の教育内容を併せて教授することが教育上適切と認められる場合において、臨床実習二十単位以上及び臨床実習以外の教育内容八十一単位以上（うち基礎分野十単位以上、専門基礎分野三十単位以上及び専門分野十七単位以上）であるときは、この表の教育内容ごとの

備考	
合	
計	
九十三	
	<p>診療所において行うこと。</p>

一・二（略）
 三 複数の教育内容を併せて教授することが教育上適切と認められる場合において、臨床実習十八単位以上及び臨床実習以外の教育内容七十五単位以上（うち基礎分野十単位以上、専門基礎分野二十六単位以上及び専門分野三十五単位以上）であるときは、この表の教育内容ごとの

単位数によらないことができる。

別表第一の二(第二条関係)

専門分野	教育内容	単位数	備考
基礎理学療法学 理学療法管理学		二 六	職場管理、理学療法教育及び職業倫理を含む。
理学療法評価学		六	医用画像の評価を含む。
理学療法治療学		二十	喀痰等の吸引を含む。
地域理学療法学 臨床実習		二十 三	臨床実習前の評価及び臨床実習後の評価を含む。 実習時間の三分の二以上は医療提供施設において行うこと。また、医療提供施設において行う実習時間のうち二分の一以上は病院又は診療所において行うこと。

通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションに関する実習を一つ単位以上行うこと。

の単位数によらないことができる。

別表第一の二(第二条関係)

専門分野	教育内容	単位数	備考
基礎理学療法学 (新設)		(新設) 六	(新設)
理学療法評価学		五	(新設)
理学療法治療学		二十	(新設)
地域理学療法学 臨床実習		十八 四	実習時間の三分の二以上は病院又は診療所において行うこと。

選択分野	九 専門分野を中心として講義又は実習を行うこと。
必修分野	
合計	六十六

備考 一・二 (略)
 三 複数の教育内容を併せて教授することが教育上適切と認められる場合において、臨床実習二十単位以上及び臨床実習以外の教育内容四十六単位以上(うち専門分野三十七単位以上及び選択必修分野九単位以上)であるときは、この表の教育内容ごとの単位数によらないことができる。

別表第二(第三条関係)

分野	教育内容	単位数	備考
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	十四	
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	十二 十四	
専門分野	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	四	栄養、薬理、医用画像、救急救命及び予防の基礎を含む。
専門分野	基礎作業療法学 作業療法管理学	五 二	自立支援、就労支援、地域包括ケアシステム及び多職種連携の理解を含む。
専門分野	基礎作業療法学 作業療法管理学	五 二	職場管理、作業療法教育及び職業倫

選択分野	九 専門分野を中心として講義又は実習を行うこと。
必修分野	
合計	六十二

備考 一・二 (略)
 三 複数の教育内容を併せて教授することが教育上適切と認められる場合において、臨床実習十八単位以上及び臨床実習以外の教育内容四十四単位以上(うち専門分野三十五単位以上及び選択必修分野九単位以上)であるときは、この表の教育内容ごとの単位数によらないことができる。

別表第二(第三条関係)

分野	教育内容	単位数	備考
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 (新設)	十四	
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	十二 十二	
専門分野	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	二	(新設)
専門分野	基礎作業療法学 (新設)	六	(新設)

備考 一・二 (略)	合	作業療法評価学 作業療法治療学 地域作業療法学 臨床実習	五 十九 四 二十二	理を含む。 医用画像の評価を 含む。 喀痰等の吸引を含 む。 臨床実習前の評価 及び臨床実習後の 評価を含む。 実習時間の三分の 二以上は医療提供 施設において行う こと。また、医療 提供施設において 行う実習時間のう ち二分の一以上は 病院又は診療所に おいて行うこと。 通所リハビリテー ション又は訪問リ ハビリテーション に関する実習を一 単位以上行うこと。
	計			
	百一			

三 複数の教育内容を併せて教授することが教育上適切と認められる場合において、臨床実習二十二単位以上及び臨床実習以外の教育内容七十九単位以上（うち基礎分野十四単位以上、専門基礎分野三十単位以上及び専門分野三十五単位以上）であるときは、この表の教育内容ごと

備考 一・二 (略)	合	作業療法評価学 作業治療学 地域作業療法学 臨床実習	五 二十 四 十八	(新設) (新設) 実習時間の三分の 二以上は病院又は 診療所において行 うこと。
	計			
	九十三			

三 複数の教育内容を併せて教授することが教育上適切と認められる場合において、臨床実習十八単位以上及び臨床実習以外の教育内容七十五単位以上（うち基礎分野十四単位以上、専門基礎分野二十六単位以上及び専門分野三十五単位以上）であるときは、この表の教育内容ごと

の単位数によらないことができる。

別表第二の二(第三条関係)

専門分野	教育内容	単位数	備考
基礎作業療法学 作業療法管理学		二五	職場管理、作業療法教育及び職業倫理を含む。
作業療法評価学		五	医用画像の評価を含む。
作業療法治療学		十九	喀痰等の吸引を含む。
地域作業療法学 臨床実習		二十四	臨床実習前の評価及び臨床実習後の評価を含む。
			実習時間の三分の二以上は医療提供施設において行うこと。また、医療提供施設において行う実習時間のうち二分の一以上は病院又は診療所において行うこと。
			通所リハビリテーション又は訪問リハビリテーションに関する実習を一つ以上行うこと。

の単位数によらないことができる。

別表第二の二(第三条関係)

専門分野	教育内容	単位数	備考
基礎作業療法学 (新設)		六 (新設)	(新設)
作業療法評価学		五 (新設)	(新設)
作業療法治療学		二十 (新設)	(新設)
地域作業療法学 臨床実習		十八 四	実習時間の三分の二以上は病院又は診療所において行うこと。

備考	分野		選択 必修 分野
	必修	選択	
一・二 (略) 三 複数の教育内容を併せて教授することが教育上適切と認められる場合において、臨床実習二十二単位以上及び臨床実習以外の教育内容四十四単位以上（うち専門分野三十五単位以上及び選択必修分野九単位以上）であるときは、この表の教育内容ごとの単位数によらないことができる。	合		九 専門分野を中心として講義又は実習を行うこと。
	計		
	六十六		

備考	分野		選択 必修 分野
	必修	選択	
一・二 (略) 三 複数の教育内容を併せて教授することが教育上適切と認められる場合において、臨床実習十八単位以上及び臨床実習以外の教育内容四十四単位以上（うち専門分野三十五単位以上及び選択必修分野九単位以上）であるときは、この表の教育内容ごとの単位数によらないことができる。	合		九 専門分野を中心として講義又は実習を行うこと。
	計		
	六十二		

附 則

(施行期日)

第一条 この省令は、平成三十二年四月一日から施行する。ただし、第二条第一項第五号及び第三条第一項第四号の改正規定は、平成三十四年四月一日から施行する。

(経過措置)

第二条 この省令の施行の際現に理学療法士及び作業療法士法（昭和四十年法律第三百三十七号）第十一条第一号若しくは第二条の指定を受けている学校若しくは理学療法士養成施設又は同法第十二条第一号若しくは第二条の指定を受けている学校若しくは作業療法士養成施設において理学療法士又は作業療法士として必要な知識及び技能を修得中の者に係る教育の内容については、この省令による改正後の理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則（次条において「新規則」という。）別表第一から別表第二の二までの規定にかかわらず、なお従前の例によることができる。

第三条 新規則別表第一から別表第二の二までに定める教育の内容について、理学療法士及び作業療法士法施行令（昭和四十年政令第三百二十七号。以下「令」という。）第九条第一項の指定又は令第十一条第一

項（令第十六条の規定により読み替えて適用する場合を含む。次項において同じ。）の変更の承認を受けようとするものは、この省令の施行の日前においても、これらの規定の例により、当該指定又は変更の承認の申請をすることができる。

2 文部科学大臣又は都道府県知事は、前項の申請があつた場合には、この省令の施行の日前においても、令第九条第一項又は第十一条第一項の規定の例により、指定又は変更の承認をすることができる。この場合において、当該指定及び変更の承認は、この省令の施行の日にその効力を生ずる。

第四条 新規則第二条第一項第五号又は第三条第一項第四号に規定する基準について、令第十一条第二項（令第十六条の規定により読み替えて適用する場合を含む。）の変更の届出をしようとするものは、附則第一条ただし書に規定する改正規定の施行の日前においても、同項の規定の例により、当該変更の届出をすることができる。

第五条 厚生労働大臣は、附則第一条ただし書に規定する改正規定の施行の日前においても、新規則第二条第一項第五号イ及び第三条第一項第四号イの指定をすることができる。



スポーツ振興基本計画 1総論

本計画は、平成13年度から概ね10年間で実現すべき政策目標を設定するとともに、その政策目標を達成するために必要な施策を示したものであるが、計画の開始から5年間の進捗状況等を踏まえ、今後の5年間の計画として全体の見直しを行ったものである。

I 総論

1. スポーツの意義

スポーツは、人生をより豊かにし、充実したものとするとともに、人間の身体的・精神的な欲求にこたえる世界共通の人類の文化の一つである。心身の両面に影響を与える文化としてのスポーツは、明るく豊かで活力に満ちた社会の形成や個々人の心身の健全な発達に必要不可欠なものであり、人々が生涯にわたってスポーツに親しむことは、極めて大きな意義を有している。

すなわち、スポーツは、体を動かすという人間の本源的な欲求にこたえとともに、爽快感、達成感、他者との連帯感等の精神的充足や楽しさ、喜びをもたらす、さらには、体力の向上や、精神的なストレスの発散、生活習慣病の予防など、心身の両面にわたる健康の保持増進に資するものである。特に、高齢化の急激な進展や、生活が便利になること等による体を動かす機会の減少が予想される21世紀の社会において、生涯にわたってスポーツに親しむことができる豊かな「スポーツライフ」を送ることは大きな意義がある。

また、スポーツは、人間の可能性の極限を追求する営みという意義を有しており、競技スポーツに打ち込む競技者のひたむきな姿は、国民のスポーツへの関心を高め、国民に夢や感動を与えるなど、活力ある健全な社会の形成にも貢献するものである。

更に、スポーツは、社会的に次のような意義も有し、その振興を一層促進していくための基盤の整備・充実を図ることは、従前にも増して国や地方公共団体の重要な責務の一つとなっている。

ア スポーツは、青少年の心身の健全な発達を促すものであり、特に自己責任、克己心やフェアプレイの精神を培うものである。また、仲間や指導者との交流を通じて、青少年のコミュニケーション能力を育成し、豊かな心と他人に対する思いやりをはぐくむ。さらに、様々な要因による子どもたちの精神的なストレスの解消にもなり、多様な価値観を認めあう機会を与えるなど、青少年の健全育成に資する。

イ スポーツを通じて住民が交流を深めていくことは、住民相互の新たな連携を促進するとともに、住民が一つの目標に向い共に努力し達成感を味わうことや地域に誇りと愛着を感じることに、地域の一体感や活力が醸成され、人間関係の希薄化などの問題を抱えている地域社会の再生にもつながるなど、地域における連帯感の醸成に資する。

ウ スポーツを振興することは、スポーツ産業の広がりとともに伴う雇用創出等の経済的効果を生み、我が国の経済の発展に寄与するとともに、国民の心身両面にわたる健康の保持増進に大きく貢献し、医療費の節減の効果等が期待されるなど、国民経済に寄与する。

エ スポーツは世界共通の文化の一つであり、言語や生活習慣の違いを超え、同一のルールの下で互いに競うことにより、世界の人々との相互の理解や認識を一層深めることができるなど、国際的な友好と親善に資する。

このように多様な意義を有する文化としてのスポーツは、現代社会に生きるすべての人々と

って欠くことのできないものとなっており、性別や年齢、障害の有無にかかわらず国民一人一人が自らスポーツを行うことにより心身ともに健康で活力ある生活を形成するよう努めることが期待される。

なお、人間とスポーツとのかかわりについては、スポーツを自ら行うことのほかに、スポーツをみて楽しむことやスポーツを支援することがある。スポーツをみて楽しむことは、スポーツの振興の面だけでなく、国民生活の質的向上やゆとりある生活の観点からも有意義である。また、スポーツの支援については、例えば、ボランティアとしてスポーツの振興に積極的にかかわりながら、自己開発、自己実現を図ることを可能とする。人々は、このようにスポーツへの多様なかかわりを通じて、生涯にわたる豊かなスポーツライフを実現していくのである。従って、スポーツへの多様なかかわりについても、その意義を踏まえ、促進を図っていくことが重要である。

2. 計画のねらい

我が国においては、年間労働時間の短縮や学校週5日制の実施等による自由時間の増大、仕事中心から生活重視への国民の意識の変化などにより、主体的に自由時間を活用し、精神的に豊かなライフスタイルを構築したいという要望が年々強まっている。

しかしながら、一方では、科学技術の高度化、情報化等の進展により、人間関係が希薄となり、精神的なストレスが増大したり、日常生活において体を動かす機会が減少し、体力が低下したりするなどの心身両面にわたる健康上の問題が顕在化してきている。中でも、次代を担う子どもが体力が低下傾向にあることは、将来の明るく豊かで活力ある社会の形成にとって、極めて憂慮すべきことである。

また、我が国は、平均寿命の伸長と出生率の長期的な低下という少子・高齢化に直面しており、2050年(平成62年)には、ほぼ3人に1人が65歳以上のいわゆる老年人口となることが予測されている。このような社会において国民が全体として生涯にわたり健康的で明るく、活力ある生活を送ることが、個々の国民の幸福にとどまらず社会全体の活力の維持のためにも強く求められている。

このような社会環境の変化に伴い、国民のスポーツの実施目的、実施内容も高度化・多様化し、行政や関係団体等に求められる内容も変化してきている。

一方、アテネ夏季オリンピック競技大会にみられるように、我が国のトップレベルの競技者の世界の舞台での活躍は、国民に大きな夢と感動を与えるものであり、今後の国際競技大会における活躍への期待も年々高まっている。

このような状況の中、現代社会におけるスポーツの果たす意義、役割を考えたとき、国民のスポーツへの主体的な取り組みを基本としつつ、国民のニーズや期待に適切にこたえ、国民一人一人がスポーツ活動を継続的に実践できるような、また、競技力の向上につながるようなスポーツ環境を整備することは、国、地方公共団体の重要な責務である。こうしたスポーツ振興施策を効果的・効率的に実施するに当たっては、施策の定期的な評価・見直しを行いつつ、中・長期的な見通しに立って、スポーツの振興をめぐる諸課題に体系的・計画的に取り組むことが求められている。

本計画は、このような視点から、スポーツの機会を提供する公的主体及び民間主体と、利用する住民や競技者が一体となった取り組みを積極的に展開し、一層のスポーツ振興を図ることにより、21世紀における明るく豊かで活力ある社会の実現を目指すものである。

3. 計画の主要な課題

本計画においては、上に述べたような「ねらい」を踏まえ、今後のスポーツ行政の主要な課題として次のものを掲げ、その具体化を図ることとする。

- (1) スポーツの振興を通じた子どもの体力の向上方策
- (2) 生涯スポーツ社会の実現に向けた、地域におけるスポーツ環境の整備充実方策

(3) 我が国の国際競技力の総合的な向上方策

また、地方公共団体において、本計画を考慮しながら地方の実情に即したスポーツの振興に関する計画を定めることとなっているが、これらの計画とあいまって、スポーツ振興のための各種施策を総合的かつ積極的に推進していくこととする。

なお、これらの施策の実施に当たっては、国や地方公共団体における連携はもとより、スポーツ団体相互の連携の促進に努めるとともに、公的主体と民間主体との間の役割分担にも配慮しつつ、スポーツ団体や国民各層に対して積極的に各種施策を周知するなど効果的な推進に努めていくこととする。

4. 計画の性格

本計画は、スポーツ振興法に基づいて、長期的・総合的な視点から国が目指す今後のスポーツ振興の基本的方向を示すものであると同時に、地方公共団体にとっては、地方の実情に即したスポーツ振興施策を主体的に進める上での参考指針となるものである。現在、個性豊かで活力に満ちた地域社会を実現すること等を基本として、地域の特性を生かしつつ、魅力ある地域づくりを進めている各地方公共団体においては、自らの選択と責任に基づく主体的な地域づくりの一環として、創意と工夫を凝らしたスポーツ振興施策を推進することが期待される。

また、民間のスポーツ団体においては、本計画で示された基本的なスポーツ振興の方向を踏まえて、各団体に期待される役割に応じ、その事業活動の強化を積極的に図るとともに、必要な組織体制の充実に努めることが望まれる。

5. 計画の実施

(1) 計画の期間等

本計画は、平成13年度から概ね10年間で実現すべき政策目標を設定するとともに、その政策目標を達成するために必要な施策を示したものである。

本計画に基づく施策の実施に際しては、適宜その進捗状況の把握に努めるものとする。

(2) 本計画に掲げる施策の推進に必要な財源の確保

本計画に掲げる施策の推進に当たっては、スポーツ振興のための財源確保が重要である。このうち国が推進すべき施策に必要な財源については、予算措置以外に、平成2年にはスポーツ振興基金が設立されたところであるが、更に平成10年には、スポーツ振興投票を通じてスポーツの振興のために必要な資金を得ることを目的としたスポーツ振興投票制度が成立するなど、多様な財源確保のための取組みが行われてきている。

スポーツ振興投票を実施して得られる収益は、身近な場所で気軽にスポーツに親しむことのできるような地域のスポーツ環境づくりや、トップレベルで活躍できる競技者を発掘するなどの環境づくり、また、スポーツ振興基金からは、トップレベルの競技者の競技力向上に資するような事業など、我が国におけるスポーツの一層の振興を図るために行う各種の事業に対して助成することとされている。

本計画に掲げる国の施策の推進に必要な資金の充実のため、財政事情等を考慮しつつ、スポーツ振興のために必要な予算措置等について今後ともその充実に努めるとともに、スポーツ振興投票の収益確保をはじめ、引き続き多様な財源確保のための取組に努めることとする。

また、上に述べた多様な財源の配分に当たっては、各種財源の役割を明確にしつつ、これらの財源を効率的に活用するよう努めるものとする。

[次のページへ](#)

第2期スポーツ基本計画のポイント

スポーツ基本計画・・・スポーツ基本法(2011(平成23)年公布・施行)に基づき、文部科学大臣が定める計画。第2期は2017(平成29)年度～2021(平成33)年度。



ポイント1
スポーツの価値を具現化し発信。
スポーツの枠を超えて異分野と積極的に連携・協働。

～スポーツが変える。未来を創る。Enjoy Sports, Enjoy Life～

1 「する」「みる」「ささえる」
スポーツ参画人口の拡大

スポーツ実施率(週1)
42% ⇒ **65%**

スポーツをする時間を持ちたいと思う中学生
58% ⇒ **80%**

「人生」が変わる！
スポーツで人生を健康で生き生きとしたものにできる。

「社会」を変える！
共生社会、健康長寿社会の実現、経済・地域の活性化に貢献できる。

「世界」とつながる！
多様性を尊重する世界
持続可能で逆境に強い世界
クリーンでフェアな世界
に貢献できる。

2
スポーツを通じた活力があり絆の強い社会の実現

障害者のスポーツ実施率(週1)
19% ⇒ **40%**

スポーツを通じた健康増進
女性の活躍促進

「未来」を創る！

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会等を好機として、スポーツで人々がつながる国民運動を展開し、レガシーとして「**一億総スポーツ社会**」を実現する。

スポーツ市場規模の拡大
5.5兆円 ⇒ **15兆円** (2025年)

スポーツツーリズムの関連消費額
2,204億円 ⇒ **3,800億円**

戦略的な国際展開
100か国以上1,000万人以上にスポーツで貢献
2020年東京大会等の円滑な開催

ポイント2
数値を含む成果指標を第1期計画に比べ大幅に増加(8⇒20)。

3 国際競技力の向上
オリンピック・パラリンピックにおいて過去最高の金メダル数を獲得する等優秀な成績を収められるよう支援

中長期の強化戦略に基づく支援
次世代アスリートの発掘・育成
スポーツ医・科学等による支援
ハイパフォーマンスセンター等の充実

4 クリーンでフェアなスポーツの推進
インテグリティ(誠実性・健全性・高潔性)を高める

コンプライアンスの徹底
スポーツ団体のガバナンス強化
ドーピング防止

ポイント3
障害者スポーツの振興やスポーツの成長産業化など、スポーツ庁創設後の重点施策を盛り込む。



医政医発 1127 第 3 号
平成 25 年 11 月 27 日

各都道府県医務主管部（局）長 殿

厚生労働省医政局医事課長



理学療法士の名称の使用等について（通知）

厚生労働省に設置されたチーム医療推進会議及びチーム医療推進方策検討ワーキンググループにおいて、本年 6 月から 10 月にかけて、医療関係団体から提出された医療関係職種の業務範囲の見直しに関する要望書について議論してきました。

この要望書における要望の 1 つとして、理学療法士が、介護予防事業等において身体に障害のない者に対して転倒防止の指導等を行うときに、理学療法士の名称を使用することの可否や医師の指示の要否について、現場の解釈に混乱がある実態に鑑み、理学療法の対象に、「身体に障害のおそれのある者」を追加してほしい旨の要望がありました（別添 1）。

これに対しては、本年 10 月 29 日に開催された第 20 回チーム医療推進会議において別添 2 のような方針が決定されたところですが、このような議論があったことを踏まえ、理学療法士の名称の使用等について、下記の事項を周知することとしましたので、その内容について十分御了知の上、関係者、関係団体等に対し周知徹底を図っていただきますようお願い申し上げます。

記

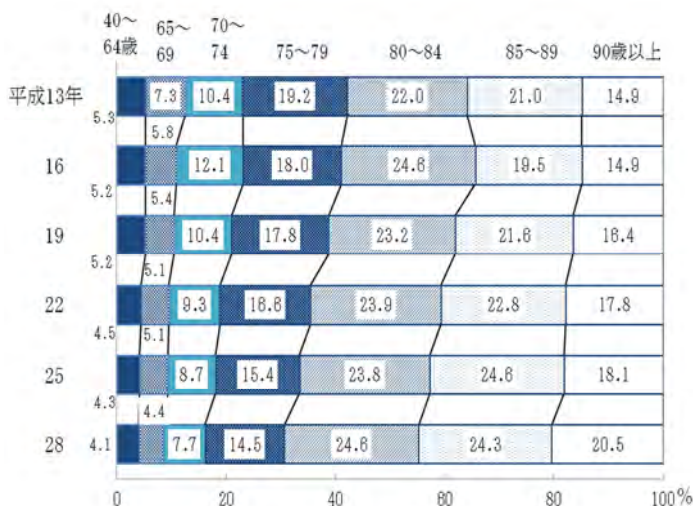
理学療法士が、介護予防事業等において、身体に障害のない者に対して、転倒防止の指導等の診療の補助に該当しない範囲の業務を行うことがあるが、このように理学療法以外の業務を行うときであっても、「理学療法士」という名称を使用することは何ら問題ないこと。

また、このような診療の補助に該当しない範囲の業務を行うときは、医師の指示は不要であること。

2 要介護者等の状況

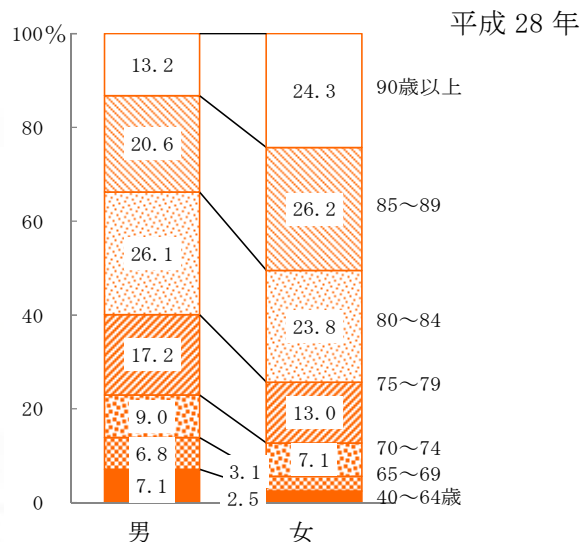
要介護者等（熊本県を除く。）の年齢を年次推移で見ると、年齢が高い階級が占める割合が上昇している。平成28年の要介護者等の年齢を性別にみると、男は「80～84歳」の26.1%、女は「85～89歳」の26.2%が最も多くなっている。（図33、34）

図33 要介護者等の年齢階級別構成割合の年次推移



注：平成28年の数値は、熊本県を除いたものである。

図34 性別にみた要介護者等の年齢階級別構成割合



注：熊本県を除いたものである。

介護が必要となった主な原因を要介護度別にみると、要支援者では「関節疾患」が17.2%で最も多く、次いで「高齢による衰弱」が16.2%となっている。要介護者では「認知症」が24.8%で最も多く、次いで「脳血管疾患（脳卒中）」が18.4%となっている。（表20）

表20 要介護度別にみた介護が必要となった主な原因（上位3位）

（単位：%）

平成28年

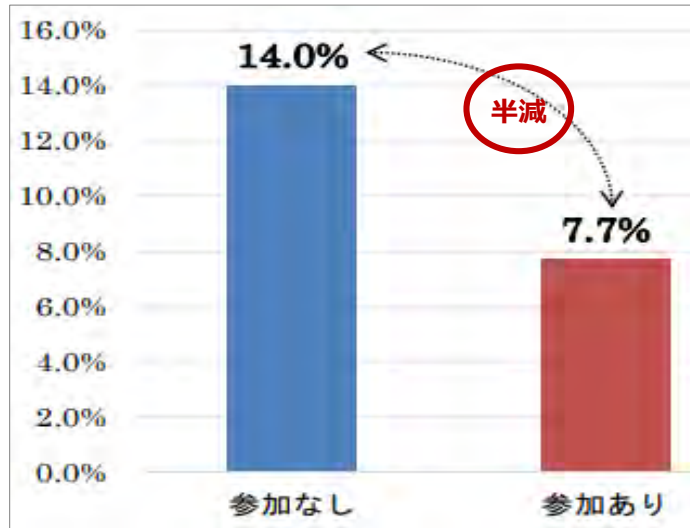
要介護度	第1位		第2位		第3位	
総数	認知症	18.0	脳血管疾患（脳卒中）	16.6	高齢による衰弱	13.3
要支援者	関節疾患	17.2	高齢による衰弱	16.2	骨折・転倒	15.2
要支援1	関節疾患	20.0	高齢による衰弱	18.4	脳血管疾患（脳卒中）	11.5
要支援2	骨折・転倒	18.4	関節疾患	14.7	脳血管疾患（脳卒中）	14.6
要介護者	認知症	24.8	脳血管疾患（脳卒中）	18.4	高齢による衰弱	12.1
要介護1	認知症	24.8	高齢による衰弱	13.6	脳血管疾患（脳卒中）	11.9
要介護2	認知症	22.8	脳血管疾患（脳卒中）	17.9	高齢による衰弱	13.3
要介護3	認知症	30.3	脳血管疾患（脳卒中）	19.8	高齢による衰弱	12.8
要介護4	認知症	25.4	脳血管疾患（脳卒中）	23.1	骨折・転倒	12.0
要介護5	脳血管疾患（脳卒中）	30.8	認知症	20.4	骨折・転倒	10.2

注：熊本県を除いたものである。

介護・認知症予防の可能性①

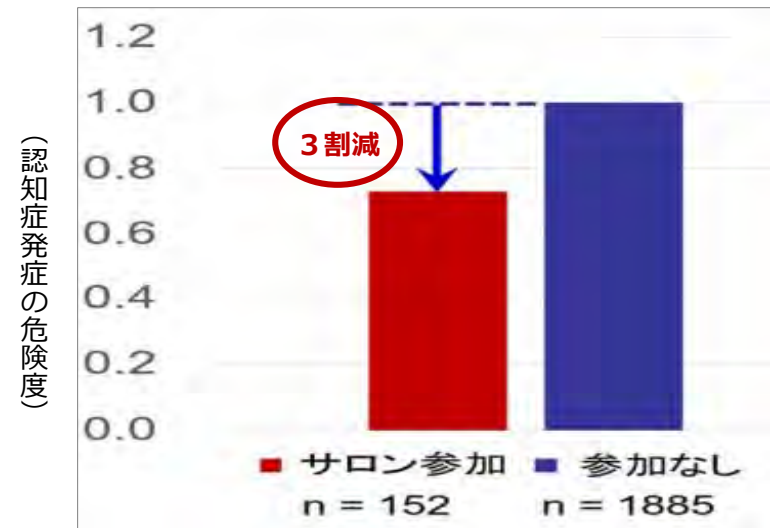
- 地域支援事業を活用した愛知県武豊町の予防事業では、サロンに参加した高齢者は、
①要介護認定率が約半減、②認知症発症リスクが約3割減との結果がある。

サロン参加と要介護認定率



- 65歳以上、2490人を5年間追跡調査（2007年～2012年）
- 参加あり321人、参加なし2178人（年3回以上参加した人を「参加者」と定義）

サロン参加と認知症発症



- 65歳以上、2593人を7年間追跡調査（2006年～2013年）
- 年4回以上参加した人を「参加者」と定義

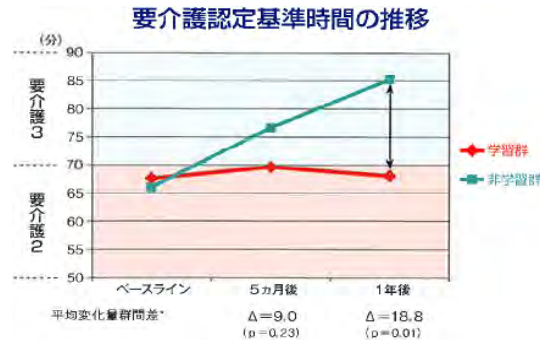
介護・認知症予防の可能性②

- 民間事業者による様々なプログラムやサービスの提供により、認知機能や運動機能の向上に効果が上がる事例が見られている。

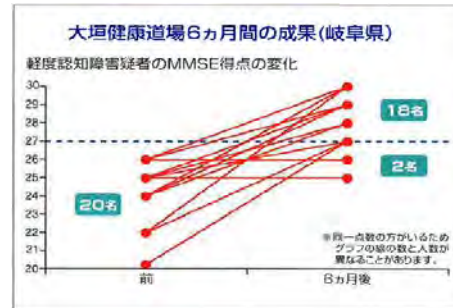
公文教育研究会

- 公文教育研究会は、天理市在住の高齢者20人を対象に、日本初となる認知症予防のSIB事業（成果連動型支払事業「脳の健康教室」）を実施。
- 要介護度の軽度化や認知機能の改善などに効果が見られた。

学習療法の実施により 要介護度の軽度化効果が得られた



軽度認知障害疑者 (MCI) の改善効果が得られた

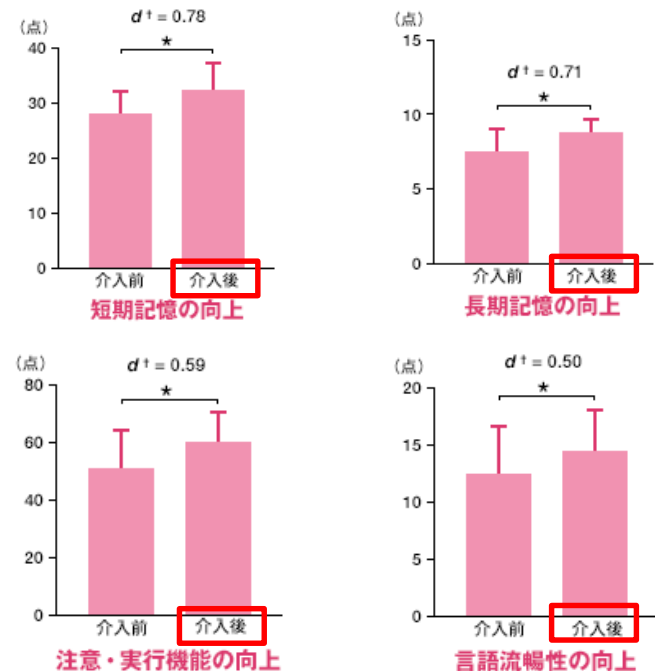


- ・軽度認知障害の疑いのある20名が半年間学習療法を実践。
- ・18名が正常（健常域）に戻った。

ルネサンス

- ルネサンスが提供する脳活性化メソッド「シナプソロジー®」では記憶力や言語流暢性の機能向上の可能性が示されている。

3か月間の継続実施/36~84歳の健常中高齢者を対象



資料 17. 理学療法士養成校一覧（2019 年度）

① （書類等の題名）

設置の趣旨等を記載した書類 添付資料

資料 17. 理学療法士養成校一覧（2019 年度） 全 8 ページ

② （出典）

公益財団法人 日本理学療法士協会

③ （引用範囲）

<http://www.japanpt.or.jp/general/aim/training/>

理学療法士養成校一覧（2019 年度）

<参照 2020-2-21>

④ （その他の説明）

なし

以上

資料 18. 都道府県別会員数

① (書類等の題名)

設置の趣旨等を記載した書類 添付資料

資料 18. 都道府県別会員数 全 3 ページ

② (出典)

公益財団法人 日本理学療法士協会

③ (引用範囲)

<http://www.japanpt.or.jp/about/data/statistics/>

都道府県別会員数

<参照 2019-6-26>

④ (その他の説明)

容易に分かるように、表のタイトル及び埼玉県の値にオレンジ色のマーカーを付けた。

以上

2-2 都道府県別人口と人口増減率

都道府県	国勢調査人口				人口増減率 (平成22 ~27年) (%)	平成29年推計人口		
	平成22年 (1,000人)	27年 (1,000人)	人口集中 地区 1)	人口密度 (人/km ²) 2)		総人口 (1,000人)	人口性比 (女性100 に対する 男性)	人口 増減率 (対前年) (人口1,000 につき)
全国	128,057	127,095	86,868	a)340.8	-0.8	126,706	94.8	-1.8
北海道	5,506	5,382	4,047	a)68.6	-2.3	5,320	89.1	-5.9
青森	1,373	1,308	610	135.6	-4.7	1,278	88.6	-11.6
岩手	1,330	1,280	408	83.8	-3.8	1,255	92.9	-10.4
宮城	2,348	2,334	1,495	320.5	-0.6	2,323	95.6	-2.9
秋田	1,086	1,023	358	87.9	-5.8	996	88.6	-14.0
山形	1,169	1,124	491	120.5	-3.9	1,102	92.9	-10.3
福島	2,029	1,914	816	138.9	-5.7	1,882	98.0	-9.7
茨城	2,970	2,917	1,113	478.4	-1.8	2,892	99.5	-4.3
栃木	2,008	1,974	892	308.1	-1.7	1,957	99.0	-4.6
群馬	2,008	1,973	788	310.1	-1.7	1,960	97.6	-3.8
埼玉	7,195	7,267	5,828	1,913.4	1.0	7,310	99.6	2.8
千葉	6,216	6,223	4,622	1,206.5	0.1	6,246	98.7	1.6
東京	13,159	13,515	13,295	6,168.7	2.7	13,724	97.1	7.3
神奈川	9,048	9,126	8,616	3,777.7	0.9	9,159	99.5	1.5
新潟	2,374	2,304	1,121	183.1	-3.0	2,267	94.0	-8.5
富山	1,093	1,066	403	251.0	-2.5	1,056	93.9	-5.0
石川	1,170	1,154	594	275.7	-1.3	1,147	94.1	-3.0
福井	806	787	346	187.7	-2.4	779	94.4	-4.9
山梨	863	835	261	187.0	-3.3	823	95.8	-7.7
長野	2,152	2,099	719	154.8	-2.5	2,076	95.1	-5.9
岐阜	2,081	2,032	776	191.3	-2.3	2,008	94.0	-6.7
静岡	3,765	3,700	2,216	475.8	-1.7	3,675	97.0	-3.3
愛知	7,411	7,483	5,802	1,446.7	1.0	7,525	100.1	2.4
三重	1,855	1,816	789	314.5	-2.1	1,800	95.0	-4.8
滋賀	1,411	1,413	702	351.7	0.2	1,413	97.4	-0.2
京都	2,636	2,610	2,181	566.0	-1.0	2,599	91.6	-2.4
大阪	8,865	8,839	8,456	4,639.8	-0.3	8,823	92.5	-1.0
兵庫	5,588	5,535	4,299	658.8	-1.0	5,503	91.1	-3.1
奈良	1,401	1,364	884	369.6	-2.6	1,348	89.2	-6.5
和歌山	1,002	964	359	203.9	-3.9	945	88.8	-9.6
鳥取	589	573	212	163.5	-2.6	565	91.5	-7.8
島根	717	694	168	103.5	-3.2	685	92.8	-7.3
岡山	1,945	1,922	897	270.1	-1.2	1,907	92.4	-3.9
広島	2,861	2,844	1,834	335.4	-0.6	2,829	94.2	-3.0
山口	1,451	1,405	691	229.8	-3.2	1,383	90.1	-8.2
徳島	785	756	247	182.3	-3.8	743	91.0	-9.1
香川	996	976	318	520.2	-2.0	967	94.0	-4.8
愛媛	1,431	1,385	733	244.1	-3.2	1,364	89.6	-7.9
高知	764	728	317	102.5	-4.7	714	89.1	-10.1
福岡	5,072	5,102	3,693	1,023.1	0.6	5,107	89.7	0.4
佐賀	850	833	262	341.2	-2.0	824	89.6	-5.5
長崎	1,427	1,377	661	333.3	-3.5	1,354	88.6	-9.3
熊本	1,817	1,786	854	241.1	-1.7	1,765	89.3	-5.0
大分	1,197	1,166	551	183.9	-2.5	1,152	89.9	-6.5
宮崎	1,135	1,104	509	142.7	-2.7	1,089	88.8	-6.7
鹿児島	1,706	1,648	663	179.4	-3.4	1,626	88.5	-7.1
沖縄	1,393	1,434	972	628.4	2.9	1,443	96.7	2.6

「国勢調査」「人口推計」(10月1日現在)による。1) 人口密度の高い基本単位区(人口密度が1km²当たり約4,000人以上)が市区町村の境域内で互いに隣接して、国勢調査時に人口5,000人以上を有する地域。2) 算出に用いた面積は、全国都道府県市区町村別面積調による。a) 齒舞群島, 色丹島, 国後島, 択捉島及び竹島を除き算出。

資料 総務省統計局「国勢調査結果」「人口推計」

資料 20. 第 7 次埼玉県地域保健医療計画

① (書類等の題名)

設置の趣旨等を記載した書類 添付資料

資料 20. 第 7 次埼玉県地域保健医療計画 全 1 ページ

② (出典)

埼玉県

③ (引用範囲)

https://www.pref.saitama.lg.jp/a0701/iryou-keikaku/documents/keikaku_7th_zenbun.pdf

第 7 次埼玉県地域保健医療計画 12 頁

<参照 2019-10-18>

④ (その他の説明)

なし

以上

資料 21. 第 7 次埼玉県高齢者支援計画

① (書類等の題名)

設置の趣旨等を記載した書類 添付資料

資料 21. 第 7 次埼玉県高齢者支援計画 全 3 ページ

② (出典)

埼玉県

③ (引用範囲)

<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0603/koureikeikaku/documents/dai7ki.pdf>

第 7 次埼玉県高齢者支援計画 5, 71, 76 頁

<参照 2019-10-18>

④ (その他の説明)

容易に分かるように、該当箇所にオレンジ色のマーカーを付けた。

以上

資料 22. 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士需給調査

① (書類等の題名)

設置の趣旨等を記載した書類 添付資料

資料 22. 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士需給調査 全 7 ページ

② (出典)

四病院団体協議会/厚生労働省

③ (引用範囲)

https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10801000-Iseikyoku-Soumuka/0000120212_6.pdf

第 2 回理学療法士・作業療法士需給分科会 資料 3

理学療法士・作業療法士・言語聴覚士需給調査 1, 2, 15, 16, 17, 28, 33 頁

<参照 2020-1-28>

④ (その他の説明)

なし。

以上

東京国際大学医療健康学部理学療法学科 カリキュラム・マップ

■ 養成する人材像

現代社会の問題を理学療法の視点から捉え、医療・福祉分野のみならず、健康増進・介護予防分野においても活躍できる人材

臨床理学療法分野	スポーツ理学療法分野	予防理学療法分野
一般病院、リハビリテーション病院等でエビデンスに基づいた知識と技術をもった理学療法士として、他職種と連携しながら地域医療に貢献できる人材を養成する。	スポーツ整形外科病院、スポーツトレーニング施設等で、障害の改善や競技スポーツ及び生涯スポーツの活動を支援できる人材を養成する。	介護保険サービスの事業所・施設、自治体、健康関連企業等で、介護予防、疾病予防、障害予防及び健康増進を目的とした理学療法を実践し、地域社会に貢献できる人材を養成する。

■ ディプロマポリシー (DP)

1 良好な人間関係を構築する上で必要なコミュニケーション能力を有し、人々に対して思いやりをもって接することができる。	2 理学療法士に求められる高い倫理観と道徳観を備えている。	3 理学療法を必要としている人々を生活者の視点で全人的に理解することができる。	4 理学療法に関する幅広い知識・技術を有しており、各専門職と連携しながら科学的根拠に基づく理学療法を実践することができる。	5 理学療法関連の諸科学の発展や理学療法士に求められる役割や知識・技術の変化に対応し、生涯にわたり学び続けることができる。	6 臨床理学療法、スポーツ理学療法、予防理学療法のいずれかの分野に関して、より専門性の高い知識・技術を有し、各分野の理学療法に貢献することができる。
--	-------------------------------	---	---	---	--

■ カリキュラムポリシー (CP)

1 基礎教育分野において、良好な人間関係構築に必要な基礎理論を修得した上で、少人数制の演習授業を通じて、人々に対して思いやりをもって接することができるようにする。	2 基礎教育分野及び専門教育分野の講義科目で、医療倫理及び理学療法倫理を学び、臨床実習科目で倫理原則の遵守を実践することで、理学療法士に求められる高い倫理観と道徳観を身につけられるようにする。	3 臨床実習科目において、理学療法を必要としている人々を身体・心理・社会的立場から理解できるようにする。	4 専門教育分野において、科学的根拠に基づく理学療法の実施に必要な知識・技能を修得できるようにする。	5 統計学や研究法に関する科目、少人数制の演習科目を通じて、専門職の生涯学習に必要な基本的な学修スキルおよび意欲・態度を身につけられるようにする。	6 理学療法士に求められる役割や知識・技術の変化に対応するために、近年ニーズが高まっている臨床理学療法、スポーツ理学療法、予防理学療法に関する選択科目を設ける。
---	--	--	--	---	--

科目例) 人間関係論 大学生活デザイン演習 基礎理学療法学演習Ⅰ・Ⅱ 理学療法学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 等	生命倫理学 医学一般Ⅰ リハビリテーション概論 理学療法学概論 理学療法管理学 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法 等	機能・能力評価学臨床実習 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ 等	専門教育分野 における全科目	基礎理学療法学 基礎理学療法学演習Ⅰ・Ⅱ 理学療法学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 理学療法学研究法 理学療法学研究実践法 等	臨床理学療法、スポーツ理学療法、予防理学療法に関する選択科目(※)から9単位以上履修する。
---	---	---	-------------------	---	---

■ カリキュラム

基礎教育分野	専門教育分野	
	専門基礎科目	専門科目
1年次 ICT基礎 大学生活デザイン演習 人間関係論 倫理学(選択科目) 生命倫理学 基礎統計学 Reading & Writing Oral communication	運動学 解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 解剖学Ⅲ 解剖学実習Ⅰ 解剖学実習Ⅱ 心身機能発達学 生理学Ⅰ 生理学Ⅱ 生理学実習	基礎理学療法学 基礎理学療法学演習Ⅰ 基礎理学療法学演習Ⅱ 生体観察と触診法 理学療法学概論
大学での学び方と幅広い教養を修得	運動解剖学 運動生理学 運動学実習	理学療法学特論※ 運動療法学 運動療法学実習 運動器理学療法学Ⅰ 運動器理学療法学実習Ⅰ 神経理学療法学Ⅰ 神経理学療法学実習Ⅰ 日常生活活動理学療法学 日常生活活動理学療法学実習 義肢装具学 義肢装具学演習 物理療法学 物理療法学実習 理学療法リスクマネジメント演習 理学療法学演習Ⅰ 理学療法学演習Ⅱ
2年次	医学一般Ⅰ 医学一般Ⅱ 栄養学 画像診断学 公衆衛生学 神経内科学Ⅰ 神経内科学Ⅱ 整形外科Ⅰ 整形外科Ⅱ 病理学 精神医学 臨床心理学	理学療法文献講読※ 理学療法臨床英語
3年次	救急救命医学 薬理学 疾病予防と健康増進※	地域理学療法学の知識・技能を修得
4年次	健康ビジネス論※ リハビリテーション医療及び社会福祉等に関する知識を修得	理学療法管理学 職場管理・職業倫理の知識を修得

科目区分 ■…基礎教育分野の科目 ■…人体の構造と機能及び心身の発達 ■…疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 ■…保健医療福祉とリハビリテーションの理念	■…基礎理学療法学 ■…地域理学療法学 ■…理学療法管理学	■…理学療法治療学 ■…理学療法評価学 ■…臨床実習	■…総合分野 ■…理学療法学研究実践法 ■…総合理学療法学
---	-------------------------------------	----------------------------------	-------------------------------------

1. 基礎教育分野

教育課程と指定規則との対比表						(理学療法士学校)(医療健康学部理学療法学科)										
指定規則の教育内容						別表第一(理学療法士課程)										
						基礎分野	専門基礎分野				専門分野			計		
区分	授業科目の名称	配当年度	単位数 必修 選択	1単位あたりの時間数	履修方法及び卒業要件	14	12	14	4	6	2	6	20	3	20	101
TUコア科目	ICT基礎	1前	2	15	必修科目4単位	○										
	大学生活デザイン演習	1前	2	15		○										
人間と文化	生命倫理学	1後	2	15		○										
	人間関係論	1前	2	15		○										
	哲学	1前・後	4	15		○										
	倫理学	1前・後	4	15	必修科目4単位 選択科目20単位	○										
	芸術論	1前・後	4	15		○										
	文化人類学	1前・後	4	15		○										
	Introduction to American Society	1後	4	15		○										
現代社会	法学	1前・後	4	15		○										
	憲法	1前・後	4	15		○										
	社会学	1前・後	4	15	選択科目20単位	○										
	現代の社会	1前・後	4	15		○										
自然環境と情報科学	基礎統計学	1後	2	15		○										
	環境と自然	1前・後	4	15	必修科目2単位 選択科目8単位	○										
健康とスポーツ	健康・スポーツ科学	1前・後	4	15		○										
	健康・スポーツ実技	1前・後	1	30	選択科目5単位	○										
英語	Oral Communication	1前	2	30	必修科目4単位	○										
	Reading & Writing	1後	2	30		○										
キャリア形成支援科目	インターンシップ(体験型)	1後	1	40		○										
	インターンシップ(実践学修型)	1後	3	40		○										
	ボランティア活動	1前	1	30	選択科目9単位	○										
	キャリア・Re-スタート	1後	2	15		○										
	地域の安全と警察	1後	2	15		○										
プロジェクト科目	観光まちおこしワークショップ入門	1前・後	2	30		○										
	観光まちおこしワークショップ実践A	1前・後	2	30	選択科目11単位	○										
	観光まちおこしワークショップ実践B	1前・後	2	30		○										
	観光まちおこしワークショップ実践C	1前・後	2	30		○										
	観光まちおこしプロジェクトA	2前・後	1	30	※必修科目の他、基礎教育分野の選択科目から4単位選択必修	○										
観光まちおこしプロジェクトB	2前・後	1	30		○											
観光まちおこしプロジェクトC	2前・後	1	30		○											
小計						18										

2. 専門基礎科目

教育課程						別表第一(理学療法士課程)										
指定規則の教育内容						別表第一(理学療法士課程)										
						基礎分野	専門基礎分野				専門分野			計		
区分	授業科目の名称	配当年度	単位数 必修 選択	1単位あたりの時間数	履修方法及び卒業要件	14	12	14	4	6	2	6	20	3	20	101
人間と文化	運動解剖学	2前	1	30		○										
	運動学	1後	1	30		○										
	運動学実習	2前	1	30		○										
	運動生理学	2前	1	30		○										
	解剖学 I	1前	1	30	必修科目13単位	○										
	解剖学 II	1後	1	30		○										
	解剖学 III	1後	1	30		○										
	解剖学実習 I	1前	1	30		○										
	解剖学実習 II	1後	1	30		○										
	心身機能発達学	1後	1	30		○										
	生理学 I	1前	1	30		○										
	生理学 II	1後	1	30		○										
	生理学実習	1後	1	30		○										
健康とスポーツ	医学一般 I	2前	1	30		○										
	医学一般 II	2後	1	30		○										
	栄養学	2前	1	30		○										
	画像診断学	2前	1	15		○										
	救急救命医学	3前	1	15		○										
	公衆衛生学	2前	1	30		○										
	疾病予防と健康増進	3前	2	15		○										
	神経内科学 I	2前	1	30	必修科目14単位 選択科目2単位	○										
	神経内科学 II	2後	1	30		○										
	整形外科 I	2前	1	30		○										
	整形外科 II	2後	1	30		○										
	精神医学	2前	1	30		○										
	病理学	2前	1	30		○										
薬理学	3前	1	30		○											
臨床心理学	2後	1	30		○											
健康とスポーツ	健康ビジネス論	4後	2	15		○										
	社会福祉概論	2前	1	15	必修科目4単位 選択科目2単位	○										
	地域包括ケアシステム論	3後	1	15		○										
	チーム医療論	3後	1	15		○										
	リハビリテーション概論	1前	1	15		○										
小計						31										

3. 専門科目

教育課程						別表第一(理学療法士課程)										
指定規則の教育内容						別表第一(理学療法士課程)										
						基礎分野	専門基礎分野				専門分野			計		
区分	授業科目の名称	配当年度	単位数 必修 選択	1単位あたりの時間数	履修方法及び卒業要件	14	12	14	4	6	2	6	20	3	20	101
基礎理学療法学	基礎理学療法学	1後	1	30		○										
	基礎理学療法学演習 I	1前	1	30		○										
	基礎理学療法学演習 II	1後	1	30		○										
	生体観察と触診法	1後	1	30	必修科目6単位 選択科目3単位	○										
	理学療法概論	1前	1	30		○										
	理学療法特論	2後	1	15		○										
	理学療法文献講読	3前	2	15		○										
	理学療法臨床英語	3後	1	30		○										
	理学療法管理	4後	2	15	必修科目2単位	○										
	機能・能力評価学 I	1後	2	15		○										
	機能・能力評価学実習 I	1後	1	30		○										
	機能・能力評価学 II	2前	2	15	必修科目8単位	○										
	機能・能力評価学実習 II	2前	1	30		○										
臨床運動分析学演習	2後	2	15		○											
理学療法評価学	ウイメンズヘルス・メンズヘルス理学療法	4後	1	30		○										
	運動器理学療法学 I	2後	1	30		○										
	運動器理学療法学実習 I	2後	1	30		○										
	運動器理学療法学 II	3前	1	30		○										
	運動器理学療法学実習 II	3前	1	30		○										
	運動療法学	1後	1	30		○										
	運動療法学実習	2前	1	30		○										
	義肢装具学	2後	1	15		○										
	義肢装具学演習	2後	1	30		○										
	クリニカル・リソースニング各論	3後	2	15		○										
	クリニカル・リソースニング各論	4後	2	15		○										
	障がい者スポーツ支援論	4後	2	15		○										
	小児理学療法学	3前	1	30		○										
神経・筋疾患理学療法学	3前	1	30		○											
スポーツレニング特論	4後	2	15		○											
理学療法治療学	スポーツ理学療法学	3前	2	15	必修科目27単位 選択科目14単位	○										
	スポーツ理学療法学演習	3前	2	15		○										
	神経理学療法学 I	2後	1	30		○										
	神経理学療法学実習 I	2後	1	30		○										
	神経理学療法学 II	3前	1	30		○										
	神経理学療法学実習 II	3前	1	30		○										
	疼痛理学療法学	3後	1	30		○										
	内部機能理学療法学 I	3前	1	30		○										
	内部機能理学療法学 II	3前	1	30		○										
	内部機能理学療法学実習	3前	1	30		○										
	日常生活活動理学療法学	2後	1	15		○										
	日常生活活動理学療法学実習	2後	1													

履修モデルⅠ（臨床理学療法）

一般病院、リハビリテーション病院等に就職することを希望する学生を対象として、「クリニカル・リーズニング総論」、「クリニカル・リーズニング各論」、「理学療法文献講読」、「臨床理学療法論」を設け、実践場面を意識しながら臨床能力の向上を図る。

	1年次春学期		1年次秋学期		2年次春学期		2年次秋学期		3年次春学期		3年次秋学期		4年次春学期		4年次秋学期		
	科目名	単位 必 選	科目名	単位 必 選	科目名	単位 必 選	科目名	単位 必 選	科目名	単位 必 選	科目名	単位 必 選	科目名	単位 必 選	科目名	単位 必 選	
基礎教育分野																	
TIUコア科目	ICT基礎	2 必															
	大学生生活デザイン演習	2 必															
人間と文化	人間関係論	2 必	生命倫理学	2 必													
	倫理学	4 選															
現代社会																	
自然科学と環境			基礎統計学	2 必													
健康とスポーツ																	
英語	Oral Communication	2 必	Reading & Writing	2 必													
キャリア形成支援科目																	
プロジェクト科目																	
専門教育分野																	
専門基礎科目																	
人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	1 必	運動学	1 必	運動解剖学	1 必											
	解剖学実習Ⅰ	1 必	解剖学Ⅱ	1 必	運動学実習	1 必											
	生理学Ⅰ	1 必	解剖学Ⅲ	1 必	運動生理学	1 必											
			解剖学実習Ⅱ	1 必													
			心身機能発達学	1 必													
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進			生理学Ⅱ	1 必													
			生理学実習（集中）	1 必													
					医学一般Ⅰ	1 必	医学一般Ⅱ	1 必	救急救命医学	1 必							
					栄養学	1 必	神経内科学Ⅱ	1 必	薬理学	1 必							
					画像診断学	1 必	整形外科Ⅱ	1 必									
					公衆衛生学	1 必	臨床心理学	1 必									
					神経内科学Ⅰ	1 必											
保健医療福祉とリハビリテーションの理念					整形外科Ⅰ	1 必											
					精神医学	1 必											
					病理学	1 必											
					社会福祉概論	1 必											
				リハビリテーション概論	1 必							地域包括ケアシステム論	1 必	チーム医療論	1 必		
専門科目																	
基礎理学療法学	基礎理学療法学演習Ⅰ	1 必	基礎理学療法学	1 必			理学療法学特論	1 選	理学療法文献講読	2 選	理学療法臨床英語（集中）	1 必					
	理学療法学概論	1 必	基礎理学療法学演習Ⅱ	1 必													
			生体観察と触診法	1 必													
理学療法管理学																理学療法管理学	2 必
理学療法評価学			機能・能力評価学Ⅰ	2 必	機能・能力評価学Ⅱ	2 必	臨床運動分析学演習	2 必									
			機能・能力評価学実習Ⅰ	1 必	機能・能力評価学実習Ⅱ	1 必											
理学療法治療学			運動療法学	1 必	運動療法学実習	1 必	運動器理学療法学Ⅰ	1 必	運動器理学療法学Ⅱ	1 必	疼痛理学療法学（集中）	1 必				ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法	1 必
					理学療法学演習Ⅰ	1 必	運動器理学療法学実習Ⅰ	1 必	運動器理学療法学実習Ⅱ	1 必	クリニカル・リーズニング総論	2 選				クリニカル・リーズニング各論	2 選
							義肢装具学	1 必	神経・筋疾患理学療法学	1 必						臨床理学療法論	2 選
							義肢装具学演習	1 必	小児理学療法学	1 必							
							神経理学療法学Ⅰ	1 必	神経理学療法学Ⅱ	1 必							
							神経理学療法学実習Ⅰ	1 必	神経理学療法学実習Ⅱ	1 必							
							日常生活活動理学療法学	1 必	内部機能理学療法学Ⅰ	1 必							
							日常生活活動理学療法学実習	1 必	内部機能理学療法学Ⅱ	1 必							
							物理療法学	1 必	内部機能理学療法学実習	1 必							
							物理療法学実習	1 必	理学療法学演習Ⅲ	1 必							
							理学療法学演習Ⅱ	1 必									
							理学療法 リスクマネジメント演習	1 必									
	地域理学療法学																
								予防理学療法学総論	1 必	生活環境支援理学療法学	1 必						
								地域理学療法学	1 必								
臨床実習								機能・能力評価学臨床実習	5 必			総合臨床実習Ⅰ	7 必	総合臨床実習Ⅱ	9 必		
総合分野												理学療法学研究法（集中）	1 必			総合理学療法学	2 必
①各学期修得単位（A）		18		20		17		24		16		15		9		9	
②臨床実習科目修得単位（B）		0		0		0		5		0		7		9		0	
③集中講義修得単位（C）		0		1		0		0		0		3		0		0	
④A-B-C		18		19		17		19		16		5		0		9	

（備考）各学期の履修上限単位数は20単位とする。ただし、臨床実習科目や集中講義等の授業期間外に修得する単位はこれに含めない。各学期修得単位（A）から臨床実習科目修得単位（B）と集中講義修得単位（C）を引いた結果から履修上限単位数以下であることを確認している。履修モデルにおける学期の表記については学則で定めている通り、春学期・秋学期で表記している。春学期・秋学期の区分は、「教育課程の概要」「教員名簿」「教員個人調査 担当予定授業科目」で示した前期・後期と同様の区分である。

履修モデルⅡ（スポーツ理学療法）

スポーツ整形外科関連の病院、スポーツトレーニング施設等に就職することを希望する学生を対象として、「スポーツ理学療法学」、「スポーツ理学療法学演習」、「スポーツトレーニング特論」、「障がい者スポーツ支援論」を設け、スポーツ理学療法の現場の実践場面を意識しながら臨床能力の向上を図る。

	1年次春学期			1年次秋学期			2年次春学期			2年次秋学期			3年次春学期			3年次秋学期			4年次春学期			4年次秋学期					
	科目名	単位	必選	科目名	単位	必選	科目名	単位	必選	科目名	単位	必選	科目名	単位	必選	科目名	単位	必選	科目名	単位	必選	科目名	単位	必選			
基礎教育分野																											
TIUコア科目	ICT基礎	2	必																								
	大学生生活デザイン演習	2	必																								
人間と文化	人間関係論	2	必	生命倫理学	2	必																					
	倫理学	4	選																								
現代社会																											
自然科学と環境				基礎統計学	2	必																					
健康とスポーツ																											
英語	Oral Communication	2	必	Reading & Writing	2	必																					
キャリア形成支援科目																											
プロジェクト科目																											
専門教育分野																											
専門基礎科目																											
人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	1	必	運動学	1	必	運動解剖学	1	必																		
	解剖学実習Ⅰ	1	必	解剖学Ⅱ	1	必	運動学実習	1	必																		
	生理学Ⅰ	1	必	解剖学Ⅲ	1	必	運動生理学	1	必																		
				解剖学実習Ⅱ	1	必																					
				心身機能発達学	1	必																					
				生理学Ⅱ	1	必																					
				生理学実習（集中）	1	必																					
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進							医学一般Ⅰ	1	必	医学一般Ⅱ	1	必	救急救命医学	1	必												
							栄養学	1	必	神経内科学Ⅱ	1	必	薬理学	1	必												
							画像診断学	1	必	整形外科Ⅱ	1	必															
							公衆衛生学	1	必	臨床心理学	1	必															
							神経内科学Ⅰ	1	必																		
							整形外科Ⅰ	1	必																		
							精神医学	1	必																		
							病理学	1	必																		
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	1	必				社会福祉概論	1	必										地域包括ケアシステム論	1	必						
																			チーム医療論	1	必						
専門科目																											
基礎理学療法学	基礎理学療法学演習Ⅰ	1	必	基礎理学療法学	1	必			理学療法学特論	1	選							理学療法臨床英語（集中）	1	必							
	理学療法学概論	1	必	基礎理学療法学演習Ⅱ	1	必																					
				生体観察と触診法	1	必																					
理学療法管理学																									理学療法管理学	2	必
理学療法評価学				機能・能力評価学Ⅰ	2	必	機能・能力評価学Ⅱ	2	必	臨床運動分析学演習	2	必															
				機能・能力評価学実習Ⅰ	1	必	機能・能力評価学実習Ⅱ	1	必																		
理学療法治療学				運動療法学	1	必	運動療法学実習	1	必	運動器理学療法学Ⅰ	1	必	運動器理学療法学Ⅱ	1	必	疼痛理学療法学（集中）	1	必						ウイメンズヘルス・メンズヘルス理学療法	1	必	
							理学療法学演習Ⅰ	1	必	運動器理学療法学実習Ⅰ	1	必	運動器理学療法学実習Ⅱ	1	必	スポーツ理学療法学演習	2	選					スポーツトレーニング特論	2	選		
										義肢装具学	1	必	神経・筋疾患理学療法学	1	必									障がい者スポーツ支援論	2	選	
										義肢装具学演習	1	必	小児理学療法学	1	必												
										神経理学療法学Ⅰ	1	必	神経理学療法学Ⅱ	1	必												
										神経理学療法学実習Ⅰ	1	必	神経理学療法学実習Ⅱ	1	必												
										日常生活活動理学療法学実習	1	必	内部機能理学療法学Ⅰ	1	必												
										日常生活活動理学療法学実習	1	必	内部機能理学療法学Ⅱ	1	必												
										物理療法学	1	必	内部機能理学療法学実習	1	必												
										物理療法学実習	1	必	理学療法学演習Ⅲ	1	必												
										理学療法学演習Ⅱ	1	必	スポーツ理学療法学	2	選												
										理学療法リスクマネジメント演習	1	必															
地域理学療法学													予防理学療法学総論	1	必	生活環境支援理学療法学	1	必									
													地域理学療法学	1	必												
臨床実習													機能・能力評価学臨床実習	5	必				総合臨床実習Ⅰ	7	必			総合臨床実習Ⅱ	9	必	
総合分野																			理学療法学研究法（集中）	1	必			総合理学療法学	2	必	
①各学期修得単位 (A)		18			20			17			24			16						15				9		9	
②臨床実習科目修得単位 (B)		0			0			0			5			0						7				9		0	
③集中講義修得単位 (C)		0			1			0			0			0						3				0		0	
④A-B-C		18			19			17			19			16						5				0		9	

(備考) 各学期の履修上限単位数は20単位とする。ただし、臨床実習科目や集中講義等の授業期間外に修得する単位はこれに含めない。各学期修得単位 (A) から臨床実習科目修得単位 (B) と集中講義修得単位 (C) を引いた結果から履修上限単位数以下であることを確認している。履修モデルにおける学期の表記については学則で定めている通り、春学期・秋学期で表記している。春学期・秋学期の区分は、「教育課程の概要」「教員名簿」「教員個人調査 担当予定授業科目」で示した前期・後期と同様の区分である。

履修モデルⅢ（予防理学療法）

介護保険サービスの事業所・施設、自治体、健康関連企業等に就職することを希望する学生を対象として、「疾病予防と健康増進」、「介護予防評価演習」、「予防理学療法各論」、「健康ビジネス論」を設け、予防理学療法分野で活躍するための知識・技能を培う。

	1年次春学期			1年次秋学期			2年次春学期			2年次秋学期			3年次春学期			3年次秋学期			4年次春学期			4年次秋学期			
	科目名	単位	必選	科目名	単位	必選	科目名	単位	必選	科目名	単位	必選	科目名	単位	必選	科目名	単位	必選	科目名	単位	必選	科目名	単位	必選	
基礎教育分野																									
TIUコア科目	ICT基礎	2	必																						
	大学生活デザイン演習	2	必																						
人間と文化	人間関係論	2	必	生命倫理学	2	必																			
	倫理学	4	選																						
現代社会																									
自然科学と環境				基礎統計学	2	必																			
健康とスポーツ																									
英語	Oral Communication	2	必	Reading & Writing	2	必																			
キャリア形成支援科目																									
プロジェクト科目																									
専門教育分野																									
専門基礎科目																									
人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学Ⅰ	1	必	運動学	1	必	運動解剖学	1	必																
	解剖学実習Ⅰ	1	必	解剖学Ⅱ	1	必	運動学実習	1	必																
	生理学Ⅰ	1	必	解剖学Ⅲ	1	必	運動生理学	1	必																
				解剖学実習Ⅱ	1	必																			
				心身機能発達学	1	必																			
				生理学Ⅱ	1	必																			
				生理学実習（集中）	1	必																			
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進							医学一般Ⅰ	1	必	医学一般Ⅱ	1	必	救急救命医学	1	必										
							栄養学	1	必	神経内科学Ⅱ	1	必	薬理学	1	必										
							画像診断学	1	必	整形外科Ⅱ	1	必	疾病予防と健康増進	2	選										
							公衆衛生学	1	必	臨床心理学	1	必													
							神経内科学Ⅰ	1	必																
							整形外科Ⅰ	1	必																
							精神医学	1	必																
							病理学	1	必																
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	1	必				社会福祉概論	1	必													健康ビジネス論	2	選	
専門科目																									
基礎理学療法学	基礎理学療法学演習Ⅰ	1	必	基礎理学療法学	1	必				理学療法学特論	1	選													
	理学療法学概論	1	必	基礎理学療法学演習Ⅱ	1	必																			
				生体観察と触診法	1	必																			
理学療法管理学																									
理学療法評価学				機能・能力評価学Ⅰ	2	必	機能・能力評価学Ⅱ	2	必	臨床運動分析学演習	2	必													
				機能・能力評価学実習Ⅰ	1	必	機能・能力評価学実習Ⅱ	1	必																
理学療法治療学				運動療法学	1	必	運動療法学実習	1	必	運動器理学療法学Ⅰ	1	必	運動器理学療法学Ⅱ	1	必	疼痛理学療法学（集中）	1	必					ウィメンズヘルス・メンズヘルス理学療法	1	必
							理学療法学演習Ⅰ	1	必	運動器理学療法学実習Ⅰ	1	必	運動器理学療法学実習Ⅱ	1	必										
										義肢装具学	1	必	神経・筋疾患理学療法学	1	必										
										義肢装具学演習	1	必	小児理学療法学	1	必										
										神経理学療法学Ⅰ	1	必	神経理学療法学Ⅱ	1	必										
										神経理学療法学実習Ⅰ	1	必	神経理学療法学実習Ⅱ	1	必										
										日常生活活動理学療法学	1	必	内部機能理学療法学Ⅰ	1	必										
										日常生活活動理学療法学実習	1	必	内部機能理学療法学Ⅱ	1	必										
										物理療法学	1	必	内部機能理学療法学実習	1	必										
										物理療法学実習	1	必	理学療法学演習Ⅲ	1	必										
										理学療法学演習Ⅱ	1	必													
										理学療法 リスクマネジメント演習	1	必													
地域理学療法学													予防理学療法学総論	1	必	生活環境支援理学療法学	1	必					予防理学療法学各論	2	選
													地域理学療法学	1	必	介護予防評価演習	2	選							
臨床実習													機能・能力評価学臨床実習	5	必	総合臨床実習Ⅰ	7	必					総合臨床実習Ⅱ	9	必
総合分野																									
①各学期修得単位 (A)		18			20			17			24			16			15						9		9
②臨床実習科目修得単位 (B)		0			0			0			5			0			7						9		0
③集中講義修得単位 (C)		0			1			0			0			0			3						0		0
④A-B-C		18			19			17			19			16			5						0		9

(備考) 各学期の履修上限単位数は20単位とする。ただし、臨床実習科目や集中講義等の授業期間外に修得する単位はこれに含めない。各学期修得単位 (A) から臨床実習科目修得単位 (B) と集中講義修得単位 (C) を引いた結果から履修上限単位数以下であることを確認している。履修モデルにおける学期の表記については学則で定めている通り、春学期・秋学期で表記している。春学期・秋学期の区分は、「教育課程の概要」「教員名簿」「教員個人調査 担当予定授業科目」で示した前期・後期と同様の区分である。

○東京国際大学専任教員任用資格基準

昭和 59 年 4 月 1 日 制定

最近改正 2018 年 4 月 1 日

(目的)

第 1 条 この規程は、東京国際大学専任教員の任用の資格基準について定めることを目的とする。

2 この規程における専任教員は、教授、准教授、専任講師、助教をいう。

3 前項の規定は専任教員に関する全ての規程に準用する。

(教授)

第 2 条 教授となることのできる者は、次の各号の一に該当し、教育研究上の能力があると認められる者とする。

- (1) 博士の学位(外国において授与されたこれに相当する学位を含む。)を有し、研究上の業績を有する者
- (2) 研究上の業績が前号の者に準ずると認められる者
- (3) 大学において、教授の経歴のある者
- (4) 大学において 5 年以上の准教授(これに該当する職位を含む。)の経歴があり、教育研究上の業績があると認められる者
- (5) 芸術体育等については、特殊の技能に秀で教育の経歴のある者
- (6) 専攻分野について、特に優れた知識及び経験を有し、教育研究上の能力があると認められる者

(准教授)

第 3 条 准教授となることのできる者は、次の各号の一に該当し、教育研究上の能力があると認められる者とする。

- (1) 前条に規定する教授となることのできる者
- (2) 大学において准教授(これに該当する職位を含む。)の経歴のある者
- (3) 大学において 3 年以上専任講師の経歴のある者
- (4) 芸術体育については、特殊の技能と学術に秀で、第 2 号及び第 3 号に準ずる教育の経歴があると認められる者
- (5) 研究所・試験場・調査所等に 5 年以上在籍し、研究上の業績があると認められる者
- (6) 専攻分野について、優れた知識及び経験を有する者

(専任講師)

第 4 条 専任講師となることのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 第 2 条又は第 3 条により、教授又は准教授となることのできる者
- (2) 大学院の博士課程を修了した者
- (3) 大学卒業後 5 年以上、修士の学位を有する者にあつては 3 年以上、助教(これに該当する職位を含む。)又はこれに準ずる職にあつた者

- (4) 経歴の如何にかかわらず教授、准教授に準ずる研究上の業績を挙げ、かつ教育上の能力があると認められる者

(助教)

第5条 助教の資格を有する者は、次の各号の一による。

- (1) 前条第2号及び第3号に掲げる者
- (2) 大学院の修士課程を修了した者

2 助教の任用期間は、5箇年を限度とする。ただし、全学人事委員会の議を経て、理事長が特に認める場合は、更に5箇年を限度として再任することがある。

(改廃)

第6条 この規程の改廃は、常務会の議を経て、理事長がこれを行う。

附 則

この規程は、昭和59年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、昭和63年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成4年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成7年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年5月28日から施行する。

附 則

この改正基準は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この改正基準は、2018年4月1日から施行する。

○東京国際大学専任教員定年規程

昭和 54 年 4 月 1 日

最近改正 2019 年 11 月 22 日

(目的)

第 1 条 この規程は、東京国際大学(以下「本学」という。)専任教員の定年に関する事項を定めることを目的とする。

(定年)

第 2 条 専任教員の定年は、満 70 歳とする。但し、定年年齢を個別に延長する必要がある場合又は定年年齢を超えた者を採用する場合、常務会の承認を得て変更することができる。

2 専任教員は、定年に達した日の属する学年末をもって退職するものとする。

(再雇用)

第 3 条 本学を定年退職した者を客員教員又は非常勤講師として再雇用することがある。

2 前項の再雇用の期間は本学客員教員規程又は本学非常勤講師規程の定めに従う。

(改廃権限)

第 4 条 この規程の改廃は、常務会の議を経て理事長がこれを行う。

附 則

この規程は、昭和 54 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

1 この規程は、昭和 58 年 4 月 1 日から施行する。

2 第 2 条の定年については、次の経過措置を取る。

生年月日	退職年月日
------	-------

明治 39 年 3 月 31 日以前	昭和 55 年 3 月 31 日
明治 39 年 4 月 1 日～明治 40 年 3 月 31 日	昭和 56 年 3 月 31 日
明治 40 年 4 月 1 日～明治 43 年 3 月 31 日	昭和 57 年 3 月 31 日
明治 43 年 4 月 1 日～明治 44 年 3 月 31 日	昭和 58 年 3 月 31 日
明治 44 年 4 月 1 日～大正 2 年 3 月 31 日	昭和 59 年 3 月 31 日
大正 2 年 4 月 1 日～大正 3 年 3 月 31 日	昭和 60 年 3 月 31 日

附 則

この規程は、昭和 63 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 8 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この改正規程は、2019 年 10 月 1 日から施行する。

附 則

この改正規程は、2019 年 12 月 1 日から施行する。

月曜日												
1時限 9:10-10:40	2時限 10:50-12:20	3時限 1:10-2:40	4時限 2:50-4:20	5時限 4:30-6:00	6時限 6:10-7:40	7時限 7:50-9:20						
授業科目名	教員名	授業科目名	教員名	授業科目名	教員名	授業科目名						
112	251			流通論	伊藤 匡美							
123	35					Principles of Marketing						
124	20 (16)	大学院	大学院	大学院	大学院	大学院						
125	117	International Trade	トトラ ラジョーン	先端メディア・テクノロジー特論	和田 仁	異文化間コミュニケーション						
131	40			Oral Communication	澤田 孝史	Oral Communication						
132	30			English Comprehension I	五十嵐 義行	アカデミック日本語I						
133	30			English Comprehension I	花岡 修	Oral Communication						
134	30			English Comprehension I	久保 誠	日本語教育方法論						
135	30					映像制作 I						
136	30	Digital Business Strategies	ラフマヤラ フレイ	プログラミング基礎	河村 一樹	ICT基礎						
137	30	Digital Business Strategies	ラフマヤラ フレイ	プログラミング基礎	河村 一樹	ICT基礎						
141	20			経営科学	張本 浩							
142	20			経営科学	張本 浩							
143	20			経営科学	張本 浩							
144	30			開発経済学	栗林 純夫	ICT基礎						
145	30			開発経済学	栗林 純夫	ICT基礎						
146	20			基礎演習	松村 敦子	アジア経済論						
147	20				栗林 純夫	アジア経済論						
152	30			データベース論	斐品 正照	ICT基礎						
153	30			データベース論	斐品 正照	ICT基礎						
154	30					ICT基礎						
155	30					ICT基礎						
221M	25											
222S	28											
231	80			Oral Communication	フレイクランソン	国際資源論						
232	250	マーケティング論	平本 いくみ	製品ブランド論	平本 いくみ	日本の文化						
233	80			情報政策論	上原 伸元	ソーシャルメディア・コミュニケーション						
234	80	AI & Machine Learning for Decision Making	カスカルー バラジ	Oral Communication	フレイクランソン	第二言語習得論						
241	80	Chinese Politics and Foreign Policy	李克賢	Theories of International Relations	グリンバーク	Comparative Culture						
242	80	Issues in Popular Culture	グリンバーク	Finance	チン ショウジ	Maritime Safety and Security						
243	80			International Environmental Policy	シムソン スターボック	Political Economy of East Asia						
244	80					比較文学						
245	20	GTI	GTI	GTI	GTI	中国の古典						
246	20	GTI	GTI	GTI	GTI	Advanced Speaking and Listening B						
247	20	GTI	GTI	GTI	GTI	Advanced Speaking and Listening B						
248	20	GTI	GTI	GTI	GTI	Advanced Speaking and Listening B						
251	30	基礎演習	松本 博樹	English for Tourism	チムソン スターボック	Current Topics						
252	30	GTI	GTI	GTI	GTI	専門演習						
253	30	GTI	GTI	GTI	GTI	専門演習						
254	30	GTI	GTI	GTI	GTI	Dilemmas of Development						
255	30	GTI	GTI	GTI	GTI	Industrial Organization						
256	30	GTI	GTI	GTI	GTI	基礎演習						
257	30	GTI	GTI	GTI	GTI	基礎演習						
258	30	GTI	GTI	GTI	GTI	基礎演習						
311	81	数学入門	定村 薫			金融論						
312	81					観光まちおこしワークショップ入門						
313	30	GTI	GTI	GTI	GTI	観光まちおこしワークショップ実践C						
314	802			政治学	福井 雄三	法学						
321	69	GTI	GTI	GTI	GTI	大学生生活デザイン演習						
322	69	GTI	GTI	GTI	GTI	大学生生活デザイン演習						
323	31	GTI	GTI	GTI	GTI	大学生生活デザイン演習						
331	69	GTI	GTI	GTI	GTI	大学生生活デザイン演習						
332	69	GTI	GTI	GTI	GTI	大学生生活デザイン演習						
333	31	GTI	GTI	GTI	GTI	ドイツ語入門						
334	30	GTI	GTI	GTI	GTI	ドイツ語入門						
412	384	情報処理の基礎	服部 泰造	広告メディア論	和田 仁	英米文学 A/英語文学 A						
413	255			企業評価論	渡辺 基之	統計学入門						
421	20											
422	20											
423	178			観光マネジメント論	松本 博樹	国際貿易論						
424	178	観光ビジネス論	太田 正隆	MICE産業論	太田 正隆	英語学概論						
425	248	ナショナリズム論	坂本 清	マクロ経済学	本間 立志	東ヨーロッパの政治と外交						
511	102	財務分析論	鯖田 豊則			民法						
512	102	ADL室										
513	102	運動療法室				運動療法実習						
514	102											
521	102	神経内科学 I	岩瀬 利郎	病理学	岩瀬 利郎	Microeconomics						
522	80	理学療法実習室				運動器理学療法実習 II						
523	80					運動器理学療法実習 II						
524	80											
525	20			Introduction to AI & Intelligent Product Development	カスカルー バラジ	Thesis Writing Seminar						
526	20					GTI						
527	20	GTI	GTI	GTI	GTI	英語科教育法 IA						
528	20	GTI	GTI	GTI	GTI	専門演習						
611A	36											
611B	36											
612A	36	バイオメカニクス実習室										
612B	36											
613A	36											
613B	36											
614A	36	データ解析室										
614B	36											
615	100	ヨーロッパ社会文化論	今村 芳	Marketing Strategy	カスカルー バラジ	Business Planning						
616A	815	理学療法実習室				Business Planning						
616B	815					軍縮安全保障論						
617A	815											
617B	815											
618A	815											
618B	815											
619	340			簿記	鯖田 豊則	環境と自然						
621	80	義肢装具実習室										
622	80											
623	80	解剖・生理実習室										
624	80											
625	80	水治療室										
626	100	理学療法特論	横塚 高志・他	社会史B	川名 隆史	国際ビジネス論						
627	10	神経生理学実習室										
628	10	運動学実習室										
629	203			Human Resources Management	石黒 久仁子	地域経済社会事情(東アジア)						
631	203			国際理解論	本間 立志	公共経済学						
LCR1		GTI	GTI	GTI	GTI	IT Literacy						
LCR2		GTI	GTI	GTI	GTI	IT Literacy						
LCR3		GTI	GTI	GTI	GTI	Advanced Reading and Writing B						
LCR4		GTI	GTI	GTI	GTI	Advanced Reading and Writing B						
LCR5		GTI	GTI	GTI	GTI	Advanced Reading and Writing B						
LCR6		GTI	GTI	GTI	GTI	Advanced Reading and Writing B						
LCR7		GTI	GTI	GTI	GTI	Advanced Reading and Writing B						
LCR8		GTI	GTI	GTI	GTI	Advanced Speaking and Listening B						
大講堂	840											
体育館				健康・スポーツ実技	岩田 真一	健康・スポーツ実技						
小体育室												
テニス												
テニス												
ゴルフ												
フットサル												
バレー												
科目数	46			64		77						
授業数	27.4%			38.1%		45.8%						
						59						
						28						
						1						
						0.7%						

- ① バイオメカニクス実習室
- ② データ解析室
- ③ 基礎医学実習室
- ④ 理学療法実習室1
- ⑤ 理学療法実習室2
- ⑥ 水治療室
- ⑦ ADL室
- ⑧ 運動学実習室
- ⑨ ロッカールーム
- ⑩ ロッカールーム
- ⑪ 更衣室
- ⑫ 更衣室
- ⑬ 理学療法実習室
- ⑭ 演習室
- ⑮ 運動療法室
- ⑯ 神経生理学実習室
- ⑰ 義肢装具実習室

※赤字は理学療法学科生対象科目

火曜日												
1時限 9:10-10:40	2時限 10:50-12:20	3時限 1:10-2:40	4時限 2:50-4:20	5時限 4:50-6:00	6時限 6:10-7:40	教員						
112	251	251	251	251	251	112						
123	35	35	35	35	35	123						
124	20	20	20	20	20	124						
125	117	117	117	117	117	125						
131	40	40	40	40	40	131						
132	30	30	30	30	30	132						
133	30	30	30	30	30	133						
134	30	30	30	30	30	134						
135	30	30	30	30	30	135						
136	30	30	30	30	30	136						
137	30	30	30	30	30	137						
141	20	20	20	20	20	141						
142	20	20	20	20	20	142						
143	20	20	20	20	20	143						
144	30	30	30	30	30	144						
145	30	30	30	30	30	145						
146	20	20	20	20	20	146						
147	20	20	20	20	20	147						
152	30	30	30	30	30	152						
153	30	30	30	30	30	153						
154	30	30	30	30	30	154						
155	30	30	30	30	30	155						
221M	25	25	25	25	25	221M						
222S	28	28	28	28	28	222S						
231	20	20	20	20	20	231						
232	60	60	60	60	60	232						
233	60	60	60	60	60	233						
234	60	60	60	60	60	234						
241	60	60	60	60	60	241						
242	60	60	60	60	60	242						
243	60	60	60	60	60	243						
244	60	60	60	60	60	244						
245	20	20	20	20	20	245						
246	20	20	20	20	20	246						
247	20	20	20	20	20	247						
248	20	20	20	20	20	248						
251	30	30	30	30	30	251						
252	30	30	30	30	30	252						
253	30	30	30	30	30	253						
254	30	30	30	30	30	254						
255	30	30	30	30	30	255						
256	30	30	30	30	30	256						
257	30	30	30	30	30	257						
258	30	30	30	30	30	258						
311	81	81	81	81	81	311						
312	81	81	81	81	81	312						
313	30	30	30	30	30	313						
314	302	302	302	302	302	314						
321	99	99	99	99	99	321						
322	69	69	69	69	69	322						
323	31	31	31	31	31	323						
331	69	69	69	69	69	331						
332	69	69	69	69	69	332						
333	31	31	31	31	31	333						
334	30	30	30	30	30	334						
412	384	384	384	384	384	412						
413	255	255	255	255	255	413						
421	20	20	20	20	20	421						
422	20	20	20	20	20	422						
423	178	178	178	178	178	423						
424	178	178	178	178	178	424						
425	268	268	268	268	268	425						
511	102	102	102	102	102	511						
512	102	102	102	102	102	512						
513	102	102	102	102	102	513						
514	102	102	102	102	102	514						
521	102	102	102	102	102	521						
522	80	80	80	80	80	522						
523	80	80	80	80	80	523						
524	80	80	80	80	80	524						
525	20	20	20	20	20	525						
526	20	20	20	20	20	526						
527	20	20	20	20	20	527						
528	20	20	20	20	20	528						
611A	36	36	36	36	36	611A						
611B	36	36	36	36	36	611B						
612A	36	36	36	36	36	612A						
612B	36	36	36	36	36	612B						
613A	36	36	36	36	36	613A						
613B	36	36	36	36	36	613B						
614A	36	36	36	36	36	614A						
614B	36	36	36	36	36	614B						
615	100	100	100	100	100	615						
616A	80	80	80	80	80	616A						
617A	80	80	80	80	80	617A						
617B	80	80	80	80	80	617B						
618A	80	80	80	80	80	618A						
618B	80	80	80	80	80	618B						
619	340	340	340	340	340	619						
621	80	80	80	80	80	621						
622	80	80	80	80	80	622						
623	80	80	80	80	80	623						
624	80	80	80	80	80	624						
625	80	80	80	80	80	625						
626	100	100	100	100	100	626						
627	10	10	10	10	10	627						
628	10	10	10	10	10	628						
629	203	203	203	203	203	629						
631	203	203	203	203	203	631						
LGR1						LGR1						
LGR2						LGR2						
LGR3						LGR3						
LGR4						LGR4						
LGR5						LGR5						
LGR6						LGR6						
LGR7						LGR7						
LGR8						LGR8						
大講堂	840	840	840	840	840	大講堂						
体育館						体育館						
小体育室						小体育室						
テニス						テニス						
ゴルフ						ゴルフ						
テニス						テニス						
ゴルフ						ゴルフ						
テニス						テニス						
ゴルフ						ゴルフ						
テニス						テニス						
ゴルフ						ゴルフ						
科目数	58	65	78	63	20							
履修率	34.5%	38.7%	45.2%	37.5%	13.9%	0.7%						

- ① バイオメカニクス実習室
- ② データ分析室
- ③ 基礎医学実習室
- ④ 理学療法実習室1
- ⑤ 理学療法実習室2
- ⑥ 水泳実習室
- ⑦ ADL室
- ⑧ 運動学実習室
- ⑨ ロックルーム
- ⑩ ロックルーム
- ⑪ 更衣室
- ⑫ 更衣室
- ⑬ 理学療法実習室
- ⑭ 理学療法実習室
- ⑮ 運動学実習室
- ⑯ 神経生理学実習室
- ⑰ 義肢装具実習室

※赤字は理学療法士対象科目

【10月修正】

木曜日

Table with columns for course number, instructor, and course title. It lists various academic courses such as '問題解決技法', '流通論', 'Principles of Marketing', 'International Trade', 'Digital Business Strategies', 'AI & Machine Learning for Decision Making', etc., along with their respective instructors and schedules.

- ① パイオニアズ実習室
② データ解析実習室
③ 基礎英学実習室
④ 法学部実習室
⑤ 理学部実習室2
⑥ 水産部実習室
⑦ ADL実習室
⑧ 運動学実習室
⑨ ロックルーム
⑩ ロックルーム
⑪ 実習室
⑫ 実習室
⑬ 理学部実習室
⑭ 運動学実習室
⑮ 運動学実習室
⑯ 運動学実習室
⑰ 運動学実習室
⑱ 運動学実習室
⑲ 運動学実習室
⑳ 運動学実習室

※赤字は理学部実習室対象科目

Main table with columns for course number, department, course name, and instructor. Includes sections like '1' (112-155), '2' (211M-258), '3' (311-334), '4' (412-423), '5' (511-524), '6' (611A-619), '7' (710-719), and '8' (810-819).

- ① バイオメカニクス実習室
② データ解析室
③ 基礎医学実習室
④ 理学療法実習室1
⑤ 理学療法実習室2
⑥ 水治療室
⑦ ADL室
⑧ 運動療法室
⑨ ロッカーーム
⑩ ロッカーーム
⑪ 更衣室
⑫ 更衣室
⑬ 理学療法実習室
⑭ 演習室
⑮ 運動療法室
⑯ 神経生理実習室
⑰ 脳神経実習室

【10月修正】

水曜日

Table with columns for course number, subject name, instructor, and time slot. Includes various subjects like '初年次演習', '基礎演習', '専門演習', and '国際関係学入門'.

※赤字は理学療法学科生対象科目

- ① バイオメカニクス実習室
② データ解析室
③ 基礎理学療法実習室
④ 理学療法実習室1
⑤ 理学療法実習室2
⑥ 水治療室
⑦ ADL室
⑧ 運動学実習室
⑨ ロックルーム
⑩ ロックルーム
⑪ 更衣室
⑫ 理学療法実習室
⑬ 演習室
⑭ 運動学実習室
⑮ 神経生理学実習室
⑯ 運動学実習室

木曜日

Table with columns for course number, subject name, instructor, and time slot. It lists various academic courses such as 'Marketing', 'Economics', 'Language', and 'Business' across different time slots from 9:10 to 7:40.

- ① バイオメカニクス実習室
② データ解析室
③ 基礎医学実習室
④ 理学療法実習室1
⑤ 理学療法実習室2
⑥ 水治療室
⑦ ADL室
⑧ 運動学実習室
⑨ ロッカーーム
⑩ ロッカーーム
⑪ 更衣室
⑫ 理学療法実習室
⑬ 演習室
⑭ 運動学実習室
⑮ 神経生理学実習室
⑯ 職員実習室

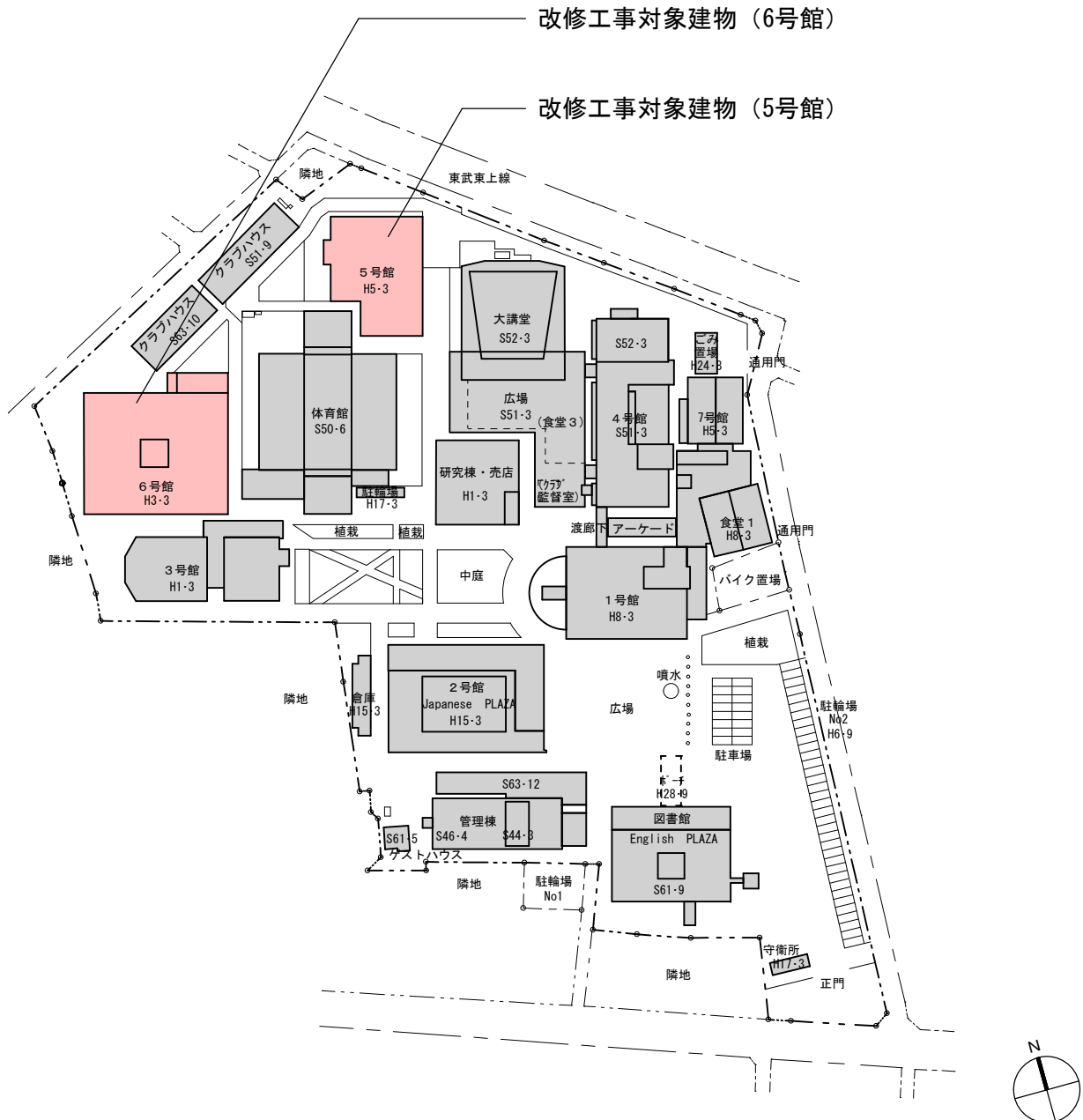
*赤字は理学療法学科生対象科目

金曜日														
教養	人数	1時限 9:10~10:40		2時限 10:50~12:20		3時限 1:10~2:40		4時限 2:50~4:20		5時限 4:30~6:00		6時限 6:10~7:40		教養
科目番号		授業科目名		授業科目名		授業科目名		授業科目名		授業科目名		授業科目名		番号
112	251			商業・流通政策	上野 博	外国語研究	上野 博							112
123	35													123
124	20 (18)	大学院	大学院	大学院	大学院	大学院	大学院	大学院	大学院	大学院	大学院	大学院	大学院	124
125	117			事業承継	飯野 邦彦	文学	飯野 邦彦							125
131	40	Communication Basic II	村野 緑	Oral Communication	村野 緑	Communicative Grammar	村野 緑							131
132	30	Communication Basic II	園府方 麗夏	英語通訳法入門	戸室 京子	英語通訳法	戸室 京子	観光ガイド通訳	戸室 京子					132
133	30	Communication Basic II	ハスキー ケイ	ビジネス英語	ハスキー ケイ	Reading & Writing	ハスキー ケイ							133
134	30	Communication Basic II	佐藤 利宏	Oral Communication	佐藤 利宏	教育課程論	田部井 潤							134
135	30					Media Studies	小室 広佐子							135
136	30					Media Studies	小室 広佐子							136
137	30													137
141	20	マーケティングマネジメント論研究Ⅱ	上野 博	マーケティング・リサーチ論研究Ⅱ	久米 勉									141
142	20													142
143	20													143
144	30													144
145	30													145
146	20													146
147	20													147
152	30													152
153	30													153
154	30							Statistics I	フシロケイ ケイ					154
155	30							Statistics I	フシロケイ ケイ					155
221M	25			Media English	笠原 誠也	Oral Communication	笠原 誠也	Reading & Writing	笠原 誠也					221M
222S	28					実践スペイン語	古賀 喬史	実践スペイン語	古賀 喬史					222S
231	60			応用簿記	田宮 治雄	会計学概論	田宮 治雄	ロシア社会文化論	長井 淳	Reading & Writing	フシロケイ ケイ			231
232	250					経営史	萩本 真一郎							232
233	60			実践ハンガール	チェ キョウエ	Institutions and Business Transformation	岡田 仁孝			Reading & Writing	フシロケイ ケイ			233
234	60			朝鮮半島の政治と外交	伊豆見 元	東アジア安全保障論	伊豆見 元	アメリカ研究	岩崎 暁男	Cross-Cultural Communication	岩崎 暁男			234
241	60	International Relations of Japan	宮下 明聡	Entrepreneurial Strategies	シャウカン ノラ	International Finance	シャウカン ノラ	Introduction to Social Psychology	フシロケイ ケイ	Gender in International Relations	フシロケイ ケイ			241
242	60	International Relations of Europe	フシロケイ ケイ	Strategic Management	フシロケイ ケイ	Global Marketing	フシロケイ ケイ	Financial Accounting	ランゴ ハンヂョウ	Development Economics	フシロケイ ケイ			242
243	60	Start-up Funding and VC Strategies	タン イーヘン	Tourism: Analysis and Planning	フシロケイ ケイ	ビジネス基礎	奥 倫陽	ビジネス・ソリューション	奥 倫陽	International Business	奥 倫陽			243
244	60	Political Theory	フシロケイ ケイ	Comparative Politics	フシロケイ ケイ	Transitional Justice	フシロケイ ケイ	Introduction to International Relations	フシロケイ ケイ	Organizational Behavior	フシロケイ ケイ			244
245	20	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI							245
246	20	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI							246
247	20	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI	実践フランス語	佐藤 淳一					247
248	20	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI	実践中国語	瀬戸口 律子	実践中国語	瀬戸口 律子			248
251	30			教育実習演習(公民)	上田 裕司	特別活動の理論と方法	細野 千尋			専門演習	門田 清			251
252	30	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI	日本語教育実習演習	西島 道					252
253	30	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI							253
254	30	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI	現代中国ビジネス事情Ⅱ	菅野 真一郎					254
255	30	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI							255
256	30	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI							256
257	30	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI							257
258	30	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI	教育実習演習(英語)	松林 世志子					258
311	81	World Economy	フシロケイ ケイ	Database and Big Data	タン イーヘン	Digital Marketing	シャウカン ノラ	Big Data and Analytics	シャウカン ノラ	Microeconomics	シャウカン ノラ			311
312	81	Communication Basic II	田崎 由布子	観光まちおこしワークショップ入門	前 好光	観光まちおこしワークショップ実践B	前 好光	Fundamentals of Mathematics	竹内 宏行	Principles of Political Science	ホニダ オア			312
313	30	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI							313
314	502					情報処理の基礎	服部 泰造							314
321	69	Communication Basic II	新井 翠門	Oral Communication	新井 翠門	財政学	池田 浩史							321
322	69	Mathematics for Business and Economics I	竹内 宏行	Money and Banking	シャウカン ノラ	International Relations of Asia-Pacific	李 克賢	Understanding Globalization	李 克賢	International Political Economy	金 俊昊			322
323	31	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI							323
331	69	実践中国語	緒方 哲也	実践中国語	緒方 哲也	GTI	GTI							331
332	69			GTI	GTI	GTI	GTI	経済数学	浮田 聡					332
333	31	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI							333
334	30			GTI	GTI	GTI	GTI							334
412	364					消費者行動論	久米 勉	消費者行動論	久米 勉					412
413	255					簿記	奥 倫陽							413
421	20													421
422	20													422
423	176	自然科学概論	安達 静子	数学入門	安達 静子	数学入門	安達 静子	地域経済社会事情(人の移動と地域)	緒村 清加	Principles of Economics	ランゴ ハンヂョウ			423
424	178	都市経済論	矢澤 則彦	経営学概論	飯野 邦彦	地域経済社会事情(中東)/中東アジア社会文化論	田村 愛理	教育原理	遠藤 克弥					424
425	268			高学概論	金 琦	アジア・アラブ史	田村 愛理	商業史	別府 義也					425
511	102	金融システム論	清水 誠	ファイナンス概論	清水 誠	ミクロ経済学	古川 徹也	ファイナンス論	清水 誠					511
512	ADL室													512
513	運動療法室	生活環境支援理学療法学(Q1)	池田 誠	生活環境支援理学療法学(Q1)	池田 誠									513
514	1													514
521	102	経営組織論	須見 栄	経営管理論	須見 栄	異文化リーダーシップ論	須見 栄	国際金融論	金 俊昊					521
522	1	理学療法実習Ⅰ				物理療法学	諸角 一記	物理療法学実習	諸角 一記					522
523	1													523
524	1													524
525	20			GTI	GTI	専門演習	杉本 篤史							525
526	20	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI							526
527	20	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI							527
528	20	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI							528
611A	36	Marketing Research	フシロケイ ケイ	Business and Social Impact	取出 恭彦	Global Sociology	ランゴ ハンヂョウ							611A
611B	38	Marketing Research	フシロケイ ケイ	Business and Social Impact	取出 恭彦	Global Sociology	ランゴ ハンヂョウ							611B
612A	バイオメカニクス実習Ⅰ													612A
612B	実習Ⅱ													612B
613A	1													613A
613B	1													613B
614A	2	データ解析実習												614A
614B	1													614B
615	100	運動学	一寸木 洋平	生理学Ⅱ	小川 哲郎	イギリス研究	松林 世志子			ネットリテ/論/ホスピタリティー/コミュニケーション	渡辺 志信			615
616A	1	理学療法実習Ⅰ												616A
616B	1-5													616B
617A	1	ロッカールーム												617A
617B	1	ロッカールーム												617B
618A	1	更衣室												618A
618B	1	更衣室												618B
619	340					マーケティング戦略論	金 琦							619
621	80	義肢装具学	芝原 美由紀	義肢装具学演習	芝原 美由紀									621
622	1													622
623	80	解剖学実習Ⅱ				解剖学実習Ⅱ	小川 金崎	解剖学実習Ⅱ	小川 金崎					623
624	1													624
625	1	水治療法												625
626	100			日本外交論	宮下 明聡	西ヨーロッパの政治と外交	高橋 直樹	政治学	高橋 直樹	出版論	鈴木 一守			626
627	10	神経生理学実習Ⅰ												627
628	1	運動学実習Ⅱ												628
629	1													629
630	203	国際人権論	杉本 篤史	世界の言語政策	杉本 篤史	Social Media and Business	タン イーヘン	国際関係論	泉 淳					630
631	203			社会学	萩本 三代子	多国籍企業論	門田 清	国際法	大塚 敬子	国際法	大塚 敬子			631
LOR1		GTI	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI			LOR1
LOR2		GTI	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI			LOR2
LOR3		GTI	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI			LOR3
LOR4		GTI	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI	GTI			LOR4
LOR5														

東京国際大学第一キャンパス 5号館6号館理学療法学科対応改修計画

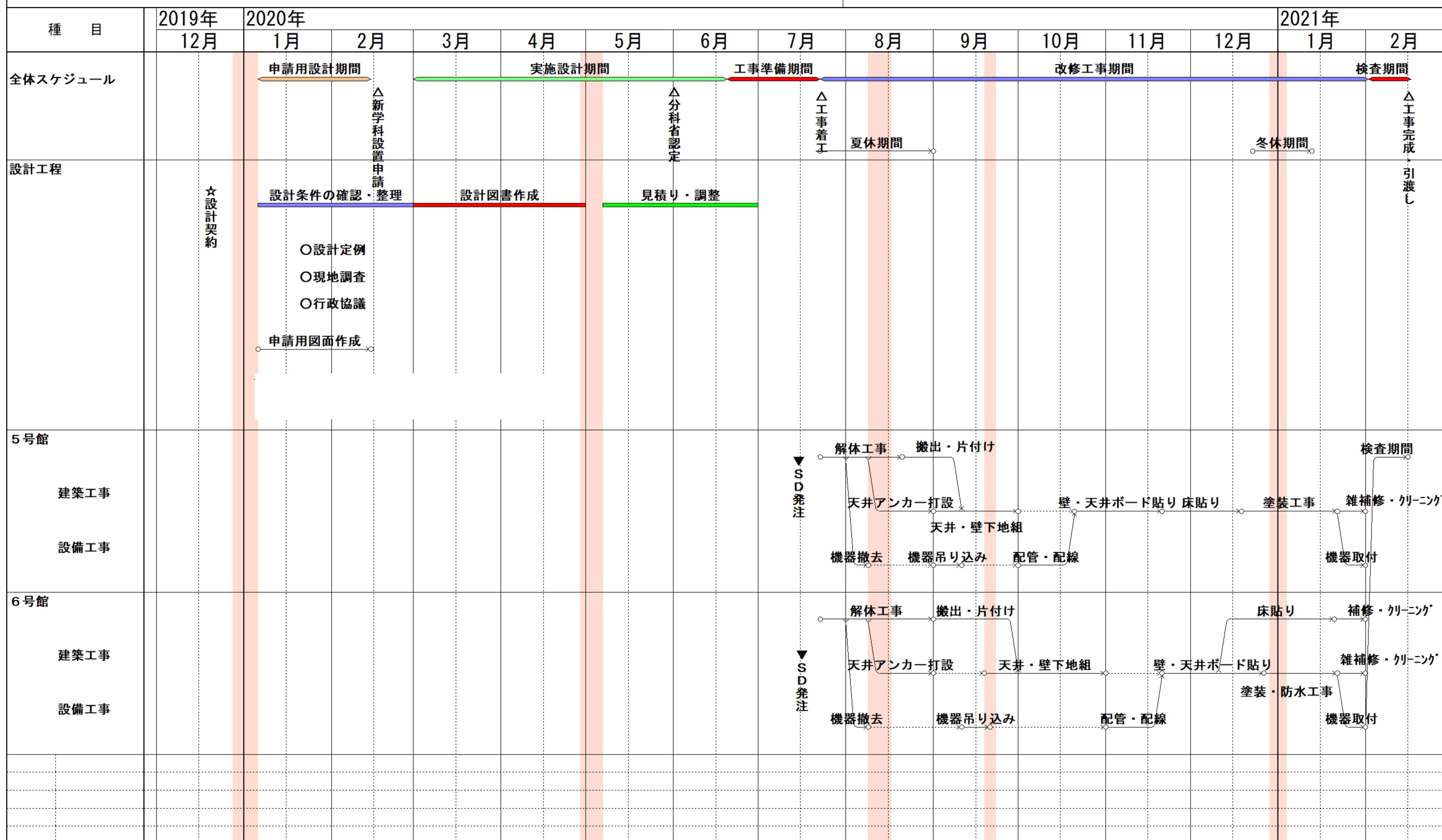
工事概要

- 工事場所 埼玉県川越市市場北1-13-1
東京国際大学第1キャンパス
- 工事種別 改修工事(5号館、6号館校舎内)
- 工事内容 校舎内の教室等の一部内装仕上の撤去および新設、
設備機器、配管、配線の撤去及び新設等
- 工事期間 2020年7月下旬～2021年2月中旬(予定)
- 構造・規模 5号館 鉄筋コンクリート造 地上2階建 延床面積1,711.94㎡(内、改修面積 約640㎡)
6号館 鉄筋コンクリート造 地上2階建 延床面積3,278.10㎡(内、改修面積 約1,147㎡)



東京国際大学第1キャンパス 全体配置図(1/2000)

1C5号館6号館理学療法学科対応改修計画 工事計画表



施工場所 敷地面積 埼玉県川越市の場北1-13-1 35,994.91㎡
 5号館 建築面積 906.01㎡ 延床面積 1,711.94㎡ 地上階数 2階 構造種別 鉄筋コンクリート造
 6号館 建築面積 1,693.46㎡ 延床面積 3,278.10㎡ 地上階数 2階 構造種別 鉄筋コンクリート造
 工事範囲：5号館一部と6号館理学療法学科対応施設を設置する工事と関連工事全般

資料 29. 5号館 6号館の改修に係わる工事概要・計画のうち建物図面

① (書類等の題名)

設置の趣旨等を記載した書類 添付資料

資料 29. 5号館 6号館の改修に係わる工事概要・計画のうち建物図面

② (その他の説明)

・安全上の理由から省略

以上

医療健康学部理学療法学科 時間割案 春学期
 ※学期名称は、前期を春学期、後期を秋学期としている。

曜日	配当年次	第1時限 (9:10~10:40)		第2時限 (10:50~12:20)		第3時限 (13:10~14:40)		第4時限 (14:50~16:20)		第5時限 (16:30~18:00)	
		科目名 担当者	教室	科目名 担当者	教室	科目名 担当者	教室	科目名 担当者	教室	科目名 担当者	教室
月	1年	理学療法概論 猪股、志・CSL5村、二宮、 諸角、金崎、戸島、 武田、杉本、窪田、川崎	626	Oral Communication フィリップジョンソン他	231/234					倫理学 吉田	413
	2年	神経内科学 I 岩瀬	521	病理学 岩瀬	521	運動療法実習 戸島、二宮	運動療法室			栄養学 加藤	615
	3年			運動器 理学療法学 II 窪田	理学療法実習室1.2	運動器 理学療法学実習 II 窪田、志村、生田	理学療法実習室1.2				
	4年	総合臨床実習 II									
火	1年	解剖学 I 小川	626			大学生活デザイン演習 平山	331/332	リハビリテーション 概論※ 山本	112		
	2年	運動解剖学 志村	理学療法実習室1.2	精神医学 岩瀬	631			公衆衛生学 伊藤	626		
	3年	Q1:救急救命医学※ 高井、岩瀬	125	内部機能理学療法学 I 金崎	理学療法実習室1.2	内部機能 理学療法学実習 (Aクラス) 金崎	理学療法実習室1.2	内部機能 理学療法学実習 (Bクラス) 金崎	理学療法実習室1.2	内部機能理学療法学 II 園澤	615
	4年	総合臨床実習 II									
水	1年					基礎理学療法学演習 I 猪股、池田、山本、 生田、諸角、芝原、杉本、 武田、二宮、川崎、 戸島、金崎、志村、 一寸木、窪田、米澤	理学療法実習室1.2,3,4,5 データ解析室 解剖・生理学実習室 理学療法実習室1.2 運動療法室				
	2年	整形外科 I 高井	626	医学一般 I 岩瀬	626			理学療法学演習 I 諸角、猪股、山本、 生田、芝原、杉本、武田、 二宮、川崎、戸島、 金崎、志村、一寸木、 窪田、米澤	理学療法実習室1.2,3,4,5 データ解析室 解剖・生理学実習室 理学療法実習室1.2 運動療法室		
	3年	理学療法文献講読 諸角	解剖・生理学実習室	予防理学療法学総論 川崎	615					理学療法学演習 III 二宮、猪股、池田、 山本、生田、 諸角、芝原、杉本、 川崎、金崎、志村、 一寸木、窪田、米澤	理学療法実習室1.2,3,4,5 データ解析室 解剖・生理学実習室 義肢装具演習室 運動学実習室
		スポーツ理学療法学 戸島	理学療法実習室1.2								
	疾病予防と健康増進 杉本	義肢装具演習室									
4年	総合臨床実習 II										
木	1年	人間関係論 小田切	626	Oral Communication フィリップジョンソン他	231/234	ICT基礎 平山	152~155			倫理学 吉田	413
	2年	運動学実習 一寸木、諸角、 戸島、米澤	運動学実習室 データ解析室 バイオメカニクス実習室 神経生理学実習室	運動学実習 一寸木、諸角、 戸島、米澤	運動学実習室 データ解析室 バイオメカニクス実習室 神経生理学実習室	機能・能力評価学 II 杉本	理学療法実習室1.2	機能・能力評価学実習 II 杉本、山本	理学療法実習室1.2		
	3年	神経理学療法学 II 川崎	運動療法室	神経理学療法学実習 II 川崎、二宮	運動療法室				神経・筋疾患理学療法学	626	
	4年	総合臨床実習 II									
金	1年	生理学 I 小川	626			解剖学実習 I 小川、一寸木	解剖・生理学実習室	解剖学実習 I 小川、一寸木	解剖・生理学実習室		
	2年	Q1:社会福祉概論※ 芝原(修) Q2:画像診断学※ 岩瀬	521	運動生理学 猪股、戸島	615						
	3年	地域理学療法学 米澤	630			小児理学療法学 芝原	630	薬理学 坂本	626		
	4年	総合臨床実習 II									

備考欄

時間割 春学期

※印: 1科目8コマの授業
 Q1: 春学期前半を行う授業
 Q2: 春学期後半を行う授業
 ・「理学療法学研究実践法」(4年通年、必修科目)は、担当の専任教員と日程調整を行った上で実施する。
 ・4年次の「総合臨床実習 II」に関しては、5月から学外で臨床実習を行う。

医療健康学部理学療法学科 時間割案 秋学期

※学期名称は、前期を春学期、後期を秋学期としている。

曜日	配当年次	第1時限 (9:10~10:40)		第2時限 (10:50~12:20)		第3時限 (13:10~14:40)		第4時限 (14:50~16:20)		第5時限 (16:30~18:00)		
		科目名 担当者	教室	科目名 担当者	教室	科目名 担当者	教室	科目名 担当者	教室	科目名 担当者	教室	
月	1年	基礎理学療法学 猪股	626			基礎統計学 竹内、米澤、小川	152/153/154	生命倫理学 鄭	125			
	2年	Q2:理学療法リスク マネジメント演習 二宮	理学療法実習室1.2	Q2:理学療法リスク マネジメント演習 二宮	理学療法実習室1.2	運動器理学療法学Ⅰ 窪田	理学療法実習室1.2	運動器理学療法学実習Ⅰ 窪田、志村、生田	理学療法実習室1.2			
	3年	Q1:クリニカル・ リーズニング総論 二宮	解剖・生理学実習室	Q1:クリニカル・ リーズニング総論 二宮	解剖・生理学実習室	Q1:チーム医療論※ 猪股	解剖・生理学実習室	Q1:チーム医療論※ 猪股	解剖・生理学実習室			
		Q1:スポーツ 理学療法学演習 窪田	理学療法実習室1.2	Q1:スポーツ 理学療法学演習 窪田	理学療法実習室1.2							
	4年	Q1:介護予防評価演習 川崎・米澤	運動療法室	Q1:介護予防評価演習 川崎・米澤	運動療法室							
火	1年	解剖学Ⅱ 小川	626	機能・能力評価学Ⅰ 武田	理学療法実習室1.2	機能・能力評価学実習Ⅰ 武田、窪田	理学療法実習室1.2			Reading & Writing フィリップジョンソン他	231/233	
	2年	医学一般Ⅱ 岩瀬、高井	125	神経内科学Ⅱ 岩瀬	424	神経理学療法学Ⅰ 杉本	運動療法室	神経理学療法学実習Ⅰ 杉本、川崎	運動療法室			
	3年											
	4年	臨床理学療法論 杉本	解剖・生理学実習室						クリニカル・ リーズニング各論 二宮	解剖・生理学実習室		
		スポーツ トレーニング特論 戸島	理学療法実習室1.2						障がい者スポーツ支援論 志村	理学療法実習室1.2		
		健康ビジネス論 柏木	631					予防理学療法学各論 山本	631			
水	1年	解剖学Ⅲ 小川	626			基礎理学療法学演習Ⅱ 猪股、池田、山本、 生田、諸角、芝原、杉本、 武田、二宮、川崎、 戸島、金崎、志村、 一寸木、窪田、米澤	理学療法演習室1.2,3,4,5 データ解析室 解剖・生理学実習室 理学療法実習室1.2 運動療法室					
	2年	理学療法学特論※ 猪股、諸角、芝原、 米澤、窪田、川崎、 杉本、一寸木	615	整形外科Ⅱ 高井	626			理学療法学演習Ⅱ 諸角、猪股、山本、 生田、芝原、杉本、二宮、 川崎、志村、一寸木、 窪田、米澤	理学療法演習室1.2,3,4,5 データ解析室 解剖・生理学実習室 理学療法実習室1.2 運動療法室			
	3年	Q1:生活環境支援 理学療法学 池田	運動療法室	Q1:生活環境支援 理学療法学 池田	運動療法室							
	4年	理学療法管理学 312		ウイメンズヘルス・ メンズヘルス理学療法 武田	理学療法実習室1.2					総合理学療法学 武田、猪股、池田、 諸角、芝原、杉本、 二宮、小川、岩瀬、 川崎、戸島、金崎、 志村、一寸木、窪田、 米澤	626	
木	1年	心身機能発達学 芝原、猪股	626			運動療法学 戸島	理学療法実習室1.2	生体観察と触診法 志村、芝原、生田	理学療法実習室1.2			
	2年	臨床心理学 岩瀬	521			日常生活活動 理学療法学※ 池田	運動療法室	日常生活活動 理学療法学実習 池田、米澤	運動療法室 ADL室	臨床運動分析学演習 武田	626	
	3年	Q1:クリニカル・ リーズニング総論 二宮	解剖・生理学実習室	Q1:クリニカル・ リーズニング総論 二宮	解剖・生理学実習室	Q1:地域包括ケア システム論※ 芝原(修)	解剖・生理学実習室	Q1:地域包括ケア システム論※ 芝原(修)	解剖・生理学実習室			
		Q1:スポーツ 理学療法学演習 窪田	理学療法実習室1.2	Q1:スポーツ 理学療法学演習 窪田	理学療法実習室1.2							
4年	Q1:介護予防評価演習 川崎、米澤	運動療法室	Q1:介護予防評価演習 川崎、米澤	運動療法室								
金	1年	運動学 一寸木	615	生理学Ⅱ 小川	615	解剖学実習Ⅱ 小川、金崎	解剖・生理学実習室	解剖学実習Ⅱ 小川、金崎	解剖・生理学実習室	Reading & Writing フィリップジョンソン他	231/233	
	2年	義肢装具学※ 芝原	義肢装具演習室	義肢装具学演習 芝原、諸角	義肢装具演習室	物理療法学 諸角	理学療法実習室1.2	物理療法学実習 諸角、一寸木	理学療法実習室1.2			
	3年	Q1:生活環境支援 理学療法学 池田	運動療法室	Q1:生活環境支援 理学療法学 池田	運動療法室							
	4年											

備考欄

時間割 秋学期

※印: 1科目8コマの授業
 Q1: 秋学期前半に行う授業
 Q2: 秋学期後半に行う授業
 ・「理学療法学研究実践法」(4年通年、必修科目)は、担当の専任教員と日程調整を行った上で実施する。
 ・2年次の「機能・能力評価学臨床実習」に関しては、1月末から学外で臨床実習を行う。
 ・3年次の「総合臨床実習Ⅰ」に関しては、10月末から学外で臨床実習を行う。
 ・時間割の他、1月以降の集中講義期間に、「理学療法臨床英語」、「疼痛理学療法学」、「理学療法学研究法」、「生理学実習」を実施する。

実習室における機器・器具・模型等一覧

No.	品名	数量	設置場所	整備時期
1	車椅子 (アルミ)	20	ADL室	令和3年3月
2	ポータブルトイレ	1	ADL室	令和3年3月
3	アクティムーヴ スリング	8	ADL室	令和3年3月
4	シグマックスアームスリング	1	ADL室	令和3年3月
5	腕可動支持器 (左)	4	ADL室	令和3年3月
6	腕可動支持器 (右)	4	ADL室	令和3年3月
7	テーブル用ブラケット	4	ADL室	令和3年3月
8	歩行訓練用階段150型	1	ADL室	令和3年3月
9	スポンジマット	4	ADL室	令和3年3月
10	折り曲げスプーン (大)	1	ADL室	令和3年3月
11	折り曲げスプーン (小)	1	ADL室	令和3年3月
12	折り曲げフォーク	1	ADL室	令和3年3月
13	ナイフ	1	ADL室	令和3年3月
14	形状記憶スプーン (大)	1	ADL室	令和3年3月
15	形状記憶スプーン (小)	1	ADL室	令和3年3月
16	形状記憶フォーク	1	ADL室	令和3年3月
17	スプーン箸	1	ADL室	令和3年3月
18	スプーンホルダー	1	ADL室	令和3年3月
19	楽々箸 (ピンセットタイプ) 大	1	ADL室	令和3年3月
20	キッチンナイフ	1	ADL室	令和3年3月
21	万能ハンドルピグ	1	ADL室	令和3年3月
22	U型バスブラシ	1	ADL室	令和3年3月
23	柄つきバスブラシ	1	ADL室	令和3年3月
24	柄付きヘアブラシ	1	ADL室	令和3年3月
25	はさみ (大)	1	ADL室	令和3年3月
26	ペンホルダー	1	ADL室	令和3年3月
27	レポリーチグリップロック	1	ADL室	令和3年3月
28	ボタン掛け	1	ADL室	令和3年3月
29	ストックングエイド	1	ADL室	令和3年3月
30	介護食実習調理道具一式	1	ADL室	令和3年3月
31	浴室ユニット	1	ADL室	令和3年3月
32	洗面&キッチンユニット	1	ADL室	令和3年3月
33	足漕ぎ車いす COGY	1	ADL室	令和3年3月
34	ロホクッション	1	ADL室	令和3年3月
35	ポータブルトイレ534-500	1	ADL室	令和3年3月
36	ポータブルトイレ533-550	1	ADL室	令和3年3月
37	電動リフト	1	ADL室	令和3年3月
38	入浴用リフト	1	ADL室	令和3年3月
39	スリングシート (ハーフサイズシート)	2	ADL室	令和3年3月
40	ほのぼの食器 小鉢	5	ADL室	令和3年3月
41	ほのぼの食器 丸小鉢	5	ADL室	令和3年3月
42	ほのぼの湯のみ 水玉	5	ADL室	令和3年3月
43	安寿 高さ調節付浴槽てすり レッド	1	ADL室	令和3年3月
44	オモインモビルスリング	1	ADL室	令和3年3月
45	アルファインダニ生地 洗える枕	1	ADL室	令和3年3月
46	座位保持装置一式	1	ADL室	令和3年3月
47	改造衣類一式	各1	ADL室	令和3年3月
48	MOMO本体 (車椅子用)	1	ADL室	令和3年3月
49	MOMO用スプリング強	1	ADL室	令和3年3月
50	アームレストタイプA右用	1	ADL室	令和3年3月
51	車椅子用ブラケット右用	1	ADL室	令和3年3月
52	水平リンク	1	ADL室	令和3年3月
53	MOMO本体 (椅子用)	1	ADL室	令和3年3月
54	MOMO用スプリング弱	1	ADL室	令和3年3月
55	アームレストタイプB左用	1	ADL室	令和3年3月
56	テーブル用ブラケット	1	ADL室	令和3年3月
57	水平リンク	1	ADL室	令和3年3月
58	車椅子 スポーツ型 (バスケットボール用)	1	ADL室	令和3年3月
59	車椅子 軽量電動型	1	ADL室	令和3年3月
60	体圧分布測定システム BPMS 2ハンドル	1	ADL室	令和3年3月
61	センサシート BIG-MAT2000	2	ADL室	令和3年3月
62	センサーシート HUGE-MAT	2	ADL室	令和3年3月
63	トランスファーボード	20	ADL室	令和3年3月
64	楽匠Zシリーズ (3モーションタイプ)	1	ADL室	令和3年3月

実習室における機器・器具・模型等一覧

No.	品名	数量	設置場所	整備時期
65	プレグラーマットレス	1	ADL室	令和3年3月
66	ベッドサイドレール	1	ADL室	令和3年3月
67	メーカー3点セット	1	ADL室	令和3年3月
68	救急医療セット 成人用	10	ADL室	令和3年3月
69	車椅子 エリーゼ	1	ADL室	令和3年3月
70	テイコブ シャワーチェア背付	1	ADL室	令和3年3月
71	浴槽ボード ブル	1	ADL室	令和3年3月
72	テーブル	3	ADL室	令和3年3月
73	車椅子 リクライニング型	1	ADL室	令和3年3月
74	車椅子 モジュール型	1	ADL室	令和3年3月
75	座然クッション 快	1	ADL室	令和3年3月
76	ハーティークションM	1	ADL室	令和3年3月
77	疑似体験セットまなび体 (片マヒ用)	4	ADL室	令和3年3月
78	疑似体験セットまなび体 (高齢者用ver.2)	4	ADL室	令和3年3月
79	WAIS™-IV知能検査 コンプリートセット	1	ADL室	令和3年3月
80	伝の心パネル型	1	ADL室	令和3年3月
81	ジェリービーンズスイッチツイスト	1	ADL室	令和3年3月
82	Window s ノートパソコン	15	データ解析室	令和3年3月
83	Macbook Pro ノートパソコン	5	データ解析室	令和3年3月
84	SPSS 統計ソフトウェアIB500YP	5	データ解析室	令和3年3月
85	SPSS 統計ソフトウェアIB500YQ	5	データ解析室	令和3年3月
86	SPSS 統計ソフトウェアIB500ZO	5	データ解析室	令和3年3月
87	三次元動作解析システム一式	1	バイオメカニクス実習室	令和3年3月
88	床反力計測システム一式	1	バイオメカニクス実習室	令和3年3月
89	リカバントトータルサイクル (ハンドエルゴメーター含む)	1	運動学実習室	令和3年3月
90	トレッドミル	1	運動学実習室	令和3年3月
91	アップライトスタンダードバイク	2	運動学実習室	令和3年3月
92	多チャンネル増幅器一式	2	運動学実習室/神経理学実習室	令和3年3月
93	定電流刺激装置一式	1	運動学実習室	令和3年3月
94	教育用小型エコー	2	運動学実習室	令和3年3月
95	オートスパイロ	4	運動学実習室	令和3年3月
96	USB-6363、XシリーズDAQデバイス、BNC接続	1	運動学実習室	令和3年3月
97	LabVIEW 研究向けライセンス、1ユーザ 新規シングルシート	1	運動学実習室	令和3年3月
98	パルスオキシメータ	8	運動学実習室	令和3年3月
99	超音波診断装置	1	運動学実習室	令和3年3月
100	エルゴメーター (マニュアルコントローラ含む)	1	運動学実習室	令和3年3月
101	足圧分布測定システム一式	1	運動学実習室	令和3年3月
102	多用途記録装置(ホリグラフシステム)	2	運動学実習室	令和3年3月
103	心電図計測装置一式	2	運動学実習室	令和3年3月
104	デジタルカメラ	10	運動学実習室	令和3年3月
105	三脚	10	運動学実習室	令和3年3月
106	肺運動負荷モニタリングシステム	1	運動学実習室	令和3年3月
107	筋力測定器イージーテックプラス	1	運動学実習室	令和3年3月
108	チルトテーブル	1	運動療法室	令和3年3月
109	マット	40	運動療法室	令和3年3月
110	ステフ	1	運動療法室	令和3年3月
111	昇降式平行棒	1	運動療法室	令和3年3月
112	カラー砂袋 (0.5k g)	2	運動療法室	令和3年3月
113	カラー砂袋 (1k g)	2	運動療法室	令和3年3月
114	カラー砂袋 (2k g)	2	運動療法室	令和3年3月
115	カラー砂袋 (3k g)	2	運動療法室	令和3年3月
116	カラー砂袋 (4k g)	2	運動療法室	令和3年3月
117	カラー砂袋 (5k g)	2	運動療法室	令和3年3月
118	エスカート	1	運動療法室	令和3年3月
119	ダンベル-1.0k g	2	運動療法室	令和3年3月
120	ダンベル-1.5k g	2	運動療法室	令和3年3月
121	ダンベル-2.0k g	2	運動療法室	令和3年3月
122	ダンベル-2.5k g	2	運動療法室	令和3年3月
123	ダンベル-3.0k g	2	運動療法室	令和3年3月
124	CDダンベル用ラック	1	運動療法室	令和3年3月
125	壁面用肋木	2	運動療法室	令和3年3月
126	肋木用懸垂桿	1	運動療法室	令和3年3月
127	キャスターチェア	10	運動療法室	令和3年3月
128	高さ調節式キャスターチェア	10	運動療法室	令和3年3月
129	マスターベルトS	4	運動療法室	令和3年3月

実習室における機器・器具・模型等一覧

No.	品名	数量	設置場所	整備時期
130	マスターベルトM	4	運動療法室	令和3年3月
131	レッドコードメディカルパッケージ	1	運動療法室	令和3年3月
132	ボックス&ブロックテスト	1	運動療法室	令和3年3月
133	姿勢矯正鏡（キャスト付き大型ミラー）	1	運動療法室	令和3年3月
134	マットブラットホーム	4	運動療法室	令和3年3月
135	ブラクティカル5セクショントリートメントテーブル	1	運動療法室	令和3年3月
136	バルーン	6種	運動療法室	令和3年3月
137	プッシュアップ台	6種	運動療法室	令和3年3月
138	練習用腰掛SD	2	運動療法室	令和3年3月
139	交互型歩行器 標準	1	運動療法室	令和3年3月
140	交互型歩行器 コンパ	1	運動療法室	令和3年3月
141	セーフティーアームウォーカー/ハイタイプ	1	運動療法室	令和3年3月
142	同上アクセリ キャスターセット Lタイプ	1	運動療法室	令和3年3月
143	セーフティーアーム ロレータ	1	運動療法室	令和3年3月
144	歩行器アルコー3型	1	運動療法室	令和3年3月
145	携帯型AED	1	運動療法室	令和3年3月
146	メディスンボール 1kg	1	運動療法室	令和3年3月
147	メディスンボール 2kg	1	運動療法室	令和3年3月
148	メディスンボール 3kg	1	運動療法室	令和3年3月
149	重錘バンドセット	2	運動療法室	令和3年3月
150	尖足矯正板	1	運動療法室	令和3年3月
151	ロフストランドクラッチ	1	運動療法室	令和3年3月
152	セブンスエルボークラッチ	1	運動療法室	令和3年3月
153	スワン製クォードケインラージベース	1	運動療法室	令和3年3月
154	スワン製クォードケインスマールベース	1	運動療法室	令和3年3月
155	松葉杖 M	1	運動療法室	令和3年3月
156	アルミ製松葉杖	1	運動療法室	令和3年3月
157	エクササイズボールAA9080F	1	運動療法室	令和3年3月
158	エクササイズボールAA9080G	1	運動療法室	令和3年3月
159	ジャンボ触覚ボール	1	運動療法室	令和3年3月
160	ロール大	1	運動療法室	令和3年3月
161	ロール中	1	運動療法室	令和3年3月
162	ロール小	1	運動療法室	令和3年3月
163	ウエッジ大	1	運動療法室	令和3年3月
164	ウエッジ中	1	運動療法室	令和3年3月
165	ウエッジ小	1	運動療法室	令和3年3月
166	オルトトップコンフォートケイン伸縮式	1	運動療法室	令和3年3月
167	弾力包帯（1箱10巻入り）	8	運動療法室	令和3年3月
168	ロープ取り外し滑車	20	運動療法室	令和3年3月
169	プーリー一式	1	運動療法室	令和3年3月
170	ストップウォッチ	40	運動療法室	令和3年3月
171	メトロノームクリップ式デジタル	4	運動療法室	令和3年3月
172	顕微鏡（油浸集光器付）	8	解剖・生理学実習室	令和3年3月
173	デジタル顕微鏡システム	1	解剖・生理学実習室	令和3年3月
174	フリッカー値測定器	2	解剖・生理学実習室	令和3年3月
175	学生用解剖器具セット	40	解剖・生理学実習室	令和3年3月
176	目で見える解剖と生理 第2版 全15巻セット	1	解剖・生理学実習室	令和3年3月
177	DVD版臨床に役立つ解剖学実習セット	1	解剖・生理学実習室	令和3年3月
178	組織解剖プレパラートセット	3	解剖・生理学実習室	令和3年3月
179	作業台	8	義肢装具演習室	令和3年3月
180	模擬体験用義足 大腿用	4	義肢装具演習室	令和3年3月
181	上肢断端	1	義肢装具演習室	令和3年3月
182	下肢断端	1	義肢装具演習室	令和3年3月
183	義足 股離断義足（カナディアン式）	1	義肢装具演習室	令和3年3月
184	標準大腿義足（骨格構造式）	1	義肢装具演習室	令和3年3月
185	標準大腿義足（殻構造式）	1	義肢装具演習室	令和3年3月
186	下腿義足（TSB式）	1	義肢装具演習室	令和3年3月
187	サイム義足	1	義肢装具演習室	令和3年3月
188	足袋義足	1	義肢装具演習室	令和3年3月
189	股継手（殻構造用）	1	義肢装具演習室	令和3年3月
190	膝継手（手動ロック膝）	1	義肢装具演習室	令和3年3月
191	膝継手（荷重ブレーキ膝）	1	義肢装具演習室	令和3年3月
192	膝継手（定摩擦膝）	1	義肢装具演習室	令和3年3月
193	膝継手（横引固定式）	1	義肢装具演習室	令和3年3月
194	大腿ソケット（差込式）	1	義肢装具演習室	令和3年3月
195	下腿ソケット（PTB式）	1	義肢装具演習室	令和3年3月

実習室における機器・器具・模型等一覧

No.	品名	数量	設置場所	整備時期
196	下腿ソケット (従来式)	1	義肢装具演習室	令和3年3月
197	下腿ソケット (軽便式)	1	義肢装具演習室	令和3年3月
198	アライメント調節 大腿用カップリング	1	義肢装具演習室	令和3年3月
199	足継手 (サッチ式)	1	義肢装具演習室	令和3年3月
200	足継手 (単軸足ブロック付)	1	義肢装具演習室	令和3年3月
201	足継手 (多軸足)	1	義肢装具演習室	令和3年3月
202	足継手 (固定式)	1	義肢装具演習室	令和3年3月
203	上腕義手 (能動式 ハンド型)	1	義肢装具演習室	令和3年3月
204	前腕義手 (能動式)	1	義肢装具演習室	令和3年3月
205	上腕義手 装飾式	1	義肢装具演習室	令和3年3月
206	各部品 (義手)	1	義肢装具演習室	令和3年3月
207	下肢装具PTB免荷装具あぶみ	1	義肢装具演習室	令和3年3月
208	下肢装具ツイスター銅線ケーブル	1	義肢装具演習室	令和3年3月
209	下肢装具リーマンビューゲル	1	義肢装具演習室	令和3年3月
210	起立装具スタビライザー	1	義肢装具演習室	令和3年3月
211	体験用長短下肢装具	1	義肢装具演習室	令和3年3月
212	長下肢装具	1	義肢装具演習室	令和3年3月
213	短下肢装具 (Wクレンザック)	1	義肢装具演習室	令和3年3月
214	膝装具 (両側支柱)	1	義肢装具演習室	令和3年3月
215	合成樹脂製 膝関節	1	義肢装具演習室	令和3年3月
216	足関節 (シューホーンブレース)	1	義肢装具演習室	令和3年3月
217	体幹装具頸椎コルセット	1	義肢装具演習室	令和3年3月
218	体幹装具キャンバスコルセット	1	義肢装具演習室	令和3年3月
219	体幹装具腰椎用硬性コルセット	1	義肢装具演習室	令和3年3月
220	体幹装具胸腰椎用硬性コルセット	1	義肢装具演習室	令和3年3月
221	体幹装具頸椎用硬性コルセット	1	義肢装具演習室	令和3年3月
222	体幹装具側弯用コルセット (ミルウォーキー型)	1	義肢装具演習室	令和3年3月
223	靴型装具短靴	1	義肢装具演習室	令和3年3月
224	靴型装具チャッカ靴	1	義肢装具演習室	令和3年3月
225	足底装具アーチサポート	1	義肢装具演習室	令和3年3月
226	足底装具アウトターウェッジ	1	義肢装具演習室	令和3年3月
227	足底装具インナーウェッジ	1	義肢装具演習室	令和3年3月
228	膝継手ストッパー付	1	義肢装具演習室	令和3年3月
229	膝継手ダイヤルロック	1	義肢装具演習室	令和3年3月
230	膝継手スイスロック	1	義肢装具演習室	令和3年3月
231	足継手ダブルクレンザック	1	義肢装具演習室	令和3年3月
232	足継手クレンザック	1	義肢装具演習室	令和3年3月
233	足継手固定	1	義肢装具演習室	令和3年3月
234	足部歩行あぶみ	1	義肢装具演習室	令和3年3月
235	手関節背屈副子	1	義肢装具演習室	令和3年3月
236	拇指対立副子	1	義肢装具演習室	令和3年3月
237	逆ナックルベンダー	1	義肢装具演習室	令和3年3月
238	ナックルベンダー	1	義肢装具演習室	令和3年3月
239	テノデーシスプリント (把持装具 エンゲン)	1	義肢装具演習室	令和3年3月
240	肩外転副子	1	義肢装具演習室	令和3年3月
241	ダイナミックスプリント	1	義肢装具演習室	令和3年3月
242	指装具マレットフィンガー	1	義肢装具演習室	令和3年3月
243	屈曲ミット	1	義肢装具演習室	令和3年3月
244	フットドロップスプリント	1	義肢装具演習室	令和3年3月
245	ギブス台	1	義肢装具演習室	令和3年3月
246	ヤスリ (甲、甲丸、丸各1)	1	義肢装具演習室	令和3年3月
247	ギブスはさみ 大	1	義肢装具演習室	令和3年3月
248	ギブス刀	1	義肢装具演習室	令和3年3月
249	ギブスカッター	1	義肢装具演習室	令和3年3月
250	丸紐	1	義肢装具演習室	令和3年3月
251	ヘラ	1	義肢装具演習室	令和3年3月
252	容器 大	1	義肢装具演習室	令和3年3月
253	容器 小	1	義肢装具演習室	令和3年3月
254	角胴バイス	8	義肢装具演習室	令和3年3月
255	装具芯出し棒	8	義肢装具演習室	令和3年3月
256	六角棒レンチセット	8	義肢装具演習室	令和3年3月
257	プラスドライバーセット	8	義肢装具演習室	令和3年3月
258	マイナスドライバーセット	8	義肢装具演習室	令和3年3月
259	ラシャ切りハサミ	8	義肢装具演習室	令和3年3月
260	ピンキングはさみ	8	義肢装具演習室	令和3年3月
261	カシメ打ち棒	8	義肢装具演習室	令和3年3月

実習室における機器・器具・模型等一覧

No.	品名	数量	設置場所	整備時期
262	ステンレススケール	8	義肢装具演習室	令和3年3月
263	ステンレス曲げ尺	8	義肢装具演習室	令和3年3月
264	ホールパンチ	8	義肢装具演習室	令和3年3月
265	ノギス	8	義肢装具演習室	令和3年3月
266	喰い切り	8	義肢装具演習室	令和3年3月
267	片手ハンマー	8	義肢装具演習室	令和3年3月
268	木ハンマー	8	義肢装具演習室	令和3年3月
269	モンキースパナ	8	義肢装具演習室	令和3年3月
270	プライヤー	8	義肢装具演習室	令和3年3月
271	バイスグリップ	8	義肢装具演習室	令和3年3月
272	下げ振り	8	義肢装具演習室	令和3年3月
273	裁革刀	8	義肢装具演習室	令和3年3月
274	下腿用ライナー	1	義肢装具演習室	令和3年3月
275	経頭蓋磁気刺激装置一式	1	神経生理学実習室	令和3年3月
276	脳波計一式	1	神経生理学実習室	令和3年3月
277	電気洗濯機	1	水治療室	令和3年3月
278	上肢浴用噴流	1	水治療室	令和3年3月
279	エレクトロパルスアー〔上肢向け温浴療法用装置〕	1	水治療室	令和3年3月
280	エレクトロパルスアー〔下肢向け温浴療法用装置〕 (過流浴装置、気泡浴装置含む)	1	水治療室	令和3年3月
281	高齢者対応型ステンレス浴槽ストレートタイプ底面 エンボス2方向エプロン据置タイプ	1	水治療室	令和3年3月
282	ステンレス製浴槽R “あしびた” ソフトタイプ 標 準タイプ	1	水治療室	令和3年3月
283	チル・コールド	8	水治療室	令和3年3月
284	スティック温度計	4	水治療室	令和3年3月
285	人体解剖模型 M-100型	1	標本室	令和3年3月
286	呼吸器模型	1	標本室	令和3年3月
287	気管支分岐よりみた透明肺区域模型	1	標本室	令和3年3月
288	心臓模型A型	1	標本室	令和3年3月
289	血液循環系模型	1	標本室	令和3年3月
290	脳模型 A型	1	標本室	令和3年3月
291	脊髓横断分離模型	1	標本室	令和3年3月
292	脊髓神経伝導・反射経路模型	1	標本室	令和3年3月
293	耳の構造模型	1	標本室	令和3年3月
294	目の構造模型	1	標本室	令和3年3月
295	関節種類模型型9種類	1	標本室	令和3年3月
296	上肢模型 A型 (15分解)	2	標本室	令和3年3月
297	下肢模型 A形 (27分解)	2	標本室	令和3年3月
298	A58/8：脊柱可動型カラーモデル	1	標本室	令和3年3月
299	人体骨格模型 男子SA-160形	8	標本室	令和3年3月
300	日本人男性 骨格分離複製モデル	20	標本室	令和3年3月
301	東大型角度計	40	理学療法実習室	令和3年3月
302	手指用ゴニオメーター	10	理学療法実習室	令和3年3月
303	ピンチセンサー (モービィ用)	6	理学療法実習室	令和3年3月
304	モービィ	6	理学療法実習室	令和3年3月
305	ブルセンサー	6	理学療法実習室	令和3年3月
306	セメスワインスタインモノフィラメント	8	理学療法実習室	令和3年3月
307	握力センサー	1	理学療法実習室	令和3年3月
308	コールドバックCP (大)	10	理学療法実習室	令和3年3月
309	コールドバックCP (中)	10	理学療法実習室	令和3年3月
310	フィジオアクティブHV	1	理学療法実習室	令和3年3月
311	カイネタイザー	1	理学療法実習室	令和3年3月
312	放射温度計	8	理学療法実習室	令和3年3月
313	ATミニ2	3	理学療法実習室	令和3年3月
314	イトーESPURGE	5	理学療法実習室	令和3年3月
315	バックA (7桁) 背筋力計	1	理学療法実習室	令和3年3月
316	タイマー	16	理学療法実習室	令和3年3月
317	2ポイントディスクリミネーター	20	理学療法実習室	令和3年3月
318	ぼっけダブル肺活量計	16	理学療法実習室	令和3年3月
319	水銀レス血圧計 (スタンド型)	1	理学療法実習室	令和3年3月
320	マイク 水銀レス血圧計 プルー	40	理学療法実習室	令和3年3月
321	聴診器エコノミーS ブラック	40	理学療法実習室	令和3年3月
322	聴診器クラシカル ブラック	1	理学療法実習室	令和3年3月
323	視力表ワットル氏 (国際標準) 5m	1	理学療法実習室	令和3年3月
324	打鍵器米式テレー	20	理学療法実習室	令和3年3月
325	音叉 (ルーツェ氏) C調節子	20	理学療法実習室	令和3年3月

実習室における機器・器具・模型等一覧

No.	品名	数量	設置場所	整備時期
326	知覚ルーレット	20	理学療法実習室	令和3年3月
327	座高計DX	1	理学療法実習室	令和3年3月
328	メディマンメジャー2M8S	40	理学療法実習室	令和3年3月
329	治療ベッド 手動ホーム(02)	20	理学療法実習室	令和3年3月
330	H型DXベッド	20	理学療法実習室	令和3年3月
331	筆	20	理学療法実習室	令和3年3月
332	収納ケース	6	理学療法実習室	令和3年3月
333	体内脂肪計	16	理学療法実習室	令和3年3月
334	ARAT	1	理学療法実習室	令和3年3月
335	身長計シルバーワイド	1	理学療法実習室	令和3年3月
336	体重計(アナログ)	8	理学療法実習室	令和3年3月
337	フックの法則用、力測定器	1	理学療法実習室	令和3年3月
338	コードレスハンドマッサージャー ホワイト	4	理学療法実習室	令和3年3月
339	フィジオバックLL	3	理学療法実習室	令和3年3月
340	フィジオバックL	3	理学療法実習室	令和3年3月
341	フィジオバックM	3	理学療法実習室	令和3年3月
342	フィジオバックS	3	理学療法実習室	令和3年3月
343	フィジオバックウォーマー	1	理学療法実習室	令和3年3月
344	フィジオワゴン	1	理学療法実習室	令和3年3月
345	パラフィンバス(上肢用)	1	理学療法実習室	令和3年3月
346	バスリーダー	1	理学療法実習室	令和3年3月
347	超音波治療器	1	理学療法実習室	令和3年3月
348	テクノシックス	1	理学療法実習室	令和3年3月
349	マイクロタイザー	1	理学療法実習室	令和3年3月
350	赤外線治療器 ハートビーマ	1	理学療法実習室	令和3年3月
351	吸引シミュレーター Qちゃん	4	理学療法実習室	令和3年3月
352	ファインレーザー	1	理学療法実習室	令和3年3月
353	保護眼鏡 マイクロ用(イトー)	1	理学療法実習室	令和3年3月
354	キュータム	4	理学療法実習室	令和3年3月
355	トラックタイザー(頸椎及び腰椎牽引装置)	1	理学療法実習室	令和3年3月

専門科目に係る図書(和書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
1	質感の科学: 知覚・認知メカニズムと分析・表現の技術	朝倉書店	978-4-254-10274-1
2	人工知能に負けない脳: 人間らしく働き続ける5つのスキル	日本実業出版社	978-4-534-05309-1
3	神経ハイジャック: もしも「注意力」が奪われたら	英治出版	978-4-86276-214-6
4	脳がわかれば心がわかるか: 脳科学リテラシー養成講座 (homo viator)	太田出版	978-4-7783-1519-1
5	脳はいかに意識をつくるのか: 脳の異常から心の謎に迫る	白揚社	978-4-8269-0192-5
6	意識をめぐる冒険	岩波書店	978-4-00-005060-9
7	視聴覚融合の科学 (音響サイエンスシリーズ, 11)	コロナ社	978-4-339-01331-3
8	視覚実験研究ガイドブック	朝倉書店	978-4-254-52022-4
9	情報を生み出す触覚の知性: 情報社会をいきるための感覚のリテラシー (DOJIN選書, 63)	化学同人	978-4-7598-1663-1
10	触れることの科学: なぜ感じるのかどう感じるのか	河出書房新社	978-4-309-25353-4
11	皮膚感覚と人間のこころ (新潮選書)	新潮社	978-4-10-603722-1
12	ドミナンスファクター: 左?右?目・耳・手・足・脳半球の優位側を知ることで、あなたの学習能力は飛躍的に向上する。改訂増補版	永井書店	978-4-8159-1912-2
13	脳は記憶を消したがる (Forest 2545 Shinsyo, 094)	フォレスト出版	978-4-89451-942-8
14	つくられる偽りの記憶: あなたの思い出は本物か? (DOJIN選書, 62)	化学同人	978-4-7598-1662-4
15	ヒトの脳にはクセがある: 動物行動学的人間論 (新潮選書)	新潮社	978-4-10-603761-0
16	意志と脳	総合医学社	978-4-88378-620-6
17	「心は遺伝する」とどうして言えるのか: ふたご研究のロジックとその先へ	創元社	978-4-422-43026-3
18	錯視大解析: 脳がだまされるサイエンス心理学の世界 (Trick Eyes)	カンゼン	978-4-86255-194-8
19	最高の結果を引き出す質問力: その問いの方が、脳を変える!	河出書房新社	978-4-309-24784-7
20	脳科学とスピリチュアリティ	医学書院	978-4-260-01402-1
21	道程: オリヴァー・サックス自伝	早川書房	978-4-15-209589-3
22	フランシス・クリック: 遺伝暗号を発見した男	勁草書房	978-4-326-75055-9
23	時間と研究費(さいふ)にやさしいエコ実験	羊土社	978-4-7581-2068-5
24	医歯系学生のための物理学入門	永末書店	978-4-8160-1306-5
25	音のピッチ知覚 (音響サイエンスシリーズ, 15)	コロナ社	978-4-339-01335-1
26	視覚と照明	裳華房	978-4-7853-6026-9
27	化学入門	現代数学社	978-4-7687-0337-3
28	コ・メディカル化学: 医療・看護系のための基礎化学	裳華房	978-4-7853-3097-2
29	メディカル化学: 医歯薬系のための基礎化学	裳華房	978-4-7853-3091-0
30	医・薬・看護系のための化学	東京化学同人	978-4-8079-0704-5
31	まるわかり!基礎化学 (教養基礎シリーズ)	南山堂	978-4-525-05421-2
32	薬学物理化学, 第5版	廣川書店	978-4-567-22118-4
33	医歯薬系のための生物学: コアカリキュラムを基礎から学ぶ	講談社	978-4-06-153694-4
34	生命と健康百科	駿河台出版社	978-4-411-04015-2
35	医療・看護系のための生物学, 改訂版	裳華房	978-4-7853-5233-2
36	生物科学入門: 代謝・遺伝・恒常性	東京化学同人	978-4-8079-0722-9
37	わかる!身につく!生物・生化学・分子生物学, 改訂2版	南山堂	978-4-525-13142-5
38	アット・ザ・ヘルム: 自分のラボをもつ日のために, 第2版	メディカル・サイエンス・インターナショナル	978-4-89592-680-5
39	蛍光イメージング革命: 生命の可視化技術を知る・操る・創る (細胞工学別冊)	学研	978-4-7809-0835-0
40	超薄切片法の実際 (顕微鏡ラボマニュアル 7)	西村書店	978-4-89013-407-6

専門科目に係る図書(和書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
41	バイオ試薬調製ポケットマニュアル: 欲しい試薬がすぐにつくれる基本操作と注意・ポイント, 改訂	羊土社	978-4-7581-2049-4
42	医学のための細胞生物学	南山堂	978-4-525-13121-0
43	in vivoイメージング実験プロトコール: 原理と導入のポイントから2光子顕微鏡の応用まで(最強のステップUPシリーズ)	羊土社	978-4-7581-0185-1
44	あなたの細胞培養、大丈夫ですか?: ラボの事例から学ぶ結果を出せる「培養力」	羊土社	978-4-7581-2061-6
45	細胞・組織染色の達人: 実験を正しく組む、行う、解釈する免疫染色とISHの鉄板テクニック(実験医学別冊)	羊土社	978-4-7581-2237-5
46	初めてでもできる!超解像イメージング: STED、PALM、STORM、SIM、顕微鏡システムの選定から撮影のコツと撮像例まで(最強のステップUPシリーズ)	羊土社	978-4-7581-0195-0
47	実験医学 別冊: 目的別で選べる細胞培養プロトコール 培養操作に磨きをかける!基本の細胞株・ES・iPS細胞の知っておくべき性質から品質検査まで	羊土社	978-4-7581-0183-7
48	結末への道筋: アポトーシスとさまざまな細胞死	メディカル・サイエンス・インターナショナル	978-4-89592-711-6
49	細胞のシグナル伝達: システムとしての共通原理にもとづく理解	メディカル・サイエンス・インターナショナル	978-4-89592-857-1
50	オートファジー: 分子メカニズムの理解から病態の解明まで(The Frontiers in Life Sciences)	南山堂	978-4-525-13481-5
51	エクソソーム解析マスターレッスン: miRNA研究からがん診断まで応用∞!(最強のステップUPシリーズ)	羊土社	978-4-7581-0192-9
52	見てわかる生化学: カラー図解, 第2版	メディカル・サイエンス・インターナショナル	978-4-89592-797-0
53	メタボロミクス: その解析技術と臨床・創薬応用研究の最前線(遺伝子医学MOOK)	メディカルドゥ	978-4-944157-46-4
54	生化学がわかる: 基礎の基礎からしっかり理解できる!やさしく楽しい生化学(ファーストブック)	技術評論社	978-4-7741-4826-7
55	元素からみた生化学, 第4版	金芳堂	978-4-7653-1465-7
56	好きになる生化学: 生体内で進み続ける化学反応(好きになるシリーズ)	講談社	978-4-06-154157-3
57	ワークブックで学ぶヒトの生化学: 構造・酵素・代謝	裳華房	978-4-7853-5859-4
58	カラー生化学, 第4版	西村書店	978-4-89013-450-2
59	はじめの一步の生化学・分子生物学, 第3版	羊土社	978-4-7581-2072-2
60	Essentialタンパク質科学	南江堂	978-4-524-26864-1
61	目的別で選べるタンパク質発現プロトコール: 発現系の選択から精製までの原理と操作	羊土社	978-4-7581-0175-2
62	コラーゲン物語, 第2版(科学のとびら, 52)	東京化学同人	978-4-8079-1292-6
63	基礎・応用・臨床微生物学と実験	光生館	978-4-332-04056-9
64	休み時間の微生物学: 1テーマ10分, 第2版(休み時間シリーズ)	講談社	978-4-06-155717-8
65	住まいとカビと病原性: カビはどの程度危険か	八坂書房	978-4-89694-935-3
66	医療に役立つ遺伝子関連Web情報検索: 手とり足とり教えますガイド	メディカル・サイエンス・インターナショナル	978-4-89592-861-8
67	ヒトの分子遺伝学, 第4版	メディカル・サイエンス・インターナショナル	978-4-89592-691-1
68	遺伝情報の発現制御: 転写機構からエピジェネティクスまで	メディカル・サイエンス・インターナショナル	978-4-89592-697-3
69	エピジェネティクス実験スタンダード: もう悩まない!ゲノム機能制御の読み解き方	羊土社	978-4-7581-0199-8
70	原理からよくわかるリアルタイムPCR完全実験ガイド, 改訂新版(実験医学別冊 最強のステップUPシリーズ)	羊土社	978-4-7581-0187-5
71	ゲノム編集の衝撃: 「神の領域」に迫るテクノロジー	NHK出版	978-4-14-081702-5
72	ゲノム編集入門: ZFN・TALEN・CRISPR-Cas9	裳華房	978-4-7853-5866-2
73	実験医学別冊 最強のステップUPシリーズ: 今すぐ始めるゲノム編集 TALEN&CRISPR/Cas9の必須知識と実験プロトコール	羊土社	978-4-7581-0190-5
74	目的別で選べる遺伝子導入プロトコール: 発現解析とRNAi実験がこの1冊で自由自在!最高水準の結果を出すための実験テクニック	羊土社	978-4-7581-0184-4
75	論文だけではわからないゲノム編集成功の秘訣Q&A: TALEN、CRISPR/Cas9の極意	羊土社	978-4-7581-0193-6
76	エピジェネティクスと病気(遺伝子医学MOOK, 25)	メディカルドゥ	978-4-944157-55-6
77	次世代シーケンサー: 目的別アドバンスドメソッド(細胞工学別冊)	学研メディカル秀潤社	978-4-7809-0855-8
78	環境とエピゲノム: からだは環境によって変わるのか?	丸善出版	978-4-621-30272-9
79	1000ドルゲノム: 10万円でわかる自分の設計図	創元社	978-4-422-41086-9
80	NGSアプリケーションRNA-Seq実験ハンドブック: 発現解析からncRNA、シングルセルまであらゆる局面を網羅!	羊土社	978-4-7581-0194-3

専門科目に係る図書(和書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
81	エピジェネティクスキーワード事典: イラストで徹底理解する	羊土社	978-4-7581-2046-3
82	驚異のエピジェネティクス: 遺伝子がすべてではない?生命のプログラムの秘密	羊土社	978-4-7581-2048-7
83	次世代シーケンス解析スタンダード: NGSのポテンシャルを活かしきる WET&DRY	羊土社	978-4-7581-0191-2
84	進化: 分子・個体・生態系	メディカル・サイエンス・インターナショナル	978-4-89592-621-8
85	基礎から学ぶ神経生物学	オーム社	978-4-274-21195-9
86	脳と性	朝倉書店	978-4-254-10244-4
87	「においオブジェクト」を学ぶ: 神経生物学から行動科学が示すにおいの知覚	フレグランスジャーナル社	978-4-89479-228-9
88	匂いコミュニケーション: フェロモン受容の神経科学(ブレインサイエンス・レクチャー, 1)	共立出版	978-4-320-05791-3
89	昆虫の脳をつくる: 君のパソコンに脳をつくってみよう	朝倉書店	978-4-254-10277-2
90	医学一般: 人体の構造と機能および疾病, 改訂	ふくろう出版	978-4-86186-419-3
91	医療系のための物理学入門	講談社	978-4-06-156325-4
92	数学いらずの医科統計学, 第2版	メディカル・サイエンス・インターナショナル	978-4-89592-670-6
93	人間の許容限界事典, 新装版	朝倉書店	978-4-254-10273-4
94	マウス解剖イラストレイテッド: 動画でわかる解剖手技と細胞組織像, 改訂版(細胞工学別冊)	学研メディカル秀潤社	978-4-7809-0878-7
95	トランスジェニック・ノックアウトマウスの行動解析	西村書店	978-4-89013-427-4
96	完全版マウス・ラット疾患モデル活用ハンドブック(活用ハンドブック)	羊土社	978-4-7581-2017-3
97	完訳医界之鉄椎	たにぐち書店	978-4-86129-121-0
98	中国医学辞典: 鍼灸編	たにぐち書店	978-4-86129-124-1
99	医界之鉄椎	たにぐち書店	978-4-86129-122-7
100	一語でわかる中医用語辞典	源草社	978-4-906668-73-1
101	臨床医のための漢方診療ハンドブック	日経BP出版センター	978-4-931400-58-0
102	内経気象学入門: 鍼灸治療	緑書房	978-4-89531-844-0
103	三大法則で解き明かす漢方・中医学入門: 基礎理論とエキス製剤による臨床	燎原	978-4-89748-110-4
104	イラストレイテッド統合臨床基礎医学(リップンコットシリーズ)	丸善出版	978-4-621-30244-6
105	医療・福祉系学生のための専門基礎科目, 改訂2版	金芳堂	978-4-7653-1562-3
106	医業系のための生物学	裳華房	978-4-7853-5224-0
107	人体の正常構造と機能(全10巻縮刷版): カラー図解, 改訂第3版	日本医事新報社	978-4-7849-3180-4
108	カラー図解人体の正常構造と機能: 1 呼吸器, 改訂第3版	日本医事新報社	978-4-7849-3218-4
109	カラー図解人体の正常構造と機能: 2 循環器, 改訂第3版	日本医事新報社	978-4-7849-3219-1
110	カラー図解人体の正常構造と機能: 3 消化管, 改訂第3版	日本医事新報社	978-4-7849-3220-7
111	カラー図解人体の正常構造と機能: 4 肝・胆・膵, 改訂第3版	日本医事新報社	978-4-7849-3221-4
112	カラー図解人体の正常構造と機能: 5 腎・泌尿器, 改訂第3版	日本医事新報社	978-4-7849-3222-1
113	カラー図解人体の正常構造と機能: 6 生殖器, 改訂第3版	日本医事新報社	978-4-7849-3223-8
114	カラー図解人体の正常構造と機能: 7 血液・免疫・内分泌, 改訂第3版	日本医事新報社	978-4-7849-3224-5
115	カラー図解人体の正常構造と機能: 8 神経系, 改訂第3版	日本医事新報社	978-4-7849-3225-2
116	カラー図解人体の正常構造と機能: 9 神経系, 改訂第3版	日本医事新報社	978-4-7849-3226-9
117	カラー図解人体の正常構造と機能: 10 運動器, 改訂第3版	日本医事新報社	978-4-7849-3227-6
118	面白くて眠れなくなる解剖学	PHPエディターズ・グループ	978-4-569-83609-6
119	しくみが見える体の図鑑: 美しいビジュアルで人体の構造と機能が一目でわかる	エクスナレッジ	978-4-7678-1442-1
120	世界で一番美しい人体図鑑	エクスナレッジ	978-4-7678-1143-7

専門科目に係る図書(和書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
121	カラーで学ぶ解剖生理学, 第2版	エルゼビア・ジャパン	978-4-89592-906-6
122	ヒューマンボディ: からだがわかる解剖生理学, 原著第5版	エルゼビア・ジャパン	978-4-86034-310-1
123	メディカルマスター解剖学 (Medical Master)	オーム社	978-4-274-21422-6
124	からだの構造と機能: 理学療法のための詳しい機能解剖学: 1 脊柱の基礎 頸椎と頭蓋 胸椎と胸郭 上肢	ガイアブックス	978-4-88282-795-5
125	からだの構造と機能: 2 下肢の詳しい機能解剖学	ガイアブックス	978-4-88282-815-0
126	解剖生理学図鑑: ヒトのからだの全てが初心者でもわかる決定版!!	ガイアブックス	978-4-88282-864-8
127	解剖学: 人体の構造と機能, 新訂版 (図解ワンポイント)	サイオ出版	978-4-907176-46-4
128	解剖生理: 人体のしくみとはたらき, 新訂版 (ニューワークブック)	サイオ出版	978-4-907176-62-4
129	解剖生理トレーニングブック	サイオ出版	978-4-907176-50-1
130	解剖生理をおもしろく学ぶ, 新訂版	サイオ出版	978-4-907176-28-0
131	身体のしくみとはたらき: 楽しく学ぶ解剖生理	サイオ出版	978-4-907176-18-1
132	人体解剖ビジュアル: からだの仕組みと病気, 新訂版	サイオ出版	978-4-907176-27-3
133	解剖生理学: からだの構造と動きがひと目でわかる (初めの一步は絵で学ぶ)	じほう	978-4-8407-4588-8
134	「なぜ?」からはじめる解剖生理学	ナツメ社	978-4-8163-6294-1
135	これでわかる!人体解剖パーフェクト事典	ナツメ社	978-4-8163-5681-0
136	史上最強図解これならわかる!解剖学	ナツメ社	978-4-8163-5522-6
137	早わかり解剖学ハンドブック	ナツメ社	978-4-8163-4978-2
138	竹内先生の楽しくわかる解剖生理 人のからだにある“あな”	ナツメ社	978-4-8163-5907-1
139	試験に出る!「解剖・生理学」チェックノート: ゼロからわかるカラダの基本としくみ (New Medical Management)	ぱる出版	978-4-8272-0989-1
140	アリス博士の人体メディカルツアー: 早死にしないための解剖学入門	フィルムアート社	978-4-8459-1590-3
141	モーション解剖アトラス下肢・骨盤 (DVDで動きがわかる)	メジカルビュー社	978-4-7583-1034-5
142	モーション解剖アトラス脊椎 (DVDで動きがわかる)	メジカルビュー社	978-4-7583-1037-6
143	集中講義解剖学: カラーイラストで学ぶ	メジカルビュー社	978-4-7583-0088-9
144	ムーア臨床解剖学, 第3版	メディカル・サイエンス・インターナショナル	978-4-89592-841-0
145	臨床のための解剖学, 第2版	メディカル・サイエンス・インターナショナル	978-4-89592-838-0
146	身体(からだ)が見える・疾患を学ぶ解剖アトラス: ソボッタの解剖図に秘められた人体の世界	メディカ出版	978-4-8404-4568-9
147	読んでわかる解剖生理学: テキスト (manavi)	医学教育出版社	978-4-87163-465-6
148	イラストでまなぶ解剖学, 第3版	医学書院	978-4-260-03252-0
149	プロメテウス解剖学アトラス: 胸部/腹部・骨盤部, 第2版	医学書院	978-4-260-01411-3
150	プロメテウス解剖学アトラス: 解剖学総論/運動器系, 第3版	医学書院	978-4-260-02534-8
151	プロメテウス解剖学コアアトラス, 第2版	医学書院	978-4-260-01932-3
152	解剖実習カラーテキスト	医学書院	978-4-260-01702-2
153	機能解剖ポケットブック	医学書院	978-4-260-00825-9
154	人体の構造と機能, 第4版	医学書院	978-4-260-02055-8
155	標準解剖学 (Standard Textbook)	医学書院	978-4-260-02473-0
156	いらすと!はじめての解剖学	テコム/医学評論社	978-4-86399-292-4
157	インスタントアナトミー, 原著第3版	医歯薬出版	978-4-263-21429-9
158	解剖学: イラスト・ふりがな付き (メディカル・イメージブック)	医歯薬出版	978-4-263-21350-6
159	解剖学ワークブック	医歯薬出版	978-4-263-24063-2
160	学生のための解剖・組織・発生学, 第2版	医歯薬出版	978-4-263-42248-9

専門科目に係る図書(和書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
161	おもしろい解剖学: 筋と骨のキホンがマンガでわかる!	医道の日本社	978-4-7529-3121-8
162	解剖学マスター: 国家試験対策	医道の日本社	978-4-7529-5146-9
163	のほほん解剖生理学	永岡書店	978-4-522-43461-1
164	解剖生理学超速!ゴロ勉	永岡書店	978-4-522-43587-8
165	エッセンシャル解剖・生理学, 新版(臨床工学ライブラリーシリーズ)	学研メディカル秀潤社	978-4-7809-0804-6
166	トートラ解剖学, 第2版	丸善出版	978-4-621-08279-9
167	Big Picture解剖学	丸善出版	978-4-621-08842-5
168	トートラ人体の構造と機能, 第4版	丸善出版	978-4-621-08576-9
169	トートラ人体解剖生理学, 原書10版	丸善出版	978-4-621-30069-5
170	プラクティカル解剖実習 四肢・体幹・頭頸部: 解剖の手順を写真と図で明示	丸善出版	978-4-621-30140-1
171	ボディセラピーのためのトートラ標準解剖生理学	丸善出版	978-4-621-08320-8
172	解剖生理学がわかる: 基礎の基礎からやさしく解説!誰でもわかる解剖生理(ファーストブック)	技術評論社	978-4-7741-5055-0
173	ものがたりの解剖学	金原出版	978-4-307-03054-0
174	からだの動きの解剖生理学	金芳堂	978-4-7653-1470-1
175	解剖学, 第11版(MINOR TEXTBOOK)	金芳堂	978-4-7653-1739-9
176	実習にも役立つ人体の構造と体表解剖	金芳堂	978-4-7653-1707-8
177	人体の解剖生理学, 第2版	金芳堂	978-4-7653-1709-2
178	人体解剖学ノート, 改訂8版	金芳堂	978-4-7653-1631-6
179	からだの地図帳, 新版	講談社	978-4-06-261025-4
180	休み時間の解剖生理学: 1テーマ10分(休み時間シリーズ)	講談社	978-4-06-155711-6
181	医療を学ぶ学生のための解剖の手引き:モチベーションを上げる解剖実習	時潮社	978-4-7888-0707-5
182	セラピストなら知っておきたい解剖生理学	秀和システム	978-4-7980-3084-5
183	見て読んで学ぶ人体解剖生理学	真興交易(株)医書出版部	978-4-88003-598-7
184	カラー基本解剖アトラス	西村書店	978-4-89013-415-1
185	カラー人体図鑑: ビジュアル・アナトミー	西村書店	978-4-89013-388-8
186	グラント解剖学実習	西村書店	978-4-89013-387-1
187	パンスキー ジェスト解剖学: 基礎と臨床に役立つ: 1 背部・上肢・下肢	西村書店	978-4-89013-457-1
188	パンスキー ジェスト解剖学: 基礎と臨床に役立つ: 2 胸部・腹部・骨盤と会陰	西村書店	978-4-89013-458-8
189	パンスキー ジェスト解剖学: 基礎と臨床に役立つ: 3 頸部・頭部・脳と脳神経	西村書店	978-4-89013-459-5
190	解体新書, 復刻版	西村書店	978-4-89013-463-2
191	人体解剖の基本がわかる事典: カラー図解	西東社	978-4-7916-1834-7
192	人体の物語: 解剖学から見たヒトの不思議	早川書房	978-4-15-209476-6
193	解剖学, 改訂3版(コメディカルのための専門基礎分野テキスト)	中外医学社	978-4-498-07690-7
194	解剖学ワークブック, 2版	中外医学社	978-4-498-00029-2
195	できるわかる人体解剖実習	哲学堂出版	978-4-906979-01-1
196	はじめての解剖生理学: むりえて覚える人体の仕組み	東海大学出版部	978-4-486-02082-0
197	解剖学・発生学(インテグレートッドシリーズ, 3)	東京化学同人	978-4-8079-1645-0
198	ネッター解剖学カラーリングテキスト	南江堂	978-4-524-26249-6
199	はじめての解剖生理学: 人体の構造と機能	南江堂	978-4-524-26448-3
200	人体解剖学実習: 要点と指針	南江堂	978-4-524-24354-9

専門科目に係る図書(和書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
201	体表からわかる人体解剖学: ポケットチューター	南江堂	978-4-524-26683-8
202	入門人体解剖学, 改訂第5版	南江堂	978-4-524-24237-5
203	解剖学講義, 改訂3版	南山堂	978-4-525-10053-7
204	医療職をめざす人の解剖学はじめての一步: 東大講義録	日本医事新報社	978-4-7849-3215-3
205	解剖実習マニュアル: 剖出の手順と観察のポイントを完全図解	日本医事新報社	978-4-7849-3200-9
206	新解剖学, 改訂第6版 フルカラー新装版 (Qシリーズ)	日本医事新報社	978-4-7849-1173-8
207	人体の全解剖図鑑: 知りたいことが1冊ですべてわかる!	日本文芸社	978-4-537-21318-8
208	なっとく解剖生理学: 1 やりとりする細胞と血液	文光堂	978-4-8306-0037-1
209	なっとく解剖生理学: 2 ぐるぐる回す循環器	文光堂	978-4-8306-0038-8
210	なっとく解剖生理学: 3 ぐるぐる回る呼吸器	文光堂	978-4-8306-0039-5
211	解剖学アトラス, 原著第10版	文光堂	978-4-8306-0036-4
212	分冊解剖学アトラス: 2 内臓, 第6版	文光堂	978-4-8306-0033-3
213	分冊解剖学アトラス: 3 神経系と感覚器, 第6版	文光堂	978-4-8306-0034-0
214	世界一わかりやすいAR人体図鑑: 360度全方位見られる!	宝島社	978-4-8002-8105-0
215	世界一簡単にわかる人体解剖図鑑: 素晴らしく精密で驚異の働きをする人体のすべて	宝島社	978-4-8002-4534-2
216	人体の構造と機能 (放送大学教材)	放送大学教育振興会	978-4-595-31869-6
217	解剖生理学: 人体の構造と機能 (栄養科学イラストレイテッド)	羊土社	978-4-7581-0869-0
218	臨床につながる解剖学イラストレイテッド	羊土社	978-4-7581-2025-8
219	阿波清一郎の解剖学語呂合わせ: 医学部, 歯学部&コメディカル用	理工図書	978-4-8446-0835-6
220	解剖学 (コメディカル専門基礎科目シリーズ)	理工図書	978-4-8446-0817-2
221	図解解剖学事典, 第3版	医学書院	978-4-260-00006-2
222	わかる!解剖生理用語チェック1000: 電子版利用権付	医歯薬出版	978-4-263-23558-4
223	からだの地図帳解剖学用語	講談社	978-4-06-261026-1
224	人体解剖学・組織学用語集, 改訂版	三恵社	978-4-88361-932-0
225	人体解剖用語ポケット事典: パッと引けてしっかり使える	成美堂出版	978-4-415-31014-5
226	解剖学イラスト事典, 第3版	中外医学社	978-4-498-00038-4
227	グレイ解剖学アトラス, 原著第2版	エルゼビア・ジャパン	978-4-86034-307-1
228	ネッター解剖学 セット版(電子書籍付): アトラス・別冊学習の手引き, 原書第6版	南江堂	978-4-524-25559-7
229	ネッター解剖学アトラス, 原書第6版	南江堂	978-4-524-25967-0
230	人体解剖カラーアトラス, 原書第7版	エルゼビア・ジャパン	978-4-524-26117-8
231	3D解剖アトラス, 第2版	医学書院	978-4-260-01614-8
232	カラーアトラス人体: 解剖と機能, 第4版	医学書院	978-4-260-01646-9
233	グラント解剖学図譜, 第7版	医学書院	978-4-260-02086-2
234	解剖学スケッチ練習帳	共立出版	978-4-320-06180-4
235	線描人体解剖学, 増補第3版	考古堂書店	978-4-87499-817-5
236	線描体表解剖学: デルマトームへの挑戦	考古堂書店	978-4-87499-811-3
237	ヒューマン・ボディからだの図鑑: <からだと病気>詳細図鑑	主婦の友社	978-4-07-294912-2
238	ヴォルフ カラー人体解剖学図譜	西村書店	978-4-89013-393-2
239	カラーアトラス機能組織学, 原著第2版	エルゼビア・ジャパン	978-4-263-73146-8
240	iPS細胞が再生医療の扉を開く (SUPERサイエンス)	シーアンドアール研究所	978-4-86354-039-2

専門科目に係る図書(和書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
241	iPS細胞の産業的応用技術 (CMC Books)	シーエムシー出版	978-4-7813-0122-8
242	美しい人体図鑑: ミクロの目で見る細胞の世界	ポプラ社	978-4-591-14213-4
243	ガートナー/ハイアット組織学アトラスとテキスト, 第3版	メディカル・サイエンス・インターナショナル	978-4-89592-788-8
244	iPS細胞物語	リバネス出版	978-4-903168-42-5
245	標準組織学各論, 第5版	医学書院	978-4-260-02404-4
246	標準組織学総論: 総論, 第5版	医学書院	978-4-260-01531-8
247	新編カラーアトラス組織・細胞学	医歯薬出版	978-4-263-45805-1
248	カラーポケット組織学	西村書店	978-4-89013-482-3
249	クルスティッチ立体組織学アトラス	西村書店	978-4-89013-472-4
250	医学細胞生物学	東京化学同人	978-4-8079-0720-5
251	diFiore人体組織図譜, 原書第11版	南江堂	978-4-524-26004-1
252	組織細胞生物学, 原書第3版	南江堂	978-4-524-26971-6
253	入門組織学, 改訂第2版	南江堂	978-4-524-21617-8
254	新組織学: フルカラー新装版, 改訂第6版 (Qシリーズ)	日本医事新報社	978-4-7849-1178-3
255	実験医学 別冊: ES・iPS細胞実験スタンダード 再生・創薬・疾患研究のプロトコールと臨床応用の必須知識	羊土社	978-4-7581-0189-9
256	筋膜系の機能解剖アトラス	医歯薬出版	978-4-263-26556-7
257	人の生きた筋膜の構造: 内視鏡検査を通して示される細胞外マトリックスと細胞	医道の日本社	978-4-7529-3124-9
258	エンドレス・ウェブ: 身体の動きをつくり出す筋膜の構造とつながり	市村出版	978-4-902109-20-7
259	血管インパクト (イラストと雑学で楽しく学ぶ解剖学)	医道の日本社	978-4-7529-3123-2
260	内臓のしくみ・はたらき事典: カラー図解	西東社	978-4-7916-1765-4
261	プロメテウス解剖学アトラス: 口腔・頭頸部	医学書院	978-4-260-01338-3
262	おっばいの科学	東洋書林	978-4-88721-814-7
263	塗って覚えて理解する!筋・骨・神経の機能解剖	メディカ出版	978-4-8404-4069-1
264	カラー写真で学ぶ骨・関節の機能解剖	医歯薬出版	978-4-263-24255-1
265	新骨の科学, 第2版	医歯薬出版	978-4-263-45795-5
266	ボーンインパクト (イラストと雑学で楽しく学ぶ解剖学, 2)	医道の日本社	978-4-7529-3105-8
267	筋肉と関節しくみと動きが見える事典: 運動器の超入門書	永岡書店	978-4-522-43644-8
268	線描骨学実習, 第2版	考古堂書店	978-4-87499-775-8
269	運動器局所解剖アトラス	中山書店	978-4-521-74330-1
270	ビジュアル機能解剖: セラピストのための運動学と触知ガイド	南江堂	978-4-524-26286-1
271	骨学実習アトラス: 写真と解説	日本医事新報社	978-4-7849-3205-4
272	知りたいことがすべてわかる骨と関節のしくみとはたらき: カラー完全図解	日本文芸社	978-4-537-21029-3
273	筋肉と関節の機能解剖パーフェクト事典	ナツメ社	978-4-8163-6069-5
274	マッスルインパクト: イラストと雑学で楽しく学ぶ解剖学	医道の日本社	978-4-7529-5168-1
275	からだと筋肉のしくみ: 世界一ゆる〜いイラスト解剖学	高橋書店	978-4-471-03251-7
276	ゴロから覚える筋肉&神経	中山書店	978-4-521-73700-3
277	知りたいことがすべてわかる筋肉のしくみとはたらき: カラー完全図解	日本文芸社	978-4-537-20981-5
278	神経解剖学: イラストレイテッドカラーテキスト, 原著第5版	エルゼビア・ジャパン	978-4-89590-598-5
279	臨床神経解剖学, 原著第6版	エルゼビア・ジャパン	978-4-263-73151-2
280	ハインズ神経解剖学アトラス, 第4版	メディカル・サイエンス・インターナショナル	978-4-89592-750-5

専門科目に係る図書(和書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
281	神経解剖集中講義, 第2版	医学書院	978-4-260-01491-5
282	神経インパクト: イラストと語呂で楽しく学ぶ解剖学	医道の日本社	978-4-7529-3118-8
283	神経解剖学講義ノート: カラー図解	金芳堂	978-4-7653-1506-7
284	ブルーメンフェルトカラー神経解剖学: 臨床例と画像鑑別診断	西村書店	978-4-89013-466-3
285	マーティンカラー神経解剖学: テキストとアトラス, 第4版	西村書店	978-4-89013-460-1
286	人脳解剖学自習書: 立体的理解を求めて	クバプロ	978-4-87805-118-0
287	脳ナビ: 超ビジュアル解説!	医学教育出版社	978-4-87163-473-1
288	プラクティカル解剖実習 脳	丸善出版	978-4-621-08614-8
289	頭のなかをのぞく: 神経解剖学入門	中山書店	978-4-521-73771-3
290	聴覚モデル (音響サイエンスシリーズ, 3)	コロナ社	978-4-339-01323-8
291	手の百科事典	朝倉書店	978-4-254-10267-3
292	ラングマン人体発生学, 第11版	メディカル・サイエンス・インターナショナル	978-4-89592-839-7
293	ムーア人体発生学, 原著第8版	医歯薬出版	978-4-263-73134-5
294	クイックレビュー臨床発生学, 原書4版	丸善出版	978-4-621-08659-9
295	人体発生学講義ノート: カラー図解, 第2版	金芳堂	978-4-7653-1740-5
296	発生学, 第6版 (医学要点双書)	金芳堂	978-4-7653-1454-1
297	ヒト発生学の3次元アトラス (3D Anatomy Project)	日本医事新報社	978-4-7849-3210-8
298	新発生学, 改訂第4版 フルカラー新装版 (Qシリーズ)	日本医事新報社	978-4-7849-1189-9
299	脳の発生学: ニューロンの誕生・分化・回路形成 (DOJIN BIOSCIENCE SERIES, 07)	化学同人	978-4-7598-1507-8
300	脳の発生・発達: 神経発生学入門 (脳科学ライブラリー, 2)	朝倉書店	978-4-254-10672-5
301	ヒトの変異: 人体の遺伝的多様性について, 新装版	みずず書房	978-4-622-07885-2
302	人体: ミクロの大冒険	KADOKAWA	978-4-04-110758-4
303	面白くて眠れなくなる人体	PHPエディターズ・グループ	978-4-569-80823-9
304	面白いほど理解できる生理学: 超入門! (TACメディカルサイエンスシリーズ)	TAC出版	978-4-8132-4854-5
305	人を知る、人を測る	インデックス出版	978-4-901092-66-1
306	ガイドン生理学, 原著第13版 (Student Consult)	エルゼビア・ジャパン	978-4-86034-774-1
307	生理学: 図解ワンポイント, 新訂版	サイオ出版	978-4-907176-36-5
308	体内時計の科学と産業応用, 普及版 ([CMCテクニカルライブラリー]バイオテクノロジーシリーズ, 616)	シーエムシー出版	978-4-7813-1202-6
309	はじめての生理学 (史上最強カラー図解)	ナツメ社	978-4-8163-5635-3
310	史上最強図解これならわかる!生理学	ナツメ社	978-4-8163-5151-8
311	早わかり生理学ハンドブック: オールカラー	ナツメ社	978-4-8163-4979-9
312	医療系学生のための生理基礎科学: 基礎医学学習へのプロローグ	ふくろう出版	978-4-86186-418-6
313	生理学の基本 (運動・からだ図解)	マイナビ出版	978-4-8399-4773-6
314	集中講義生理学: カラーイラストで学ぶ, 改訂2版	メジカルビュー社	978-4-7583-0095-7
315	よくわかる生理学の基礎: カラー図解, 第2版	メディカル・サイエンス・インターナショナル	978-4-89592-893-9
316	イメカラ: イメージするカラダのしくみ: 循環器	メディックメディア	978-4-89632-334-4
317	イメカラ: イメージするカラダのしくみ: 腎臓	メディックメディア	978-4-89632-433-4
318	イメカラ: イメージするカラダのしくみ: 消化管, 第1版	メディックメディア	978-4-89632-508-9
319	イメカラ: イメージするカラダのしくみ: 肝・胆・膵	メディックメディア	978-4-89632-607-9
320	イメカラ: イメージするカラダのしくみ: 内分泌・代謝	メディックメディア	978-4-89632-688-8

専門科目に係る図書(和書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
321	人体生理学の基礎, 改訂第2版	医学出版社	978-4-87055-135-0
322	イラストでまなぶ人体のしくみとはたらき, 第2版	医学書院	978-4-260-01507-3
323	イラストでまなぶ生理学, 第3版	医学書院	978-4-260-02834-9
324	みるよわかる生理学: ヒトの体はこんなにすごい	医学書院	978-4-260-02120-3
325	生きているしくみがわかる生理学	医学書院	978-4-260-02833-2
326	目でみるからだのメカニズム, 第2版	医学書院	978-4-260-02776-2
327	やさしい生理, 新訂	医歯薬出版	978-4-263-24276-6
328	生理学: イラスト・ふりがな付き(メディカル・イメージブック)	医歯薬出版	978-4-263-21349-0
329	生理学, 第3版	医歯薬出版	978-4-263-24172-1
330	生理学ワークブック	医歯薬出版	978-4-263-24279-7
331	生理学実習NAVI, 第2版	医歯薬出版	978-4-263-24072-4
332	体からのシグナル: 体と心が発する信号を正しく理解して最高の健康を手に入れる	科学新聞社	978-4-86120-027-4
333	マインドマップでつながる!わかる!解剖・機能・症状・疾患	学研メディカル秀潤社	978-4-7809-1210-4
334	病棟で働く人のための生理学, 改訂第4版	学研メディカル秀潤社	978-4-7809-0871-8
335	カラダの百科事典	丸善出版	978-4-621-08172-3
336	イラストレイテッド生理学(リップニコットシリーズ)	丸善出版	978-4-621-08800-5
337	オックスフォード・生理学, 原書4版	丸善出版	978-4-621-30008-4
338	ギャング生理学, 原書25版(Lange Textbookシリーズ)	丸善出版	978-4-621-30188-3
339	人体生理学ノート, 第8版	金芳堂	978-4-7653-1745-0
340	生理学, 第8版(MINOR TEXTBOOK)	金芳堂	978-4-7653-1505-0
341	ボディメカニズム: リハビリ、スポーツのための生理解剖学	秀和システム	978-4-7980-4720-1
342	図説人体の不思議: 1 血液と臓器の小宇宙	秀和システム	978-4-7980-5057-7
343	図説人体の不思議: 2 五感と生殖の小宇宙	秀和システム	978-4-7980-5058-4
344	世界一やさしい!からだ図鑑	新星出版社	978-4-405-09352-2
345	医療系学生のための図解生理学TEXT&NOTE	診断と治療社	978-4-7878-2141-6
346	人体の構造と働き(心身健康科学シリーズ-Knowledge for well-being-)	人間総合科学大学	978-4-87738-372-5
347	いちばんやさしい生理学	成美堂出版	978-4-415-32071-7
348	生理学の基本がわかる事典: カラー図解	西東社	978-4-7916-1793-7
349	ひと目でわかる体のしくみとはたらき図鑑(イラスト授業シリーズ)	創元社	978-4-422-41095-1
350	じつはと~ってもへんな人のからだ	総合法令出版	978-4-86280-601-7
351	からだの発達と加齢の科学	大修館書店	978-4-469-26740-2
352	脳と人体探求	築地書館	978-4-8067-1481-1
353	生理学, 3版(コメディカルのための専門基礎分野テキスト)	中外医学社	978-4-498-07656-3
354	マンガでわかる生理学	中山書店	978-4-521-73157-5
355	マンガでわかる生理学: 2	中山書店	978-4-521-73210-7
356	わかりやすい人体の構造と機能	中山書店	978-4-521-73762-1
357	光と人間の生活ハンドブック: 普及版	朝倉書店	978-4-254-10241-3
358	身体(からだ)のからくり事典, 縮刷版	朝倉書店	978-4-254-64038-0
359	生理学(インテグレートッドシリーズ, 5)	東京化学同人	978-4-8079-1644-3
360	NHKスペシャル人体: 第1巻 神秘的巨大ネットワーク/"腎臓"が寿命を決める	東京書籍	978-4-487-81095-6

専門科目に係る図書(和書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
361	NHKスペシャル人体: 神秘の巨大ネットワーク: 2 第2集 驚きのパワー!“脂肪と筋肉”が命を守る/第3集 “骨”が出す!最高の若返り物質	東京書籍	978-4-487-81096-3
362	カラダのふしぎカラダのしくみ: 知ってなっとく!身近な解剖学	東山書房	978-4-8278-1521-4
363	シンプル生理学, 改訂第7版	南江堂	978-4-524-26664-7
364	やさしい生理学, 改訂第7版	南江堂	978-4-524-25417-0
365	新しい解剖生理学, 改訂第12版	南江堂	978-4-524-26044-7
366	人体機能生理学, 改訂第5版	南江堂	978-4-524-25364-7
367	生理学実習書, 新訂	南江堂	978-4-524-26258-8
368	トコトンやさしい人体のしくみの本 (B&Tブックス)	日刊工業新聞社	978-4-526-07409-7
369	N教授の生理学講義ノート: 人体のしくみとしかけをわかりやすく伝授	日本医事新報社	978-4-7849-4561-0
370	新生理学, 改訂第6版 フルカラー新装版 (Qシリーズ)	日本医事新報社	978-4-7849-1170-7
371	図解人体のヒミツ: ヒトのカラダがよくわかる	日本文芸社	978-4-537-21390-4
372	PT・OTのための生理学テキスト	文光堂	978-4-8306-4547-1
373	スタンダード生理学, 第3版	文光堂	978-4-8306-0227-6
374	生理学, 改訂第18版	文光堂	978-4-8306-0230-6
375	生理学テキスト, 第8版	文光堂	978-4-8306-0229-0
376	生理学問題集: CBT準拠	文光堂	978-4-8306-0228-3
377	はじめの一步のイラスト生理学, 改訂第2版 (はじめて学ぶ人のための目で見える教科書)	羊土社	978-4-7581-2029-6
378	解剖生理や生化学をまなぶ前の楽しくわかる生物・化学・物理	羊土社	978-4-7581-2073-9
379	生理学 (コメディカル専門基礎科目シリーズ)	理工図書	978-4-8446-0848-6
380	新しい機能形態学: ヒトの成り立ちとその働き, 第3版	廣川書店	978-4-567-51562-7
381	シグナル伝達: 生命システムの情報ネットワーク, 第2版	メディカル・サイエンス・インターナショナル	978-4-89592-692-8
382	トランスポートソーム生体膜輸送機構の全体像に迫る: 基礎, 臨床, 創薬応用研究の最新成果 (遺伝子医学mook)	メディカルドゥ	978-4-944157-49-5
383	細胞死研究の今: 疾患との関わり, 創薬に向けてのアプローチ (遺伝子医学MOOK別冊)	メディカルドゥ	978-4-944157-73-0
384	スタンダードフローサイトメトリー, 第2版	医歯薬出版	978-4-263-22282-9
385	フローサイトメトリーもっと幅広く使いこなせる!: マルチカラー解析も、ソーティングも、もう悩まない!, 新版 (最強のステップUPシリーズ)	羊土社	978-4-7581-0196-7
386	ラボ必携フローサイトメトリーQ&A: 正しいデータを出すための100箇条	羊土社	978-4-7581-2235-1
387	実験医学 別冊: 現象を見抜き検出できる!細胞死実験プロトコール アポトーシスとその他細胞死の顕微鏡による検出からDNA断片化や関連タンパク質の検出,FACSによる解析まで網羅	羊土社	978-4-7581-0181-3
388	生命の閃光: 体は電気で動いている	東京書籍	978-4-487-80797-0
389	高度物理刺激と生体応答	養賢堂	978-4-8425-0562-6
390	心臓・循環の生理学	メディカル・サイエンス・インターナショナル	978-4-89592-689-8
391	身体(からだ)をめぐるリンパの不思議: リンパの流れが病気を防ぐ (知りたい!サイエンス, 133)	技術評論社	978-4-7741-7471-6
392	代謝ガイドブック: 初歩からのメディカル	技術評論社	978-4-7741-6499-1
393	ストレスの脳科学: 予防のヒントが見えてくる	講談社	978-4-06-220768-3
394	脳とホルモンの行動学: 行動神経内分泌学への招待	西村書店	978-4-89013-396-3
395	ヒトの一生の生理学: 生から死まで	九州大学出版会	978-4-7985-0042-3
396	オルガスムの科学: 性的快楽と身体・脳の神秘と謎	作品社	978-4-86182-507-1
397	生涯人間発達学, 改訂第2版増補版	三輪書店	978-4-89590-399-8
398	バイオメカニクス: 機械工学と生物・医学の融合	オーム社	978-4-274-20895-9
399	カバンジー生体力学の世界: 次世代へのメッセージ	医歯薬出版	978-4-263-21228-8
400	からだと温度の事典	朝倉書店	978-4-254-30102-1

専門科目に係る図書(和書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
401	骨格筋のバイオメカニクス: 筋線維から運動協調性まで	ナツブ	978-4-905168-33-1
402	筋学ハンドブック	医歯薬出版	978-4-263-21936-2
403	運動に関わる筋肉のしくみ: ビジュアル版	新星出版社	978-4-405-09710-0
404	骨とはなにか、関節とはなにか: 骨と関節の不思議な物語(シリーズ・骨の話, 1)	ミネルヴァ書房	978-4-623-07720-5
405	よくわかる首・肩関節の動きとしくみ: 「動き」と「痛み」のメカニズムを図解で学ぶ!(図解入門)	秀和システム	978-4-7980-4145-2
406	よくわかる膝関節の動きとしくみ: 「動き」と「痛み」のメカニズムを図解で学ぶ!(図解入門)	秀和システム	978-4-7980-4068-4
407	ヒューマンウォーキング	医歯薬出版	978-4-263-21335-3
408	ヒトの動き百話: スポーツの視点からリハビリテーションの視点まで	市村出版	978-4-902109-26-9
409	トコトわかる図解基礎神経科学	オーム社	978-4-274-21157-7
410	イラストレイテッド神経科学(リップニコットシリーズ)	丸善出版	978-4-621-08641-4
411	ニューロンの生物物理, 第2版	丸善出版	978-4-621-08632-2
412	なぜ人はドキドキするのか?: 神経伝達物質のしくみ(知りたい!サイエンス, 139)	技術評論社	978-4-7741-8693-1
413	神経インパルス物語: ガルヴァーニの火花からイオンチャネルの分子構造まで	共立出版	978-4-320-05731-9
414	筋力発揮の脳・神経科学: その基礎から臨床まで(ヒトの動きの神経科学シリーズ, 3)	市村出版	978-4-902109-43-6
415	姿勢の脳・神経科学: その基礎から臨床まで(ヒトの動きの神経科学シリーズ, 1)	市村出版	978-4-902109-28-3
416	歩行と走行の脳・神経科学: その基礎から臨床まで(ヒトの動きの神経科学シリーズ, 2)	市村出版	978-4-902109-31-3
417	臨床電気神経生理学の基本: 脳波と筋電図を日々の臨床に役立つものとするために	診断と治療社	978-4-7878-2058-7
418	脳・神経系のエイジング(『シリーズ《脳の科学》』)	朝倉書店	978-4-254-10232-1
419	脳のホルモン: 前頭葉をめぐって	朝倉書店	978-4-254-10245-1
420	脳のホルモンと記憶	朝倉書店	978-4-254-10243-7
421	神経科学(インテグレートッドシリーズ, 6)	東京化学同人	978-4-8079-1646-7
422	神経細胞の科学: 産業に隠されたすばらしい生体の仕組み(B&Tボックス)	日刊工業新聞社	978-4-526-07068-6
423	マインド・チェンジ: テクノロジーが脳を変質させる	KADOKAWA	978-4-04-601216-6
424	記憶をあやつる(角川選書, 560)	KADOKAWA	978-4-04-703560-7
425	脳の深相: 異視点からみた脳科学	MDU(松本歯科大学)出版会	978-4-944171-23-1
426	フューチャー・オブ・マインド: 心の未来を科学する	NHK出版	978-4-14-081666-0
427	言語脳アトラス: 高次脳機能を学ぶ人のために	インテルナ出版	978-4-900637-50-4
428	こころの働きと病・覚醒剤: 2007~2009世界脳週間の講演より	クバプロ	978-4-87805-107-4
429	こころの発達と病気: 2013, 2014世界脳週間の講演より	クバプロ	978-4-87805-146-3
430	ブレインサイエンス・レビュー: 2018	クバプロ	978-4-87805-157-9
431	考えすぎる脳、楽をしたい遺伝子	インプレス	978-4-8443-7405-3
432	認知脳科学	コロナ社	978-4-339-07812-1
433	ビッグクエスチョンズ脳と心	ディスカヴァー・トゥエンティワン	978-4-7993-2245-1
434	プロが教える脳のすべてがわかる本: 脳の構造と機能、感覚のしくみから、脳科学の最前線まで(史上最強カラー図解)	ナツメ社	978-4-8163-5100-6
435	脳・神経のしくみ(運動・からだ図解)	マイナビ出版	978-4-8399-5853-4
436	睡眠と覚醒	ライフサイエンス	978-4-89801-441-7
437	意識はいつ生まれるのか: 脳の謎に挑む統合情報理論	垂紀書房	978-4-7505-1450-5
438	ノンバーバルコミュニケーションと脳: 自己と他者をつなぐもの(脳とソーシャル)	医学書院	978-4-260-00996-6
439	ミクロコスモスの形成: 脳が創る“同時性の場”	医学書院	978-4-260-70088-7
440	脳とアート: 感覚と表現の脳科学(脳とソーシャル)	医学書院	978-4-260-01481-6

専門科目に係る図書(和書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
441	脳を繙く: 歴史でみる認知神経科学(神経心理学コレクション)	医学書院	978-4-260-01146-4
442	発達と脳: コミュニケーション・スキルの獲得過程(脳とソシアル)	医学書院	978-4-260-00936-2
443	睡眠脳波アトラス: 標準用語・手技・判定法	医歯薬出版	978-4-263-73129-1
444	「左脳・右脳神話」の誤解を解く(DOJIN選書, 51)	化学同人	978-4-7598-1351-7
445	睡眠科学: 最新の基礎研究から医療・社会への応用まで(DOJIN BIOSCIENCE SERIES, 26)	化学同人	978-4-7598-1727-0
446	脳神経化学: 脳はいま化学の言葉でどこまで語れるか(DOJIN BIOSCIENCE SERIES, 28)	化学同人	978-4-7598-1726-3
447	分子脳科学: 分子から脳機能と心に迫る(DOJIN BIOSCIENCE SERIES, 20)	化学同人	978-4-7598-1519-1
448	眠りの科学への旅	化学同人	978-4-7598-1478-1
449	バグる脳: 脳はけっこう頭が悪い	河出書房新社	978-4-309-25273-5
450	上脳・下脳: 脳と人間の新しいとらえかた	河出書房新社	978-4-309-25311-4
451	脳の歴史: ヴィジュアル版	河出書房新社	978-4-309-25255-1
452	心はいつ脳に宿ったのか: 神経生理学の源流を訪ねて	海鳴社	978-4-87525-334-1
453	脳と意識のあいだ: 情報を生み出す言葉と行動のメカニズム	丸善プラネット	978-4-86345-248-0
454	脳: 心の謎に迫った偉人たち(歴史を変えた100の大発見)	丸善出版	978-4-621-30202-6
455	脳とニューロンの生理学: 情報伝達・発生・意識	丸善出版	978-4-621-08646-9
456	脳はいかにして数学を生みだすのか	丸善出版	978-4-621-30102-9
457	その<脳科学>にご用心: 脳画像で心はわかるのか	紀伊國屋書店出版部	978-4-314-01129-7
458	意識と脳: 思考はいかにコード化されるか	紀伊國屋書店出版部	978-4-314-01131-0
459	手と脳: 脳の働きを高める手, 増補新装版	紀伊國屋書店	978-4-314-01070-2
460	脳はいかに治癒をもたらすか: 神経可塑性研究の最前線	紀伊國屋書店出版部	978-4-314-01137-2
461	脳とグリア細胞: 見えてきた! 脳機能のカギを握る細胞たち(知りたい! サイエンス, 092)	技術評論社	978-4-7741-4508-2
462	自己と他者を認識する脳のサーキット(ブレインサイエンス・レクチャー, 4)	共立出版	978-4-320-05794-4
463	脳のイメージング(ブレインサイエンス・レクチャー, 3)	共立出版	978-4-320-05793-7
464	脳の左右差: 右脳と左脳をつくり上げるしくみ(ブレインサイエンス・レクチャー, 5)	共立出版	978-4-320-05795-1
465	脳の進化形態学(ブレインサイエンス・レクチャー, 2)	共立出版	978-4-320-05792-0
466	脳入門のその前に	共立出版	978-4-320-05730-2
467	脳を学ぶ: 1「ひと」とその社会がわかる生物学, 改訂第2版	協同医書出版社	978-4-7639-1073-8
468	脳を学ぶ: 2 写真家、古谷千佳子さんとの対話	協同医書出版社	978-4-7639-1061-5
469	脳を学ぶ: 3 アンサンブル・グループ「ブーケ・デ・トン」との対話	協同医書出版社	978-4-7639-1063-9
470	新・頭脳の科学: アタマとココロの謎を解く: 上巻(現代社白鳳選書, 34)	現代社	978-4-87474-147-4
471	新・頭脳の科学: アタマとココロの謎を解く: 下巻(現代社白鳳選書, 35)	現代社	978-4-87474-148-1
472	三つの脳の進化: 反射脳・情動脳・理性脳と「人間らしさ」の起源, 新装版	工作舎	978-4-87502-491-0
473	プシューケーの脳科学: 心はグリア・ニューロンのカオスから生まれる	産業図書	978-4-7828-8011-1
474	脳はいかにして心を創るのか: 神経回路網のカオスが生み出す志向性・意味・自由意志	産業図書	978-4-7828-0171-0
475	記憶の森を育てる: 意識と人工知能	集英社	978-4-08-781445-3
476	激情回路: 人はなぜ「キレル」のか	春秋社	978-4-393-36548-9
477	脳は嘘をつく、心は嘘がつかない: 脳と心のミステリー	春秋社	978-4-393-36064-4
478	脳: 分子・遺伝子・生理(新・生命科学シリーズ)	裳華房	978-4-7853-5850-1
479	脳と心のしくみ: ビジュアル版(大人のための図鑑)	新星出版社	978-4-405-10804-2
480	夢	新曜社	978-4-7885-1505-5

専門科目に係る図書(和書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
481	脳のエッセンス: 脳神経倫理学入門	人文書院	978-4-409-04101-7
482	ヒト扁桃体研究ハンドブック: 機能・構造・障害	西村書店	978-4-89013-455-7
483	天才学者がマンガで語る脳	西村書店	978-4-89013-740-4
484	なぜ名前だけがでてこないのか: 脳科学者が教える本当に正しい記憶力の鍛え方	誠文堂新光社	978-4-416-71395-2
485	ざんねんな脳: 神経科学者が語る脳のしくみ	青土社	978-4-7917-7025-0
486	右脳と左脳を見つけた男: 認知神経科学の父、脳と人生を語る	青土社	978-4-7917-6916-2
487	あなたの脳のはなし: 神経科学者が解き明かす意識の謎	早川書房	978-4-15-209706-4
488	意識は傍観者である: 脳の知られざる営み	早川書房	978-4-15-209292-2
489	越境する脳: ブレイン・マシン・インターフェースの最前線	早川書房	978-4-15-209238-0
490	コネクトーム: 脳の配線はどのように「わたし」をつくり出すのか	草思社	978-4-7942-2165-0
491	ゾンビでわかる神経科学	太田出版	978-4-7783-1526-9
492	記憶力の脳科学	大和書房	978-4-479-79501-8
493	脳の風景: 「かたち」を読む脳科学(筑摩選書, 0024)	筑摩書房	978-4-480-01526-6
494	人間性のニューロサイエンス: 前頭前野, 帯状回, 島皮質の生理学	中外医学社	978-4-498-12894-1
495	情動と記憶: しくみとはたらき	中山書店	978-4-521-73913-7
496	記憶の細胞生物学(シリーズ《生命機能》, 3)	朝倉書店	978-4-254-17743-5
497	脳・神経科学の研究ガイド	朝倉書店	978-4-254-10259-8
498	脳と計算論, 普及版	朝倉書店	978-4-254-10270-3
499	脳と情動: ニューロンから行動まで(脳科学ライブラリー, 3)	朝倉書店	978-4-254-10673-2
500	脳のホルモンとこころ, 普及版	朝倉書店	978-4-254-10269-7
501	脳の再生: 中枢神経系の幹細胞生物学と再生戦略(脳科学ライブラリー, 4)	朝倉書店	978-4-254-10674-9
502	眠気の科学: そのメカニズムと対応	朝倉書店	978-4-254-30103-8
503	できない脳ほど自信過剰: パテカトルの万脳薬	朝日新聞出版	978-4-02-331602-7
504	脳はなにげに不公平: パテカトルの万脳薬	朝日新聞出版	978-4-02-331494-8
505	感じる脳・まねられる脳・だまされる脳(科学のとびら, 59)	東京化学同人	978-4-8079-1299-5
506	ブレイン・アーキテクチャ: 進化・回路・行動からの理解	東京大学出版会	978-4-13-060308-9
507	発達認知神経科学	東京大学出版会	978-4-13-011134-8
508	メカ屋のための脳科学入門: 脳をリバースエンジニアリングする	日刊工業新聞社	978-4-526-07536-0
509	メカ屋のための脳科学入門: 続 記憶・学習/意識編	日刊工業新聞社	978-4-526-07725-8
510	脳科学の真贋: 神経神話を斬る科学の眼(B&Tブックス)	日刊工業新聞社	978-4-526-06735-8
511	脳の中にいる天才	日経BP社	978-4-8222-4756-0
512	脳科学者たちが読み解く脳のしくみ: 3ポンドの謎	日経BP社	978-4-8222-8418-3
513	脳は変わる: ニューロプラスティシティ(MITエッセンシャル・ナレッジ・シリーズ)	日本評論社	978-4-535-78823-7
514	脳を通して私が生まれるとき	日本評論社	978-4-535-98447-9
515	脳イメージング: ワーキングメモリと視覚的注意からみた脳	培風館	978-4-563-05213-3
516	脳と心と身体の図鑑: ビジュアル版	柘風舎	978-4-86498-027-2
517	実験医学 別冊: もっとよくわかる!脳神経科学 やっぱり脳はスゴイのだ!	羊土社	978-4-7581-2201-6
518	脳神経ペディア: カラー図解	羊土社	978-4-7581-2082-1
519	脳神経科学イラストレイテッド: 分子・細胞から実験技術まで, 改訂第3版	羊土社	978-4-7581-2040-1
520	心-脳研究とモラルサイエンス	麗澤大学出版会	978-4-89205-641-3

専門科目に係る図書(和書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
521	「次の一手」はどう決まるか: 棋士の直観と脳科学	勁草書房	978-4-326-29929-4
522	利き脳論	勁草書房	978-4-326-29926-3
523	ロバートソン自律神経学, 原著第3版	エルゼビア・ジャパン	978-4-86034-304-0
524	心身自律神経バランス学: 体内1/fゆらぎ様現象検出	真興交易(株)医書出版部	978-4-88003-848-3
525	やさしい自律神経生理学: 命を支える仕組み	中外医学社	978-4-498-22844-3
526	脳がつくる3D世界: 立体視のなぞとしくみ (DOJIN選書, 64)	化学同人	978-4-7598-1664-8
527	視覚はよみがえる: 三次元のクオリア (筑摩選書, 0008)	筑摩書房	978-4-480-01506-8
528	視覚の光生物学 (シリーズ《生命機能》)	朝倉書店	978-4-254-17742-8
529	視覚情報処理ハンドブック, 新装版	朝倉書店	978-4-254-10289-5
530	見る脳・描く脳: 絵画のニューロサイエンス, 増補新装版	東京大学出版会	978-4-13-063370-3
531	聞くと話すの脳科学 (音響サイエンスシリーズ, 17)	コロナ社	978-4-339-01337-5
532	ピッチと和声の神経コード: 心は脳の音楽	東京電機大学出版局	978-4-501-55520-7
533	におい: 基礎知識と不快対策・香りの活用	オーム社	978-4-274-50229-3
534	人にフェロモンはあるのだろうか?: ヒトケミカルコミュニケーションの生理学 (香り選書, 16)	フレグランスジャーナル社	978-4-89479-195-4
535	匂いとヒトの脳: 脳内の匂い情報処理 (香り選書, 17)	フレグランスジャーナル社	978-4-89479-209-8
536	味嗅覚の科学: 人の受容体遺伝子から製品設計まで (食と味嗅覚の人間科学)	朝倉書店	978-4-254-10668-8
537	痛みと鎮痛の基礎知識, 増補改訂新版	技術評論社	978-4-7741-8543-9
538	苦痛を科学する: ひとの苦しみを理解する話	克誠堂出版	978-4-7719-0453-8
539	ヒトの基礎生化学	アイ・ケイコーポレーション	978-4-87492-332-0
540	Dr.根来&ヴィージェイの明快バイオケミストリー	エヌ・ティー・エス	978-4-86469-005-8
541	生化学: からだの不思議を解き明かす (初めの一步は絵で学ぶ)	じほう	978-4-8407-4500-0
542	活性酸素の本当の姿	ナツプ	978-4-905168-29-4
543	わかりやすい生化学: 疾病と代謝・栄養の理解のために, 第5版	ヌーヴェルヒロカワ	978-4-86174-069-5
544	集中講義生化学: カラーイラストで学ぶ, 改訂2版	メジカルビュー社	978-4-7583-0098-8
545	標準生化学 (Standard Textbook)	医学書院	978-4-260-00801-3
546	生化学: 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち, 第2版 (新食品・栄養科学シリーズ)	化学同人	978-4-7598-1118-6
547	生化学, 第2版 (エキスパート管理栄養士養成シリーズ, 4)	化学同人	978-4-7598-1236-7
548	組織細胞化学: 2017 免疫組織化学とその関連技術を正しく理解し, 正しく使うために	学際企画	978-4-906514-92-2
549	デブリン生化学: 臨床の理解のために, 原書7版	丸善出版	978-4-621-08561-5
550	生化学実験 (Nブックス実験シリーズ)	建帛社	978-4-7679-0380-4
551	生化学, 第3版	三共出版	978-4-7827-0724-1
552	医学系のための生化学	裳華房	978-4-7853-5235-6
553	医用質量分析ガイドブック	診断と治療社	978-4-7878-2073-0
554	酸化ストレスの医学, 改訂第2版	診断と治療社	978-4-7878-2118-8
555	からだと酸素の事典	朝倉書店	978-4-254-30098-7
556	生化学 (インテグレートッドシリーズ)	東京化学同人	978-4-8079-1643-6
557	コンパクト生化学, 改訂第4版	南江堂	978-4-524-25946-5
558	コンパス分子生物学: 創薬・テーラーメイド医療に向けて, 改訂第2版	南江堂	978-4-524-40323-3
559	シンプル生化学, 改訂第6版	南江堂	978-4-524-26807-8
560	医薬分子生物学, 改訂第3版	南江堂	978-4-524-40308-0

専門科目に係る図書(和書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
561	生化学実践問題: 基礎と臨床をつなぐ420題	南江堂	978-4-524-26359-2
562	生体イメージング研究Update: 光が描く免疫・がん・神経系の時空間動態 (The Frontiers in Life Sciences)	南山堂	978-4-525-13461-7
563	見つける、量る、可視化する!質量分析実験ガイド: ライフサイエンス・医学研究で役立つ機器選択、サンプル調製、分析プロトコールのポイント (実験医学 別冊 最強のステップUPシリーズ)	羊土社	978-4-7581-0186-8
564	臨床プロテオミクス: バイオマーカー探索から個別化医療へ	金原出版	978-4-307-00470-1
565	最新生理活性脂質研究: 実験手法,基礎的知識とその応用 (遺伝子医学MOOK, 24)	メディカルドゥ	978-4-944157-54-9
566	オキシトシン: 私たちのからだがつくる安らぎの物質, 普及版	晶文社	978-4-7949-6866-1
567	性と愛の脳科学: 新たな愛の物語	中央公論新社	978-4-12-004762-6
568	カルシウムと骨, 普及版	朝倉書店	978-4-254-32245-3
569	代謝ナビゲーション: ミトコンドリアを中心とする代謝ネットワーク	メディカル・サイエンス・インターナショナル	978-4-89592-900-4
570	マンガでわかる薬理学	オーム社	978-4-274-22134-7
571	その薬がなぜ、どのように効くのか: 難しいことを易しく、複雑なことを簡潔にした薬理の本	ガイアブックス	978-4-88282-882-2
572	クイックマスター薬理学, 新訂版 第2版	サイオ出版	978-4-907176-07-5
573	OptipWin Spreadsheet TDM症例解析テキスト: Windows対応TDM解析ソフト	じほう	978-4-8407-4734-9
574	ウィンターの臨床薬物動態学の基礎: 投与設計の考え方と臨床に役立つ実践法, 新訂	じほう	978-4-8407-4388-4
575	これからの薬物相互作用マネジメント: 臨床を変えるPISCSの基本と実践	じほう	978-4-8407-4560-4
576	どんぐり未来塾の薬物動態マスター術	じほう	978-4-8407-4896-4
577	医薬品の生物学的同等性試験: ガイドライン対応	じほう	978-4-8407-4424-9
578	疾患からみた臨床薬理学, 第3版	じほう	978-4-8407-4296-2
579	図解よくわかるTDM: 基礎から実践まで学べるLesson160, 第3版	じほう	978-4-8407-4594-9
580	添付文書がちゃんと読める薬物動態学	じほう	978-4-8407-4840-7
581	薬剤師のための医薬品副作用入門	じほう	978-4-8407-4240-5
582	臨床現場で役立つ!実例から学ぶTDMのエッセンス	じほう	978-4-8407-4847-6
583	医療薬物代謝学, 第2版 (医歯薬アカデミクス)	テコム/医学評論社	978-4-86399-412-6
584	史上最強図解これならわかる!薬理学	ナツメ社	978-4-8163-5073-3
585	わかりやすい薬理学, 第3版	ヌーヴェルヒロカワ	978-4-86174-054-1
586	薬理学: 臨床薬理の基礎から濫用薬物まで, 第2版	ふくろう出版	978-4-86186-709-5
587	基礎からの薬物動態学	テコム/医学評論社	978-4-86399-314-3
588	集中講義薬理学: カラーイラストで学ぶ, 改訂2版	メジカルビュー社	978-4-7583-0096-4
589	これならわかる薬理学: カラー図解, 第2版	メディカル・サイエンス・インターナショナル	978-4-89592-725-3
590	薬の散歩道: 薬理学入門	メディカル・サイエンス・インターナショナル	978-4-89592-646-1
591	薬物の消化管吸収予測研究の最前線 (遺伝子医学MOOK別冊)	メディカルドゥ	978-4-944157-81-5
592	医療スタッフと学生のための医薬品投与量計算脳トレーニング: 現場で使う“薬”の計算力を強化する	メディカ出版	978-4-8404-4563-4
593	イラストでまなぶ薬理学, 第3版	医学書院	978-4-260-02502-7
594	標準薬理学, 第7版 (Standard Textbook)	医学書院	978-4-260-01750-3
595	臨床薬物動態学 (標準医療薬学)	医学書院	978-4-260-00706-1
596	臨床薬理学, 第4版	医学書院	978-4-260-02873-8
597	○×問題でマスター薬理学, 第2版	医歯薬出版	978-4-263-24073-1
598	薬の有害反応ハンドブック: 患者を見る	医歯薬出版	978-4-263-23530-0
599	薬理学: 疾病の成り立ちと回復の促進, 第3版	医歯薬出版	978-4-263-23585-0
600	思いもなかった健康食品と薬の相互作用	永井書店	978-4-8159-1890-3

専門科目に係る図書(和書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
601	薬物動態学(ベーシック薬学教科書シリーズ)	化学同人	978-4-7598-1268-8
602	やさしい薬理のメカニズム: 薬のはたらきを知る, 第3版	学研メディカル秀潤社	978-4-7809-1214-2
603	処方がわかる医療薬理学: 2018-2019	学研メディカル秀潤社	978-4-7809-1322-4
604	ベッドサイドの薬理学	丸善出版	978-4-621-30274-3
605	医薬品-食品相互作用ハンドブック, 第2版	丸善出版	978-4-621-08473-1
606	臨床薬物動態学: 薬物治療の適正化のために, 第3版	丸善出版	978-4-621-08912-5
607	臨床薬理学: ハーバード大学講義テキスト, 原書3版	丸善出版	978-4-621-08916-3
608	あっと驚く薬理学: 病気の症状と薬の作用メカニズムがよくわかる(初歩からのメディカル)	技術評論社	978-4-7741-6615-5
609	薬理学がわかる: 薬の仕組みが基礎からしっかり理解できる!(ファーストブック)	技術評論社	978-4-7741-5085-7
610	やさしい分子薬理学: 分子構造から薬理活性へ	共立出版	978-4-320-06166-8
611	実践行動薬理学: 実験薬理学	金芳堂	978-4-7653-1410-7
612	患者さんと医療系学生のための臨床薬理学入門: くすりを正しく用いるために	九州大学出版会	978-4-7985-0186-4
613	医療・福祉介護者も知っておきたい食と薬の相互作用, 改訂版	幸書房	978-4-7821-0389-0
614	MR薬理学	恒心社出版	978-4-902703-07-8
615	休み時間の薬理学: 1テーマ10分, 第2版(休み時間シリーズ)	講談社	978-4-06-155716-1
616	リベンジ薬理学: これならわかる!薬の作用メカニズム, 第3版(図解入門メディカルサイエンスシリーズ)	秀和システム	978-4-7980-4380-7
617	いちばんやさしい薬理学: はじめてでもスラスラ読めるオールカラー図解	成美堂出版	978-4-415-32417-3
618	カラー新しい薬理学	西村書店	978-4-89013-485-4
619	わかりやすい薬理学: 薬の効くプロセス, 第12版	創風社	978-4-88352-246-0
620	コメディカルのための薬理学, 第3版	朝倉書店	978-4-254-33010-6
621	実践臨床薬理学	朝倉書店	978-4-254-31092-4
622	生物薬剤学: 薬の生体内運命	朝倉書店	978-4-254-34027-3
623	生物薬剤学(薬学テキストシリーズ)	朝倉書店	978-4-254-36267-1
624	薬と疾病: 1A 薬の効くプロセス, 第2版(スタンダード薬学シリーズ, 1)	東京化学同人	978-4-8079-1475-3
625	薬と疾病: 1B 薬の効くプロセス, 第2版(スタンダード薬学シリーズ, 2)	東京化学同人	978-4-8079-1476-0
626	薬と疾病 II: 薬物治療 1: 2 薬物治療, 第2版(スタンダード薬学シリーズ 6, 6)	東京化学同人	978-4-8079-1625-2
627	薬と疾病: 3 薬物治療(2)および薬物治療に役立つ情報, 第2版(スタンダード薬学シリーズ, 6)	東京化学同人	978-4-8079-1626-9
628	薬物代謝学: 医療薬学・医薬品開発の基礎として, 第3版	東京化学同人	978-4-8079-0711-3
629	薬理学(インテグレートッドシリーズ)	東京化学同人	978-4-8079-1642-9
630	NEW薬理学, 改訂第7版	南江堂	978-4-524-26175-8
631	コンパス生物薬剤学, 改訂第2版	南江堂	978-4-524-40324-0
632	コンパス薬理学, 改訂第2版	南江堂	978-4-524-40348-6
633	シンプル薬理学, 改訂第5版	南江堂	978-4-524-26767-5
634	新しい疾患薬理学	南江堂	978-4-524-40335-6
635	薬剤師がはじめるフィジカルアセスメント: 副作用症状を見抜くためのポイント	南江堂	978-4-524-26956-3
636	薬物動態を推理する55Question: 一歩踏みこんだ疑義照会と服薬指導のために	南江堂	978-4-524-26364-6
637	臨床薬物動態学: 臨床薬理学・薬物療法の基礎として, 改訂第5版	南江堂	978-4-524-25758-4
638	もっとわかる薬物速度論: 添付文書の薬物動態パラメータを読み解く	南山堂	978-4-525-72731-4
639	医薬品副作用アセスメント	南山堂	978-4-525-77501-8
640	基本まるわかり!薬理遺伝学	南山堂	978-4-525-77101-0

専門科目に係る図書(和書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
641	事例で解決!薬学的プロブレム106	南山堂	978-4-525-77361-8
642	図解薬害・副作用学,改訂2版(みてわかる薬学)	南山堂	978-4-525-72072-8
643	図解薬理学(みてわかる薬学)	南山堂	978-4-525-72061-2
644	薬局TDM:『疑義照会』『副作用の予見・回避』に活用できる!(薬剤師の強化書)	南山堂	978-4-525-78701-1
645	薬物動態のイロハ	南山堂	978-4-525-72741-3
646	「まず疑え」から始めよ:どんぶり式薬局副作用学のススメ(日経DI薬剤師「心得」帳,4)	日経BP社	978-4-8222-3169-9
647	ストックリー医薬品相互作用ポケットガイド,第2版	日経BP社	978-4-8222-6129-0
648	薬の相互作用としくみ,新版	日経BP社	978-4-8222-0087-9
649	時間治療学:投薬のタイミングと効果,第2版	日本医事新報社	978-4-7849-4181-0
650	新薬理学,改訂第6版フルカラー新装版(Qシリーズ)	日本医事新報社	978-4-7849-1166-0
651	絶対覚えておきたい疾患別薬物相互作用	日本医事新報社	978-4-7849-4176-6
652	成分から調べる医薬品副作用報告一覧:2004年4月から2013年6月までの累積データ	日本医薬情報センター	978-4-86515-020-9
653	疾病の回復を促進する薬(放送大学教材)	放送大学教育振興会	978-4-595-31722-4
654	医薬品副作用情報:厚生労働省医薬食品局発表:第29分冊 医薬品・医療機器等安全性情報	業務公報社	978-4-89647-209-7
655	はじめの一步のイラスト薬理学:薬がどうして効くのか目で見てよくわかる教科書	羊土社	978-4-7581-2045-6
656	ライフステージや疾患背景から学ぶ臨床薬理学:テラーメイド薬物治療の基本知識と処方の実際	羊土社	978-4-7581-0936-9
657	薬物トランスポーター 活用ライブラリー:機能・輸送基質から創薬・臨床応用まで	羊土社	978-4-7581-2009-8
658	グッドマン・ギルマン薬理書:薬物治療の基礎と臨床:上,第12版	廣川書店	978-4-567-49800-5
659	グッドマン・ギルマン薬理書:薬物治療の基礎と臨床:下,第12版	廣川書店	978-4-567-49801-2
660	わかりやすい生物薬剤学,第5版	廣川書店	978-4-567-48234-9
661	個別化医療を目指した臨床薬物動態学:1 基礎編	廣川書店	978-4-567-48490-9
662	個別化医療を目指した臨床薬物動態学:2 治療薬物モニタリング編	廣川書店	978-4-567-48491-6
663	最新基礎薬理学,第3版	廣川書店	978-4-567-49452-6
664	最新薬理学:医療薬学,第10版	廣川書店	978-4-567-49058-0
665	詳解薬理学	廣川書店	978-4-567-49510-3
666	徹底解説薬物動態の数学:微積分と対数,非線形,第2版	廣川書店	978-4-567-49651-3
667	薬物代謝,第3版	廣川書店	978-4-567-49185-3
668	薬物動態学,第2版	廣川書店	978-4-567-48461-9
669	薬物動態学:演習と解説	廣川書店	978-4-567-48500-5
670	薬理学,第2版(CBT対策と演習)	廣川書店	978-4-567-71191-3
671	トキシコロジー,第3版	朝倉書店	978-4-254-34031-0
672	医薬品トキシコロジー:医薬品を安全に使うために,改訂第4版	南江堂	978-4-524-40259-5
673	遺伝子医療革命:ゲノム科学がわたしたちを変える	NHK出版	978-4-14-081455-0
674	トンプソン&トンプソン遺伝医学,第2版	メディカル・サイエンス・インターナショナル	978-4-89592-875-5
675	バイオ解析・診断技術のテラーメイド医療への応用(バイオテクノロジーシリーズ)	シーエムシー出版	978-4-7813-0675-9
676	ゲノム医学:ゲノム情報を活かす医療のために	メディカル・サイエンス・インターナショナル	978-4-89592-844-1
677	遺伝医学やさしい系統講義18講	メディカル・サイエンス・インターナショナル	978-4-89592-751-2
678	一目でわかる臨床遺伝学,第2版	メディカル・サイエンス・インターナショナル	978-4-89592-790-1
679	遺伝統計学と疾患ゲノムデータ解析:病態解明から個別化医療,ゲノム創薬まで(遺伝子医学MOOK,33)	メディカルドゥ	978-4-944157-63-1
680	最新精神・神経遺伝医学研究と遺伝カウンセリング(遺伝子医学MOOK別冊)	メディカルドゥ	978-4-944157-65-5

専門科目に係る図書(和書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
681	遺伝子検査技術: 遺伝子分析科学認定士テキスト, 改訂第2版	克誠堂出版	978-4-7719-5070-2
682	遺伝子分析科学	克誠堂出版	978-4-7719-5068-9
683	肥満は進化の産物か?: 遺伝子進化が病気を生み出すメカニズム (DOJIN選書, 41)	化学同人	978-4-7598-1341-8
684	コルフ臨床遺伝医学, 原書4版	丸善出版	978-4-621-08861-6
685	ゲノム医学のための遺伝統計学 (クロスセクショナル統計シリーズ, 3)	共立出版	978-4-320-11117-2
686	メディカルサイエンス遺伝子検査学	近代出版	978-4-87402-178-1
687	臨床遺伝に関わる人のためのマイクロアレイ染色体検査	診断と治療社	978-4-7878-1792-1
688	ここが知りたい遺伝子診療はてな?BOOK	中外医学社	978-4-498-00852-6
689	自動家系図作成ソフト「f-tree」で学ぶ臨床遺伝学: 遺伝診療からゲノムコホート研究まで	中外医学社	978-4-498-00850-2
690	あなたと私はどうして違う?体質と遺伝子のサイエンス: 99.9%同じ設計図から個性や病気が生じる秘密	羊土社	978-4-7581-2057-9
691	よくわかるゲノム医学: ヒトゲノムの基本から個別化医療まで, 改訂第2版	羊土社	978-4-7581-2066-1
692	診療・研究にダイレクトにつながる遺伝医学	羊土社	978-4-7581-2062-3
693	クイックマスター微生物学, 新訂版	サイオ出版	978-4-907176-31-0
694	ステップアップ微生物学ノート	サイオ出版	978-4-907176-21-1
695	医科プロバイオティクス学	シナジー	978-4-916166-24-1
696	微生物学: 細菌・真菌・ウイルスと感染症 (初めの一步は絵で学ぶ)	じほう	978-4-8407-4591-8
697	失われてゆく、我々の内なる細菌	みすず書房	978-4-622-07910-1
698	微生物学: 基礎から臨床へのアプローチ	メディカル・サイエンス・インターナショナル	978-4-89592-704-8
699	おべんきょ病原微生物: 彼らの話も聞いてみた! (感染管理おべんきょボックス, 1)	リーダムハウス	978-4-906844-05-0
700	標準微生物学, 第13版 (Standard Textbook)	医学書院	978-4-260-03456-2
701	イラストレイテッド微生物学, 原書3版 (リップンコットシリーズ)	丸善出版	978-4-621-08675-9
702	ブラック微生物学, 第3版	丸善出版	978-4-621-08813-5
703	腸内共生系のバイオサイエンス	丸善出版	978-4-621-08361-1
704	人の健康は腸内細菌で決まる!: 善玉菌と悪玉菌を科学する (知りたいサイエンス, 095)	技術評論社	978-4-7741-4576-1
705	微生物学250ポイント, 改訂7版	金芳堂	978-4-7653-1414-5
706	微生物と免疫, 新版	建帛社	978-4-7679-0502-0
707	微生物学, 新版 (Nボックス)	建帛社	978-4-7679-0386-6
708	病原微生物学: 基礎と臨床	東京化学同人	978-4-8079-0827-1
709	コンバクト微生物学, 改訂第4版	南江堂	978-4-524-26537-4
710	シンプル微生物学, 改訂第6版	南江堂	978-4-524-25483-5
711	微生物学実践問題: 基礎と臨床をつなぐ500題	南江堂	978-4-524-26361-5
712	イラストでわかる微生物学超入門: 病原微生物の感染のしくみ	南山堂	978-4-525-16341-9
713	戸田新細菌学, 改訂34版	南山堂	978-4-525-16114-9
714	新微生物学 (Qシリーズ)	日本医事新報社	978-4-7849-1193-6
715	乳酸菌、宇宙へ行く	文藝春秋	978-4-16-390599-0
716	病原細菌・ウイルス図鑑	北海道大学出版会	978-4-8329-8229-1
717	はじめの一步のイラスト感染症・微生物学: はじめて学ぶ人のための目で見る教科書	羊土社	978-4-7581-2023-4
718	やさしい微生物学	廣川書店	978-4-567-52210-6
719	ウイルスってなに?	金芳堂	978-4-7653-1401-5
720	生命科学のためのウイルス学: 感染と宿主応答のしくみ, 医療への応用	南江堂	978-4-524-26837-5

専門科目に係る図書(和書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
721	アパス-リックマン-ピレ基礎免疫学: 免疫システムの機能とその異常, 原著第5版 (Student Consult)	エルゼビア・ジャパン	978-4-86034-000-1
722	アパス-リックマン-ピレ分子細胞免疫学, 原著第9版 (Student Consult)	エルゼビア・ジャパン	978-4-86034-917-2
723	マンガでわかる免疫学	オーム社	978-4-274-05009-1
724	臨床粘膜免疫学	シナジー	978-4-916166-34-0
725	免疫学: 「わたしの体」をまもる仕組み (初めの一步は絵で学ぶ)	じほう	978-4-8407-4654-0
726	基礎からわかる免疫学: 豊富なイラストで正しい知識を!	ナツメ社	978-4-8163-5035-1
727	史上最強図解安保徹のこれならわかる! 免疫学	ナツメ社	978-4-8163-4944-7
728	エッセンシャル免疫学, 第3版	メディカル・サイエンス・インターナショナル	978-4-89592-864-9
729	標準免疫学, 第3版 (Standard Textbook)	医学書院	978-4-260-00932-4
730	病態のしくみがわかる免疫学	医学書院	978-4-260-00997-3
731	補体学入門: 基礎から臨床・測定法まで	学際企画	978-4-906514-76-2
732	イラストレイテッド免疫学, 原書2版 (リップンコットシリーズ)	丸善出版	978-4-621-08757-2
733	休み時間の免疫学: 1テーマ10分, 第3版 (休み時間シリーズ)	講談社	978-4-06-155718-5
734	臨床免疫学, 新版 第3版	講談社	978-4-06-139841-2
735	安保徹の免疫学講義: Immunology Lecture by professor TORU ABO	三和書籍	978-4-86251-094-5
736	安保徹のやさしい解体新書: 免疫学からわかる病気のしくみと謎	実業之日本社	978-4-408-45480-1
737	ロアットカラー基本免疫学	西村書店	978-4-89013-412-0
738	みんなの体をまもる免疫学のはなし: 対話で学ぶ役立つ講義 (阪大リーブル, 62)	大阪大学出版会	978-4-87259-444-7
739	免疫の事典	朝倉書店	978-4-254-31093-1
740	図説免疫学入門	東京化学同人	978-4-8079-0942-1
741	免疫: からだを護る不思議なしくみ, 第5版	東京化学同人	978-4-8079-0881-3
742	免疫学: 巧妙なしくみを解き明かす	東京化学同人	978-4-8079-0730-4
743	免疫学: 基礎と臨床	東京化学同人	978-4-8079-0835-6
744	免疫学・微生物学 (インテグレイテッドシリーズ)	東京化学同人	978-4-8079-1641-2
745	免疫系のしくみ: 免疫学入門, 第4版	東京化学同人	978-4-8079-0884-4
746	Janeway's免疫生物学	南江堂	978-4-524-25319-7
747	シンプル免疫学, 改訂第5版	南江堂	978-4-524-25446-0
748	免疫学Update: 分子病態の解明と治療への展開 (The Frontiers in Life Sciences)	南山堂	978-4-525-16771-4
749	免疫学コア講義, 改訂4版	南山堂	978-4-525-16754-7
750	臨床医のための免疫キーワード110, 4版	日本医事新報社	978-4-7849-3069-2
751	感染症と生体防御, 改訂版 (放送大学教材)	放送大学教育振興会	978-4-595-31870-2
752	サイトカイン・増殖因子キーワード事典: 膨大なデータを徹底整理する	羊土社	978-4-7581-2055-5
753	実験医学別冊: もっとよくわかる! 免疫学	羊土社	978-4-7581-2200-9
754	免疫ペディア: 101のイラストで免疫学・臨床免疫学に強くなる!	羊土社	978-4-7581-2080-7
755	免疫学概説, 第3版	廣川書店	978-4-567-53422-2
756	パラサイト: 寄生虫の自然史と社会史	地人書館	978-4-8052-0861-8
757	医動物学, 改訂7版	南山堂	978-4-525-17327-2
758	図説人体寄生虫学, 改訂9版	南山堂	978-4-525-17029-5
759	はじめての痛み学	おうふう	978-4-273-03670-6
760	痛み学: 臨床のためのテキスト	名古屋大学出版会	978-4-8158-0646-0

専門科目に係る図書(和書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
761	画像でみる人体解剖アトラス, 原著第4版	エルゼビア・ジャパン	978-4-86034-302-6
762	MR/CT画像解剖ポケットブック	オーム社	978-4-274-20693-1
763	NIRS-基礎と臨床-	新興医学出版社	978-4-88002-714-2
764	脳波解析入門: EEGLABとSPMを使いこなす	東京大学出版会	978-4-13-012111-8
765	微生物プラチナアトラス	メディカル・サイエンス・インターナショナル	978-4-89592-910-3
766	病気の分子形態学: モノグラフ	学際企画	978-4-906514-80-9
767	代用血漿剤HES	克誠堂出版	978-4-7719-0364-7
768	救急治療・薬剤ハンドブック: 診療科医薬品集, 第6版	じほう	978-4-8407-4101-9
769	薬効力: 72の分子標的と薬の作用	オーム社	978-4-274-21241-3
770	薬剤ガイド: 臨床現場の実践本	ガイアブックス	978-4-88282-775-7
771	安全な薬剤投与のための医療材料の選び方・使い方	じほう	978-4-8407-4084-5
772	簡易懸濁法Q&A: 経管投与の新しい手技: Part1 基礎編, 第2版	じほう	978-4-8407-4033-3
773	簡易懸濁法Q&A: 現場の疑問を解決!: Part2 実践編	じほう	978-4-8407-4034-0
774	薬学生・薬剤師のための疾患別薬物療法管理マニュアル	じほう	978-4-8407-4086-9
775	今日から実践! くすりの基本と処方Do-Don't, 改訂2版	メジカルビュー社	978-4-7583-0034-6
776	薬物治療学(標準医療薬学)	医学書院	978-4-260-00575-3
777	休み時間の薬物治療学: 1テーマ10分(休み時間シリーズ)	講談社	978-4-06-155710-9
778	好きになる薬物治療学: 患者をみた治療薬の選定とその用法(好きになるシリーズ)	講談社	978-4-06-154175-7
779	在宅医療チームスタッフのための必携薬剤手帳!	三輪書店	978-4-89590-352-3
780	ボツリヌス治療総論: ボツリヌス毒素製剤の基礎知識(シリーズボツリヌス治療の実際)	診断と治療社	978-4-7878-1735-8
781	当直医実戦くすりマニュアル	南江堂	978-4-524-26021-8
782	チーム医療を円滑に進めるためのCDTMハンドブック: 問題解決のための手順書	薬事日報社	978-4-8408-1157-6
783	よく出合う「困った」を解決! 薬の疑問Q&A: エビデンスと経験に基づいた薬の使い方のコツとポイント	羊土社	978-4-7581-0695-5
784	絶対わかる 抗菌薬はじめの一步: 一目でわかる重要ポイントと演習問題で使い方の基本をマスター	羊土社	978-4-7581-0686-3
785	薬剤ごとの違いがわかるステロイドの使い分け: 豊富な薬剤情報と症例	羊土社	978-4-7581-0683-2
786	ナノイムノセラピー: 免疫を制御するナノメディシン	コロナ社	978-4-339-06748-4
787	メディカルクイズMQ100: 生化学編(解けば身につくMQシリーズ)	メディカルレビュー社	978-4-7792-1155-3
788	メディカルクイズMQ100: 解剖・生理学編上, 改訂版(解けば身につくMQシリーズ)	メディカルレビュー社	978-4-7792-1287-1
789	メディカルクイズMQ100: 解剖・生理学編下, 改訂版(解けば身につくMQシリーズ)	メディカルレビュー社	978-4-7792-1288-8
790	メディカルクイズMQ100: 薬理学編(解けば身につくMQシリーズ)	メディカルレビュー社	978-4-7792-1363-2
791	免疫の反逆: 自己免疫疾患はなぜ急増しているか	ダイヤモンド社	978-4-478-01338-0
792	iPS細胞を用いた難病研究: 臨床病態解明と創薬に向けた研究の最新知見(遺伝子医学MOOK, 27)	メディカルドゥ	978-4-944157-57-0
793	見えてきたグリニド: The Second 10 Yearsに向けて	フジメディカル出版	978-4-86270-030-8
794	糖尿病薬物療法の管理: 知りたかった答えがココにある!(薬剤師の強化書)	南山堂	978-4-525-70171-0
795	薬物乱用・中毒百科: 覚醒剤から咳止めまで	丸善出版	978-4-621-08325-3
796	溺れる脳: 人はなぜ依存症になるのか	東京化学同人	978-4-8079-0813-4
797	オーダーメイド医療をめざした生活習慣病の遺伝子診断ガイド, 第2版	日本医事新報社	978-4-7849-5441-4
798	看護師・介護士が知っておきたい高齢者の解剖生理学: 気持ちに寄り添う仕事をするための実践知識	秀和システム	978-4-7980-4224-4
799	ガイドラインに準じた循環器治療薬ファーストブック	南江堂	978-4-524-26037-9
800	循環器疾患エッセンシャルドラッグ118, 改訂第2版	南江堂	978-4-524-26084-3

専門科目に係る図書(和書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
801	不整脈治療薬ファイル: 抗不整脈薬治療のセンスを身につける	メディカル・サイエンス・インターナショナル	978-4-89592-649-2
802	血圧の科学 (B&Tブックス)	日刊工業新聞社	978-4-526-07671-8
803	薬剤師だからできる!しっかり吸入指導: 吸入チェックシート付	メディカ出版	978-4-8404-3644-1
804	カンタン理解!呼吸のしくみとはたらき	照林社	978-4-7965-2374-5
805	統合的ネットワークシステム進化内分泌代謝学	三原医学社	978-4-944085-19-4
806	運動器疾患の「なぜ?」がわかる臨床解剖学	医学書院	978-4-260-01498-4
807	心はどこまで脳ののだろうか (神経心理学コレクション)	医学書院	978-4-260-01330-7
808	脳の可塑性: 可塑性のメカニズムと神経系の障害	医歯薬出版	978-4-263-21337-7
809	こちら脳神経救急病棟: 名医が明かす奇妙な病と患者たちの物語	河出書房新社	978-4-309-20677-6
810	私はすでに死んでいる: ゆがんだ<自己>を生み出す脳	紀伊國屋書店出版部	978-4-314-01156-3
811	ブレインバンクが拓く精神疾患研究	新興医学出版社	978-4-88002-821-7
812	見てしまう人びと: 幻覚の脳科学	早川書房	978-4-15-209496-4
813	臨床睡眠医学	朝倉書店	978-4-254-32241-5
814	脳内環境-維持機構と破綻がもたらす疾患研究 (遺伝子医学MOOK, 26)	メディカルドゥ	978-4-944157-56-3
815	脳内環境辞典	メディカルドゥ	978-4-944157-64-8
816	ストール精神薬理学エッセンシャルズ: 神経科学的基礎と応用, 第4版	メディカル・サイエンス・インターナショナル	978-4-89592-802-1
817	精神薬理学Q&A: ストール先生からの挑戦状!	メディカル・サイエンス・インターナショナル	978-4-89592-760-4
818	臨床精神薬理ハンドブック, 第2版	医学書院	978-4-260-00866-2
819	リスペリドン持続性注射剤<RLAI>100の報告: 症状の改善から, 再発予防・社会参加を目指して	星和書店	978-4-7911-0743-8
820	向精神薬の薬物動態学: 基礎から臨床まで	星和書店	978-4-7911-0837-4
821	臨床精神神経薬理学テキスト, 改訂第3版	星和書店	978-4-7911-0891-6
822	向精神薬開発の現状と課題: CNS領域の治験をめぐって	日本評論社	978-4-535-98324-3
823	脳を知る	山形大学出版会	978-4-903966-25-0
824	注意と意欲の神経機構	新興医学出版社	978-4-88002-850-7
825	ハリガン・キシュカ・マーシャル臨床神経心理学ハンドブック	西村書店	978-4-89013-414-4
826	神経免疫学革命: 脳医療の知られざる最前線	早川書房	978-4-15-209749-1
827	ふるえ (神経心理学コレクション DVD付き)	医学書院	978-4-260-01065-8
828	記憶が消えるとき: 老いとアルツハイマー病の過去、現在、未来	国書刊行会	978-4-336-05972-7
829	自閉症の脳を読み解く: どのように考え、感じているのか	NHK出版	978-4-14-081631-8
830	読めばわかる!耐性菌のお話: ハテナ?がなるほど!に	ヴァンメディカル	978-4-86092-102-6
831	新・感染と微生物の教科書	研成社	978-4-87639-523-1
832	感染と免疫	東京化学同人	978-4-8079-0897-4
833	わかる!身につく!病原体・感染・免疫, 改訂3版	南山堂	978-4-525-16233-7
834	エボラの正体: 死のウイルスの謎を追う	日経BP社	978-4-8222-5075-1
835	虐待が脳を変える: 脳科学者からのメッセージ	新曜社	978-4-7885-1545-1
836	筋弛緩薬 (FOR PROFESSIONAL ANESTHESIOLOGISTS)	克誠堂出版	978-4-7719-0373-9
837	免疫はがんは何をしているのか?: 見えてきた免疫のメカニズム (知りたい!サイエンス, 138)	技術評論社	978-4-7741-8575-0
838	緩和薬物療法認定薬剤師のための緩和医療実践問題集	じほう	978-4-8407-4035-7
839	薬剤師が発信するがん薬物療法のエビデンス	じほう	978-4-8407-3994-8
840	分子標的治療薬の副作用マネジメント	南江堂	978-4-524-26348-6

専門科目に係る図書(和書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
841	抗がん薬の臨床薬理	南山堂	978-4-525-42341-4
842	脳機能の電気生理学的検討	へるす出版	978-4-89269-893-4
843	薬局で役立つ皮膚科治療薬FAQ: 正しい服薬指導のために、病気と処方意図を読む!	メディカルレビュー社	978-4-7792-0396-1
844	からだと光の事典	朝倉書店	978-4-254-30104-5
845	薬剤性腎障害ケーススタディ: 診療に活かす33の症例	南江堂	978-4-524-26367-7
846	医療職のための公衆衛生・社会医学, 第6版	テコム/医学評論社	978-4-86399-413-3
847	わかりやすい公衆衛生学, 第4版	ヌーヴェルヒロカワ	978-4-86174-066-4
848	社会医学原論: 古代ローマ帝国、産業革命から国際保健へ	ポリッシュ・ワーク	978-4-906907-08-3
849	グローバルヘルス: 世界の健康と対処戦略の最新動向	メディカル・サイエンス・インターナショナル	978-4-89592-897-7
850	21世紀の予防医学・公衆衛生: 社会・環境と健康, 第3版	杏林書院	978-4-7644-0072-6
851	国際保健医療学, 第3版	杏林書院	978-4-7644-0531-8
852	公衆衛生 (Simple Step SERIES)	海馬書房	978-4-907921-16-3
853	公衆衛生, 第9版 (よくわかる専門基礎講座)	金原出版	978-4-307-70231-7
854	これからの健康科学, 第5版	金芳堂	978-4-7653-1747-4
855	ライフスキルのための健康科学, 3訂	建帛社	978-4-7679-4345-9
856	保健・栄養系学生のための健康管理概論, 3訂	光生館	978-4-332-00055-6
857	わかりやすい公衆衛生学, 第5版	三共出版	978-4-7827-0717-3
858	生活健康科学, 新版	三共出版	978-4-7827-0618-3
859	ケースで学ぶ公衆衛生学, 第2版	篠原出版新社	978-4-88412-338-3
860	心身健康科学概論, 第2版 (心身健康科学シリーズ)	人間総合科学大学	978-4-87738-397-8
861	社会疫学: 上	大修館書店	978-4-469-26829-4
862	社会疫学: 下	大修館書店	978-4-469-26830-0
863	公衆衛生学, 3版 (コメディカルのための専門基礎分野テキスト)	中外医学社	978-4-498-07672-3
864	コンパクト公衆衛生学, 第6版	朝倉書店	978-4-254-64047-2
865	社会と健康: 健康格差解消に向けた統合科学的アプローチ	東京大学出版会	978-4-13-060411-6
866	社会を変える健康のサイエンス: 健康総合科学への21の扉	東京大学出版会	978-4-13-063406-9
867	社会的健康論	東信堂	978-4-88713-988-6
868	NEW予防医学・公衆衛生学, 改訂第3版 (NEWテキストシリーズ)	南江堂	978-4-524-26315-8
869	テキスト健康科学, 改訂第2版	南江堂	978-4-524-25885-7
870	学生と健康: 若者のためのヘルスリテラシー, 新版	南江堂	978-4-524-26266-3
871	学生のための健康管理学, 改訂2版	南山堂	978-4-525-62052-3
872	学生のための現代公衆衛生, 改訂7版	南山堂	978-4-525-62037-0
873	新衛生・公衆衛生学, 改訂第6版 (Qシリーズ)	日本医事新報社	978-4-7849-1181-3
874	ソーシャル・キャピタルと健康政策: 地域で活用するために	日本評論社	978-4-535-58642-0
875	公衆衛生学, 4訂版 (食物・栄養科学シリーズ)	培風館	978-4-563-07345-9
876	健康と社会, 改訂版 (放送大学教材)	放送大学教育振興会	978-4-595-31720-0
877	健康科学 (放送大学大学院教材)	放送大学教育振興会	978-4-595-14048-8
878	公衆衛生 (放送大学教材)	放送大学教育振興会	978-4-595-31553-4
879	新・生き方としての健康科学	有信堂高文社	978-4-8420-6589-2
880	最新公衆衛生学, 第6版	廣川書店	978-4-567-47146-6

専門科目に係る図書(和書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
881	基礎から学ぶ楽しい保健統計	医学書院	978-4-260-02549-2
882	やさしい統計学: 保健・医薬・看護・福祉関係者のために, 第6版	桐書房	978-4-87647-869-9
883	保健統計学テキスト: 医療技術・健康科学・看護系のための, 改訂版	考古堂書店	978-4-87499-746-8
884	「みんなの健康学」序説: 公衆衛生を動かした先達からのメッセージ	風間書房	978-4-7599-2146-5
885	ケースメソッドによる公衆衛生教育: 第5巻(ケースメソッドによる公衆衛生教育)	篠原出版新社	978-4-88412-353-6
886	ヘルスサービスリサーチ入門: 生活と調和した医療のために	東京大学出版会	978-4-13-062419-0
887	ヘルスリサーチの方法論(放送大学大学院教材)	放送大学教育振興会	978-4-595-13997-0
888	これからの保健医療福祉行政論: 地域づくりを推進する保健師活動, 第2版(地域看護学習Guide)	日本看護協会出版会	978-4-8180-1862-4
889	集中講義医事法学・法医学: カラーイラストで学ぶ	メジカルビュー社	978-4-7583-0089-6
890	睡眠のトリビア	中外医学社	978-4-498-22820-7
891	睡眠のトリビア: 2	中外医学社	978-4-498-22821-4
892	睡眠と健康, 改訂版(放送大学教材)	放送大学教育振興会	978-4-595-31723-1
893	太る脳、痩せる脳(日経プレミアシリーズ, 201)	日本経済新聞出版社	978-4-532-26201-3
894	パンデミック新時代: 人類の進化とウイルスの謎に迫る	NHK出版	978-4-14-081582-3
895	臨床疫学: EBM実践のための必須知識, 第3版	メディカル・サイエンス・インターナショナル	978-4-89592-853-3
896	ロスマンの疫学: 科学的思考への誘い, 第2版	篠原出版新社	978-4-88412-372-7
897	はじめて学ぶやさしい疫学: 疫学への招待, 改訂第2版	南江堂	978-4-524-26086-7
898	感染制御学	文光堂	978-4-8306-2035-5
899	ダニ病学: 暮らしのなかのダニ問題	東海大学出版部	978-4-486-01971-8
900	トコジラミ読本	日本環境衛生センター	978-4-88893-133-5
901	乳幼児の健康, 第3版	大学教育出版	978-4-86429-498-0
902	わかりやすい子どもの保健, 第3版	同文書院	978-4-8103-1474-8
903	実践治療薬(実験薬理学)	金芳堂	978-4-7653-1536-4
904	実践創薬薬理学(実験薬理学)	金芳堂	978-4-7653-1493-0
905	モルフィンと人類の歴史: ケシの実より生じたアヘンがわれわれに教えてくれたこと	青山ライフ出版	978-4-434-17844-3
906	つまづき症例で学ぶ薬の処方徹底トレーニング: これだけは知っておきたい“つまづきポイント”と“処方のコツ”	羊土社	978-4-7581-1715-9
907	最新疾患モデルと病態解明・創薬応用研究・細胞医薬創製研究の最前線: 最新疾患モデル動物ヒト化マウスモデル細胞ES・iPS細胞を利用した病態解明から創薬まで(遺伝子医学MOOK, 22)	メディカルドゥ	978-4-944157-52-5
908	In vitro毒性・動態評価の最前線(バイオテクノロジーシリーズ)	シーエムシー出版	978-4-7813-0815-9
909	薬効評価, 新版	東京大学出版会	978-4-13-062416-9
910	応用が広がるDDS: 人体環境から農業・家電まで	エヌ・ティー・エス	978-4-86469-070-6
911	図解で学ぶDDS: 薬物治療の最適化を目指す先端創薬技術, 第2版	じほう	978-4-8407-4888-9
912	ドラッグデリバリーシステム(最先端材料システムOne Point, 9)	共立出版	978-4-320-04433-3
913	薬剤学実験法必携マニュアル: Pharmaceutical Scientistの	南江堂	978-4-524-40306-6
914	アロマとハーブの薬理学	講談社	978-4-06-153159-8
915	医師・薬剤師のための実践アロマセラピー: 芳香療法のインテリジェンス	草隆社	978-4-915678-18-9
916	有害微生物の制御と管理: 現場対応への実践的な取り組み	テクノシステム	978-4-924728-77-6
917	寄生虫病学, 改訂版	緑書房	978-4-89531-291-2
918	ダ・ヴィンチの右脳と左脳を科学する	ブックマン社	978-4-89308-857-4
919	魅了されたニューロン: 脳と音楽をめぐる対話	法政大学出版局	978-4-588-41032-1
920	ニューロメカニクス: 身体運動の科学的基盤	西村書店	978-4-89013-470-0

専門科目に係る図書(和書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
921	新スポーツトレーナーマニュアル	南江堂	978-4-524-25361-6
922	1から学ぶスポーツ生理学, 第2版	ナッブ	978-4-905168-42-3
923	運動生理学の基礎と応用: 健康科学へのアプローチ	ナッブ	978-4-905168-39-3
924	脂肪組織のエクササイズバイオロジー: 1冊まるごと脂肪組織と運動の話	ナッブ	978-4-905168-09-6
925	筋肉・関節・骨の動きとしくみ(運動・からだ図解)	マイナビ出版	978-4-8399-5316-4
926	入門運動生理学, 第4版	杏林書院	978-4-7644-1159-3
927	運動生理学: 生理学の基礎から疾病予防まで	三共出版	978-4-7827-0687-9
928	新・スポーツ生理学(体育・スポーツ・健康科学テキストブックシリーズ)	市村出版	978-4-902109-38-2
929	ニュー運動生理学: 1	真興交易(株)医書出版部	978-4-88003-886-5
930	ニュー運動生理学: 2	真興交易(株)医書出版部	978-4-88003-890-2
931	身体運動と呼吸・循環機能	真興交易(株)医書出版部	978-4-88003-868-1
932	スポーツ生理学からみたスポーツトレーニング	大修館書店	978-4-469-26713-6
933	運動生理学20講, 第3版	朝倉書店	978-4-254-69046-0
934	やさしい運動生理学, 改訂第2版	南江堂	978-4-524-25969-4
935	スポーツ・運動生理学概説	明和出版	978-4-901933-24-7
936	からだのしくみと動きがすぐわかる!筋肉地図	宝島社	978-4-8002-4796-4
937	<物語る脳>の世界: ドゥルーズ/ガタリのスキゾ分析から荒巻義雄を読む	寿郎社	978-4-902269-80-2
938	ダンスセラピーの理論と実践: からだと心へのヒーリング・アート	ジアース教育新社	978-4-86371-187-7
939	交通事故におけるむち打ち損傷問題, 第2版	保険毎日新聞社	978-4-89293-071-3
940	アウェアネス介助論: 気づくことから始める介助論: 上巻 解剖学・生理学と基礎的理解	シーニュ	978-4-9903014-5-3
941	アウェアネス介助論: 気づくことから始める介助論: 下巻 接触と動きと介助の実際	シーニュ	978-4-9903014-6-0
942	テクニカルエイド: 生活の視点で役立つ選び方・使い方	三輪書店	978-4-89590-464-3
943	グループ回想法実践マニュアル	すびか書房	978-4-902630-18-3
944	地域理学療法学, 第2版(ビジュアルレクチャー)	医歯薬出版	978-4-263-21811-2
945	よりぬきリハビリ忍法帖(いばらきBOOKS, 13)	茨城新聞社	978-4-87273-293-1
946	セラピューティック・ケア認定テキスト: ところとからだに寄り添う治療力のある“手当て”	日総研出版	978-4-7760-1540-6
947	地域理学療法学(PT・OTビジュアルテキスト)	羊土社	978-4-7581-0797-6
948	「なつかしの国」の扉を開けよう: 要介護3・4・5の人のためのやる気がでる在宅リハビリ	医歯薬出版	978-4-263-24262-9
949	生活環境学テキスト(シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ)	南江堂	978-4-524-25822-2
950	すぐできる!リハビリテーション統計: データのみかたから検定・多変量解析まで	南江堂	978-4-524-26818-4
951	解剖からアプローチするからだの機能と運動療法: 上肢・体幹	メジカルビュー社	978-4-7583-1046-8
952	解剖からアプローチするからだの機能と運動療法: 下肢・骨盤	メジカルビュー社	978-4-7583-1048-2
953	運動器系解剖学テキスト(シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ)	南江堂	978-4-524-26203-8
954	骨格筋の形と触察法, 改訂第2版	大峰閣	978-4-9980686-2-4
955	頭・頸部の筋の形と位置: 立体的イメージのために	大峰閣	978-4-9980686-1-7
956	手: その機能と解剖, 第6版	金芳堂	978-4-7653-1700-9
957	リハビリテーションのための人間発達学, 第2版	メディカルプレス	978-4-944026-95-1
958	イラストでわかる人間発達学	医歯薬出版	978-4-263-21945-4
959	人間発達学テキスト(シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ)	南江堂	978-4-524-26867-2
960	介助にいかすバイオメカニクス	医学書院	978-4-260-01223-2

専門科目に係る図書(和書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
961	使えるバイオメカニクス: 解いてなっとく	医学書院	978-4-260-02161-6
962	運動学: イラスト・ふりがな付き(メディカル・イメージブック)	医歯薬出版	978-4-263-21360-5
963	基礎バイオメカニクス: 理解が深まるパワーポイント, 第2版	医歯薬出版	978-4-263-21941-6
964	動作のメカニズムがよくわかる実践!動作分析	医歯薬出版	978-4-263-21718-4
965	ボディ・ナビゲーションムーブメント: 筋肉と骨と神経を組み立て、解剖と機能を学ぼう	医道の日本社	978-4-7529-3110-2
966	人間の運動学: ヒューマン・キネシオロジー	協同医書出版社	978-4-7639-0039-5
967	運動学テキスト, 改訂第2版(シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ)	南江堂	978-4-524-26548-0
968	理学療法・作業療法のための実践編BiNI Approach: 運動の成り立ちから導く, 治療をシンプルにする法則性	文光堂	978-4-8306-4526-6
969	臨床実践動きのとらえかた: 何をみるのかその思考と試行	文光堂	978-4-8306-4391-0
970	骨格筋の構造・機能と可塑性: 理学療法のための筋機能学, 原著第3版	医歯薬出版	978-4-263-21422-0
971	ROM測定法: 臨床での測定精度を高める!	メジカルビュー社	978-4-7583-1694-1
972	骨のバイオメカニクス解析: 整形外科医のための	メジカルビュー社	978-4-7583-1373-5
973	リハビリテーション運動生理学	メジカルビュー社	978-4-7583-1719-1
974	臨床歩行分析ワークブック, 改訂第2版	メジカルビュー社	978-4-7583-1905-8
975	実践にいかす歩行分析: 明日から使える観察・計測のポイント	医学書院	978-4-260-02805-9
976	手の運動を学ぶ: 手の役割と手の機能解剖との関係から運動を紐解き, 臨床に活かす	三輪書店	978-4-89590-603-6
977	動作の仕組み: からだを動かす原理の探求	三輪書店	978-4-89590-412-4
978	身体(カラダ)が求める運動とは何か: 法則性を活かした運動誘導	文光堂	978-4-8306-4553-2
979	リハビリテーションのための臨床神経生理学	中外医学社	978-4-498-07678-5
980	リハビリテーションのためのニューロサイエンス: 脳科学からみる機能回復	メジカルビュー社	978-4-7583-1684-2
981	リハビリテーションのための神経生物学入門	協同医書出版社	978-4-7639-1068-4
982	リハビリテーションのための脳・神経科学入門, 改訂第2版	協同医書出版社	978-4-7639-1079-0
983	ICFコアセット臨床実践のためのマニュアル	医歯薬出版	978-4-263-21528-9
984	レジデント・コンパス: 整形外科編, 第3版	ライフサイエンス	978-4-89801-587-2
985	リハビリテーションのための疾患ガイド	医歯薬出版	978-4-263-21403-9
986	ICUの理学療法(理学療法MOOK, 18)	三輪書店	978-4-89590-528-2
987	痛みの存在意義: 臨床哲学と理学療法学の視座	大学教育出版	978-4-86429-519-2
988	骨・関節・靭帯・神経・血管の触診術の基本(運動・からだ図解)	マイナビ出版	978-4-8399-5497-0
989	リハビリテーションのためのパッとみてわかる心電図	中山書店	978-4-521-73194-0
990	腹痛診療に自信がつく本(「ジェネラリスト・マスターズ」シリーズ, 10)	カイ書林	978-4-904865-22-4
991	症例から考える針筋電図: 神経筋疾患の診断にどう活用するか	診断と治療社	978-4-7878-2264-2
992	MMT・針筋電図ガイドブック	中外医学社	978-4-498-32818-1
993	はじめましょう摂食・嚥下障害のVF検査	学建書院	978-4-7624-0691-1
994	リハビリテーションに役立つ骨関節X線像のみかた	医歯薬出版	978-4-263-21866-2
995	筋骨格系の触診マニュアル: トリガーポイント、関連痛パターンおよびストレッチを用いた治療, 改訂新版	ガイアブックス	978-4-88282-981-2
996	マニュアルセラピー臨床現場における実践: 図表と写真が豊富なビジュアル版!!	ガイアブックス	978-4-88282-913-3
997	神経筋療法トリガーポイントマニュアル	ガイアブックス	978-4-88282-796-2
998	理学療法士のための臨床測定ガイド	ガイアブックス	978-4-88282-791-7
999	頸部・胸部・腰部の治療大事典: 療法士のためのヒントとコツ	ガイアブックス	978-4-86654-000-9
1000	コンバインド・エクササイズ: 電気治療器を併用した新しい運動療法	ナツブ	978-4-905168-18-8

専門科目に係る図書(和書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
1001	筋膜ストレッチセラピー	ナッブ	978-4-905168-38-6
1002	理学療法自学習ワークブック: フィードバック方式実践問題集	診断と治療社	978-4-7878-1934-5
1003	症例動作分析: 動画から学ぶ姿勢と動作	ヒューマン・プレス	978-4-908933-09-7
1004	新ブラッシュアップ理学療法: 新たな技術を創造する臨床家88の挑戦	ヒューマン・プレス	978-4-908933-10-3
1005	クリニカルストレッチ: トレーナー、治療家のための臨床的ストレッチ入門	ヒューマンワールド	978-4-903699-43-1
1006	筋と骨格の触診術の基本 (運動・からだ図解)	マイナビ出版	978-4-8399-4807-8
1007	PT臨床実習ルートマップ	メジカルビュー社	978-4-7583-1132-8
1008	基礎から確認!PT臨床実習チェックリスト	メジカルビュー社	978-4-7583-1924-9
1009	基礎理学療法概論: PTスタートガイド	メジカルビュー社	978-4-7583-1921-8
1010	動作分析臨床活用講座: バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践	メジカルビュー社	978-4-7583-1474-9
1011	整形外科系理学療法学: 4 整形外科系理学療法学 (理学療法学 ゴールド・マスター・テキスト)	メジカルビュー社	978-4-7583-1111-3
1012	理学療法学ゴールド・マスター・テキスト: 5 中枢神経系理学療法学	メジカルビュー社	978-4-7583-1112-0
1013	内部障害系理学療法学: 6 内部障害系理学療法学 (理学療法学 ゴールド・マスター・テキスト)	メジカルビュー社	978-4-7583-1113-7
1014	理学療法学ゴールド・マスター・テキスト: 7 地域理学療法学	メジカルビュー社	978-4-7583-1114-4
1015	ROMナビ: 動画で学ぶ関節可動域測定法, 増補改訂第2版	ラウンドフラット	978-4-904613-21-4
1016	標準徒手医学: 1 入門編 運動器疾患の徒手機能診断と治療	医学映像教育センター	978-4-86243-719-8
1017	“臨床思考”が身につく運動療法Q&A (理学療法NAVI)	医学書院	978-4-260-02795-3
1018	ここで差がつく“背景疾患別”理学療法Q&A (理学療法NAVI)	医学書院	978-4-260-02796-0
1019	そのとき理学療法士はこう考える: 事例で学ぶ臨床プロセスの導きかた	医学書院	978-4-260-03004-5
1020	今日の理学療法指針	医学書院	978-4-260-02127-2
1021	触診解剖アトラス, 第3版	医学書院	978-4-260-03247-6
1022	標準理学療法学: 専門分野: 理学療法臨床実習とケーススタディ, 第2版 (STANDARD TEXTBOOK)	医学書院	978-4-260-01207-2
1023	標準理学療法学: 専門分野: 理学療法学概説 (STANDARD TEXTBOOK)	医学書院	978-4-260-01336-9
1024	標準理学療法学: 専門分野: 物理療法学, 第4版 (STANDARD TEXTBOOK)	医学書院	978-4-260-01526-4
1025	標準理学療法学: 専門分野: 理学療法研究法, 第3版 (STANDARD TEXTBOOK)	医学書院	978-4-260-01547-9
1026	標準理学療法学: 専門分野: 内部障害理学療法学 (STANDARD TEXTBOOK)	医学書院	978-4-260-01626-1
1027	標準理学療法学: 専門分野: 病態運動学 (STANDARD TEXTBOOK)	医学書院	978-4-260-01630-8
1028	標準理学療法学: 専門分野: 神経理学療法学 (STANDARD TEXTBOOK)	医学書院	978-4-260-01640-7
1029	標準理学療法学: 専門分野: 骨関節理学療法学 (STANDARD TEXTBOOK)	医学書院	978-4-260-01641-4
1030	標準理学療法学: 専門分野: 運動療法学総論, 第4版 (STANDARD TEXTBOOK)	医学書院	978-4-260-02786-1
1031	標準理学療法学: 専門分野: 運動療法学各論, 第4版 (STANDARD TEXTBOOK)	医学書院	978-4-260-02791-5
1032	標準理学療法学: 専門分野: 地域理学療法学, 第4版 (STANDARD TEXTBOOK)	医学書院	978-4-260-02851-6
1033	標準理学療法学: 専門分野: 日常生活活動学・生活環境学, 第5版 (STANDARD TEXTBOOK)	医学書院	978-4-260-03256-8
1034	標準理学療法学: 専門分野: 臨床動作分析 (Standard textbook)	医学書院	978-4-260-26666-6
1035	標準理学療法学: 専門分野: 理学療法評価学, 第2版 (Standard textbook)	医学書院	978-4-260-26676-5
1036	標準理学療法学・作業療法学: 専門基礎分野: 運動学 (STANDARD TEXTBOOK)	医学書院	978-4-260-00020-8
1037	標準理学療法学・作業療法学: 専門基礎分野: 生理学, 第4版 (STANDARD TEXTBOOK)	医学書院	978-4-260-01652-0
1038	標準理学療法学・作業療法学: 専門基礎分野: 内科学, 第3版 (STANDARD TEXTBOOK)	医学書院	978-4-260-01707-7
1039	標準理学療法学・作業療法学: 専門基礎分野: 神経内科学, 第4版 (STANDARD TEXTBOOK)	医学書院	978-4-260-01866-1
1040	標準理学療法学・作業療法学: 専門基礎分野: 老年学, 第4版 (STANDARD TEXTBOOK)	医学書院	978-4-260-01984-2

専門科目に係る図書(和書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
1041	標準理学療法学・作業療法学: 専門基礎分野: 解剖学, 第4版 (STANDARD TEXTBOOK)	医学書院	978-4-260-02008-4
1042	標準理学療法学・作業療法学: 専門基礎分野: 精神医学, 第4版 (STANDARD TEXTBOOK)	医学書院	978-4-260-02434-1
1043	標準理学療法学・作業療法学: 専門基礎分野: 病理学, 第4版 (STANDARD TEXTBOOK)	医学書院	978-4-260-02871-4
1044	標準理学療法学・作業療法学: 専門基礎分野: 整形外科学, 第4版 (STANDARD TEXTBOOK)	医学書院	978-4-260-03203-2
1045	標準理学療法学・作業療法学: 専門基礎分野: 人間発達学, 第2版 (STANDARD TEXTBOOK)	医学書院	978-4-260-03264-3
1046	標準理学療法学・作業療法学: 専門基礎分野: 小児科学, 第5版 (STANDARD TEXTBOOK)	医学書院	978-4-260-03434-0
1047	理学療法臨床実習サポートブック: レポート作成に役立つ素材データ付	医学書院	978-4-260-02413-6
1048	臨床の“疑問”を“研究”に変える臨床研究first stage (理学療法NAVI)	医学書院	978-4-260-03227-8
1049	Dr.マスコリーノKnow the Body筋・骨格の理解と触診のすべて	医歯薬出版	978-4-263-21442-8
1050	PT・OT学生のための実習を乗り切るらくらく実践術	医歯薬出版	978-4-263-21365-0
1051	エビデンスに基づく理学療法: 実践的なQ&Aによる, 第2版	医歯薬出版	978-4-263-21497-8
1052	エビデンスに基づく理学療法クイックリファレンス	医歯薬出版	978-4-263-21673-6
1053	テキスト物理療法学: 基礎と臨床	医歯薬出版	978-4-263-21715-3
1054	よくわかる内部障害の運動療法	医歯薬出版	978-4-263-21737-5
1055	運動療法・徒手療法ビジュアルポケットガイド: 関節モビライゼーション・ストレッチング・筋カトレーニング・有酸素性運動	医歯薬出版	978-4-263-21433-6
1056	基礎理学療法学 (ビジュアルレクチャー)	医歯薬出版	978-4-263-21805-1
1057	姿勢調節障害の理学療法, 第2版	医歯薬出版	978-4-263-21399-5
1058	心理・精神領域の理学療法: はじめの一步	医歯薬出版	978-4-263-21420-6
1059	実践!理学療法スキル: 新人3年目までに身につけたい	医歯薬出版	978-4-263-21363-6
1060	整形徒手理学療法: Kaltenborn-Evjenth Concept	医歯薬出版	978-4-263-21387-2
1061	統合と解釈がよくわかる実践!理学療法評価学	医歯薬出版	978-4-263-26559-8
1062	内部障害理学療法学, 第2版 (ビジュアルレクチャー)	医歯薬出版	978-4-263-21812-9
1063	目でみるMMT, 新版	医歯薬出版	978-4-263-21542-5
1064	予防理学療法学要論	医歯薬出版	978-4-263-21740-5
1065	理学療法概論, 第6版	医歯薬出版	978-4-263-21415-2
1066	理学療法基礎治療学: 1 運動療法 (ビジュアルレクチャー)	医歯薬出版	978-4-263-21806-8
1067	理学療法基礎治療学: 2 物理療法 (ビジュアルレクチャー)	医歯薬出版	978-4-263-21807-5
1068	理学療法基礎治療学: 3 補装具療法 (ビジュアルレクチャー)	医歯薬出版	978-4-263-21808-2
1069	理学療法基礎評価学 (ビジュアルレクチャー)	医歯薬出版	978-4-263-21810-5
1070	ストレッチングセラピー	医道の日本社	978-4-7529-3088-4
1071	マッスルインバランスの理学療法 (運動と医学の出版社の臨床家シリーズ)	運動と医学の出版社	978-4-904862-28-5
1072	体幹と骨盤の評価と運動療法 (運動と医学の出版社の臨床家シリーズ)	運動と医学の出版社	978-4-904862-31-5
1073	入谷式足底板: 基礎編 (運動と医学の出版社の臨床家シリーズ)	運動と医学の出版社	978-4-904862-02-5
1074	機能的運動療法: クラインフォーゲルバツハのリハビリテーション: 基礎編	丸善出版	978-4-621-06141-1
1075	機能的運動療法: クラインフォーゲルバツハのリハビリテーション: 治療テクニック編	丸善出版	978-4-621-06138-1
1076	機能的運動療法: クラインフォーゲルバツハのリハビリテーション: ボール・エクササイズ編	丸善出版	978-4-621-06260-9
1077	機能的運動療法: クラインフォーゲルバツハのリハビリテーション: エクササイズ編	丸善出版	978-4-621-08821-0
1078	マニュアルセラピーに対するクリニカルリーズニングのすべて	協同医書出版社	978-4-7639-1054-7
1079	系統別・治療手技の展開: 感覚器系-外皮/リンパ系/結合組織(非収縮組織)と筋系/関節系/神経系/その他の治療手技, 改訂第3版	協同医書出版社	978-4-7639-1075-2
1080	理学療法ハンドブック: 第1巻 理学療法の基礎と評価, 改訂第4版	協同医書出版社	978-4-7639-1056-1

専門科目に係る図書(和書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
1081	理学療法ハンドブック: 第2巻 治療アプローチ, 改訂第4版	協同医書出版社	978-4-7639-1057-8
1082	理学療法ハンドブック: 第3巻 疾患別・理学療法基本プログラム, 改訂第4版	協同医書出版社	978-4-7639-1058-5
1083	理学療法ハンドブック: 第4巻 疾患別・理学療法の臨床思考, 改訂第4版	協同医書出版社	978-4-7639-1059-2
1084	運動療法学, 改訂第2版	金原出版	978-4-307-75026-4
1085	物理療法学, 改訂第2版	金原出版	978-4-307-75031-8
1086	理学療法評価学, 改訂第5版	金原出版	978-4-307-75048-6
1087	PT・OT学生の文章力を育てる!レポートの書き方: 正しく学ぼう「書く基本」「文章の組み立て」	金芳堂	978-4-7653-1704-7
1088	理学療法学テキスト: 1 理学療法学概論, 第4版	神陵文庫	978-4-915814-32-7
1089	理学療法学テキスト: 3 運動療法, 第2版	神陵文庫	978-4-915814-15-0
1090	理学療法学テキスト: 4 中枢神経疾患の理学療法, 第2版	神陵文庫	978-4-915814-26-6
1091	理学療法学テキスト: 5 日常生活活動(ADL), 第2版	神陵文庫	978-4-915814-21-1
1092	理学療法学テキスト: 6 義肢装具学, 第2版	神陵文庫	978-4-915814-33-4
1093	運動器疾患の理学療法(理学療法学テキスト)	神陵文庫	978-4-915814-22-8
1094	こどもの理学療法(理学療法学テキスト)	神陵文庫	978-4-915814-20-4
1095	物理療法, 第2版(理学療法学テキスト)	神陵文庫	978-4-915814-24-2
1096	生活環境論(理学療法学テキスト)	神陵文庫	978-4-915814-18-1
1097	コアセラピーの理論と実践	講談社	978-4-06-280657-2
1098	MMT: 頭部・頸部・上肢, 第2版(DVD Series PT・OTのための測定評価, 3)	三輪書店	978-4-89590-544-2
1099	MMT: 体幹・下肢, 第2版(DVD Series PT・OTのための測定評価, 4)	三輪書店	978-4-89590-545-9
1100	PT臨床ハンドブック: ポケット版, 第2版	三輪書店	978-4-89590-514-5
1101	ROM測定, 第2版(DVD Series PT・OTのための測定評価, 1)	三輪書店	978-4-89590-354-7
1102	サスペンション・エクササイズ: レッドコード・エクササイズからの進化	三輪書店	978-4-89590-542-8
1103	バランス評価: 観察と計測, 第2版(DVD Series PT・OTのための測定評価, 5)	三輪書店	978-4-89590-546-6
1104	ブラッシュアップ理学療法: 88の知が生み出す臨床技術	三輪書店	978-4-89590-415-5
1105	レッドコード・ニューラック・マニュアル: スリング・エクササイズ・セラピーからの進化	三輪書店	978-4-89590-351-6
1106	形態測定・感覚検査・反射検査, 第2版(DVD Series PT・OTのための測定評価, 2)	三輪書店	978-4-89590-484-1
1107	山岸勉 形態構築アプローチの理論と技術(理学療法士列伝)	三輪書店	978-4-89590-458-2
1108	実践PTノート: 運動器傷害の理学療法, 第2版	三輪書店	978-4-89590-379-0
1109	宗形テクニク: 痛みに効くセルフコントロール術, 第2版	三輪書店	978-4-89590-465-0
1110	整形外科的検査(DVD Series PT・OTのための測定評価, 6)	三輪書店	978-4-89590-491-9
1111	徒手理学療法	三輪書店	978-4-89590-339-4
1112	片麻痺機能検査・協調性検査: 症例収録(DVD Series PT・OTのための測定評価, 7)	三輪書店	978-4-89590-498-8
1113	理学療法チェックリスト, 第2版	三輪書店	978-4-89590-470-4
1114	理学療法リスク管理マニュアル, 第3版	三輪書店	978-4-89590-386-8
1115	理学療法技術の再検証: 科学的技術の確立に向けて(理学療法MOOK, 17)	三輪書店	978-4-89590-512-1
1116	臨床動作分析: PT・OTの実践に役立つ理論と技術	三輪書店	978-4-89590-626-5
1117	背骨のしくみと動きがわかる本: まるごと図解	秀和システム	978-4-7980-4309-8
1118	英国・北米の理学療法事情, 第2版	秋田文化出版	978-4-87022-559-6
1119	理学療法士<PT>・作業療法士<OT>のための治療心理学: 患者によりそう行動アプローチ	創元社	978-4-422-41085-2
1120	臨床症状の評価と戦略的理学療法	中外医学社	978-4-498-08326-4

専門科目に係る図書(和書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
1121	PTお助けポケットガイド48	中山書店	978-4-521-73538-2
1122	病態からみた理学療法: 臨床の「なぜ?どうして?」がわかる: 内科編	中山書店	978-4-521-74593-0
1123	運動療法学 (15レクチャーシリーズ, 理学療法テキスト)	中山書店	978-4-521-73671-6
1124	物理療法学・実習 (15レクチャーシリーズ, 理学療法テキスト)	中山書店	978-4-521-73670-9
1125	理学療法テキスト 理学療法概論 (15レクチャーシリーズ)	中山書店	978-4-521-73233-6
1126	理学療法評価学: 1 (15レクチャーシリーズ, 理学療法テキスト)	中山書店	978-4-521-73668-6
1127	理学療法評価学: 2 (15レクチャーシリーズ, 理学療法テキスト)	中山書店	978-4-521-73669-3
1128	理学療法士のためのコンディショニング入門: 運動療法の効果を引き出すためのアプローチ	中山書店	978-4-521-73224-4
1129	理学療法学生のための症例レポートの書き方	朝倉書店	978-4-254-33501-9
1130	理学療法学生のための症例レポートの書き方: 続	朝倉書店	978-4-254-33504-0
1131	3日間で行う理学療法臨床評価プランニング	南江堂	978-4-524-26814-6
1132	運動療法学テキスト, 改訂第2版 (シンプル理学療法学シリーズ)	南江堂	978-4-524-26608-1
1133	実践理学療法スーパーバイズマニュアル: 写真で学ぶ臨床実習のポイント	南江堂	978-4-524-26439-1
1134	内部障害理学療法学テキスト, 改訂第3版 (シンプル理学療法学シリーズ)	南江堂	978-4-524-25479-8
1135	物理療法学テキスト, 改訂第2版 (シンプル理学療法学シリーズ)	南江堂	978-4-524-26839-9
1136	理学療法概論テキスト, 改訂第3版 (シンプル理学療法学シリーズ)	南江堂	978-4-524-25482-8
1137	理学療法評価学テキスト, 改訂第2版 (シンプル理学療法学シリーズ)	南江堂	978-4-524-26657-9
1138	臨床データから読み解く理学療法学	南江堂	978-4-524-25498-9
1139	運動療法ガイド, 第5版	日本医事新報社	978-4-7849-6014-9
1140	ケースで学ぶ徒手理学療法クリニカルリーズニング	文光堂	978-4-8306-4558-7
1141	コンディショニング・ケアのための物理療法実践マニュアル	文光堂	978-4-8306-4540-2
1142	パリス・アプローチ: 評価と適応: 腰, 骨盤編	文光堂	978-4-8306-4356-9
1143	パリス・アプローチ: 実践編 徒手理学療法の試み	文光堂	978-4-8306-4377-4
1144	ベッドサイド理学療法の基本技術・技能 (臨床思考を踏まえる理学療法プラクティス)	文光堂	978-4-8306-4396-5
1145	よくわかる理学療法評価・診断のしかた: エビデンスから考える	文光堂	978-4-8306-4375-0
1146	回復期につながる急性期理学療法の実際	文光堂	978-4-8306-4505-1
1147	概説理学療法: 理学療法の原点とその展開, 第2版	文光堂	978-4-8306-4530-3
1148	最新物理療法の臨床適応	文光堂	978-4-8306-4376-7
1149	姿勢制御と理学療法の実際	文光堂	978-4-8306-4535-8
1150	実学としての理学療法概観	文光堂	978-4-8306-4528-0
1151	終末期理学療法の実践	文光堂	978-4-8306-4522-8
1152	図解運動療法ガイド	文光堂	978-4-8306-4550-1
1153	図解訪問理学療法技術ガイド: 訪問の場で必ず役立つ実践のすべて	文光堂	978-4-8306-4513-6
1154	図解理学療法検査・測定ガイド, 第2版	文光堂	978-4-8306-4359-0
1155	卒前・卒後教育に役立つ理学療法士育成OJTテキスト	文光堂	978-4-8306-4562-4
1156	地域理学療法にこだわる	文光堂	978-4-8306-4381-1
1157	歩行を診る: 観察から始める理学療法実践	文光堂	978-4-8306-4385-9
1158	理学療法プログラムデザイン: ケース別アプローチのポイントと実際: 2	文光堂	978-4-8306-4390-3
1159	理学療法研究の進めかた: 基礎から学ぶ研究のすべて	文光堂	978-4-8306-4504-4
1160	理学療法士のための在宅療養者の診かた: 評価をプログラムに反映させる	文光堂	978-4-8306-4524-2

専門科目に係る図書(和書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
1161	理学療法の基層: 人間学としての思想に向き合うための15章	北樹出版	978-4-7793-0510-8
1162	PT・OTゼロからの物理学	羊土社	978-4-7581-0798-3
1163	PT症例レポート赤ペン添削ビフォー&アフター: レポート用素材がダウンロードできる!	羊土社	978-4-7581-0214-8
1164	エビデンスから身につける物理療法 (PT・OTビジュアルテキスト)	羊土社	978-4-7581-0221-6
1165	クリニカルリーズニングで内部障害の理学療法に強くなる!	羊土社	978-4-7581-0219-3
1166	運動器の運動療法: 局所と全身からアプローチする (PT・OTビジュアルテキスト)	羊土社	978-4-7581-0222-3
1167	内部障害の症例検討: 解いて納得!身につける理学療法	羊土社	978-4-7581-0226-1
1168	内部障害理学療法学 (PT・OTビジュアルテキスト)	羊土社	978-4-7581-0217-9
1169	理学療法概論: 課題・動画を使ってエッセンスを学びとる (PT・OTビジュアルテキスト)	羊土社	978-4-7581-0224-7
1170	ヘルスケア臨床現場におけるクリニカルマッサージDVD実践編	ガイアブックス	978-4-88282-800-6
1171	AZP理論に基づく変形徒手矯正術	ヒューマンワールド	978-4-903699-26-4
1172	コンフォート・タッチ: 高齢者と患者へのケア&マッサージ	医道の日本社	978-4-7529-3091-4
1173	マッサージ師のための疾患ガイドブック	医道の日本社	978-4-7529-9012-3
1174	エビデンスに基づく疾患別クリニカルマッサージ: 評価と治療	丸善出版	978-4-621-08727-5
1175	エビデンスに基づいた徒手療法: 症状に焦点をしばった問題指向型のアプローチ	ガイアブックス	978-4-88282-806-8
1176	内部機能障害への筋膜マニピュレーション: 理論編	医歯薬出版	978-4-263-21746-7
1177	痛みを治す徒手整復療法: 解剖生理学に基づく手技の実際	総合医学社	978-4-88378-827-9
1178	整形外科手術器械出し・外回り完全マニュアル: 写真とイラストで手術・解剖・疾患すべてがわかる!: 上肢・脊椎編 17術式	メディカ出版	978-4-8404-3770-7
1179	まるごと股関節これ1冊: 決定版!もう苦手とは言わせない	メディカ出版	978-4-8404-5194-9
1180	病態生理が見える整形外科早わかり図鑑: おどろくほどやさしくシンプルに	メディカ出版	978-4-8404-5637-1
1181	これだけは知っておきたい整形外科 (JJNスペシャル, No.93)	医学書院	978-4-260-01450-2
1182	糖尿病の理学療法	メジカルビュー社	978-4-7583-1492-3
1183	理学療法士のためのわかったつもり?!の糖尿病知識Q&A	医歯薬出版	978-4-263-21736-8
1184	糖尿病治療における理学療法: 戦略と実践	文光堂	978-4-8306-4525-9
1185	サルコペニア診療マニュアル	メジカルビュー社	978-4-7583-0394-1
1186	サルコペニアの摂食・嚥下障害: リハビリテーション栄養の可能性と実践	医歯薬出版	978-4-263-21869-3
1187	イラストでわかる寝たきりにさせないPNF介助術: 家庭でできるリハビリテーション	医道の日本社	978-4-7529-3114-0
1188	エンド・オブ・ライフケアとしての拘縮対策: 美しい姿で最期を迎えていただくために	三輪書店	978-4-89590-492-6
1189	高齢者理学療法学テキスト (シンプル理学療法学シリーズ)	南江堂	978-4-524-25783-6
1190	理学療法士・作業療法士のためのヘルスプロモーション: 理論と実践	南江堂	978-4-524-26755-2
1191	理学療法から診る廃用症候群: 基礎・予防・介入	文光堂	978-4-8306-4506-8
1192	内部障害理学療法学: 循環・代謝, 第2版 (15レクチャーシリーズ, 理学療法テキスト)	中山書店	978-4-521-74492-6
1193	先導施設のノウハウとクリニカルパス集: 心臓リハチーム医療	ジャパンハートクラブ	978-4-9907358-0-7
1194	実践!こうすればできる心臓リハビリテーション	メディカルレビュー社	978-4-7792-1442-4
1195	心臓リハビリテーションポケットマニュアル	医歯薬出版	978-4-263-21735-1
1196	これでわかる! 「なぜ」から導く循環器疾患のリハビリテーション: 急性期から在宅まで	金原出版	978-4-307-75043-1
1197	心臓リハビリ: 心臓病の悪化、再発を防ぐ (健康ライブラリーイラスト版)	講談社	978-4-06-259783-8
1198	眼でみる実践心臓リハビリテーション, 改訂4版	中外医学社	978-4-498-06713-4
1199	心臓リハビリテーションスタッフのための心電図ハンドブック	中外医学社	978-4-498-03776-2
1200	実践EBM心臓リハビリテーション: エビデンス診療ギャップとその対応	文光堂	978-4-8306-4538-9

専門科目に係る図書(和書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
1201	胸郭運動システムの再建法: 呼吸運動再構築理論に基づく評価と治療, 第2版	ヒューマン・プレス	978-4-908933-06-6
1202	急性期呼吸理学療法: 臨床アプローチ	メジカルビュー社	978-4-7583-1130-4
1203	呼吸ケア, 第3版(リハ実践テクニック)	メジカルビュー社	978-4-7583-1148-9
1204	呼吸リハビリテーションの理論と技術, 改訂第2版	メジカルビュー社	978-4-7583-1495-4
1205	ICUのための呼吸理学療法: 早期離床を目指す理論と実践	メディカ出版	978-4-8404-2910-8
1206	初学者のための呼吸理学療法テキスト	メディカ出版	978-4-8404-2994-8
1207	動画でわかる呼吸コンディショニングテクニック	メディカ出版	978-4-8404-5363-9
1208	この30題で呼吸理学療法に強くなる(理学療法NAVI)	医学書院	978-4-260-03261-2
1209	呼吸リハビリテーション最前線: 身体活動の向上とその実践	医歯薬出版	978-4-263-21492-3
1210	呼吸リハビリテーションマニュアル: 運動療法, 第2版	照林社	978-4-7965-2278-6
1211	包括的呼吸リハビリテーションポケットマニュアル(リハ・ポケット)	診断と治療社	978-4-7878-2023-5
1212	チームのための実践呼吸リハビリテーション	中山書店	978-4-521-73141-4
1213	動画でわかる呼吸リハビリテーション, 第4版	中山書店	978-4-521-74304-2
1214	内部障害理学療法学: 呼吸, 第2版(15レクチャーシリーズ, 理学療法テキスト)	中山書店	978-4-521-74493-3
1215	呼吸・心臓リハビリテーション: カラー写真でわかるリハの根拠と手技のコツ, 改訂第2版(ビジュアル実践リハ)	羊土社	978-4-7581-0794-5
1216	骨研究最前線: 代謝・疾病のメカニズムから再生医療・創薬・リハビリ機器・機能的食品開発まで(アンチ・エイジングシリーズ, 3)	エヌ・ティー・エス	978-4-86469-078-2
1217	新・徒手筋力検査法, 原著第9版	協同医書出版社	978-4-7639-0038-8
1218	運動器の超音波診断	ナッブ	978-4-931411-99-9
1219	筋機能改善の理学療法とそのメカニズム: 理学療法の科学的基礎を求めて, 第3版	ナッブ	978-4-905168-30-0
1220	腰痛: エビデンスに基づく予防とリハビリテーション, 原著第3版	ナッブ	978-4-905168-47-8
1221	MRI骨・関節アトラス, 改訂新版(コンパクトMRI α シリーズ)	ベクトル・コア	978-4-902380-58-3
1222	リハで読むべき運動器画像	メジカルビュー社	978-4-7583-1920-1
1223	運動器の痛みをとる・やわらげる: 現場で使えるペインコントロール	メジカルビュー社	978-4-7583-1043-7
1224	運動器疾患の治療とリハビリテーション: 手術・保存療法とリハプログラム	メジカルビュー社	978-4-7583-1720-7
1225	超音波でわかる運動器疾患: 診断のテクニック	メジカルビュー社	978-4-7583-1032-1
1226	ロコモティブシンドローム	メディカルレビュー社	978-4-7792-0954-3
1227	MMTナビ: 臨床で役立つ徒手筋力検査法	ラウンドフラット	978-4-904613-39-9
1228	運動機能障害の「なぜ?」がわかる評価戦略	医学書院	978-4-260-03046-5
1229	運動療法の「なぜ?」がわかる超音波解剖: Web動画付	医学書院	978-4-260-02031-2
1230	下肢運動器疾患の診かた・考えかた: 関節機能解剖学的リハビリテーション・アプローチ	医学書院	978-4-260-02419-8
1231	腰痛, 第2版	医学書院	978-4-260-01915-6
1232	骨盤・脊柱の正中化を用いた非特異的腰痛の治療戦略	医学書院	978-4-260-03552-1
1233	上肢運動器疾患のリハビリテーション: 関節機能解剖学に基づく治療理論とアプローチ	医学書院	978-4-260-03453-1
1234	上肢運動器疾患の診かた・考えかた: 関節機能解剖学的リハビリテーション・アプローチ	医学書院	978-4-260-01198-3
1235	図解腰痛学級, 第5版	医学書院	978-4-260-01237-9
1236	悪液質とサルコペニア: リハビリテーション栄養アプローチ	医歯薬出版	978-4-263-21441-1
1237	運動器疾患の治療: 整形外科・現代鍼灸・伝統鍼灸	医歯薬出版	978-4-263-24285-8
1238	運動器疾患の病態と理学療法	医歯薬出版	978-4-263-21947-8
1239	運動機能障害症候群のマネジメント: 理学療法評価・MSBアプローチ・ADL指導	医歯薬出版	978-4-263-21285-1
1240	画像でみる脊椎・脊髄: その基礎と臨床	医歯薬出版	978-4-263-21432-9

専門科目に係る図書(和書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
1241	骨転移の診療とリハビリテーション	医歯薬出版	978-4-263-21934-8
1242	ボディ・ナビゲーションクイックガイドトリガーポイント	医道の日本社	978-4-7529-3108-9
1243	英国医師会腰痛・頸部痛ガイド: 解剖、診断、治療、そして生活指導と運動療法の詳細	医道の日本社	978-4-7529-3102-7
1244	筋機能評価法: ビジュアルで学ぶ触診・ストレッチ・筋力テスト	医道の日本社	978-4-7529-3098-3
1245	徒手筋力検査ビジュアルガイド: 臨床の質を高める技術と機能評価	医道の日本社	978-4-7529-3120-1
1246	運動器疾患の機能解剖学に基づく評価と解釈: 上肢編 (運動と医学の出版社の臨床家シリーズ)	運動と医学の出版社	978-4-904862-26-1
1247	運動器疾患の機能解剖学に基づく評価と解釈: 下肢編 (運動と医学の出版社の臨床家シリーズ)	運動と医学の出版社	978-4-904862-30-8
1248	皮膚テーピング: 皮膚運動学の臨床応用 (運動と医学の出版社の臨床家シリーズ)	運動と医学の出版社	978-4-904862-09-4
1249	関節・軟部組織注射マニュアル: 基本テクニックと診断, 原書5版	丸善出版	978-4-621-08643-8
1250	メディカルストレッチング: 筋学からみた関節疾患の運動療法, 第2版	金原出版	978-4-307-25157-0
1251	一問一答!腰痛のエビデンス	金原出版	978-4-307-25162-4
1252	超音波診断装置が有用な運動器疾患診断治療ガイド	克誠堂出版	978-4-7719-0491-0
1253	ID触診術, 第2版	三輪書店	978-4-89590-475-9
1254	荒木茂 マッスルインバランスの考え方による腰痛症の評価と治療 (理学療法士列伝)	三輪書店	978-4-89590-418-6
1255	実践!ロコモティブシンドローム: リハ・ケアスタッフ必携, 第2版	三輪書店	978-4-89590-467-4
1256	骨粗鬆症患者の骨折治療	真興交易(株)医書出版部	978-4-88003-887-2
1257	運動器のリハビリテーションポケットマニュアル (リハ・ポケット)	診断と治療社	978-4-7878-1878-2
1258	五十肩のリハビリテーション: 病期に合わせた適切な運動療法	診断と治療社	978-4-7878-2179-9
1259	代謝性ミオパチー: Basic mechanism, Diagnosis and Practical Approach	診断と治療社	978-4-7878-2093-8
1260	運動器診療最新ガイドライン	総合医学社	978-4-88378-841-5
1261	アトラス骨・関節画像診断: 2 関節一下肢一	中外医学社	978-4-498-05458-5
1262	触れてわかる腰痛診療: 画像でわからない痛みをみつけて治療する	中外医学社	978-4-498-05472-1
1263	日常診療で出会う腰痛の診かた	中外医学社	978-4-498-05468-4
1264	運動器障害理学療法学: 1 (15レクチャーシリーズ, 理学療法テキスト)	中山書店	978-4-521-73229-9
1265	運動器障害理学療法学: 2 (15レクチャーシリーズ, 理学療法テキスト)	中山書店	978-4-521-73230-5
1266	骨・関節疾患, 普及版	朝倉書店	978-4-254-32250-7
1267	そうだったのか!腰痛診療: エキスパートの診かた・考えかた・治しかた	南江堂	978-4-524-25837-6
1268	はじめての臨床運動器疾患 (理学療法スタートライン)	南江堂	978-4-524-26346-2
1269	みえる腰痛: 体性感覚構造図	南江堂	978-4-524-26497-1
1270	運動器障害理学療法学テキスト, 改訂第2版 (シンプル理学療法学シリーズ)	南江堂	978-4-524-25723-2
1271	運動器慢性痛治療薬の選択と使用法	南江堂	978-4-524-26888-7
1272	運動器慢性痛診療の手引き	南江堂	978-4-524-26913-6
1273	下腿・足の痛み (運動器の痛みプライマリケア)	南江堂	978-4-524-26416-2
1274	頸部・肩の痛み (運動器の痛みプライマリケア)	南江堂	978-4-524-25399-9
1275	股関節の痛み (運動器の痛みプライマリケア)	南江堂	978-4-524-26264-9
1276	腰痛診療ガイドライン: 2012	南江堂	978-4-524-26942-6
1277	膝・大腿部の痛み (運動器の痛みプライマリケア)	南江堂	978-4-524-26363-9
1278	肘・手の痛み (運動器の痛みプライマリケア)	南江堂	978-4-524-26057-7
1279	THE整形内科	南山堂	978-4-525-20501-0
1280	骨・関節疾患の在宅医療 (在宅医療の技とこころ)	南山堂	978-4-525-20941-4

専門科目に係る図書(和書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
1281	セラピストの動きの基本: 運動器リハビリテーション新時代	文光堂	978-4-8306-4507-5
1282	解剖・動作・エコーで導くFasciaリリースの基本と臨床: Fasciaの評価と治療	文光堂	978-4-8306-2736-1
1283	関節可動制限: 発展途上の理学療法—その可能性(実践MOOK・理学療法プラクティス)	文光堂	978-4-8306-4369-9
1284	筋骨格系理学療法を見直す: はじめに技術ありきの現状から、どう新展開するか	文光堂	978-4-8306-4387-3
1285	腰痛の病態別運動療法: 体幹筋機能向上プログラム	文光堂	978-4-8306-4531-0
1286	クリニカルリーズニングで運動器の理学療法に強くなる!	羊土社	978-4-7581-0218-6
1287	リハビリに直結する!運動器画像の見かた	羊土社	978-4-7581-0223-0
1288	関節リウマチ:「流れる」病気、関節リウマチを知る(シリーズ・骨の話, 2)	ミネルヴァ書房	978-4-623-07721-2
1289	関節リウマチ, 改訂第2版(リハ実践テクニック)	メジカルビュー社	978-4-7583-1491-6
1290	超音波検査法を用いた関節リウマチの新しい診療	メディカルレビュー社	978-4-7792-0522-4
1291	乾癬性関節炎: すべての必要な情報を、直接専門医から	新興医学出版社	978-4-88002-805-7
1292	仙腸関節の痛み: 診断のつかない腰痛	南江堂	978-4-524-26402-5
1293	リウマチ診療の要点と盲点(整形外科Knack & Pitfalls)	文光堂	978-4-8306-2764-4
1294	知っておくべき!整形外科医の関節リウマチ診療ABC	文光堂	978-4-8306-2735-4
1295	神経症候障害学: 病態とエビデンスに基づく治療と理学療法	文光堂	978-4-8306-4536-5
1296	エビデンスに基づく脳卒中後の上肢と手のリハビリテーション: 慢性期でも機能は回復する	ガイアブックス	978-4-88282-915-7
1297	ポバースコンセプト実践編: 基礎、治療、症例	ガイアブックス	978-4-88282-866-2
1298	脳卒中患者のための理学療法: 早期リハビリテーション、看護ケア、トレーニング、ストレッチ等のリソースブック	ガイアブックス	978-4-88282-900-3
1299	傾いた垂直性: Pusher現象の評価と治療の考え方	ヒューマン・プレス	978-4-908933-05-9
1300	リハに役立つ脳画像: コツさえわかればあなたも読める	メジカルビュー社	978-4-7583-1693-4
1301	高次脳機能障害を解きほぐす臨床推論と理学療法介入	メジカルビュー社	978-4-7583-1926-3
1302	高次脳機能障害作業療法学, 改訂第2版(作業療法学ゴールド・マスター・テキスト)	メジカルビュー社	978-4-7583-1674-3
1303	姿勢から介入する摂食嚥下: 脳卒中患者のリハビリテーション	メジカルビュー社	978-4-7583-1904-1
1304	神経難病領域のリハビリテーション実践アプローチ	メジカルビュー社	978-4-7583-1695-8
1305	まんがでわかる脳卒中回復期リハビリ	メディカルレビュー社	978-4-7792-1722-7
1306	ニューロリハビリテーション	医学書院	978-4-260-02009-1
1307	行動変容を導く!上肢機能回復アプローチ: 脳卒中上肢麻痺に対する基本戦略	医学書院	978-4-260-02414-3
1308	脳画像(標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学, 別巻)	医学書院	978-4-260-03250-6
1309	脳卒中の下肢装具: 病態に対応した装具の選択法, 第3版	医学書院	978-4-260-02488-4
1310	片麻痺回復のための運動療法: 促通反復療法「川平法」の理論と実際, 第3版	医学書院	978-4-260-02216-3
1311	DVDで学ぶ神経内科の摂食嚥下障害	医歯薬出版	978-4-263-21227-1
1312	HANDS therapy: 脳卒中片麻痺上肢の新しい治療戦略	医歯薬出版	978-4-263-21496-1
1313	クリニカルポケットガイド神経筋疾患の検査と評価	医歯薬出版	978-4-263-21376-6
1314	ニューロロジカルリハビリテーション: 運動パフォーマンスの最適化に向けた臨床実践, 原著第2版	医歯薬出版	978-4-263-21408-4
1315	顔面神経麻痺のリハビリテーション, 第2版	医歯薬出版	978-4-263-21679-8
1316	上肢リハビリテーション評価マニュアル	医歯薬出版	978-4-263-21865-5
1317	神経理学療法学(ビジュアルレクチャー)	医歯薬出版	978-4-263-21813-6
1318	脳卒中の摂食嚥下障害, 第3版	医歯薬出版	978-4-263-21671-2
1319	脳卒中後の自動車運転再開の手引き	医歯薬出版	978-4-263-21876-1
1320	“ながら力”が歩行を決める: 自立歩行能力を見きわめる臨床評価指標「F&S」	協同医書出版社	978-4-7639-1065-3

専門科目に係る図書(和書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
1321	リハビリテーション臨床のための脳科学: 運動麻痺治療のポイント	協同医書出版社	978-4-7639-1069-1
1322	一日10分家庭で行う手のリハビリ	協同医書出版社	978-4-7639-2136-9
1323	片麻痺: バビンスキーからペルフェッティへ	協同医書出版社	978-4-7639-1072-1
1324	片麻痺の人のためのリハビリガイド: 感じることで動きが生まれる	協同医書出版社	978-4-7639-2141-3
1325	神経筋疾患・脊髄損傷の呼吸リハビリテーションガイドライン	金原出版	978-4-307-75040-0
1326	ニューロリハと理学療法(理学療法MOOK, 19)	三輪書店	978-4-89590-550-3
1327	脳卒中患者だった理学療法士が伝えたい、本当のこと	三輪書店	978-4-89590-606-7
1328	いきいきヘルス体操: 大田仁史の脳卒中, 新訂版	荘道社	978-4-915878-84-8
1329	回復する身体と脳: 脳卒中の麻痺を治療する脳のリハビリテーション	中央法規出版	978-4-8058-3208-0
1330	脳卒中の神経リハビリテーション: 新しいロジックと実践	中外医学社	978-4-498-06724-0
1331	神経障害理学療法学: 1(15レクチャーシリーズ, 理学療法テキスト)	中山書店	978-4-521-73231-2
1332	神経障害理学療法学: 2(15レクチャーシリーズ, 理学療法テキスト)	中山書店	978-4-521-73232-9
1333	DVDで学ぶ脳血管障害の理学療法テクニック: 病巣病型別アプローチがわかる動画73	南江堂	978-4-524-24315-0
1334	中枢神経障害理学療法学テキスト, 改訂第2版(シンプル理学療法学シリーズ)	南江堂	978-4-524-26866-5
1335	感覚入力で挑む: 感覚・運動機能回復のための理学療法アプローチ(臨床思考を踏まえる理学療法プラクティス)	文光堂	978-4-8306-4532-7
1336	高次脳機能障害に対する理学療法	文光堂	978-4-8306-4542-6
1337	脳卒中理学療法ベスト・プラクティス: 科学としての理学療法実践の立場から	文光堂	978-4-8306-4512-9
1338	クリニカルリーズニングで神経系の理学療法に強くなる!	羊土社	978-4-7581-0220-9
1339	こうしよう!パーキンソン症候群の摂食嚥下障害	アルタ出版	978-4-901694-74-2
1340	パーキンソン病の理学療法	医歯薬出版	978-4-263-21375-9
1341	Neurodance-Exercise for People with Parkinson's Disease	三輪書店	978-4-89590-478-0
1342	パーキンソン病のための歌による発声リハビリテーション	春秋社	978-4-393-93564-4
1343	パーキンソン病に対する標準的理学療法介入: 何を考え、どう進めるか?	文光堂	978-4-8306-4502-0
1344	理学療法士のための知っておきたい認知症知識Q&A	医歯薬出版	978-4-263-26563-5
1345	パーソナリティ障害の認知療法: 全訳版, 改訂第2版	岩崎学術出版社	978-4-7533-1029-6
1346	パーソナリティ障害の認知療法: スキーマ・フォーカスト・アプローチ	金剛出版	978-4-7724-1086-1
1347	イラストでわかる小児理学療法	医歯薬出版	978-4-263-21425-1
1348	イラストでわかる小児理学療法学演習	医歯薬出版	978-4-263-26557-4
1349	立つ・歩くことを考えた脳性まひ児のリハビリテーション: 運動機能獲得へのアプローチ	へるす出版	978-4-89269-935-1
1350	脳性麻痺リハビリテーションガイドライン, 第2版	金原出版	978-4-307-75038-7
1351	脳性まひの療育と理学療法: 上田法およびボツリヌス療法による筋緊張のコントロールと評価	診断と治療社	978-4-7878-2131-7
1352	手の先天異常: 発生機序から臨床像, 治療まで	医学書院	978-4-260-02441-9
1353	ダウン症リハビリテーションガイド: イラストでよくわかる	診断と治療社	978-4-7878-2066-2
1354	切断と義肢, 第2版	医歯薬出版	978-4-263-21711-5
1355	V.A.C.A.T.S治療システム実践マニュアル: 局所陰圧閉鎖療法	克誠堂出版	978-4-7719-0377-7
1356	がんリハビリテーション: 原則と実践完全ガイド	ガイアブックス	978-4-88282-994-2
1357	がん患者のリハビリテーション: リスク管理とゴール設定	メジカルビュー社	978-4-7583-1469-5
1358	がんのリハビリテーション(標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学, 別巻)	医学書院	978-4-260-03440-1
1359	がんのリハビリテーションマニュアル: 周術期から緩和ケアまで	医学書院	978-4-260-01129-7
1360	がんリハビリテーション心理学	医歯薬出版	978-4-263-21579-1

専門科目に係る図書(和書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
1361	がんのリハビリテーションベストプラクティス	金原出版	978-4-307-75041-7
1362	がんの理学療法 (理学療法MOOK, 21)	三輪書店	978-4-89590-601-2
1363	がんのリハビリテーションQ&A	中外医学社	978-4-498-06718-9
1364	頸髄損傷のリハビリテーション, 改訂第3版	協同医書出版社	978-4-7639-0040-1
1365	頸髄損傷者の実践的な徒手筋力検査: 動画で学ぶ臨床で使える評価法	三輪書店	978-4-89590-460-5
1366	ストーマ・排泄リハビリテーション学用語集, 第3版	金原出版	978-4-307-70227-0
1367	ストーマリハビリテーション基礎と実際, 第3版	金原出版	978-4-307-70199-0
1368	ストーマ器具選択ガイドブック: 適切な器具の使い方	金原出版	978-4-307-70196-9
1369	脊椎の機能障害: 徒手検査とモビライゼーション	ガイアブックス	978-4-88282-995-9
1370	OS NEXUS: No.2 頸椎・腰椎の後方除圧術	メジカルビュー社	978-4-7583-1381-0
1371	OS NOW Instruction: No.18 腰椎の手術 ベーシックからアドバンスまで必須テクニック	メジカルビュー社	978-4-7583-1017-8
1372	新執刀医のためのサージカルテクニック脊椎	メジカルビュー社	978-4-7583-1862-4
1373	新脊椎インストゥルメンテーション: テクニカルポイントと合併症対策	メジカルビュー社	978-4-7583-1049-9
1374	OS NEXUS: 6 脊椎固定術これが基本テクニック	メジカルビュー社	978-4-7583-1385-8
1375	脊椎手術と合併症: 回避の技とトラブルシューティング (OS NEXUS, 14)	メジカルビュー社	978-4-7583-1393-3
1376	脊椎脊髄外科サージカル・テクニック	メジカルビュー社	978-4-7583-1188-5
1377	痛み・しびれの脊椎脊髄外科: 治療の効果とレビュー	メジカルビュー社	978-4-7583-1189-2
1378	OS NOW Instruction: No.14 内視鏡・ナビゲーションを併用した脊椎手術	メジカルビュー社	978-4-7583-1013-0
1379	イラスト・術中写真から学ぶ脊椎内視鏡手術手技の実際	メディカルレビュー社	978-4-7792-1911-5
1380	若手医師のための脊椎外傷の診断・保存的治療・手術: 写真・WEB動画で理解が深まる (整形外科SURGICAL TECHNIQUE BOOKS, 5)	メディカ出版	978-4-8404-6530-4
1381	脊椎手術解剖アトラス	医学書院	978-4-260-03044-1
1382	脊椎内視鏡下手術	医学書院	978-4-260-03053-3
1383	動画で学ぶ脊髄損傷のリハビリテーション	医学書院	978-4-260-00778-8
1384	脊髄損傷の理学療法, 第3版 (PTマニュアル)	医歯薬出版	978-4-263-21483-1
1385	頸椎診療のてびき	丸善出版	978-4-621-06495-5
1386	脊椎脊髄病学, 第2版	金原出版	978-4-307-25161-7
1387	Cortical Bone Trajectory<CBT>法: 理想の軌道がここにある	三輪書店	978-4-89590-551-0
1388	MIS手技における経皮的椎弓根スクリュー法: 基礎と臨床応用	三輪書店	978-4-89590-532-9
1389	MIS手技における側方経路椎体間固定術<LIF>入門: OLIF・XLIFを中心に	三輪書店	978-4-89590-630-2
1390	脊椎脊髄の手術: 第2巻	三輪書店	978-4-89590-505-3
1391	脊椎脊髄術中・術後のトラブルシューティング, 第2版	三輪書店	978-4-89590-472-8
1392	脊椎器具に強くなる!Basics & Tips (臨床力up!Refresher Course, 2)	三輪書店	978-4-89590-406-3
1393	カラーアトラス脊椎・脊髄外科	中外医学社	978-4-498-05470-7
1394	しびれ, 痛みの外来Q&A: 脊椎脊髄外来の疑問に答える, 改訂2版	中外医学社	978-4-498-12881-1
1395	しびれ, 痛みの外来診療: そのポイントとコツを教えます	中外医学社	978-4-498-22800-9
1396	頸椎・胸椎の手術 (整形外科手術イラストレイテッド)	中山書店	978-4-521-73256-5
1397	腰椎の手術 (整形外科手術イラストレイテッド)	中山書店	978-4-521-73248-0
1398	脊髄の手術 (整形外科手術イラストレイテッド)	中山書店	978-4-521-73253-4
1399	JOABPEQ, JOACMEQ マニュアル	南江堂	978-4-524-26887-0
1400	頸椎後縦靭帯骨化症診療ガイドライン: 2011, 改訂第2版	南江堂	978-4-524-26922-8

専門科目に係る図書(和書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
1401	頚椎症性脊髄症診療ガイドライン: 2015, 改訂第2版	南江堂	978-4-524-26771-2
1402	腰椎疾患up-to-date (別冊整形外科, No.63)	南江堂	978-4-524-27763-6
1403	腰椎椎間板ヘルニア診療ガイドライン, 改訂第2版	南江堂	978-4-524-26486-5
1404	腰部脊柱管狭窄症診療ガイドライン: 2011	南江堂	978-4-524-26438-4
1405	脊椎外科書	南江堂	978-4-524-26769-9
1406	脊椎脊髄外科テキスト	南江堂	978-4-524-25877-2
1407	脊椎脊髄病用語事典, 改訂第5版	南江堂	978-4-524-25746-1
1408	椎体形成術: 現在とこれから	南江堂	978-4-524-26836-8
1409	脊髄損傷理学療法マニュアル, 第2版	文光堂	978-4-8306-4514-3
1410	脊椎機能の臨床的重要性と上下肢との連関 (実践MOOK・理学療法プラクティス)	文光堂	978-4-8306-4372-9
1411	脊椎内視鏡下手術 (スキル関節鏡下手術アトラス)	文光堂	978-4-8306-2732-3
1412	手外科用語集, 改訂第4版	ナツプ	978-4-905168-15-7
1413	ゼロからマスター手・肘の鏡視下手術	メジカルビュー社	978-4-7583-1033-8
1414	ハンドセラピー(リハ実践テクニック)	メジカルビュー社	978-4-7583-1473-2
1415	OS NOW Instruction: No.12 下肢の鏡視下手術 基本手技の実際と応用手技のコツ	メジカルビュー社	978-4-7583-1011-6
1416	OS NOW Instruction: No.23 手の外傷 早期機能回復をめざして	メジカルビュー社	978-4-7583-1352-0
1417	OS NOW Instruction: No.19 上肢の鏡視下手術 早期ADL回復をめざして	メジカルビュー社	978-4-7583-1018-5
1418	図説足の臨床, 改訂3版	メジカルビュー社	978-4-7583-1036-9
1419	足の運動療法: 術前・術後にも効果的な外来テクニック	メジカルビュー社	978-4-7583-1362-9
1420	OS NOW Instruction: No.21 足部疾患の手術 QOLを保つ足	メジカルビュー社	978-4-7583-1350-6
1421	メイトランド四肢関節マニピュレーション	医学映像教育センター	978-4-86243-355-8
1422	整形靴と足部疾患: オーソペディ・シューテクニック	医学書院	978-4-260-03010-6
1423	上肢の理学療法: 局所機能と全身運動を結びつけるインタラクティブ・アプローチ	三輪書店	978-4-89590-555-8
1424	腱移行術による麻痺手の再建とその応用: 頸損麻痺レベル別99手におよぶ機能再建術	三和書籍	978-4-86251-193-5
1425	絵でみる最新足診療エッセンシャルガイド	全日本病院出版会	978-4-88117-055-7
1426	図説実践手の外科治療	全日本病院出版会	978-4-88117-065-6
1427	カラーアトラス膝・足の外科	中外医学社	978-4-498-05454-7
1428	手の外科: 私のアプローチ	中外医学社	978-4-498-05476-9
1429	手関節・手指の手術 (整形外科手術イラストレイテッド)	中山書店	978-4-521-73251-0
1430	上腕・肘・前腕の手術 (整形外科手術イラストレイテッド)	中山書店	978-4-521-73254-1
1431	手の外科の実際, 改訂第7版	南江堂	978-4-524-26217-5
1432	手外科診療ハンドブック, 改訂第2版	南江堂	978-4-524-25301-2
1433	重度四肢外傷の標準的治療: Japan Strategy	南江堂	978-4-524-25909-0
1434	新・足のクリニック: 教科書に書けなかった診療のコツ	南江堂	978-4-524-26049-2
1435	足関節・足部疾患の最新治療 (別冊整形外科, No.69)	南江堂	978-4-524-27769-8
1436	ここまでできる足の鏡視下手術オリエンテーション	南山堂	978-4-525-32161-1
1437	下肢臨床症候の診かた・考え方: CLINICAL SIGNS MASTER GUIDE	南山堂	978-4-525-32171-0
1438	上肢臨床症候の診かた・考え方 (CLINICAL SIGNS MASTER GUIDE)	南山堂	978-4-525-32181-9
1439	手・肘関節鏡下手術 (スキル関節鏡下手術アトラス)	文光堂	978-4-8306-2730-9
1440	足関節鏡下手術 (スキル関節鏡下手術アトラス)	文光堂	978-4-8306-2731-6

専門科目に係る図書(和書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
1441	理学療法士のための足と靴のみかた	文光堂	978-4-8306-4394-1
1442	臨床ハンドセラピー	文光堂	978-4-8306-4386-6
1443	整形外科における理学療法: 整形外科疾患の概説から理学療法評価、治療までを一貫して理解できる決定版!	ガイアブックス	978-4-88282-929-4
1444	香りで痛みをやわらげる: ある整形外科医の処方箋から(香りで美と健康シリーズ, 3)	フレグランスジャーナル社	978-4-89479-212-8
1445	Visual NAVI! 整形外科学	メジカルビュー社	978-4-7583-1142-7
1446	OS NOW Instruction: No.26 ダメージコントロール整形外科 四肢多発外傷への対処法	メジカルビュー社	978-4-7583-1355-1
1447	整形外科サージカルアプローチ: 体位から到達術野まで	メジカルビュー社	978-4-7583-1039-0
1448	OS NOW Instruction: No.27 整形外科のDay Surgery 日帰り手術のコツとピットフォール	メジカルビュー社	978-4-7583-1356-8
1449	整形外科術後理学療法プログラム, 改訂第2版	メジカルビュー社	978-4-7583-1477-0
1450	体操療法オールブック: 主要疾患・全身網羅!	メジカルビュー社	978-4-7583-1372-8
1451	プロフェッショナル・ケア整形外科: 経験をより確かな力に変える	メディカ出版	978-4-8404-5320-2
1452	《すぐ調》整形外科	医学書院	978-4-260-01462-5
1453	研修医のための整形外科診療「これだけは!」, 第2版	医学書院	978-4-260-01949-1
1454	今日の整形外科治療指針, 第7版	医学書院	978-4-260-02202-6
1455	整形外科SSI対策: 周術期感染管理の実際	医学書院	978-4-260-01020-7
1456	整形外科レジデントマニュアル	医学書院	978-4-260-01935-4
1457	NEWエッセンシャル整形外科学	医歯薬出版	978-4-263-73143-7
1458	エビデンスに基づく腰痛症の鍼灸医学	医歯薬出版	978-4-263-24259-9
1459	運動器疾患ワークブック	医歯薬出版	978-4-263-24280-3
1460	整形外科手術進入路マニュアル	医歯薬出版	978-4-263-21946-1
1461	整形外科的理学療法: 基礎と実践, 原著第3版	医歯薬出版	978-4-263-21412-1
1462	臨床につながる整形外科学: 理学療法・作業療法専門基礎分野	医歯薬出版	978-4-263-21716-0
1463	整形外科, 第4版 (STEP SERIES)	海馬書房	978-4-907704-91-9
1464	整形外科用語のいざない	金原出版	978-4-307-25163-1
1465	整形外科治療と手術の合併症: 起こさない対策・起きたときの対応, 第1版	金原出版	978-4-307-25150-1
1466	整形外科Update 運動器の疾患と外傷	金芳堂	978-4-7653-1460-2
1467	整形外科ペインクリニック	克誠堂出版	978-4-7719-0372-2
1468	整形外科医が知っておくべき境界領域のポイント: 皮膚・神経・循環器・痛み・法医学	診断と治療社	978-4-7878-2095-2
1469	整形外科研修ノート, 改訂第2版 (研修ノートシリーズ)	診断と治療社	978-4-7878-2209-3
1470	全部見えるスーパービジュアル整形外科疾患: 徹底図解でまるごとわかる!	成美堂出版	978-4-415-31921-6
1471	リハビリテーションと理学療法エッセンシャル: 臨床で役立つ診断と治療	西村書店	978-4-89013-426-7
1472	整形外科診療のためのNSAIDs処方ハンドブック: NSAIDs処方と潰瘍対策の実際	先端医学社	978-4-88407-827-0
1473	曲がる腰にもワケがある: 整形外科医が教える、首・腰・関節のなるほど話	創元社	978-4-422-41081-4
1474	知りたいことがよく分かる整形外科Q&Aハンドブック	創元社	978-4-422-41093-7
1475	整形外科専攻ハンドブック	中外医学社	978-4-498-05474-5
1476	運動器スペシャリストのための整形外科外来診療の実際	中山書店	978-4-521-73961-8
1477	運動器スペシャリストのための整形外科保存療法実践マニュアル	中山書店	978-4-521-74538-1
1478	基本手術手技 (整形外科手術イラストレイテッド)	中山書店	978-4-521-73255-8
1479	スポーツ傷害の予防・診断・治療 (別冊整形外科, No.73)	南江堂	978-4-524-27773-5
1480	リハビリテーションスタッフのための整形外科手術動画集: 一歩進んだ術後リハのために	南江堂	978-4-524-26877-1

専門科目に係る図書(和書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
1481	高齢者<75歳以上>の運動器変性疾患に対する治療(別冊整形外科, No.72)	南江堂	978-4-524-27772-8
1482	整形外科の手術手技: 私はこうしている(別冊整形外科, No.66)	南江堂	978-4-524-27766-7
1483	整形外科医のための手術解剖学図説, 原書第5版	南江堂	978-4-524-23777-7
1484	整形外科科学, 改訂第4版	南江堂	978-4-524-25944-1
1485	整形外科科学テキスト, 改訂第4版	南江堂	978-4-524-25939-7
1486	整形外科科学用語集, 第8版	南江堂	978-4-524-25996-0
1487	整形外科卒後研修Q&A: 問題編/解説編, 改訂第7版	南江堂	978-4-524-25776-8
1488	整形外科領域における移植医療(別冊整形外科, No.68)	南江堂	978-4-524-27768-1
1489	専門医の整形外科外来診療: 最新の診断・治療	南江堂	978-4-524-25836-9
1490	日本整形外科学会症候性静脈血栓塞栓症予防ガイドライン: 2017	南江堂	978-4-524-25285-5
1491	在宅整形が得意技になる本	南山堂	978-4-525-32141-3
1492	神中整形外科科学: 上巻 総論/全身性疾患, 改訂23版	南山堂	978-4-525-32213-7
1493	神中整形外科科学: 下巻 部位別疾患, 改訂23版	南山堂	978-4-525-32223-6
1494	無刀流整形外科: メスのいらぬ運動器治療	日本医事新報社	978-4-7849-4620-4
1495	イラスト図解整形外科基本手技	文光堂	978-4-8306-2768-2
1496	整形外科手術の要点と盲点(整形外科Knack & Pitfalls)	文光堂	978-4-8306-2769-9
1497	教えて!救急整形外科疾患のミカタ: 初期診療の見逃し回避から適切なコンサルテーションまで	羊土社	978-4-7581-1759-3
1498	レジデントノート 増刊: Vol.17No.11 整形外科の基本-救急での診察・処置に自信がつく!	羊土社	978-4-7581-1558-2
1499	リハビリテーション義肢装具学	メジカルビュー社	978-4-7583-1722-1
1500	運動療法に役立つ単純X線像の読み方	メジカルビュー社	978-4-7583-1135-9
1501	整形外科医のための薬物療法ABC	メジカルビュー社	978-4-7583-1035-2
1502	義肢装具のチェックポイント, 第8版	医学書院	978-4-260-01744-2
1503	義肢装具学(標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学, 別巻)	医学書院	978-4-260-03441-8
1504	クリニカルポケットガイド整形外科疾患の検査と診断, 原著第2版	医歯薬出版	978-4-263-21383-4
1505	義肢学, 第3版	医歯薬出版	978-4-263-21539-5
1506	義肢製作マニュアル, 第2版	医歯薬出版	978-4-263-21741-2
1507	整形外科テストポケットマニュアル: 臨床で使える徒手の検査法86	医歯薬出版	978-4-263-21733-7
1508	装具学, 第4版	医歯薬出版	978-4-263-21418-3
1509	徒手検査インパクト: イラストで楽しく学ぶ!	医道の日本社	978-4-7529-3111-9
1510	整形外科疾患ビジュアルブック, 第2版	学研メディカル秀潤社	978-4-7809-1238-8
1511	整形外科カンファレンス必携, 新版 第5版	協和企画	978-4-87794-114-7
1512	イラストと写真でわかる実践装具療法: 装具の選択と疾患別使用例	金芳堂	978-4-7653-1657-6
1513	手のスプリントのすべて, 第4版	三輪書店	978-4-89590-523-7
1514	熱可塑性スプリント作製マニュアル: 動画でわかる!	三輪書店	978-4-89590-414-8
1515	整形外科専門医はこう見立てる: 症状から一発診断!	総合医学社	978-4-88378-618-3
1516	整形外科臨床パサージュ: 運動器総合医の外来診療と保存療法のために: 1 腰痛クリニカルプラクティス	中山書店	978-4-521-73211-4
1517	整形外科臨床パサージュ: 運動器総合医の外来診療と保存療法のために: 2 膝の痛みクリニカルプラクティス	中山書店	978-4-521-73212-1
1518	整形外科臨床パサージュ: 運動器専門医の外来診療と保存療法のために: 3 運動器画像診断マスターガイド	中山書店	978-4-521-73213-8
1519	整形外科臨床パサージュ: 運動器専門医の外来診療と保存療法のために: 4 骨粗鬆症のトータルマネジメント	中山書店	978-4-521-73214-5
1520	整形外科臨床パサージュ: 運動器専門医の外来診療と保存療法のために: 5 手・肘の痛みクリニカルプラクティス	中山書店	978-4-521-73215-2

専門科目に係る図書(和書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
1521	整形外科臨床パサージュ: 運動器専門医の外来診療と保存療法のために: 6 軟部腫瘍プラクティカルガイド	中山書店	978-4-521-73216-9
1522	整形外科臨床パサージュ: 運動器専門医の外来診療と保存療法のために: 7 下肢のスポーツ外傷と障害	中山書店	978-4-521-73217-6
1523	整形外科臨床パサージュ: 運動器専門医の外来診療と保存療法のために: 8 運動器のペインマネジメント	中山書店	978-4-521-73218-3
1524	整形外科臨床パサージュ: 運動器専門医の外来診療と保存療法のために: 9 足の痛みクリニカルプラクティス	中山書店	978-4-521-73219-0
1525	整形外科臨床パサージュ: 運動器専門医の外来診療と保存療法のために: 10 肩こり・頸部痛クリニカルプラクティス	中山書店	978-4-521-73220-6
1526	義肢学 (15レクチャーシリーズ, 理学療法テキスト)	中山書店	978-4-521-73225-1
1527	理学療法テキスト 装具学 (15レクチャー理学療法テキスト, 理学療法テキスト)	中山書店	978-4-521-73226-8
1528	DVDで学ぶ運動器徒手検査法	南江堂	978-4-524-26039-3
1529	グリーンズパン・ベルトラン整形外科画像診断学, 原書第6版	南江堂	978-4-524-25928-1
1530	運動器の計測線・計測値ハンドブック	南江堂	978-4-524-26336-3
1531	義肢装具学テキスト, 改訂第3版 (シンプル理学療法学シリーズ)	南江堂	978-4-524-25597-9
1532	運動器の徒手検査法: 機能解剖から導く手技の実際	文光堂	978-4-8306-4392-7
1533	義肢・装具学: 異常とその対応がわかる動画付き (PT・OTビジュアルテキスト)	羊土社	978-4-7581-0799-0
1534	外来整形外科のための退行変性疾患の理学療法	医歯薬出版	978-4-263-21355-1
1535	漏斗胸の治療	克誠堂出版	978-4-7719-0455-2
1536	簡単!効率的につくれる新型インソール: 運動連鎖アプローチが姿勢・歩行を快適にする	三輪書店	978-4-89590-401-8
1537	OS NOW Instruction: No.20 下肢の難治性骨折・病態に対する手術 日常診療で困ったときのこの一冊	メジカルビュー社	978-4-7583-1019-2
1538	肩・肘の骨折・外傷の手術 (OS NEXUS, 7)	メジカルビュー社	978-4-7583-1386-5
1539	OS NEXUS: No.4 股関節周囲の骨折・外傷の手術	メジカルビュー社	978-4-7583-1383-4
1540	高齢者上肢骨折に対する手術 (OS NEXUS, 13)	メジカルビュー社	978-4-7583-1392-6
1541	OS NOW Instruction: No.15 高齢者橈骨遠位端骨折の治療 早期ADL回復をめざして	メジカルビュー社	978-4-7583-1014-7
1542	OS NOW Instruction: No.28 骨折に対する整復術・内固定術 安全・確実なテクニック	メジカルビュー社	978-4-7583-1357-5
1543	骨折プレート治療マイスター	メジカルビュー社	978-4-7583-1044-4
1544	骨折髓内固定治療マイスター	メジカルビュー社	978-4-7583-1369-8
1545	OS NEXUS: 3 手・手関節の骨折・外傷の手術	メジカルビュー社	978-4-7583-1382-7
1546	整形外科骨折ギプスマニュアル	メジカルビュー社	978-4-7583-1359-9
1547	OS NEXUS: No.1 膝・下腿の骨折・外傷の手術	メジカルビュー社	978-4-7583-1380-3
1548	骨折の保存的治療: 日常診療の疑問に答える	メディカ出版	978-4-8404-5793-4
1549	AO法骨折治療, 第2版	医学書院	978-4-260-00762-7
1550	AO法骨折治療Hand	医学書院	978-4-260-03241-4
1551	AO法骨折治療頭蓋顎顔面骨の内固定: 外傷と顎矯正手術	医学書院	978-4-260-02869-1
1552	上腕骨近位端骨折: 適切な治療法の選択のために	金原出版	978-4-307-25149-5
1553	大腿骨近位部骨折: いますぐ役立つ!手術の実際	金原出版	978-4-307-25156-3
1554	橈骨遠位端骨折: 進歩と治療法の選択	金原出版	978-4-307-25147-1
1555	パーフェクト疲労骨折	金芳堂	978-4-7653-1729-0
1556	骨折治療のマスターテクニック (整形外科手術マスターテクニックシリーズーLippincott Williams& Wilkinsー)	診断と治療社	978-4-7878-1702-0
1557	髓内釘による骨接合術: 全テクニック公開, 初心者からエキスパートまで	全日本病院出版会	978-4-86519-221-6
1558	達人が教える外傷骨折治療	全日本病院出版会	978-4-88117-063-2
1559	骨折の機能解剖学的運動療法: その基礎から臨床まで: 総論・上肢	中外医学社	978-4-498-06720-2
1560	骨折の機能解剖学的運動療法: その基礎から臨床まで: 体幹・下肢	中外医学社	978-4-498-06722-6

専門科目に係る図書(和書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
1561	Must & Never大腿骨頸部・転子部骨折の治療と管理	南江堂	978-4-524-26697-5
1562	骨折<四肢・脊椎脊髄外傷>の診断と治療: その1 (別冊整形外科, No.70)	南江堂	978-4-524-27770-4
1563	骨折<四肢・脊椎脊髄外傷>の診断と治療: その2 (別冊整形外科, No.71)	南江堂	978-4-524-27771-1
1564	骨折の治療指針とリハビリテーション: 具体的プロトコールから基本をマスター!	南江堂	978-4-524-25973-1
1565	実践にもとづく骨折・脱臼の保存療法	南江堂	978-4-524-26068-3
1566	大腿骨頸部/転子部骨折診療ガイドライン, 改訂第2版	南江堂	978-4-524-26076-8
1567	難治性骨折に対する治療 (別冊整形外科, No.61)	南江堂	978-4-524-27761-2
1568	橈骨遠位端骨折診療ガイドライン: 2017, 改訂第2版	南江堂	978-4-524-25286-2
1569	骨折・脱臼, 改訂4版	南山堂	978-4-525-32004-1
1570	当直でよく診る骨折・脱臼・捻挫	日本医事新報社	978-4-7849-4615-0
1571	極める大腿骨骨折の理学療法: 医師と理学療法士の協働による術式別アプローチ (臨床思考を踏まえる理学療法プラクティス)	文光堂	978-4-8306-4552-5
1572	極める膝・下腿骨骨折の理学療法: 全身的・局所的視点からみた新たな理学療法の本質 (臨床思考を踏まえる理学療法プラクティス)	文光堂	978-4-8306-4563-1
1573	骨折治療の要点と盲点 (整形外科Knack & Pitfalls)	文光堂	978-4-8306-2762-0
1574	カラー写真でみる! 骨折・脱臼・捻挫: 画像診断の進め方と整復・固定のコツ, 改訂版 (ビジュアル基本手技)	羊土社	978-4-89706-349-2
1575	先天性股関節脱臼の診断と治療	メジカルビュー社	978-4-7583-1360-5
1576	実践反復性肩関節脱臼: 鏡視下バンカート法のABC	金原出版	978-4-307-25148-8
1577	骨盤帯: 臨床の専門的スキルとリサーチの統合, 原著第4版	エルゼビア・ジャパン	978-4-263-21413-8
1578	シュロス法による側弯症治療: エクササイズと呼吸テクニックで脊柱の彎曲と捻れを矯正する	ガイアブックス	978-4-88282-941-6
1579	人工関節周囲感染対策における国際コンセンサス: 204の設問とコンセンサス	シービーアール	978-4-908083-10-5
1580	臨床ROM: 測定からエクササイズまで (実践リハ評価マニュアルシリーズ)	ヒューマン・プレス	978-4-908933-07-3
1581	スポーツ復帰のための手術 肩・肘 (OS NEXUS, 11)	メジカルビュー社	978-4-7583-1390-2
1582	スポーツ復帰のための手術: 股関節, 足関節・足部 (OS NEXUS, 8)	メジカルビュー社	978-4-7583-1387-2
1583	OS NEXUS: No.5 スポーツ復帰のための手術 膝	メジカルビュー社	978-4-7583-1384-1
1584	ゼロからマスター肩の鏡視下手術, 改訂第2版	メジカルビュー社	978-4-7583-1379-7
1585	肩関節のMRI: 読影ポイントのすべて, 改訂第2版	メジカルビュー社	978-4-7583-1041-3
1586	肩関節手術のすべて	メジカルビュー社	978-4-7583-1377-3
1587	OS NOW Instruction: No.13 股関節の骨切り術 関節温存手術のポイントとコツ	メジカルビュー社	978-4-7583-1012-3
1588	股関節の再建法: 成功への準備とコツ (OS NEXUS, 12)	メジカルビュー社	978-4-7583-1391-9
1589	股関節骨切り術のすべて	メジカルビュー社	978-4-7583-1358-2
1590	骨・関節疾患の理学療法, 改訂第2版 (リハ実践テクニック)	メジカルビュー社	978-4-7583-1129-8
1591	OS NOW Instruction: No.25 人工関節置換術の合併症対策テクニック 予防と対処のコツ	メジカルビュー社	978-4-7583-1354-4
1592	人工股関節全置換術<THA>のすべて, 改訂第2版	メジカルビュー社	978-4-7583-1363-6
1593	人工膝関節置換術<TKA>のすべて: より安全に・より確実に, 改訂第2版	メジカルビュー社	978-4-7583-1371-1
1594	足部・足関節理学療法マネジメント: 機能障害の原因を探るための臨床思考を紐解く	メジカルビュー社	978-4-7583-1912-6
1595	OS NOW Instruction: No.16 膝・足関節および足趾の骨切り術 ベストな手技のコツ&トラブルシューティング	メジカルビュー社	978-4-7583-1015-4
1596	膝関節の再建法: 最適な選択のために (OS NEXUS, 9)	メジカルビュー社	978-4-7583-1388-9
1597	OS NOW Instruction: No.24 膝関節の難治性病態に対する手術 日常診療で困ったときのこの一冊	メジカルビュー社	978-4-7583-1353-7
1598	膝痛こだわりの保存治療	メジカルビュー社	978-4-7583-1378-0
1599	膝靭帯手術のすべて	メジカルビュー社	978-4-7583-1047-5
1600	肘関節手術のすべて	メジカルビュー社	978-4-7583-1365-0

専門科目に係る図書(和書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
1601	画像から学ぶ血友病性関節症: 早期治療のために	メディカルレビュー社	978-4-7792-1869-9
1602	肩関節外科手術テクニック: 写真・WEB動画で理解が深まる(整形外科SURGICAL TECHNIQUE BOOKS)	メディカ出版	978-4-8404-4887-1
1603	肩関節再建術: 腱板断裂, 肩関節不安定症の治療戦略	メディカ出版	978-4-8404-6183-2
1604	若手医師のための基本から理解する人工膝関節置換術<TKA>: 適応, 術前計画, 基本手技, 合併症対策(整形外科SURGICAL TECHNIQUE BOOKS, 4)	メディカ出版	978-4-8404-6174-0
1605	人工肩関節置換術: 基礎と実際	メディカ出版	978-4-8404-5813-9
1606	人工股関節置換術<THA・BHA>: 人工関節の基礎知識, 基本テクニック, 合併症対策(整形外科SURGICAL TECHNIQUE BOOKS, 3)	メディカ出版	978-4-8404-5620-3
1607	失敗しない膝関節スポーツ外傷の手術	医学と看護社	978-4-906829-45-3
1608	失敗しない変形性膝関節症の手術	医学と看護社	978-4-906829-58-3
1609	膝関節鏡手術を極める: 適応とビットフォール&テクニック	医学と看護社	978-4-906829-82-8
1610	X線像でみる股関節手術症例アトラス	医学書院	978-4-260-01013-9
1611	肩: その機能と臨床, 第4版	医学書院	978-4-260-01676-6
1612	人工膝関節置換術: 手技と論点	医学書院	978-4-260-00842-6
1613	変形性関節症の診かたと治療, 第2版	医学書院	978-4-260-01602-5
1614	カラー写真で学ぶ機能解剖学に基づく手技療法	医歯薬出版	978-4-263-24071-7
1615	クリニカルポケットガイドモビライゼーションテクニック	医歯薬出版	978-4-263-21392-6
1616	肩診療マニュアル, 新版	医歯薬出版	978-4-263-21434-3
1617	変形性股関節症のリハビリテーション: 患者とセラピストのためのガイドブック, 第2版	医歯薬出版	978-4-263-21410-7
1618	アキレス腱断裂の治療(名医が伝えるシリーズ)	運動と医学の出版社	978-4-904862-22-3
1619	機能解剖学的にみた膝関節疾患に対する理学療法: STEP&CHART式やってみたくなる実践法ひざ100	運動と医学の出版社	978-4-904862-27-8
1620	肩関節拘縮の評価と運動療法(運動と医学の出版社の臨床家シリーズ)	運動と医学の出版社	978-4-904862-07-0
1621	腰椎の機能障害と運動療法ガイドブック(運動と医学の出版社の臨床家シリーズ)	運動と医学の出版社	978-4-904862-23-0
1622	むち打ち損傷ハンドブック: 頸椎捻挫, 脳脊髄液減少症から慢性疼痛の治療, 第3版	丸善出版	978-4-621-30238-5
1623	3Dプリンター×テーラーメイド医療実践股関節手術	金芳堂	978-4-7653-1693-4
1624	パーフェクト人工膝関節置換術	金芳堂	978-4-7653-1681-1
1625	股関節学	金芳堂	978-4-7653-1588-3
1626	人工股関節全置換術: 2nd Decade of the 21st Century, 改訂2版	金芳堂	978-4-7653-1655-2
1627	特発性大腿骨頭壊死症	金芳堂	978-4-7653-1449-7
1628	トータル・ヒップ・ケア: 股関節 チームで支える人工股関節全置換術	三輪書店	978-4-89590-530-5
1629	股関節〜僕に任せて! 股関節についてもっと詳しく知りたいと願う方々へ	三輪書店	978-4-89590-490-2
1630	山田英司 変形性膝関節症に対する保存的治療戦略(理学療法士列伝)	三輪書店	978-4-89590-405-6
1631	the FACTS変形性関節症: すべての必要な情報を, 直接専門家から	新興医学出版社	978-4-88002-840-8
1632	外反母趾FAQ予防・治療の実践ガイド: 正しい靴の選び方, 履き方	診断と治療社	978-4-7878-1888-1
1633	ゼロからはじめる! Knee Osteotomyアップデート	全日本病院出版会	978-4-86519-245-2
1634	老いを内包する膝: 早期診断と早期治療	全日本病院出版会	978-4-88117-053-3
1635	肩関節の手術(整形外科手術イラストレイテッド)	中山書店	978-4-521-73249-7
1636	骨盤・股関節の手術(整形外科手術イラストレイテッド)	中山書店	978-4-521-73252-7
1637	膝関節の手術(整形外科手術イラストレイテッド)	中山書店	978-4-521-73250-3
1638	外反母趾診療ガイドライン: 2014, 改訂第2版	南江堂	978-4-524-26189-5
1639	関節外科診療ファーストステップ: これ一冊で基本をマスター!	南江堂	978-4-524-25912-0
1640	骨・関節術後感染予防ガイドライン: 2015, 改訂第2版	南江堂	978-4-524-26661-6

専門科目に係る図書(和書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
1641	人工関節置換術: 最新の知見 (別冊整形外科, No.65)	南江堂	978-4-524-27765-0
1642	成人脊柱変形治療の最前線	南江堂	978-4-524-25986-1
1643	前十字靭帯(ACL)損傷診療ガイドライン, 改訂第2版	南江堂	978-4-524-26981-5
1644	膝関節の臨床: 臨床経験に基づく疾患へのアプローチ	南江堂	978-4-524-26415-5
1645	肘が痛い方のために: 診療ガイドラインに基づいた上腕骨外側上顆炎(テニス肘)ガイドブック	南江堂	978-4-524-26234-2
1646	肘関節外科の実際: 私のアプローチ	南江堂	978-4-524-25393-7
1647	変形性股関節症テキスト: 疾患理解と治療法	南江堂	978-4-524-23995-5
1648	変形性股関節症診療ガイドライン: 2016, 改訂第2版	南江堂	978-4-524-25415-6
1649	変形性膝関節症の診断と治療 (別冊整形外科, No.67)	南江堂	978-4-524-27767-4
1650	変形性股関節症の運動・生活ガイド: 運動療法と日常生活動作の手引き, 第4版	日本医事新報社	978-4-7849-6163-4
1651	変形性膝関節症の運動療法ガイド: 保存的治療から術後リハまで	日本医事新報社	978-4-7849-6152-8
1652	運動のつながりから導く肩の理学療法	文光堂	978-4-8306-4554-9
1653	極める変形性股関節症の理学療法: 病期別評価とそのアプローチ (臨床思考を踏まえる理学療法プラクティス)	文光堂	978-4-8306-4500-6
1654	極める変形性膝関節症の理学療法: 保存的および術後理学療法の評価とそのアプローチ (臨床思考を踏まえる理学療法プラクティス)	文光堂	978-4-8306-4508-2
1655	肩関節鏡下手術 (スキル関節鏡下手術アトラス)	文光堂	978-4-8306-2765-1
1656	膝・足関節障害: 全身から評価・治療することの意義と実際 (実践MOOK・理学療法プラクティス)	文光堂	978-4-8306-4371-2
1657	肘関節外科の要点と盲点 (整形外科Knack & Pitfalls)	文光堂	978-4-8306-2767-5
1658	臨床実践肩関節の理学療法 (教科書にはない敏腕PTのテクニック)	文光堂	978-4-8306-4567-9
1659	臨床実践足部・足関節の理学療法 (教科書にはない敏腕PTのテクニック)	文光堂	978-4-8306-4556-3
1660	臨床実践変形性膝関節症の理学療法 (教科書にはない敏腕PTのテクニック)	文光堂	978-4-8306-4541-9
1661	肩関節痛・頸部痛のリハビリテーション (痛みの理学療法シリーズ)	羊土社	978-4-7581-0230-8
1662	はじめよう音楽リハビリテーション: 3大機能のための50の音楽ゲーム集	あおぞら音楽社	978-4-904437-17-9
1663	PNFコンセプト: 原理、方法、テクニックの全てがわかる	ガイアブックス	978-4-88282-898-3
1664	リハビリテーションの不思議な力: ふせぐ まもる つなげる	日興企画	978-4-88877-915-9
1665	リハカルテ活用ハンドブック	メジカルビュー社	978-4-7583-1497-8
1666	リハビリテーションのための画像の読み方	メジカルビュー社	978-4-7583-1686-6
1667	リハビリテーションの基礎英語: 改訂第3版, 第3版	メジカルビュー社	978-4-7583-0961-5
1668	関節機能解剖学に基づく整形外科運動療法ナビゲーション: 上肢・体幹, 改訂第2版	メジカルビュー社	978-4-7583-1478-7
1669	関節機能解剖学に基づく整形外科運動療法ナビゲーション: 下肢, 改訂第2版	メジカルビュー社	978-4-7583-1479-4
1670	リハビリテーションプロトコール: 整形外科疾患へのアプローチ, 第2版	メディカル・サイエンス・インターナショナル	978-4-89592-633-1
1671	ADLとその周辺: 評価・指導・介護の実際, 第3版	医学書院	978-4-260-02204-0
1672	どうする?家庭医のための“在宅リハ” (総合診療ブックス)	医学書院	978-4-260-01623-0
1673	リハビリテーションの歩み: その源流とこれから	医学書院	978-4-260-01834-0
1674	PNF基本的手技と機能的訓練, 原著第2版	医歯薬出版	978-4-263-21390-2
1675	Q&Aフローチャートによる下肢切断の理学療法, 第4版	医歯薬出版	978-4-263-26555-0
1676	イラストでわかるスペシャルシーティング: 姿勢評価アプローチ	医歯薬出版	978-4-263-21401-5
1677	こんなときどうする?リハビリテーション臨床現場のモヤモヤ解決!	医歯薬出版	978-4-263-21871-6
1678	モーターコントロール: 研究室から臨床実践へ, 第4版	医歯薬出版	978-4-263-21431-2
1679	リハビリテーション・ADLトレーニング: 患者さんに渡せる姿勢・動作指導71	医歯薬出版	978-4-263-21576-0
1680	リハビリテーション・ホームエクササイズ: 患者さんに渡せる自主トレーニング127	医歯薬出版	978-4-263-21491-6

専門科目に係る図書(和書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
1681	リハビリテーションにおける評価, Ver.3	医歯薬出版	978-4-263-21873-0
1682	リハビリテーションにおける評価法ハンドブック: 障害や健康の測り方	医歯薬出版	978-4-263-21861-7
1683	リハビリテーションビジュアルブック, 第2版	学研メディカル秀潤社	978-4-7809-1193-0
1684	SJF関節ファシリテーション, 第2版	丸善出版	978-4-621-08845-6
1685	こころのリハビリからだのリハビリ, 新版	桐書房	978-4-87647-753-1
1686	リハと看護の協働: 22のコツ	三輪書店	978-4-89590-397-4
1687	リハビリテーションの哲学あるいは哲学のリハビリテーション	春風社	978-4-86110-303-2
1688	「深部感覚」から身体(からだ)がよみがえる!: 重力を正しく受けるリハビリ・トレーニング	晶文社	978-4-7949-6929-3
1689	PT・OTのための臨床実習で役立つリハビリテーション基本実技: PT版	診断と治療社	978-4-7878-2233-8
1690	リハビリテーションと地域連携・地域包括ケア	診断と治療社	978-4-7878-2022-8
1691	リハビリテーション: 評価と治療計画	西村書店	978-4-89013-441-0
1692	すぐに使える!実践リハビリマスターガイド: 臨床で役立つ基本知識から評価・訓練まで	中外医学社	978-4-498-08324-0
1693	リハビリテーション統計学(15レクチャーシリーズ, リハビリテーションテキスト)	中山書店	978-4-521-73667-9
1694	PNFマニュアル, 改訂第3版	南江堂	978-4-524-26345-5
1695	リハビリテーション英語テキスト(シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ)	南江堂	978-4-524-25719-5
1696	理学療法士・作業療法士のためのできる!ADL練習	南江堂	978-4-524-26579-4
1697	リハビリテーションとしての在宅医療(在宅医療の技とこころ)	南山堂	978-4-525-20921-6
1698	リハビリテーションにおける認知行動療法的アプローチ: 技術訓練と個人心理療法と構造化されたグループカウンセリングの統合	風間書房	978-4-7599-1880-9
1699	データに基づく臨床動作分析	文光堂	978-4-8306-4543-3
1700	リアルフィジカルアセスメント: リハ臨床のためのケーススタディ	文光堂	978-4-8306-4546-4
1701	リハビリテーション, 改訂新版(放送大学教材)	放送大学教育振興会	978-4-595-31418-6
1702	ADL(PT・OTビジュアルテキスト)	羊土社	978-4-7581-0795-2
1703	その患者さん、リハ必要ですよ!!: 病棟で、外来で、今すぐ役立つ!評価・オーダー・運動療法、実践リハビリテーションのコツ	羊土社	978-4-7581-1786-9
1704	理学療法を活かす褥瘡ケア: 評価・治療・予防	文光堂	978-4-8306-4545-7
1705	腎臓リハビリテーションガイドライン	南江堂	978-4-524-24663-2
1706	ウイメンズヘルスリハビリテーション	メジカルビュー社	978-4-7583-1493-0
1707	理学療法士のためのウイメンズ・ヘルス運動療法	医歯薬出版	978-4-263-21574-6
1708	ウイメンズヘルスと理学療法(理学療法MOOK, 20)	三輪書店	978-4-89590-553-4
1709	エビデンスに基づく骨盤底の理学療法: 科学と臨床をつなぐ, 原著第2版	医歯薬出版	978-4-263-21674-3
1710	めまいリハビリ実践バイブル: めまいと不安を治す12分の習慣	中外医学社	978-4-498-06264-1
1711	顎関節の徒手理学療法: 顎関節症における機能的な関連を明らかにする検査・診断・治療・症例	ガイアブックス	978-4-88282-888-4
1712	リハビリテーション職種のキャリア・デザイン	シービーアール	978-4-908083-20-4
1713	悩めるセラピストへ: 下町の指南書	ヒューマン・プレス	978-4-908933-03-5
1714	PT・OTのためのこれで安心コミュニケーション実践ガイド, 第2版	医学書院	978-4-260-02787-8
1715	プロフェッショナルを目指す!!PT卒後ハンドブック: 1年目に習得したい基本スキル	三輪書店	978-4-89590-461-2
1716	Medical Walking: ウォーキング指導者必携	南江堂	978-4-524-26883-2
1717	筋骨格系問題への取り組み: 日本語版	メディカルフロントインターナショナルリミ	978-4-902090-73-4
1718	プロフェッショナルのためのアロマセラピー, 第3版	フレグランスジャーナル社	978-4-89479-162-6
1719	解決!演奏家の手の悩み: ピアノの症例を中心に	ショパン	978-4-88364-316-5
1720	舞台医学入門	新興医学出版社	978-4-88002-776-0

専門科目に係る図書(和書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
1721	スポーツ外傷のプライマリ・ケア	シービーアール	978-4-908083-19-8
1722	アスレティックケア: リハビリテーションとコンディショニング	ナツブ	978-4-905168-43-0
1723	スポーツ障害「肩」の治療: 評価からリハビリテーション、競技復帰まで	ナツブ	978-4-905168-55-3
1724	脊柱疾患のリハビリテーションの科学的基礎 (Sports Physical Therapy Seminar Series, 12)	ナツブ	978-4-905168-49-2
1725	足関節疾患のリハビリテーションの科学的基礎 (Sports Physical Therapy Seminar Series, 11)	ナツブ	978-4-905168-46-1
1726	膝関節疾患のリハビリテーションの科学的基礎 (Sports Physical Therapy Seminar Series, 10)	ナツブ	978-4-905168-44-7
1727	ジュニアアスリートをサポートするスポーツ医科学ガイドブック	メジカルビュー社	978-4-7583-1691-0
1728	スポーツ理学療法学競技動作と治療アプローチ	メジカルビュー社	978-4-7583-1476-3
1729	頭頸部・体幹のスポーツ外傷	メジカルビュー社	978-4-7583-1578-4
1730	スポーツ診療ビジュアルブック	メディカル・サイエンス・インターナショナル	978-4-89592-856-4
1731	アスリートを救えスポーツ外傷・障害の画像診断完全攻略	医学書院	978-4-260-02195-1
1732	スポーツ外傷・障害ハンドブック: 発生要因と予防戦略	医学書院	978-4-260-02416-7
1733	実践スポーツマウスガード: 製作・調整と競技別サポート	医学情報社	978-4-903553-50-4
1734	カラー写真で学ぶ実践スポーツ障害のみかた: 触診からのアプローチ: 上肢・体幹編	医歯薬出版	978-4-263-24267-4
1735	カラー写真で学ぶ実践スポーツ障害のみかた: 触診からのアプローチ: 下肢編	医歯薬出版	978-4-263-24268-1
1736	外来整形外科のためのスポーツ外傷・障害の理学療法	医歯薬出版	978-4-263-21935-5
1737	種目別にみるスポーツ外傷・障害とリハビリテーション	医歯薬出版	978-4-263-21872-3
1738	女性アスリートのための傷害予防トレーニング	医歯薬出版	978-4-263-24058-8
1739	ファシリテート・ストレッチング: やさしいPNFストレッチング, DVD付改訂版	医道の日本社	978-4-7529-3096-9
1740	スポーツ外傷・障害に対する術後のリハビリテーション, 改訂版	運動と医学の出版社	978-4-904862-08-7
1741	スポーツと腰痛: メカニズム&マネジメント	金原出版	978-4-307-25152-5
1742	スポーツ傷害のリハビリテーション: Science and Practice, 第2版	金原出版	978-4-307-75050-9
1743	スポーツ膝の臨床, 第2版	金原出版	978-4-307-25158-7
1744	やさしいスポーツ医科学の基礎知識	嵯峨野書院	978-4-7823-0548-5
1745	新・スポーツ医学, 新版(やさしいスチューデントトレーナーシリーズ, 4)	嵯峨野書院	978-4-7823-0533-1
1746	アスリートケア: 理学療法士によるスポーツ選手への健康支援	三輪書店	978-4-89590-609-8
1747	ストレッチングの科学	三輪書店	978-4-89590-439-1
1748	スポーツ傷害の理学療法, 第2版(理学療法MOOK)	三輪書店	978-4-89590-340-0
1749	肩のスポーツ傷害: 診断・治療・リハビリテーション	三輪書店	978-4-89590-392-9
1750	股関節と骨盤のスポーツ傷害: プライマリ・ケアとリハビリテーション	三輪書店	978-4-89590-400-1
1751	スポーツ障害: 成長期に起こりやすい障害の早期発見と予防(ビジュアル版新体と健康シリーズ)	少年写真新聞社	978-4-87981-439-5
1752	EBMスポーツ医学: エビデンスに基づく診断・治療・予防	西村書店	978-4-89013-417-5
1753	DVDスポーツマッサージ: ケガに負けない体をキープする!, 新版	西東社	978-4-7916-1979-5
1754	ここが聞きたい!スポーツ診療Q&A	全日本病院出版会	978-4-88117-058-8
1755	スポーツ傷害とリハビリテーション: “重症度”と“時間経過”に応じたリハビリ・プログラム40, 新版	体育とスポーツ出版社	978-4-88458-262-3
1756	肩と肘のスポーツ障害: 診断と治療のテクニック	中外医学社	978-4-498-07310-4
1757	ナショナルチームドクター・トレーナーが書いた種目別スポーツ障害の診療, 改訂第2版	南江堂	978-4-524-26916-7
1758	運動処方指針: 運動負荷試験と運動プログラム, 原書第8版	南江堂	978-4-524-26216-8
1759	あなたも名医!知っておこうよ、スポーツ医学: 亀田スポーツ方式を日常診療に取り入れてみよう!(jmed, 50)	日本医事新報社	978-4-7849-6650-9
1760	スポーツ医学実践ナビ: スポーツ外傷・障害の予防とその対応	日本医事新報社	978-4-7849-6119-1

専門科目に係る図書(和書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
1761	エクササイズ科学: 健康体づくりと疾病・介護予防のための基礎と実践	文光堂	978-4-8306-5177-9
1762	スポーツ医学研修ハンドブック: 基礎科目, 第2版	文光堂	978-4-8306-5158-8
1763	スポーツ医学研修ハンドブック: 応用科目, 第2版	文光堂	978-4-8306-5159-5
1764	スポーツ外傷・障害の理学診断・理学療法ガイド, 第2版	文光堂	978-4-8306-5182-3
1765	下肢スポーツ外傷のリハビリテーションとリコンディショニング: リスクマネジメントに基づいたアプローチ (Skill-Upリハビリテーション&リコンディショニング)	文光堂	978-4-8306-5167-0
1766	機能評価診断とその技法: スポーツ理学療法プラクティス	文光堂	978-4-8306-4559-4
1767	急性期治療とその技法 (スポーツ理学療法プラクティス)	文光堂	978-4-8306-4560-0
1768	腰痛のリハビリテーションとリコンディショニング: リスクマネジメントに基づいたアプローチ (Skill-Upリハビリテーション&リコンディショニング)	文光堂	978-4-8306-5162-5
1769	上肢急性外傷のリハビリテーションとリコンディショニング: リスクマネジメントに基づいたアプローチ (Skill-Upリハビリテーション&リコンディショニング)	文光堂	978-4-8306-5169-4
1770	積極的保存療法: スポーツ障害の評価と治療	文光堂	978-4-8306-5166-3
1771	実践グローバルスポーツマッサージ	緑書房	978-4-89531-851-8
1772	多関節運動学入門, 第2版	ナツプ	978-4-905168-17-1
1773	ストレッチングアナトミー	医学映像教育センター	978-4-86243-323-7
1774	ボディ・ナビゲーションクイックガイドストレッチ&トレーニング	医道の日本社	978-4-7529-3109-6
1775	ランニング医学大事典: 評価・診断・治療・予防・リハビリテーション	西村書店	978-4-89013-436-6
1776	ランニング障害のリハビリテーションとリコンディショニング: リスクマネジメントに基づいたアプローチ (Skill-Upリハビリテーション&リコンディショニング)	文光堂	978-4-8306-5178-6
1777	コーチとプレーヤーのためのサッカー医学テキスト	金原出版	978-4-307-25151-8
1778	OS NOW Instruction: No.11 肩・肘のスポーツ障害 スポーツ寿命を延ばすための手技のコツ	メジカルビュー社	978-4-7583-1010-9
1779	投球障害肩こう診てこう治せ: ここが我々の切り口! 改訂第2版	メジカルビュー社	978-4-7583-1368-1
1780	よくわかる野球肘 肘の内側部障害: 病態と対応 (肘実践講座)	全日本病院出版会	978-4-86519-217-9
1781	よくわかる野球肘 離断性骨軟骨炎: 肘実践講座	全日本病院出版会	978-4-88117-070-0
1782	野球ヒジ診療ハンドブック: 肘の診断から治療, 検診まで	全日本病院出版会	978-4-86519-204-9
1783	野球の医学, 新版	文光堂	978-4-8306-5184-7
1784	野球肘検診ガイドブック	文光堂	978-4-8306-5186-1
1785	サイクリング解剖学 (スポーツ解剖学シリーズ)	ベースボールマガジン社	978-4-583-10370-9
1786	「認知運動療法」日記: ボクは日々、変容する身体	協同医書出版社	978-4-7639-4011-7
1787	コメディカルのための社会福祉概論, 第4版	講談社	978-4-06-514046-8
1788	内科学【分冊版】, 第11版	朝倉書店	978-4-254-32271-2
1789	神経内科ハンドブック: 鑑別診断と治療, 第5版	医学書院	978-4-260-02417-4
1790	高次脳機能がよくわかる脳のしくみとそのまま	医学書院	978-4-260-03195-0
1791	慢性痛のサイエンス: 脳からみた痛みの機序と治療戦略	医学書院	978-4-260-03428-9
1792	プロメテウス解剖学コアアトラス, 第3版	医学書院	978-4-260-03535-4
1793	標準理学療法学: 専門分野: 神経理学療法学, 第2版 (STANDARD TEXTBOOK)	医学書院	978-4-260-03621-4
1794	膝MRI, 第3版	医学書院	978-4-260-03631-3
1795	標準理学療法学: 専門分野: 理学療法評価学, 第3版 (STANDARD TEXTBOOK)	医学書院	978-4-260-03639-9
1796	標準理学療法学・作業療法学: 専門基礎分野: 生理学, 第5版 (STANDARD TEXTBOOK)	医学書院	978-4-260-03644-3
1797	標準病理学, 第6版 (Standard Textbook)	医学書院	978-4-260-03659-7
1798	脊髄損傷リハビリテーションマニュアル, 第3版	医学書院	978-4-260-03696-2
1799	標準理学療法学・作業療法学: 専門基礎分野: 神経内科学, 第5版 (STANDARD TEXTBOOK)	医学書院	978-4-260-03817-1
1800	Evidence Basedで考える認知症リハビリテーション	医学書院	978-4-260-03923-9

専門科目に係る図書(和書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
1801	在宅呼吸リハビリテーションポケットマニュアル	医歯薬出版	978-4-263-21342-1
1802	専門基礎分野 基礎医学: 電子版・オンラインテスト付: 2020 (理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント)	医歯薬出版	978-4-263-21643-9
1803	専門基礎分野 臨床医学: 電子版・オンラインテスト付: 2020 (理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント)	医歯薬出版	978-4-263-21644-6
1804	基礎PT学: 電子版・オンラインテスト付: 2020 (理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント)	医歯薬出版	978-4-263-21645-3
1805	障害別PT治療学: 電子版・オンラインテスト付: 2020 (理学療法士・作業療法士国家試験必修ポイント)	医歯薬出版	978-4-263-21646-0
1806	臨床につながる神経・筋疾患	医歯薬出版	978-4-263-26552-9
1807	筋骨格系のキネシオロジー, 第3版	エルゼビア・ジャパン	978-4-263-26581-9
1808	カバンジー機能解剖学 全3巻, 原著第7版	医歯薬出版	978-4-263-26595-6
1809	脳卒中: 基礎知識から最新リハビリテーションまで	医歯薬出版	978-4-263-26599-4
1810	PT・OTのための臨床技能とOSCE: 機能障害・能力低下への介入編	金原出版	978-4-307-75051-6
1811	理学療法評価学, 改訂第6版	金原出版	978-4-307-75054-7
1812	細胞の分子生物学, 第6版	ニュートンプレス	978-4-315-52062-0
1813	前頭葉のしくみ: からだ・心・社会をつなぐネットワーク (ブレインサイエンス・レクチャー, 8)	共立出版	978-4-320-05798-2
1814	決定版!パラリンピック大百科 全5巻セット	小峰書店	978-4-338-32700-8
1815	教養としてのアダプテッド体育・スポーツ学	大修館書店	978-4-469-26846-1
1816	SPSSによる分散分析と多重比較の手順, 第5版 (ていねいでわかりやすいクリックするだけの統計入門)	東京図書	978-4-489-02204-3
1817	SPSSによる統計処理の手順, 第8版 (ていねいでわかりやすいクリックするだけの統計入門)	東京図書	978-4-489-02278-4
1818	慢性疼痛診療ハンドブック	中外医学社	978-4-498-05610-7
1819	詳解 独立成分分析: 信号解析の新しい世界	東京電機大学出版局	978-4-501-53860-6
1820	病態からみた理学療法: 臨床の「なぜ?どうして?」がわかる: 外科編	中山書店	978-4-521-74594-7
1821	臨床実習フィールドガイド, 改訂第2版	南江堂	978-4-524-23630-5
1822	神経筋障害理学療法学テキスト, 改訂第3版 (シンプル理学療法学シリーズ)	南江堂	978-4-524-25257-2
1823	新英語抄録・口頭発表・論文作成虎の巻: 忙しい若手ドクターのために	南江堂	978-4-524-25423-1
1824	日本人体解剖学: 上巻 骨格系 筋系 神経系, 改訂19版	南山堂	978-4-525-10089-6
1825	日本人体解剖学: 下巻 循環器系 内臓学 感覚器, 改訂19版	南山堂	978-4-525-10099-5
1826	スポーツエコー診療Golden Standard	南山堂	978-4-525-32301-1
1827	老いの探究: マックス・プランク協会レポート	日本評論社	978-4-535-58542-3
1828	速習!シンプルに文章を書く技術: 読み手をうならせる32のテクニック	PHP研究所	978-4-569-79249-1
1829	ケリーMRI解剖学	丸善出版	978-4-621-07375-9
1830	シリーズ生命倫理学: 第13巻 臨床倫理	丸善出版	978-4-621-08490-8
1831	ロピンス基礎病理学, 原書10版 (Student Consult)	丸善出版	978-4-621-30198-2
1832	極めに・究める・脳卒中 (Kiwameni-Kiwameru Rehabilitation)	丸善出版	978-4-621-30336-8
1833	極めに・究める・運動器疾患 (Kiwameni-Kiwameru Rehabilitation)	丸善出版	978-4-621-30352-8
1834	極めに・究める・内部障害 (Kiwameni-Kiwameru Rehabilitation)	丸善出版	978-4-621-30353-5
1835	極めに・究める・神経筋疾患 (Kiwameni-Kiwameru Rehabilitation)	丸善出版	978-4-621-30369-6
1836	パラリンピックを学ぶ	早稲田大学出版部	978-4-657-16014-0
1837	PT・OTのための臨床研究ははじめの一步: 研究デザインから統計解析、ポスター・口述発表のコツまで実体験から教えます	羊土社	978-4-7581-0216-2
1838	メディカルスタッフのためのひと目で選ぶ統計手法: 「目的」と「データの種類」で簡単検索!適した手法が76の事例から見つかる、結果がまとめられる	羊土社	978-4-7581-0228-5
1839	ライフステージから学ぶ地域包括リハビリテーション実践マニュアル	羊土社	978-4-7581-0229-2
1840	理学療法のための筋力トレーニングと運動学習: 動作分析から始める根拠にもとづく運動療法	羊土社	978-4-7581-0237-7

専門科目に係る図書(和書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
1841	運動学 (PT・OTビジュアルテキスト専門基礎)	羊土社	978-4-7581-0244-5
1842	脳・神経系リハビリテーション: カラー写真でわかるリハの根拠と手技のコツ (ビジュアル実践リハ)	羊土社	978-4-7581-0788-4
1843	FLASH薬理学	羊土社	978-4-7581-2089-0
1844	理学療法士・作業療法士ポケット・レビュー帳: 基礎編	メジカルビュー社	978-4-7583-0691-1
1845	PT・OTが書いたリハビリテーション英会話	メジカルビュー社	978-4-7583-0965-3
1846	理学療法士グリーン・ノート: 専門編, 第2版	メジカルビュー社	978-4-7583-1125-0
1847	理学療法士 イエロー・ノート 専門編, 2nd edition版	メジカルビュー社	978-4-7583-1126-7
1848	理学療法士・作業療法士 ブルー・ノート 基礎編, 2nd edition版	メジカルビュー社	978-4-7583-1128-1
1849	半月板のすべて: 解剖から手術、再生医療まで	メジカルビュー社	978-4-7583-1869-3
1850	脳卒中理学療法の理論と技術, 第3版	メジカルビュー社	978-4-7583-1936-2
1851	神経難病領域のリハビリテーション実践アプローチ, 改訂第2版	メジカルビュー社	978-4-7583-1938-6
1852	神経障害理学療法学: 1 脳血管障害, 頭部外傷, 脊髄損傷 (Crosslink理学療法学テキスト)	メジカルビュー社	978-4-7583-2002-3
1853	地域理学療法学 (Crosslink理学療法学テキスト)	メジカルビュー社	978-4-7583-2010-8
1854	福祉医療建築の連携による高齢者・障害者のための住居改善	学芸出版社	978-4-7615-2270-4
1855	理学療法・作業療法のSOAPノートマニュアル: 問題志向型診療記録の書き方	協同医書出版社	978-4-7639-1026-4
1856	計測法入門: 計り方, 計る意味	協同医書出版社	978-4-7639-1030-1
1857	発達支援学: その理論と実践: 育ちが気になる子の子育て支援体系	協同医書出版社	978-4-7639-2131-4
1858	言語聴覚士のためのパーキンソン病のリハビリテーションガイド: 摂食嚥下障害と発話障害の理解と治療	協同医書出版社	978-4-7639-3056-9
1859	生涯発達の健康科学: 生涯にわたる健康への科学的探求	杏林書院	978-4-7644-1100-5
1860	地域高齢者のための転倒予防: 転倒の基礎理論から介入実践まで	杏林書院	978-4-7644-1129-6
1861	酸素療法マニュアル	メディカルレビュー社	978-4-7792-1995-5
1862	COPD<慢性閉塞性肺疾患>診断と治療のためのガイドライン, 第5版	メディカルレビュー社	978-4-7792-2074-6
1863	神経内科疾患の画像診断, 第2版	学研メディカル秀潤社	978-4-7809-0948-7
1864	新生理学, 改訂第7版 フルカラー新装版 (Qシリーズ)	日本医事新報社	978-4-7849-1171-4
1865	心電図免許皆伝: 心電図の読み方・考え方, 第2版	日本医事新報社	978-4-7849-4219-0
1866	相談・支援のための福祉・医療制度活用ハンドブック: [2016]改訂版, 改訂版	新日本法規出版	978-4-7882-8192-9
1867	医事刑法から統合的医事法へ	成文堂	978-4-7923-1898-7
1868	患者中心の意思決定支援: 納得して決めるためのケア	中央法規出版	978-4-8058-3604-0
1869	表面筋電図と筋音図を学ぶ人のために: 計測・解析技術から医学・体力科学への応用まで	東洋出版	978-4-8096-7916-2
1870	ウエスト呼吸生理学入門: 疾患肺編, 第2版	メディカル・サイエンス・インターナショナル	978-4-8157-0116-1
1871	スポーツリハビリテーションの臨床	メディカル・サイエンス・インターナショナル	978-4-8157-0155-0
1872	組織病理アトラス, 第6版	文光堂	978-4-8306-0476-8
1873	神経症候学: 1, 改訂第2版	文光堂	978-4-8306-1532-0
1874	神経症候学: 2, 改訂第2版	文光堂	978-4-8306-1533-7
1875	あなたが心電図を読めない本当の理由(わけ): 続々	文光堂	978-4-8306-1905-2
1876	触診機能解剖カラーアトラス 上: 総論・身体の面と軸・骨／関節・靭帯	文光堂	978-4-8306-4344-6
1877	触診機能解剖カラーアトラス 下: 筋・血管・神経	文光堂	978-4-8306-4345-3
1878	運動療法のための運動器超音波機能解剖 拘縮治療との接点: WEB動画付き	文光堂	978-4-8306-4518-1
1879	脳卒中・片麻痺理学療法マニュアル, 第2版	文光堂	978-4-8306-4551-8
1880	認知症の標準的解釈とリハビリテーション介入	文光堂	978-4-8306-4555-6

専門科目に係る図書(和書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
1881	どう向き合う!?高齢者の認知機能:セラピストのための基本的な考え方と臨床応用	文光堂	978-4-8306-4576-1
1882	ネルソン小児科学, 原著第19版	エルゼビア・ジャパン	978-4-86034-293-7
1883	東大病院発医療スタッフのための英会話	ベレ出版	978-4-86064-475-8
1884	抗加齢医療: その最前線の実際	新興医学出版社	978-4-88002-696-1
1885	慢性疼痛治療ガイドライン	真興交易(株)医書出版部	978-4-88003-918-3
1886	最新運動療法大全: “基礎と実践”& “エビデンス情報”	ガイアブックス	978-4-88282-829-7
1887	スポーツ筋損傷診断と治療法	ガイアブックス	978-4-88282-836-5
1888	筋電図のための解剖ガイド: 四肢・体幹, 第3版	西村書店	978-4-89013-258-4
1889	カラー人体解剖学: 構造と機能: ミクロからマクロまで	西村書店	978-4-89013-305-5
1890	エレンベッカー肩関節検査法	西村書店	978-4-89013-368-0
1891	臨床のための神経形態学入門	三輪書店	978-4-89590-320-2
1892	ペインリハビリテーション	三輪書店	978-4-89590-385-1
1893	図解誤嚥を防ぐポジショニングと食事ケア: ナース必携	三輪書店	978-4-89590-441-4
1894	ペインリハビリテーション入門	三輪書店	978-4-89590-634-0
1895	ICUブック, 第4版	メディカル・サイエンス・インターナショナル	978-4-89592-831-1
1896	ウエスト呼吸生理学入門: 正常肺編, 第2版	メディカル・サイエンス・インターナショナル	978-4-89592-871-7
1897	クエスチョン・バンク理学療法士・作業療法士国家試験問題解説: 2020共通問題	メディックメディア	978-4-89632-772-4
1898	クエスチョン・バンク理学療法士国家試験問題解説: 2020専門問題	メディックメディア	978-4-89632-773-1
1899	膝関節痛予防・軽減のための運動学習支援マニュアル: 地域保健事業の企画・運営に役立つ(効果的な運動の理論と指導法)	サンライフ企画	978-4-904011-10-2
1900	寝たきりをつくらない介護予防運動: 理論と実際(運動と医学の出版社の臨床家シリーズ)	運動と医学の出版社	978-4-904862-29-2
1901	拘縮治療のエビデンスと臨床応用 (Joint Health Series, 1)	gene	978-4-905241-78-2
1902	老年健康科学: 運動促進・知的活動・社会参加のススメ	ヒューマン・プレス	978-4-908933-22-6
1903	福祉住環境コーディネーター検定試験1級公式テキスト, 改訂5版	東京商工会議所	978-4-924547-60-5
1904	福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト, 改訂5版	東京商工会議所	978-4-924547-61-2
1905	福祉住環境コーディネーター検定試験3級公式テキスト, 改訂5版	東京商工会議所	978-4-924547-62-9
1906	ACL損傷予防プログラムの科学的基礎 (Sports Physical Therapy Seminar Series)	ナツプ	978-4-931411-74-6
1907	肩のリハビリテーションの科学的基礎 (Sports Physical Therapy Seminar Series)	ナツプ	978-4-931411-79-1
1908	足関節捻挫予防プログラムの科学的基礎 (Sports Physical Therapy Seminar Series)	ナツプ	978-4-931411-91-3
1909	筋・筋膜性腰痛のメカニズムとリハビリテーション (Sports Physical Therapy Seminar Series)	ナツプ	978-4-931411-92-0
1910	リハビリテーション基礎評価学, 第2版 (PT・OTビジュアルテキスト)	羊土社	978-4-7581-0245-2
1911	脳神経科学がわかる、好きになる	羊土社	978-4-7581-2098-2
1912	標準救急医学	医学書院	978-4-260-01755-8
1913	シンプル衛生公衆衛生学2019	南江堂	978-4-524-24819-3
1914	医学生のための生命倫理	丸善出版	9784621085936
1915	対人コミュニケーション入門-看護のパワーアップにつながる理論と技術	ライフサポート社	9784904084229
1916	臨床医学総論/臨床検査医学総論(最新臨床検査学講座)	医歯薬出版	9784263223581
1917	脳科学の教科書神経編	岩波ジュニア新書	9784005006809
1918	脳の中の幽霊	角川書店	9784042982111
1919	9つの脳の不思議な物語	文藝春秋	9784163909646
1920	標準精神医学(第7版)	医学書院	9784260032469

専門科目に係る図書(和書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
1921	心理教科書公認心理師出る！出る！要点ブック＋一問一答	翔泳社	9784798160283
1922	リハビリテーション序説	医学書院	9784260007542
1923	超入門スラスラわかるリアルワールドデータで臨床研究	金芳堂	9784765317894
1924	看護研究のための文献検索ガイド(第4版)	日本看護協会出版会	9784818014985
1925	PT・OT・STのための診療ガイドライン活用法	医歯薬出版	9784263215753
1926	エビデンスに基づく看護実践のためのシステムティックレビュー	日本看護協会出版会	9784818017917
1927	カンタンリハビリ英会話キーフレーズ600+	新興医学出版社	9784880025926
1928	ベッドサイドの神経の診かた(第18版)	南山堂	9784525247980
1929	がんのリハビリテーション診療ガイドライン(第2版)	金原出版	9784307750561

専門科目に係る図書(洋書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
1	A Practical Guide to Statistics for Health Research	Wiley-Blackwell	978-1-119-38357-4
2	Advanced Systems for Improved Public Healthcare and Disease Prevention: Emerging Research and Opportunities	IGI Global	978-1-5225-5528-5
3	Aging: Exploring a Complex Phenomenon	CRC Pr.	978-1-138-19697-1
4	An Introduction to Global Health Delivery	Oxford U.P., New York	978-0-19-066245-5
5	Anatomy – An Essential Textbook, 2nd ed.	Thieme Medical Publishers	978-1-62623-439-0
6	Animal Models for the Study of Human Disease, 2nd ed.	Academic Pr.	978-0-12-809468-6
7	Antisepsis, Disinfection, and Sterilization: Types, Action, and Resistance, 2nd ed. (ASM Books)	Wiley-Blackwell	978-1-55581-967-5
8	Application of the Political Economy to Rural Health Disparities (SpringerBriefs in Public Health)	Springer International Pub.	978-3-319-73536-8
9	Atlas of Histology: with Functional Correlations, 13th ed./IE.	Lippincott Williams & Wilkins	978-1-4963-1023-1
10	Atlas of the Human Body: Central Nervous System and Vascularization	Academic Pr.	978-0-12-809410-5
11	Basic Science Methods for Clinical Researchers	Academic Pr.	978-0-12-803077-6
12	Berne and Levy Physiology, 7th ed.	Mosby	978-0-323-39394-2
13	Biomechanics of the Human Stomach	Springer International Pub.	978-3-319-59676-1
14	Biopsy Interpretation of the Skin: Primary Non-Lymphoid Cutaneous Neoplasia, 2nd ed. (Biopsy Interpretation)	Lippincott Williams & Wilkins	978-1-4963-6513-2
15	Board Review in Preventive Medicine and Public Health	Academic Pr.	978-0-12-813778-9
16	Bone: A Regulator of Physiology (Cold Spring Harbor Perspectives in Medicine)	Cold Spring Harbor Laboratory Press	978-1-62182-220-2
17	Case Studies in Public Health	Academic Pr.	978-0-12-804571-8
18	Cellular and Molecular Immunology, 9th ed.	Elsevier	978-0-323-47978-3
19	Clinical Immunology, 5th ed.	Elsevier	978-0-7020-6896-6
20	Clinical Virology, 4th ed. (ASM Books)	Wiley-Blackwell	978-1-55581-942-2
21	Clinically Oriented Anatomy, 8th ed./IE.	Lippincott Williams & Wilkins	978-1-4963-5404-4
22	Color Atlas and Text of Histology, 7th ed.	Lippincott Williams & Wilkins	978-1-4963-4673-5
23	Communication Skills in Health and Social Care, 4th ed.	Sage Pub.	978-1-5264-0132-8
24	Comparative Anatomy and Histology: A Mouse, Rat, and Human Atlas, 2nd ed.	Academic Pr.	978-0-12-802900-8
25	Compendium of Histology: A Theoretical and Practical Guide	Springer International Pub.	978-3-319-41871-1

専門科目に係る図書(洋書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
26	Conceptualising Public Health: Historical and Contemporary Struggles over Key Concepts (Routledge Studies in Public Health)	Routledge	978-1-138-03683-3
27	Conn's Handbook of Models for Human Aging, 2nd ed.	Academic Pr.	978-0-12-811353-0
28	Cytopathology (Encyclopedia of Pathology)	Springer International Pub.	978-3-319-33285-7
29	Diagnostic Gynecologic and Obstetric Pathology, 3rd ed.	Elsevier	978-0-323-44732-4
30	Diagnostic Pathology of Infectious Disease, 2nd ed.	Mosby	978-0-323-44585-6
31	Diagnostic Pathology: Blood and Bone Marrow, 2nd ed. (Diagnostic Pathology)	Elsevier	978-0-323-39254-9
32	Diagnostic Pathology: Bone, 2nd ed. (Diagnostic Pathology)	Elsevier	978-0-323-47777-2
33	Diagnostic Pathology: Cardiovascular, 2nd ed. (Diagnostic Pathology)	Amirsys	978-0-323-59560-5
34	Diagnostic Pathology: Endocrine, 2nd ed. (Diagnostic Pathology)	Elsevier	978-0-323-52480-3
35	Diagnostic Pathology: Lymph Nodes and Extranodal Lymphomas, 2nd ed. (Diagnostic Pathology)	Elsevier	978-0-323-47779-6
36	Diagnostic Pathology: Thoracic, 2nd ed. (Diagnostic Pathology)	Elsevier	978-0-323-37715-7
37	Dictionary of Stem Cells, Regenerative Medicine, and Translational Medicine	Wiley-Blackwell	978-1-118-86782-2
38	Dissemination and Implementation Research in Health, 2nd ed.	Oxford U.P., New York	978-0-19-068321-4
39	Donaldsons' Essential Public Health, 4th ed.	CRC Pr.	978-1-138-72201-9
40	Emery's Elements of Medical Genetics, 15th ed.	Elsevier	978-0-7020-6685-6
41	Empowerment of Women for Promoting Health and Quality of Life	Oxford U.P., New York	978-0-19-938466-2
42	Encyclopedia of Signaling Molecules, 2nd ed. (Encyclopedia of Signaling Molecules)	Springer International Pub.	978-3-319-67198-7
43	Essential Human Development (Essentials)	Wiley-Blackwell	978-1-118-52862-4
44	Essentials of Public Health Preparedness and Emergency Management, 2nd ed.	Jones & Bartlett Publishers Inc.	978-1-284-12147-6
45	Evidence-Based Public Health, 3rd ed.	Oxford U.P., New York	978-0-19-062093-6
46	Executive Functions in Health and Disease	Academic Pr.	978-0-12-803676-1
47	Foundations for Global Health Practice	Wiley	978-1-118-50556-4
48	Fundamentals of Toxicologic Pathology, 3rd ed.	Academic Pr.	978-0-12-809841-7
49	Fundamentals of U.S. Health Care: An Introduction for Health Professionals	Routledge	978-1-138-65921-6

専門科目に係る図書(洋書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
50	Gardner and Sutherland's Chromosome Abnormalities and Genetic Counseling, 5th ed. (Oxford Monographs on Medical Genetics)	Oxford U.P., New York	978-0-19-932900-7
51	Global Health: An Introduction to Current and Future Trends, 2nd ed.	Routledge	978-1-138-91274-8
52	Global Health Collaboration: Challenges and Lessons (SpringerBriefs in Public Health)	Springer International Pub.	978-3-319-77684-2
53	Global Health Informatics – Principles of eHealth and mHealth to Improve Quality of Care	The MIT Press	978-0-262-53320-1
54	Gray's Basic Anatomy, 2nd ed.	Elsevier	978-0-323-47404-7
55	Handbook of Epigenetics: The New Molecular and Medical Genetics, 2nd ed.	Academic Pr.	978-0-12-805388-1
56	Handbook of Human Motion (Handbook of Human Motion)	Springer International Pub.	978-3-319-14417-7
57	Harper's Illustrated Biochemistry, 31st ed.	McGraw-Hill	978-1-259-83793-7
58	Health Care Politics, Policy, and Services: A Social Justice Analysis, 3rd ed.	Springer Pub.	978-0-8261-6897-9
59	Health Communication in the Changing Media Landscape: Perspectives from Developing Countries (Global Transformations in Media and Communication Research – A Palgrave and IAMCR Series)	Palgrave Macmillan	978-3-319-33538-4
60	Health Disparities, Diversity, and Inclusion: Context, Controversies, and Solutions	Jones & Bartlett Publishers Inc.	978-1-284-09016-1
61	Health Economics, 6th ed.	Routledge	978-1-138-20798-1
62	Health in Humanitarian Emergencies: Principles and Practice for Public Health and Healthcare Practitioners	Cambridge U.P.	978-1-107-06268-9
63	Health on Delivery: The Rollout of Antiretroviral Therapy in Malawi (Anthropology and Global Public Health)	Routledge	978-1-61132-350-4
64	Health Promotion in Disease Outbreaks and Health Emergencies	CRC Pr.	978-1-138-09320-1
65	Health, Culture and Society: Conceptual Legacies and Contemporary Applications	Palgrave Macmillan	978-3-319-60785-6
66	Healthcare Systems: Future Predictions for Global Care	CRC Pr.	978-1-138-05260-4
67	Healthy Cities: The Theory, Policy, and Practice of Value-Based Urban Planning	Springer Verlag New York	978-1-4939-6692-9
68	Hearing: An Introduction to Psychological and Physiological Acoustics, 6th ed.	CRC Pr.	978-1-4987-7542-7
69	Histopathology, 2nd ed. (Fundamentals of Biomedical Science)	Oxford U.P.	978-0-19-871733-1
70	History of Human Genetics: Aspects of Its Development and Global Perspectives	Springer International Pub.	978-3-319-51782-7
71	Human Biochemistry	Academic Pr.	978-0-12-383864-3
72	Human Biology, 15th ed./ISE.	McGraw-Hill	978-1-259-92186-5
73	Human Disease and Health Promotion	Wiley	978-0-470-58908-3

専門科目に係る図書(洋書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
74	Human Neuroanatomy, 2nd ed.	Wiley-Blackwell	978-0-470-96161-2
75	Human Physiology, 5th ed.	Oxford U.P.	978-0-19-873722-3
76	Human Trafficking Is a Public Health Issue: A Paradigm Expansion in the United States	Springer International Pub.	978-3-319-47823-4
77	Improving Population Health Using Electronic Health Records: Methods for Data Management and Epidemiological Analysis	CRC Pr.	978-1-4987-5910-6
78	Integrative Sexual Health (Weil Integrative Medicine Library)	Oxford U.P., New York	978-0-19-022588-9
79	Intelligent Health Policy: Theory, Concept and Practice	Springer International Pub.	978-3-319-69595-2
80	Janeway`s Immunobiology, 9th ed.	W.W. Norton & Co.	978-0-8153-4445-2
81	Kuby Immunology, 8th ed.	W.H. Freeman and co.	978-1-319-11470-1
82	Levick`s Introduction to Cardiovascular Physiology, 6th ed.	CRC Pr.	978-0-8153-6361-3
83	Lippincott Illustrated Reviews: Biochemistry, 7th ed./IE.	Lippincott Williams & Wilkins	978-1-4963-6354-1
84	Lippincott`s Illustrated Reviews: Cell and Molecular Biology, 2nd ed./IE.	Lippincott Williams & Wilkins	978-1-9751-0623-2
85	Macrophages: Origin, Functions and Biointervention (Results and Problems in Cell Differentiation, Vol.62)	Springer International Pub.	978-3-319-54089-4
86	MacSween`s Pathology of the Liver, 7th ed.	Elsevier	978-0-7020-6697-9
87	Medical and Scientific Publishing	Academic Pr.	978-0-12-809969-8
88	Medical Biochemistry	Academic Pr.	978-0-12-803550-4
89	Medical Parasitology: A Textbook	Springer International Pub.	978-3-319-68794-0
90	Metabolism at a Glance, 4th ed.	Wiley-Blackwell	978-0-470-67471-0
91	Mims` Medical Microbiology and Immunology, 6th ed.	Elsevier	978-0-7020-7154-6
92	Molecular and Functional Insights Into the Pulmonary Vasculature (Advances in Anatomy, Embryology and Cell Biology, Vol. 228)	Springer International Pub.	978-3-319-68482-6
93	Netter`s Essential Biochemistry (Netter Basic Science)	Elsevier	978-1-929007-63-9
94	Neuropathologic and Neuroradiologic Correlations: A Differential Diagnostic Text and Atlas	Cambridge U.P.	978-1-107-56725-2
95	New Health Systems	Elsevier Science	978-1-78548-165-9
96	Outreach in Community Mental Health Care: A Manual for Practitioners, 2nd ed.	Oxford U.P.	978-0-19-875423-7
97	Oxford Handbook of Public Health Practice and Oxford Handbook of Infectious Diseases (Oxford Medical Handbooks)	Oxford U.P.	978-0-19-875803-7
98	Oxford Textbook of Medical Mycology (Oxford Textbooks in Infectious Disease and Microbiology)	Oxford U.P.	978-0-19-875538-8

専門科目に係る図書(洋書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
99	Oxford Textbook of Nature and Public Health (Oxford Textbooks in Public Health)	Oxford U.P.	978-0-19-872591-6
100	Participatory Healthcare: A Person-Centered Approach to Healthcare Transformation	CRC Pr.	978-1-138-43130-0
101	Participatory Visual Methodologies in Global Public Health	Routledge	978-1-138-72426-6
102	Pathology of the Gastrointestinal Tract (Encyclopedia of Pathology)	Springer International Pub.	978-3-319-40559-9
103	Pathology of the Head and Neck, 2nd ed.	Springer Verlag	978-3-662-49670-1
104	Perceived Health and Adaptation in Chronic Disease	Routledge	978-1-4987-7898-5
105	Physiology, 6th ed.	Mosby	978-0-323-47881-6
106	Pioneers in Pathology (Encyclopedia of Pathology)	Springer International Pub.	978-3-319-41994-7
107	Pioneers in Public Health: Lessons from History (Routledge Focus on Environmental Health)	Routledge	978-1-138-05945-0
108	Planning Later Life: Bioethics and Public Health in Ageing Societies (Routledge Advances in Health and Social Policy)	Routledge	978-1-4724-8132-0
109	Principles of Gender-Specific Medicine: Gender in the Genomic Era, 3rd ed.	Academic Pr.	978-0-12-803506-1
110	Progress and Challenges in Precision Medicine	Academic Pr.	978-0-12-809411-2
111	Promoting Self-Management of Chronic Health Conditions	Oxford U.P., New York	978-0-19-060614-5
112	Public Health 101: Improving Community Health, 3rd ed.	Jones & Bartlett Publishers Inc.	978-1-284-11844-5
113	Public Health Informatics: Designing for change – a developing country perspective	Oxford U.P.	978-0-19-875877-8
114	Public Health Intelligence and the Internet (Lecture Notes in Social Networks)	Springer International Pub.	978-3-319-68602-8
115	Public Health Risk Assessment for Human Exposure to Chemicals, 2nd ed. (Environmental Pollution, Vol.27)	Springer Netherlands	978-94-024-1037-2
116	Quantitative Methods for Health Research: A Practical Interactive Guide to Epidemiology and Statistics, 2nd ed.	Wiley-Blackwell	978-1-118-66541-1
117	Robbins Basic Pathology, 10th ed. (Robbins Pathology)	Elsevier	978-0-323-35317-5
118	Roitt's Essential Immunology, 13th ed. (Essentials)	Wiley-Blackwell	978-1-118-41577-1
119	Rosai and Ackerman's Surgical Pathology, 11th ed.	Elsevier	978-0-323-26339-9
120	Sex and Gender Factors Affecting Metabolic Homeostasis, Diabetes and Obesity (Advances in Experimental Medicine and Biology, Vol. 1043)	Springer International Pub.	978-3-319-70177-6
121	Sexual Selection in Homo sapiens: Parental Control over Mating and the Opportunity Cost of Free Mate Choice	Springer International Pub.	978-3-319-58998-5
122	Silva's Diagnostic Renal Pathology, 2nd ed.	Cambridge U.P.	978-1-316-61398-6
123	Smart Technologies in Healthcare	CRC Pr.	978-1-4987-2200-1

専門科目に係る図書(洋書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
124	Social Research in Health and Illness: Case-Based Approaches	Routledge	978-1-4724-5228-3
125	States of Disease – Political Environments and Human Health	University of California Press	978-0-520-27820-2
126	Stem Cell Research: Hope or Hype?	CRC Pr.	978-1-138-62729-1
127	Stochastic Modeling And Analytics In Healthcare Delivery Systems	World Scientific	978-981-322-084-3
128	Textbook of Global Health, 4th ed.	Oxford U.P., New York	978-0-19-939228-5
129	The Biomedical Writer	Cambridge U.P.	978-1-108-40139-5
130	The Economics of Public Health: Evaluating Public Health Interventions	Palgrave Macmillan	978-3-319-74825-2
131	The Essential Guide to Doing a Health and Social Care Literature Review	Routledge	978-1-138-18691-0
132	The Handbook of Health Behavior Change, 5th ed.	Springer Pub.	978-0-8261-8013-1
133	The Practice of Surgical Pathology: A Beginner's Guide to the Diagnostic Process, 2nd ed.	Springer International Pub.	978-3-319-59210-7
134	The Public Health Crisis Survival Guide: Leadership and Management in Trying Times	Oxford U.P., New York	978-0-19-069721-1
135	The Rise of Fetal and Neonatal Physiology: Basic Science to Clinical Care, 2nd ed. (Perspectives in Physiology)	Springer Verlag New York	978-1-4939-7482-5
136	Tissue Engineering and Regenerative Medicine (Cold Spring Harbor Perspectives in Medicine)	Cold Spring Harbor Laboratory Press	978-1-62182-128-1
137	Transplantation Pathology Hardback with Online Resource, 2nd ed.	Cambridge U.P.	978-1-107-44328-0
138	Underlying Standards that Support Population Health Improvement (HIMSS Book Series)	CRC Pr.	978-1-4987-6145-1
139	Unequal Health: How Inequality Contributes to Health or Illness, 3rd ed.	Rowman & Littlefield	978-1-4422-4850-2
140	Urodynamics Made Easy, 4th ed. (Made Easy)	Elsevier	978-0-7020-7340-3
141	A Practical Approach to Musculoskeletal Medicine: Assessment, Diagnosis, Treatment, 4th ed.	Elsevier	978-0-7020-5736-6
142	A Practical Guide to Fascial Manipulation: an evidence- and clinical-based approach	Elsevier	978-0-7020-6659-7
143	Acupuncture for Pain Management	Springer Verlag New York	978-1-4614-5274-4
144	Adding Neurotherapy to Your Practice: Clinician's Guide to the ClinicalQ, Neurofeedback, and Braindriving	Springer International Pub.	978-3-319-15526-5
145	Atlas of Surface Palpation: Anatomy of the Neck, Trunk, Upper and Lower Limbs, 3th ed.	Elsevier	978-0-7020-6225-4
146	Campbell's Physical Therapy for Children, 5th ed.	Saunders	978-0-323-39018-7
147	Cardiopulmonary Physiotherapy In Trauma: An Evidence-based Approach	Imperial College Press	978-1-78326-651-7
148	Clay & Pounds' Basic Clinical Massage Therapy: Integrating Anatomy and Treatment, 3rd ed.	Lippincott Williams & Wilkins	978-1-4511-8546-1
149	Clinical Exercise Science	Routledge	978-0-415-70840-1

専門科目に係る図書(洋書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
150	Clinical Guide to Positional Release Therapy	Human Kinetics	978-1-4504-9624-7
151	Clinical Kinesiology and Anatomy, 6th ed.	F.A. Davis Company	978-0-8036-5823-3
152	Comprehensive Respiratory Therapy Exam Preparation Guide, 3rd ed.	Jones & Bartlett Publishers Inc.	978-1-284-12692-1
153	Concepts of Evidence Based Practice for the Physical Therapist Assistant	F.A. Davis Company	978-0-8036-4369-7
154	Current Diagnosis and Treatment Physical Medicine and Rehabilitation	McGraw-Hill	978-0-07-179329-2
155	Documentation for Rehabilitation: A Guide to Clinical Decision Making in Physical Therapy, 3rd ed.	Saunders	978-0-323-31233-2
156	Dreeben-Irimia's Introduction to Physical Therapist Practice for Physical Therapist Assistants, 3rd ed.	Jones & Bartlett Publishers Inc.	978-1-4496-8185-2
157	Electrical Stimulation for Pelvic Floor Disorders	Springer International Pub.	978-3-319-06946-3
158	Evidence-Based Physical Therapy for the Pelvic Floor: Bridging Science and Clinical Practice, 2nd ed.	Churchill Livingstone	978-0-7020-4443-4
159	Functional Anatomy for Physical Therapists	Georg Thieme Verlag	978-3-13-176861-2
160	Fundamental Orthopedic Management for the Physical Therapist Assistant, 4th ed.	Mosby	978-0-323-11347-2
161	Fundamentals of the Physical Therapy Examination Enhanced Edition	Jones & Bartlett Publishers Inc.	978-1-284-09623-1
162	Fundamentals of the Physical Therapy Examination: Patient Interview and Tests & Measures, 2nd ed.	Jones & Bartlett Publishers Inc.	978-1-284-09962-1
163	Geriatric Physical Therapy: A Case Study Approach	McGraw-Hill	978-0-07-182542-9
164	Greenman's Principles of Manual Medicine, 5th ed.	Lippincott Williams & Wilkins	978-1-4511-9390-9
165	Grieve's Modern Musculoskeletal Physiotherapy, 4th ed.	Elsevier	978-0-7020-5152-4
166	Guide to Evidence-Based Physical Therapist Practice, 4th ed.	Jones & Bartlett Publishers Inc.	978-1-284-10432-5
167	Hand and Wrist Rehabilitation: Theoretical Aspects and Practical Consequences	Springer International Pub.	978-3-319-16317-8
168	Hough's Cardiorespiratory Care: An Evidence-Based, Problem-Solving Approach, 5th ed.	Elsevier	978-0-7020-7184-3
169	Improving Functional Outcomes in Physical Rehabilitation, 2nd ed.	F.A. Davis Company	978-0-8036-4612-4
170	Integumentary Physical Therapy	Springer Verlag	978-3-662-47379-5
171	Introduction to Physical Therapy, 5th ed.	Mosby	978-0-323-32835-7
172	Laboratory Manual for Clinical Kinesiology and Anatomy, 4th ed.	F.A. Davis Company	978-0-8036-5825-7
173	Lifespan Neurorehabilitation: A Patient-Centered Approach from Examination to Interventions and Outcomes	F.A. Davis Company	978-0-8036-4609-4
174	Maitland's Peripheral Manipulation: Management of Neuromusculoskeletal Disorders - Volume 2: Vol. 2, 5th ed.	Churchill Livingstone	978-0-7020-4067-2

専門科目に係る図書(洋書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
175	Maitland's Vertebral Manipulation: Management of Neuromusculoskeletal Disorders: Vol. 1, 8th ed.	Churchill Livingstone	978-0-7020-4066-5
176	Management in Physical Therapy Practices, 2nd ed.	F.A. Davis Company	978-0-8036-4033-7
177	Management of Chronic Conditions in the Foot and Lower Leg	Churchill Livingstone	978-0-7020-4769-5
178	Manipulation of the Spine, Thorax and Pelvis, 4th ed.	Elsevier	978-0-7020-5921-6
179	Manual Physical Therapy of the Spine, 2nd ed.	Saunders	978-0-323-26306-1
180	Manual Therapy for Musculoskeletal Pain Syndromes: An Evidence-And Clinical-Informed Approach	Churchill Livingstone	978-0-7020-5576-8
181	Manual Therapy of the Extremities	Jones & Bartlett Publishers Inc.	978-1-284-03670-1
182	Mechanisms and Management of Pain for the Physical Therapist, 2nd ed.	Lippincott Williams & Wilkins	978-1-4963-4323-9
183	Michlovitz's Modalities for Therapeutic Intervention, 6th ed. (Contemporary Perspectives in Rehabilitation Series)	F.A. Davis Company	978-0-8036-4563-9
184	Modalities for Massage and Bodywork, 2nd ed.	Mosby	978-0-323-23931-8
185	Mosby's Essential Sciences for Therapeutic Massage: Anatomy, Physiology, Biomechanics, and Pathology, 5th ed.	Mosby	978-0-323-39305-8
186	Mosby's Fundamentals of Therapeutic Massage, 6th ed.	Mosby	978-0-323-35374-8
187	Mosby's Massage Therapy Review, 4th ed.	Mosby	978-0-323-13758-4
188	Mosby's Pathology for Massage Therapists, 4th ed.	Mosby	978-0-323-44195-7
189	Musculoskeletal Examination and Assessment, Vol 1 5e and Principles of Musculoskeletal Treatment and Management Vol 2 3e (2-Volume Set) (Physiotherapy Essentials)	Elsevier	978-0-7020-7528-5
190	Myofascial Trigger Points	Churchill Livingstone	978-0-7020-4312-3
191	Neuroscience for Rehabilitation	McGraw-Hill	978-0-07-182888-8
192	Neurologic Interventions for Physical Therapy, 3rd ed.	Saunders	978-1-4557-4020-8
193	Nina McIntosh's the Educated Heart, 4th ed.	Lippincott Williams & Wilkins	978-1-4963-4731-2
194	Non-Pharmacological Management of Osteoporosis: Exercise, Nutrition, Fall and Fracture Prevention	Springer International Pub.	978-3-319-54014-6
195	Observational Gait Analysis: A Visual Guide	Slack, Inc.	978-1-63091-040-2
196	Orthopaedic Manual Physical Therapy: From Art to Evidence	F.A. Davis Company	978-0-8036-1497-0
197	Orthopaedics for the Physical Therapist Assistant, 2nd ed.	Jones & Bartlett Publishers Inc.	978-1-284-13931-0
198	Orthopedic Management of the Hip and Pelvis	Elsevier	978-0-323-29438-6
199	Orthopedic Physical Assessment, 6th ed.	Saunders	978-1-4557-0977-9
200	Palpation Techniques: Surface Anatomy for Physical Therapists, 2nd ed.	Georg Thieme Verlag	978-3-13-146342-5

専門科目に係る図書(洋書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
201	Pathology: Implications for the Physical Therapist, 4th ed.	Saunders	978-1-4557-4591-3
202	Pathology for the Physical Therapist Assistant, 2nd ed.	Saunders	978-0-323-39549-6
203	Pathophysiology for Massage Therapists: A Functional Approach	F.A. Davis Company	978-0-8036-2590-7
204	Pediatric Stroke Rehabilitation: An Interprofessional and Collaborative Approach	Slack, Inc.	978-1-61711-618-6
205	Peripheral Nerve Injury: An Anatomical and Physiological Approach for Physical Therapy Intervention	F.A. Davis Company	978-0-8036-2560-0
206	Physical Agents in Rehabilitation: An Evidence-Based Approach to Practice, 5th ed.	Saunders	978-0-323-44567-2
207	Physical Agents: Theory and Practice, 3th ed.	F.A. Davis Company	978-0-8036-3816-7
208	Physical Medicine and Rehabilitation Patient-Centered Care: Mastering the Competencies	Demos Medical Publishing	978-1-936287-83-3
209	Physical Therapy Case Files, Sports (Lange Case Files)	McGraw-Hill	978-0-07-182153-7
210	Physical Therapy Clinical Handbook for Ptas, 3rd ed.	Jones & Bartlett Publishers Inc.	978-1-284-10556-8
211	Physical Therapy Examination and Assessment	Georg Thieme Verlag	978-3-13-174641-2
212	Physiotherapy in Mental Health and Psychiatry: A Scientific and Clinical Based Approach	Elsevier	978-0-7020-7268-0
213	Positional Release Techniques, 4th ed. (Advanced Soft Tissue Techniques)	Elsevier	978-0-7020-5111-1
214	Postural Correction: Hands-On Guides for Therapists (Hands-On Guides for Therapists)	Human Kinetics	978-1-4925-0712-3
215	Principles of Musculoskeletal Treatment and Management – Volume 2: Vol. 2, 3rd ed. (Physiotherapy Essentials, Vol. 2)	Elsevier	978-0-7020-6719-8
216	Psychologically-Informed Physiotherapy: Embedding Psychosocial Perspectives Within Clinical Management (Physiotherapy Essentials)	Elsevier	978-0-7020-6817-1
217	Recognizing and Reporting Red Flags for the Physical Therapist Assistant	Saunders	978-1-4557-4538-8
218	Recognizing and Treating Breathing Disorders: A Multidisciplinary Approach, 2nd ed.	Churchill Livingstone	978-0-7020-4980-4
219	Rehabilitation: A Post-Critical Approach (Rehabilitation Science in Practice Series)	CRC Pr.	978-1-4822-3723-8
220	Serious Games in Physical Rehabilitation: From Theory to Practice	Springer International Pub.	978-3-319-66121-6
221	The Biological Action of Physical Medicine: Controlling the Human Body's Information System	Academic Pr.	978-0-12-800038-0
222	The Complete Guide to Sports Massage (Complete Guides)	Bloomsbury Academic	978-1-4729-1232-9
223	The End of Physiotherapy	Routledge	978-1-138-67355-7
224	The Muscular System Manual: The Skeletal Muscles of the Human Body, 4th ed.	Mosby	978-0-323-32770-1
225	The Role of the Physical Therapist Assistant: Regulations and Responsibilities, 2nd ed.	F.A. Davis Company	978-0-8036-5816-5
226	Therapeutic Electrophysical Agents: Evidence Behind Practice, 3rd ed.	Lippincott Williams & Wilkins	978-1-4511-8274-3

専門科目に係る図書(洋書)の目録

No	書籍名	出版社名	ISBN
227	Therapeutic Exercise, 4th ed.	Lippincott Williams & Wilkins	978-1-4963-0234-2
228	Therapeutic Exercise: Foundations and Techniques, 7th ed.	F.A. Davis Company	978-0-8036-5850-9
229	Tidy's Physiotherapy, 15th ed. (Physiotherapy Essentials)	Churchill Livingstone	978-0-7020-4344-4
230	Parkinson's Disease and Movement Disorders, 6th ed.	Lippincott Williams & Wilkins	978-1-60831-176-7
231	Neurological Rehabilitation of Parkinson's Disease	CRC Pr.	978-0-367-39510-0
232	Parkinson's Disease: Genetics and Pathogenesis	CRC Pr.	978-0-367-38915-4
233	Pain Management for Older Adults, 2nd ed.	Lippincott Williams & Wilkins	978-1-4963-9481-1
234	Ramamurthy's Decision Making in Pain Management: An Algorithmic Approach, 3rd ed.	Jaypee Brothers, Medical Publishers	978-93-86261-45-8
235	Handbook of Stroke, 3rd ed.	Lippincott Williams & Wilkins	978-1-9751-1437-4
236	Treatment of Cerebral Palsy and Motor Delay, 6th ed.	Wiley-Blackwell	978-1-119-37386-5
237	Adams and Victor's Principles of Neurology, 11th ed.	McGraw-Hill	978-0-07-184261-7
238	Stahl's Essential Psychopharmacology: Neuroscientific Basis and Practical Applications, 4th ed.	Cambridge U.P.	978-1-107-02598-1
239	Bradley's Neurology in Clinical Practice, 7th ed.	Elsevier	978-0-323-28783-8
240	High Performance Disability Sport Coaching	Routledge	978-1-138-86037-7
241	Adapted Physical Education and Sport, 6th ed.	Human Kinetics	978-1-4925-1153-3
242	Adaptive Sports Medicine: A Clinical Guide	Springer International Pub.	978-3-319-56566-8
243	Brukner & Khan's Clinical Sports Medicine: Injuries, Vol. 1: Vol. 1, 5th ed.	McGraw-Hill	978-1-74376-138-0
244	Clinical Sports Medicine: The Medicine of Exercise, Volume 2: Vol. 2, 5th ed.	McGraw-Hill	978-1-76042-051-2

専門科目に係る学術雑誌の目録

和雑誌	学術雑誌名	出版社名	電子
1	Clinical Neuroscience	中外医学社	
2	実験医学	羊土社	
3	みんなの呼吸器Respica (レスピカ)	メディカ出版	
4	循環器ジャーナル	医学書院	
5	呼吸器ジャーナル	医学書院	
6	理学療法ジャーナル	医学書院	
7	理学療法	メディカルプレス社	
8	Journal of clinical rehabilitation	医歯薬出版社	
9	The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine (リハビリテーション医学)	日本リハビリテーション医学会	
10	総合リハビリテーション	医学書院	
洋雑誌	学術雑誌名	出版社名	電子
1	British Journal of Sports Medicine	BMJ PUBLISHING GROUP	
2	JOURNAL OF BONE AND JOINT SURGERY-AMERICAN VOLUME	LIPPINCOTT WILLIAMS & WILKINS	
3	BONE & JOINT JOURNAL	BRITISH EDITORIAL SOC BONE JOINT SURGERY	
4	Lancet	ELSEVIER SCIENCE INC	○
5	New England Journal of Medicine	MASSACHUSETTS MEDICAL SOC	
6	JAMA	AMER MEDICAL ASSOC	
7	Neuron	CELL PRESS	○
8	British Journal of Psychiatry	CAMBRIDGE UNIV PRESS	
9	Thorax	BMJ PUBLISHING GROUP	
10	Journal of Orthopaedic & Sports Physical Therapy	JOSPT	
11	Gait and Posture	ELSEVIER (ScienceDirect)	○
12	Archives of Physical Medicine & Rehabilitation	ELSEVIER (ScienceDirect)	○
13	CHEST	ELSEVIER (ScienceDirect)	○

医療健康学部理学療法学科 年次別実習計画表

月	授業期間 試験期間	2年次	3年次	4年次	
4	前期授業期間			科目名： 総合臨床実習Ⅱ 単位数： 9単位 ※期間内に学内実習1週間と 学外実習8週間を実施。	
5					
6					
7					
7		定期試験期間 追試験 集中授業日			
8		夏季休暇			
9		後期授業期間			
10					
11					
12					
12	定期試験期間 集中授業日 追試験				
1					
2	冬期休暇	科目名： 機能能力・評価学臨床実習 単位数： 5単位 ※期間内に学内実習1週間と 学外実習4週間を実施。			
3					

備考:

- ※1 総合臨床実習Ⅰ又は総合臨床実習Ⅱにおいて地域理学療法に関する実地体験を1週間行う。
- ※2 臨床実習の科目の合計単位数は21単位であり、指定規則の定める単位数20単位を満たしている。
- ※3 上記、臨床実習の科目とは別に1年次に臨床見学(7月下旬～3日間)を「基礎理学療法学演習Ⅰ」の中で実施する。

基礎理学療法学演習 I

臨床見学要綱

見学日	令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日
見学施設名	
指導者名	



学籍番号		学年		氏名	
------	--	----	--	----	--

本学の臨床実習教育について

東京国際大学医療健康学部においては、医療・健康科学における専門的知識・技術をもって心身の健康を支援することで社会に貢献できる人材を養成することを教育目的としています。また当該学部理学療法学科では、現代社会の問題を理学療法の見点から捉え、医療・福祉分野のみならず、健康増進・介護予防分野においても活躍できる人材を養成することを教育目的としています。この教育目的を達成するために、以下のディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)を定め、地域社会に貢献し得る質の高い理学療法士の養成に取り組んでおります。

医療健康学部理学療法学科ディプロマ・ポリシー

1. 良好な人間関係を構築する上で必要なコミュニケーション能力を有し、人々に対して思いやりをもって接することができる。
2. 理学療法士に求められる高い倫理観と道徳観を備えている。
3. 理学療法を必要としている人々を生活者の視点で全人的に理解することができる。
4. 理学療法に関する幅広い知識・技術を有しており、各専門職と連携しながら科学的根拠に基づく理学療法を実践することができる。
5. 理学療法関連の諸科学の発展や理学療法士に求められる役割や知識・技術の変化に対応し、生涯にわたり学び続けることができる。
6. 臨床理学療法、スポーツ理学療法、予防理学療法のいずれかの分野に関して、より専門性の高い知識・技術を有し、各分野の理学療法に貢献することができる。

本学では上記の教育目的を達成するために、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則(平成 30 年 10 月 5 日改正)及び理学療法教育モデル・コア・カリキュラムに準拠した体系的な教育課程を編成しております。さらに、学生本人の卒業後の進路に合わせて科目選択できるように「臨床理学療法」、「スポーツ理学療法」、「予防理学療法」の3つの履修モデルを提示し、より専門的な内容を主体的に学修できるようにしております。

臨床実習教育は、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則(平成 30 年 10 月 5 日改正)及び理学療法教育モデル・コア・カリキュラムに基づき、クリニカル・クラークシップ方式を基本とした2年次の機能・能力評価学臨床実習(5週間 [内、学内実習 1週間])、3年次の総合臨床実習Ⅰ(7週間 [内、学内実習 1週間])、4年次の総合臨床実習Ⅱ(9週間 [内、学内実習 1週間])という構成で行われます。

臨床見学は、理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドライン(平成 30 年 10 月 5 日)により実施が望ましいとされる見学実習に対応し、1年次必修科目の「基礎理学療法学演習Ⅰ」において理学療法を中心としたリハビリテーション部門における半日の臨床見学を3回実施します。以上のような、臨床見学及び臨床実習での経験を通じ、理学療法に関する知識・技術の修得のみならず、コミュニケーション能力の向上や理学療法士としての社会的責任を自覚する機会となることを期待しております。

目次

1. 臨床見学の目的と概要および到達目標	1
1-1. 臨床見学の目的と概要	1
1-2. 臨床見学の到達目標	1
1-2-1. 技術面における到達目標	1
1-2-2. 知識面における到達目標	1
1-2-3. 記録・報告における到達目標	1
1-2-4. 適性	1
2. 学生の心得	3
2-1. 基本的心得	3
2-1-1. 見学に対する姿勢	3
2-1-2. 生活	3
2-1-3. 身だしなみ	3
2-1-4. コミュニケーション	4
2-1-5. 自宅と臨床見学施設間の移動	6
2-2. 臨床見学の進め方	6
2-2-1. 見学前	6
2-2-2. 見学中	7
2-2-3. 見学後	9
2-3. 臨床見学の出欠	10
2-3-1. 欠席	10
2-3-2. 遅刻・早退	11
2-3-3. 公欠について	11
2-3-4. 出欠表の記載について	12
2-4. 感染症の予防について	13
2-5. 臨床見学シート	14
2-6. 守秘義務と個人情報保護	14
2-6-1. 守秘義務	14
2-6-2. 個人情報保護	14
2-7. SNS 使用上の注意	15
2-8. 差別・ハラスメントについて	15
2-9. 事故防止策	15
2-10. 緊急時の対応について	16
2-10-1. 臨床見学施設内で問題または事故が生じた場合	16
2-10-2. 臨床見学施設外で問題または事故が生じた場合	16
3. 臨床見学指導者へのお願い	18
3-1. 臨床見学の内容について	18
3-1-1. 臨床見学の形態	18
3-1-2. 学生への課題	18
3-1-3. オリエンテーションについて	18
3-2. 臨床見学指導報告書の作成	18
3-2-1. 出欠票	19
3-2-2. 臨床見学シート	21
3-2-3. 臨床見学指導者報告書の返却について	22
3-3. 臨床見学施設からの学生への連絡について	22

3-4. ハラスメントについて	22
3-5. 天災によって臨床見学実施への影響が予想される場合の対応	22
3-6. 急を要する事態の発生時の対応	22
3-6-1. 臨床見学施設内で問題または事故が生じた場合	22
3-6-2. 臨床見学施設外で問題または事故が生じた場合	23
3-6-3. 損害保険について	23
3-7. その他	23
学生紹介書	25
見学ノート	26
出欠票	27
臨床見学シート	28
届出書	29
事故報告書	30
個人情報保護に関する誓約書（病院・施設長宛）	31
個人情報保護に関する誓約書（学長宛）	32

1. 臨床見学の目的と概要および到達目標

1-1. 臨床見学の目的と概要

医療人として守るべき基本的なマナー、身だしなみ、規律を遵守することの重要性ならびに、理学療法への役割と位置づけを学ぶことを目的とする。そのために、学内で学んだ理学療法に関する基礎知識と理学療法実施場面における見学の仕方に関する知識を生かし、様々なリハビリテーション場面の見学を行う。

1-2. 臨床見学の到達目標

1-2-1. 技術面における到達目標

- (1) 見学を行う際に、適切に挨拶と自己紹介し、見学の了承を得られる
- (2) 適切な立ち位置(間合い)と姿勢で見学ができる
- (3) 対象者と適切で円滑なコミュニケーションをとることができる
- (4) 臨床見学指導者の許可を得た上で、対象者の次の動作を予測して、対象者の移動の一部を補助できる
→対象者の移動の一部:車いす移動介助、トランスファーのために適切な位置への車いすの移動、靴着脱介助、車いす駆動など

1-2-2. 知識面における到達目標

- (1) 見学した施設の機能と地域における役割を理解できる
- (2) 施設における各種専門職種への役割を理解できる
- (3) 理学療法への役割と位置づけを理解できる
- (4) 対象者とのコミュニケーションの重要性を理解できる
- (5) 医療・福祉施設における守秘義務の重要性を理解できる

1-2-3. 記録・報告における到達目標

- (1) 臨床見学中に「経験したこと」について、専門用語を適切に用いて簡潔かつ明瞭に記録できる。
- (2) 経験したことにおける「結果と考察」について、専門用語を用い、明瞭かつ論理的に記録できる
- (3) 経験したことにおける「臨床見学指導者から受けた指導や助言」、「自身の解釈と疑問点」ならびに「学習したこと」に関してできるだけ専門用語を用い、簡潔・明瞭かつ論理的に記録できる
- (4) 記録した内容について、口頭で報告することができる

1-2-4. 適性

臨床見学においては、社会人として必要な最低限のマナーとして、以下のことが求められる。

- (1) 社会人として適切なコミュニケーションができる
- (2) 時間的観念を持って責任ある行動をとることができる

- (3) 医療人としての身だしなみに配慮をすることができる
- (4) 見学施設の規則を守ることができる
- (5) 室内の整理整頓に心がけることができる
- (6) 職員との人間関係を保ち、節度ある言葉を使い、礼儀をつくすことができる
- (7) 対象者との信頼関係を作り、節度ある言葉を使い、礼儀をつくすことができる
- (8) 対象者を全人的に理解し人間としての尊厳をもった対応を行うことができる
- (9) 対象者あるいは家族へのプライバシーを遵守し守秘義務を遵守できる
- (10) 知識・技術に対する向上心・探究心を持ち続ける
- (11) 常に疑問を持ち、積極的に質問する
- (12) 物事を客観的に捉え、吟味をすることができる

2. 学生の心得

ここでは、臨床見学での学びをより充実したものになるための心得を示した。学生はこの心得を熟読し十分に理解した上で臨床見学に臨むこと。

2-1. 基本的心得

2-1-1. 見学に対する姿勢

臨床見学は、理学療法士という職業の理解を実地経験から深め、知識と技術を学ぶ貴重な機会である。また、臨床見学は、基本的に見学施設の職員ならびに対象者のご好意で成り立っているということを忘れてはならない。学生は、実際の理学療法場面を通じて、理学療法に関わるあらゆることを積極的に学ぼうとする姿勢が必要である。

2-1-2. 生活

【規則正しい生活】

臨床見学は、学生にとって慣れない環境下で学習することになる。このため、心身に大きな負担がかかり、体調不良が起きる場合がある。見学中の体調不良を極力避けるために、十分な睡眠時間を確保し、栄養バランスのとれた食事を摂るよう心がけること。

2-1-3. 身だしなみ

「服装は名刺代わり」という言葉があるように、服装をはじめとする各種の身だしなみは、接する方への敬意を表す。身だしなみが不適切であると、相手に対し失礼にあたり、不快にさせる可能性がある。接する相手のために身だしなみを整える必要があるということを理解し、清潔感の維持を心掛けること。身なりなどで自己主張したい部分はそれぞれ持っていると思われるが、相手を不快にさせてしまう可能性を考慮して、「個性の発揮は臨床見学以外で行う」ということを認識する必要がある。

自宅と見学施設間の移動時には、臨床見学指導者からの特別な指示がない限り、原則準フォーマル(ネクタイ不使用のスーツ着用)な服を着用すること。また、見学中のユニフォーム・靴ならびに身体の衛生管理についての詳細は下記を参考にすること。

【ユニフォーム・靴】

- 多くの臨床見学施設では、臨床見学中はユニフォーム(大学指定の KC タイプ)の着用が求められる。ただし、臨床見学施設で定められているユニフォームまたは服装がある場合はそれに従うこと。また、臨床見学指導者の指示に従い、胸ポケットに大学指定の名札をつけること。
- ユニフォームは、常に清潔なものを着用すること。環境や体調の変化などでユニフォーム以外の衣服(カーディガンなど)の着用を希望する場合は、臨床見学指導者に相談し、許可されたものを着用すること。
- 臨床見学以外で外出する際の服装は、臨床見学指導者の指示に従い、適宜着替えたり上着を羽織ったりすること。
- 靴は白を基調としたヒールのあるスニーカーを使用すること。ただし、臨床見学指導者から

別に指示があった場合はそれに従うこと。

- 靴下はソックスタイプとし、白を基本として柄のないものを着用すること。
- ハンカチも派手なものは避け、必ず身につけ毎日交換すること。

【アクセサリ、化粧】

- 臨床見学中のピアス、指輪、ネックレスなどアクセサリの使用は不適切な身だしなみとなる。また、これらの使用は不衛生となることや対象者を傷つける可能性があるなどの理由から使用を禁止する。
- 腕時計は華美でないものに限り着用を認めるが、個別に臨床見学指導者の許可を得て使用すること。ただし、対象者に接する場合は、時計が対象者の皮膚に当たることによって傷を負わせたり、不快にさせたりする恐れがあるため、腕時計を外すよう配慮すること。
- 化粧品類の使用については、華美とならないように注意すること(就活時などが参考となる)。華美か否かの判断は臨床見学施設や臨床見学指導者によって異なるため、随時指示に従うこと。また、匂いのきつい香料は対象者によっては不快に感じるので使用しないこと。
- 髪型は、見苦しくないようにゴムなどで整え、髪の色は、基本的に地毛の色とする(染色は原則認めない)。

【身体衛生】

身体を清潔に保つことは感染症予防の観点から大変重要であり、臨床見学を行う学生は次の事項を守らなければならない。

- 歯、手、爪など身体を清潔に保つこと(マニキュアの使用や爪を手掌側から見える長さまで伸ばすことは禁止)。
- 髭は、剃り残しのないように毎日剃り、相手に不快感を与えないよう心がける。
- 露出している部分に傷などがある場合は、消毒をした上で絆創膏を貼るなど適切な処置をすること。
- 見学中咳やくしゃみが出そうな場合は人のいない方向を向くか、人のいない場所に移動するなどしてハンカチで口を押さえて行うこと。

2-1-4. コミュニケーション

円滑なコミュニケーションによって、良好な関係性を構築することは、学びが深く充実した臨床見学を行う上で最も重要である。コミュニケーションには、先述の身だしなみや態度(表情やしぐさなど)に代表されるノンバーバル(非言語的)コミュニケーションと発言によるバーバル(言語的)コミュニケーションに分かれる。ここでは、バーバルコミュニケーションにおける挨拶、会話、電話のかけ方についての心得を記す。

【挨拶】

挨拶は、コミュニケーションの基本である。挨拶は待つものではなく、相手に先行して行うという意識が必要である。朝職員に会った時、部屋を出入りする時、職員とすれ違った時

(2回目以降は会釈だけでも必要)、見学を終える時など、適時挨拶を励行すること。

対象者からは、学生も施設の一員として見なされることを認識し、対象者やその家族への挨拶を忘れずに行うこと。尚、挨拶は基本的に歩きながら行うものではなく、立ち止まってすることが望ましい。この場合、相手の目を見ながら「おはようございます」等の挨拶をして、その後お辞儀をする。これを「語先後礼」といい、一般的な礼儀である。

【会話】

臨床見学指導者や職員と会話し、言葉のキャッチボールを円滑に行うことは、良好な関係性の構築において重要である。自身の意思や行動の目的を明確に伝えることも必要である。「行動や態度を見れば伝わるだろう」と考えるのではなく、自ら積極的なコミュニケーションを図るべきである。特に他部署に出入りする時は、該当スタッフに出入りする目的を伝え、承諾を得ることは必須である。具体的には以下のことに気を付けること。

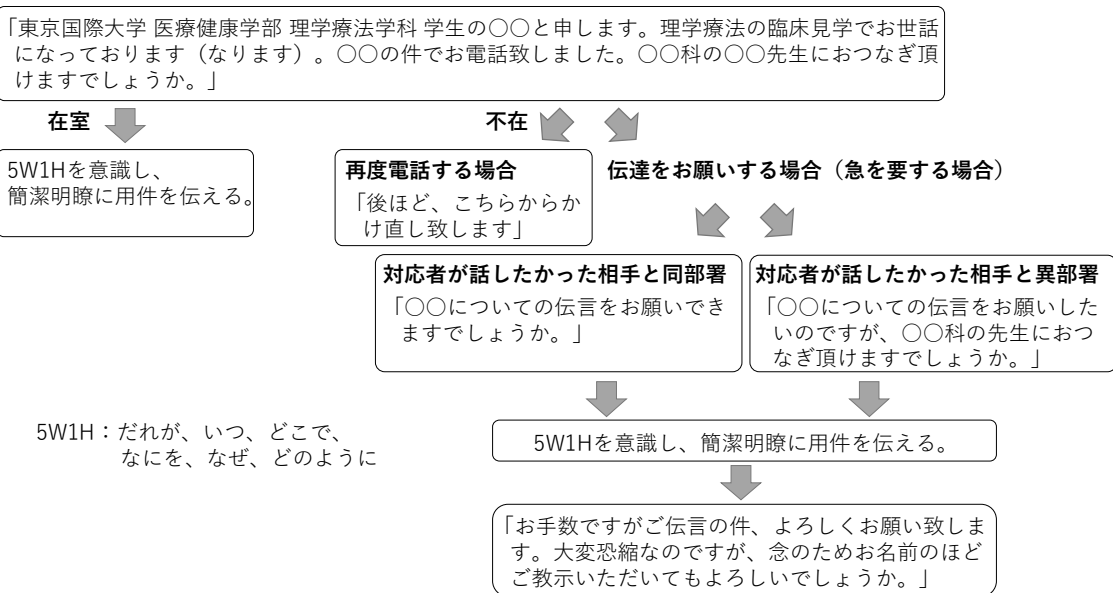
- TPO(時、場所、場合)をわきまえ、敬語を使用して臨床見学施設の職員や対象者と接すること。
- 敬称の使い方は、臨床見学施設ごとに異なるため、臨床見学指導者に確認すること。
→例 理学療法士:○○先生 or ○○さん 対象者:○○様 or○○さん
- 主語を明確にし、意図と要点を伝える(5W1H:いつ、だれが、どこで、何を、なぜ、どのように)。
- 早合点して結論を急がない(いったん頭の中で整理する)。
- 他者の会話中や相手が話している途中で割り込みはしない。
- 相手の目を見て、小気味よく返事と相槌をして傾聴する。
- 話された内容が分からないときは、「大変申し訳ありませんが、今の点をもう一度お話しして頂けますか」等、分からなかった旨を伝えて再確認する。

【電話のかけ方(図参照)】

電話では用件を簡潔に話すこと。簡潔に話すことに不安がある場合は、何について話すかを整理し、メモしておくこと。

先方が電話に出たら、まず名乗り、用件の概要とつないでもらいたい方の部署と氏名を伝える。(例)「東京国際大学 医療健康学部 理学療法学科 学生の○○と申します。理学療法の臨床見学でお世話になっております(なります)。○○の件でお電話致しました。○○科の○○先生におつなぎ頂けますでしょうか。」

相手が不在の場合は、「後ほど、こちらからかけ直し致します」と意思を伝える。もし、緊急性が高く、伝言をお願いしなければならない場合は、「○○についての伝言をお願いできますでしょうか。」と尋ねる。ただし、伝達内容の誤解を避けるため、相手と同じ部署の方に伝えること。また、伝言をお願いした方の氏名を把握しておくとその後の問題が生じにくい。その際は、内容を伝えた後に、「お手数ですがご伝言の件、よろしくお願ひ致します。大変恐縮なのですが、念のためお名前のほどご教示いただいてもよろしいでしょうか。」と尋ね、伝言をお願いした相手の氏名を把握する。



2-1-5. 自宅と臨床見学施設間の移動

自宅と見学施設間の移動手段は、原則、公共交通機関を利用すること。自家用車等（原動機付自転車、オートバイ含む）の使用は認めない。

2-2. 臨床見学の進め方

2-2-1. 見学前

【抗体価の獲得】

入学時の抗体価検査にて、麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B 型肝炎、C 型肝炎の抗体価が獲得されていなかった者は、可及的早期にワクチンを接種し、抗体価の獲得に努めること。もし、臨床見学を行う施設の受け入れ規定などにより、これらの抗体価の獲得が見学受け入れの必要条件である場合は、必要なワクチン接種を行い、抗体価の獲得が確認された後、見学を行うこととなる。

インフルエンザについては、流行期前にワクチンを接種し、感染ならびに重症化予防に努めること。インフルエンザのワクチン接種については、日本環境感染学会が定める医療関係者のためのワクチンガイドライン第 2 版において医療系実習生（臨床見学生）にも強く推奨されているものである。

【学生紹介書】

学生紹介書（様式 1）は臨床見学前に臨床見学施設に送り、あらかじめ臨床見学を行う学生の特徴を臨床見学指導者に把握して頂くためのものである。学生紹介書は、個々人の特徴が臨床見学指導者に伝わるよう、明快に記述すること。

【見学前オリエンテーション】

見学前のオリエンテーションでは、臨床見学の行い方や、知識と技術の確認、身だしなみチェックを行う。身だしなみにおいては 2-1-3. を参考にし、問題なく臨床見学を開始できるよう自己管理すること。

【見学直前の挨拶と確認】

臨床見学開始 1 週間前の 12 時～13 時(臨床見学施設により時間が異なる場合は予め伝える)に臨床見学指導者に電話をかけ、臨床見学でお世話になることについての挨拶をして、以下の内容を確認する。

- 臨床見学初日の集合時間と集合場所
- 持参すべきもの
- 自宅と臨床見学施設の移動中の服装
- 臨床見学中の服装
- その他、臨床見学に関する疑問点など

2-2-2. 見学中

【時間厳守】

臨床見学施設によって、タイムスケジュール(始業・終業時間、休憩時間、掃除やミーティングの時間など)が異なる。学生はそのタイムスケジュールを厳守すること。始業時間については、臨床見学指導者より、「〇時までにはユニフォームに着替えて、リハビリテーション室にいること」などの指示があるが、特別な指示(例えば、「早く来ても部屋が開いていないから〇時ちょうどに来るように」など)がない限り、この時間よりおおよそ 15 分前に到着していることが望ましい。

また、書類等の提出期限も必ず守ること。

【私物の持ち込み】

リハビリテーション室や学習スペース等に持ち込むことができる私物については、予め臨床見学指導者に確認すること。基本的に携帯電話は施設に入る前に電源を切り、更衣室のロッカー等に入れること。化粧品も同様である。

ノートパソコンやタブレット端末も予め確認が必要であるが、仮に使用して良いという場合でも電源の使用についてはその可否を確認しなければならない。勝手に施設の電源を私物に使うことは犯罪に該当する場合もあるので注意すること。

【臨床見学の形態について】

臨床見学中に学生が行うべきことは、基本的に臨床見学指導者の理学療法場面の見学である。臨床見学指導者の指示に従い、学生は、まず見学可能な対象者についての情報を収集する。カルテから情報収集が許可されたならば、以下の枠内に記載している情報を取得する。

一般的情報:	■ 年齢	■ 性別	■ 主訴	■ ホープ	■ ニード
医学的情報:	■ 診断名	■ 現病歴	■ 既往歴	■ 合併症	■ 服薬状況
	■ 医師からの指示内容	■ 他職種からの情報			
	■ 理学療法評価結果と状態の経過				
社会的情報:	■ 家族構成	■ キーパーソン	■ 自宅環境	■ 生活歴	

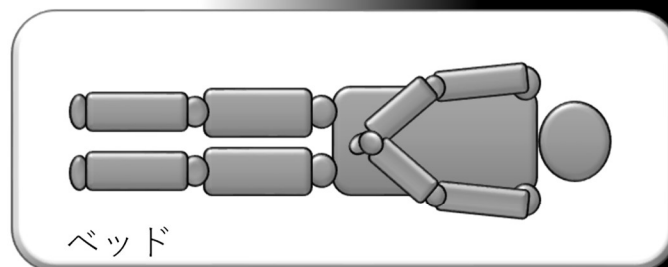
その後、臨床見学指導者が行っている理学療法を見学する。見学を行う時、必ず対象者に自己紹介をして、見学の許可を得ること。

例：「東京国際大学 学生の〇〇と申します。本日、リハビリテーションを行っているところを見学させて頂いてもよろしいでしょうか。」

【注意】臨床見学指導者が見学の許可をしたら、ことわりもなく見学していいということではない。必ず、対象者から見学の許可を得なければならない。

また、見学時の立ち位置の基本は、対象者が背臥位の場合、対象者の足元に近く、対象者や臨床見学指導者、その他職員の邪魔にならない位置である(下図参照)。極力、対象者の頭の方に移動したり、頭の方から見下ろしたりするような立ち位置は避けること。ただし、理学療法を施している部位や、通路等の関係で困難な場合は、臨機応変に立ち位置を変えること。もし、見下ろすような形で見学せざるを得ない場合は、殿部が床につかないようにしゃがみ、視線を下げて見学すること。

なお、臨床見学指導者に椅子坐位で見学することが許可された場合は、姿勢に注意を払った上でそれに従うこと。いずれにせよ、見学中でも周囲の状況変化に気を配り、よりよい位置で見学するよう心がけなければならない。



黒色の位置に立って見学しないこと

(やむを得ず黒色の位置に立つ場合はしゃがんで目線の高さを対象者に合わせること)

【課題や記録について】

大学として課す課題は、見学ノートの作成である。

見学ノートは、原則毎日作成すること。見学ノートに記載する内容は以下の事項とする。臨床見学指導者からの指示がない限り、大学指定のフォーマット(様式 2)を使用すること。

- 施設の概要(病床数・診療科・職種・職員数など)と地域における機能
- 見学施設における理学療法部門の役割と各種職員の役割

- 対象者の障害像
- 見学や経験したこと
- 見学や経験したことの考察
- 受けた指導や助言
- 自身の解釈と疑問点
- 調べて分かったこと

見学ノートは、基本的にそれまでに学んだ専門用語を使用し、簡潔かつ論理的な記述ができるよう毎日作成すること。可能な限り、臨床見学指導者からフィードバック、助言等を受け、見学ノートの充実化を図るよう常に心がけること。

【臨床見学指導者への質問】

臨床見学では、臨床見学指導者からの指導や助言の中から学ぶものが非常に多い。より多くの指導や助言を吸収するためには、自身の意見と照合し検証する作業が効果的となる。したがって、可能な限り以下の過程を踏むことが望ましい。

- (1)自身の意見とその根拠を伝達し、臨床見学指導者の意見を求める。
- (2)臨床見学指導者の意見(指導や助言含む)に傾聴する。
- (3)自身と臨床見学指導者の意見の違いを分析する。

臨床見学に関する様々な事柄について、この過程を繰り返す。知識不足などで、(1)が困難(自身の意見が述べられない)であったとしても質問するという積極性が重要である。本来は、まず(1)が重要であるということを得ていれば、(2)による臨床見学指導者の意見を求めることは差し支えない。したがって、なるべく積極的に質問し、多くのことを吸収しようと臨床見学指導者の意見を求めるべきである。

【臨床見学時間外での交流の自重】

後述するハラスメントや各種トラブル回避の観点から、臨床見学期間中に臨床見学施設スタッフとの外食や飲酒、その他の交流は遠慮すること。

【整理整頓と美化】

臨床見学施設によっては、学生用の机や椅子(または学習スペース)が与えられる場合がある。このような場合でも、臨床見学と直接関係のない私物(弁当箱、歯ブラシなど)は置かないこと。臨床見学と直接関係する書籍や文献、筆記用具については、常に整理整頓を心がけ、清潔感のあるスペースを維持すること。

また、臨床見学の最終日には、掃除や整理を念入りに行い、借用した物全ての美化を図ること。

2-2-3. 見学後

臨床見学で得られた課題について、自己学習を進めること。例えば、見学ノートを見返したり、臨床見学指導者からの指導や助言を振り返ったりすることなどが挙げられる。その上で、自ら不十分な点を見出し、その克服に向けた取り組みを行うことによって、さらなる成長が期待

できる。必要に応じて基礎理学療法学演習Ⅰ担当教員に質問し、意見を受けることは、多角的な視野の獲得につながる。

社会人に必要な儀礼として臨床見学が終わった後は、1週間以内に臨床見学施設の職員に対し礼状を送付すること。文章は基礎理学療法学演習Ⅰ担当教員の確認を要する。

【提出書類】

提出書類は、臨床見学指導報告書(出欠票(様式 3)、臨床見学シート(様式 4)、届出書(様式 5)、見学ノート(様式 2)、事故報告書(様式 6)である。記入漏れや署名捺印の漏れが無いように、以下のチェックリストを活用すること。

提出書類	提出を要する者	署名捺印		漏れがないことを確認 <input checked="" type="checkbox"/>
		臨床見学指導者	学生	
出欠票	全員	要	不要	<input type="checkbox"/>
臨床見学シート	全員	要	不要	<input type="checkbox"/>
届出書のコピー	欠席・早退・遅刻・公欠・自宅待機した者	要	要	<input type="checkbox"/>
見学ノート	全員	不要	不要	<input type="checkbox"/>
事故報告書のコピー	該当者	要	要	<input type="checkbox"/>

【臨床見学後の基礎理学療法学演習Ⅰ】

臨床見学後の基礎理学療法学演習Ⅰの授業では、見学内容ならびに感想や意見をまとめ、プレゼンテーションとレポートを提出することになる。プレゼンテーションにおいて、聴衆(他学生)に有意義な情報提供になるように、臨床見学中に学んだことを日々整理しておくことが必要である。

2-3. 臨床見学の出欠

見学期間中に見学を行わなかった日・時間がある場合(欠席、遅刻、早退、公欠、自宅待機)、どのような理由であっても、以下の手順に従い、大学への連絡と届出書(様式 5)の作成を行うこと。

- (1)臨床見学指導者に連絡する
 - (2)大学に電話連絡する
 - (3)翌日以降できるだけ早く届出書を作成し、臨床見学指導者から署名捺印を頂く
 - (4)署名捺印を頂いた届出書をコピーした上保管する
 - (5)届出書の原本を臨床見学施設に提出する
 - (6)届出書のコピーを臨床見学終了後に大学に提出する
- * 公欠の場合は、公欠届(大学事務指定用紙)も必要となる。

2-3-1. 欠席

臨床見学は、大学の授業と同様に出席することが基本とされており、欠席することを想定していない。ただし、感染症(の疑いがある)の場合は、臨床見学指導者と科目担当教員に連絡した上で病院受診を優先し、医師から指示された出席停止期間を厳守すること。また、受診前に大学に連絡できなかった場合は、受診後可及的速やかに大学に連絡を入れること。

尚、1回(半日)の臨床見学で通常の授業 2 コマ分としてカウントするため、3 回の臨床見学で 6 回分の授業に該当することになる。

2-3-2. 遅刻・早退

前述の通り、見学は出席が基本とされている。また、遅刻や早退もすべきでない。ただし、感染症(の疑いがある)の場合は、病院受診を優先すべきであり、医師の指示を守ること。

また、公共交通機関の遅延等の理由により、遅刻する場合でも、可能な限り早急に臨床見学指導者に連絡し、直後に大学に連絡をすること。

2-3-3. 公欠について

「学校感染症」と「裁判員制度、検察審査会制度」による欠席は、公欠として扱う。学校感染症においては下記表内の疾患にかかった場合、出席停止の基準に従って公欠扱いとなる。

表：東京国際大学 学生ガイドブック【履修編】 47p より引用

種別	疾患名	出席停止の基準
第1種	エボラ出血熱 クリミア・コンゴ出血熱 痘瘡 南米出血熱 ペスト マールブルグ熱 ラッサ熱 ポリオ ジフテリア 重症急性呼吸器症候群(SARSコロナウイルス) 鳥インフルエンザ(H5N1) 新型インフルエンザ等感染症 指定感染症 新感染症	治療するまで
第2種	インフルエンザ(鳥インフルエンザ(H5N1)を除く)	発症後5日を経過し、かつ、下熱後2日を経過するまで
	百日咳	特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
	麻疹(はしか)	解熱後3日を経過するまで
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	耳下腺、顎下腺、又は舌下腺の腫脹発現後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで
	風疹	発しんが消失するまで
	水痘(水ぼうそう)	すべての発疹が皮化するまで
	咽頭結膜熱(プール熱)	主要症状消退後2日を経過するまで
	結核	医師が感染のおそれがないと認めるまで
第3種	髄膜炎菌性髄膜炎	医師が感染のおそれがないと認めるまで
第3種	コレラ 細菌性赤痢 腸管出血性大腸菌感染症 腸シフス パラチフス 流行性角結膜炎 急性出血性結膜炎 【その他の感染症】 ・溶連菌感染症 ・ウイルス性肝炎 ・マイコプラズマ感染症 ・流行性嘔吐下痢症 (感染性胃腸炎) など	医師が感染のおそれがないと認めるまで
	条件によって出席停止となる	

裁判員制度、検察審査会制度によって公欠扱いとなる場合は以下の通りである。

- 裁判員候補者として選任手続きの期日に出頭した場合
- 裁判員、補充裁判員として職務に従事した場合
- 検察審査員、補充員として職務に従事した場合

2-3-4. 出欠表の記載について

出欠表(様式3)は毎日記載すること。記載の仕方は、以下の通りとする。

- 出席した日は「○」と記入する。
- 休日(欠席ではない)は「/」と記入する。
- 遅刻した日は「遅」と記入し、備考欄に見学終了時間を記入する。「届出書」を必ず提出すること。
- 早退した日は「早」と記入し、備考欄に見学終了時間を記入する。「届出書」を必ず提出すること。
- 欠席した日は「欠」と記入する。「届出書」を必ず提出すること。

【記入例】

月日	曜日	出席	備考
7/28	月	○	
7/29	火	○	
7/30	水	遅	電車遅延のため10時より臨床見学開始

遅刻は「遅」と記入
欠席は「欠」、早退は「早」、
公欠は「公」と記入

理由と見学実施状況を記入

2-4. 感染症の予防について

臨床見学では、感染症の対象者と接する頻度が高まるため、学生自身が感染したり、学生を介して対象者への感染(院内感染)が起きたりする危険性がある。学生は、感染予防対策として自己の健康維持を心がけ、手洗いやうがいを日常的に励行し、感染症を予防するために必要な知識・技術を身につけること。

【学生が感染源あるいは感染の媒介者にならないための留意事項】

- 学生自身が少しでも感染症に罹患している可能性があると考えられる場合、早急にマスク装着等感染の可能性を少なくする対応をとった上で、臨床見学指導者への報告と対応の指示を仰ぐこと。その際、特に易感染者との接触は控えること。
- 手指に傷を作らないよう気を付ける。傷がある場合は、原則として血液に接触するような処置は行わないこと。やむを得ず処置を実施する際は、必ず手袋を装着すること。
- 対象者に接する前後には、必ず手洗い、必要に応じて消毒を行うこと。特に、手指などに血液や浸出液などが付着した際は、すぐに流水で洗い流すこと。
- 対象者の健康状態、感染の有無を臨床見学指導者などに確認すること。
- 易感染者に接する場合、予防衣の着用やマスクの装着、消毒薬を使用すること。
- 血液や膿汁、分泌物等、感染源となり得る物の取り扱いには十分注意すること。
- 感染源に接触した可能性がある場合は着用後のユニフォームはビニール袋に入れて持ち帰り、ユニフォームのみ単独で塩素系漂白剤を混ぜて洗濯すること。使用後の洗濯機には熱湯をかけること。
- 見学中、風疹・水痘・麻疹・耳下腺炎の感染症に罹患している対象者と接触したときは、臨床見学指導者および科目担当教員に報告すること。
- 感染源(病原体ウイルス・細菌・寄生虫)となる血液、体液、分泌物等に暴露・接触したと判断される場合(感染の危険のある対象者の注射針などを誤って刺す事故なども含む)は、直ちに臨床見学指導者および科目担当教員に報告すること。HBS 抗体陰性の場合、24 時間以内に免疫グロブリン投与を要するのでより一層速やかに届け出ること。また、その判断が不明瞭である場合も、臨床見学指導者と科目担当教員に相談すること。

2-5. 臨床見学シート

臨床見学シートは臨床見学指導者に記入して頂くものである。どのような対象者に対して、どのような見学または経験したのかについての報告と学生の総合所見についての報告からなる。この臨床見学シートの内容を含め、臨床見学後のプレゼンテーションとレポート内容が基礎理学療法学演習Ⅰの成績に加味される。

2-6. 守秘義務と個人情報保護

2-6-1. 守秘義務

守秘義務は、「理学療法士および作業療法士法第 16 条」および「刑法第 134 条」で定められており、理学療法士だけでなく、臨床見学を行う学生にも生じる義務である。臨床見学中、知りえた対象者の秘密（心身の障がいや病状、その他、他人に知られないことが本人の利益となる事項）について第三者に漏えいしてはならない。移動中など、公共性の高い場所での口外は気のゆるみから起こしやすい守秘義務違反であるため特に注意すること。

2-6-2. 個人情報保護

守秘義務の遵守、プライバシー保護の観点から、個人情報公になることを防がねばならない。具体的には、以下を遵守すること。

- 対象者の氏名、施設名は必ず匿名化し、個人が特定されないようにすること。
- メモ帳やノートは、予め定めた使用場所（例えば、リハビリテーション室、見学生用デスク、病棟等）のみで使用する。また、紛失しないようにノートを入れるポケットの場所を決めたり、保管場所を決めたりして管理を徹底すること。
- ワード、エクセル、パワーポイントなどの電子ファイルを作成する場合は、個人情報が特定されていないように、最初から匿名化した状態で作成し、万が一外部に漏洩した場合でも、対象者や関係機関にとって不利益が生じないようにすること。
- 対象者に関する情報（匿名化済みの情報）が記載された電子ファイルやそれを扱うパソコン、記録メモリには、安易に特定されないパスワードをかけ、紛失することのないように厳重に管理すること。
- 対象者情報を扱うパソコンは、必ずウイルス対策ソフトがインストールされ、ソフトが起動している状態であること。
- 見学終了後は、最小限の資料の保管にとどめ、それ以外のメモ帳やノートはすべて裁断し破棄すること。
- 見学上知り得た内容については一切外部に漏らさないこと。これには、ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)での投稿やアップロードも含まれる。ただし、基礎理学療法学演習Ⅰの授業内など正式な場での情報提供や臨床見学施設の概要などの同輩・後輩への情報提供はこの限りではない。

本学では、臨床見学施設で知り得た個人情報の漏洩を防止することを目的として、学生に個人情報保護に関する誓約書の提出を義務付けている。誓約書の内容に違反し、万が一対象者、臨床見学施設や大学に損害を与えた場合は、その責任の所在は学生自身にあるこ

とを誓約書に記載してある。学生は、「個人情報保護に関する誓約書(様式 7、8)」に記載された事項をよく読み、理解した上で、厳守することを誓約し、署名捺印の上で大学に提出すること。

2-7. SNS 使用上の注意

臨床見学に関わる内容は、SNS(Facebook、LINE、Twitter、Instagram など)上でのアップロードやネット上の投稿を一切しないこと。特に、臨床見学施設、臨床見学指導者ならびに対象者に対する誹謗中傷は論外であり、発見した場合、大学学生懲戒判断基準に基づき厳重に処罰されることを理解しておくこと。

2-8. 差別・ハラスメントについて

もし、何らかの差別やハラスメント・その他トラブルがあった場合には、大学教員ないしキャンパス・ハラスメント相談窓口(学生課、教務課、学生相談室、保健室、臨床心理センター)に相談することができる(強制ではない)。また、より専門的な対応を求める場合には、以下に直接相談することもできる。いずれにせよ、円滑な臨床見学を行うために、事態が深刻になる前に適切に終息させることを考えることが重要である。

大学内窓口	法人本部人事課 TEL:03-3362-9641 e-mail:jinji@tiu.ac.jp
外部相談窓口	光和総合法律事務所 弁護士 錦戸景一、佐藤敬太 TEL:03-5562-2520 e-mail:nishikid@kohwa.or.jp, sato@kohwa.or.jp

* 相談等は匿名によるものも認めるが、この場合、事実調査等を行わないことがある。また、外部相談窓口が相談等を受けた場合には、人事課に相談等の内容を所定の方法で報告される。

2-9. 事故防止策(臨床見学含む 臨床実習全般)

理学療法領域にかかわらず、医療現場では対象者に有害事象が発生する可能性がある。理学療法領域で起こりうる有害事象の例は、例えば以下が挙げられる。

- 対象者の転倒
- 理学療法後の疼痛の残存
- 物理療法実施による熱傷
- 関節(特に股関節)の脱臼
- バルーンの抜去
- 対象者や第三者の所有物の破損

通常、医療者は対象者の状態、周囲の状況から考えられる様々な危険を予測し、何らかの有害事象を未然に防ぐよう努めている。このスキルは、理学療法に関わる経験値に依拠する。経験が少ない学生は、自身の行動の結果が予測しづらく、有害事象を発生させてしまう

可能性が高いということを認識する必要がある。このため、常に有害事象発生の可能性があることを念頭に置き、細心の注意を払わなければならない。

2-10. 緊急時の対応について

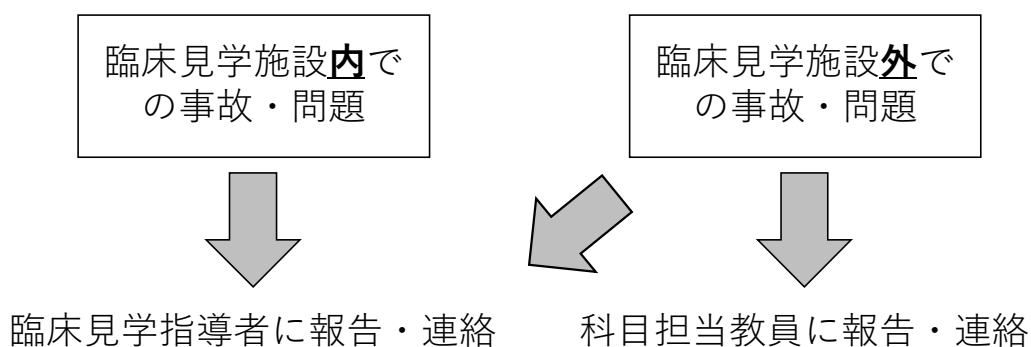
緊急時の対応は、発生場所の臨床見学施設内および臨床見学施設外に大きく分かれる（下図）。緊急時の対応は、以下に従うこととするが、事故報告書（様式 6）記入の必要性は臨床見学指導者の指示に従うこととする。臨床見学施設で所定の事故報告書があり、記入の指示があった場合は、それに従う。

2-10-1. 臨床見学施設内で問題または事故が生じた場合

臨床見学施設内で問題または事故が発生した場合には、早急に臨床見学指導者に状況・経過を伝えること。臨床見学指導者から大学の科目担当教員（連絡が取れない場合、理学療法学科専任教員）に伝達され適切に対応する。何らかの事故が発生した際にも慌てず冷静に臨床見学指導者の指示に従うこと。いずれの事故報告書を使用した際にも臨床見学施設に受理された後、コピーを取って大学に提出すること。

2-10-2. 臨床見学施設外で問題または事故が生じた場合

臨床見学施設外で問題または事故が発生した場合は、科目担当教員持参携帯電話および臨床見学指導者に連絡すること。この際も、状況や経過を正確に伝えること。科目担当教員は、臨床見学指導者と連絡を取り合い、情報と対応方針を共有する。



【東京国際大学 代表・事務連絡先】

代表:049-232-1111
教務課:049-232-1112
学生課:049-232-1114
学生相談室:049-233-2682

【東京国際大学 医療健康学部 理学療法学科 連絡先】

理学療法学科助手室直通:〇〇 (見学時間中にご使用ください)
基礎理学療法学演習 I
担当教員持参携帯:〇〇 (見学時間外にご使用ください)
メールアドレス:〇〇@〇〇 (常時ご使用ください)

- 科目担当責任者 -
猪股 高志

- 科目担当教員 -
金崎 雅史、川崎 翼、窪田 智史、芝原 美由紀、志村 圭太、
杉本 諭、武田 要、戸島 美智生、山本 大誠、生田 太、
二宮 省悟、一寸木 洋平、諸角 一記、米澤 美園

3. 臨床見学指導者へのお願い

学生の自発的な学習を促し、有意義な臨床見学となるよう、以下の点に関してご指導・ご配慮をお願い致します。

3-1. 臨床見学の内容について

3-1-1. 臨床見学の形態

臨床見学では、実際の理学療法実施場面を見学することによって、理学療法士の役割と業務内容などを学びます。臨床見学指導者は、実際の理学療法介入を見学させ、適宜説明を加えてくださいますようお願い致します。臨床見学指導者のご判断で可能と思われる状況であれば、対象者の移動の補助を一部(車いす移動介助、トランスファーのために適切な位置への車いすの移動、靴着脱、車いす駆動など)を経験させて下さいますようお願い致します。

3-1-2. 学生への課題

臨床見学を通じて経験したこと、学んだこと、反省点についてまとめる**臨床見学ノート(大学指定のフォーマット:様式 2)**の作成を課します。日々の経験、疑問や学習したことならびにまとめたことなどを記録し、以降に生かすために有効であると指導しております。記載すべき内容、書き方については、大学内で指導しておりますが、実際に書いた経験はありません。到達目標にも「専門用語を用い、簡潔・明瞭かつ論理的に記録できること」とありますように、理学療法士は適切な専門用語を使用した記録ができることが求められます。臨床見学指導者のご経験に基づく書き方の工夫や効率化などの要領も含め、ご指導くださいますようお願い致します。その中で、調べなければならない事柄が多々出てくるかと思いますが、その際にはすぐに指導者に答えを求めるのではなく、まずは自らその事柄について調べることを促すようご指導をお願い致します。

3-1-3. オリエンテーションについて

臨床見学開始後、早い段階で下記の事項のご説明をお願い致します。

- 臨床見学施設・理学療法部門・関連部門の概要について
- 一日の業務の流れ(始業・終業時間、昼休み)や規則について
- 臨床見学中の心得と留意事項について
- 守秘義務と個人情報の保護に関しては、臨床見学前に本学教員が学生に対して十分指導致します。その上で、学生と大学間で個人情報保護に関する誓約書(様式 7、8)を提出させますが、見学施設における方針や規定などがある場合は、そちらを学生にご説明下さい。

3-2. 臨床見学指導報告書の作成

臨床見学指導報告書は、「出欠票(様式 3)」、「臨床見学シート(様式 4)」で構成されています。臨床見学指導者には、臨床見学シートへのご記入をお願い致します。また、出欠票

は学生に記入させますので、内容の確認と署名捺印をお願い致します。(下表参照)。

表. 臨床見学指導者報告書の記入者と記入の時一覧

	記入者	記入の時	備考
出席票	学生	毎日	臨床見学指導者は最終日に内容を確認し署名捺印する
臨床見学シート	臨床見学指導者	最終日	—

3-2-1. 出欠票

出欠票(様式 3)は、学生に毎日記入させてください。臨床見学施設で規定している時間を基準として、遅刻・早退が生じた場合には、出欠票の備考欄に、臨床見学開始時刻(遅刻の場合)、臨床見学終了時刻(早退の場合)をご記入ください。出席はしているものの、体調不良等の理由により、臨床見学施設内で安静経過観察をした場合には、「出席」欄に○を記載して構いませんが、備考欄にその旨を記載させてください。

臨床見学終了後、出欠票および届出書(様式 5)に間違いがないことをご確認の上、署名捺印をお願い致します。

出席票の具体的な記入方法は以下との通りとしております。

- 終日出席した日は「○」と記入する。
- 休日(欠席ではない)は「/」と記入する。
- 遅刻した日は「遅」と記入し、備考欄に見学終了時間を記入する。「届出書」を必ず提出すること。
- 早退した日は「早」と記入し、備考欄に見学終了時間を記入する。「届出書」を必ず提出すること。
- 欠席した日は「欠」と記入する。「届出書」を必ず提出すること。

【記入例】

月日	曜日	出席	備考
7/28	月	○	
7/29	火	○	
7/30	水	遅	電車遅延のため10時より臨床見学開始

遅刻は「遅」と記入
欠席は「欠」、早退は「早」、
公欠は「公」と記入

理由と見学実施状況を記入

欠席、遅刻、早退、公欠、自宅待機の場合は、どのような理由であっても、学生に以下の対応をするようにご指導をお願い致します。

- (1)臨床見学指導者に連絡する
 - (2)大学に電話連絡する
 - (3)翌日以降できるだけ早く届出書を作成し、臨床見学指導者から署名捺印を頂く
 - (4)署名捺印を頂いた届出書をコピーした上保管する
 - (5)届出書の原本を臨床見学施設に提出する
 - (6)届出書のコピーを臨床見学終了後に大学に提出する
- * 公欠の場合は、公欠届(大学事務指定用紙)も必要となる。

【公欠について】

「学校感染症」と「裁判員制度、検察審査会制度」による欠席は、公欠として扱います。下表の学校感染症にかかった場合、出席停止の基準に従って公欠扱いとなります。

表：東京国際大学 学生ガイドブック【履修編】 47p より引用

種別	疾患名	出席停止の基準
第1種	エボラ出血熱 クリミア・コンゴ出血熱 痘瘡 南米出血熱 ペスト マールブルグ熱 ラッサ熱 ポリオ ジフテリア 重症急性呼吸器症候群(SARSコロナウイルス) 鳥インフルエンザ(H5N1) 新型インフルエンザ等感染症 指定感染症 新感染症	治癒するまで
第2種	インフルエンザ(鳥インフルエンザ(H5N1)を除く)	発症後5日を経過し、かつ、下熱後2日を経過するまで
	百日咳	特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
	麻疹(はしか)	解熱後3日を経過するまで
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	耳下腺、顎下腺、又は舌下腺の腫脹発現後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで
	風疹	発しんが消失するまで
	水痘(水ぼうそう)	すべての発疹が皮化するまで
	咽頭結膜熱(プール熱)	主要症状消退後2日を経過するまで
	結核 髄膜炎菌性髄膜炎	医師が感染のおそれがないと認めるまで 医師が感染のおそれがないと認めるまで
第3種	コレラ 細菌性赤痢 腸管出血性大腸菌感染症 腸シフス パラチフス 流行性角結膜炎 急性出血性結膜炎 【その他の感染症】 ・溶連菌感染症 ・ウイルス性肝炎 ・マイコプラズマ感染症 ・流行性嘔吐下痢症 (感染性胃腸炎) など	医師が感染のおそれがないと認めるまで
	条件によって出席停止となる	

裁判員制度、検察審査会制度によって公欠扱いとなる場合は以下の通りです。

- 裁判員候補者として選任手続きの期日に出頭した場合
- 裁判員、補充裁判員として職務に従事した場合
- 検察審査員、補充員として職務に従事した場合

3-2-2. 臨床見学シート

臨床見学期間中に学生が見学・経験した事項ならびに学生の総合所見について記入する臨床見学シートの作成をお願いします。臨床見学最終日には、臨床見学シートを基に、見学した内容の振り返りや今後の課題の提示など、学生へのフィードバックを行っていただきますよう、よろしくお願い致します。

3-2-3. 臨床見学指導者報告書の返却について

すべてに記入がされていることを確認の上、署名捺印をお願い致します。その後、学生が持参した封筒に入れて厳封し、学生にお渡しください。なお、本報告書は学生が大学に戻った際に提出となります。

3-3. 臨床見学施設からの学生への連絡について

学生紹介書(様式1)で学生の住所、電話番号、メールアドレスの開示をしておりますが、ハラスメント予防策として、天災や事故など緊急時や事務的な連絡以外には使用しないようお願い致します。

また、ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)(Facebook、LINE、Twitter、Instagramなど)を通じての学生との交流(友達機能、コメント機能、ダイレクトメッセージ機能の使用など)は、特に臨床見学期間中はお控え下さいますようお願い致します。

3-4. ハラスメントについて

昨今、ハラスメントへの意識の高まりによって、様々な言動や行動の適正化が求められています。ハラスメントに関する詳細は割愛しますが、臨床見学指導者と学生の良好な関係を維持し、有意義な臨床見学となるよう、各種ハラスメントへのご配慮をよろしくお願い致します。なお、本学には、キャンパス・ハラスメント相談窓口、大学法人本部人事課窓口、弁護士による外部相談窓口が設置されており、差別・ハラスメント防止に努めております。

3-5. 天災によって臨床見学実施への影響が予想される場合の対応

台風、その他天災により、見学施設に向かうことや見学の実施が困難になると事前に予想される場合には、学生に対して、当該日前日の見学終了前に「休み」、「連絡あるまで自宅待機」などの対応を、臨床見学施設側のご判断により直接指示してください。

これらの場合、「朝6時の時点で〇〇地方に大雨警報が発令されている場合」や「〇〇線が運休になっている場合」などの前提条件を設けることが望ましいと考えています。大学では、**臨床見学施設の判断に一任致します**。また、学生に対しては、施設側の指示を仰ぐように指導しています。交通機関の運休等により、臨床見学施設に向かうことが困難な場合も、見学を休んだ場合は欠席として扱って下さい。

臨床見学施設側が、見学当日に「休みとした方がいい」や見学時間中に「早退させた方がいい」と判断した場合も、学生はその判断と指示に従うよう指導していますので、学生に対し明確な指示をお願い致します。

3-6. 急を要する事態の発生時の対応

3-6-1. 臨床見学施設内で問題または事故が生じた場合

臨床見学施設内で問題または事故が発生した場合には、基礎理学療法学演習Ⅰ担当教員(連絡が取れない場合、理学療学科専任教員)にご連絡ください。必要に応じて担当教員が訪問し一次的に対応致します*。事故報告書の作成に関しましては、見学施設の書式か本学の書式(様式6)のいずれかをご使用ください。

* 科目担当教員と理学療法学科長に報告します。最終的に理学療法学科長が対応に当たります。事案の深刻度に応じて、理学療法学科長は、医療健康学部長及び大学事務に報告します。

3-6-2. 臨床見学施設外で問題または事故が生じた場合

臨床見学施設外で問題または事故が発生した場合は、学生に基礎理学療法学演習Ⅰ担当教員持参携帯電話と臨床見学指導者の両方に連絡するよう伝えております。学生から連絡を受けた担当教員は、臨床見学指導者と連絡を取り合い、情報と対応方針*を共有致します。

3-6-3. 損害保険について

対象者や第三者に怪我や事故を負わせた場合やそれらの所有物を破損させた場合の補償等に備え、全学生は在学期間中に渡って損害保険への加入(総合保障制度 Will の「Will2」)を義務づけています。学生がこの補償を受けるにあたり、臨床見学施設職員の方々に事象発生時の状況など、詳細な説明や記述が求められることがあります。その際はお手数をおかけ致しますが、何卒ご対応の程よろしくお願い申し上げます。

3-7. その他

- 学生の中には、リハビリテーションの臨床現場(特に理学療法)に初めて接する者もおります。また、多くの学生は、臨床見学指導者をはじめ、社会人とのコミュニケーションの経験が少ないと考えられます。指導者および他の職員と話し合える機会は、学生にとって大変貴重であり、多くの学びが得られると考えております。業務でお忙しい中ではございますが、学生には職員の方々と接する機会を少しでも与えてくださいますようお願い致します。
- 可能な限り、理学療法に関わる多角的な活動が見学できるようにご配慮くださいますようお願いいたします。
- 基本的に未成年であり、成人後の学生でも飲酒をしない、飲酒の会やカラオケを好まない学生も多く、それらに関してもハラスメントとして問題となりやすい昨今です。基本的に本学の学生は臨床見学時間外の食事や酒席にはお誘いになりませんようにご配慮をお願い致します。

【10月修正】

〈資料36 臨床見学要綱〉

【東京国際大学 代表・事務連絡先】

代表：049-232-1111
教務課：049-232-1112
学生課：049-232-1114
学生相談室：049-233-2682

【東京国際大学 医療健康学部 理学療法学科 連絡先】

理学療法学科助手室直通：〇〇 （見学時間中にご使用ください）
基礎理学療法学演習Ⅰ
担当教員持参携帯：〇〇 （見学時間外にご使用ください）
メールアドレス：〇〇@〇〇 （常時ご使用ください）

- 科目担当責任者 -

猪股 高志

- 科目担当教員 -

金崎 雅史、川崎 翼、窪田 智史、芝原 美由紀、志村 圭太、
杉本 諭、武田 要、戸島 美智生、山本 大誠、生田 太、
二宮 省悟、一寸木 洋平、諸角 一記、米澤 美園

・急を要する事項があった場合には、直ちにご連絡くださいますようお願い致します。

学生紹介書

東京国際大学 医療健康学部 理学療法学科 1年

学籍番号: _____

氏^{ふりがな}名: _____ 男・女

年 齢: _____ 歳

学 歴:

職 歴:

性格・特技:

健康状態:

見学の目標:

写
真

縦 4 cm × 横 3 cm

臨床見学終了時に臨床見学指導報告書とともにご返却くださいますようお願い致します。

見学ノート

施設の概要（病床数・診療科・職種・職員数・特徴など）と地域における機能（役割）	2枚目以降割愛可	施設における理学療法部門の役割と各種職員の役割	2枚目以降割愛可
対象者の障害像	見学や経験したこと（日付）	見学や経験したことの考察	受けた指導や助言
	調べて分かったこと	自身の解釈と疑問点	
			臨床実習指導者コメント

出欠票

月日	曜日	出席	備考

① 出席日数	日
② 欠席日数	日
③ 遅刻日数	日
④ 早退日数	日
⑤ 公欠日数	日
⑥ 所定の休日以外で出席を要しなかった日数	日
⑦ 届出書枚数 →②～⑥の合計	枚

 臨床見学施設名

 臨床見学指導者名

 印

臨床見学シート

【見学したこと】

■ 対象者の疾患・病態

- 中枢神経疾患 整形外科系疾患 内部障害疾患 心疾患 がん スポーツ障害 小児疾患
 高齢期障害 その他()

■ 問診

- 主訴 ホープ 現病歴 既往歴 家族構成 家屋構造 生活歴
 その他()

■ 視診

- 動作観察 炎症所見 画像読影 その他()

■ 触診

- 関節 筋 骨 皮膚・皮下組織 その他()

■ 理学療法評価

- バイタルサイン 形態測定 関節可動域測定 筋力測定 運動麻痺評価 バランス能力測定
 姿勢アライメント評価 歩行能力測定 ADL能力測定 動作観察 疼痛検査 認知機能検査
 高次脳機能障害に関する検査 その他()

■ 理学療法介入

- 関節可動域練習 筋力増強練習 持久力練習 協調性練習 バランス練習
 歩行練習 ADL練習 動作指導 介護予防的介入(予防理学療法) 自主練習指導
 その他()

■ 他部署職員の業務内容

- 作業療法士業務 言語聴覚士業務 看護師業務 カンファレンス その他()

【経験したこと】

■ 情報収集

- 診断名 現病歴 既往歴 合併症 服薬状況 医師からの指示内容 他職種からの情報
 理学療法評価結果と状態の経過 その他()

■ 対象者とのコミュニケーション(理学療法に関連しない会話含む)

- 1回 2～5回 5～10回 10回以上

■ 他部署職員とのコミュニケーション(理学療法に関連しない会話含む)

- 作業療法士 言語聴覚士 医師 看護師 放射線技師 ソーシャルワーカー
 その他()

■ 対象者の移動の一部補助

- 車いす移動介助 トランスファーのために適切な位置への車いすの移動 靴着脱介助 車いす駆動
 その他()

臨床見学指導者の総合所見

臨床見学施設名

臨床見学指導者名

印

届出書

欠席・遅刻・早退・公欠・自宅待機(災害時等)の事態が生じた場合は臨床見学指導者に必ず提出すること。

	届出日	年	月	日
届出者学籍番号:	氏名:	印		
【届出内容について】				
日時:	年	月	日	時
欠席・遅刻・早退・公欠・自宅待機・その他()				
【経緯・理由 (できるだけ詳細に)】				
【届出内容を証明するもの(コピー可)】				
遅延証明書・診断書・処方箋の写し・その他()				
臨床見学指導者氏名:				印

* 処方箋の内容から罹患した疾病が明らかなものは、診断書の提出を求めない場合がある(例:タミフル、リレンザ)。届出書は、必要に応じてコピーして使用すること。

事故報告書

年 月 日

東京国際大学 ○○ 殿

東京国際大学 医療健康学部
理学療法学科 年

氏名 印

下記の通り事故がありましたのでご報告致します。

本人の立場： 被害者 ・ 加害者

発生日時：

発生場所：

事故の状況：

事故処理状況：

被害者：住所 電話
氏名 男・女 生年月日
備考

加害者：住所 電話
氏名 男・女 生年月日
備考

臨床見学指導者 印

(臨床見学施設受理 年 月 日 時 分 氏名 印)

病院長(施設長) 殿

個人情報保護に関する誓約書(病院・施設長宛)

この度、私は _____ において、臨床見学を行うにあたり、下記事項を遵守することを誓約します。

1. 臨床見学中に知りえた秘密情報について、臨床見学施設の許可なく、如何なる方法をもって、情報の開示、遺漏もしくは使用しないことを約束致します。
2. 秘密情報については、私はその秘密の形成に関わった場合にあって、当該秘密の帰属が臨床見学施設にあることを了承致します。
3. 秘密情報については、臨床見学を終了した後においても、情報の開示、遺漏もしくは使用しないことを約束致します。
4. 上記に違反して、臨床見学施設の秘密情報を故意または過失により開示し、遺漏もしくは使用した場合、法的な責任を負担するものであることを確認し、これより臨床見学施設が被った損害を賠償致します。

令和 _____ 年 _____ 月 _____ 日

東京国際大学 医療健康学部
理学療法学科

学籍番号

氏名(自署)

東京国際大学学長 殿

個人情報保護に関する誓約書(学長宛)

この度、私は _____ において、臨床見学を行うにあたり、下記事項を遵守することを誓約します。

1. 臨床見学中に知りえた秘密情報について、臨床見学施設の許可なく、如何なる方法をもっても、情報の開示、遺漏もしくは使用しないことを約束致します。
2. 秘密情報については、私はその秘密の形成に関わった場合にあっても、当該秘密の帰属が臨床見学施設にあることを了承致します。
3. 秘密情報については、臨床見学を終了した後においても、情報の開示、遺漏もしくは使用しないことを約束致します。
4. 上記に違反して、臨床見学施設の秘密情報を故意または過失により開示し、遺漏もしくは使用した場合、法的な責任を負担するものであることを確認し、これより東京国際大学が被った損害を賠償致します。

令和 _____ 年 _____ 月 _____ 日

東京国際大学 医療健康学部
理学療法学科

学籍番号

氏名(自署)

医療健康学部理学療法学科 実習施設一覧

No	法人名	実習施設名	実習施設住所	当該実習施設を使用する授業科目名および実習生受け入れ人数				③④のうち 地域理学療法実習実施可能人数
				① 基礎理学療法 演習Ⅰ (臨床見学)	② 機能・能力評価 学臨床実習	③ 総合臨床実習Ⅰ	④ 総合臨床実習Ⅱ	
1	医療法人 清風会	ホスピタル坂東	茨城県坂東市沓掛411		2	2	2	4
2	社会医療法人 至仁会	圏央所沢病院	埼玉県所沢市東狭山ヶ丘4-2692-1	2	1	1	1	2
3	医療法人 沖繩徳洲会	千葉西総合病院	千葉県松戸市金ヶ作107-1		2	2	2	4
4	医療法人 富家会	富家病院	埼玉県ふじみ野市亀久保2197	8	2	2	2	4
5	医療法人 三成会	新百合ヶ丘総合病院	神奈川県川崎市麻生区古沢字都古255		1	1	1	2
6	医療法人	はんだ整形外科	埼玉県鶴ヶ島市新町2-21-12	1		1		
7	医療法人 宏仁会小川病院	宏仁会高坂醫院	埼玉県東松山市西本宿1759-1	4	2	2	2	
8	医療法人 藤田会	西武川越病院	埼玉県川越市今福265番地2	6	2	2	2	4
9	医療法人 沖繩徳洲会	鎌ヶ谷総合病院	千葉県鎌ヶ谷市初富929-6	1		1	1	
10	医療法人 上野会	介護老人保健施設 ナーシングホーム館林	群馬県館林市赤生田町1865-1		1	1	1	2
11	社会医療法人 新都市医療研究会[関越]会	関越病院	埼玉県鶴ヶ島市大字脚折145番地1	8	2	2	2	4
12	社会医療法人 若竹会	つくばセントラル病院	茨城県牛久市柏田町1589-3	3	2	2	2	4
13	医療法人 仁和会	介護老人保健施設 ケアパーク江南	埼玉県熊谷市江南中央2丁目7番地8号		1	1	1	2
14	医療法人 藤仁会	藤村病院	埼玉県上尾市仲町1丁目8番33号	3	2	2	2	4
15	医療法人 啓清会	関東脳神経外科病院	埼玉県熊谷市代1120		1	1	1	
16	社会福祉法人 草加福祉会	特別養護老人ホーム マナーハウス麻溝台	神奈川県相模原市南区下溝3018番地		1	1	1	2
17	医療法人 啓仁会	所沢ロイヤル病院	埼玉県所沢市北野3-1-11	8	2	2	2	4
18	医療法人 愛友会	伊奈病院	埼玉県北足立郡伊奈町大字小室9419番地		2	2	2	4
19		埼玉医科大学かわごえクリニック	埼玉県川越市脇田本町21-7	4	1	1	1	
20	医療法人 松弘会	三愛病院	埼玉県さいたま市桜区田島4丁目35番17号	8	2	2	2	
21	八王子保健生活協同組合	城山病院	東京都八王子市元八王子町3丁目2872番地の1		1	1	1	2
22	公益財団法人	心臓血管研究所付属病院	東京都港区西麻布3-2-19		1	1	1	
23	有限会社 間柴メディカルサービス	ベテラン館ましば	埼玉県飯能市緑町8番地3		1	1	1	2
24	医療法人 彩悠会	はすだセントラルクリニック	埼玉県蓮田市黒浜678		1	1	1	
25	社会福祉法人 太陽会	安房地域医療センター	千葉県館山市山本1155番地		1	1	1	
26	医療法人 鉄蕉会	亀田森の里病院	神奈川県厚木市森の里3-1-1		1	1	1	2
27	医療法人 弘人会	中田病院	埼玉県加須市元町6番8号	2	1	1	1	
28	医療法人 永生会	南多摩病院	東京都八王子市散田町3-10-1		1	1	1	2
29	医療法人 松弘会	トワーム小江戸病院	埼玉県川越市下老袋490-9	8	2	2	2	
30	医療法人 松弘会	介護老人保健施設 トワーム熊谷	埼玉県熊谷市小曾根337-1		2	2	2	4
31	医療法人 松弘会	介護老人保健施設 トワーム指扇	埼玉県さいたま市西区西宝来591	8	2	2	2	4
32	医療法人 真正会	霞ヶ関南病院	埼玉県川越市安比奈新田字開発283-1	12	1	1	1	2
33	医療法人 和会	武蔵台病院	埼玉県日高市久保278-12			1	1	2
34	医療法人 鉄蕉会	亀田クリニック	千葉県鴨川市東町1344番地		1	1	1	
35	国家公務員共済組合連合会	横須賀共済病院	神奈川県横須賀市米が浜通1-16		1	1	1	2
36	医療法人 神天会	登戸内科・脳神経クリニック	神奈川県川崎市多摩区登戸新町434			1	1	2
37		東京女子医科大学東医療センター	東京都荒川区西尾久2丁目1番10号		1	1		
38	医療法人 西宮回生病院	西宮回生病院	兵庫県西宮市大浜町1番4号		1	1	1	2
39	医療法人 三喜会	横浜新緑総合病院	神奈川県横浜市緑区十日市場町1726-7	3		1		1
40	医療法人 瑞穂会	川越リハビリテーション病院	埼玉県川越市中台元町1-9-12		1	1	1	2
41	社会医療法人 石心会	川崎幸病院	神奈川県川崎市幸区大宮町31-27		1	1	1	
42	医療法人 梅田財団	梅田病院	東京都足立区梅田7丁目1番2号		2	2	2	4
43	医療法人 協友会	横浜鶴見リハビリテーション病院	神奈川県横浜市鶴見区下野谷町4-145-1		1	1	1	
44	医療法人 明芳会	IMSグループ イムス板橋リハビリテーション病院	東京都板橋区小豆沢3-11-1		1	1	1	
45	医療法人 スポーツメディカル	八王子スポーツ整形外科	東京都八王子市中町5-1 中町ビル4F	1	1	1	1	
46	医療法人 紺医会	とつか西口整形外科	神奈川県横浜市戸塚区戸塚町6005-3 アスクレピオス戸塚2階	1	1	1	1	
47	社会福祉法人 みどり福祉会	B&Jクリニック お茶の水	東京都千代田区神田駿河台2-1-47 廣瀬お茶の水ビル5F	3	2	2	2	4
48		東京医科歯科大学医学部附属病院	東京都文京区湯島1丁目5番45号	1	1	1	1	
49	神奈川県厚生農業協同組合連合会	相模原協同病院	神奈川県相模原市緑区橋本2丁目8番18号	1	1	1	1	
50	医療法人 紺整会	船橋整形外科クリニック	千葉県船橋市飯山満町1-824	1	1	1	1	
51	公益財団法人 東京都保健医療公社	荏原病院	東京都大田区東雪谷4-5-10		2	2	2	
52	日本赤十字社	横浜市立みなと赤十字病院	神奈川県横浜市中央区新山下3丁目12番1号			1		
53	医療法人 七仁会	田園調布中央病院	東京都大田区田園調布2丁目43番1号		1	1	1	
54	医療法人 松井病院	松井病院	東京都大田区池上2丁目7番10号		1		1	
55	医療法人 横浜柏堤会	奥沢病院	東京都世田谷区奥沢2-11-11		1	1	1	
56	医療法人 青葉会	小平中央リハビリテーション病院	東京都小平市鈴木町1丁目146番		1	1		
57	医療法人 青葉会	一橋病院	東京都小平市学園西町1丁目2番25号		1	1	1	2
58	医療法人 時正会	佐々総合病院	東京都西東京市田無町4丁目24番15号		1	1	1	
59	医療法人 東光会	西東京中央総合病院	東京都西東京市芝久保町2丁目4番19号		1			
60	医療法人 徳成会	八王子山王病院	東京都八王子市中野山王2丁目15番16号	1	1			
61	医療法人 青葉会	介護老人保健施設 牧野ケアセンター	神奈川県横浜市神奈川区菅田町1481番1		1			
62	医療法人 青葉会	牧野記念病院	神奈川県横浜市緑区鴨居2丁目21番11号	1	1			
63	医療法人 青葉会	牧野リハビリテーション病院	神奈川県横浜市緑区鴨居3丁目32番33号			2	2	
64	医療法人 横浜柏堤会	介護老人保健施設 ヒューマンライフケア横浜	神奈川県横浜市戸塚区戸塚町1800-3		1	1	1	
65	医療法人 横浜柏堤会	戸塚共立第1病院	神奈川県横浜市戸塚区戸塚町116	2	1			
66	医療法人 東光会	北総白井病院	千葉県白井市根 325-2-1				1	
67	医療法人 東光会	介護老人保健施設 船橋ケアセンター	千葉県船橋市高野台5丁目741-6		1	1	1	
68	医療法人 東光会	茂原中央病院	千葉県茂原市下永吉字川田796番地			1	1	2
69	医療法人 武蔵野会	介護老人保健施設グリーンビレッジ安行	埼玉県川口市大字安行1145番地		1	1		
70	医療法人 東光会	介護老人保健施設グリーンビレッジ藤	埼玉県蕨市北町5丁目13番6号				1	
71	医療法人 東光会	戸田中央リハビリテーション病院	埼玉県戸田市新曾南4丁目1番29号			1		
72	医療法人 東光会	戸田中央総合病院	埼玉県戸田市本町1-19-3				1	
73	医療法人 青葉会	狭山神経内科病院	埼玉県狭山市加佐志65				1	
74	医療法人 武蔵野会	TMGあさか医療センター	埼玉県朝霞市溝沼1340番地1			1		
75	医療法人 武蔵野会	介護老人保健施設 グリーンビレッジ朝霞台	埼玉県朝霞市大字宮戸3番地		2	1		
76	医療法人 青葉会	新座病院	埼玉県新座市堀ノ内3丁目14番30号		1	1	1	
77	医療法人 武蔵野会	TMG宗岡中央病院	埼玉県志木市上宗岡5丁目14番50号		1	1	1	
78	医療法人 東光会	東所沢病院	埼玉県所沢市大字城435番地1号			1	1	
79	医療法人 伊豆七海会	熱海海の見える病院	静岡県熱海市熱海上ノ山1843-1	1	1			

受け入れ人数総数

基礎理学療法 演習Ⅰ (臨床見学)	機能・能力評価 学臨床実習	総合臨床実習Ⅰ	総合臨床実習Ⅱ	地域理学療法実習 実施可能人数
102	82	85	81	87

備考:
 ※1 総合臨床実習Ⅰ又は総合臨床実習Ⅱにおいて地域理学療法に関連した実習を1週間行う。
 総合臨床実習Ⅰ又は総合臨床実習Ⅱの実習施設のうち、地域理学療法実習を実施可能な人数を記載した。
 ※2 臨床実習の科目とは別に1年次に臨床見学(7月下旬~3日間)を「基礎理学療法学演習Ⅰ」の中で実施する。

資料 38. 実習施設承諾書

① (書類等の題名)

設置の趣旨等を記載した書類 添付資料

資料 38. 実習施設承諾書 全ページ

② (その他の説明)

・省略

以上

臨床実習要綱

実習名称	機能・能力評価学臨床実習 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ
実習期間	令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日
実習施設名	
実習指導者名	



学籍番号		学年		氏名	
------	--	----	--	----	--

本学の臨床実習教育について

東京国際大学医療健康学部においては、医療・健康科学における専門的知識・技術をもって心身の健康を支援することで社会に貢献できる人材を養成することを教育目的としています。また医療健康学部理学療法学科では、現代社会の問題を理学療法の見点から捉え、医療・福祉分野のみならず、健康増進・介護予防分野においても活躍できる人材を養成することを教育目的としています。この教育目的を達成するために、以下のディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)を定め、地域社会に貢献し得る質の高い理学療法士の養成に取り組んでおります。

医療健康学部理学療法学科ディプロマ・ポリシー

1. 良好な人間関係を構築する上で必要なコミュニケーション能力を有し、人々に対して思いやりをもって接することができる。
2. 理学療法士に求められる高い倫理観と道徳観を備えている。
3. 理学療法を必要としている人々を生活者の視点で全人的に理解することができる。
4. 理学療法に関する幅広い知識・技術を有しており、各専門職と連携しながら科学的根拠に基づく理学療法を実践することができる。
5. 理学療法関連の諸科学の発展や理学療法士に求められる役割や知識・技術の変化に対応し、生涯にわたり学び続けることができる。
6. 臨床理学療法、スポーツ理学療法、予防理学療法のいずれかの分野に関して、より専門性の高い知識・技術を有し、各分野の理学療法に貢献することができる。

本学では上記の教育目的を達成するために、理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則(平成30年10月5日改正)及び理学療法教育モデル・コア・カリキュラムに準拠した体系的な教育課程を編成しております。さらに、学生本人の卒業後の進路に合わせて科目選択できるように「臨床理学療法」、「スポーツ理学療法」、「予防理学療法」の3つの履修モデルを提示し、より専門的な内容を主体的に学修できるようにしております。本学においては、臨床実習科目をディプロマ・ポリシーを達成するための中核的な科目として位置付け、臨床実習前までに修得した知識・技術をクリニカル・クラークシップ方式で、臨床実習指導者とともに実践する重要な機会としています。臨床実習科目は2年次の「機能・能力評価学臨床実習(5週間 [内、学内実習 1週間])」、3年次の「総合臨床実習Ⅰ(7週間 [内、学内実習 1週間])」、4年次の「総合臨床実習Ⅱ(9週間 [内、学内実習 1週間])」で構成しております。この他、理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドライン(平成30年10月5日改正)における見学実習については、1年次必修科目の「基礎理学療法学演習Ⅰ」において臨床見学(半日×3回)を実施することで対応しております。

臨床実習施設における理学療法への参加は、理学療法に関する知識・技術のさらなる修得のみならず、コミュニケーション能力の向上や理学療法士としての社会的責任を自覚する機会となります。臨床実習指導者の皆様におかれましては、本学の教育活動にご支援賜りますようお願い申し上げます。

目次

1. 臨床実習の実施概要	1
2. 理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドライン上の実習名称・内容と本学の実習の対応 ...	2
3. 臨床実習の目的と概要および到達目標	3
3-1. 臨床実習の目的と概要	3
3-1-1. 機能・能力評価学臨床実習の目的と概要	3
3-1-2. 総合臨床実習Ⅰの目的と概要	3
3-1-3. 総合臨床実習Ⅱの目的と概要	3
3-2. 到達目標	4
3-2-1. 技術面	4
3-2-2. 知識面	5
3-2-3. 記録・報告(機能・能力評価学臨床実習、総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ共通)	6
3-2-4. 適性(機能・能力評価学臨床実習、総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ共通)	6
4. 学生の心得	8
4-1. 基本的心得	8
4-1-1. 実習に対する姿勢	8
4-1-2. 生活	8
4-1-3. 身だしなみ	8
4-1-4. コミュニケーション	10
4-1-5. 自宅と臨床実習施設間の移動	11
4-2. 臨床実習の進め方	11
4-2-1. 実習前	11
4-2-2. 実習中	12
4-2-3. 実習後	17
4-3. 臨床実習の出欠	18
4-3-1. 休日	18
4-3-2. 欠席	18
4-3-3. 遅刻・早退	19
4-3-4. 公欠について	19
4-3-5. 出欠表の記載について	20
4-4. 感染症の予防について	21
4-5. 成績評価	22
4-6. 守秘義務と個人情報保護	22
4-6-1. 守秘義務	22
4-6-2. 個人情報保護	22
4-7. SNS 使用上の注意	23
4-8. 差別・ハラスメントへの対応	23
4-9. 事故防止策	24
4-10. 緊急時の対応について	24
4-10-1. 臨床実習施設内で問題または事故が生じた場合	24
4-10-2. 臨床実習施設外で問題または事故が生じた場合	25
5. 臨床実習指導者へのお願い	27
5-1. 実習の内容について	27

5-1-1. 実習形態	27
5-1-2. 学生が実施可能な技術	28
5-1-3. 学生への課題	29
5-1-4. オリエンテーションについて	30
5-2. 臨床実習指導報告書の作成	30
5-2-1. 出欠票	31
5-2-2. 関わった症例の概要票	33
5-2-3. 実習評価票	33
5-2-4. 施設間連絡票	34
5-2-5. 臨床実習指導報告書の返却について	35
5-3. 臨床実習施設からの学生への連絡について	35
5-4. ハラスメントについて	35
5-5. 天災等によって実習実施への影響が予想される場合の対応	35
5-6. 急を要する事態の発生時の対応	35
5-6-1. 臨床実習施設内で問題または事故が生じた場合	35
5-6-2. 臨床実習施設外で問題または事故が生じた場合	36
5-6-3. 損害保険について	36
5-7. その他	36
学生紹介書	38
関わった症例の概要票（機能・能力評価学臨床実習）	39
関わった症例の概要票（総合臨床実習Ⅰ）	40
関わった症例の概要票（総合臨床実習Ⅱ）	41
実習ノート	42
出欠票（機能・能力評価学臨床実習）	43
出欠票（総合臨床実習Ⅰ）	44
出欠票（総合臨床実習Ⅱ）	45
実習評価票（段階評価：機能・能力評価学臨床実習）	46
実習評価票（段階評価：総合臨床実習Ⅰ）	47
実習評価票（段階評価：総合臨床実習Ⅱ）	48
実習評価票（記述評価：機能・能力評価学臨床実習）	49
実習評価票（記述評価：総合臨床実習Ⅰ）	50
実習評価票（記述評価：総合臨床実習Ⅱ）	51
施設間連絡票（機能・能力評価学臨床実習）	52
施設間連絡票（総合臨床実習Ⅰ）	53
施設間連絡票（総合臨床実習Ⅱ）	54
届出書	55
事故報告書	56
個人情報保護に関する誓約書（病院・施設長宛）	57
個人情報保護に関する誓約書（学長宛）	58

2. 理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドライン 上の実習名称・内容と本学の実習の対応

理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドライン(以下、ガイドライン)上の実習名称である「見学実習」、「評価実習」、「総合臨床実習」の内容と本学実習の対応は以下の通りである。

ガイドライン上の「見学実習」には、1 年次前期必修科目の「基礎理学療法学演習Ⅰ」の中で行われる 3 日間の臨床見学が対応しており、患者への対応等についての見学ならびに体験を行う。

「評価実習」には、検査・測定に関する内容について「機能・能力評価学臨床実習」が対応し、患者の状態等に関する評価については「総合臨床実習Ⅰ」の一部が対応する。「総合臨床実習Ⅰ」は、ガイドライン上の総合臨床実習にも対応しており、障害像の把握と状況に応じた理学療法の実践も行う。目標及び理学療法計画の立案、それに基づく理学療法の実践ならびにその効果判定については、「総合臨床実習Ⅱ」で行う(下表参照)。

理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドライン上の実習名称・内容と本学実習の対応

ガイドライン上の名称と内容		本学実習
見学実習	対象者への対応等についての見学	基礎理学療法学演習Ⅰ 内での臨床見学 : 1年前期
評価実習	患者の状態等に関する評価	機能・能力評価学臨床実習 : 2年後期 総合臨床実習Ⅰ : 3年後期
総合臨床実習	患者の障害像の把握、治療目標及び治療計画の立案、治療実践並びに治療効果判定	総合臨床実習Ⅰ : 3年後期 総合臨床実習Ⅱ : 4年前期

3. 臨床実習の目的と概要および到達目標

3-1. 臨床実習の目的と概要

3-1-1. 機能・能力評価学臨床実習の目的と概要

機能・能力評価学臨床実習の目的は、症例に関する情報収集能力と検査・測定技術の向上を図ることとする。そのために、学内で学んだ理学療法の基本知識ならびに検査・測定技術を基に、症例に関わる情報収集と検査・測定を繰り返し経験する。その際、症例に起こりうるリスクを配慮した上で、臨床実習指導者の検査・測定実施場面の見学と模倣の後に指導者の監視下で学生が実施するという段階的手続きを踏む。

学生の到達度に応じて、可能であれば収集した情報と検査・測定の結果から、対象者の状態について包括的に統合と解釈を行う。

3-1-2. 総合臨床実習Ⅰの目的と概要

総合臨床実習Ⅰの目的は、症例に対する情報収集と検査測定の結果を基に、統合と解釈の実践を経験し、理学療法評価技術の向上を図ることとする。そのために、これまでの学内・学外での学習を通じて得た知識・技術に基づき、対象者に起こりうるリスクを配慮した上で、臨床実習指導者の見学、模倣の後に、臨床実習指導者の監視下で学生が理学療法評価を実施するという段階的手続きを踏む。

学生が対象者の理学療法評価が適切に行えた場合は、臨床実習指導者の指導の下で理学療法プログラムの立案を行い、可能であればその理学療法実施の一部を経験する。また、実習を通じて、他職種との連携によるチーム・アプローチについても学ぶ。

この間に行われる地域理学療法に関する実地体験¹では、地域包括ケアシステムにおける理学療法士と関連職種の役割を理解する。そのために、ケアプランの立案過程を見学し、通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションを受ける対象者への理学療法の見学とその一部を経験する。

3-1-3. 総合臨床実習Ⅱの目的と概要

総合臨床実習Ⅱの目的は、多職種連携によるチーム・アプローチの観点を十分に取り入れ、理学療法評価、理学療法プログラムの立案と実施、さらにその後の再評価までの一連のプロセスを体験し、理学療法士になるための総合的なスキルの向上を図ることとする。そのために、対象者に起こりうるリスクを配慮した上で、臨床実習指導者の見学、模倣の後に、指導者の指導・監視の下で理学療法の一部を実施という段階的手続きを踏む。

この間に行われる地域理学療法に関する実地体験では、地域包括ケアシステムにおける理学療法士と関連職種の役割を理解する。そのために、ケアプランの立案過程を見学し、通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションを受ける対象者への理学療法の見学とその一部を経験する。

¹ 地域理学療法に関する実地体験は、総合理学療法実習ⅠかⅡのいずれかで1週間以上行うこととする。

*臨床実習の効果をより高めるために、学外実習の前後に学内実習を実施する。「機能・能力評価学臨床実習」においては、実習前に検査・測定 of 知識確認と実技練習ならびに客観的臨床能力試験(OSCE)を約 20 時間実施する。「総合臨床実習Ⅰ」と「総合臨床実習Ⅱ」においては、実習前に理学療法評価(統合と解釈を含む)や各種の理学療法介入の知識確認と実技練習ならびに OSCE を約 20 時間実施する。学外実習後は、実習内容をレジュメにまとめる作業と実習報告会を約 20 時間実施する。

3-2. 到達目標

3-2-1. 技術面

-指導者が行う以下の理学療法技術について、指導者からの説明と指導の後、指導者の見学、模倣を行い、最終的に実施する-

機能・能力評価学臨床実習の到達目標

- (1)適切に対象者の情報収集(医療面接含む)ができる
- (2)対象者の状態に配慮した上で、指定された検査・測定に関するオリエンテーションを適切に実施し、同意を得ることができる
- (3)指定された検査・測定のリスクに配慮できる
- (4)指定された検査・測定を対象者の状態に応じて実施できる

総合臨床実習Ⅰの到達目標

- (1)適切な検査・測定評価項目およびその方法が選択できる
- (2)選択した検査・測定に関するオリエンテーションを適切に行うことができる
- (3)選択した検査・測定に関し、リスクに配慮しながら実施できる
- (4)多職種連携によるチーム・アプローチの観点を取り入れ、検査・測定結果から問題点が抽出できる
- (5)個々の問題点の原因について考察できる
- (6)問題点の原因に対する理学療法を一部体験する

*この間に地域理学療法に関する実地体験が行われる場合の到達目標

- (1)ケアプランの立案過程を見学する
- (2)対象者の理学療法評価を一部体験する
- (3)対象者への理学療法プログラムを一部体験する

総合臨床実習Ⅱの到達目標

- (1)多職種連携によるチーム・アプローチの観点を取り入れ、情報収集、検査・測定結果から抽出された問題点の原因を考察できる
- (2)問題点の原因と経過を勘案した短期目標が立てられる
- (3)問題点の原因と経過を勘案した中・長期目標が立案できる
- (4)多職種連携によるチーム・アプローチの観点を取り入れ、目標達成に向けた理学療法プ

プログラムの実施計画が立てられる

- (5) 問題点の原因に対する理学療法プログラム(手技・時間・回数・強度など)が選択でき、その根拠を説明できる
- (6) 選択した理学療法プログラムのリスクに対応できる(予防的配慮含む)
- (7) 選択した理学療法プログラムに関するオリエンテーションができる
- (8) 選択した理学療法プログラムを適切に実施できる
- (9) 多職種連携によるチーム・アプローチの観点を取り入れ、理学療法プログラム実施後の再評価結果の考察(理学療法プログラムの妥当性の検討)ができる

***この間に地域理学療法に関する実地体験が行われる場合の到達目標**

- (1) ケアプランの立案過程を見学する
- (2) 対象者の理学療法評価を一部体験する
- (3) 対象者への理学療法プログラムを一部体験する

3-2-2. 知識面

-習得すべき理学療法に関わる知識を身につける-

機能・能力評価学臨床実習の到達目標

- (1) 情報収集の意味、収集した情報の活用の仕方を理解できる
- (2) 指定された検査・測定の方法や結果を理解できる
- (3) 指定された検査・測定のリスクについて、その種類、原因および対処方法を理解できる

総合臨床実習Ⅰの到達目標

- (1) 適切な検査・測定項目の選択ならびに評価の考え方と手順を理解できる
- (2) 選択した検査・測定に関するオリエンテーションの必要性を理解できる
- (3) 選択した検査・測定のリスクについて、その種類、原因および対処方法を理解できる
- (4) 多職種連携によるチーム・アプローチの意味と重要性について理解できる
- (5) 検査・測定結果から問題点を抽出する方法を理解できる
- (6) 抽出した問題点を取捨選択の上、整理(階層化や優先順位付け)できる
- (7) 体験する理学療法プログラムに関するリスクならびにその理由と対処方法を理解できる

***この間に地域理学療法に関する実地体験が行われる場合の到達目標**

- (1) 地域包括ケアシステムの仕組みを理解できる
- (2) 地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割を理解できる
- (3) 地域包括ケアシステムにおける他職種の役割を理解できる
- (4) ケアプランの立案過程を理解できる
- (5) 対象者に行う理学療法評価と理学療法プログラムの考え方を理解できる

総合臨床実習Ⅱの到達目標

- (1) 情報収集、検査・測定結果から抽出された問題点の原因を考察するための手順と考え

方を理解できる

- (2)問題点の原因と経過を勘案した短期目標立案の手順と考え方を理解できる
- (3)問題点の原因と経過を勘案した中・長期目標の立案の手順と考え方を理解できる
- (4)問題点の原因に対する理学療法実施計画立案の手順と考え方について理解できる
- (5)問題点の原因に対する理学療法プログラム(手技・時間・回数・強度)を選択した際の根拠と手順を理解できる
- (6)選択した理学療法プログラムのリスクについて、その種類、原因および対処方法(予防法含む)を理解できる
- (7)選択した理学療法プログラムに関するオリエンテーションの必要性和手順を理解できる
- (8)理学療法プログラム実施後の再評価の意義と検証作業の意味を理解できる

***この間に地域理学療法に関する実地体験が行われる場合の到達目標**

- (1)地域包括ケアシステムの仕組みを理解できる
- (2)地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割を理解できる
- (3)地域包括ケアシステムにおける他職種の役割を理解できる
- (4)ケアプランの立案過程を理解できる
- (5)対象者に行う理学療法評価と理学療法プログラムの内容を理解できる

3-2-3. 記録・報告(機能・能力評価学臨床実習、総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ共通)

-臨床実習を行う学生として必要な記録と報告を行う-

- (1)臨床実習中に「経験したこと」について、専門用語を用いて簡潔かつ明瞭に記録できる。
- (2)経験したことにおける「結果と考察」について、専門用語を用い、明瞭かつ論理的に記録できる
- (3)経験したことにおける「臨床実習指導者から受けた指導や助言」、「自身の解釈と疑問点」ならびに「学習したこと」に関して専門用語を用い、簡潔・明瞭に記録できる
- (4)記録した内容について、口頭あるいは文書で報告できる

3-2-4. 適性(機能・能力評価学臨床実習、総合臨床実習Ⅰ・Ⅱ共通)

理学療法学生としての実習に臨む際の社会人として必要最低限のマナーとして、以下のことが求められる。

- (1)社会人として適切なコミュニケーションができる
- (2)時間的観念を持って責任ある行動をとることができる
- (3)医療人としての身だしなみに配慮をすることができる
- (4)実習施設の規則を守ることができる
- (5)室内の整理整頓に心がけることができる
- (6)職員との人間関係を保ち、節度ある言葉を使い、礼儀をつくすことができる
- (7)対象者との信頼関係を作り、節度ある言葉を使い、礼儀をつくすことができる
- (8)対象者を全人的に理解し人間としての尊厳をもった対応を行うことができる
- (9)対象者あるいは家族へのプライバシーを遵守し守秘義務を遵守できる

- (10) 知識・技術に対する向上心・探究心を持ち続ける
- (11) 常に疑問を持ち、積極的に質問する
- (12) 物事を客観的に捉え、吟味をすることができる

4. 学生の心得

ここでは、臨床実習での学びがより充実したものになるために、実習生としての心得を示した。学生はこの心得を熟読し十分に理解した上で臨床実習に臨むこと。

4-1. 基本的心得

4-1-1. 実習に対する姿勢

臨床実習は、理学療法士という職業の理解を実地経験から深め、知識と技術を学ぶ貴重な機会である。学生は、対象者を通じて理学療法に関わるあらゆることを学ぼうとする姿勢が求められる。

また、臨床実習は、基本的に実習施設の職員ならびに対象者の方々のご好意で成り立っているということを忘れてはならない。学生は、臨床実習中にいくつかの困難に対峙することになるだろうが、それを乗り越えようとする粘り強さと責任ある行動が求められる。

4-1-2. 生活

【規則正しい生活】

臨床実習は、学生にとって慣れない環境下で新しい経験を積むことになる。このため、心身に大きな負担がかかり、体調不良が起きる場合がある。実習中の体調不良を極力避けるために、十分な睡眠時間を確保し、栄養バランスのとれた食事を摂るよう心がけること。

休日は、基本的に自由行動が許されるが、生活リズムを狂わすことなく節度ある余暇を過ごすことが望ましい。心身の休息に休日を充てることも重要な過ごし方である。暴飲暴食や疲労が蓄積するような娯楽は、その後の実習の遂行に影響が出る可能性があるため、控えることを勧める。

ウィークリーマンションなどの宿泊施設に滞在して臨床実習を行う学生は、宿泊施設の規則を厳守すること。家事に慣れていない学生は、一層自己管理に気を付け、心身共に健全な実習期間を過ごせるよう努めること。

4-1-3. 身だしなみ

「服装は名刺代わり」という言葉があるように、服装をはじめとする各種の身だしなみは、接する方への敬意を表す。身だしなみが不適切であると、相手に対し失礼にあたり、不快にさせる可能性がある。接する相手のために身だしなみを整える必要があるということを理解し、清潔感の維持を心掛けること。身なりなどで自己主張したい部分はそれぞれ持っていると思われるが、相手を不快にさせてしまう可能性を考慮して、「個性の発揮は臨床実習以外で行う」ということを認識する必要がある。

自宅と実習施設間の移動時には、臨床実習指導者からの特別な指示がない限り、原則準フォーマル(ネクタイ不使用のスーツ着用)な服を着用すること。また、実習中のユニフォーム・靴ならびに身体の衛生管理についての詳細は下記を参考にすること。

【ユニフォーム・靴】

■ 多くの臨床実習施設では、臨床実習中はユニフォーム(大学指定の KC タイプ)の着用が

求められる。ただし、臨床実習施設で定められているユニフォームまたは服装がある場合はそれに従うこと。また、臨床実習指導者の指示に従い、胸ポケットに大学指定の名札をつけること。

- ユニフォームは、常に清潔なものを着用すること。環境や体調の変化などでユニフォーム以外の衣服(カーディガンなど)の着用を希望する場合は、臨床実習指導者に相談し、許可されたものを着用すること。
- 臨床実習以外で外出する際(昼食を買いに施設外に出かける等)の服装は、臨床実習指導者の指示に従い、適宜着替えたり上着を羽織ったりすること。
- 靴は白を基調としたヒールのあるスニーカーを使用すること。ただし、臨床実習指導者から別に指示があった場合はそれに従うこと。
- 靴下はソックスタイプとし、白を基本として柄のないものを着用すること。
- ハンカチも派手なものは避け、必ず身につけ毎日交換すること。

【アクセサリ、化粧、髪型】

- 臨床実習中のピアス、指輪、ネックレスなどアクセサリの使用は不適切な身だしなみとなる。また、これらの使用は、不衛生となることや対象者を傷つける可能性があるなどの理由から使用を禁止する。
- 腕時計は華美でないものに限り着用を認めるが、個別に臨床実習指導者の許可を得て使用すること。ただし、対象者に接する場合は、時計が対象者の皮膚に当たることによって傷を負わせたり、不快にさせたりする恐れがあるため、腕時計を外すよう配慮すること。
- 化粧品類の使用については、華美とにならないように注意すること(就活時などが参考となる)。華美か否かの判断は臨床実習施設や臨床実習指導者によって異なるため、随時指示に従うこと。また匂いのきつい香料は対象者によっては不快に感じるので使用しないこと。
- 髪型は、見苦しくないようにゴムなどで整え、髪の色は、基本的に地毛の色とする(染色は認めない)。地毛が茶髪、その他の色の場合は、臨床実習指導者会議申し出て臨床実習指導者の対応を確認すること。

【身体衛生】

身体を清潔に保つことは感染症予防の観点から大変重要であり、臨床実習を行う学生は次の事項を守らなければならない。

- 歯、手、爪など身体を清潔に保つこと(マニキュアの使用や爪を手掌側から見える長さまで伸ばすことは禁止)。
- 髭は、剃り残しのないように毎日剃り、相手に不快感を与えないよう心がける。
- 露出している部分に傷などがある場合は、消毒をした上で絆創膏を貼るなど適切な処置をすること。
- 見学中咳やくしゃみが出そうな場合は人のいない方向を向くか、人のいない場所に移動するなどしてハンカチで口を押さえて行うこと。

4-1-4. コミュニケーション

円滑なコミュニケーションによって、良好な関係性を構築することは、学びが深く充実した実習を行う上で最も重要である。コミュニケーションには、先述の身だしなみや態度(表情やしぐさなど)に代表されるノンバーバル(非言語的)コミュニケーションと発言によるバーバル(言語的)コミュニケーションに分かれる。ここでは、バーバルコミュニケーションにおける挨拶、会話、電話のかけ方についての心得を記す。

【挨拶】

挨拶は、コミュニケーションの基本である。挨拶は待つものではなく、相手に先行して行うという意識が必要である。朝職員に会った時、部屋を出入りする時、職員とすれ違った時(2回目以降は会釈だけでも必要)、夕刻実習を終える時など、適時挨拶を取行すること。

対象者からは、学生も施設の一員として見なされることを認識し、対象者やその家族への挨拶を忘れずに行うこと。尚、挨拶は基本的に歩きながら行うものではなく、立ち止まってすることが望ましい。この場合、相手の目を見ながら「おはようございます」等の挨拶をして、その後お辞儀をする。これを「語先後礼」といい、一般的な礼儀である。

【会話】

臨床実習指導者や職員と会話し、言葉のキャッチボールを円滑に行うことは、良好な関係性の構築において重要である。自身の意思や行動の目的を明確に伝えることも必要である。「行動や態度を見れば伝わるだろう」と考えるのではなく、自ら積極的なコミュニケーションを図るべきである。特に他部署に出入りする時(例えば、ナースステーションでの情報収集)は、該当職員に出入りする目的を伝え、承諾を得ることは必須である。具体的には以下のことに気を付けること。

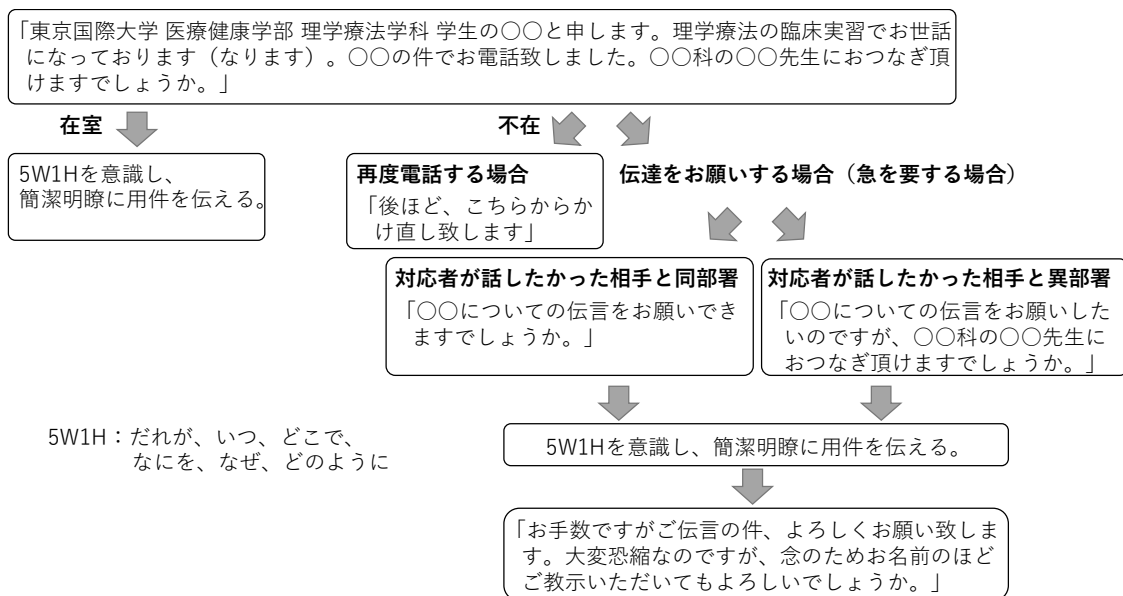
- TPO(時、場所、場合)をわきまえ、敬語を使用して臨床実習施設の職員や対象者と接すること。
- 敬称の使い方は、臨床実習施設ごとで異なるため、臨床実習指導者に確認する。
→例 理学療法士:○○先生 or ○○さん 対象者:○○様 or○○さん
- 主語を明確にし、意図と要点を伝える(5W1H:いつ、だれが、どこで、何を、なぜ、どのように)。
- 早合点して結論を急がない(いったん頭の中で整理する)。
- 他者の会話中や相手が話している途中で割り込みはしない。
- 相手の目を見て、小気味よく返事と相槌をして傾聴する。
- 話された内容が分からないときは、「大変申し訳ありませんが、今の点をもう一度お話しして頂けますか」等、分からなかった旨を伝えて再確認する。

【電話のかけ方(図参照)】

電話では用件を簡潔に話すこと。簡潔に話すことに不安がある場合は、予め何について話すのかを整理し、メモしておくこと。また、筆記用具も用意しておくこと。

先方が電話に出たら、まず名乗り、用件の概要とつないでもらいたい方の部署と氏名を伝える。
 (例)「東京国際大学 医療健康学部 理学療法学科 学生の〇〇と申します。理学療法の臨床実習でお世話になっております(なります)。〇〇の件でお電話致しました。〇〇科の〇〇先生におつなぎ頂けますでしょうか。」

相手が不在の場合は、「後ほど、こちらからかけ直し致します」と意思を伝える。もし、緊急性が高く、伝言をお願いしなければならない場合は、「〇〇についての伝言をお願いできますでしょうか。」と尋ね、伝言をお願いした相手の氏名を把握する。ただし、伝達内容の誤解を避けるため、相手と同じ部署の方に伝えること。また、伝言をお願いした方の氏名を把握しておく、その後の問題が生じにくい。その際は、内容を伝えた後に、「お手数ですがご伝言の件、よろしくお願い致します。大変恐縮なのですが、念のためお名前のほどご教示いただいてもよろしいでしょうか。」と尋ねる。



4-1-5. 自宅と臨床実習施設間の移動

自宅と実習施設間の移動手段は、原則、公共交通機関を利用すること。自家用車等(原動機付自転車、オートバイ含む)の使用は、実習施設への移動が著しく困難な場合等、臨床実習施設及び大学が許可した場合のみ認める。

4-2. 臨床実習の進め方

4-2-1. 実習前

【抗体価の獲得】

入学時の抗体価検査にて、麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、B型肝炎、C型肝炎の抗体価が獲得されていなかった者は、可及的早期にワクチンを接種し、抗体価の獲得に努めること。もし、臨床実習を行う施設の受け入れ規定などにより、これらの抗体価の獲得が実習受け入れの必要条件である場合は、必要なワクチン接種を行い、抗体価の獲得が確認された後、実習を行うこととなる。

インフルエンザについては、流行期前にワクチンを接種し、感染ならびに重症化予防に努め

ること。インフルエンザのワクチン接種については、日本環境感染学会が定める医療関係者のためのワクチンガイドライン第2版において医療系実習生にも強く推奨されているものである。

【学生紹介書】

臨床実習指導者会議にて、臨床実習指導者に挨拶と自己紹介をし、学生紹介書(様式1)を臨床実習指導者に渡す。学生紹介書は、記述例に従い、個々人の特徴が臨床実習指導者に伝わるよう、明快に記述すること。

【実習前セミナー】

実習前のセミナーでは、オリエンテーション、知識と技術の確認、身だしなみチェック、客観的臨床能力試験(OSCE)を行う。OSCEの成績は、臨床実習の単位認定評価の一つであるため、事前に十分な準備をして臨むこと。

【事前学習】

円滑に実習を遂行するために、実習開始までに、代表的な疾患についての知識と基本的な理学療法評価や理学療法介入方法の全般を復習しておくこと。また、臨床実習施設の情報ならびに関わることが予測される対象者に関する疾患について調べ、その理学療法評価や理学療法介入方法に関する知識と技術の確認を行うこと。臨床実習指導者から与えられた事前学習の課題がある場合は、特に綿密に取り組み、万全の体制で臨むこと。

【実習直前の挨拶と確認】

臨床実習開始1週間前の12時～13時(臨床実習指導者会議等で別に指定された場合はそれに従う)に臨床実習指導者に電話をかけ、以下の内容等を確認する。

- 臨床実習初日の集合時間と集合場所
- 持参すべきもの
- 自宅と臨床実習施設の移動中の服装
- 臨床実習中の服装
- 昼食について(社員食堂の使用の可否、近隣での購入の可否など)
- 宿泊施設を利用する場合は、入退きの時期や場所、方法、規則、費用など
- その他、臨床見学に関する疑問点など

4-2-2. 実習中

【時間厳守】

臨床実習施設によってタイムスケジュール(始業・終業時間、休憩時間、掃除やミーティングの時間など)が異なる。学生はそのタイムスケジュールを厳守すること。始業時間については、臨床実習指導者より、「〇時までにユニフォームに着替えて、リハビリテーション室にいること」などの指示があるが、特別な指示(例えば、「早く来ても部屋が開いていないから〇時ちょうどに来るように」など)がない限り、この時間よりおおよそ15分前に到着していることが望ましい。

また、書類等の提出期限も必ず守ること。

【私物の持ち込み】

リハビリテーション室や学習スペース等に持ち込むことができる私物については、予め臨床実習指導者に確認すること。基本的に携帯電話は施設に入る前に電源を切り、更衣室のロッカー等に入れ実習室には持ち込まないこと。化粧品も同様である。

ノートパソコンやタブレット端末も予め確認が必要であるが、仮に使用して良いという場合でも電源の使用についてはその可否を確認しなければならない。勝手に施設の電源を私物に使うことは犯罪に該当する場合もあるので注意すること。

【実習の週間計画】

下表は、各臨床実習における週間計画表である。各臨床実習の到達目標に応じて、実習期間内に経験すべき内容を列挙している。週単位で細かく設定していない理由は、臨床実習施設や臨床実習指導者によって実習の進め方や方針が異なることや、学生の意欲、準備・理解状況、心身状況等によって進捗が異なると予想し、臨機応変に進められるよう配慮したためである。尚、学外実習の前後に行われる学内実習は、合わせて1週間(5日×8時間)行われる。

週数	機能・能力評価学 臨床実習	総合臨床実習Ⅰ	総合臨床実習Ⅱ
1週目	【学内実習】 ■ オリエンテーション ■ 検査・測定について復習 ■ 客観的臨床能力試験	【学内実習】 ■ オリエンテーション ■ 理学療法評価の復習 ■ 客観的臨床能力試験	【学内実習】 ■ オリエンテーション ■ 理学療法介入の復習 ■ 客観的臨床能力試験
2週目	【学外実習】 ■ 情報収集 ■ 検査・測定の実施	【学外実習】 ■ 情報収集 ■ 理学療法評価 ■ 理学療法介入 ■ リスク管理	【学外実習】 ■ 情報収集 ■ 理学療法評価 ■ 理学療法介入 ■ 理学療法再評価 ■ 理学療法介入の効果検証 ■ リスク管理
3週目			
4週目			
5週目			
6週目	【学内実習】 ■ レジユメの作成 ■ 実習報告会	【学内実習】 ■ レジユメの作成 ■ 実習報告会	【学内実習】 ■ レジユメの作成 ■ 実習報告会
7週目			
8週目	【学内実習】 ■ レジユメの作成 ■ 実習報告会	【学内実習】 ■ レジユメの作成 ■ 実習報告会	【学内実習】 ■ レジユメの作成 ■ 実習報告会
9週目			
10週目			

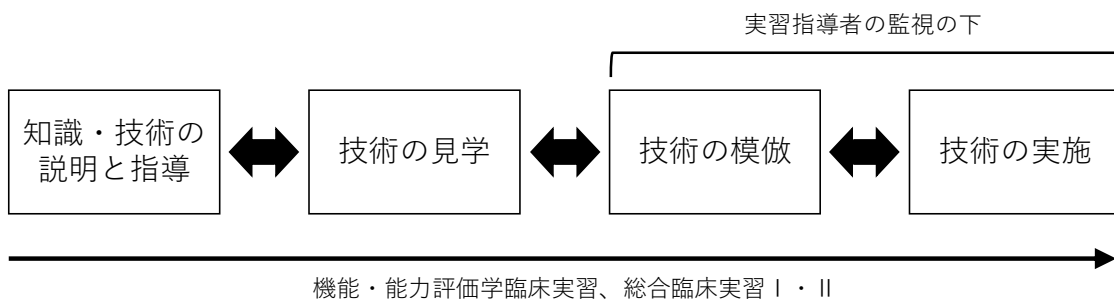
【臨床実習の形態について】

学生は、診療チームの一員として加わり、臨床実習指導者の指導・監督の下で行う診療

参加型(クリニカル・クラークシップ方式)の臨床実習をすることになる。診療参加型の臨床実習とは、「学生が単独で診療に関わるのではなく、診療チームの一員として臨床実習指導者と共に患者の診療に関わりながら、学ぶ臨床実習形態のことである。

具体的な実習の進め方は、以下の通りである。まず、臨床実習指導者から学生に理学療法スキルに関する知識と技術の指導が行われる。それに基づいて、学生は臨床実習指導者の実践を見学して学ぶ。その後、学生は臨床実習指導者の実施の模倣をして経験する。十分な模倣の繰り返しによって学生単独での実施が可能と判断されたら、臨床実習指導者の監視の下で一部実施する(下図参照)。

学生は、多くの理学療法スキルの実施が可能と判断されるように、自己研鑽をすること。



【理学療法技術における学生が経験できる範囲】

上記の診療参加型の臨床実習の手順において、実際に学生が理学療法技術の実施まで可能なものが下表に列挙されている。下表ではこの点を含め、各理学療法技術において、学生が臨床実習で行ってよい範囲が記されている。例えば、喀痰の吸引は見学にとどめておくべき技術であり、たとえ臨床実習指導者の補助であったとしても行うべきでない(当然実施も不可である)。この表は理学療法士協会が公表した指針となるため、**学生はこれに則って臨床実習経験を行うこと。**

表：臨床実習において学生が実施可能な基本技術の水準について
（日本理学療法士協会ホームページより）

項目	【水準Ⅰ】 指導者の直接監視下で学生により実施されるべき項目	【水準Ⅱ】 指導者の補助として実施されるべき項目および状態	【水準Ⅲ】 見学にとどめておくべき項目および状態
教育目標	臨床実習で修得し対象者に実践できる。ただし、対象者の状態としては、全身状態が安定し、学生が行う上でリスクが低い状態であること	模擬患者、もしくは、シミュレーター教育で技術を修得し、指導者の補助として実施または介助できる	模擬患者、もしくは、シミュレーター教育で技術を修得し、医師・看護師・臨床実習指導者の実施を見学する
動作介助（誘導補助）技術	基本動作、移動動作、移送介助、体位変換	急性期やリスクを伴う状態の水準Ⅰの項目	
リスク管理技術	スタンダードプリコーション（感染に対する標準予防策）、症状・病態の観察、バイタルサインの測定、意識レベルの評価、各種モニターの使用（心電図、パルスオキシメータ、筋電図）、褥瘡の予防、転倒予防、酸素吸入療法中の患者の状態観察	創部管理、廃用性症候群予防、酸素ボンベの操作、ドレーン・カテーテル留置中の患者の状態観察、生命維持装置装着中の患者の状態観察、点滴静脈内注射・中心静脈栄養中・経管栄養中の患者の状態観察	
理学療法評価技術（検査・測定技術）	情報収集、診療録記載（学生が行った内容）、臨床推論 問診、視診、触診、聴診、形態測定、感覚検査、反射検査、筋緊張検査、関節可動域検査、筋力検査、協調運動機能検査、高次神経機能検査、脳神経検査、姿勢観察・基本動作能力・移動動作能力・作業工程分析（運動学的分析含む）、バランス検査、日常生活活動評価、手段的日常生活活動評価、疼痛、整形外科的テスト、脳卒中運動機能検査、脊髄損傷の評価、神経・筋疾患の評価（Hoehn & Yahrの重症度分類など）、活動性・運動耐容能検査、各種発達検査	診療録記載（指導者が行った内容） 急性期やリスクを伴う状態の水準Ⅰの項目 生理・運動機能検査の援助：心肺運動負荷試験、12誘導心電図、スパイロメーター、超音波、表面筋電図を用いた検査、動作解析装置、重心動揺	障害像・プログラム・予後の対象者・家族への説明、精神・心理検査
理学療法治療技術	運動療法技術 関節可動域運動、筋力増強運動、全身持久運動、運動学習、バランス練習、基本動作練習、移動動作練習（歩行動作、応用歩行動作、階段昇降、プール練習を含む）、日常生活活動練習、手段的日常生活活動練習	急性期やリスクを伴う状態の水準Ⅰの項目 治療体操、離床練習、発達を促進する手技、排痰法	喀痰吸引、人工呼吸器の操作、生活指導、患者教育
物理療法技術	ホットパック療法、パラフィン療法、アイスバック療法、渦流浴療法（褥瘡・創傷治療を除く）、低出力レーザー、光線療法、EMGバイオフィードバック療法	超音波療法、電気刺激療法（褥瘡・創傷治療、がん治療を除く）、近赤外線療法、紫外線療法、脊椎牽引療法、CPM：持続的他動運動、マッサージ療法、極超短波療法・超短波療法（電磁両立性に留意）、骨髄抑制中の電気刺激療法（TENSなど）	褥瘡・創傷治療に用いて感染のリスクがある場合の治療：水治療法（渦流浴）、電気刺激療法（直流微弱電流、高電圧パルス電気刺激）、近赤外線療法、パルス超音波療法、非温熱パルス電磁波療法、がん治療：がん性疼痛・がん治療有害事象等に対する電気刺激療法（TENS：経皮的電気刺激）
義肢・装具・福祉用具・環境整備技術	義肢・装具（長・短下肢装具、SHBなど）・福祉用具（車いす、歩行補助具、姿勢保持具を含め）の使用と使用方法の指導	リスクを伴う状態の水準Ⅰの項目 義肢・装具（長・短下肢装具、SHBなど）・福祉用具（車椅子、歩行補助具、姿勢保持装具を含め）の調節	義肢・装具・福祉用具の選定、住環境改善指導、家族教育・支援
救命救急処置技術			救急法、気道確保、人工呼吸、閉鎖式心マッサージ、除細動、止血
地域・産業・学校保健技術		介護予防、訪問理学療法、通所・入所リハビリテーション	産業理学療法（腰痛予防など） 学校保健（姿勢指導・発達支援など）

【臨床実習施設訪問】

臨床実習期間中、教員が一回以上臨床実習施設に訪問する。この際、教員は学生と臨床実習の進捗、臨床実習に対する意欲、心身状況等について面談をする。何か問題や悩み

などある時は、その解決方法を思案するため、可能な範囲で共有してもらいたい。

【課題や記録について】

大学として課す課題は、実習ノートの作成に関わった症例の概要票(様式 2~4)である。

実習ノートは、原則、実習を行った日は毎日作成すること。実習ノートに記載する内容は以下の事項とする。臨床実習指導者からの指示がない限り、大学指定のフォーマット(様式 5)を使用すること。

- 症例の障害像
- 経験したこと
- 経験したことの結果と考察
- 受けた指導や助言
- 自身の解釈と疑問点
- 調べて分かったこと

実習ノートは、専門用語を使用し、簡潔かつ論理的な記述ができるよう毎日作成に取り組むこと。可能な限り、臨床実習指導者からフィードバック、助言等を受け、実習ノートの充実化を図るよう常に心がけること。

関わった症例の記録は、対象者の見学、模倣、実施を行った場合、その対象者についての障害像・状態・経過を端的に記述すること。この記述は随時行うことが望ましい。

その他の課題として、実習の進捗、学生の健康状態や意欲等を総合的に判断し、レジюмеや症例レポート(症例報告書)の作成が課されることがある。臨床実習指導者、対象者の見学、模倣、実施を行った場合、その対象者についての障害像・状態・経過を明確に記述すること。この記述は随時行うことが望ましい。

【臨床実習指導者への質問】

臨床実習では、臨床実習指導者からの指導や助言の中から学ぶものが非常に多い。特に対象者の理学療法評価・理学療法技術向上には、指導と助言を受け、自身の意見と照合し検証する作業が重要である。このために、以下の過程を踏むことが望ましい。

- (1)自身の意見とその根拠を伝達し、臨床実習指導者の意見を求める
- (2)臨床実習指導者の意見(指導や助言含む)に傾聴する
- (3)自身と臨床実習指導者の意見の違いを分析する

様々な事柄について、この過程を繰り返す。自身の意見とその根拠を伝達せず、直接(2)の臨床実習指導者の意見を聞き入れては、自身の不足していた点や未熟だった点が明確になり難い。したがって、学生は(1)の自身の意見や考えを持ち、それを臨床実習指導者に伝達する(言語化は考えを整理する)ことが重要となる。また、(3)については、分析した結果を臨床実習指導者に伝えて確認を求めることが望ましい。

【臨床実習時間外での交流の自重】

後述するハラスメントや各種トラブル回避の観点からも、臨床実習期間中に臨床実習施設

職員との外食や飲酒、その他の交流は遠慮すること。

【整理整頓と美化】

臨床実習施設によっては、学生用の机や椅子(または学習スペース)が与えられる場合がある。このような場合でも、前述のように臨床実習と直接関係のない私物(弁当箱、歯ブラシなど)は置かないこと(携帯電話、イヤホン、化粧などはロッカーに置いておくこと)。臨床実習と直接関係する書籍や文献、筆記用具については、常に整理整頓を心がけ、清潔感のあるスペースを維持すること。また、日をまたいだ私物の留置の可否については、随時臨床実習指導者の指示に従うこと。

また、臨床実習の最終日には、掃除や整理を念入りに行い、借用した物全ての美化を図ること。

4-2-3. 実習後

臨床実習を行うことによって得られた課題や疑問点について、自己学習を進めること。例えば、実習ノートを見返したり、臨床実習指導者からの指導や助言を振り返ったりすることなどが挙げられる。その上で、自ら不十分な点を見出し、その克服に向けた取り組みを行うことによって、さらなる成長が期待できる。必要に応じて教員に質問し、意見を受けることは、多角的な視野の獲得につながり、実践的スキルの向上に結びつく。

社会人に必要な儀礼として臨床実習が終わった後は、1週間以内に臨床実習施設の職員に対し礼状を送付すること。文章は実習担当教員あるいはゼミ担当教員の確認を要する。

【提出書類】

提出書類は、臨床実習指導報告書(出欠票(様式 6~8)、関わった症例の概要票(様式 2~4)、評価票[段階評価票(様式 9~11)と記述評価票(様式 12~14)]、施設間連絡票(様式 15~17))、届出書(様式 18)、実習ノート(様式 5)、レジュメや症例レポート(作成した場合)、事故報告書(様式 19)である。記入漏れや署名捺印の漏れが無いように以下のチェックリストを活用すること。

提出書類	提出を要する者	署名捺印		漏れがないことを確認 <input checked="" type="checkbox"/>
		臨床実習指導者	学生	
出欠票	全員	要	不要	<input type="checkbox"/>
関わった症例の概要票	全員	要	不要	<input type="checkbox"/>
段階評価票	全員	要	要	<input type="checkbox"/>
記述評価票	全員	要	要	<input type="checkbox"/>
施設間連絡票	全員	要	要	<input type="checkbox"/>
届出書のコピー	欠席・早退・遅刻・公欠・自宅待機した者	要	要	<input type="checkbox"/>

実習ノート	全員	不要	不要	<input type="checkbox"/>
レジュメや症例レポート	作成者	不要	要	<input type="checkbox"/>
事故報告書のコピー	該当者	要	要	<input type="checkbox"/>

【実習後セミナー】

実習後のセミナーでは、実習の振り返り、関わった症例のまとめ作業（レジュメ作成）、実習報告会を行う。実習報告会では、実習ノートや作成したレジュメ内容に基づいた症例報告と実習で学んだことの成果報告を行う。この実習報告会の内容も単位認定評価に関わるため、入念な資料の作成と発表準備を行うこと。

4-3. 臨床実習の出欠

休日を除き、実習期間中に実習を行わなかった日・時間がある場合（欠席、遅刻、早退、公欠、自宅待機）、どのような理由であっても、以下の手順に従い、大学への連絡と届出書（様式 18）の作成を行うこと。

- (1) 臨床実習指導者に連絡する
 - (2) 大学に電話連絡する
 - (3) 翌日以降できるだけ早く届出書を作成し、臨床実習指導者から署名捺印を頂く
 - (4) 署名捺印を頂いた届出書をコピーした上保管する
 - (5) 届出書の原本を臨床実習施設に提出する
 - (6) 届出書のコピーを臨床実習終了後に大学に提出する
- * 公欠の場合は、公欠届（大学事務指定用紙）も必要となる。

4-3-1. 休日

臨床実習の休日は、可能であれば土日祝としてもらうこと。ただし、臨床実習施設の規定や臨床実習指導者の休日によって、平日を休日とすることも可能である。これについては基本的に予め臨床実習施設への調査書等で確認するが、状況が変わった際などはそれに応じること。いずれの場合でも、週 40 時間（最大 45 時間）の実習時間は確保し、有意義に過ごせるように自身の実習時間を管理すること。

4-3-2. 欠席

臨床実習は、大学の授業と同様に出席することが基本とされており、欠席することを想定していない。ただし、感染症（の疑いがある）の場合は、臨床実習指導者と臨床実習担当教員に連絡した上で病院受診を優先し、医師から指示された出席停止期間を厳守すること。また、受診前に大学に連絡ができなかった場合は、受診後可及的速やかに大学に連絡を入れること。臨床実習の科目においては、公欠等のやむを得ない場合も含めて 1/5 を超えて欠席した場合は、履修したとは認められず単位認定評価の対象とならないことを理解しておくこと。ただし、公欠が主たる理由となり、欠席が 1/5 を超えた場合は、実習の達成度などを考慮して実習期間の延長を含めるなど個別に対応する場合がある。

4-3-3. 遅刻・早退

前述の通り、実習は出席が基本とされている。したがって遅刻や早退も基本的に認められない。ただし、感染症(の疑いがある)の場合は、病院受診を優先すべきであり、医師の指示を守る。臨床実習指導者や臨床実習担当教員への連絡は欠席時の対応と同様とする。**遅刻・早退は3回の累積で1回の欠席とみなす。**

【注意】

総合臨床実習Ⅱでは、実習期間中の就職試験・病院見学は最小限とすることが望ましい。就職試験の日程などから、これらを希望する場合は、事前に(遅くとも1週間前までに)臨床実習担当教員に相談し、臨床実習指導者の承認を得ること。仮にこれらの活動をする場合においても、臨床実習への影響は最小限にとどめるよう努め、可能であれば遅刻や早退という形であっても実習時間を確保すること。

4-3-4. 公欠について

「学校感染症」と「裁判員制度、検察審査会制度」による欠席は、公欠として扱う。学校感染症においては下記表内の疾患にかかった場合、出席停止の基準に従って公欠扱いとなる。

表：東京国際大学 学生ガイドブック【履修編】 47p より引用

種別	疾患名	出席停止の基準
第1種	エボラ出血熱 クリミア・コンゴ出血熱 痘瘡 南米出血熱 ペスト マールブルグ熱 ラッサ熱 ポリオ ジフテリア 重症急性呼吸器症候群(SARSコロナウイルス) 鳥インフルエンザ(H5N1) 新型インフルエンザ等感染症 指定感染症 新感染症	治癒するまで
第2種	インフルエンザ(鳥インフルエンザ(H5N1)を除く)	発症後5日を経過し、かつ、下熱後2日を経過するまで
	百日咳	特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
	麻疹(はしか)	解熱後3日を経過するまで
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	耳下腺、顎下腺、又は舌下腺の腫脹発現後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで
	風疹	発しんが消失するまで
	水痘(水ぼうそう)	すべての発疹が皮化するまで
	咽頭結膜熱(プール熱)	主要症状消退後2日を経過するまで
	結核 髄膜炎菌性髄膜炎	医師が感染のおそれがないと認めるまで 医師が感染のおそれがないと認めるまで
第3種	コレラ 細菌性赤痢 腸管出血性大腸菌感染症 腸シフス パラチフス 流行性角結膜炎 急性出血性結膜炎 【その他の感染症】 ・溶連菌感染症 ・ウイルス性肝炎 ・マイコプラズマ感染症 ・流行性嘔吐下痢症 (感染性胃腸炎) など	医師が感染のおそれがないと認めるまで
	条件によって出席停止となる	

裁判員制度、検察審査会制度によって公欠扱いとなる場合は以下の通りである。

- 裁判員候補者として選任手続きの期日に出頭した場合
- 裁判員、補充裁判員として職務に従事した場合
- 検察審査員、補充員として職務に従事した場合

4-3-5. 出欠表の記載について

出欠表(様式 6~8)は毎日記載すること。記載の仕方は、以下の通りとする。

- 終日出席した日は「○」と記入する。
- 休日(欠席ではない)は「/」と記入する。
- 遅刻した日は「遅」と記入し、備考欄に実習終了時間を記入する。「届出書」を必ず提出すること。
- 早退した日は「早」と記入し、備考欄に実習終了時間を記入する。「届出書」を必ず提出

すること。

- 欠席した日は「欠」と記入する。「届出書」を必ず提出すること。

— 記入例 —

	月日	曜日	出席	備考
第1週目	4/8	月	○	
	4/9	火	公	感染症罹患のため
	4/10	水	○	
	4/11	木	遅	10:00
	4/12	金	○	
	4/13	土	/	
	4/14	日	/	
第2週目	4/15	月	早	15:00
	4/16	火	○	
	4/17	水	○	
	4/18	木	○	
	4/19	金	欠	
	4/20	土	/	
	4/21	日	/	

公欠は「公」と記入

備考欄に理由等を記入

遅刻は「遅」と記入

実習開始時間を記入

早退は「早」と記入

実習終了時間を記入

欠席は「欠」と記入

休日は「/」を記入

4-4. 感染症の予防について

臨床実習では、感染症の対象者と接する頻度が高まるため、学生自身に感染したり、学生を介して対象者への感染(院内感染)が起きたりする危険性がある。学生は、感染予防対策として自己の健康維持を心がけ、手洗いやうがいを日常的に励行するとともに、感染症を予防するために必要な知識・技術を身につけること。

【学生が感染源あるいは感染の媒介者にならないための留意事項】

- 学生自身が少しでも感染症に罹患している可能性があると考えられる場合、早急にマスク装着等感染の可能性を少なくする対応をとった上で、臨床実習指導者への報告と対応の指示を仰ぐこと。その際、特に易感染者との接触は控えること。
- 手指に傷を作らないよう気を付ける。傷がある場合は、原則として血液に接触するような処置は行わないこと。やむを得ず処置を実施する際は、必ず手袋を装着すること。
- 対象者に接する前後には、必ず手洗い、必要に応じて消毒を行うこと。特に、手指などに血液や浸出液などが付着した際は、すぐに流水で洗い流すこと。

- 対象者の健康状態、感染の有無を把握すること。
- 易感染者に接する場合、予防衣の着用やマスクの装着、消毒薬を使用すること。
- 血液や膿汁、分泌物等、感染源となり得る物の取り扱いには十分注意すること。
- 感染源に接触した可能性がある場合は着用後のユニフォームはビニール袋に入れて持ち帰り、ユニフォームのみ単独で塩素系漂白剤を混ぜて洗濯すること。使用後の洗濯機には熱湯をかけること。
- 実習中、風疹・水痘・麻疹・耳下腺炎の感染症に罹患している対象者と接触したときは、臨床実習指導者および実習訪問担当教員に報告すること。
- 感染源(病原体ウイルス・細菌・寄生虫)となる血液、体液、分泌物等に暴露・接触したと判断される場合(感染の危険のある対象者の注射針などを誤って刺す事故なども含む)は、直ちに臨床実習指導者および臨床実習担当教員に報告すること。HBS 抗体陰性の場合、24 時間以内に免疫グロブリン投与を要するのでより一層速やかに届け出ること。また、その判断が不明瞭である場合も、臨床実習指導者と臨床実習担当教員に相談すること。

4-5. 成績評価

臨床実習日程の 4/5 以上に出席することで単位認定の資格を得る。実習の合否判定は事前事後演習を含む課題への取り組みや実習態度を含め以下の 4 項目を専任教員全員が総合的に判断して決定する。

- 臨床実習指導報告書の評価(臨床実習指導者による評価):50%
- OSCE の結果:10%
- 実習ノートの内容:20% (実習地訪問による教員の指導で改善されたなら加点を考慮する)
- 実習報告会の内容:20%

臨床実習指導者による評価は、到達目標を基本とした段階評価と個々の到達目標では表現されない記述評価に分かれる。臨床実習を充実させ、高い達成度を獲得するために、到達目標を熟知の上、何が求められているのかを理解し、懸命に取り組むこと。

4-6. 守秘義務と個人情報保護

4-6-1. 守秘義務

守秘義務は、「理学療法士および作業療法士法第 16 条」および「刑法第 134 条」で定められており、理学療法士だけでなく、臨床実習を行う学生にも生じる義務である。臨床実習中、知りえた対象者の秘密(心身の障がいや病状、その他、他人に知られないことが本人の利益となる事項)について第三者に漏えいしてはならない。移動中など、公共性の高い場所での口外は気のゆるみから起こしやすい守秘義務違反であるため特に注意すること。

4-6-2. 個人情報保護

守秘義務の遵守、プライバシー保護の観点から、個人情報公になることを防がねばなら

ない。具体的には、以下を遵守すること。

- 対象者の氏名、施設名は必ず匿名化し、個人が特定されないようにすること。
- メモ帳やノートは、予め定めた使用場所（例えば、リハビリテーション室、実習生用デスク、病棟等）のみで使用する。また、紛失しないようにノートを入れるポケットの場所を決めたり、保管場所を決めたりして管理を徹底すること。
- ワード、エクセル、パワーポイントなどの電子ファイルを作成する場合は、個人情報特定されてないように、**最初から匿名化**した状態で作成し、万が一外部に漏洩した場合でも、対象者や関係機関にとって不利益が生じないようにすること。
- 対象者に関する情報（匿名化済みの情報）が記載された電子ファイルやそれを扱うパソコン、記録メモリには、安易に特定されないパスワードをかけ、紛失することのないように厳重に管理すること。
- 対象者情報を扱うパソコンは、必ずウイルス対策ソフトがインストールされ、ソフトが起動している状態であること。
- 実習終了後は、最小限の資料の保管にとどめ、それ以外のメモ帳やノートはすべて裁断し破棄すること。
- **実習上知り得た内容については一切外部に漏らさないこと**。これには、ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)での投稿やアップロードも含まれる。ただし、学内のセミナーなど正式な場での情報提供や臨床実習施設の概要などの同輩・後輩への情報提供はこの限りではない。

本学では、臨床実習施設で知り得た個人情報の漏洩を防止することを目的として、学生に個人情報保護に関する誓約書の提出を義務付けている。誓約書の内容に違反し、万が一対象者、臨床実習施設や大学に損害を与えた場合は、その責任の所在は学生自身にあることを誓約書に記載してある。学生は、「個人情報保護に関する誓約書(様式 20、21)」に記載された事項をよく読み、理解した上で、厳守することを誓約し、署名捺印の上で大学に提出すること。

4-7. SNS 使用上の注意

臨床実習に関わる内容は、SNS(Facebook、LINE、Twitter、Instagram など)上でのアップロードやネット上の投稿を一切しないこと。特に、臨床実習施設、臨床実習指導者ならびに対象者に対する誹謗中傷は論外であり、発見した場合、大学学生懲戒判断基準に基づき厳重に処罰されることを理解しておくこと。

4-8. 差別・ハラスメントへの対応

もし、何らかの差別やハラスメント・その他トラブルがあった場合には、大学教員ないしキャンパス・ハラスメント相談窓口(学生課、教務課、学生相談室、保健室、臨床心理センター)に相談することができる(強制ではない)。また、より専門的な対応を求める場合には、以下に直接相談することもできる。いずれにせよ、円滑な臨床実習を行うために、事態が深刻になる前に適切に終息させることを考えることが重要である。

大学内窓口	法人本部人事課 TEL:03-3362-9641 e-mail:jinji@tiu.ac.jp
外部相談窓口	光和総合法律事務所 弁護士 錦戸景一、佐藤敬太 TEL:03-5562-2520 e-mail:nishikid@kohwa.or.jp, sato@kohwa.or.jp

* 相談等は匿名によるものも認めるが、この場合、事実調査等を行わないことがある。また、外部相談窓口が相談等を受けた場合には、人事課に相談等の内容を所定の方法で報告される。

4-9. 事故防止策

理学療法領域にかかわらず、医療現場では対象者に有害事象が発生する可能性がある。理学療法領域で起こりうる有害事象として例えば以下が挙げられる。

- 対象者の転倒
- 理学療法後の疼痛の残存
- 物理療法実施による熱傷
- 関節(特に股関節)の脱臼
- バルーンの抜去
- 対象者や第三者の所有物の破損

通常、医療者は対象者の状態、周囲の状況から考えられる様々な危険を予測し、何らかの有害事象を未然に防ぐよう努めている。このスキルは、理学療法に関わる経験値に依拠する。経験が少ない学生は、自身の行動の結果が予測しづらく、有害事象を発生させてしまう可能性が高いということを認識する必要がある。臨床実習指導者は、学生に関わらせる症例を選定する際、コミュニケーションが取りやすく、有害事象が起きる可能性が比較的低いという条件を考慮するが、それでも常に有害事象発生の可能性があることを念頭に置き、細心の注意を払わなければならない。

4-10. 緊急時の対応について

緊急時の対応は、発生場所の臨床実習施設内および臨床実習施設外に大きく分かれる。緊急時の対応は、以下に従うこととするが、事故報告書(様式 19)記入の必要性は臨床実習指導者の指示に従うこととする。臨床実習施設で所定の事故報告書があり、記入の指示があった場合は、それに従う。いずれの事故報告書を使用した際にも臨床実習施設に受理された後、コピーを取って大学に提出すること。

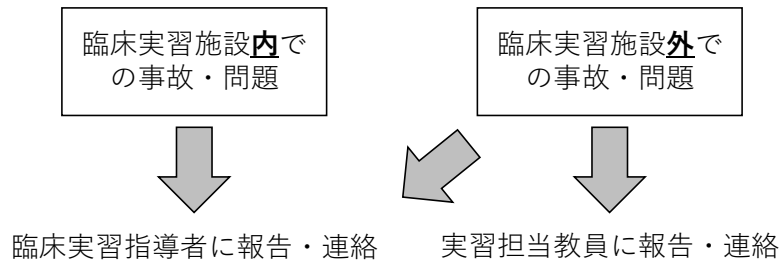
4-10-1. 臨床実習施設内で問題または事故が生じた場合

臨床実習施設内で問題または事故が発生した場合には、早急に臨床実習指導者に状況・経過を伝えること。臨床実習指導者から大学の臨床実習担当教員(連絡が取れない場合、理学療法学科専任教員)に伝達され適切に対応する。何らかの事故が発生した際にも

慌てず冷静に臨床実習指導者の指示に従うこと。

4-10-2. 臨床実習施設外で問題または事故が生じた場合

臨床実習施設外で問題または事故が発生した場合は、実習担当教員持参携帯電話および臨床実習指導者に連絡すること。この際も、状況や経過を正確に伝えること。実習担当教員は、臨床実習指導者と連絡を取り合い、情報と対応方針を共有する。



【東京国際大学 代表・事務連絡先】

代表:049-232-1111
教務課:049-232-1112
学生課:049-232-1114
学生相談室:049-233-2682

【東京国際大学 医療健康学部 理学療法学科 連絡先】

理学療法学科助手室直通:〇〇 (見学時間中にご使用ください)
臨床実習担当教員持参携帯電話:〇〇 (見学時間外にご使用ください)
メールアドレス:〇〇@〇〇 (常時ご使用ください)

- 専任教員 -

実習担当教員

- ・金崎 雅史
- ・二宮 省悟

科目責任者

- ・機能能力評価学臨床実習担当教員:諸角 一記
- ・総合臨床実習Ⅰ担当教員:杉本 諭
- ・総合臨床実習Ⅱ担当教員:二宮 省悟

その他専任教員

猪股 高志、川崎 翼、窪田 智史、芝原 美由紀、志村 圭太、武田 要、
戸島 美智生、山本 大誠、生田 太、一寸木 洋平、米澤 美園

5. 臨床実習指導者へのお願い

学生の自発的な学習を促し、有意義な実習となるよう以下の点に関してご指導・ご配慮をお願い致します。

5-1. 実習の内容について

5-1-1. 実習形態

機能・能力評価学臨床実習、総合臨床実習Ⅰ・Ⅱにおいては、学生が診療チームの一員として加わり、臨床実習指導者の指導・監督の下で行う診療参加型の臨床実習をお願い致します。臨床実習指導者の説明と指導の後に、臨床実習指導者の見学、模倣、実施の段階的手順を踏んで頂くようお願い致します。ただし、この手順は必ずしも一方向性ではなく、不十分な点があったならば、段階を戻って繰り返し指導を行うことが望ましいと考えております(例えば、模倣を行わせてみて、不十分な点が見受けられたなら、再度指導と見学を行う)。また、技術の見学の前には、事前に見学の内容に加え、その目的ならびに目標についての説明をお願い致します。

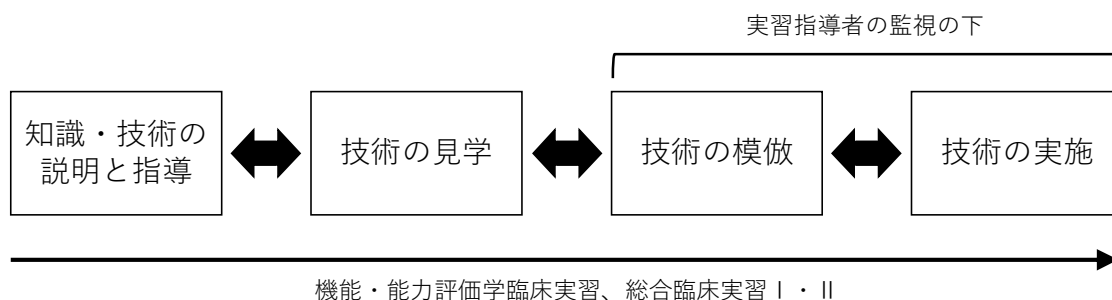


図. 実習形態の概要

-注意-

上記は、次項「5-1-2. 学生が実施可能な技術」において、「指導者の直接監視下で学生により実施されるべき項目」について述べております。それ以外の項目については、次の項をご参照の上、適切な範囲で学生が経験できるようご配慮をお願い致します。

5-1-2. 学生が実施可能な技術

理学療法に関わる各技術において、臨床実習中に学生が行える範囲（見学にとどめておくべき・指導者の補助として実施可能・指導者の監視下で実施可能）については、理学療法士協会が令和元年 10 月に公表した「臨床実習において学生が実施可能な基本技術の水準」に則って下さいようお願い致します（下表：日本理学療法士協会ホームページより）。

項目	【水準Ⅰ】 指導者の直接監視下で学生により実施されるべき項目	【水準Ⅱ】 指導者の補助として実施されるべき項目および状態	【水準Ⅲ】 見学にとどめておくべき項目および状態
教育目標	臨床実習で修得し対象者に実践できる。ただし、対象者の状態としては、全身状態が安定し、学生が行う上でリスクが低い状態であること	模擬患者、もしくは、シミュレーター教育で技術を修得し、指導者の補助として実施または介助できる	模擬患者、もしくは、シミュレーター教育で技術を修得し、医師・看護師・臨床実習指導者の実施を見学する
動作介助（誘導補助）技術	基本動作、移動動作、移送介助、体位変換	急性期やリスクを伴う状態の水準Ⅰの項目	
リスク管理技術	スタンダードプリコーション（感染に対する標準予防策）、症状・病態の観察、バイタルサインの測定、意識レベルの評価、各種モニターの使用（心電図、パルスオキシメータ、筋電図）、褥瘡の予防、転倒予防、酸素吸入療法中の患者の状態観察	創部管理、廃用性症候群予防、酸素ボンベの操作、ドレーン・カテーテル留置中の患者の状態観察、生命維持装置装着中の患者の状態観察、点滴静脈内注射・中心静脈栄養中・経管栄養中の患者の状態観察	
理学療法評価技術（検査・測定技術）	情報収集、診療録記載（学生が行った内容）、臨床推論 問診、視診、触診、聴診、形態測定、感覚検査、反射検査、筋緊張検査、関節可動域検査、筋力検査、協調運動機能検査、高次神経機能検査、脳神経検査、姿勢観察・基本動作能力・移動動作能力・作業工程分析（運動学的分析含む）、バランス検査、日常生活活動評価、手段的日常生活活動評価、疼痛、整形外科的テスト、脳卒中運動機能検査、脊髄損傷の評価、神経・筋疾患の評価（Hoehn & Yahrの重症度分類など）、活動性・運動耐容能検査、各種発達検査	診療録記載（指導者が行った内容） 急性期やリスクを伴う状態の水準Ⅰの項目 生理・運動機能検査の援助：心肺運動負荷試験、12誘導心電図、スパイロメーター、超音波、表面筋電図を用いた検査、動作解析装置、重心動揺	障害像・プログラム・予後の対象者・家族への説明、精神・心理検査
理学療法治療技術	運動療法技術 関節可動域運動、筋力増強運動、全身持久運動、運動学習、バランス練習、基本動作練習、移動動作練習（歩行動作、応用歩行動作、階段昇降、プール練習を含む）、日常生活活動練習、手段的日常生活活動練習	急性期やリスクを伴う状態の水準Ⅰの項目 治療体操、離床練習、発達を促進する手技、排痰法	喀痰吸引、人工呼吸器の操作、生活指導、患者教育
物理療法技術	ホットパック療法、パラフィン療法、アイスバック療法、渦流浴療法（褥瘡・創傷治療を除く）、低出力レーザー、光線療法、EMGバイオフィードバック療法	超音波療法、電気刺激療法（褥瘡・創傷治療、がん治療を除く）、近赤外線療法、紫外線療法、脊椎牽引療法、CPM：持続的他動運動、マッサージ療法、極超短波療法・超短波療法（電磁両立性に留意）、骨髄抑制中の電気刺激療法（TENSなど）	褥瘡・創傷治癒に用いて感染のリスクがある場合の治療：水治療法（渦流浴）、電気刺激療法（直流微弱電流、高電圧パルス電気刺激）、近赤外線療法、パルス超音波療法、非温熱パルス電磁波療法、がん治療：がん性疼痛・がん治療有害事象等に対する電気刺激療法（TENS：経皮的電気刺激）
義肢・装具・福祉用具・環境整備技術	義肢・装具（長・短下肢装具、SHBなど）・福祉用具（車いす、歩行補助具、姿勢保持具を含め）の使用と使用方法の指導	リスクを伴う状態の水準Ⅰの項目 義肢・装具（長・短下肢装具、SHBなど）・福祉用具（車椅子、歩行補助具、姿勢保持装具を含め）の調節	義肢・装具・福祉用具の選定、住環境改善指導、家族教育・支援
救命救急処置技術			救急法、気道確保、人工呼吸、閉鎖式心マッサージ、除細動、止血
地域・産業・学校保健技術		介護予防、訪問理学療法、通所・入所リハビリテーション	産業理学療法（腰痛予防など） 学校保健（姿勢指導・発達支援など）

5-1-3. 学生への課題

大学として学生への課題は、実習を通じて経験したこと、学んだこと、反省点についてまとめる**実習ノート(大学指定のフォーマット:様式 5)と関わった症例の概要票(様式 2~4)**の作成のみとします。日々の経験、疑問や学習したことならびにまとめたことなどを記録し、以降に生かすために有効であると指導しております。記載すべき内容、書き方については、大学内で指導しておりますが、機能・能力評価学臨床実習を行う学生においては実際に書いた経験はなく、総合臨床実習 I を行う学生においても、多くの学生で記述能力が不足していると考えられます。到達目標にも「専門用語を用い、明瞭かつ論理的に記録できること」とありますように、理学療法士は適切な専門用語を使用した記録ができることが求められます。臨床実習指導者のご経験に基づく書き方の工夫や効率化などの要領も含め、ご指導くださいますようお願い致します。その中で、調べなければならない事柄が多々出てくるかと思いますが、その際にはすぐに臨床実習指導者に答えを求めるのではなく、まずは自らその事柄について調べることを促すようご指導をお願い致します。

-注意-

実習時間8時間、週休2日の場合の実習時間以外の学習時間の目安=1日あたり1時間

→1週間あたりの実習時間(1単位)は40時間以内です。ただし、学生の能力や実習施設の方針に応じて1日あたり1時間(1週間あたり5時間)の課題を課すことは可能です。

一方で、本学ではどの実習においても、**症例レポート(症例報告書)の作成を課していません**。実習施設の方針によって作成させることは問題ございませんが、作成に当たっては、学生の実習進捗状況や本人の意欲、心身の状況などの情報を事前に本学教員と共有し、教員を含めた合議の上でお願い致します。またその際は、学生の負担へのご配慮を頂いた上でのご指導をお願い致します。なお、この場合において、たとえ「症例レポートが書けなかった(あるいは完成しなかった)」という状況でも、実習判定に関わる評価には反映されないこととさせて頂きます(到達目標に対応していないためです)。もし、学生が症例レポートの作成を試みたが、指導者はその進捗状況から継続する事や完成させることが困難かもしれないと判断した場合には、無理な継続は中止して頂き、学生が可能な範囲の見学や体験にとどめるといった対応をお願い致します。

その他、本学では、学外での実習内容として**症例の概要(サマリー・レジюме)、症例報告会での発表、文献レビューなどの課題は課していません**。実習施設の方針で学生の能力がさらに高まるとの判断のもとに課題を課す場合には、大学側と協議をした上で、学生の状況や能力に合わせた課題とし、ご指導を下さいますようお願い致します。

大学として臨床実習中に課す課題

- ・実習ノート（大学指定のフォーマット：様式 5）
- ・関わった症例の概要票（様式 2～4）

大学として臨床実習中に課さない課題

- ・症例レポート(症例報告書)
 - ・症例の概要(サマリー・レジюме)
 - ・症例報告会での発表
 - ・文献レビューレポート
- * ただしこれらは、学生の実習進捗状況が良好で、臨床実習指導者が課すことが可能と判断された場合、大学側との協議の上で課すことができる。

5-1-4. オリエンテーションについて

実習開始後、早い段階で下記の事項のご説明をお願い致します。

- 実習施設・理学療法部門・関連部門の概要について
- 一日の業務の流れ(始業・終業時間、昼休み)や規則について
- 実習中の心得と留意事項について
- 守秘義務と個人情報の保護に関しては、臨床実習前に本学教員が学生に対して十分指導致します。その上で、学生と大学間で個人情報保護に関する誓約書(様式 20、21)を提出させますが、実習施設における方針や規定などがある場合は、そちらを学生にご説明下さい。

5-2. 臨床実習指導報告書の作成

臨床実習指導報告書は、「出欠票(様式 6～8)」、「関わった症例の概要票(様式 2～4)」、「実習評価票(様式 9～14)」、「施設間連絡票(様式 15～17)」で構成されています。臨床実習指導者には、実習評価票ならびに施設間連絡票へのご記入をお願い致します。学生には、出欠票と学生が関わった症例の概要票を記入させますので、記入後に内容をご確認頂き、署名捺印をお願い致します(下表参照)。

実習最終日は、すべての書類がそろっていることをご確認いただき、厳封の上、学生に持たせて下さいますようお願い致します。

表. 臨床実習指導報告書の記入者と記入の時一覧

	記入者	記入の時
出席票	学生	毎日
関わった症例の概要票	学生	随時
実習評価票	臨床実習指導者	(中間*)・最終
施設間連絡票	臨床実習指導者	最終

* 実習評価票につきましては、中間評価は必要に応じて(任意で)行って頂きたく存じます。実習の判定にかかわる評価は最終評価のみです。

5-2-1. 出欠票

出欠票は、学生に毎日記入させてください。実習施設で規定している実習時間を基準として、遅刻・早退が生じた場合には、出欠票の備考欄に、実習開始時刻(遅刻の場合)、実習終了時刻(早退の場合)をご記入ください。出席はしているものの、体調不良等の理由により、実習施設内で安静経過観察をした場合には、「出席」欄に○を記載して構いませんが、備考欄にその旨を記載させてください。

臨床実習終了後、出欠票(様式 6~8)および届出書(様式 18)の内容に間違いがないことをご確認の上、署名捺印をお願い致します。

なお、実習期間中の休日の取り方や祝日の取り扱いについては、実習施設の方針に従いますが、基本的にウィークデイの中での実習が望ましいです。また、週 40 時間の実習時間の遵守をお願い致します。ただし、実習時間以外に取り組まなければならない課題等がある場合においても、週 45 時間を超えないようにご配慮くださいますようお願い致します(参考:「5-1-3. 学生への課題」下部の-注意-)。

学生に感染性疾患が疑われる場合、臨床実習指導者は実習再開のために必要であれば診断書を提出させてください。

欠席、遅刻、早退、公欠、自宅待機の場合は、どの様な理由であっても、学生に以下の対応をするようにご指導をお願い致します。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">(1)臨床実習指導者に連絡する(2)大学に電話連絡する(3)翌日以降できるだけ早く届出書を作成し、臨床実習指導者から署名・捺印を頂く(4)署名・捺印を頂いた届出書をコピーした上保管する(5)届出書の原本を臨床実習施設に提出する(6)届出書のコピーを臨床実習終了後に大学に提出する <p>* 公欠の場合は、公欠届(大学事務指定用紙)も必要となる。</p> |
|---|

【公欠について】

「学校感染症」と「裁判員制度、検察審査会制度」による欠席は、公欠として扱います。ただし、これらの場合を含めて、1/5 を超えて欠席した場合は、履修したとは認められず、単位認定評価の対象外となります。もし、公欠が主たる理由となり、欠席日数が出席を要する日の1/5を超えた場合は、実習の達成度などを考慮して実習期間の延長など個別的な対応を考慮したいと考えております。この場合、追加の臨床実習におけるご指導をお願いすることになるかもしれませんが、その際は何卒ご検討くださいますよう、よろしく願い致します。

下表の学校感染症にかかった場合、出席停止の基準に従って公欠扱いとなります。

表：東京国際大学 学生ガイドブック【履修編】 47p より引用

種別	疾患名	出席停止の基準
第1種	エボラ出血熱 クリミア・コンゴ出血熱 痘瘡 南米出血熱 ペスト マールブルグ熱 ラッサ熱 ポリオ ジフテリア 重症急性呼吸器症候群(SARSコロナウイルス) 鳥インフルエンザ(H5N1) 新型インフルエンザ等感染症 指定感染症 新感染症	治癒するまで
第2種	インフルエンザ(鳥インフルエンザ(H5N1)を除く)	発症後5日を経過し、かつ、下熱後2日を経過するまで
	百日咳	特有の咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
	麻疹(はしか)	解熱後3日を経過するまで
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	耳下腺、顎下腺、又は舌下腺の腫脹発現後5日を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで
	風疹	発しんが消失するまで
	水痘(水ぼうそう)	すべての発疹が皮化するまで
	咽頭結膜熱(プール熱)	主要症状消退後2日を経過するまで
	結核 髄膜炎菌性髄膜炎	医師が感染のおそれがないと認めるまで 医師が感染のおそれがないと認めるまで
第3種	コレラ 細菌性赤痢 腸管出血性大腸菌感染症 腸シフス パラチフス 流行性角結膜炎 急性出血性結膜炎 【その他の感染症】 ・溶連菌感染症 ・ウイルス性肝炎 ・マイコプラズマ感染症 ・流行性嘔吐下痢症 (感染性胃腸炎) など	医師が感染のおそれがないと認めるまで
	条件によって出席停止となる	

裁判員制度、検察審査会制度によって公欠扱いとなる場合は以下の通りです。

- 裁判員候補者として選任手続きの期日に出頭した場合
- 裁判員、補充裁判員として職務に従事した場合
- 検察審査員、補充員として職務に従事した場合

* 出席は単位認定の前提条件であるため、出席を要する日数の出席不足の場合(出席を要する日数の 1/5 以上の欠席)は単位判定評価の対象外となり、評価自体の対象となりません。学生の正確な出欠把握が必要となるため、欠席の場合、必ず実習施設および大学に学生が連絡をすることとします。

【出席票の具体的な記入方法】

- 終日出席した日は「○」と記入する。

- 休日(欠席ではない)は「/」と記入する。
- 遅刻した日は「遅」と記入し、備考欄に実習終了時間を記入する。「届出書」の提出が必要。
- 早退した日は「早」と記入し、備考欄に実習終了時間を記入する。「届出書」の提出が必要。
- 欠席した日は「欠」と記入する。「届出書」の提出が必要。

— 記入例 —

	月日	曜日	出席	備考
第1週目	4/8	月	○	
	4/9	火	公	感染症罹患のため
	4/10	水	○	
	4/11	木	遅	10:00
	4/12	金	○	
	4/13	土	/	
	4/14	日	/	
第2週目	4/15	月	早	15:00
	4/16	火	○	
	4/17	水	○	
	4/18	木	○	
	4/19	金	欠	
	4/20	土	/	
	4/21	日	/	

公欠は「公」と記入

備考欄に理由等を記入

遅刻は「遅」と記入

実習開始時間を記入

早退は「早」と記入

実習終了時間を記入

欠席は「欠」と記入

休日は「/」を記入

5-2-2. 関わった症例の概要票

関わった症例の概要票は、学生が症例に関わった際に、その都度学生に記入させ、それをご確認ください。これは、学生自身の振り返り、教員による学生の実習状況の把握に役立つものです。学生の記載内容と実際の体験や情報に矛盾がないかにつきましてもご確認をお願い致します。

5-2-3. 実習評価票

実習評価は、段階評価と記述評価の2種類あります。段階評価は、「技術、知識、記録と報告、適正」における各到達目標に対して、4段階で評価をお願い致します。段階評価は、実習施設の規模や疾患・障害に関わらない、すべての臨床実習に共通した項目を挙げてい

ます。従って、可能な限り全ての項目への評価をお願い致します。評価は下記の【段階評価基準】にしたがってお願い致します。

記述評価は、段階評価では表現が困難な事項について記述をお願い致します。どのようなことでも構いませんので、具体的な内容の記述をお願い致します。

中間評価は必要に応じて(任意で)行って下さいますようお願い致します。尚、実習の評定に関わる評価は最終評価のみとさせていただきます。

臨床実習では、原則として欠席を認めておりません。公欠などやむを得ない場合も含めて1/5を超えて欠席した場合、単位認定評価対象となりませんので、出欠票の正誤をご確認の上、評価をお願い致します。

なお、学生へのフィードバックを行い、残された課題を明示して下さいますよう、よろしくお願い致します。

【段階評価基準】

点数	臨床実習目標への到達度
4	必要最小限の助言・指導を与えた結果、達成した
3	ある程度の助言・指導を与えた結果、達成した
2	繰り返し助言・指導を与えた結果、達成した
1	繰り返し助言・指導を与えた結果、達成しなかった

【重要事項】

ここで「1」がついてもそのまま実習の評価が不合格になるわけではありません。

実習の可否判定は事前事後演習を含む課題への取り組みや、実習態度を含め以下の4項目を専任教員全員が総合的に判断して決定します。

- 臨床実習指導報告書の評価(臨床実習指導者による評価):50%
- OSCEの結果:10%
- 実習ノートの内容:20% (実習地訪問による教員の指導で改善されたなら加点を考慮する)
- 実習報告会の内容:20%

5-2-4. 施設間連絡票

施設間連絡票は、臨床実習を終えた学生の特徴や注意点などを当該実習指導者が客観的に記し、次の実習施設における臨床実習指導者が参考にするためのものです。臨床実習を通じてこそ捉えられた学生の特徴や注意点などを具体的にご記入お願い致します。ご記入に際しまして、学生がより成長するために必要な情報ですので、ネガティブなバイアスにならないよう人材育成の観点からご配慮をお願い致します。

なお、総合臨床実習Ⅱを終えた学生に対する施設間連絡票の記載は不要です。ただし、最終成績判定にて不可となった場合には、改めて記載をお願いすることがありますので、その際にはご協力のほどよろしくお願い致します。

5-2-5. 臨床実習指導報告書の返却について

すべてに記入がされていることをご確認の上、署名捺印をお願い致します。その後、学生が持参した封筒に入れて厳封し、学生にお渡しください。学生が大学に戻った際に提出となります。

5-3. 臨床実習施設からの学生への連絡について

学生紹介書(様式1)で学生の住所、電話番号、メールアドレスの開示をしておりますが、ハラスメント予防策として、天災や事故など緊急時や事務的な連絡以外には使用しないようお願い致します。

また、ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)(Facebook、LINE、Twitter、Instagramなど)を通じての学生との交流(友達機能、コメント機能、ダイレクトメッセージ機能の使用など)は、特に臨床実習期間中はお控え下さいますようお願い致します。

5-4. ハラスメントについて

昨今、ハラスメントへの意識の高まりによって、様々な言動や行動の適正化が求められています。ハラスメントに関する詳細は割愛しますが、臨床実習指導者と学生の良好な関係を維持し、有意義な実習となるよう、各種ハラスメントへのご配慮をよろしくお願い致します。なお、本学には、キャンパス・ハラスメント相談窓口、大学法人本部人事課窓口、弁護士による外部相談窓口が設置されており、差別・ハラスメント防止に努めております。

5-5. 天災等によって実習実施への影響が予想される場合の対応

台風や降雪、その他天災により、実習施設に向かうことや実習の実施が困難になると事前に予想される場合には、学生に対して、当該日前日の実習終了前に「1日休み」、「午前(午後)のみ休み」、「連絡あるまで自宅待機」などの対応を、臨床実習施設側のご判断により直接指示してください。

これらの場合、「朝6時の時点で〇〇地方に大雨警報が発令されている場合」や「〇〇線が運休になっている場合」などの前提条件を設けることが望ましいと考えています。**大学では、この判断は臨床実習施設に一任致します。**また、学生に対しては、臨床実習施設側の指示を仰ぐように指導しています。交通機関の運休等により、臨床実習施設に向かうことが困難な場合も、実習を休んだ場合は欠席として扱って下さい。

臨床実習施設側が、実習当日に「休みとした方がいい」や実習時間中に「早退させた方がいい」と判断した場合も、学生はその判断と指示に従うよう指導していますので、学生に対し明確な指示をお願い致します。

5-6. 急を要する事態の発生時の対応

5-6-1. 臨床実習施設内で問題または事故が生じた場合

臨床実習施設内で問題または事故が発生した場合には、臨床実習担当教員(連絡が取れない場合、理学療法学科専任教員)にご連絡ください。必要に応じて基本的に実習訪問担当の本学専任教員が訪問し一次的に対応致します*。事故報告書の作成に関しましては、

実習施設の書式か本学の書式(様式 19)のいずれかをご使用ください。

* 訪問した教員は臨床実習担当教員と理学療法学科長に報告します。最終的に理学療法学科長が対応に当たります。事案の深刻度に応じて、理学療法学科長は、医療健康学部長及び大学事務に報告します。

5-6-2. 臨床実習施設外で問題または事故が生じた場合

臨床実習施設外で問題または事故が発生した場合は、学生に実習担当教員持参携帯電話および臨床実習指導者に連絡するよう伝えております。学生から連絡を受けた実習担当教員は、臨床実習指導者と連絡を取り合い、情報と対応方針*を共有するよう致します。

* 最終的には理学療法学科長が対応に当たります。

5-6-3. 損害保険について

対象者や第三者に怪我や事故を負わせた場合やそれらの所有物を破損させた場合の補償等に備え、全学生は在学期間中に渡って損害保険への加入(総合保障制度 Will の「Will2」)を義務づけています。学生がこの補償を受けるにあたり、実習施設職員の方々に事象発生時の状況など、詳細な説明や記述が求められることがあります。その際はお手数をおかけ致しますが、何卒ご対応の程よろしくお願い申し上げます。

5-7. その他

-
- 実習期間中、教員による実習施設への訪問を実施致します。学生の実習進捗状況、心身状況、残された課題などについて幅広く伝達をお願い致します。
 - 学生が自主的に学習できる時間、記録する時間ならびに指導者および他の職員とのコミュニケーションの機会・時間を与えてくださいますようお願い致します。
 - 可能な限り、理学療法に関わる多角的な活動に参加できるようにご配慮くださいますようお願い致します。

■ 飲酒をしない、飲酒の会やカラオケ等を好まない学生も多く、それらに関してもハラスメントとして問題となりやすい昨今です。歓迎会や送別会を設けていただく場合のお気持ちには感謝致しますが、基本的に本学の学生には実習時間外の食事や酒席にはお誘いになりませんようにご配慮をお願い致します。

【東京国際大学 代表・事務連絡先】

代表：049-232-1111
教務課：049-232-1112
学生課：049-232-1114
学生相談室：049-233-2682

【東京国際大学 医療健康学部 理学療法学科 連絡先】

理学療法学科助手室直通：〇〇 （見学時間中にご使用ください）
臨床実習担当教員持参携帯電話：〇〇 （見学時間外にご使用ください）
メールアドレス：〇〇@〇〇 （常時ご使用ください）

- 専任教員 -

実習担当教員

- ・金崎 雅史
- ・二宮 省悟

科目責任者

- ・機能能力評価学臨床実習担当教員：諸角 一記
- ・総合臨床実習Ⅰ担当教員：杉本 諭
- ・総合臨床実習Ⅱ担当教員：二宮 省悟

その他専任教員

猪股 高志、川崎 翼、窪田 智史、芝原 美由紀、志村 圭太、武田 要、
戸島 美智生、山本 大誠、生田 太、一寸木 洋平、米澤 美園

学生紹介書

東京国際大学 医療健康学部 理学療法学科 ○年

学籍番号: _____

氏^{ふりがな}名: _____ 男・女

年 齢: _____ 歳

学 歴:

職 歴:

性格・特技:

健康状態:

実習の目標:

写
真

縦 4 cm × 横 3 cm

臨床実習終了時に臨床実習指導報告書とともにご返却くださいますようお願い致します。

関わった症例の概要票（機能・能力評価学臨床実習）

学生が随時記入

疾患名 (障害名)	障害像・状態・経過等

臨床実習指導者氏名

印

関わった症例の概要票（総合臨床実習Ⅰ）

学生が随時記入

疾患名 (障害名)	障害像・状態・経過等

臨床実習指導者氏名

印

関わった症例の概要票（総合臨床実習Ⅱ）

学生が随時記入

疾患名 (障害名)	障害像・状態・経過等

臨床実習指導者氏名

印

実習ノート

対象者の障害像	経験したこと（日付）	経験したことの結果と考察	受けた指導や助言	自身の解釈と疑問点	調べて分かったこと	臨床実習指導者コメント

出欠票（機能・能力評価学臨床実習）

	月日	曜日	出席	備考
第1週目	/	月		
	/	火		
	/	水		
	/	木		
	/	金		
	/	土		
	/	日		
第2週目	/	月		
	/	火		
	/	水		
	/	木		
	/	金		
	/	土		
	/	日		
第3週目	/	月		
	/	火		
	/	水		
	/	木		
	/	金		
	/	土		
	/	日		
第4週目	/	月		
	/	火		
	/	水		
	/	木		
	/	金		
	/	土		
	/	日		

① 出席日数	日
② 欠席日数	日
③ 遅刻日数	日
④ 早退日数	日
⑤ 公欠日数	日
⑥ 所定の休日以外で出席を要しなかった日数	日
⑦ 届出書枚数 →②～⑥の合計	枚

学生が毎日記載し、最終日には
指導者から署名捺印を受けること。

学籍番号: _____ 学生氏名: _____

上記の出欠の通り相違ありません。

臨床実習施設名 _____

臨床実習指導者名 _____

印

出欠票(総合臨床実習 I)

	月日	曜日	出席	備考		月日	曜日	出席	備考
第1週目	/	月			第5週目	/	月		
	/	火				/	火		
	/	水				/	水		
	/	木				/	木		
	/	金				/	金		
	/	土				/	土		
	/	日				/	日		
第2週目	/	月			第6週目	/	月		
	/	火				/	火		
	/	水				/	水		
	/	木				/	木		
	/	金				/	金		
	/	土				/	土		
	/	日				/	日		
第3週目	/	月							
	/	火							
	/	水							
	/	木							
	/	金							
	/	土							
	/	日							
第4週目	/	月							
	/	火							
	/	水							
	/	木							
	/	金							
	/	土							
	/	日							

① 出席日数	日
② 欠席日数	日
③ 遅刻日数	日
④ 早退日数	日
⑤ 公欠日数	日
⑥ 所定の休日以外で出席を要しなかった日数	日
⑦ 届出書枚数 →②~⑥の合計	枚

学生が毎日記載し、最終日には
指導者から署名捺印を受けること。

学籍番号: _____ 学生氏名: _____

上記の出欠の通り相違ありません。

臨床実習施設名 _____

臨床実習指導者名 _____

印 _____

出欠票(総合臨床実習Ⅱ)

	月日	曜日	出席	備考		月日	曜日	出席	備考
第1週目	／	月			第5週目	／	月		
	／	火				／	火		
	／	水				／	水		
	／	木				／	木		
	／	金				／	金		
	／	土				／	土		
	／	日				／	日		
第2週目	／	月			第6週目	／	月		
	／	火				／	火		
	／	水				／	水		
	／	木				／	木		
	／	金				／	金		
	／	土				／	土		
	／	日				／	日		
第3週目	／	月			第7週目	／	月		
	／	火				／	火		
	／	水				／	水		
	／	木				／	木		
	／	金				／	金		
	／	土				／	土		
	／	日				／	日		
第4週目	／	月			第8週目	／	月		
	／	火				／	火		
	／	水				／	水		
	／	木				／	木		
	／	金				／	金		
	／	土				／	土		
	／	日				／	日		

① 出席日数	日
② 欠席日数	日
③ 遅刻日数	日
④ 早退日数	日
⑤ 公欠日数	日
⑥ 所定の休日以外で出席を要しなかった日数	日
⑦ 届出書枚数 →②～⑥の合計	枚

学生が毎日記載し、最終日には指導者から署名捺印を受けること。

学籍番号: _____ 学生氏名: _____

上記の出欠の通り相違ありません。

臨床実習施設名 _____

臨床実習指導者名 _____

印

実習評価票（段階評価：機能・能力評価学臨床実習）

機能・能力評価学臨床実習・段階評価	中間（中週日）評価 （月 日） →評価の実施は任意で す				最終（中週日）評価日 （月 日） →評価の実施は 必須 で す			
	4	3	2	1	4	3	2	1
技術面								
(1)適切に対象者の情報収集ができる(医療面接含む)								
(2)対象者の状態に配慮した上で、指定された検査・測定に関するオリエンテーションを適切に実施し、同意を得られる								
(3)指定された検査・測定のリスクに配慮できる								
(4)指定された検査・測定を対象者の状態に応じて実施できる								
知識面								
(1)情報収集の意味、収集した情報の活用の仕方を理解できる								
(2)指定された検査・測定の方法の意味や結果を理解できる								
(3)指定された検査・測定のリスクについて、その種類、原因および対処方法を理解できる								
記録・報告								
(1)臨床実習中に「経験したこと」について、専門用語を用いて簡潔かつ明瞭に記録できる。								
(2)経験したことにおける「結果と考察」について、専門用語を用い、明瞭かつ論理的に記録できる								
(3)経験したことにおける「臨床実習指導者から受けた指導や助言」、「自身の解釈と疑問点」ならびに「学習したこと」に関して専門用語を用い、簡潔・明瞭に記録できる								
(4)記録した内容について、口頭あるいは文書で報告できる								
適正								
(1)時間的観念を持って責任ある行動をとることができる								
(2)医療人としての身だしなみに配慮をすることができる								
(3)実習施設の規則を守ることができる								
(4)室内の整理整頓ができる								
(5)職員との人間関係を保ち、節度ある言葉を使い、礼儀をつくすことができる								
(6)対象者との信頼関係を作り、節度ある言葉を使い、礼儀をつくすことができる								
(7)対象者あるいは家族へのプライバシーを尊重し守秘義務を遵守できる								
(8)知識・技術に対する向上心・探究心を持ち質問することができる								

令和 年 月 日

臨床実習指導者氏名

印

学生学籍番号

学生氏名

印

実習評価票（段階評価：総合臨床実習Ⅰ）

総合臨床実習Ⅰ・段階評価	中間(2週目)評価 (月 日) →評価の実施は任意で す				最終(4週目)評価 (月 日) →評価の実施は 必須 で す			
	4	3	2	1	4	3	2	1
技術面								
(1)適切な検査・測定評価項目およびその方法が選択できる								
(2)選択した検査・測定に関するオリエンテーションを適切に行うことができる								
(3)選択した検査・測定に関し、リスクに配慮しながら実施できる								
(4)多職種連携によるチーム・アプローチの観点を取り入れ、検査・測定結果から問題点が抽出できる								
(5)個々の問題点の原因について考察できる								
(6)問題点の原因に対する理学療法を一部体験する								
*地域理学療法実習を行った場合								
(1)ケアプランの立案過程を見学する								
(2)対象者の理学療法評価を一部体験する								
(3)対象者を行う理学療法プログラムを一部体験する								
知識面								
(1)適切な検査・測定項目の選択ならびに評価の考え方と手順を理解できる								
(2)選択した検査・測定に関するオリエンテーションの必要性を理解できる								
(3)選択した検査・測定のリスクについて、その種類、原因および対処方法を理解できる								
(4)多職種連携によるチーム・アプローチの意味と重要性について理解できる								
(5)検査・測定結果から問題点の抽出の仕方理解できる								
(6)抽出した問題点を取捨選択の上、整理(階層化や優先順位付け)することができる								
(7)体験する理学療法プログラムに関するリスクならびにその理由と対処方法を理解できる								
*地域理学療法実習を行った場合								
(1)地域包括ケアシステムの仕組みを理解できる								
(2)地域包括ケアシステムにおける理学療法士や他職種の役割を理解できる								
(3)ケアプランの立案過程を理解できる								
(4)対象者を行う理学療法評価と理学療法プログラムの考え方を理解できる								
記録・報告								
(1)臨床実習中に「経験したこと」について、専門用語を用いて簡潔かつ明瞭に記録できる。								
(2)経験したことにおける「結果と考察」について、専門用語を用い、明瞭かつ論理的に記録できる								
(3)経験したことにおける「臨床実習指導者から受けた指導や助言」、「自身の解釈と疑問点」ならびに「学習したこと」に関して専門用語を用い、簡潔・明瞭に記録できる								
(4)記録した内容について、口頭あるいは文書で報告できる								
適正								
(1)時間的観念を持って責任ある行動をとることができる								
(2)医療人としての身だしなみに配慮することができる								
(3)実習施設の規則を守ることができる								
(4)室内の整理整頓ができる								
(5)職員との人間関係を保ち、節度ある言葉を使い、礼儀をつくすることができる								
(6)対象者との信頼関係を作り、節度ある言葉を使い、礼儀をつくすることができる								
(7)対象者あるいは家族へのプライバシーを尊重し守秘義務を遵守できる								
(8)知識・技術に対する向上心・探究心を持ち質問することができる								

令和 年 月 日

臨床実習指導者氏名

印

学生学籍番号

学生氏名

印

実習評価票（段階評価：総合臨床実習Ⅱ）

総合臨床実習Ⅱ・段階評価	中間(4週目)評価 (月 日) →評価の実施は任意で す				最終(8週目)評価 (月 日) →評価の実施は 必須 で す			
	4	3	2	1	4	3	2	1
技術面								
(1)多職種職種連携によるチーム・アプローチの観点を取り入れ、情報収集、検査・測定結果から抽出された問題点の原因を考察できる								
(2)問題点の原因と経過を勘案した目標(短期・中期・長期)が立案できる								
(3)多職種連携やチーム・アプローチの観点を取り入れ、目標達成に向けた理学療法プログラムの実施計画が立てられる								
(4)問題点の原因に対する理学療法プログラム(手技・時間・回数・強度など)が選択でき、その根拠を説明できる								
(5)選択した理学療法プログラムを適切に実施できる								
(6)選択した理学療法プログラムのリスクに対応できる(予防的配慮含む)								
(7)理学療法プログラム実施後の再評価結果について考察(妥当性の検討)ができる								
*地域理学療法実習を行った場合								
(1)ケアプランの立案過程を見学する								
(2)対象者の理学療法評価を一部体験する								
(3)対象者を行う理学療法プログラムを一部体験する								
知識面								
(1)情報収集と検査・測定結果から抽出された問題点の原因を考察するための手順を理解できる								
(2)問題点の原因と経過を勘案した目標(短期・中期・長期)立案の手順と考え方を理解できる								
(4)問題点の原因に対する理学療法プログラムの立案の手順と考え方について理解できる								
(5)問題点の原因に対する理学療法プログラム(手技・時間・回数・強度)を選択した際の根拠と手順を理解できる								
(6)選択した理学療法プログラムに関するリスクについて、その種類、原因および対処方法(予防法含む)を理解できる								
(7)選択した理学療法プログラムに関するオリエンテーションの必要性と手順を理解できる								
(8)理学療法プログラム実施後の再評価の意義と検証作業の意味を理解できる								
*地域理学療法実習を行った場合								
(1)地域包括ケアシステムの仕組みを理解できる								
(2)地域包括ケアシステムにおける理学療法士や他職種の役割を理解できる								
(3)ケアプランの立案過程を理解できる								
(4)対象者を行う理学療法評価と理学療法プログラムの考え方を理解できる								
記録・報告								
(1)臨床実習中に「経験したこと」について、専門用語を用いて簡潔かつ明瞭に記録できる。								
(2)経験したことにおける「結果と考察」について、専門用語を用い、明瞭かつ論理的に記録できる								
(3)経験したことにおける「臨床実習指導者から受けた指導や助言」、「自身の解釈と疑問点」ならびに「学習したこと」に関して専門用語を用い、簡潔・明瞭に記録できる								
(4)記録した内容について、口頭あるいは文書で報告できる								
適正								
(1)時間的観念を持って責任ある行動をとることができる								
(2)医療人としての身だしなみに配慮をすることができる								
(3)実習施設の規則を守ることができる								
(4)室内の整理整頓ができる								
(5)職員との人間関係を保ち、節度ある言葉を使い、礼儀をつくることができる								
(6)対象者との信頼関係を作り、節度ある言葉を使い、礼儀をつくることができる								
(7)対象者あるいは家族へのプライバシーを尊重し守秘義務を遵守できる								
(8)知識・技術に対する向上心・探究心を持ち質問することができる								

令和 年 月 日

臨床実習指導者氏名

学生学籍番号

学生氏名

印

印

実習評価票（記述評価：機能・能力評価学臨床実習）

1. 実習指導者が学生に指導した結果、変化したことや進歩したこと
2. 今後改善すべき課題(具体的に)
3. 総合所見(実習全体を通じ学生の優れている点、劣っている点などについて、印象および助言をお書きください。)

令和 年 月 日

臨床実習指導者氏名

印

学生学籍番号

学生氏名

印

実習評価票（記述評価：総合臨床実習Ⅰ）

1. 実習指導者が学生に指導した結果、変化したことや進歩したこと

2. 今後改善すべき課題(具体的に)

3. 総合所見(実習全体を通じ学生の優れている点、劣っている点などについて、印象および助言をお書きください。)

令和 年 月 日

臨床実習指導者氏名

印

学生学籍番号

学生氏名

印

施設間連絡票（機能・能力評価学臨床実習）

学籍番号 _____

学生氏名 _____ 印

機能・能力評価学臨床実習	コメント欄
--------------	-------

令和 年 月 日

臨床実習指導者氏名

印

施設間連絡票（総合臨床実習 I）

学籍番号 _____

学生氏名 _____ 印

コメント欄

総合
臨床
実習
I

令和 年 月 日

臨床実習指導者氏名

印

施設間連絡票（総合臨床実習Ⅱ）

学籍番号 _____

学生氏名 _____ 印

コメント欄

総合
臨床
実習
Ⅱ

最終の実習であるため、基本的にはこちらへの記載は不要です。

ただし、最終成績判定にて不可となった場合には、あらためまして記載をお願いすることがありますので、その際にはご協力のほどよろしくお願いします。

—

令和 年 月 日

臨床実習指導者氏名

印

届出書

欠席・遅刻・早退・公欠・自宅待機(災害時等)の事態が生じた場合は実習指導者に必ず提出すること。

		届出日	年	月	日
届出者学籍番号:	氏名:	印			
【届出内容について】					
日時:	年	月	日	時	
欠席・遅刻・早退・公欠・自宅待機・その他()					
【経緯・理由 (できるだけ詳細に)】					
【届出内容を証明するもの(コピー可)】					
遅延証明書・診断書・処方箋の写し・その他()					
臨床実習指導者氏名:					印

* 処方箋の内容から罹患した疾病が明らかなものは、診断書の提出を求めない場合がある(例:タミフル、リレンザ)。届出書は、必要に応じてコピーして使用すること。

ここに証明するものを貼付する

事故報告書

年 月 日

東京国際大学 ○○ 殿

東京国際大学 医療健康学部
理学療法学科 年

氏名 印

下記の通り事故がありましたのでご報告致します。

本人の立場： 被害者 ・ 加害者

発生日時：

発生場所：

事故の状況：

事故処理状況：

被害者：住所 電話
氏名 男・女 生年月日
備考

加害者：住所 電話
氏名 男・女 生年月日
備考

臨床実習指導者 印

(臨床実習施設受理 年 月 日 時 分 氏名 印)

病院長(施設長) 殿

個人情報保護に関する誓約書(病院・施設長宛)

この度、私は _____ において、臨床実習を行うにあたり、下記事項を遵守することを誓約します。

1. 臨床実習中に知りえた秘密情報について、臨床実習施設の許可なく、如何なる方法をもって、情報の開示、遺漏もしくは使用しないことを約束致します。
2. 秘密情報については、私はその秘密の形成に関わった場合にあって、当該秘密の帰属が臨床実習施設にあることを了承致します。
3. 秘密情報については、臨床実習を終了した後においても、情報の開示、遺漏もしくは使用しないことを約束致します。
4. 上記に違反して、臨床実習施設の秘密情報を故意または過失により開示し、遺漏もしくは使用した場合、法的な責任を負担するものであることを確認し、これより臨床実習施設が被った損害を賠償致します。

令和 _____ 年 _____ 月 _____ 日

東京国際大学 医療健康学部
理学療法学科

学籍番号

氏名(自署)

東京国際大学学長 殿

個人情報保護に関する誓約書(学長宛)

この度、私は _____ において、臨床実習を行うにあたり、下記事項を遵守することを誓約します。

1. 臨床実習中に知りえた秘密情報について、臨床実習施設の許可なく、如何なる方法をもって、情報の開示、遺漏もしくは使用しないことを約束致します。
2. 秘密情報については、私とその秘密の形成に関わった場合にあって、当該秘密の帰属が臨床実習施設にあることを了承致します。
3. 秘密情報については、臨床実習を終了した後においても、情報の開示、遺漏もしくは使用しないことを約束致します。
4. 上記に違反して、臨床実習施設の秘密情報を故意または過失により開示し、遺漏もしくは使用した場合、法的な責任を負担するものであることを確認し、これより臨床実習施設が被った損害を賠償致します。

令和 _____ 年 _____ 月 _____ 日

東京国際大学 医療健康学部
理学療法学科

学籍番号

氏名(自署)

東京国際大学 医療健康学部 理学療法学科
客観的臨床能力試験（OSCE）の概要

1. 客観的臨床能力試験（OSCE）とは

客観的臨床能力試験（Objective Structured Clinical Examination；以下、OSCE）とは、理学療法学科学生が患者に対する情報収集、検査・測定、理学療法プログラムなどの説明を行う時の技法（コミュニケーション能力・判断力・態度）を模擬患者に対して実施し、客観的な評価を行うものである。

2. OSCE の目的と意義

OSCE は説明や検査、理学療法介入等の臨床能力を客観的に評価するための重要な手段であるが、学生にとっては OSCE そのものへの習熟が必要となる。そのため、2 年次後期配当の理学療法学演習Ⅱにおいては模擬患者演習に引き続き患者との初対面の行動や検査実施についての OSCE を練習の後実施し達成度について評定の一部とする。

各臨床実習前 OSCE では、臨床実習前に理学療法に関連する技能及び態度が各実習で設定している一定の基準に到達しているかを客観的に評価する。この評価結果を元に、臨床実習前に必要な基本的臨床スキルの教育的フィードバックを行い、より質の高い実践力を身につけることを目的とする。尚、この OSCE の結果は各臨床実習の評定の一部として採用する。

3. OSCE 実施場所

OSCE の実施は理学療法実習室 1, 2、および運動療法室を中心に班ごとに仕切りを設けて 7 カ所でおこなわれるが、場所が不足となった場合は解剖・生理学実習室等の実習室ならびに理学療法演習室 1, 2, 3, 4, 5 に車椅子や簡易ベッドなど必要機材を持ち込んだ上で行う。

4. 講義科目外の OSCE スケジュールと実施手順

2 年次後期 1 月末からの「機能・能力評価学臨床実習」、3 年次後期 10 月末からの「総合臨床実習Ⅰ」4 年次 5 月からの「総合臨床実習Ⅱ」の前に行われる学内実習の中で 3 日間程度を要して行う予定である。

手順としては、各実習前の学内実習期間の 1 日目に OSCE 実施についてのオリエンテーションの後各自練習を行わせる。2 日目に班ごとに午前・午後に分けて実施するが、はじめに課題の提示を 5 分間行い準備させたのち 10 分程度 OSCE を行う。その後各試験官による口頭試問ならびにフィードバックを 10 分程度行う。

実施は理学療法学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲと同じメンバーの 7 班（各 12 人程度）に分けそれぞれ 2 名の担当教員が対応するが、1 名は患者役を行いもう 1 名が評価表を用いた

到達度評価、フィードバックならびにタイムキーパーを行う。尚、患者役の教員も到達度について意見を述べた上で合議のうえ達成度評価ならびにフィードバックを行う。尚、総合臨床実習Ⅰ・Ⅱの場合は実習開始前の1週間は通常の授業期間であるため、2人の教員が揃わないことが想定される。この場合、患者体験による学習効果を含め試験順から離れた学生が患者役を行うが、この際には自身も含めた評価に影響がないこととし、感想等を求められることもあることをオリエンテーションで伝える。

一人につきフィードバック含め所要時間約25分であるので、入れ替えの時間と休憩時間を含め12人の学生で約6時間を必要とするが、全学生がOSCEを終えた時点で班ごとに教員による総括を行う。特に達成度が低い学生に対しては待ち時間での自主練習の他に総括後個別指導を行いリベンジ（再試験）に備えさせる。試験後の別日に合格水準に達していない学生に対するリベンジを同様の方式で行う。

尚、再度のOSCEならびにその後の指導にもかかわらず技術的な面で到達度に達成していない学生についてはその旨を臨床実習指導者に伝えた上で臨床実習に参加させるが、指導方法は大学側と協議の上決めることとする。

5. 臨床実習前のOSCE内容と試験課題

本学科におけるOSCE内容と試験課題は以下の通りとする。

5.1. 機能・能力評価学臨床実習

下記、全実習共通項目であるレベル1, 2の内容を含んだ課題について模擬患者を設定した上で実施する。主にコミュニケーション技法、移乗介助方法、安全管理、検査技術の正確性をチェックする。

<レベル1>

標準予防策（スタンダードプレコーション）リスク管理、コミュニケーション技法、ホットパック実施の補助、上肢管理（三角筋の装着介助）、下肢管理（下肢装具の装着介助）、車椅子の駆動介助、移乗介助

<レベル2>

療法士面接・面接所見からの高次脳機能障害の推測、バイタルサインの測定（脈拍、血圧）、呼吸パターンと動脈血酸素飽和度の評価、関節可動域測定、筋力測定、形態測定、整形外科疾患別検査、筋の触診、感覚検査、反射検査（腱反射・病的反射）、脳神経検査、脳卒中の麻痺側運動機能の評価、構音障害のスクリーニング、摂食嚥下障害のスクリーニング、運動失調検査、立位バランスの評価、下肢装具・歩行補助具の調整

5.2. 総合臨床実習Ⅰおよび総合臨床実習Ⅱ

上記レベル1, 2を含む各種疾患や障害を想定した模擬患者に対する適切な検査・

測定評価項目に関しその方法の選択、選択内容のオリエンテーションと実施、抽出された個々の問題点に対する原因の考察までを行わせる。

5.3. 総合臨床実習Ⅱ

総合臨床実習Ⅰで行われる OSCE 内容に加えて抽出された個々の問題点に対する理学療法プログラムの実施と考察を行わせる。

臨床実習科目担当の各専任教員の授業時間割

教員名:猪股 高志

前期

	月	火	水	木	金
1 限目	理学療法学概論				
2 限目					運動生理学
3 限目			基礎理学療法学 演習 I		
4 限目			理学療法学演習 I		
5 限目			理学療法学演習 III		

後期

	月	火	水	木	金
1 限目	基礎理学療法学		Q1:理学療法学特 論	心身機能発達学	
2 限目					
3 限目	Q1:チーム医療論		基礎理学療法学 演習 II		
4 限目	Q1:チーム医療論		理学療法学演習 II		
5 限目			総合理学療法学		

臨床実習科目

- ・機能・能力評価学臨床実習: 授業期間外 1 月から 2 月頃まで実施
- ・総合臨床実習 I: 授業期間中 10 月から 12 月頃まで実施
- ・総合臨床実習 II: 授業期間中 5 月から 7 月頃まで実施

その他の科目

- ・理学療法学研究法(後期集中講義オムニバス方式における 1 回/全 15 回を担当する。)
- ・理学療法学研究実践法(通年科目、全 30 回の実験・実習を担当する。)

※Q1: 各学期の前半で終了することを示す。

※Q2: 各学期の後半で終了することを示す。

臨床実習科目担当の各専任教員の授業時間割

教員名: 芝原 美由紀

前期

	月	火	水	木	金
1 限目					
2 限目					
3 限目			基礎理学療法学 演習 I		小児理学療法学
4 限目			理学療法学演習 I		
5 限目			理学療法学演習 III		

後期

	月	火	水	木	金
1 限目			Q1:理学療法学特 論	心身機能発達学	義肢装具学
2 限目					義肢装具学演習
3 限目			基礎理学療法学 演習 II		
4 限目			理学療法学演習 II	生体観察と触診 法	
5 限目			総合理学療法学		

臨床実習科目

- ・機能・能力評価学臨床実習: 授業期間外 1 月から 2 月頃まで実施
- ・総合臨床実習 I: 授業期間中 10 月から 12 月頃まで実施
- ・総合臨床実習 II: 授業期間中 5 月から 7 月頃まで実施

その他の科目

- ・理学療法学研究法(後期集中講義 オムニバス方式における 1 回/全 15 回を担当する。)
- ・理学療法学研究実践法(通年科目、全 30 回の実験・実習を担当する。)

※Q1: 各学期の前半で終了することを示す。

※Q2: 各学期の後半で終了することを示す。

臨床実習科目担当の各専任教員の授業時間割

教員名: 山本 大誠

前期

	月	火	水	木	金
1 限目					
2 限目					
3 限目			基礎理学療法学 演習 I		
4 限目		Q1:リハビリテー ション概論	理学療法学演習 I	機能・能力評価学 実習 II	
5 限目			理学療法学演習 III		

後期

	月	火	水	木	金
1 限目					
2 限目					
3 限目			基礎理学療法学 演習 II		
4 限目		予防理学療法学 各論	理学療法学演習 II		
5 限目					

臨床実習科目

- ・機能・能力評価学臨床実習: 授業期間外 1 月から 2 月頃まで実施
- ・総合臨床実習 I: 授業期間中 10 月から 12 月頃まで実施
- ・総合臨床実習 II: 授業期間中 5 月から 7 月頃まで実施

その他の科目

- ・理学療法学研究法(後期集中講義オムニバス方式における 1 回/全 15 回を担当する。)
- ・理学療法学研究実践法(通年科目、全 30 回の実験・実習を担当する。)

※Q1: 各学期の前半で終了することを示す。

※Q2: 各学期の後半で終了することを示す。

臨床実習科目担当の各専任教員の授業時間割

教員名: 諸角 一記

前期

	月	火	水	木	金
1 限目	理学療法学概論		理学療法文献講 読	運動学実習	
2 限目				運動学実習	
3 限目			基礎理学療法学 演習 I		
4 限目			理学療法学演習 I		
5 限目			理学療法学演習 III		

後期

	月	火	水	木	金
1 限目			Q1:理学療法学特 論		
2 限目					義肢装具学演習
3 限目			基礎理学療法学 演習 II		物理療法学
4 限目			理学療法学演習 II		物理療法学実習
5 限目			総合理学療法学		

臨床実習科目

- ・機能・能力評価学臨床実習: 授業期間外 1 月から 2 月頃まで実施
- ・総合臨床実習 I: 授業期間中 10 月から 12 月頃まで実施
- ・総合臨床実習 II: 授業期間中 5 月から 7 月頃まで実施

その他の科目

- ・理学療法学研究法(後期集中講義オムニバス方式における 1 回/全 15 回を担当する。)
- ・理学療法学研究実践法(通年科目、全 30 回の実験・実習を担当する。)

※Q1: 各学期の前半で終了することを示す。

※Q2: 各学期の後半で終了することを示す。

臨床実習科目担当の各専任教員の授業時間割

教員名:杉本 諭

前期

	月	火	水	木	金
1 限目	理学療法学概論		疾病予防と健康増進		
2 限目					
3 限目			基礎理学療法学演習 I	機能・能力評価学 II	
4 限目			理学療法学演習 I	機能・能力評価学実習 II	
5 限目			理学療法学演習 III		

後期

	月	火	水	木	金
1 限目		臨床理学療法論	Q1:理学療法学特論		
2 限目					
3 限目		神経理学療法学 I	基礎理学療法学演習 II		
4 限目		神経理学療法学実習 I	理学療法学演習 II		
5 限目			総合理学療法学		

臨床実習科目

- ・機能・能力評価学臨床実習: 授業期間外 1 月から 2 月頃まで実施
- ・総合臨床実習 I: 授業期間中 10 月から 12 月頃まで実施
- ・総合臨床実習 II: 授業期間中 5 月から 7 月頃まで実施

その他の科目

- ・理学療法学研究法(後期集中講義オムニバス方式における 1 回/全 15 回を担当する。)
- ・理学療法学研究実践法(通年科目、全 30 回の実験・実習を担当する。)

※Q1: 各学期の前半で終了することを示す。

※Q2: 各学期の後半で終了することを示す。

臨床実習科目担当の各専任教員の授業時間割

教員名: 武田 要

前期

	月	火	水	木	金
1 限目	理学療法学概論				
2 限目					
3 限目			基礎理学療法学 演習 I		
4 限目			理学療法学演習 I		
5 限目					

後期

	月	火	水	木	金
1 限目					
2 限目		機能・能力評価 学 I	ウィメンズヘル ス・メンズヘルス 理学療法		
3 限目		機能・能力評価 学実習 I	基礎理学療法学 演習 II		
4 限目					
5 限目			総合理学療法学	臨床運動分析学 演習	

臨床実習科目

- ・機能・能力評価学臨床実習: 授業期間外 1 月から 2 月頃まで実施
- ・総合臨床実習 I: 授業期間中 10 月から 12 月頃まで実施
- ・総合臨床実習 II: 授業期間中 5 月から 7 月頃まで実施

その他の科目

- ・理学療法学研究法(後期集中講義オムニバス方式における 1 回/全 15 回を担当する。)
- ・理学療法学研究実践法(通年科目、全 30 回の実験・実習を担当する。)

※Q1: 各学期の前半で終了することを示す。

※Q2: 各学期の後半で終了することを示す。

臨床実習科目担当の各専任教員の授業時間割

教員名: 二宮 省悟

前期

	月	火	水	木	金
1 限目	理学療法学概論				
2 限目				神経理学療法学 実習Ⅱ	
3 限目	運動療法学実習		基礎理学療法学 演習Ⅰ		
4 限目			理学療法学演習 Ⅰ		
5 限目			理学療法学演習 Ⅲ		

後期

	月	火	水	木	金
1 限目	Q1:クリニカル・リー ズニング総論 Q2:理学療法リスク マネジメント演習			Q1:クリニカル・リー ズニング総論	
2 限目	Q1:クリニカル・リー ズニング総論 Q2:理学療法リスク マネジメント演習			Q1:クリニカル・リー ズニング総論	
3 限目			基礎理学療法学 演習Ⅱ		
4 限目		クリニカル・リーズ ニング各論	理学療法学演習 Ⅱ		
5 限目			総合理学療法学		

臨床実習科目

- ・機能・能力評価学臨床実習: 授業期間外 1 月から 2 月頃まで実施
- ・総合臨床実習Ⅰ: 授業期間中 10 月から 12 月頃まで実施
- ・総合臨床実習Ⅱ: 授業期間中 5 月から 7 月頃まで実施

その他の科目

- ・理学療法学研究法(後期集中講義オムニバス方式における 1 回/全 15 回を担当する。)
- ・理学療法学研究実践法(通年科目、全 30 回の実験・実習を担当する。)

※Q1: 各学期の前半で終了することを示す。

※Q2: 各学期の後半で終了することを示す。

臨床実習科目担当の各専任教員の授業時間割

教員名: 戸島 美智生

前期

	月	火	水	木	金
1 限目	理学療法学概論		スポーツ理学療 法学	運動学実習	
2 限目				運動学実習	運動生理学
3 限目	運動療法学実習		基礎理学療法学 演習 I		
4 限目			理学療法学演習 I		
5 限目			理学療法学演習 III		

後期

	月	火	水	木	金
1 限目		スポーツレーニ ング特論			
2 限目					
3 限目			基礎理学療法学 演習 II	運動療法学	
4 限目					
5 限目			総合理学療法学		

臨床実習科目

- ・機能・能力評価学臨床実習: 授業期間外 1 月から 2 月頃まで実施
- ・総合臨床実習 I: 授業期間中 10 月から 12 月頃まで実施
- ・総合臨床実習 II: 授業期間中 5 月から 7 月頃まで実施

その他の科目

- ・理学療法学研究法(後期集中講義 オムニバス方式における 1 回/全 15 回を担当する。)
- ・理学療法学研究実践法(通年科目、全 30 回の実験・実習を担当する。)

※Q1: 各学期の前半で終了することを示す。

※Q2: 各学期の後半で終了することを示す。

臨床実習科目担当の各専任教員の授業時間割 教員名:川崎 翼

前期

	月	火	水	木	金
1 限目	理学療法学概論			神経理学療法学 Ⅱ	
2 限目			予防理学療法学 総論	神経理学療法学 実習Ⅱ	
3 限目			基礎理学療法学 演習Ⅰ		
4 限目			理学療法学演習 Ⅰ		
5 限目			理学療法学演習 Ⅲ		

後期

	月	火	水	木	金
1 限目	Q1:介護予防評価 演習		Q1:理学療法学特 論	Q1:介護予防評価 演習	
2 限目	Q1:介護予防評価 演習			Q1:介護予防評価 演習	
3 限目			基礎理学療法学 演習Ⅱ		
4 限目		神経理学療法学 実習Ⅰ	理学療法学演習 Ⅱ		
5 限目			総合理学療法学		

臨床実習科目

- ・機能・能力評価学臨床実習: 授業期間外 1月から2月頃まで実施
- ・総合臨床実習Ⅰ: 授業期間中 10月から12月頃まで実施
- ・総合臨床実習Ⅱ: 授業期間中 5月から7月頃まで実施

その他の科目

- ・理学療法学研究法(後期集中講義 オムニバス方式における1回/全15回を担当する。)
- ・疼痛理学療法学(後期集中講義 全15回を担当する。)
- ・理学療法学研究実践法(通年科目、全30回の実験・実習を担当する。)

※Q1: 各学期の前半で終了することを示す。

※Q2: 各学期の後半で終了することを示す。

臨床実習科目担当の各専任教員の授業時間割

教員名: 金崎 雅史

前期

	月	火	水	木	金
1 限目	理学療法学概論				
2 限目		内部機能理学療 法学 I			
3 限目		内部機能理学療 法学実習 A クラス	基礎理学療法学 演習 I		
4 限目		内部機能理学療 法学実習 B クラス	理学療法学演習 I		
5 限目			理学療法学演習 III		

後期

	月	火	水	木	金
1 限目					
2 限目					
3 限目			基礎理学療法学 演習 II		解剖学実習 II
4 限目					解剖学実習 II
5 限目			総合理学療法学		

臨床実習科目

- ・機能・能力評価学臨床実習: 授業期間外 1 月から 2 月頃まで実施
- ・総合臨床実習 I: 授業期間中 10 月から 12 月頃まで実施
- ・総合臨床実習 II: 授業期間中 5 月から 7 月頃まで実施

その他の科目

- ・理学療法学研究法(後期集中講義 オムニバス方式における 1 回/全 15 回を担当する。)
- ・理学療法学研究実践法(通年科目、全 30 回の実験・実習を担当する。)

※Q1: 各学期の前半で終了することを示す。

※Q2: 各学期の後半で終了することを示す。

臨床実習科目担当の各専任教員の授業時間割

教員名: 志村 圭太

前期

	月	火	水	木	金
1 限目	理学療法学概論	運動解剖学			
2 限目					
3 限目	運動器理学療法学実習Ⅱ		基礎理学療法学演習Ⅰ		
4 限目			理学療法学演習Ⅰ		
5 限目			理学療法学演習Ⅲ		

後期

	月	火	水	木	金
1 限目					
2 限目					
3 限目			基礎理学療法学演習Ⅱ		
4 限目	運動器理学療法学実習Ⅰ	障がい者スポーツ支援論	理学療法学演習Ⅱ	生体観察と触診法	
5 限目			総合理学療法学		

臨床実習科目

- ・機能・能力評価学臨床実習: 授業期間外 1 月から 2 月頃まで実施
- ・総合臨床実習Ⅰ: 授業期間中 10 月から 12 月頃まで実施
- ・総合臨床実習Ⅱ: 授業期間中 5 月から 7 月頃まで実施

その他の科目

- ・理学療法学研究法(後期集中講義 オムニバス方式における 1 回/全 15 回を担当する。)
- ・理学療法臨床英語(後期集中講義 全 15 回を担当する。)
- ・理学療法学研究実践法(通年科目、全 30 回の実験・実習を担当する。)

※Q1: 各学期の前半で終了することを示す。

※Q2: 各学期の後半で終了することを示す。

臨床実習科目担当の各専任教員の授業時間割

教員名:一寸木 洋平

前期

	月	火	水	木	金
1 限目				運動学実習	
2 限目				運動学実習	
3 限目			基礎理学療法学 演習 I		解剖学実習 I
4 限目			理学療法学演習 I		解剖学実習 I
5 限目			理学療法学演習 III		

後期

	月	火	水	木	金
1 限目			Q1:理学療法学特 論		運動学
2 限目					
3 限目			基礎理学療法学 演習 II		
4 限目			理学療法学演習 II		物理療法学実習
5 限目			総合理学療法学		

臨床実習科目

- ・機能・能力評価学臨床実習: 授業期間外 1 月から 2 月頃まで実施
- ・総合臨床実習 I: 授業期間中 10 月から 12 月頃まで実施
- ・総合臨床実習 II: 授業期間中 5 月から 7 月頃まで実施

その他の科目

- ・理学療法学研究法(後期集中講義 オムニバス方式における 11 回/全 15 回を担当する。)
- ・生理学実習(後期集中講義 2 クラス×全 15 回を担当する。)
- ・理学療法学研究実践法(通年科目、全 30 回の実験・実習を担当する。)

※Q1: 各学期の前半で終了することを示す。

※Q2: 各学期の後半で終了することを示す。

臨床実習科目担当の各専任教員の授業時間割

教員名:窪田 智史

前期

	月	火	水	木	金
1 限目	理学療法学概論				
2 限目	運動器理学療法学Ⅱ				
3 限目	運動器理学療法学実習Ⅱ		基礎理学療法学演習Ⅰ		
4 限目			理学療法学演習Ⅰ		
5 限目			理学療法学演習Ⅲ		

後期

	月	火	水	木	金
1 限目	Q1:スポーツ理学療法学演習		Q1:理学療法学特論	Q1:スポーツ理学療法学演習	
2 限目	Q1:スポーツ理学療法学演習			Q1:スポーツ理学療法学演習	
3 限目	運動器理学療法学Ⅰ	機能・能力評価学実習Ⅰ	基礎理学療法学演習Ⅱ		
4 限目	運動器理学療法学実習Ⅰ		理学療法学演習Ⅱ		
5 限目			総合理学療法学		

臨床実習科目

- ・機能・能力評価学臨床実習: 授業期間外 1 月から 2 月頃まで実施
- ・総合臨床実習Ⅰ: 授業期間中 10 月から 12 月頃まで実施
- ・総合臨床実習Ⅱ: 授業期間中 5 月から 7 月頃まで実施

その他の科目

- ・理学療法学研究法(後期集中講義 オムニバス方式における 1 回/全 15 回を担当する。)
- ・理学療法学研究実践法(通年科目、全 30 回の実験・実習を担当する。)

※Q1: 各学期の前半で終了することを示す。

※Q2: 各学期の後半で終了することを示す。

【10月修正】

臨床実習科目担当の各専任教員の授業時間割 教員名:米澤 美園

前期

	月	火	水	木	金
1 限目				運動学実習	地域理学療法学
2 限目				運動学実習	
3 限目			基礎理学療法学 演習 I		
4 限目			理学療法学演習 I		
5 限目			理学療法学演習 III		

後期

	月	火	水	木	金
1 限目	Q1:介護予防評価 演習		Q1:理学療法学特 論	Q1:介護予防評価 演習	
2 限目	Q1:介護予防評価 演習			Q1:介護予防評価 演習	
3 限目	基礎統計学		基礎理学療法学 演習 II		
4 限目			理学療法学演習 II	日常生活活動理 学療法学実習	
5 限目			総合理学療法学		

臨床実習科目

- ・機能・能力評価学臨床実習: 授業期間外 1 月から 2 月頃まで実施
- ・総合臨床実習 I: 授業期間中 10 月から 12 月頃まで実施
- ・総合臨床実習 II: 授業期間中 5 月から 7 月頃まで実施

その他の科目

- ・理学療法学研究法(後期集中講義 オムニバス方式における 1 回/全 15 回を担当する。)
- ・理学療法学研究実践法(通年科目、全 30 回の実験・実習を担当する。)

※Q1: 各学期の前半で終了することを示す。

※Q2: 各学期の後半で終了することを示す。

臨床実習科目担当の各専任教員の授業時間割

教員名:

前期

	月	火	水	木	金
1 限目					
2 限目					
3 限目			基礎理学療法学 演習 I		
4 限目			理学療法学演習 I		
5 限目			理学療法学演習 III		

後期

	月	火	水	木	金
1 限目			理学療法管理学		
2 限目					
3 限目			基礎理学療法学 演習 II		
4 限目			理学療法学演習 II		
5 限目					

臨床実習科目

- ・機能・能力評価学臨床実習: 授業期間外 1 月から 2 月頃まで実施
- ・総合臨床実習 I: 授業期間中 10 月から 12 月頃まで実施
- ・総合臨床実習 II: 授業期間中 5 月から 7 月頃まで実施

その他の科目

- ・理学療法学研究法(後期集中講義オムニバス方式における 1 回/全 15 回を担当する。)
- ・理学療法学研究実践法(通年科目、全 30 回の実験・実習を担当する。)

※Q1: 各学期の前半で終了することを示す。

※Q2: 各学期の後半で終了することを示す。

臨床実習科目担当の各専任教員の授業時間割

教員名: 生田 太

前期

	月	火	水	木	金
1 限目					
2 限目					
3 限目	運動器理学療法 学実習Ⅱ		基礎理学療法学 演習Ⅰ		
4 限目			理学療法学演習 Ⅰ		
5 限目			理学療法学演習 Ⅲ		

後期

	月	火	水	木	金
1 限目					
2 限目					
3 限目			基礎理学療法学 演習Ⅱ		
4 限目	運動器理学療法 学実習Ⅰ		理学療法学演習 Ⅱ	生体観察と触診 法	
5 限目					

臨床実習科目

- ・機能・能力評価学臨床実習: 授業期間外 1 月から 2 月頃まで実施
- ・総合臨床実習Ⅰ: 授業期間中 10 月から 12 月頃まで実施
- ・総合臨床実習Ⅱ: 授業期間中 5 月から 7 月頃まで実施

その他の科目

- ・理学療法学研究法(後期集中講義オムニバス方式における 1 回/全 15 回を担当する。)
- ・理学療法学研究実践法(通年科目、全 30 回の実験・実習を担当する。)

※Q1: 各学期の前半で終了することを示す。

※Q2: 各学期の後半で終了することを示す。

東京国際大学教授会設置規程

2017年5月25日 制定

(設置及び目的)

第1条 東京国際大学学則第51条及び東京国際大学大学院学則第46条に基づき、東京国際大学及び東京国際大学大学院に次の教授会を置く。

(1) 機能別教授会

- ・ 就学管理委員会
- ・ カリキュラム編成委員会
- ・ グローバル化推進委員会
- ・ FD委員会
- ・ CD委員会
- ・ 全学人事委員会
- ・ イングリッシュ・トラック・プログラム運営機構
- ・ 言語教育機構
- ・ スポーツ医科学機構

機能別教授会は、学部横断的に全学的見地から学長及び大学執行部の業務執行を補佐することを目的とし、各項目について学長に意見を具申する。

なお、機能別教授会の新設又は廃止は、理事会の議を経て理事長が決する。

(2) 組織別教授会

- ・ 学部教授会
- ・ 研究科委員会

組織別教授会は、大学各学部及び大学院各研究科に置く。

組織別教授会は、大学各学部及び大学院各研究科固有の教育研究に関する重要事項について、学長等の求めに応じ、意見を具申することができる。

(改廃)

第2条 この規程の改廃は、理事会の議を経て、理事長がこれを行う。

附 則

この改正規程は、2017年5月25日から施行する。

○東京国際大学機能別教授会規程

2017年5月25日 制定

最近改正 2019年10月24日

(目的)

第1条 この規程は東京国際大学教授会設置規程に基づき、機能別教授会の組織及び運営について定めることを目的とする。

(意見具申)

第2条 次の機能別教授会（以下「各教授会」という。）は、次の項目について学長に意見を具申する。

- ・ 就学管理委員会
～学生の入学，卒業，課程の修了，学位の授与及び懲戒に関する事項
- ・ カリキュラム編成委員会
～カリキュラム編成に関する事項
- ・ グローバル化推進委員会
～グローバル化推進に資する諸施策の企画立案に関する事項
- ・ FD委員会
～教員の能力開発に関する事項，論叢紀要編集，自己点検・評価を含む
- ・ CD委員会
～学生の進路指導・支援に関する事項
- ・ 全学人事委員会
～教員の人事に関する事項（国際戦略研究所所属教員を除く）
- ・ 国際戦略研究所人事委員会
～国際戦略研究所所属教員の人事に関する事項
- ・ イングリッシュ・トラック・プログラム運営機構
～イングリッシュ・トラック・プログラムの運営に関する事項
- ・ 言語教育機構
～学生の言語運用能力向上に関する事項
- ・ スポーツ医科学機構
～理学療法学科設置準備に関する事項

(委員の任命，解任)

第3条 各教授会の委員は，教職員他の中から常務会の議を経て理事長が任命，解任する。

(委員長及び副委員長)

第4条 各教授会に委員長を置き，必要に応じ，委員長を補佐する副委員長を置く。

- 2 委員長及び副委員長は，各委員会の委員の中から，常務会の議を経て理事長が任ずる。

(招集)

第5条 各委員会は委員長が招集し、その議長となる。

2 委員長に事故あるときは、副委員長が代行する。副委員長に事故あるとき又は副委員長を置かない委員会にあつては、委員長の指名した者が議長となる。

(任期)

第6条 各委員会の委員の任期は、1年とする。なお、第3条において特定の職に在職することを以て委員に選任された場合、当該職を退いたときには委員を退任するものとする。

(改廃)

第7条 この規程の改廃は、理事会の議を経て、理事長がこれを行う。

附 則

この規程は、2017年5月25日から施行する。

附 則

この改正規程は、2019年11月1日から施行する。

○東京国際大学学部教授会規程

昭和 62 年 4 月 1 日 制定

最近改正 2017 年 5 月 25 日

(目的)

第 1 条 この規程は東京国際大学教授会設置規程に基づき、各学部教授会の組織及び運営について定めることを目的とする。

(構成員)

第 2 条 学部教授会は、教授、准教授、専任講師及び助教をもって構成する。

(意見具申)

第 3 条 学部教授会は、教育研究に関する事項について、学長等の求めに応じ、意見を具申することができる。

(招集)

第 4 条 学部教授会は、学部長がこれを招集し、その議長となる。

2 学部長に事故があるときは、その指名する学部教授会構成員に代理させることができる。

3 学部長は、学長又は学部教授会構成員の 3 分の 1 以上の者から請求があったときは、学部教授会を招集しなければならない。

(非構成員の出席)

第 5 条 学部教授会は、議事運営上の必要に応じて構成員以外の者の出席を求めることができる。

(議事録)

第 6 条 学部教授会に記録係を置き議事録を作成する。議事録は、議長が署名捺印し、担当事務室に保管する。

(改廃)

第7条 この規程の改廃は、理事会の議を経て、理事長がこれを行う。

附 則

この規程は、昭和62年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成4年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成7年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成8年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年12月7日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年5月28日から施行する。

附 則

この改正規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この改正規程は、平成 27 年 5 月 27 日から施行する。

附 則

この改正規程は、2017 年 5 月 25 日から施行する。

○東京国際大学自己点検・評価規程

平成 13 年 4 月 1 日 制定

最近改正 平成 27 年 6 月 5 日

(目的)

第 1 条 この規程は、東京国際大学学則第 1 条の 2 第 2 項及び東京国際大学大学院学則第 1 条の 2 第 2 項の規定に基づき、自己点検・評価の実施について定める。

(組織及び構成)

第 2 条 本学における自己点検・評価活動を統括するために、FD 委員会の中に全学自己点検・評価実施部会（以下「全学部会」という。）を置く。

2 別表 1 に定める学部その他の組織（以下「各組織」という。）ごとの自己点検・評価を実施するための学部等自己点検・評価実施部会（以下「学部等実施部会」という。）を置く。

3 前二項に定める部会の構成員については、別に定める。

(任務)

第 3 条 全学部会の任務は次のとおりとする。

- (1) 点検・評価実施の企画・運営
- (2) 点検・評価の基本方針の決定
- (3) 点検・評価項目及び評価基準の設定
- (4) 点検・評価結果の検証
- (5) 点検・評価報告書の編集・作成
- (6) 認証評価及び第三者評価に関わる事項
- (7) その他基本事項の決定

第4条 学部等実施部会は、全学部の指示により次に掲げる業務を行う。

- (1) 当該各組織に係る自己点検・評価に関する資料収集，調査研究及び啓蒙活動
- (2) 当該各組織に係る自己点検・評価の実施計画の策定
- (3) 当該各組織に係る自己点検・評価の実施及びその報告書の作成

2 学部等実施部会は、前項第3号の報告書を全学部に提出するものとする。

(任期)

第5条 全学部会及び学部等実施部会の構成員の任期は1年とする。但し、再任は妨げない。

2 部会の構成員が欠けた場合における欠員補充による構成員の任期は、前任者の残任期間とする。

(結果の公表)

第6条 点検・評価の結果の公表は、理事会の議を経て学長がこれを行う。

(結果の活用)

第7条 学長は、点検・評価の結果を受けてこれを理事長に報告し、教育研究及び管理運営の改善に努めるものとする。

2 各学部，各研究科，各種委員会及び事務局は、点検・評価の結果を受け、教育研究及び管理運営の水準向上に努めるものとする。

(改廃)

第8条 この規程の改廃は、常務会の議を経て、理事長が行う。

(施行細則)

第9条 自己点検・評価の施行についての細則は、別に定める。

附 則

この規程は、平成12年10月1日に遡及して施行するものとする。

附 則

この改正規程は、平成 27 年 4 月 1 日に遡及して施行するものとする。

別表 1 【学部等】

商学部

経済学部

国際関係学部

人間社会学部

言語コミュニケーション学部

イングリッシュ・トラック・プログラム

【大学院】

商学研究科

経済学研究科

国際関係学研究科

臨床心理学研究科

【研究所・委員会等】

図書館

国際交流研究所

就学管理委員会

グローバル化推進委員会

CD 委員会

FD 委員会

全学人事委員会

カリキュラム編成委員会

【事務局】

○東京国際大学自己点検・評価規程施行細則

平成 13 年 4 月 1 日 制定

最近改正 平成 27 年 6 月 5 日

第 1 条 この細則は、東京国際大学自己点検・評価規程第 2 条第 2 項及び第 8 条に基づき、自己点検・評価の実施に関する部会の構成員及び必要な事項について定める。

第 2 条 全学自己点検・評価実施部会（以下「全学部会」という。）は、次に掲げる者をもって構成する。

- (1) 部会長 学長
- (2) 副部会長(実務統括責任者) FD 委員長
- (3) 副学長
- (4) 学部長
- (5) E トラック運営機構委員長
- (6) 大学院研究科長
- (7) 大学事務局長
- (8) 法人本部事務局長
- (9) その他部会長が指名する者

第 3 条 学部等自己点検・評価実施部会は、次に掲げる者をもって構成する。

- (1) 当該各組織の長
- (2) 当該各組織の選出する者 若干名

2 部会長は前項第 1 号の構成員がこれにあたる。

第 4 条 全学部会は、必要に応じて作業部会を設けることができる。

附 則

この細則は、平成 12 年 10 月 1 日に遡及して施行するものとする。

附 則

この細則は、平成 16 年 10 月 1 日から施行する。

附 則

この細則は、平成 17 年 12 月 12 日から施行する。

附 則

この細則は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この改正細則は、平成 27 年 4 月 1 日に遡及して施行するものとする。

○東京国際大学特別研究助成規程

平成 13 年 4 月 1 日

最近改正 2017 年 9 月 29 日

(目的)

第 1 条 本規程は、東京国際大学(以下「本学」という。)における、科学研究費(以下「科研費」という。)の申請・採択の増加を図り、専任教員の学術研究を推進するため、東京国際大学特別研究助成制度に関する必要な事項を定めることを目的とする。

(助成対象・助成限度額)

第 2 条 助成対象は、科研費に申請したが不採択となった研究課題とする。ただし、同一人が個人又は研究代表者として同一年度内に複数の研究課題を申請することはできない。

2 助成限度額は、当該研究課題の科研費研究種目及び科研費審査結果に応じ、別表に定める。

(申請の要件)

第 3 条 特別研究助成費(以下「助成費」という。)の申請は本学専任教員に限られる。ただし、助成費の交付を受けようとする者(複数教員による共同研究の場合は研究代表者。以下同様。)が、次の各号の一に該当する場合は、助成費交付の申請をすることができない。

- (1) 当該年度の国内研修員
- (2) 当該年度の海外研修員
- (3) 申請年度末日現在の年齢が満 65 歳以上となる者
- (4) 研究代表者又は研究分担者として過去に助成費を受け、研究成果を公表していない者。但し、第 12 条に定める研究成果の公表期限後 3 年を経過した者を除く。
- (5) 翌年度の科研費に申請する予定のない者

(6) 過去5年間に何らの研究業績のない者

(申請手続)

第4条 助成費の交付を受けようとする者は、科研費の採択結果の発表以降速やかに、別に定める「研究計画書」によって、学部所属者は学部長経由、その他の者は直接学長に申請しなければならない。

2 前項において、同一学部から複数の「研究計画書」が申請された場合には、当該学部長は、提出された申請書に順位を付して学長に提出しなければならない。

(研究期間)

第5条 研究期間は、一研究課題につき一年以内(当該年度末日まで)とする。

(交付決定及び通知)

第6条 助成費の交付の可否は、第4条の申請に基づき、FD委員会の意見を徴し、学長が決定する。

2 学長は、前項の決定がなされたとき速やかに、学部所属者は学部長経由、その他の者は直接申請者宛に文書で通知する。

(助成費の用途等)

第7条 助成費は、研究計画書に基づき、研究の遂行上必要な次の費用にあてることができる。

(1) 機械・器具費

(2) 図書費

(3) 印刷・製本費

(4) 消耗品費

(5) 旅費交通費

(6) 謝金

(7) その他

(帳簿備付けの義務)

第8条 助成費の交付を受けた者は、「購入物件登録台帳」及び「収支簿」を備え、物品購入及び金銭出納の経過を記録しなければならない。

(購入物件の帰属及び管理)

第9条 助成費により購入した物件の帰属及び管理は、本学の定めるところによる。

(辞退及び計画変更等)

第10条 次の各号の一に該当する事由が生じる場合は、別に定める「研究計画変更願」又は「研究計画辞退・中止願」を速やかに、学部所属者は学部長経由、その他の者は直接学長に提出し、学長の許可を受けなければならない。

(1) 止むを得ない事由により交付を辞退する場合(交付決定通知日から七日以内)

(2) 疾病その他の事由により研究の継続が困難となり中止される場合

(3) 研究計画書に記してある研究方法を変更する場合

(4) 研究分担者を変更する場合(なお、研究代表者は変更することができない。)

(5) 研究助成費目の額を大幅に変更する場合

2 学長は、前項の許可を行うにあたり、FD委員会の意見を徴するものとする。

(研究報告等)

第11条 助成費の交付を受けた者は、別に定める「研究終了報告書」及び「収支決算報告書」によって、研究期間の終了後一カ月以内に学部所属者は学部長経由、その他の者は直接学長に報告しなければならない。

(研究成果の刊行義務)

第12条 助成費の交付を受けた者は、その研究成果を研究期間終了後1年以内又は退職時のいずれか早い時期に書籍、学術雑誌等により公表し、その刊行物又は論文別刷り等

を一部、学部所属者は学部長経由、その他の者は直接学長に提出しなければならない。ただし、研究ノートは研究成果と認めない。

- 2 前項による研究成果を公表する場合には、この助成費を受けた旨を明示しなければならない。
- 3 第1項により公表した研究成果に係る刊行物等を学長に提出する際は、当該研究成果物が真正なオリジナルであり「剽窃」等をしていないことを、本学が別途指定する検査方法により検査した上で、検査結果を示すエビデンスを添付しなければならない。

(助成費の返還)

第13条 次の各号の一に該当する場合、学長は助成費の全額又はその一部の返還を命ずることができ、助成費の交付を受けた者はこれに応じなければならない。

- (1) 研究を中止した場合
- (2) 第11条で規定された報告を行わなかった場合
- (3) 第12条で規定された公表を行わなかった場合
- (4) 翌年度に科研費を申請しなかった場合

(事務所管)

第14条 この特別研究助成に関する事務は、学務部教育研究支援課で行う。

(改廃)

第15条 この規程の改廃は、常務会の議を経て、理事長が行う。

附 則

この規程は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

この規程の改正施行とともに、東京国際大学特別研究助成規程施行細則を廃止する。

附 則

この改正規程は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 26 年 10 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 26 年 12 月 5 日から施行する。

附 則

この改正規程は、平成 28 年 6 月 24 日から施行する。

附 則

この改正規程は、2016 年 10 月 14 日から施行する。但し、第 12 条第 1 項に定める研究成果公表の期限は、この改正規程の施行日前に交付が決定されている特別研究助成についてはこれを適用せず、従前の例によるものとする。

附 則

この改正規程は、2017 年 9 月 29 日から施行する。

別表

科学研究費助成事業研究種目	東京国際大学特別研究助成	
	不採択 A	不採択 B
特別推進研究	末尾記載の通り*	
新学術領域研究		
基盤研究(S)	200万円	150万円
基盤研究(A)		
基盤研究(B)	150万円	110万円
基盤研究(C)	60万円	40万円
挑戦的研究(開拓)	150万円	110万円
挑戦的研究(萌芽)	60万円	40万円
若手研究	60万円	40万円
研究活動スタート支援	30万円	20万円

*特別推進研究，新学術領域研究に係る助成限度額については，対象となる個々の研究案件の科研費申請金額を勘案し，都度決定する。この場合，「不採択 B」の助成限度額は「不採択 A」の概ね 70%を目途とする。

○東京国際大学教員国内研修員取扱規程

平成8年4月1日 制定

最近改正 2016年10月14日

(目的)

第1条 東京国際大学(以下「本学」という。)が教育及び研究水準の向上と本学の発展充実のために、学術の研究・調査を目的として、国内の大学・研究所・その他これに準ずる公共施設等に専任教員(以下「国内研修員」という。)を派遣する場合は、この規程の定めるところによる。

(種類と期間)

第2条 この規程による国内研修は、次の通りとする。

A号 派遣期間が1カ年のもの

B号 派遣期間が6カ月のもの

2 派遣期間は、原則として学年暦に合わせるものとし、各年度の4月1日～翌年3月31日の間とする。ただし、授業・カリキュラムの都合上有利な場合には、9月1日～翌年8月31日の間とすることができる。

(資格)

第3条 国内研修員として派遣できる者は、派遣年度の前年度末日現在で、本学の専任在職年数と年齢が次の通りの者とする。

A号 勤続5カ年以上、満60歳以下

B号 勤続5カ年以上、満65歳以下

2 前項の資格については、本規程の施行に伴い、所定の経過措置を設けるものとする。

(手続き)

第4条 国内研修A号・B号を希望する者は、派遣年度の前々年度に決定し公表される当該前々年度内の所定の期日までに、所定の国内研修申請・計画書を所属学部長の承認を経て学長に提出しなければならない。但し、学部に所属しない者は学長承認とする。

(候補者の選考)

第5条 全学人事委員会は、第4条の国内研修申請・計画書の提出があった場合、学部所属者は学部長と協議の上、その他の者は学長と協議の上、国内研修員候補者を推薦するものとする。

(国内研修員候補者選考基準)

第6条 国内研修員候補者は、次の選考基準に基づき選考するものとする。

- (1) 本学の専任教員として、第3条の条項に合致する者であること。
- (2) 派遣期間中の講義の補講その他の措置ができること。
- (3) 第4条の国内研修申請・計画書の提出日において、前回の研修(海外研修を含む。)成果の公表(専門雑誌への論文の公表等)が行われた年度末から5年以上を経過していること。
- (4) 国内研修に耐えうる十分な健康を有すること。
- (5) 研究能力及び教育能力が優れていて、かつその意欲が旺盛であること。
- (6) 本規程及び東京国際大学海外研修員取扱規程に基づく国内研修員、海外研修員としての派遣が通算1回以下であること。ただし、授業開講期間外の短期間の派遣はこの限りでない。

(国内研修員の決定)

第7条 国内研修員は、学部所属者は学部長の承認を経て、その他の者は学長の承認を経て、全学人事委員会から推薦された国内研修員候補者の中から、常務会の議を経て理事長が決定するものとする。

(研修旅費)

第8条 国内研修員には、別途に定める研修旅費を支給する。

(勤務に関する取扱)

第9条 国内研修員は派遣期間も休職としない。

(給与等)

第10条

(1) 国内研修員に対しては派遣期間中、給料及び賞与の全額を支給する。期間中の給与の改定及び定期昇給等はこれを行う。

(2) 派遣期間が1年の場合、個人研究費は支給しない。派遣期間が6カ月の場合は個人研究費を半額支給する。期間中の個人研究費の改定等はこれを行う。

(兼職の禁止)

第11条 国内研修員は、派遣期間中、兼職してはならない。ただし、やむを得ない事由があり予め理事長の許可を得た場合は、この限りでない。

2 前項の理事長許可を得ようとする国内研修員は、学部所属者は学部長経由、その他の者は直接学長宛てにその旨を申し出るものとする。

3 学長は、当該兼職申出につき全学人事委員会の議を経てその可否につき理事長に意見を具申するものとし、理事長がこれを決する。

(報告)

第12条 国内研修員は、所定の形式により、次の書類を所属学部長を経て学長に提出しなければならない。

イ 研修開始届(研修開始日が決定したとき)

ロ 研修報告書(研修終了後1週間以内)

2 前項に定める書類の提出は、所属学部長経由これを行うものとする。但し、学部に所属しない者による提出は、直接学長宛てとする。

(義務)

第13条 国内研修員は、研修終了後1年以内に、書籍、学術雑誌への掲載等により研修成果を公表し、その刊行物又は論文別刷り等を一部、学部所属する者は所属学部長を経て、その他の者は直接、学長に提出しなければならない。この場合、研究ノートは研修成果と認めない。なお、期間内に所定の発表がなされない場合、当該国内研修員に、研修に関して法人が負担した費用等の返還を求めることがある。

2 前項による研修成果の公表に際しては、当該研修成果が国内研修員制度に基づく本学の助成を受けてなされた研修によるものである旨を、明示しなければならない。

3 第1項により公表した研修成果に係る刊行物等を学長に提出する際は、当該研修成果物が真正なオリジナルであり「剽窃」等をしていないことを、本学が別途指定する検査方法により検査した上で、検査結果を示すエビデンスを添付しなければならない。

(計画の変更)

第14条 国内研修員は、研究調査等の都合又は病気その他の事由により、研修期間の変更等研究計画に変更を望むときは、理事長の許可を得なければならない。

2 理事長許可に係る手続については、第11条第2項及び第3項を準用する。なお、この場合、中間報告書の提出を求めることがある。

(研修の取消)

第15条 国内研修員が病気その他の事由により、研修が不能又は困難の旨の申し出があった場合は、全学人事委員会の意見を徴し、理事長が国内研修を取り消すことがある。

(研修旅費の返還等)

第16条 国内研修員が研修終了後、3年以内に退職する場合、又は第14条の計画変更、第15条の研修の取消があった場合は、第8条により支給した研修旅費の全部又は一部の返還を命ずることがある。

(改廃権限)

第17条 この規程の改廃は、常務会の議を経て理事長が行う。

附 則

(施行期日)

1 この規程は、平成 8 年 4 月 1 日より施行する。

(経過措置)

2 第 3 条に関し、次の経過措置を設ける。

(1) この規程の施行年度末日で勤続 15 年以上の者には、年齢制限を適用しないものとする。ただし、この措置は平成 11 年度末日までとする。

(2) 平成 6 年度現在本学専任教員で、国際関係学部、人間社会学部に移籍した者は、当該学部の完成年次(平成 10 年度)までの年数は年齢に加算しないものとする。

附 則

この規程は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

1 この規程は、平成 23 年 4 月 1 日から改正施行する。

2 改正規程の施行日前に派遣が決定した者に対しても、第 10 条の改正規定を適用する。

附 則

(施行期日)

1 この規程は、平成 24 年 4 月 1 日より施行する。

2 国内研修員資格の年齢制限については、第 3 条に定める年齢時において学長、副学長、学長補佐、学部長、学部長補佐、学科長、研究科長の職にあったことにより研修機会を見送られた者に対しては、研修成果の提出義務期限及び定年年齢を考慮し、申請の年齢制限を A 号については満 63 歳以下、B 号については満 66 歳以下に延長するものとする。

附 則

(施行期日)

1 この規程は、平成 25 年 9 月 6 日より施行する。

附 則

この規程は、平成 26 年 5 月 28 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 26 年 8 月 8 日から施行する。

附 則

この改正規程は、平成 27 年 6 月 12 日から施行する。

附 則

この改正規程は、平成 28 年 6 月 24 日から施行する。

附 則

この改正規程は、2016 年 10 月 14 日から施行する。但し、第 13 条第 1 項に定める研修成果公表の期限は、この改正規程の施行日前に派遣が決定されている国内研修員についてはこれを適用せず、従前の例によるものとする。

○東京国際大学教員海外研修員取扱規程

昭和 62 年 4 月 1 日 制定

最近改正 2019 年 7 月 1 日

(目的)

第 1 条 東京国際大学(以下「本学」という。)が教育及び研究水準の向上と本学の発展
充実のために、学術の研究・調査を目的として、海外の大学・研究所・その他これに準
ずる公共施設等に専任教員(以下「海外研修員」という。)を派遣する場合は、この規
程の定めるところによる。

(種類と期間)

第 2 条 この規程による海外研修は、次の通りとする。

A 号 派遣期間が 1 カ年のもの

B 号 派遣期間が 2 週間以上 6 カ月以内のもの

S 号 派遣期間が 1 カ年以内のもので、わが国又は外国の政府・大学・国公立の研究
所・その他これに準ずる公共機関若しくは諸資金から給費を受けるものをいう。

2 派遣期間は、原則として学年暦に合わせるものとし、各年度の 4 月 1 日～翌年 3 月 31
日の間とする。ただし、授業・カリキュラムの都合上有利な場合には、9 月 1 日～翌年
8 月 31 日の間とすることができる。

(資格)

第 3 条 海外研修員として派遣できる者は、派遣年度の前年度末日現在で、本学の専任在
職年数と年齢が次の通りのものとする。

A 号 勤続 5 カ年以上、満 60 歳以下

B 号 勤続 5 カ年以上、満 65 歳以下

S 号 勤続 3 カ年以上、満 65 歳以下

2 前項の資格については、本規程の施行に伴い、所定の経過措置を設けるものとする。

(手続き)

第4条 海外研修A号・B号・S号を希望する者は、派遣年度の前々年度に決定し公表される当該前々年度内の所定の期日までに、所定の海外研修申請・計画書を所属学部長の承認を経て学長に提出しなければならない。但し、学部に所属しない者は学長承認とする。

(候補者の選考)

第5条 全学人事委員会は、第4条の海外研修申請・計画書の提出があった場合、学部所属者は学部長と協議の上、その他の者は学長と協議の上、海外研修候補者を選考し、推薦するものとする。

(海外研修員候補者選考基準)

第6条 海外研修員候補者は、次の選考基準に基づき選考するものとする。

- (1) 本学の専任教員として、第3条の条項に合致する者であること。
- (2) 派遣期間中の講義の補講その他の措置ができること。
- (3) 第4条の海外研修申請・計画書の提出日において、前回の研修(国内研修を含む。)成果の公表(専門雑誌への論文の公表等)が行われた年度末から7年以上を経過していること。
- (4) 海外研修に耐えうる十分な健康を有すること。
- (5) 研究能力及び教育能力が優れていて、かつその意欲が旺盛であること。
- (6) 本規程及び東京国際大学国内研修員取扱規程に基づく国内研修員、海外研修員としての派遣が通算1回以下であること。ただし、授業開講期間外の短期間の派遣はこの限りでない。

(海外研修員の決定)

第7条 海外研修員は、学部所属者は学部長の承認を経て、その他の者は学長の承認を経て、全学人事委員会から推薦された海外研修員候補者の中から、常務会の議を経て理事長が決定するものとする。

2 前項の規定にかかわらず、本学は、業務により研修を命ずることがある。この場合において、本規程第3条第1項の適用は受けないものとする。

(研修旅費)

第8条 海外研修員には、別途に定める研修旅費を支給する。

(勤務に関する取扱)

第9条 海外研修員は派遣期間も休職としない。

(給与等)

第10条

(1) 海外研修員に対しては派遣期間中、給料及び賞与の全額を支給する。期間中の給与の改定及び定期昇給等はこれを行う。

(2) 派遣期間が1年の場合、個人研究費は支給しない。派遣期間が6カ月未満の場合は個人研究費を全額、6カ月以上1カ年未満の場合は半額支給する。期間中の個人研究費の改定等はこれを行う。

(兼職の禁止)

第11条 海外研修員は、派遣期間中、兼職してはならない。ただし、やむを得ない事由があり予め理事長の許可を得た場合は、この限りでない。

2 前項の理事長許可を得ようとする海外研修員は、学部所属者は学部長経由、その他の者は直接学長宛てにその旨を申し出るものとする。

3 学長は、当該兼職申出につき全学人事委員会の議を経てその可否につき理事長に意見を具申するものとし、理事長がこれを決する。

(報告)

第12条 海外研修員は、所定の形式により、次の書類を所属学部長を経て学長に提出しなければならない。

イ 出発届(出発日時が決定したとき)

ロ 研修報告書(帰学後1週間以内)

2 前項に定める書類の提出は、所属学部長経由これを行うものとする。但し、学部に所属しない者による提出は、直接学長宛てとする。

(義務)

第13条 海外研修員は、研修終了後1年以内に、書籍、学術雑誌への掲載等により研修成果を公表し、その刊行物又は論文別刷り等を一部、学部に所属する者は所属学部長を経て、その他の者は直接、学長に提出しなければならない。この場合、研修ノートは研修成果と認めない。なお、期間内に所定の発表がなされない場合、当該海外研修員に、研修に関して法人が負担した費用等の返還を求めることがある。

2 前項による研修成果の公表に際しては、当該研修成果が海外研修員制度に基づく本学の助成を受けてなされた研修によるものである旨を、明示しなければならない。

3 第1項により公表した研修成果に係る刊行物等を学長に提出する際は、当該研修成果物が真正なオリジナルであり「剽窃」等をしていないことを、本学が別途指定する検査方法により検査した上で、検査結果を示すエビデンスを添付しなければならない。

(計画の変更)

第14条 海外研修員は、研究調査等の都合又は病気その他の事由により、研修期間の変更等研究計画に変更を望むときは、理事長の許可を得なければならない。

2 理事長許可に係る手続きについては、第11条第2項及び第3項を準用する。なお、この場合、中間報告書の提出を求めることがある。

(研修の取消)

第15条 海外研修員が病気その他の事由により、研修が不能又は困難の旨の申し出があった場合は、全学人事委員会の意見を徴し、理事長が海外研修を取り消すことがある。

(研修旅費の返還等)

第16条 海外研修員が研修終了後、3年以内に退職する場合、又は第14条の計画変更、第15条の研修の取消しがあった場合は、第8条により支給した研修旅費の全部又は一部の返還を命ずることがある。

(改廃権限)

第 17 条 この規程の改廃は、常務会の議を経て理事長が行う。

附 則

(施行期日)

1 この規程は、昭和 62 年 4 月 1 日より施行する。

(経過措置)

2 昭和 62 年 4 月 1 日現在で、次の要件の該当者については、A 号派遣について、次の経過措置を設ける。

(1) 満 51 歳以上で且つ勤続 10 年以上のものは、A 号の対象者とする。ただし、7 年以内に研修を行なうものとする。

(2) 満 45 歳から満 50 歳までのものは、それぞれ満 55 歳に達するまでに研修を行なうものとする。

(3) 満 41 歳から満 44 歳までのものは、それぞれ満 53 歳に達するまでに研修を行なうものとする。

附 則

この規程は、平成 2 年 4 月 1 日より施行する。

附 則

この規程は、平成 5 年 4 月 1 日より施行する。

附 則

この規程は、平成 8 年 4 月 1 日より施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この規程は、平成 9 年 10 月 1 日より施行する。

(経過措置)

- 2 第 3 条に関し、次の経過措置を設ける。

平成 6 年度現在本学専任教員で、国際関係学部、人間社会学部に移籍した者は、当該学部の完成年次(平成 10 年度)までの年数は年齢に加算しないものとする。

附 則

この規程は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 この規程は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 海外研修員資格の年齢制限については、第 3 条に定める年齢時において学長、副学長、学長補佐、学部長、学部長補佐、学科長、研究科長の職にあったことにより研修機会を見送られた者に対しては、研修成果の提出義務期限及び定年年齢を考慮し、申請の年齢制限を A 号については満 63 歳以下、B 号及び S 号については満 66 歳以下に延長するものとする。

附 則

- 1 この規程は、平成 23 年 4 月 1 日から改正施行する。
- 2 改正規程の施行日前に派遣が決定した者に対しては、第 2 条の改正後と雖もなお従前の例による。
- 3 前項にかかわらず、第 10 条の規定については、改正施行日からこれを適用する。

附 則

(施行期日)

- 1 この規程は、平成 24 年 4 月 1 日より施行する。

附 則

(施行期日)

- 1 この規程は、平成 25 年 9 月 6 日より施行する。

附 則

この規程は、平成 26 年 5 月 28 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 26 年 8 月 8 日から施行する。

附 則

この改正規程は、平成 27 年 6 月 12 日から施行する。

附 則

この改正規程は、平成 28 年 6 月 24 日から施行する。

附 則

この改正規程は、2016 年 10 月 14 日から施行する。

但し、第 13 条第 1 項に定める研修成果公表の期限は、この改正規程の施行日前に派遣
が

決定されている海外研修員についてはこれを適用せず、従前の例によるものとする。

附 則

この改正規程は、2019 年 7 月 1 日から施行する。



エクステンションセンター 2019年度 講座プログラム

CONTENTS

1 金融会計系講座	日商簿記検定3級・2級講座 3-4p 日商簿記検定1級WEB講座 5p 税理士WEB講座〔簿記論・財務諸表論〕 5p 中小企業診断士WEB講座 5p FP3級・2級講座 6-7p
2 IT系資格講座	MOS講座 (Word/Excel/PowerPoint) 8-9p P検3級講座 10p ITパスポート講座 10p
3 その他資格・講座	JFA公認サッカーC級コーチ養成講座 11p 秘書検定2級・準1級WEB講座 11p 医療事務WEB講座 11p TOEIC基礎力養成講座 12p TOEICスコアUP集中講座 12p 観光英語検定3級講座 13p エアライン・サービス業界講座 13p 旅行業務取扱管理者講座 14-15p 世界遺産検定2級講座 15p 宅地建物取引士講座 16-17p 行政書士WEB講座 17p
4 就職試験講座	数学基礎+SPI講座 18p SPI講座 18p SPI非言語集中講座 19p SPI無料模試 19p ベーシック〔英数国〕WEB講座 19p
5 公務員試験講座	公務員特集 20-27p 公務員試験合格者 28-29p 数学基礎+入門講座〔1年生向け〕 30p 入門講座〔1年生向け〕 30p 基礎講座〔2年生向け〕 31p 専門科目講座 31p 専門科目WEB講座 31p 教養科目講座〔行政職・警察官・消防官対策〕 32p 東京消防庁自然科学特訓WEB講座 32p 直前講座〔3年生向け〕 33p 模擬面接・集団討論〔4年生向け〕 33p 無料模試 33p 模擬試験〔公開模試・トライアル模試〕 34p
6 教員・保育士講座	教員採用試験講座 35p 保育士講座 35p
7 福祉系講座	社会福祉士講座〔共通科目・専門科目〕 36p 精神保健福祉士講座 〔共通科目・専門科目〕 37p

○東京国際大学学術研究倫理委員会規程

平成 27 年 10 月 14 日

最近改正 2019 年 10 月 24 日

(目的)

第 1 条 この規程は、東京国際大学において研究に従事する者が行う、人を対象とする学術研究について、科学的合理性と倫理的妥当性を審査するために学術研究倫理委員会（以下「委員会」という。）を設置し、研究倫理の徹底を図ることを目的とする。

(審査の対象)

第 2 条 委員会は、前条に定める学術研究のうち、第 6 条に定める審査の申請に基づく研究計画の実施の適否を審査の対象とする。

(委員会の職務)

第 3 条 委員会は、研究計画の実施の適否及びその他の必要な事項について、学長から意見を求められた場合は、該当の研究計画及び研究経過の科学的合理性及び倫理的妥当性を総合的に審査し、学長に書面をもって回答する。

2 委員会は、前項に定める審査にあたっては、次の各号に掲げる事項に留意する。

- (1) 学術研究の対象となる個人の了解を得る方法の適切性
- (2) 学術研究の対象となる個人の人権保護及び安全確保
- (3) 学術研究の実施によって生ずるリスクと研究成果の合理性

3 委員会は、学長に対し、研究倫理の徹底に必要な助言・勧告を行う。

(委員会の組織)

第 4 条 委員会は、第 6 条に定める審査の申請に基づき、申請毎に学長が設置する。

2 委員会は、次の各号に掲げる委員によって構成する。

- (1) 申請者が所属する学部又は大学院研究科の代表者1名。但し、申請者がイングリッシュ・トラックにおいて修学する学生である場合は、Eトラック運営機構長が推薦する1名をもってこれに代える。
 - (2) 東京国際大学の専任教員のうち有識者3名。
- 3 前項に定める委員は、学長が任命する。
 - 4 学長は、必要に応じて、委員会の組織に学外の有識者を加えることができる。
 - 5 委員の任期は、申請毎の委員会の設置の日から解散の日までとする。
 - 6 委員がその任期中に事故又は退任あるときは、学長が第2項の該当号から後任委員を任命する。
 - 7 前項の後任委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員会の運営)

第5条 委員会に委員長を置く。

- 2 委員長は、委員の互選により定める。
- 3 委員長は、委員会を統括する。
- 4 委員会は委員の過半数の出席で成立し、議事は出席者の過半数の同意をもって決する。
- 5 委員長がその任期中に事故又は退任あるときは、委員の互選により後任委員長を定める。
- 6 委員会は、委員長が必要に応じて招集する。
- 7 委員会は、必要により委員以外の者を出席させ、その意見を徴することができる。

(審査の申請)

第6条 審査の申請者は、別に定める「学術研究倫理審査申請要領」による「審査申請書」をもって学長に申請する。

2 学長は、前項による審査の申請に対し、直ちに委員会を設置し、委員会に意見を求める。

(委員会の審査)

第7条 委員会は、前条第2項による学長の求めに対し、第3条に定める委員会の職務を遂行して総合的に審査する。

(審査の判定)

第8条 委員会は、別に定める「学術研究倫理審査要領」による「審査報告書」をもって学長に対し、審査の判定を報告する。

2 学長は、前項による審査の判定を尊重し、別に定める「裁定通知書」をもって申請者に対し、研究計画実施の適否の判定結果を通知する。

(不服申立て)

第9条 申請者は、前条第2項による裁定に不服があるときは、その正当な理由を明示した書面をもって裁定後30日以内に学長に対し、不服申立てを行うことができる。

(研究成果の公表)

第10条 申請者は、承認された学術研究の成果を公表した場合は、別に定める「成果報告書」をもって学長に対し、報告しなければならない。

(記録保存)

第11条 委員会は、審査の申請、過程及び判定結果等を記録する。

2 委員会の解散後は、前項の記録は、これを委員会の事務局において保存する。

(事務局)

第12条 委員会の事務局は、申請者が教員の場合は学事課が、学生の場合は教務1課、教務2課又はEトラック教務課が担当する。

(守秘義務)

第13条 学長、委員会委員及び事務局員は、審査の申請、過程、判定結果を通じて知り得た個人情報及び研究内容に関する情報等を法令に基づく正当な理由なしに漏らしてはならない。

2 前項に定める守秘義務は、それぞれの職務を退いた後も同様とする。

(改廃)

第14条 この規程の改廃は、理事会の議を経て理事長が行う。

附 則

- 1 この規程は、平成27年10月14日から施行する。
- 2 この規程の制定により、東京国際大学学部学術研究倫理委員会規程及び東京国際大学大学院研究科学術研究倫理委員会規程は廃止する。

附 則

この改正規程は、平成27年11月13日から施行する。

附 則

この改正規程は、2016年10月13日から施行する。

附 則

この改正規程は、2019年11月1日から施行する。